

**高齢者の暮らしと介護に関する
アンケート調査
結果報告書**

**平成29年3月
高松市**

目次

I 調査概要

1 調査目的.....	1
2 調査設計.....	1
3 報告書の見方.....	2
4 評価項目の判定について	2

II 調査結果 高齢者（65歳以上）

1 回答者の属性.....	3
2 家族や生活状況について	6
3-1 からだを動かすことについて	14
3-2 食べることについて	25
4 毎日の生活について	35
5 地域での活動について	48
6 たすけあいについて	55
7 健康について.....	62
8 介護保険在宅サービスについて	67
9 高齢者のために行うべき行政サービスについて	73
10 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて	75
11 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて.....	83
12 一般介護予防事業について	87
13 高齢者の保健福祉について	97

III 調査結果 要介護認定者（65歳以上）

1 回答者の属性.....	107
2 家族や生活状況について	110
3-1 からだを動かすことについて	129
3-2 食べることについて	137
4 毎日の生活について	144
5 地域での活動について	157
6 たすけあいについて	160
7 健康について.....	168
8 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて	173
9 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて	179
10 高齢者の保健福祉について	183

IV 調査結果 一般市民（40歳以上65歳未満）

1 回答者の属性.....	193
2 高齢者のために行うべき行政サービスについて	195
3 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて	197
4 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて	203

5	健康づくりについて	207
6	一般介護予防事業について	213
7	高齢者の保健福祉について	221

V 資料 自由意見集

1	自由意見 高齢者65歳以上	231
2	自由意見 要介護認定者 65歳以上	237
3	自由意見 一般市民 40歳～65歳未満	241

VI 資料 判定結果

1	評価項目別の判定結果	245
(1)	運動器の機能低下	246
(2)	転倒リスク	248
(3)	閉じこもり傾向	250
(4)	低栄養の傾向	252
(5)	口腔機能の低下	254
(6)	認知機能の低下	256
(7)	うつ傾向	258
(8)	I A D L 一手段的日常動作	261
(9)	社会参加一知的能動性	263
(10)	社会参加一社会的役割	265

I 調査概要

I 調査概要

1 調査目的

平成30年度から32年度までを計画期間とする「第7期高松市高齢者保健福祉計画」の策定における基礎調査として実施しました。

2 調査設計

(1) 調査対象

調査種別	調査対象者	標本数
高齢者	65歳以上の高齢者の方 (要介護1～5の認定者を除く)	3,000 人
要介護認定者	65歳以上の高齢者のうち、 要介護1～5の認定者の方	2,800 人
一般市民	40歳以上65歳未満の方	1,000 人
合計		6,800 人

(2) 有効回収数

調査種別	有効回収数	有効回収率
高齢者	1,832 人	61.1%
要介護認定者	1,307 人	46.7%
一般市民	392 人	39.2%
合計	3,531 人	51.9%

(3) 調査方法 郵送配布一郵送回収

(4) 調査期間 平成29年2月10日～3月3日

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率は、すべてを 100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が 100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は、調査数を上回る場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数（母数）の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。

4 評価項目の判定について

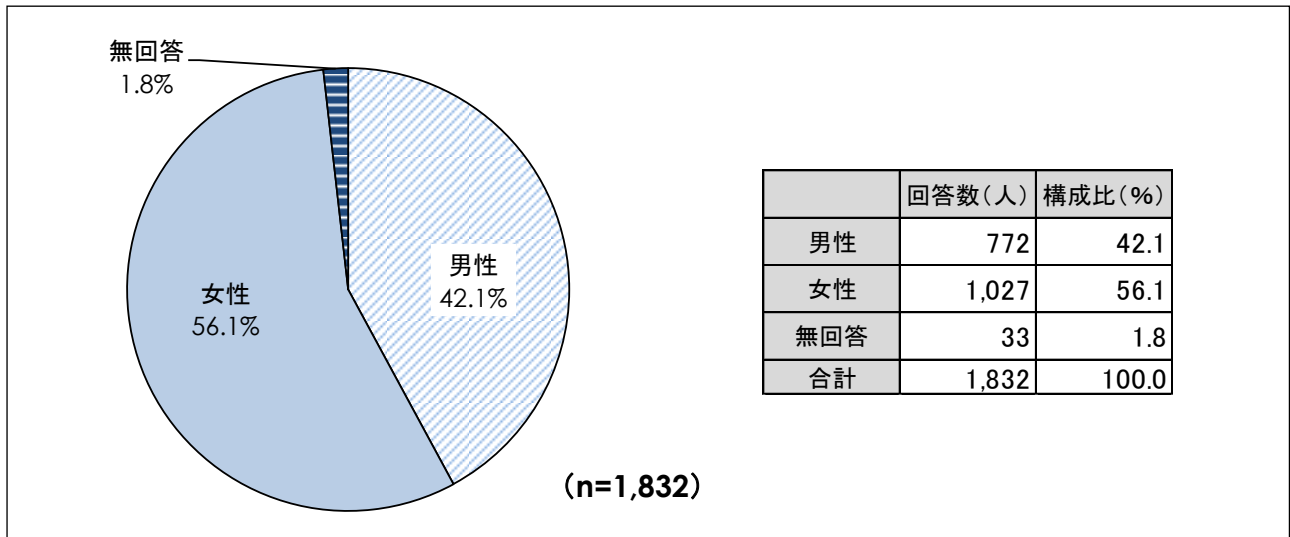
評価項目別の判定結果については、国が作成した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き及び老研式活動能力指標に基づき集計したものであり、特定の項目に回答していることが必須条件となるため、回収数よりも有効回収数が、若干、少なくなっています。

Ⅱ 調査結果 高齢者（65歳以上）

1 回答者の属性

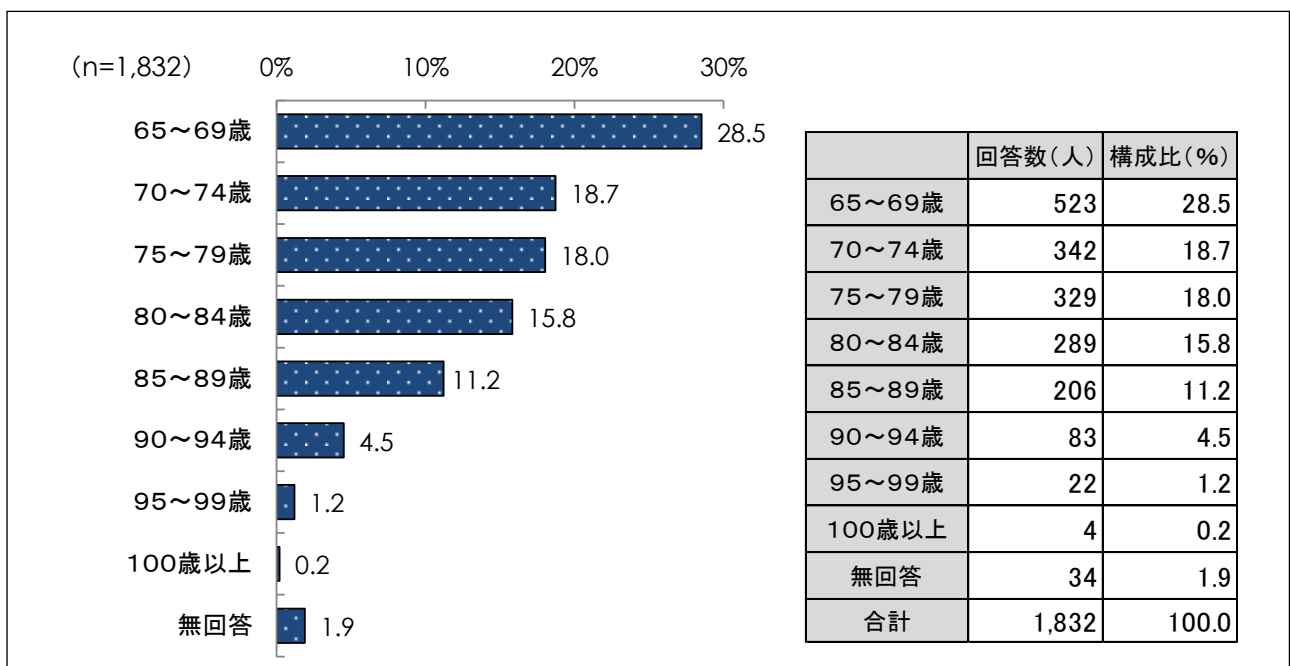
1 性別

回答者の性別は、「男性」が42.1%、「女性」が56.1%となっており、女性が14.0ポイント上回っています。



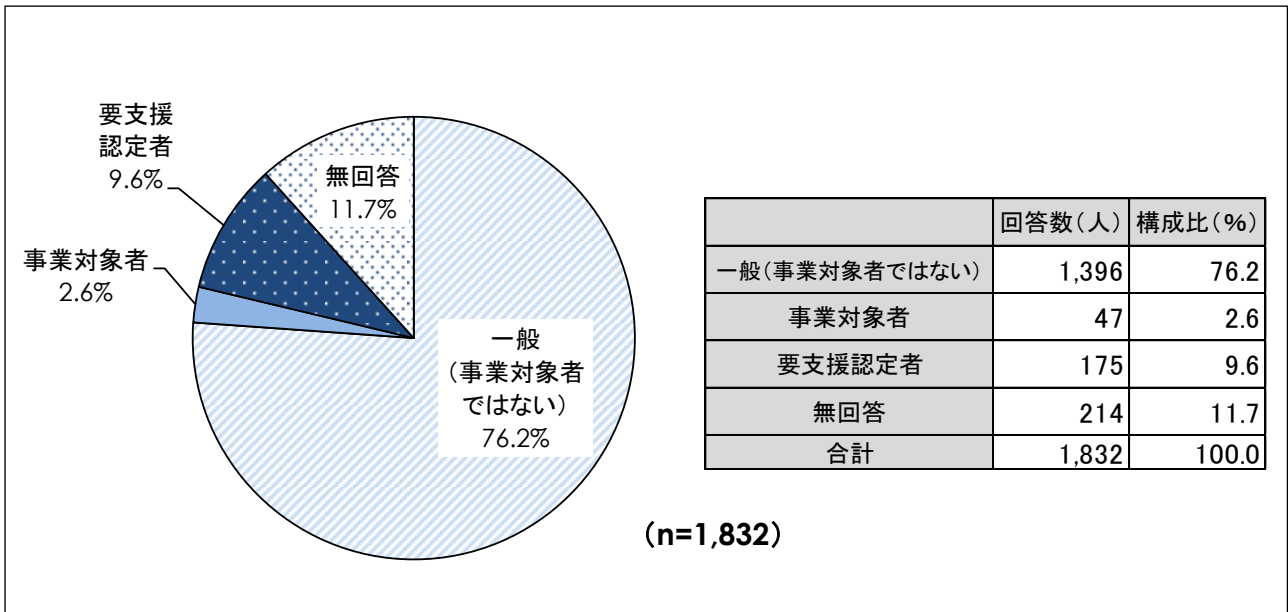
2 年齢構成

回答者の年齢は、「65～69歳」が28.5%で最も多く、次いで「70～74歳」（18.7%）、「75～79歳」（18.0%）となっています。



3 認定状況

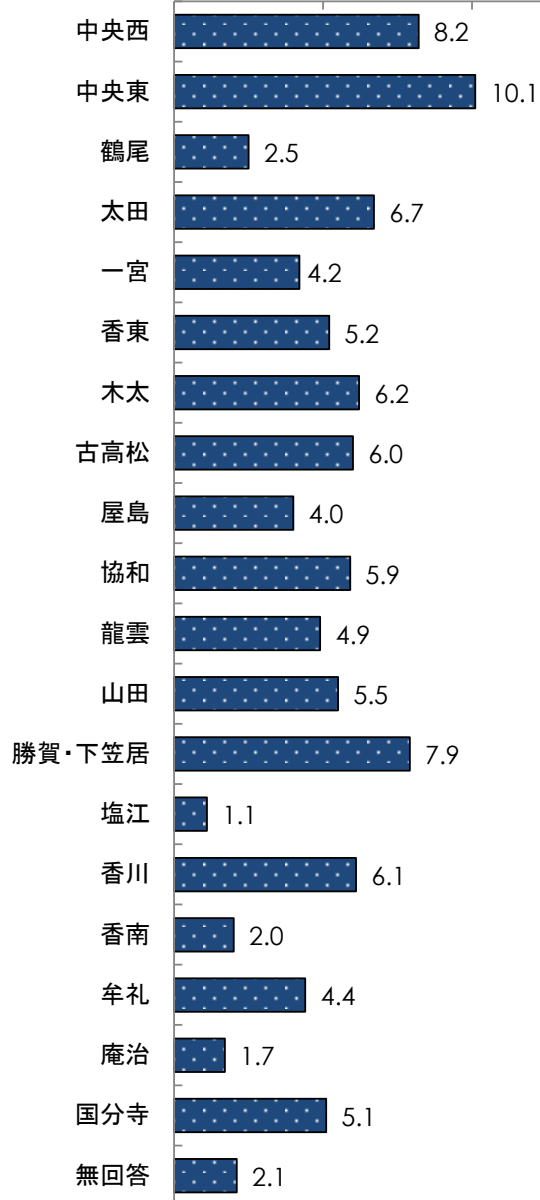
回答者の認定状況をみると、「一般（事業対象者ではない）」が76.2%と7割以上を占めており、「事業対象者」が2.6%、「要支援認定者」が9.6%となっています。



4 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域をみると、「中央東」が10.1%と最も多く、次いで「中央西」(8.2%)、「勝賀・下笠居」(7.9%)となっています。

(n=1,832) 0% 5% 10% 15%



	回答数(人)	構成比(%)
中央西	151	8.2
中央東	185	10.1
鶴尾	46	2.5
太田	123	6.7
一宮	77	4.2
香東	96	5.2
木太	114	6.2
古高松	110	6.0
屋島	74	4.0
協和	108	5.9
龍雲	89	4.9
山田	100	5.5
勝賀・下笠居	145	7.9
塩江	21	1.1
香川	112	6.1
香南	36	2.0
牟礼	80	4.4
庵治	32	1.7
国分寺	94	5.1
無回答	39	2.1
合計	1,832	100.0

2 家族や生活状況について

（１）家族構成について

問１ 家族構成をお教えてください。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●「夫婦２人暮らし」が合わせて約４割以上、１人暮らしが約２割を占める

家族構成をたずねたところ、全体では「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.5%と最も高く、「夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）」の5.3%と合計すると、『夫婦２人暮らし』は４割以上を占めています。

また、「１人暮らし」は20.1%と約２割を占めています。

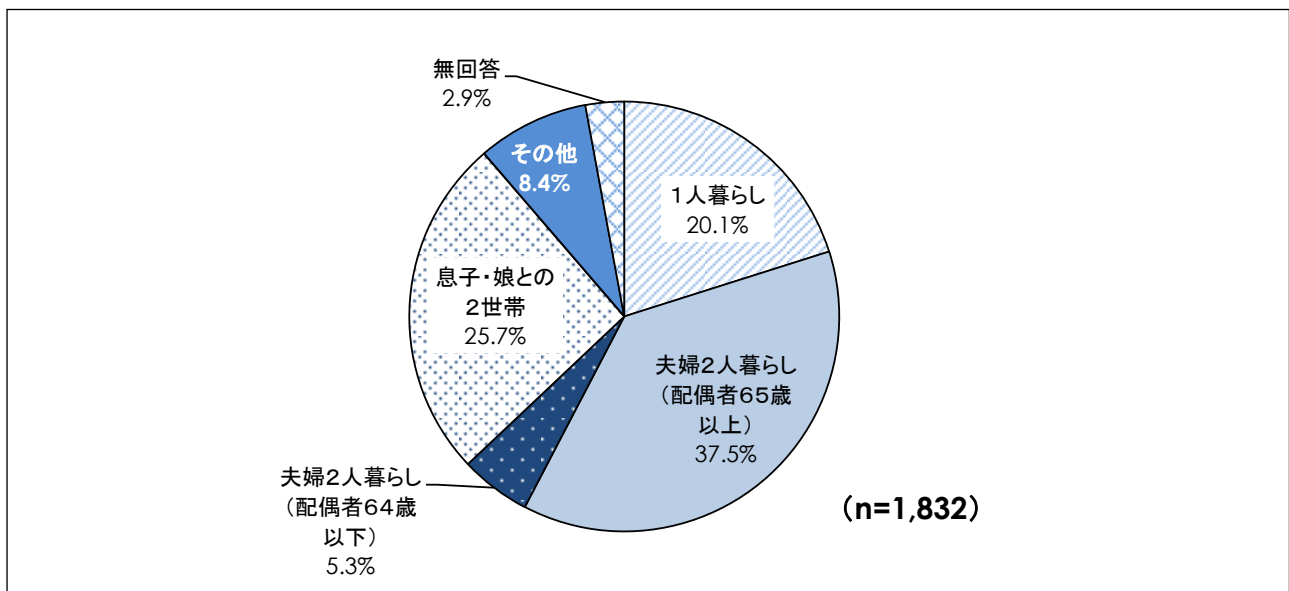
【属性別の傾向】

●鶴尾では「１人暮らし」、塩江、香南では「息子・娘との２世帯」が最も多い

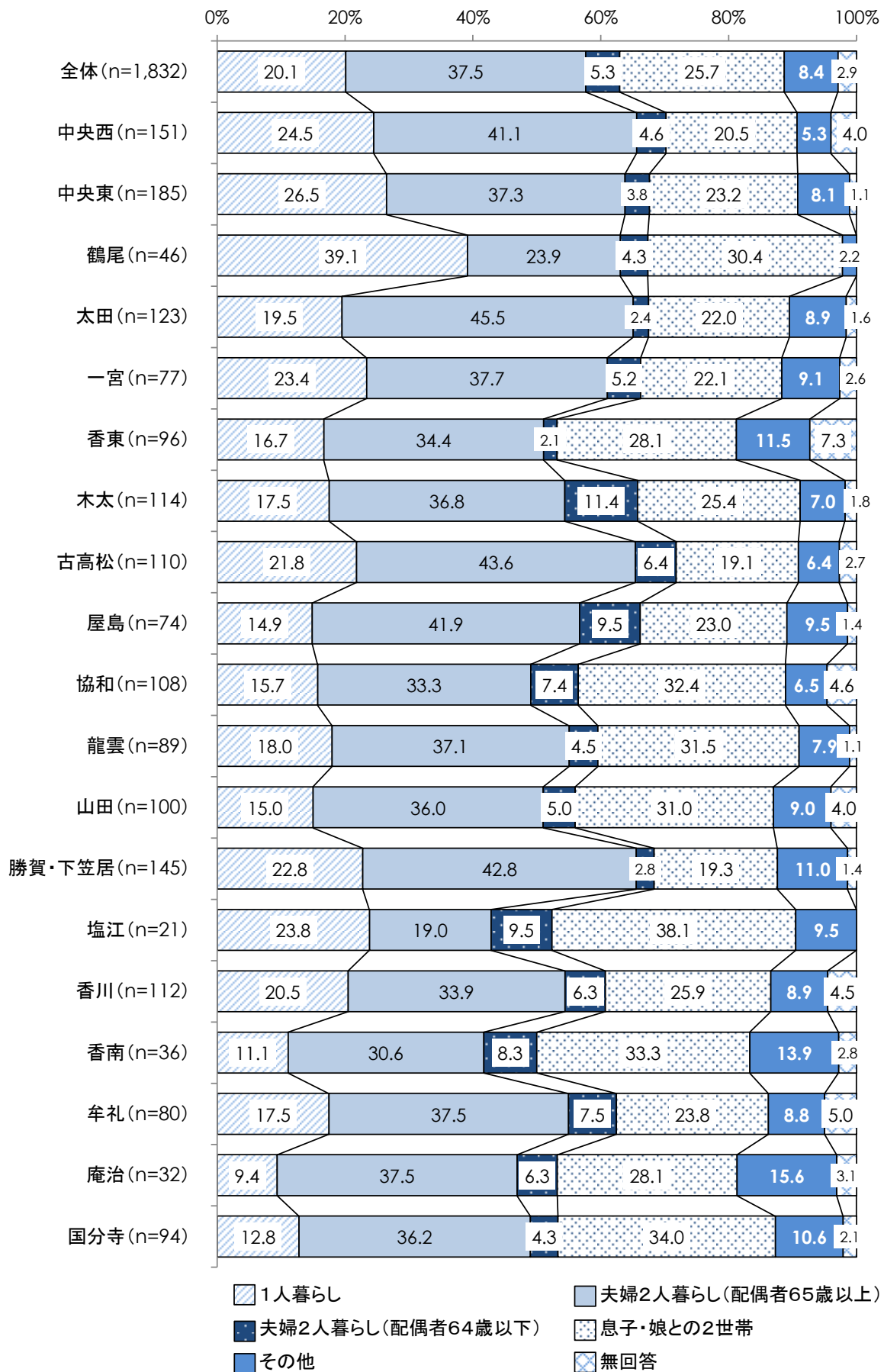
圏域別にみると、ほとんどの地区で「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」の回答が最も多い傾向は全体と同様となっています。

一方、鶴尾では「１人暮らし」との回答が最も多く、39.1%を占めています。また塩江、香南では「息子・娘との２世帯」との回答が最も多くなっています。

図表 1 家族構成について（全体）



図表 2 家族構成について（全体、日常生活圏域別）



（２）介護・介助の状況について

問２ あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●何らかの介護が必要な人の割合は約２割

普段の生活における介護・介助の必要性についてたずねたところ、全体では 77.6%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。

一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 9.1%、「現在何らかの介護を受けている（介護の認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」は 9.3%となっており、合計すると 18.4%と約 2 割の人が何らかの介護を必要としています。

【属性別の傾向】

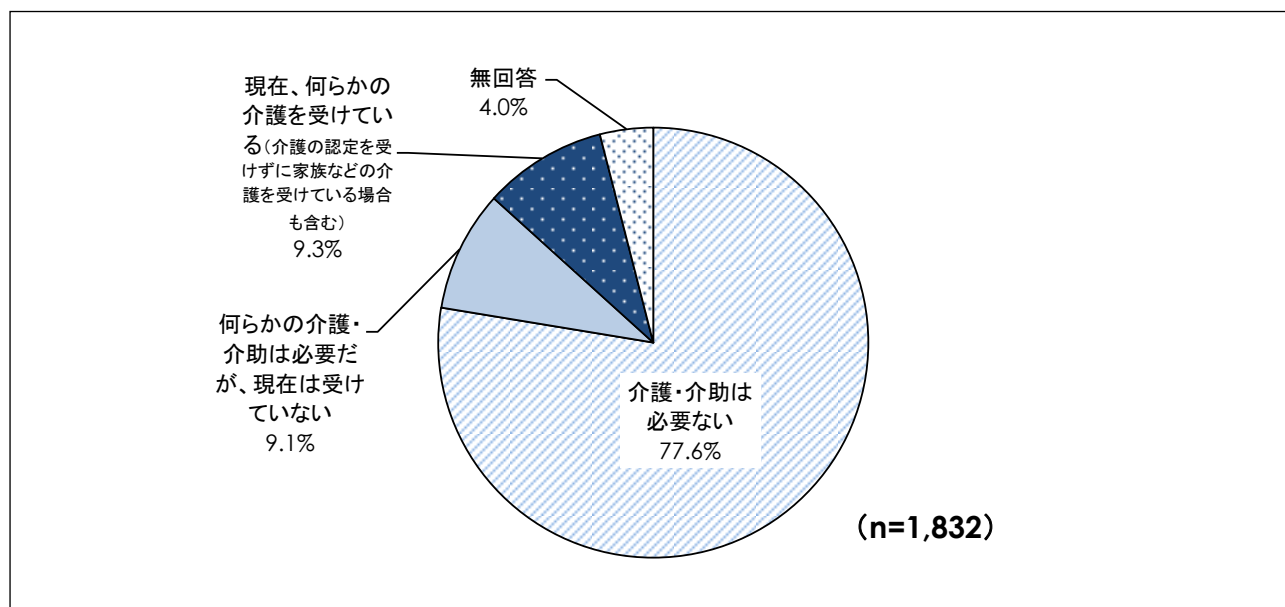
●塩江では介護・介助が必要、又は現在受けているとの回答が多い

圏域別にみると、「介護・介助は必要ない」との回答が最も多くなっていますが、中でも龍雲（85.4%）、国分寺（85.1%）、一宮（84.4%）、古高松（82.7%）、協和（82.4%）、勝賀・下笠居（81.4%）では8割を超えています。

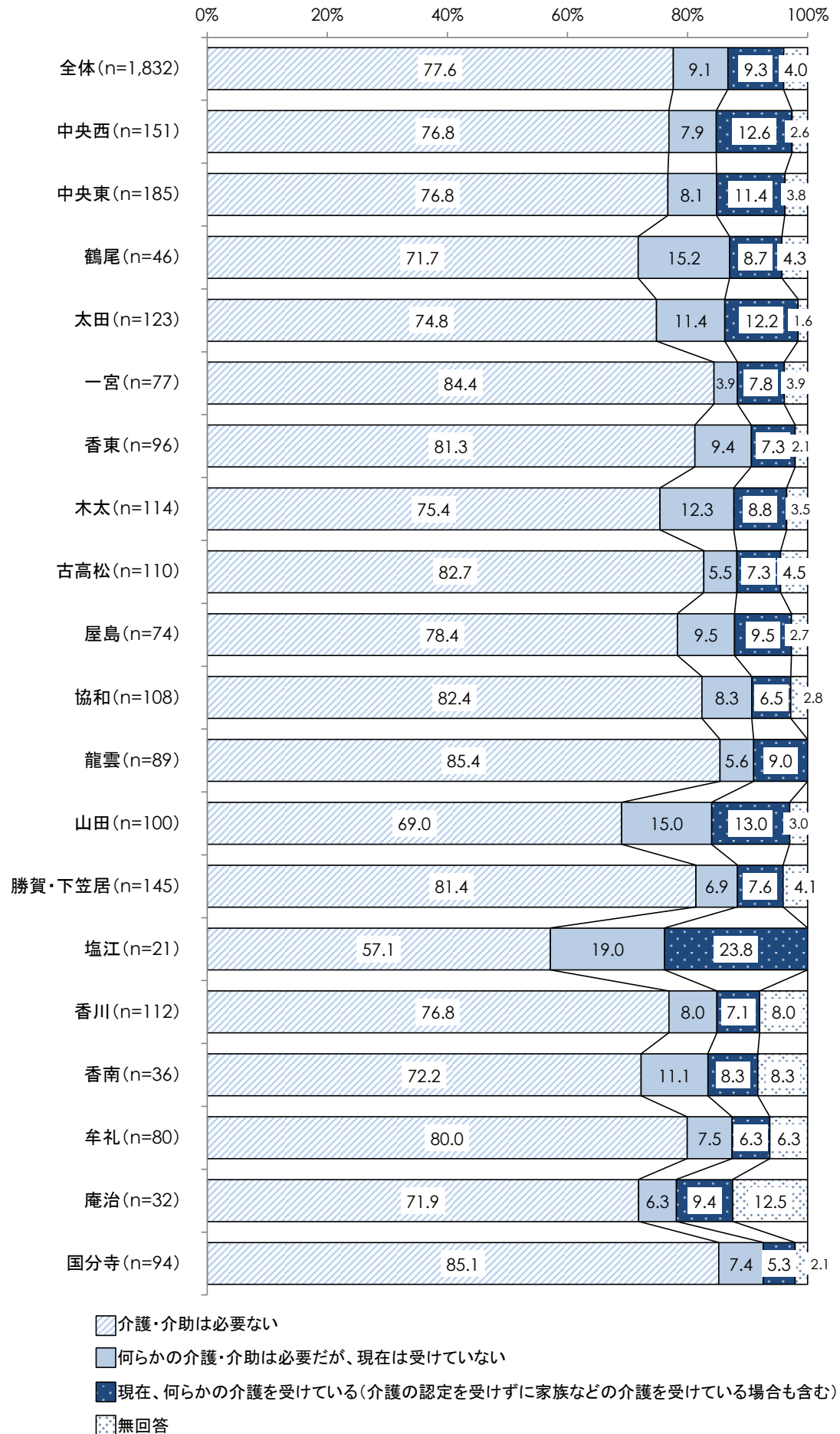
一方、他の圏域と比較して「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が高い圏域は「塩江」（19.0%）、鶴尾（15.2%）、山田（15.0%）などとなっています。

また、塩江では「現在、何らかの介護を受けている（介護の認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が 23.8%と2割を超えており、やや割合が高くなっています。

図表 3 介護・介助の必要性（全体）



図表 4 介護・介助の必要性（全体、日常生活圏域別）



【問2において「2.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3.現在、何らかの介護を受けている」と回答した方】

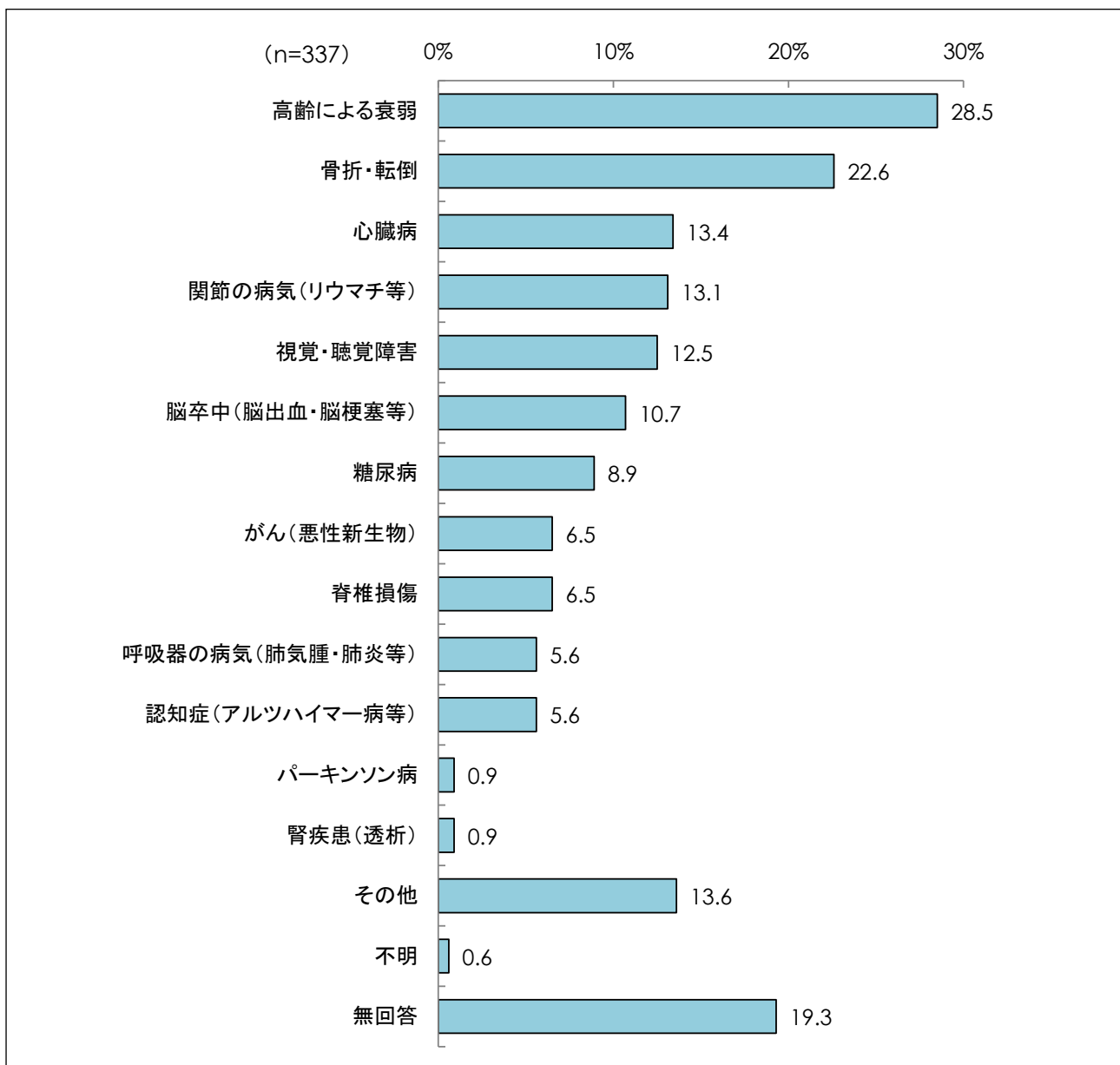
問2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●介護・介助が必要になった原因は高齢による衰弱、骨折・転倒など

介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、「高齢による衰弱」が28.5%と最も多くなっています。次いで「骨折・転倒」（22.6%）、「心臓病」（13.4%）、「関節の病気（リウマチ等）」（13.1%）、「視覚・聴覚障害」（12.5%）などが主な理由となっています。

図表 5 介護・介助が必要になった主な原因（全体／複数回答）



【問2において「2.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3.現在、何らかの介護を受けている」と回答した方】

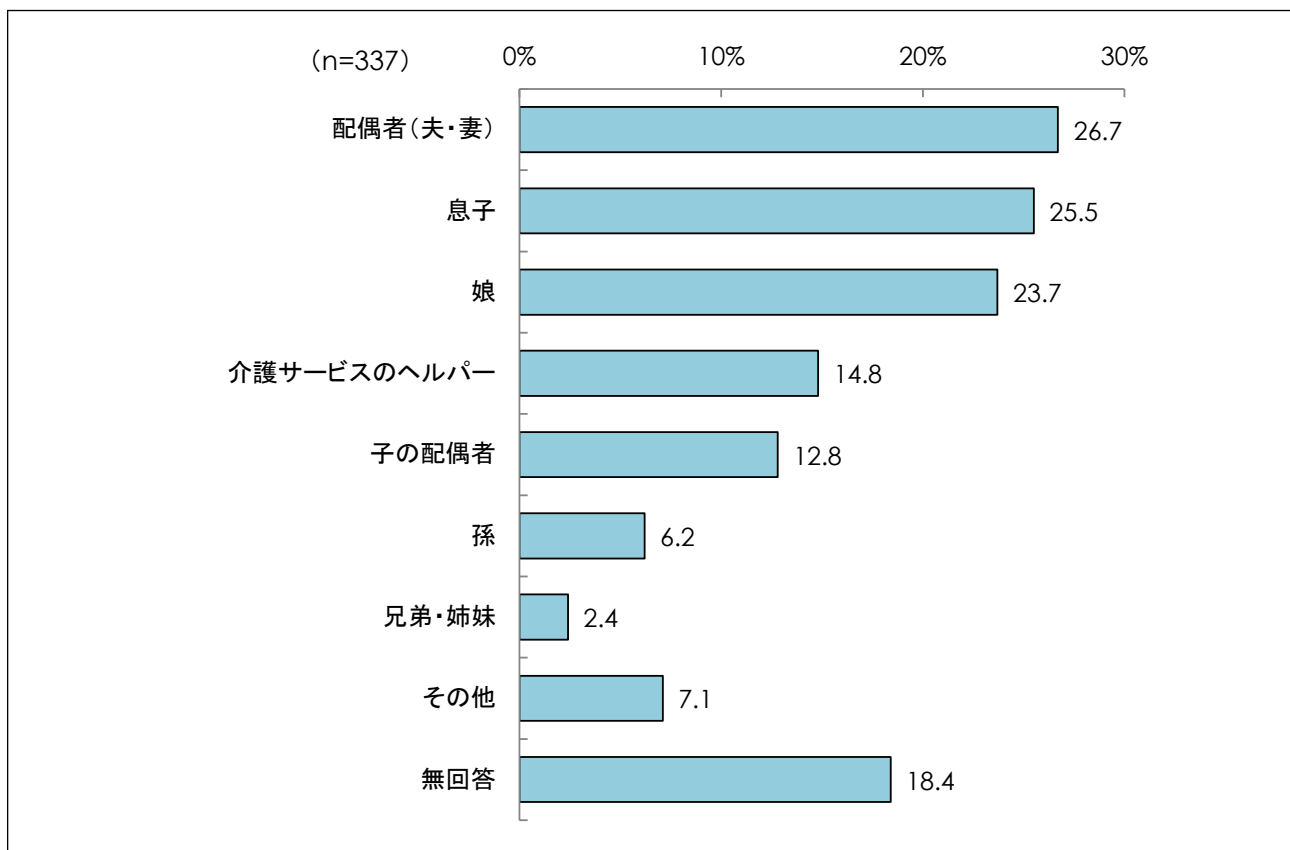
問2-2 主にどなたの介護・介助を受けていますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●配偶者、息子、娘などの家族が主な介護・介助者となっている

介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、主な介護・介助者についてたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が26.7%と最も多く、次いで「息子」（25.5%）、「娘」（23.7%）、「介護サービスのヘルパー」（14.8%）、「子の配偶者」（12.8%）が主な介護・介助者となっています。

図表 6 主な介護・介助者（全体／複数回答）



（３）現在の経済状況

問３ 現在の暮らしの状況を経済的にみて、どう感じていますか。【〇は１つ】

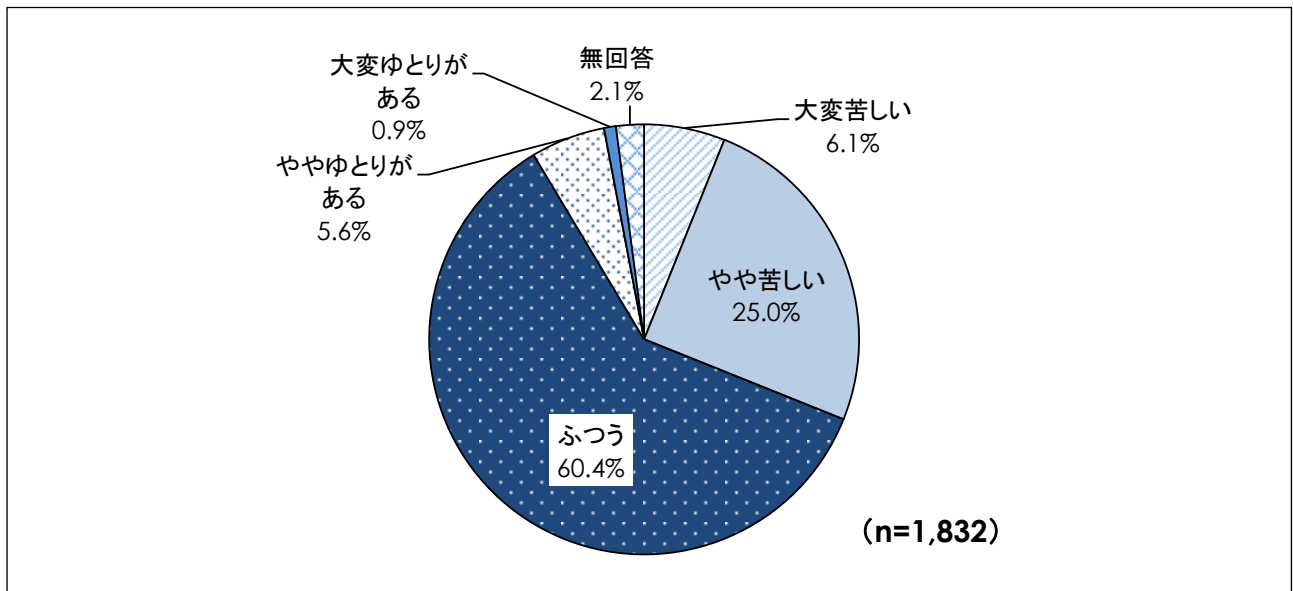
【全体の傾向】

●経済状況が苦しいと感じている人が約３割

現在の暮らしの経済状況をたずねたところ、「ふつう」が60.4%と約6割を占めています。

一方、「大変苦しい」（6.1%）と「やや苦しい」（25.0%）を合計した『苦しい』は31.1%と約3割を占めているのに対し、「ややゆとりがある」（5.6%）と「大変ゆとりがある」（0.9%）を合わせた『ゆとりがある』は6.5%と1割未満になっています。

図表 7 現在の経済状況について（全体）



（４）住まいの状況

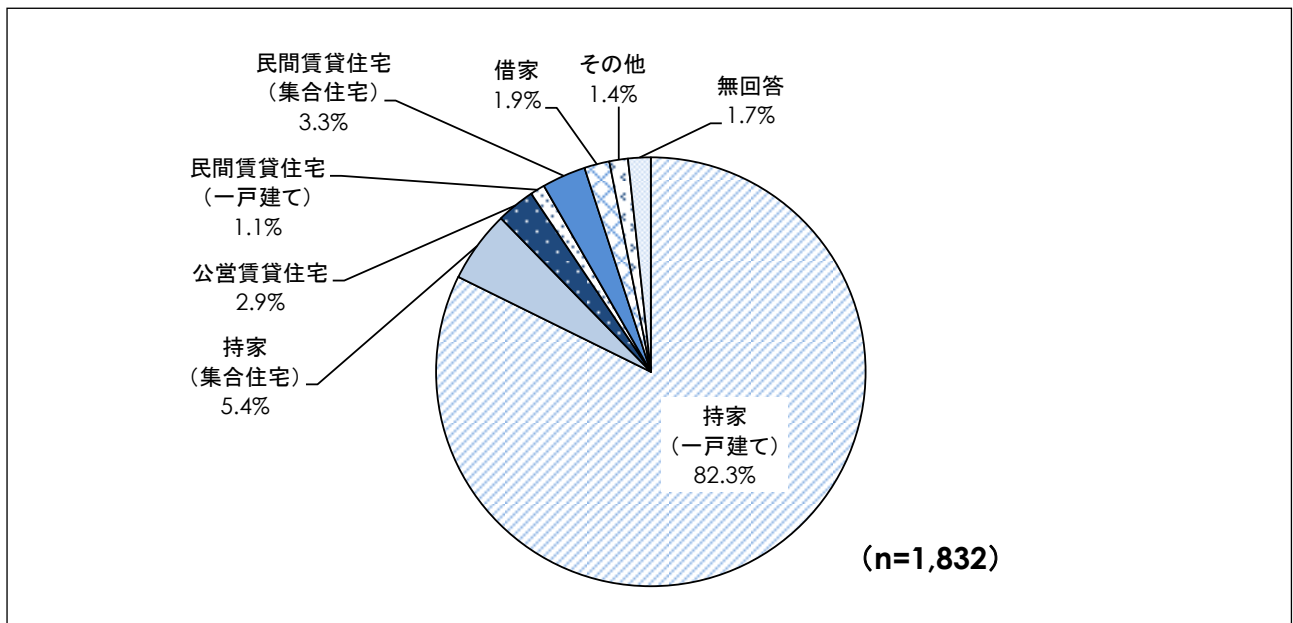
問４ お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●約８割と大半の人が「持家（一戸建て）」に住んでいる

住まいの状況をたずねたところ、「持家（一戸建て）」が 82.3%と約８割を占めています。民間、又は公営の賃貸住宅に住んでいる人は全体の 7.3%となっています。

図表 8 住まいの状況について（全体）



3-1 からだを動かすことについて

（１）運動器の機能について

問5 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。【〇は1つ】

問6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。【〇は1つ】

問7 15分位続けて歩いていますか。【〇は1つ】

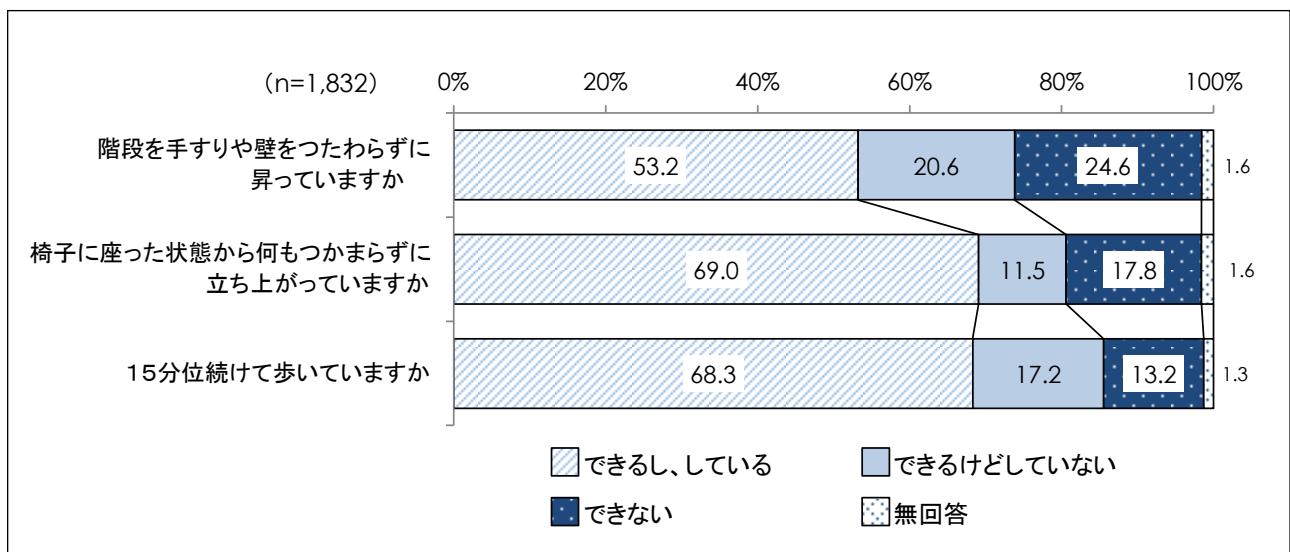
【全体の傾向】

●「階段を手すりや壁をつたわずに昇る」運動が困難な人の割合がやや高い

運動器の機能についてたずねたところ、どの設問においても「できるし、している」の割合が最も高くなっています。なかでも、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」について「できるし、している」は69.0%と約7割を占めています。

一方、「階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか」では、「できるけどしていない」(20.6%)、「できない」(24.6%)の割合が他の設問に比べてやや高くなっています。

図表 9 運動器の機能について（全体）



（２）転倒について

問８ 過去１年間に転んだ経験がありますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●転倒経験が１度以上ある人は全体の約３割を占める

過去１年間にける転倒の経験をたずねたところ、全体では、61.8%が「ない」と回答しています。

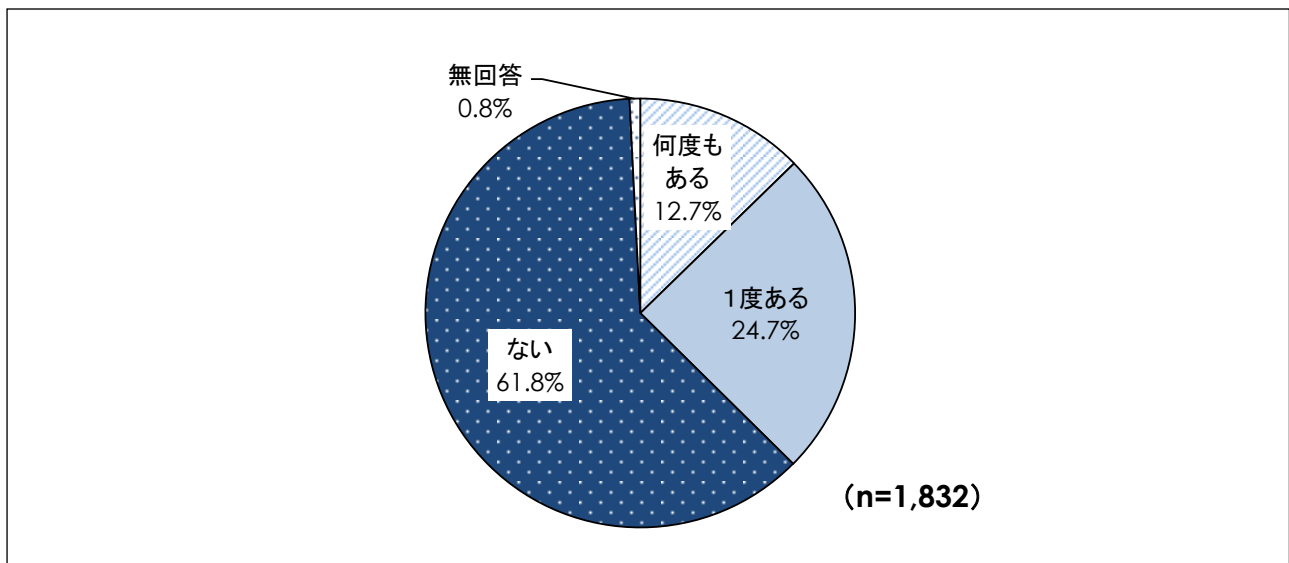
一方、「何度もある」、「１度ある」を合計すると、約３割以上が『転倒経験が１度以上ある』と回答しています。

【属性別の傾向】

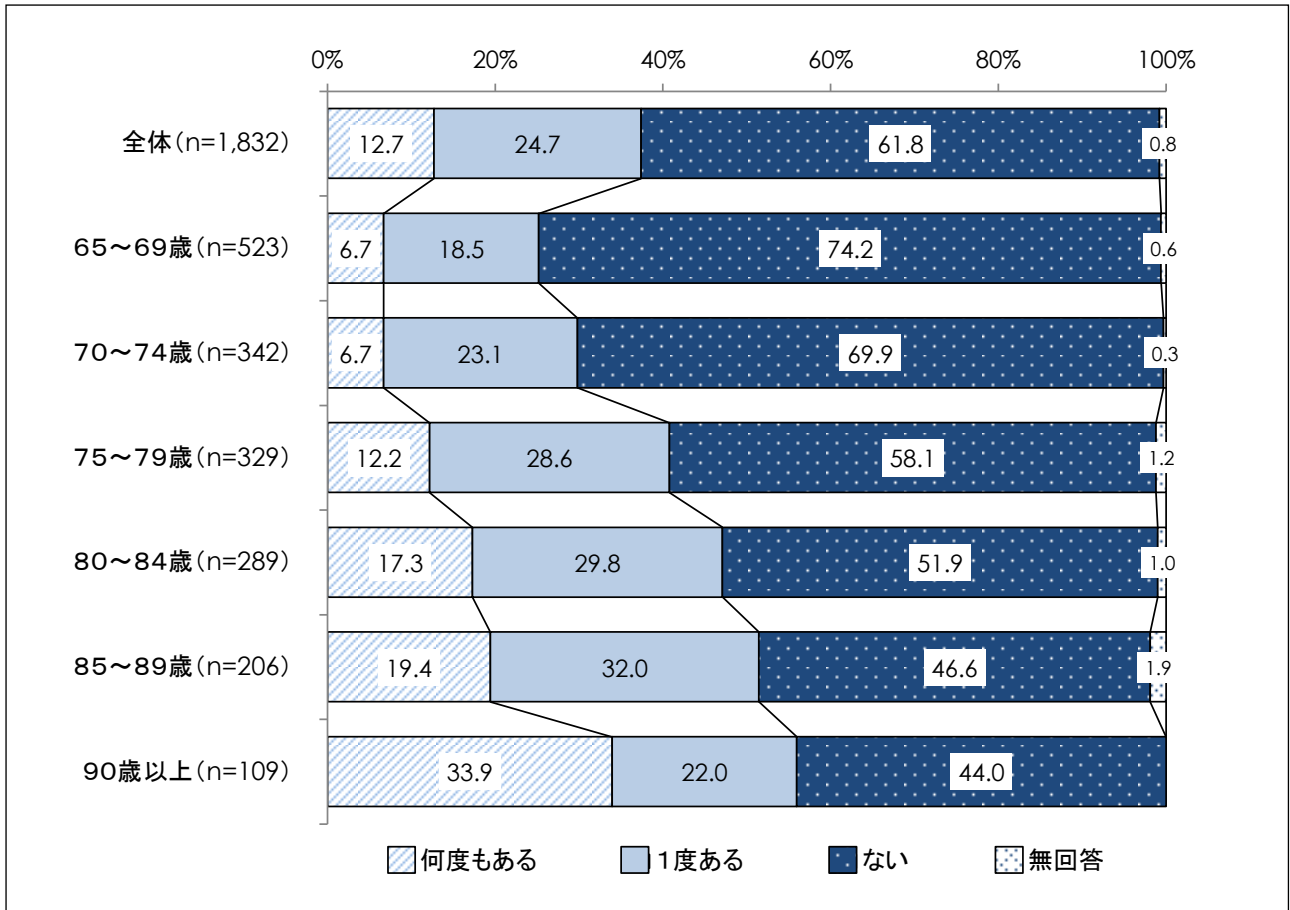
●８５歳以上の回答者では転倒経験のある人が５割以上

年齢階層別にみると、『転倒経験が１度以上ある』の割合は、年齢が上がるにつれ高くなっており、65～69歳では25.2%ですが、85～89歳では51.4%、90歳以上では55.9%と５割を超えています。

図表 10 転倒の経験（全体）



図表 11 転倒の経験（全体、年齢階層別）



問9 転倒に対する不安は大きいですか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●転倒に対する何らかの不安を抱えている人は半数を超える

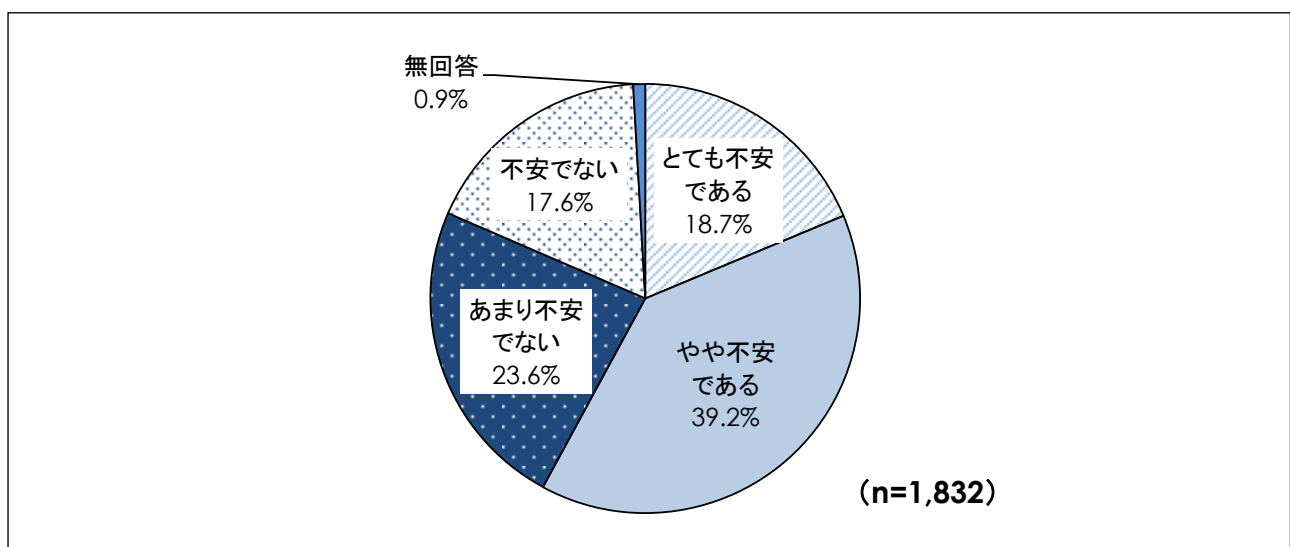
転倒に対する不安が大きいかをたずねたところ、全体の 39.2%が「やや不安である」と回答しており、「とても不安である」（18.7%）を合計すると、57.9%の人が転倒への不安を抱えています。

【属性別の傾向】

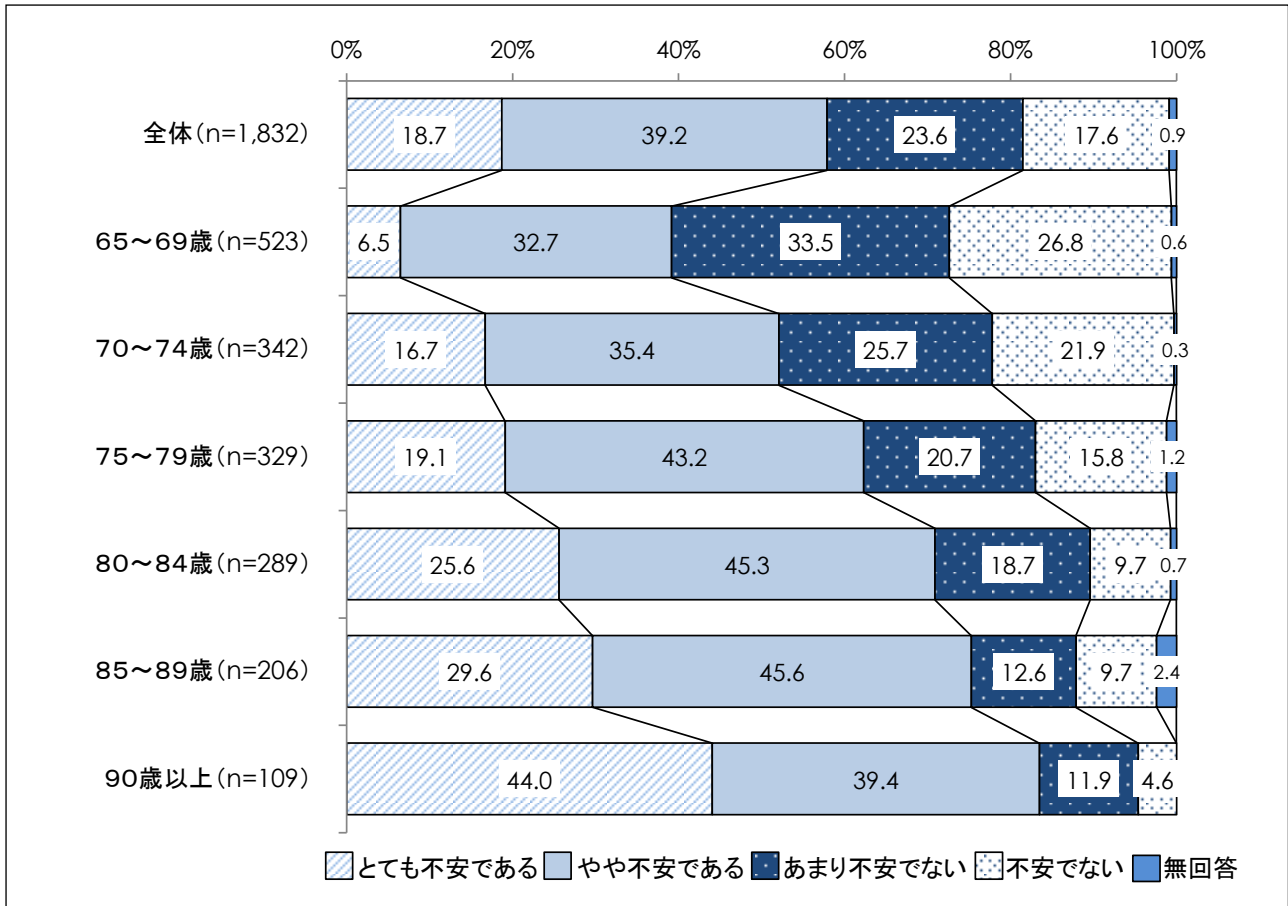
●70歳以上で転倒に対する不安がある人は5割を超え、90歳以上では8割を超える

年齢階層別にみると、「とても不安である」と「やや不安である」を合計した割合は、65～69歳では39.2%と4割を下回っていますが、70～74歳では52.1%と過半数を占め、85～89歳では75.2%、90歳以上では83.4%となっており、年齢が上がるにつれ転倒に対する不安がある人の割合が増加しています。

図表 12 転倒に対する不安（全体）



図表 13 転倒に対する不安（全体、年齢階層別）



（3）閉じこもり傾向について

問 10 週に1回以上は外出していますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●週2回以上外出する人が多く、ほとんど外出しない人は1割未満

1週間当たりの外出回数についてたずねたところ、「週2～4回」（42.7%）が最も高く、次いで「週5回以上」（35.3%）となっています。一方、「ほとんど外出しない」はわずか6.8%となっています。

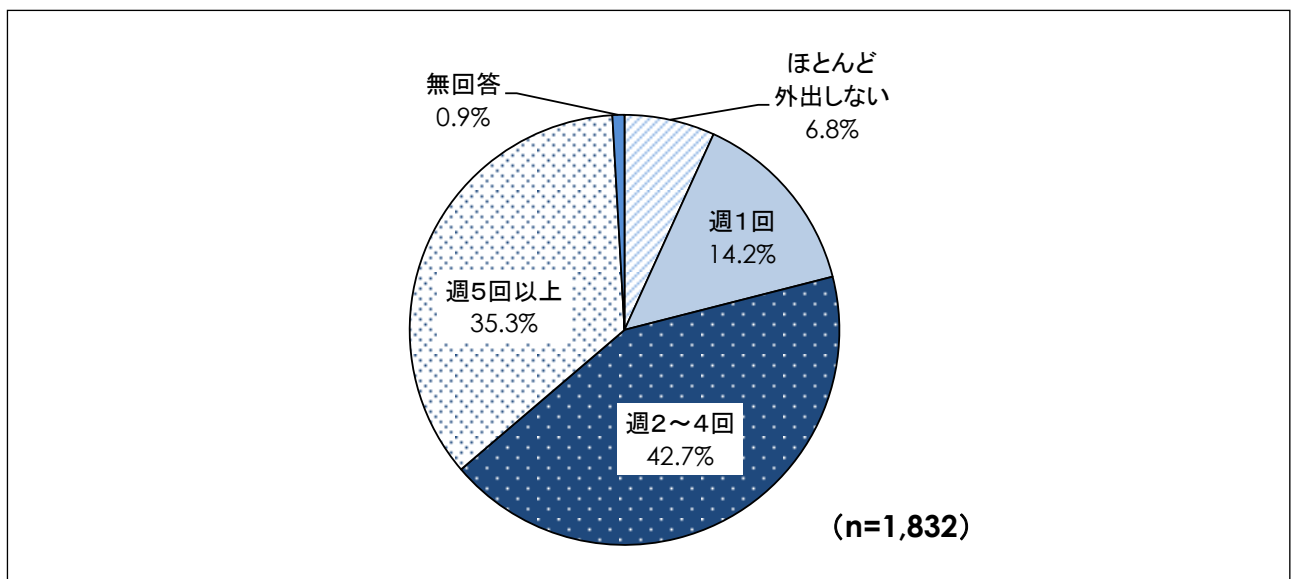
【属性別の傾向】

●塩江、香東などでは外出回数が少ない人の割合が他の圏域よりもやや高い

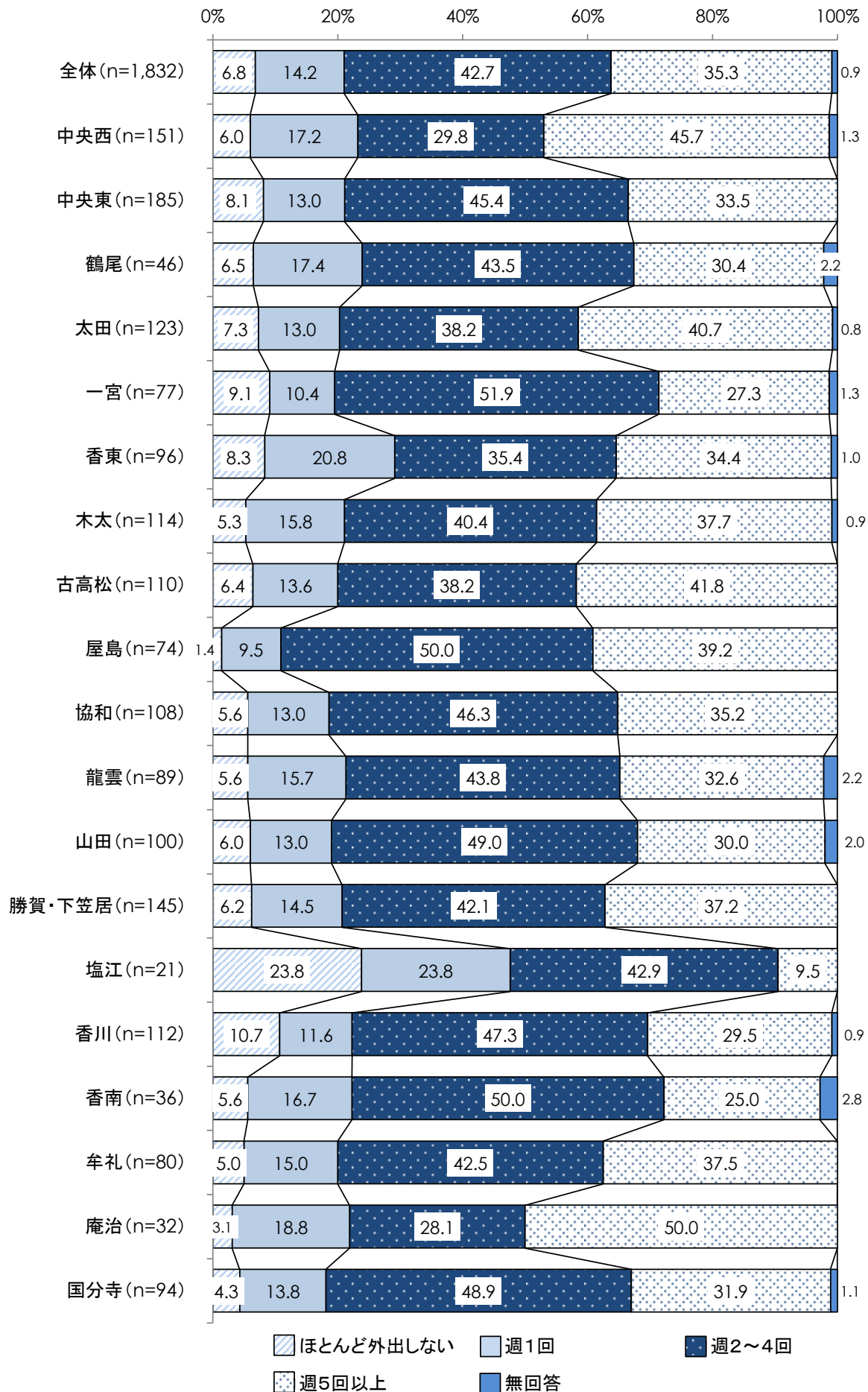
圏域別にみると、「週5回以上」外出する人の割合は、庵治では50.0%と5割を占め、中央西、古高松、太田などでも4割を超え、ほぼ毎日外出している人が多くなっています。

一方、「週1回」の割合については、塩江（23.8%）、香東（20.8%）などでやや高く、「ほとんど外出しない」については同じく塩江が23.8%と高い割合になっています。

図表 14 1週間当たりの外出回数について（全体）



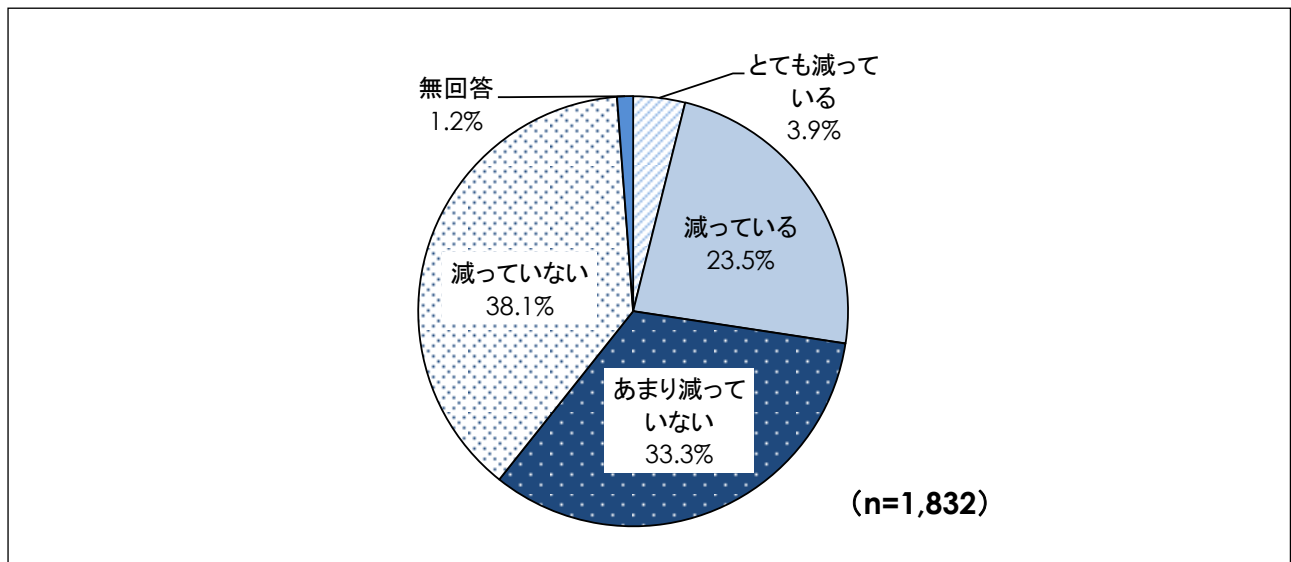
図表 15 1週間当たりの外出回数について（全体、日常生活圏域別）



問 11 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。【〇は1つ】

昨年と比べて外出の回数が減っているかについてたずねたところ、「減っていない」（38.1%）が最も高く、「あまり減っていない」（33.3%）を合計すると71.4%の人が『減っていない』と回答しています。

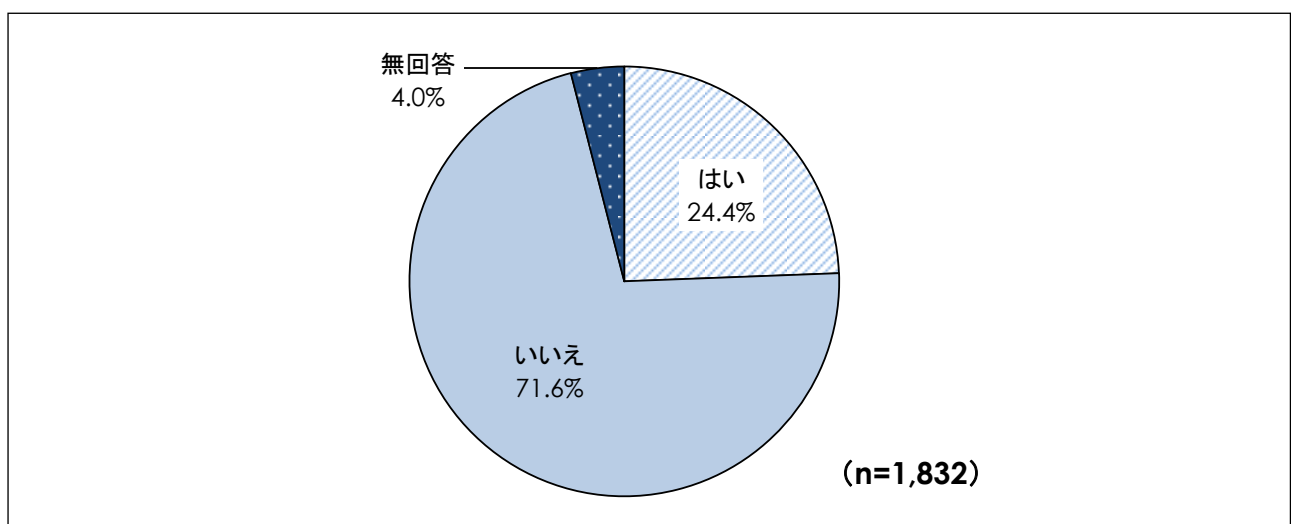
図表 16 外出回数の減少について（全体）



問 12 外出を控えていますか。【〇は1つ】

外出を控えているかについてたずねたところ、「いいえ（控えていない）」が71.6%と「はい（控えている）」（24.4%）を大きく上回っています。

図表 17 外出を控えているかについて（全体）



【問 12 で「1 はい」（外出を控えている）と回答した方】

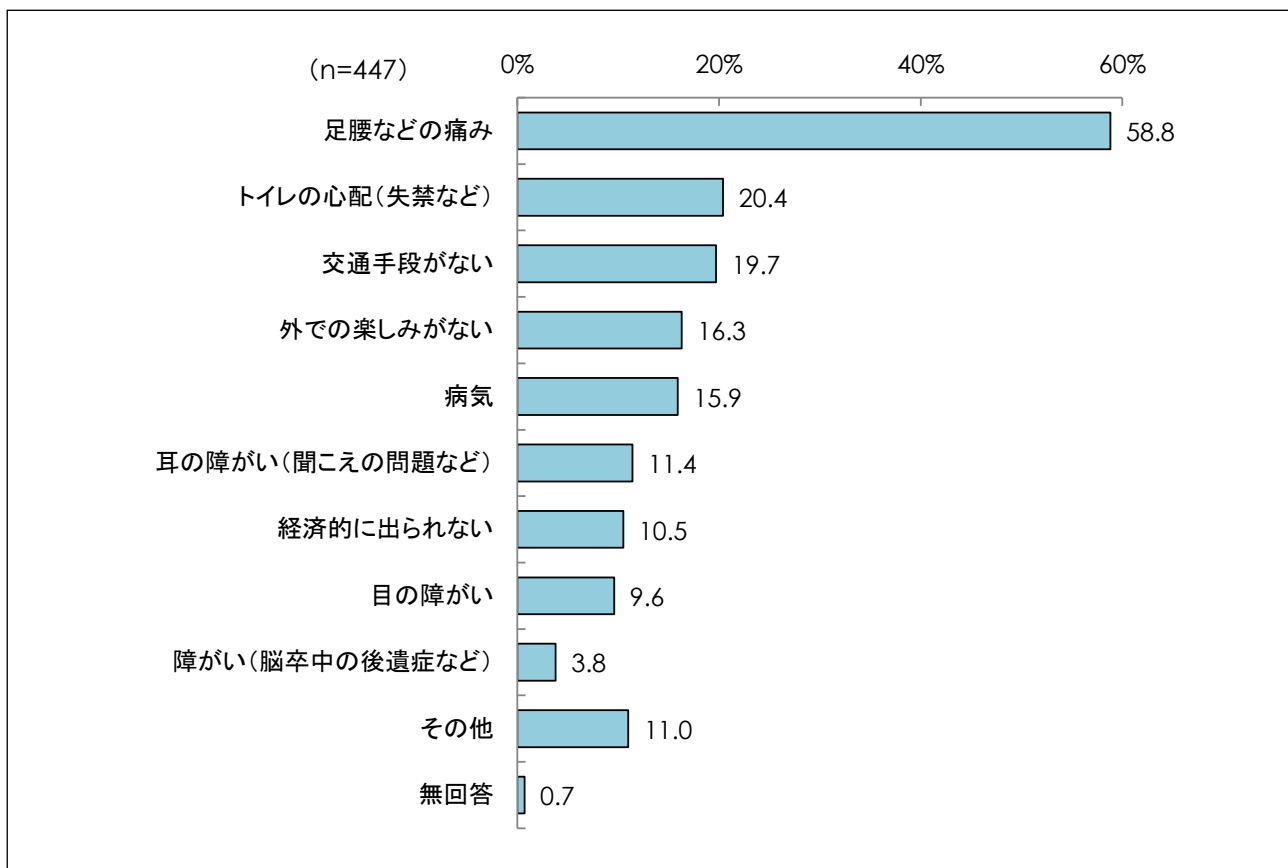
問 12－1 外出を控えている理由は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●外出を控えている主な理由は「足腰などの痛み」

外出を控えていると回答した人に対し、外出を控えている理由についてたずねたところ、「足腰などの痛み」(58.8%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで「トイレの心配(失禁など)」(20.4%)、「交通手段がない」(19.7%)、「外での楽しみがない」(16.3%)、「病気」(15.9%) などとなっています。

図表 18 外出を控えている理由（全体／複数回答）



問 13 外出する場合の、主な手段は何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●外出する際の主な移動手段は自分で自動車を運転する

外出する際の移動手段についてたずねたところ、「自動車（自分で運転）」が 43.1%と最も多くなっています。次いで、「徒歩」（38.3%）、「自転車」（30.0%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（24.6%）、「電車」（12.8%）などとなっています。

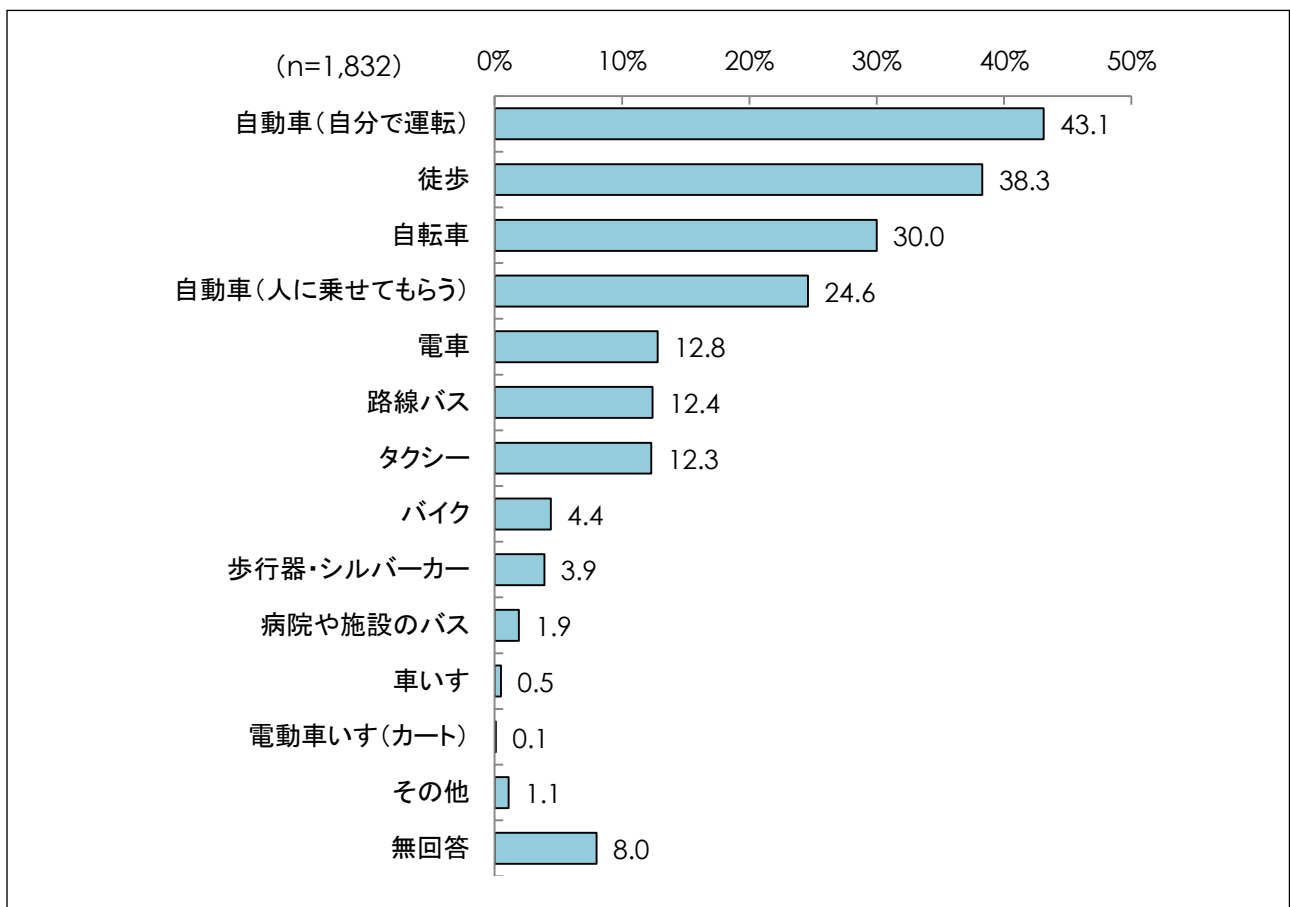
【属性別の傾向】

●徒歩又は自転車での移動、あるいは自動車か徒歩での移動の地域に大きく分かれる

圏域別にみると、多くの圏域で「自動車（自分で運転）」が第1位、「徒歩」が第2位となっていますが、中央西、中央東では「徒歩」や「自転車」が上位2位を占め、鶴尾では「自転車」が第1位、また、太田、屋島でも「徒歩」が第1位となっており、自転車や徒歩での移動が多い地域となっています。

一方、庵治では「路線バス」（25.0%）が第3位になっています。

図表 19 外出する際の移動手段（全体／複数回答）



図表 20 外出する際の移動手段（全体、日常生活圏域別／複数回答）

＜上位3位／単位％＞

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,832)		自動車(自分で運転) 43.1	徒歩 38.3	自転車 30.0
日常生活圏域別	中央西(n=151)	徒歩	自転車	自動車(自分で運転)
		45.7	43.7	31.8
	中央東(n=185)	自転車	徒歩	自動車(自分で運転)
		52.4	48.6	25.9
	鶴尾(n=46)	自転車	徒歩/自動車(自分で運転)	
		34.8	32.6	
	太田(n=123)	徒歩	自動車(自分で運転)	自転車
		37.4	34.1	31.7
	一宮(n=77)	自動車(自分で運転)	徒歩	自転車/自動車(人に乗せてもらう)
		44.2	42.9	26.0
	香東(n=96)	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	徒歩
		51.0	32.3	28.1
	木太(n=114)	自動車(自分で運転)	徒歩	自転車
		46.5	45.6	40.4
	古高松(n=110)	自動車(自分で運転)	徒歩	自動車(人に乗せてもらう)
		50.9	40.9	24.5
	屋島(n=74)	徒歩	自動車(自分で運転)	自転車
		44.6	40.5	29.7
	協和(n=108)	自動車(自分で運転)	徒歩	自転車
		45.4	44.4	31.5
	龍雲(n=89)	自動車(自分で運転)	徒歩	自動車(人に乗せてもらう)
		47.2	38.2	27.0
	山田(n=100)	自動車(自分で運転)	徒歩	自動車(人に乗せてもらう)
		53.0	29.0	27.0
	勝賀・下笠居(n=145)	自動車(自分で運転)	徒歩	自転車
		47.6	37.9	26.9
	塩江(n=21)	徒歩/自動車(人に乗せてもらう)		自動車(自分で運転)
		38.1		33.3
	香川(n=112)	自動車(自分で運転)	自転車	徒歩
		46.4	25.9	22.3
	香南(n=36)	自動車(自分で運転)	徒歩	自動車(人に乗せてもらう)
		50.0	33.3	27.8
	牟礼(n=80)	自動車(自分で運転)	徒歩	自動車(人に乗せてもらう)
		55.0	36.3	22.5
	庵治(n=32)	徒歩/自動車(自分で運転)		路線バス
		40.6		25.0
	国分寺(n=94)	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	徒歩
		59.6	31.9	29.8

3-2 食べることについて

（１）BMI 算出

問 14 あなたの身長と体重をお書きください。【数字で記入】

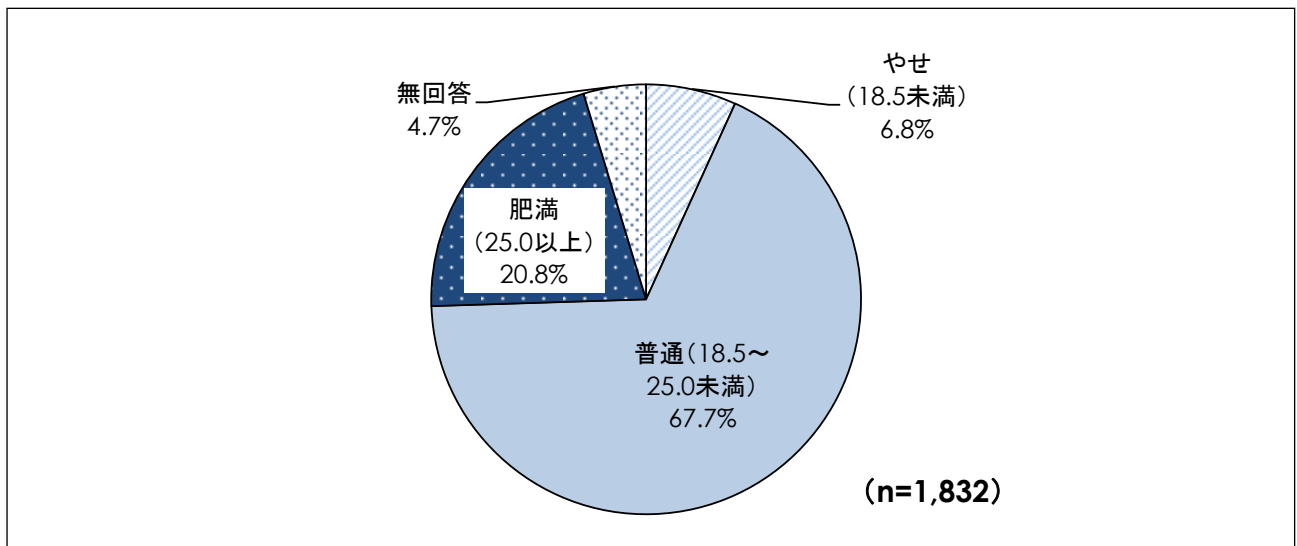
【全体の傾向】

●BMI が 18.5 未満の「やせ」の人は 1 割未満

身長及び体重の記載から算出したBMI 値については、「普通（18.5～25.0 未満）」が 67.7%と6割を超えています。

一方、「やせ（18.5 未満）」は 6.8%、「肥満（25.0 以上）」は 20.8%となっています。

図表 21 BMI 値（全体）



（２）口腔機能について

問 15 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●咀嚼機能の低下を感じている人は３割以上、約６割は感じていない

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについてたずねたところ、36.0%が「はい」と回答しており、３割以上の人が咀嚼機能の低下を感じています。

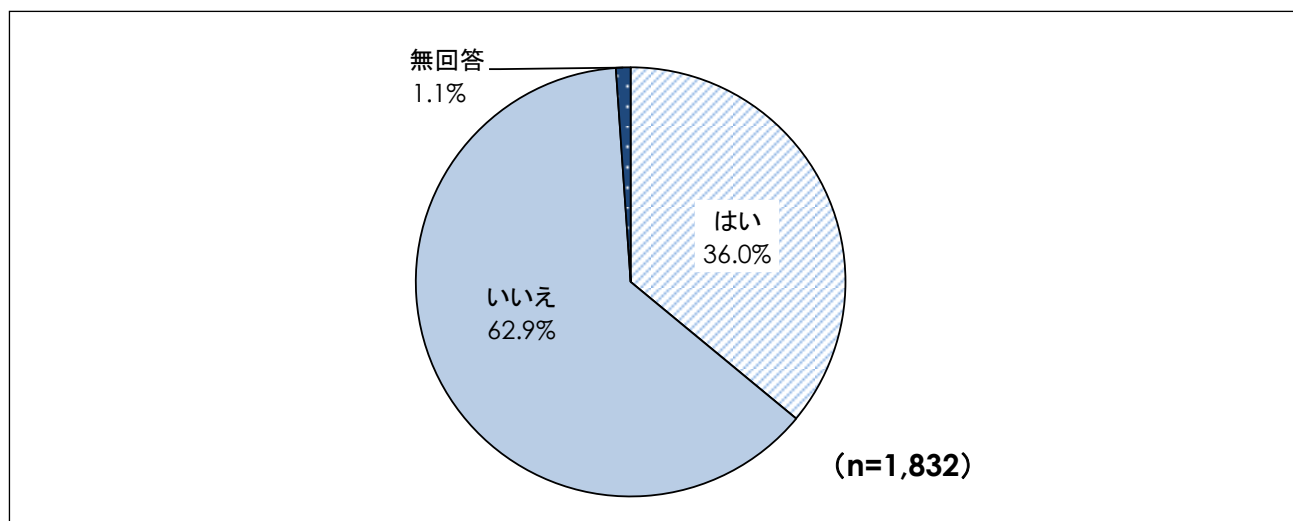
一方、「いいえ」の割合は62.9%と、約６割が食べにくくなっていないと回答しています。

【属性別の傾向】

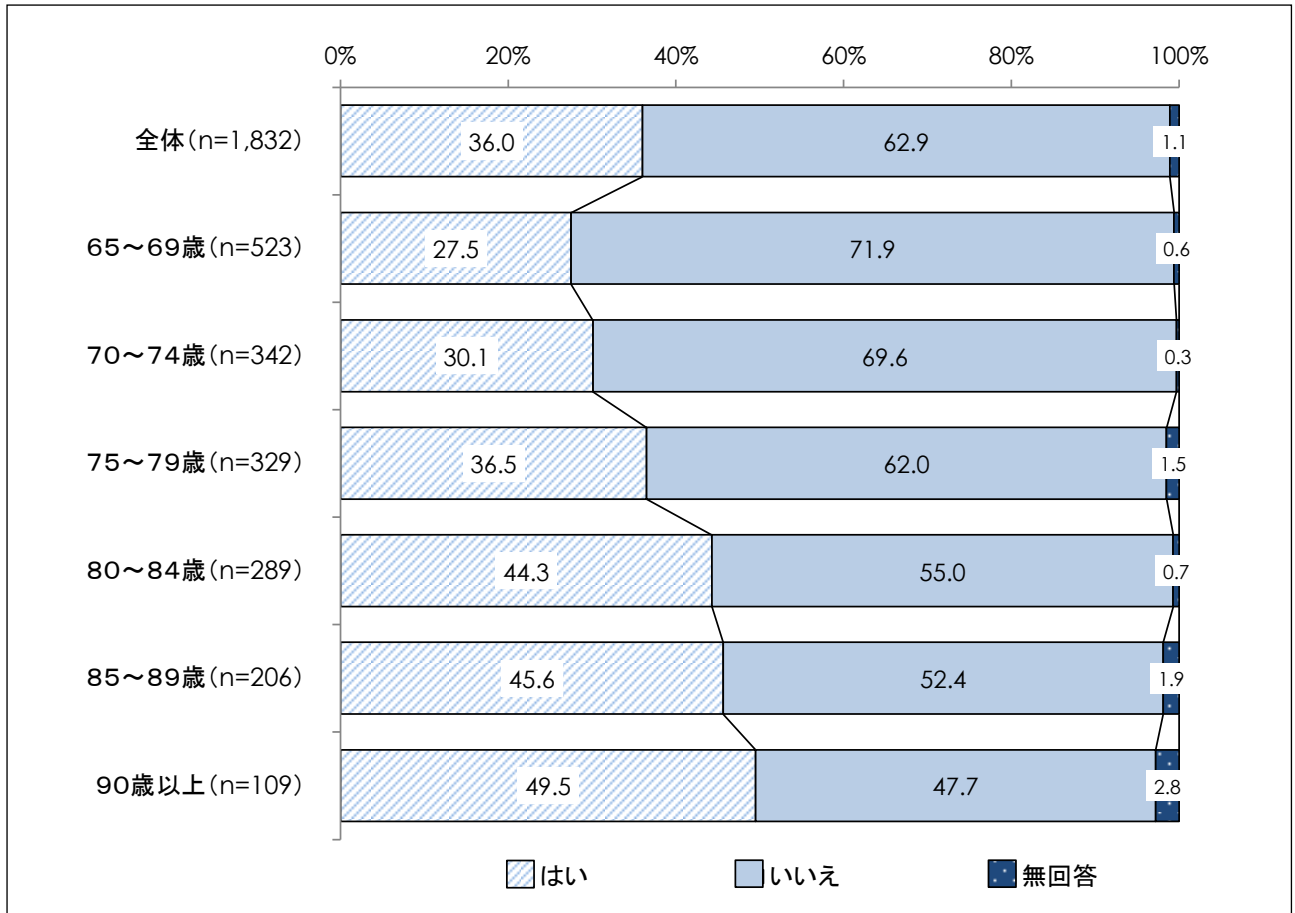
●年齢が上がるにつれ、咀嚼機能の低下を感じている人が増加

年齢階層別にみると、年齢が上がるにつれ「はい」の割合が増加傾向にあり、65～69歳では27.5%と３割を下回っていますが、90歳以上では49.5%と約５割を占めています。

図表 22 咀嚼機能について（全体）



図表 23 咀嚼機能について（全体、年齢階層別）



問 16 お茶や汁物等でむせることがありますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●嚥下機能の低下を感じている人は約3割

お茶や汁物等でむせることがあるかについてたずねたところ、全体の30.0%が「はい」と回答しており、約3割の人がむせることがあると回答しています。

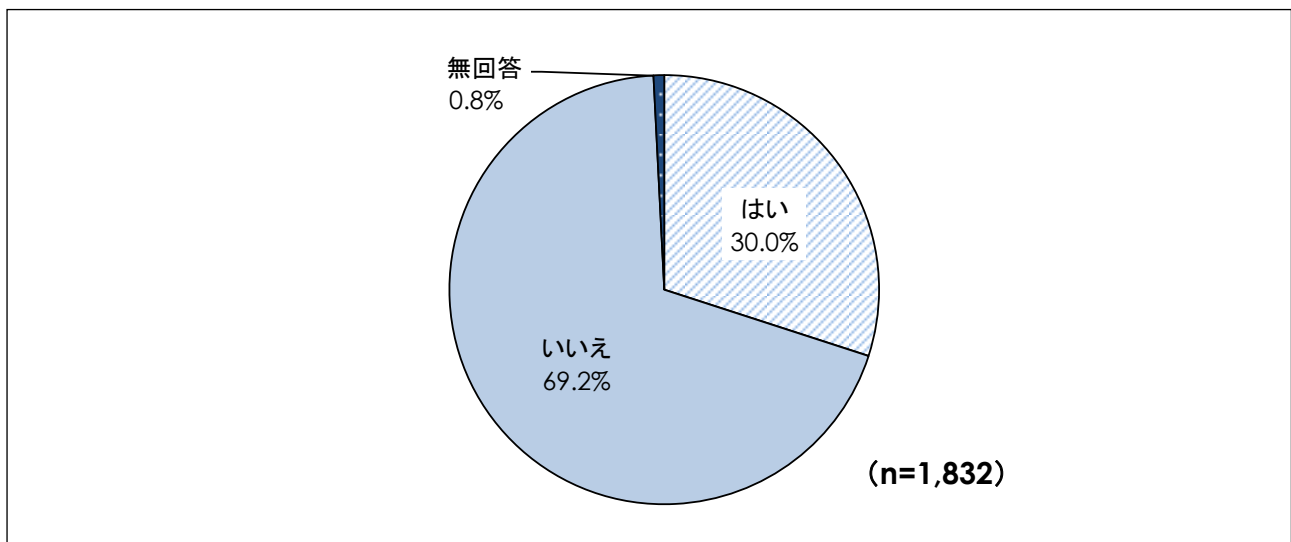
一方、「いいえ」の割合は69.2%となっており、約7割がむせることはないと回答しています。

【属性別の傾向】

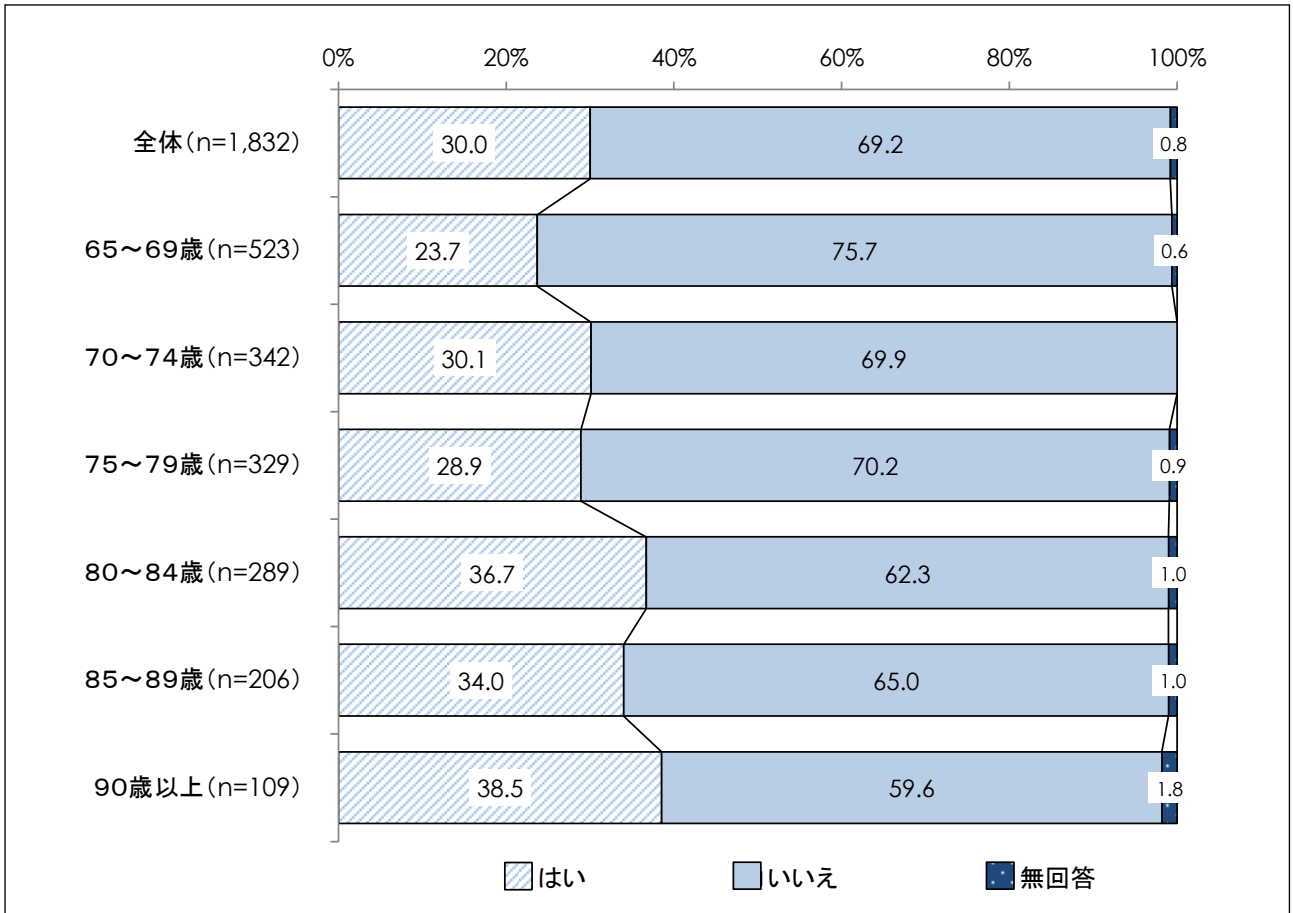
●80～84歳、90歳以上で嚥下機能の低下を感じている人の割合がやや高め

年齢階層別にみると、「はい」の割合は80～84歳で36.7%、90歳以上で38.5%となっており、他の年齢層に比べて嚥下機能の低下を感じている人の割合がやや高くなっています。

図表 24 嚥下機能について（全体）



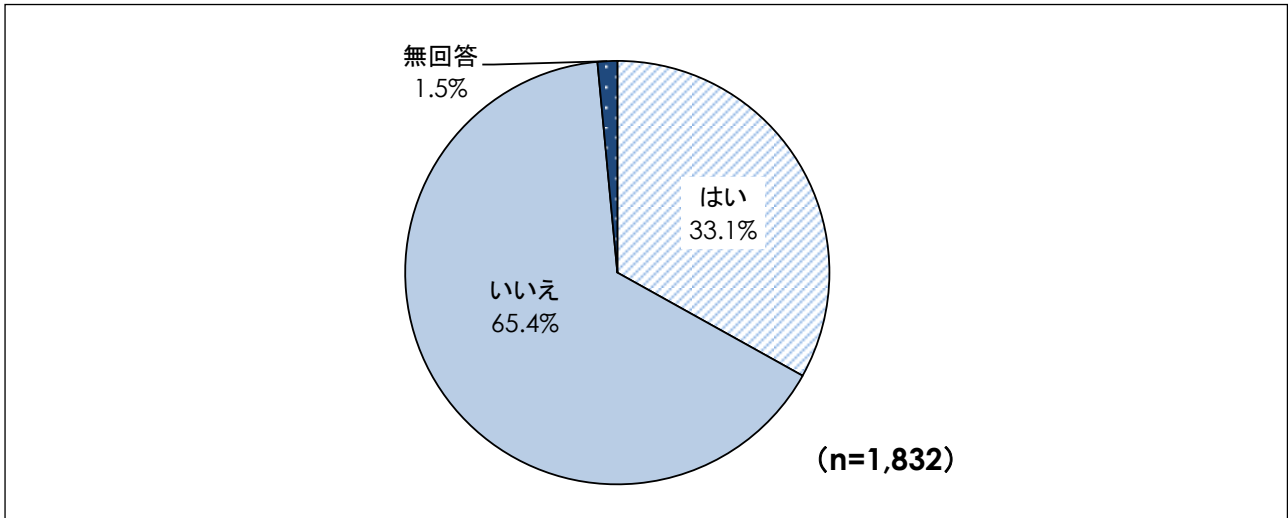
図表 25 嚥下機能について（全体、年齢階層別）



問 17 口の渇きが気になりますか。【〇は1つ】

肺炎の発症リスクに関する口の渇きについてたずねたところ、「はい」が33.1%となっており、約3割の人が口の渇きが気になると回答しています。

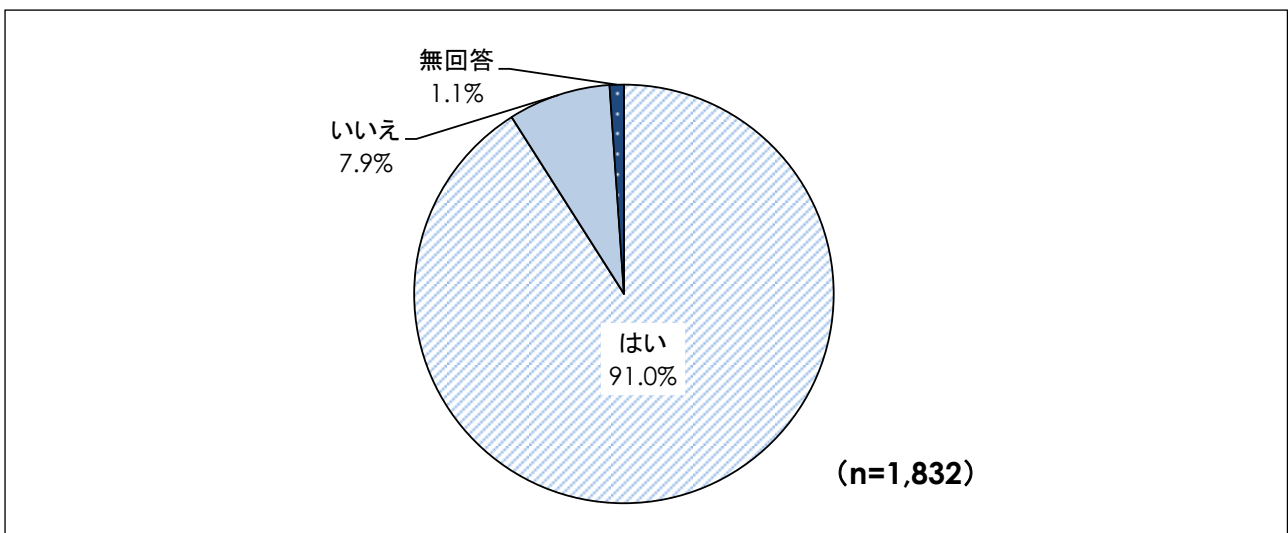
図表 26 口の渇きについて（全体）



問 18 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。【〇は1つ】

歯磨きを毎日しているかについてたずねたところ、「はい」が91.0%と大半を占め、ほとんどの人が毎日していると回答しています。

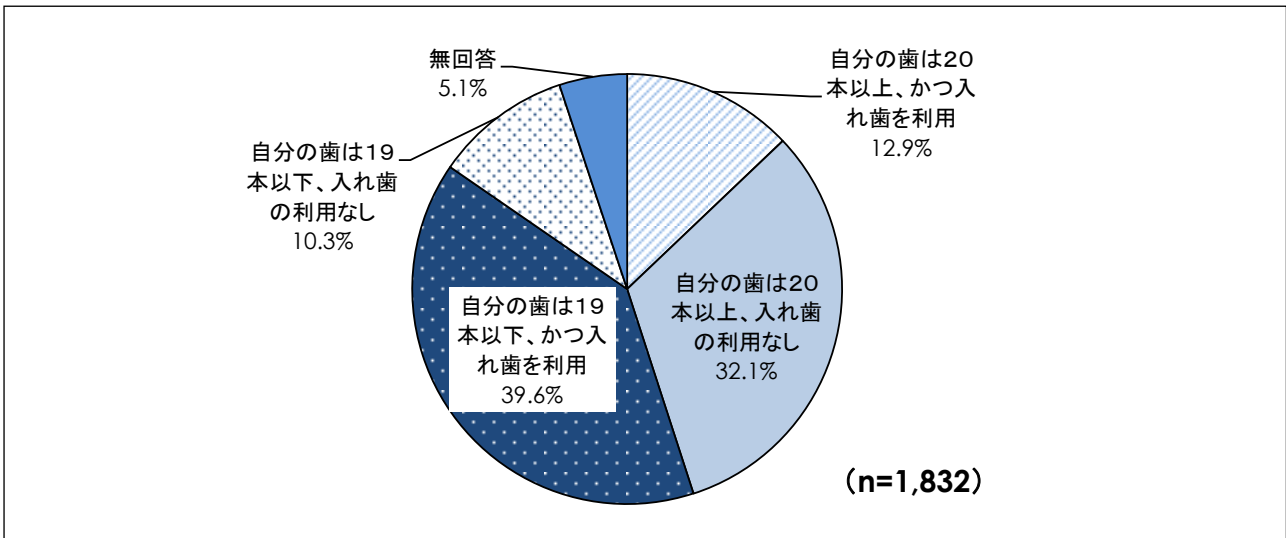
図表 27 歯磨きの習慣について（全体）



問 19 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。【〇は1つ】
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

歯の本数と、入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が39.6%と最も高くなっています。「自分の歯は19本以下」との回答は全体の49.9%、「入れ歯を利用」している人は全体の52.5%となっています。

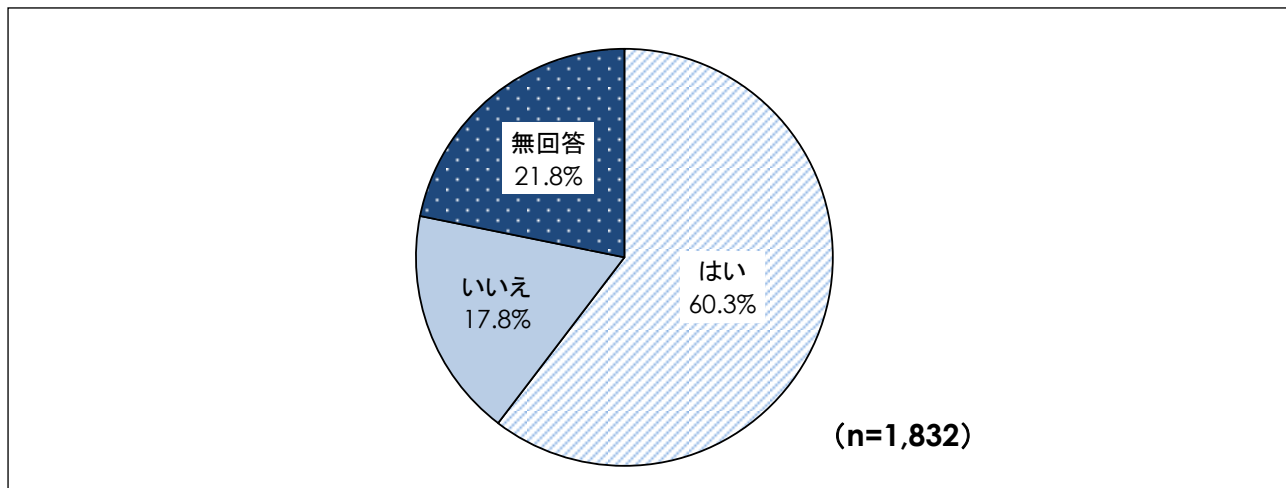
図表 28 歯の本数と入れ歯の利用状況（全体）



問 19-1 噛み合わせは良いですか。【〇は1つ】

歯の噛み合わせの状態についてたずねたところ、「はい」が60.3%となっており、約6割が噛み合わせは良いと回答しています。

図表 29 噛み合わせの状態について（全体）

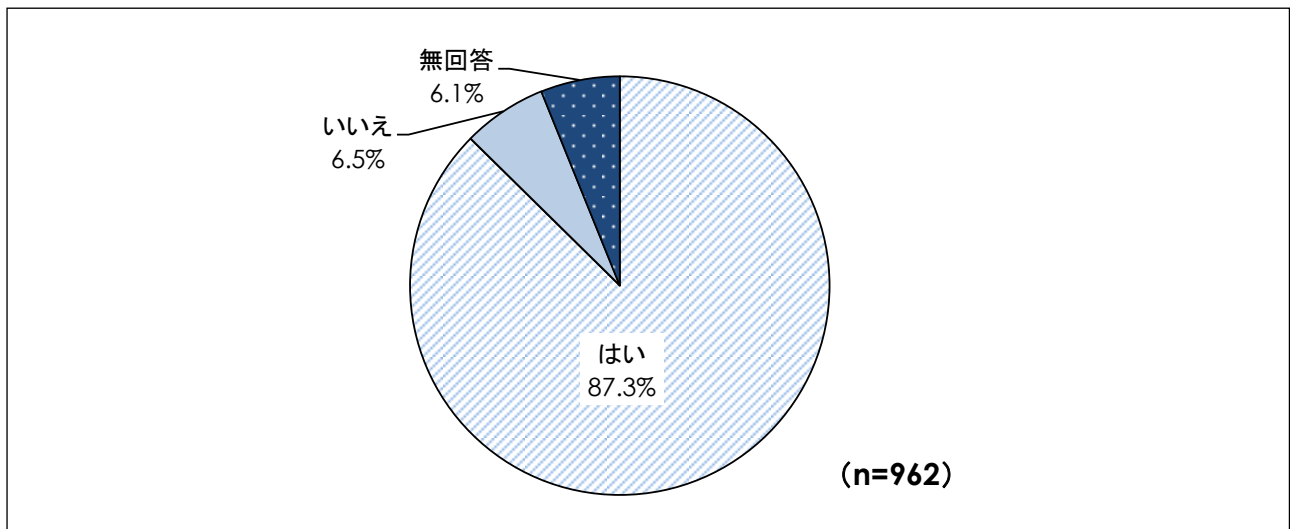


【問 19 で「1 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方】

問 19-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか。【○は 1 つ】

入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかについてたずねたところ、「はい」が 87.3%を占め、ほとんどの人が毎日入れ歯の手入れをしています。

図表 30 入れ歯の手入れについて（全体）

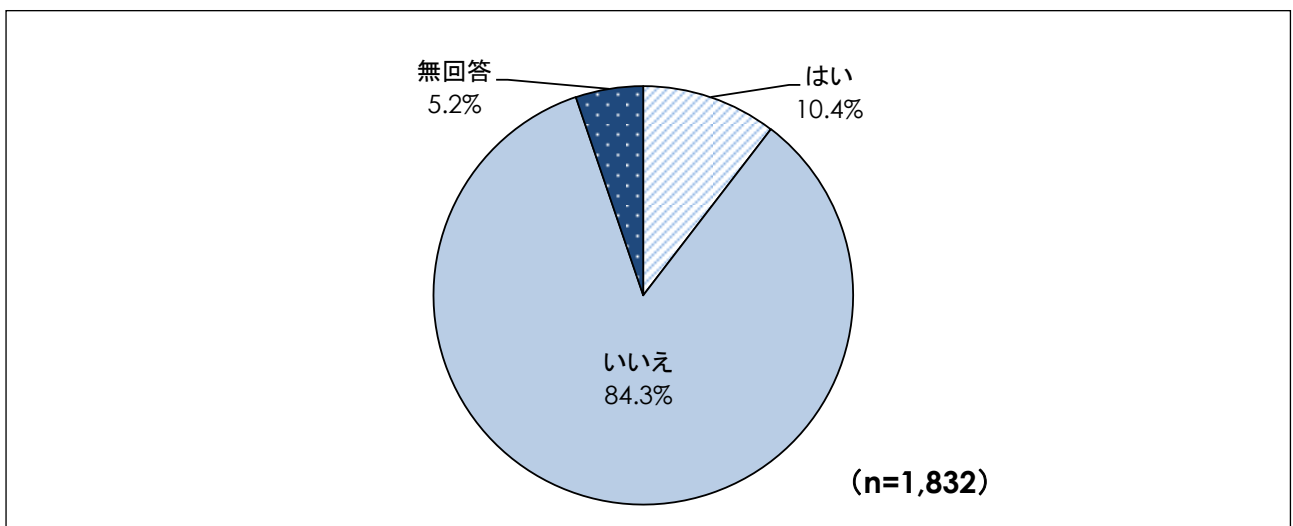


（3）体重減少の有無について

問 20 6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか。【○は 1 つ】

6か月間で体重減少があったかについてたずねたところ、「いいえ（減少していない）」が 84.3%と8割を超えており、「はい（減少した）」は 10.4%となっています。

図表 31 体重減少の有無について（全体）



（４）孤食の状況について

問 21 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●誰かと食事をとにもする機会がほとんどない人は約１割

誰かと食事をとにもする機会の有無についてたずねたところ、「毎日ある」が52.6%と5割を超えており、次いで「月に何度かある」(16.5%)、「年に何度かある」(10.0%)、「週に何度かある」(9.1%)と続いています。一方、誰かと食事をとにもする機会が「ほとんどない」は8.0%となっています。

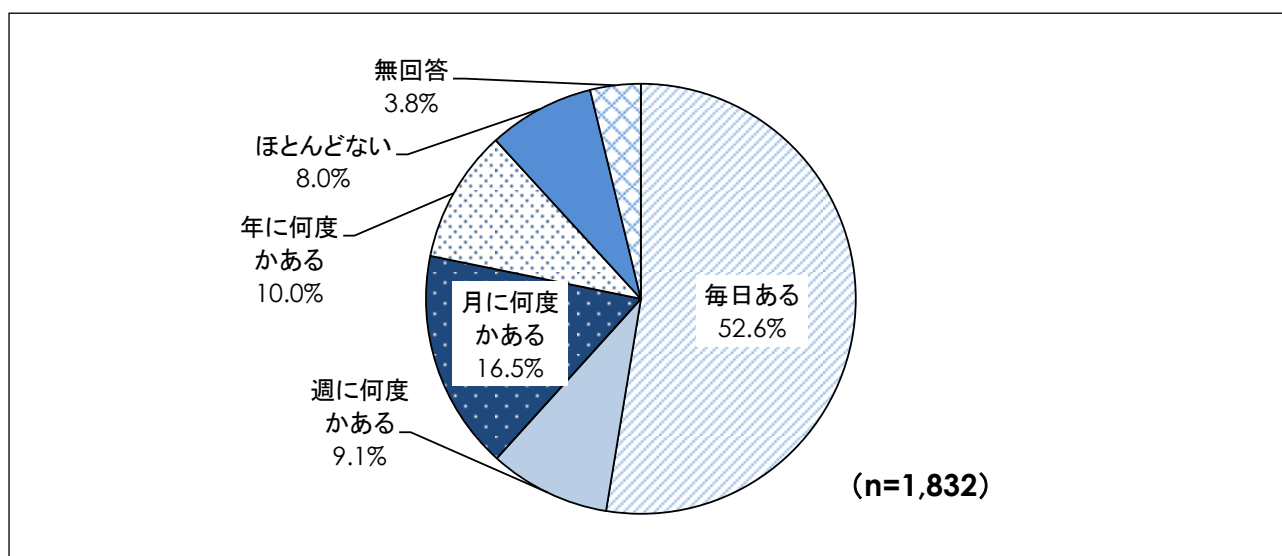
【属性別の傾向】

●牟礼、塩江では孤食傾向が他の圏域よりもやや高め

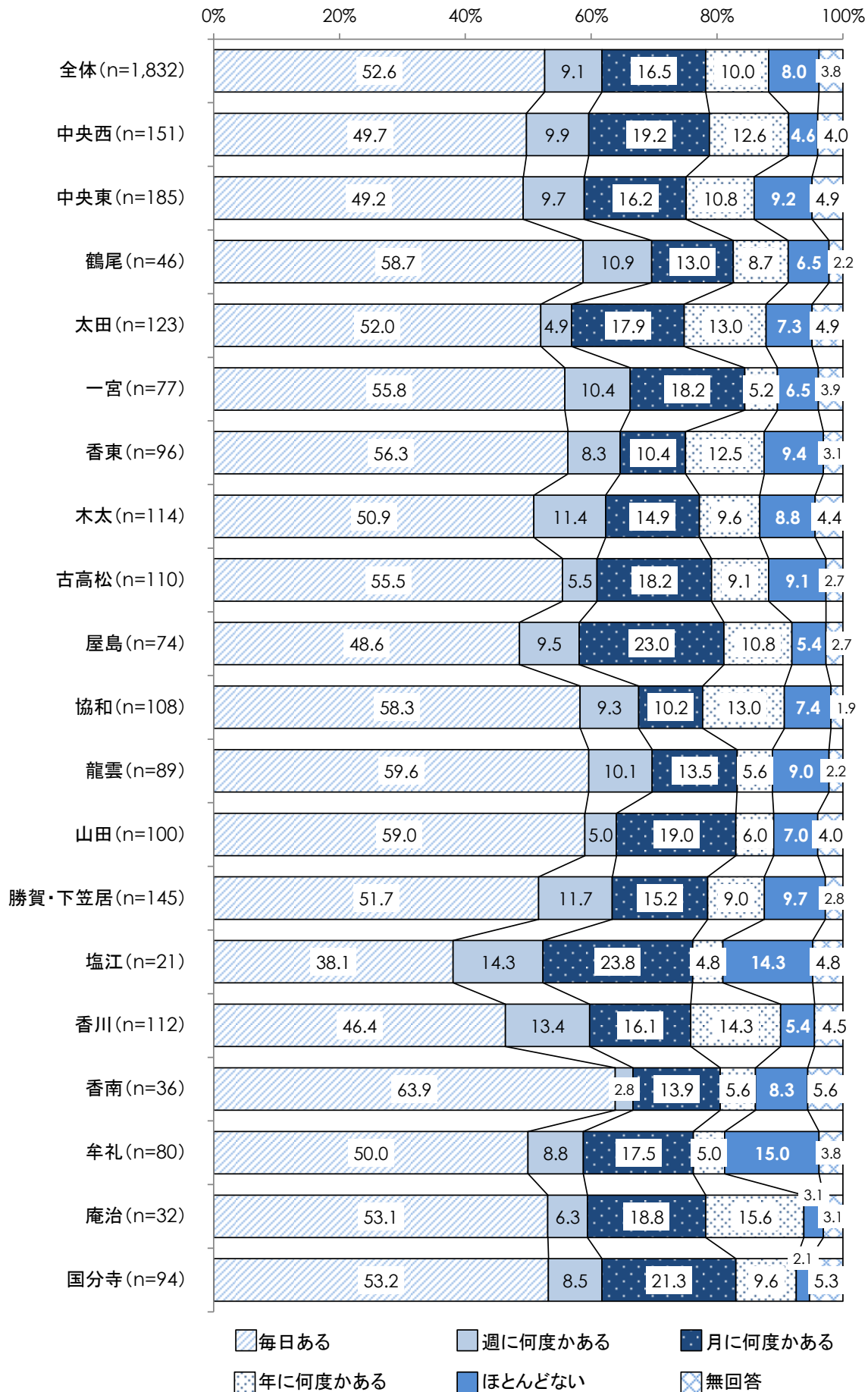
圏域別にみると、ほとんどの圏域で「毎日ある」の割合が約5割～6割を占め、最も高くなっていますが、塩江では38.1%と4割を下回っています。

また、「ほとんどない」の割合については、牟礼（15.0%）、塩江（14.3%）が他の圏域に比べてやや高くなっています。

図表 32 誰かと食事をとにもする機会の有無について（全体）



図表 33 誰かと食事をとにもする機会の有無について（全体、日常生活圏域別）



4 毎日の生活について

（１）認知機能について

問 22 物忘れが多いと感じますか。【○は1つ】

問 23 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。【○は1つ】

問 24 今日が何月何日かわからない時がありますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

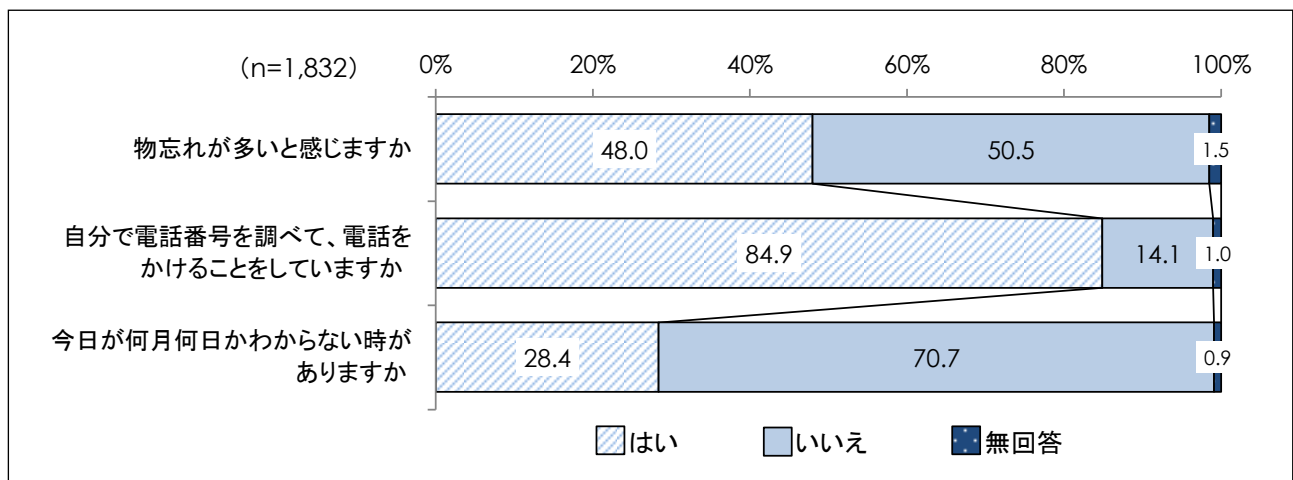
●認知機能の低下を感じている人は約5割を占める

認知機能についてたずねたところ、『物忘れが多いと感じますか』については全体の48.0%が「はい」と回答しており、「いいえ」（50.5%）との差はわずか2.5%となっています。

また、『自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか』については全体の84.9%の人が「はい」と回答しており、大半を占めています。

『今日が何月何日かわからない時がありますか』については、「はい(わからない時がある)」は28.4%と約3割を占めています。

図表 34 認知機能の低下について（全体）



（２）ⅠADL＜手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）

問 25 バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）【○は1つ】

【全体の傾向】

●公共交通機関を利用した1人での外出が「できない」人は約1割

バスや電車を使っての外出状況についてたずねたところ、「できるし、している」が70.4%と最も高くなっており、「できるけどしていない」（18.8%）を合計すると、89.2%と約9割の人が『できる』と回答しています。

一方、公共交通機関を利用した1人での外出が「できない」は9.9%と約1割を占めています。

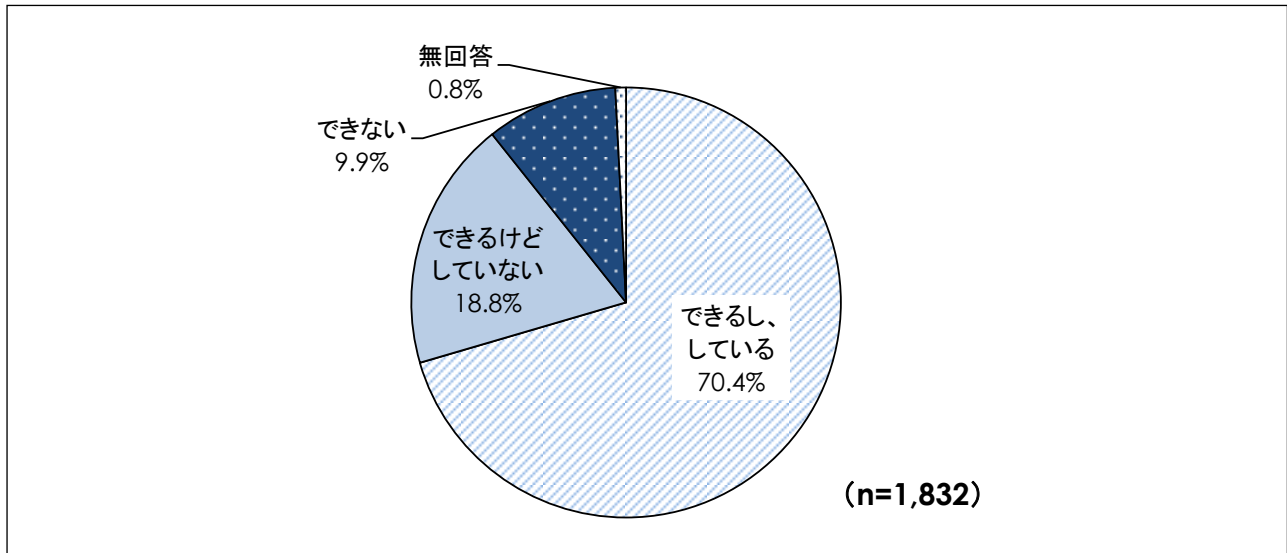
【属性別の傾向】

●塩江、香南、香東などでは「できない」の割合がやや高め

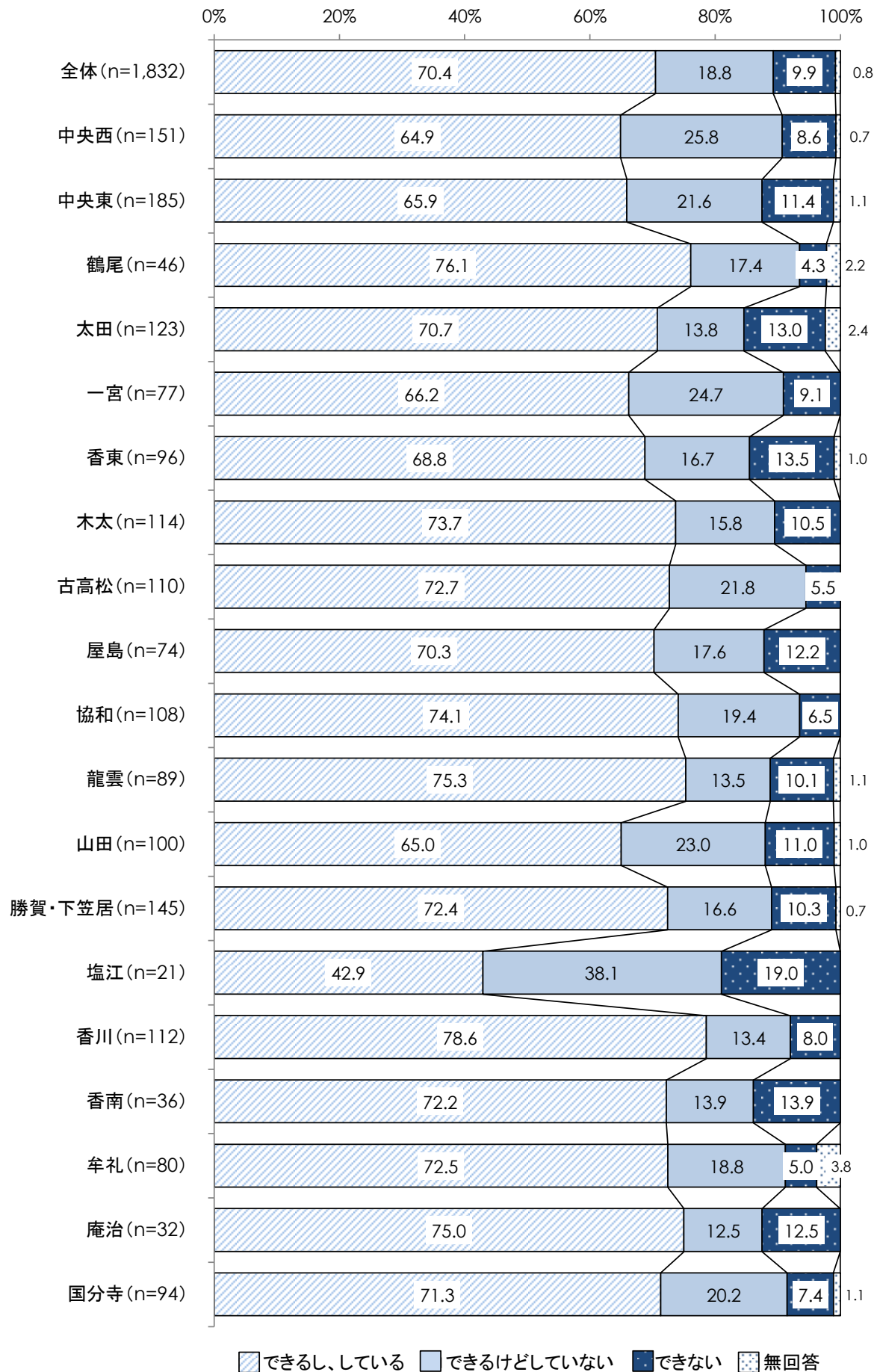
圏域別にみると、ほとんどの圏域で「できるし、している」の割合が約6割～8割を占め最も高くなっていますが、塩江では42.9%と約4割にとどまっています。

また、「できない」の割合については、塩江（19.0%）、香南（13.9%）、香東（13.5%）などでやや高くなっています。

図表 35 公共交通機関を利用した1人での外出（全体）



図表 36 公共交通機関を利用した1人での外出（全体、日常生活圏域別）



問 26 自分で食品・日用品の買物をしていますか【〇は1つ】

【全体の傾向】

●大半の人が自分で食品・日用品の買物が可能

自分で食品・日用品の買物をしているかについてたずねたところ、「できるし、している」が79.7%と最も高くなっています。「できるけどしていない」（14.1%）を合計すると、93.8%の人が『できる』と回答しており、前問の公共交通機関を使った1人での外出よりも『できる』と回答した人が多くなっています。

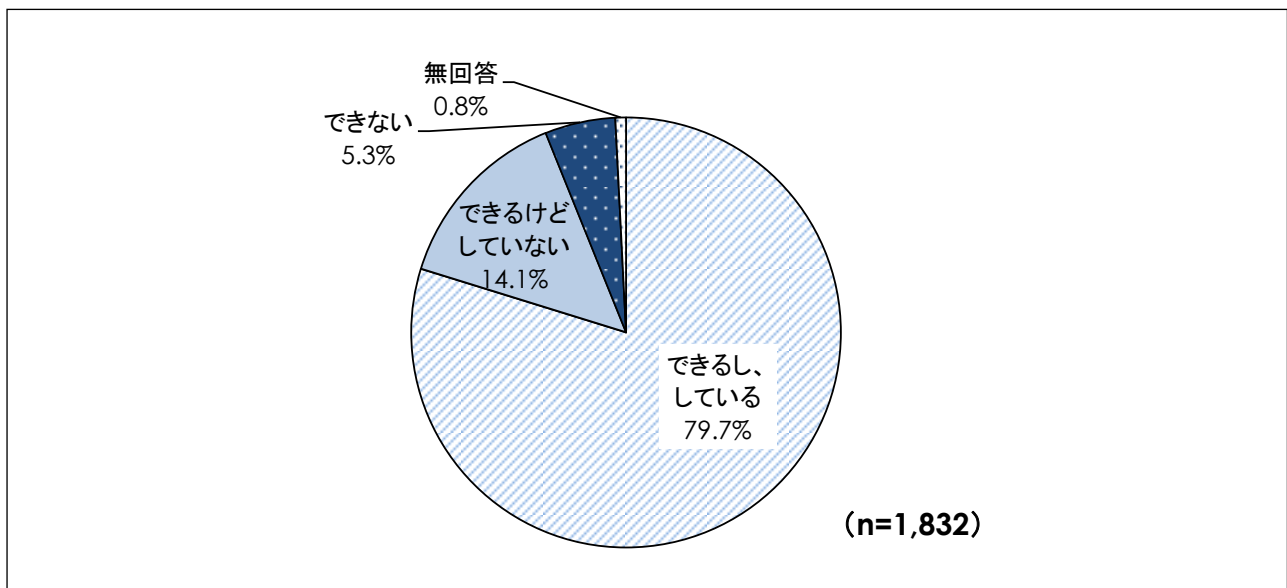
【属性別の傾向】

●塩江、香南、鶴尾、牟礼などでは「できるけどしていない」の割合がやや高め

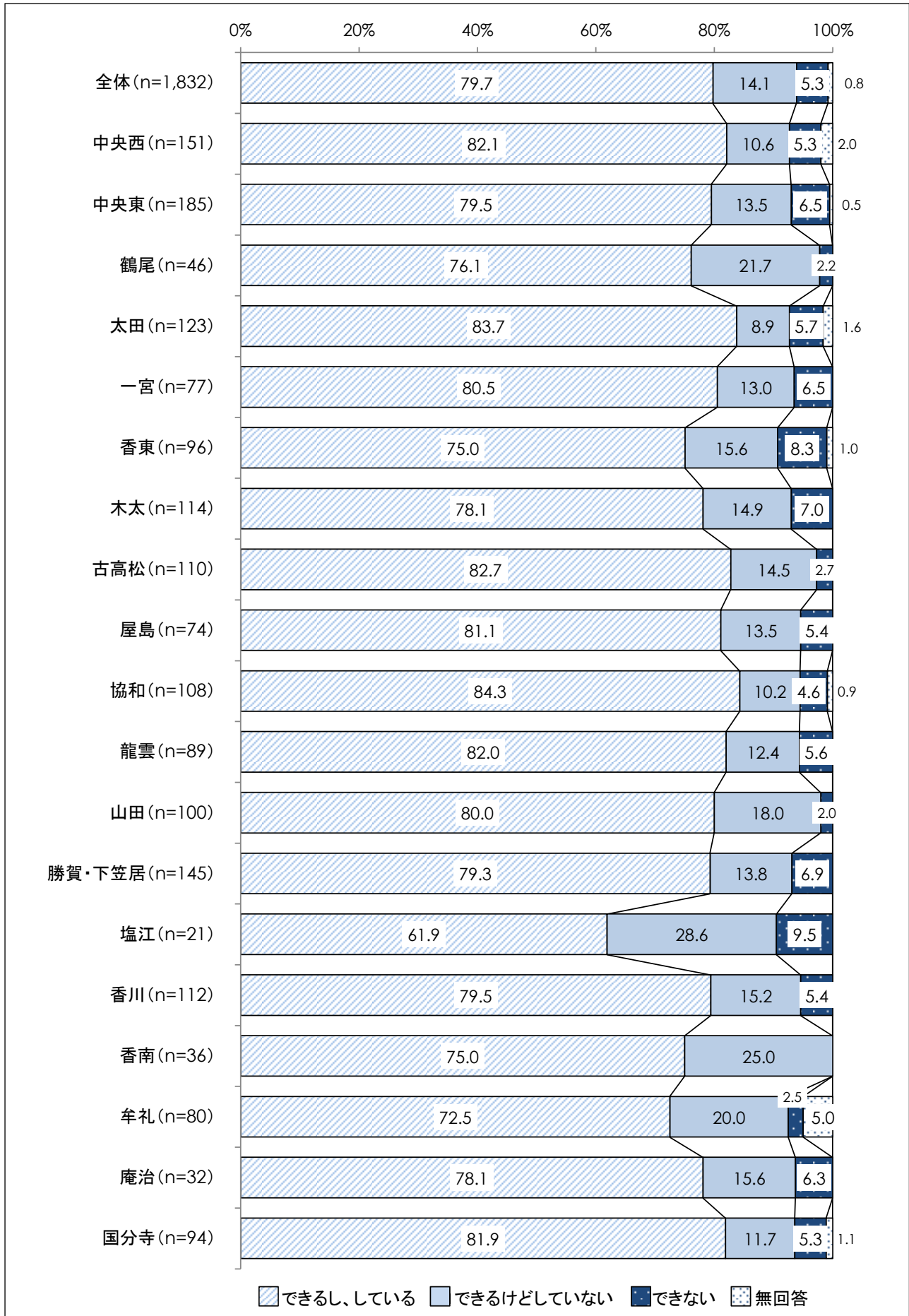
圏域別にみると、すべての圏域で「できるし、している」の割合が最も高くなっています。

一方、「できるけどしていない」の割合については、塩江（28.6%）、香南（25.0%）、鶴尾（21.7%）、牟礼（20.0%）では2割を超えており、他の圏域よりもやや高くなっています。

図表 37 自分で日用品等の買物をしているかについて（全体）



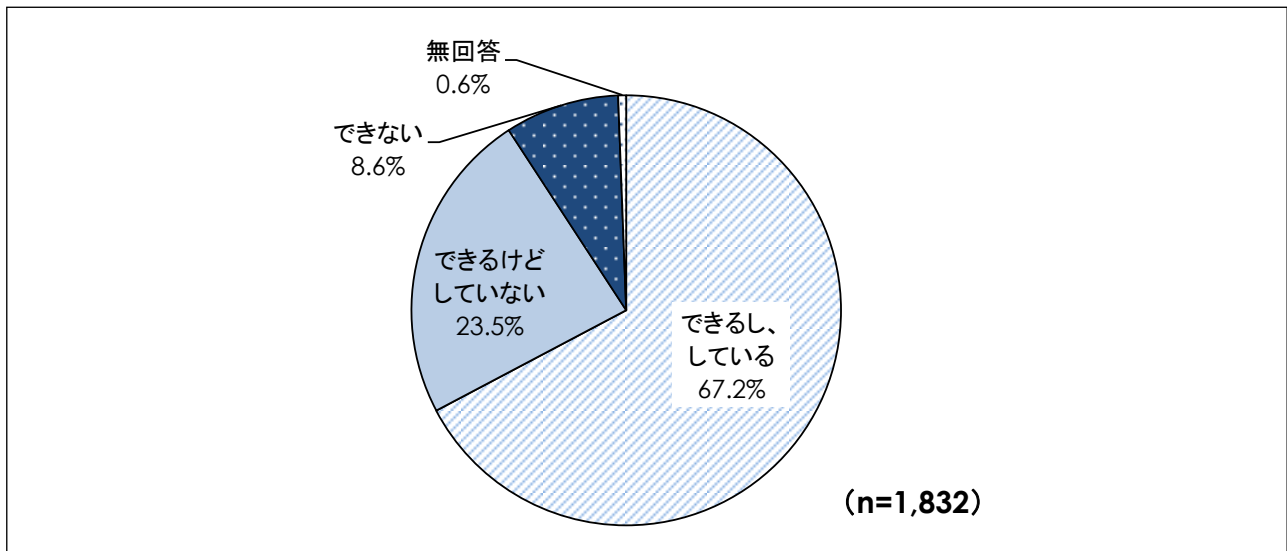
図表 38 自分で日用品等の買物をしているかについて（全体、日常生活圏域別）



問 27 自分で食事の用意をしていますか。【〇は1つ】

自分で食事の用意をしているかについてたずねたところ、「できるし、している」が67.2%と最も高くなっていますが、公共交通機関を使った1人での外出や、日用品の買物等よりも「できるし、している」と回答した人は少なくなっています。

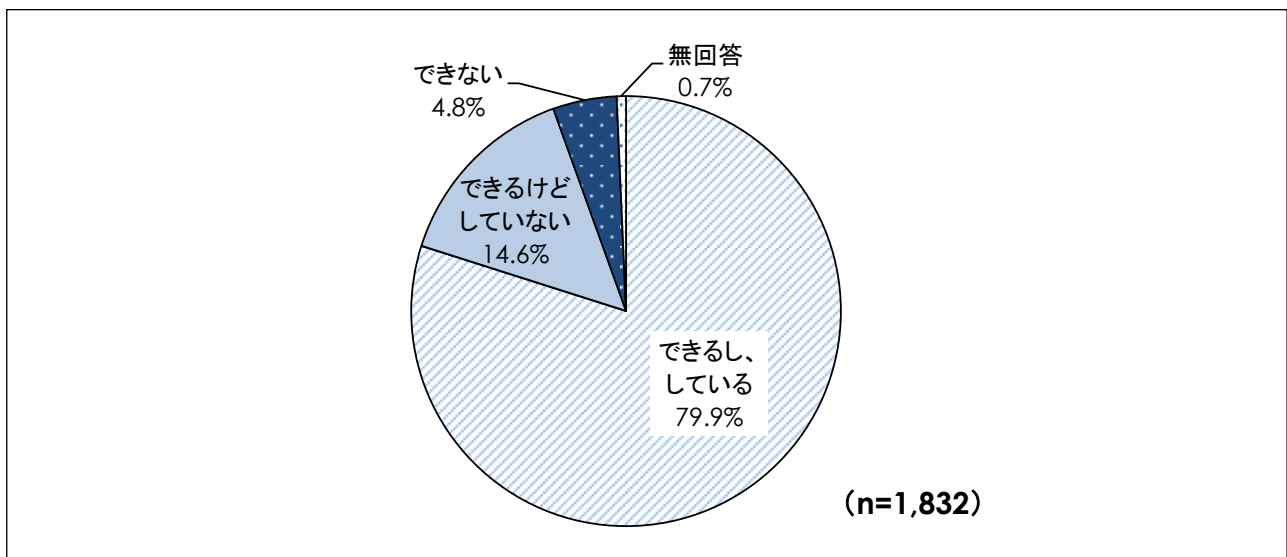
図表 39 自分で食事の用意をしているかについて（全体）



問 28 自分で請求書の支払いをしていますか。【〇は1つ】

自分で請求書の支払いをしているかについてたずねたところ、「できるし、している」が79.9%と約8割を占めています。一方、「できない」はわずか4.8%となっています。

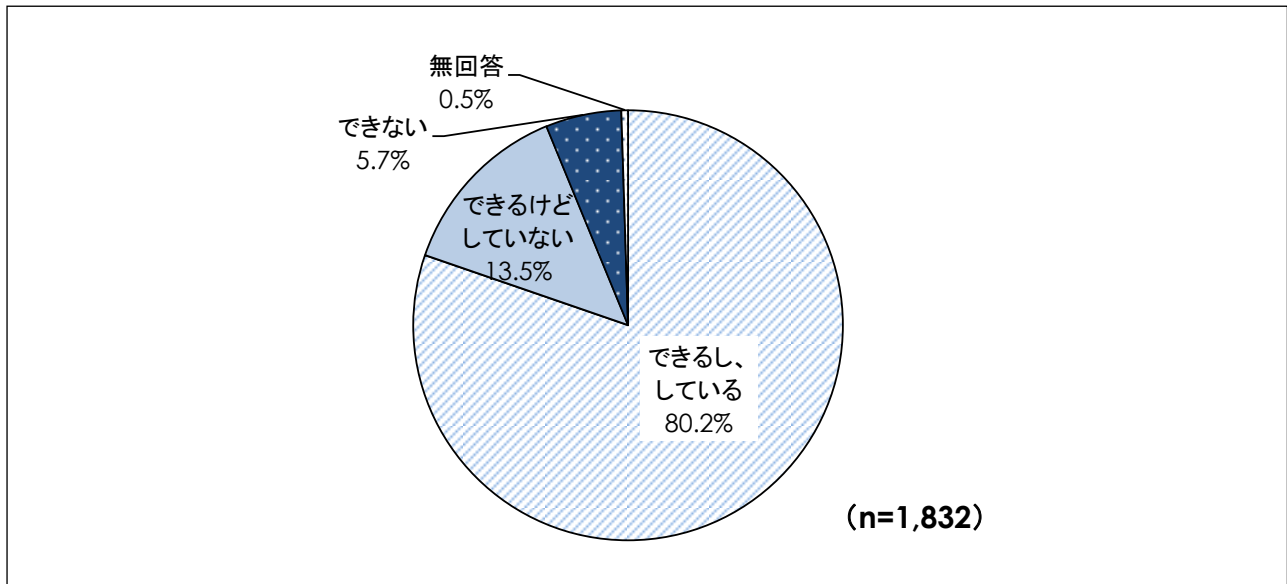
図表 40 自分で請求書の支払いをしているかについて（全体）



問 29 自分で預貯金の出し入れをしていますか。【○は1つ】

自分で預貯金の出し入れをしているかについてたずねたところ、「できるし、している」が80.2%と大半を占め、「できるけどしていない」（13.5%）を合計すると、93.7%の人が『できる』と回答しています。

図表 41 自分で預貯金の管理をしているかについて（全体）



（３）社会参加－知的能動性（老研式活動能力指標）

問 30 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。【○は１つ】

問 31 新聞を読んでいますか。【○は１つ】

問 32 本や雑誌を読んでいますか。【○は１つ】

問 33 健康についての記事や番組に関心がありますか。【○は１つ】

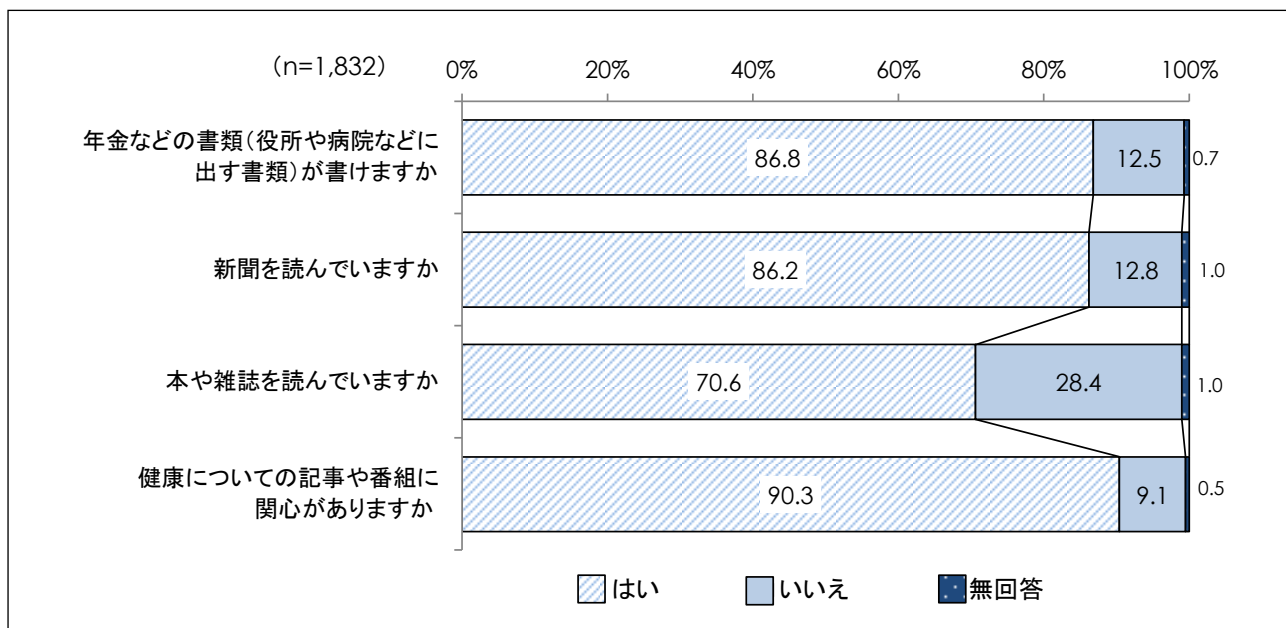
【全体の傾向】

●本や雑誌を読んでいない人が約３割を占める

知的能動性に関する項目についてたずねたところ、『年金などの書類が書けますか』、『新聞を読んでいますか』、『健康についての記事や番組に関心がありますか』については約８割～９割の人が「はい」と回答しています。

一方、『本や雑誌を読んでいますか』については、28.4%が「いいえ」と回答しており、他の設問に比べて「いいえ」の割合が高くなっています。

図表 42 書類の記入や読書等について（全体）



（４）社会参加－社会的役割（老研式活動能力指標）

問 34 友人の家を訪ねていますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●友人宅への訪問を行っている人と行っていない人の割合はほぼ5割で差はみられない

友人宅への訪問についてたずねたところ、「はい」が49.8%、「いいえ」が49.4%となっており、「はい」が0.4ポイント上回っていますが、その割合に大差はみられません。

【属性別の傾向】

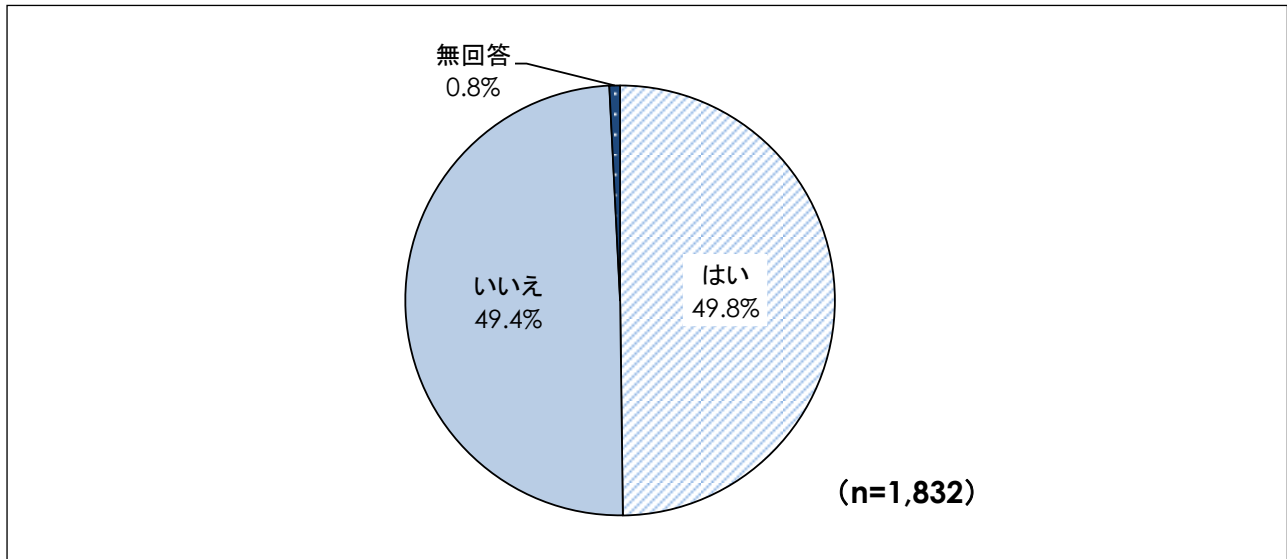
●国分寺、香南、山田などでは友人を訪ねている人が多い

圏域別に「はい」の割合をみると、国分寺(68.1%)、香南(61.1%)、山田(59.0%)、古高松(55.5%)、香川(55.4%)、鶴尾(52.2%)、勝賀・下笠居(51.7%)、牟礼(51.3%)では「はい」の割合が「いいえ」の割合を上回っています。

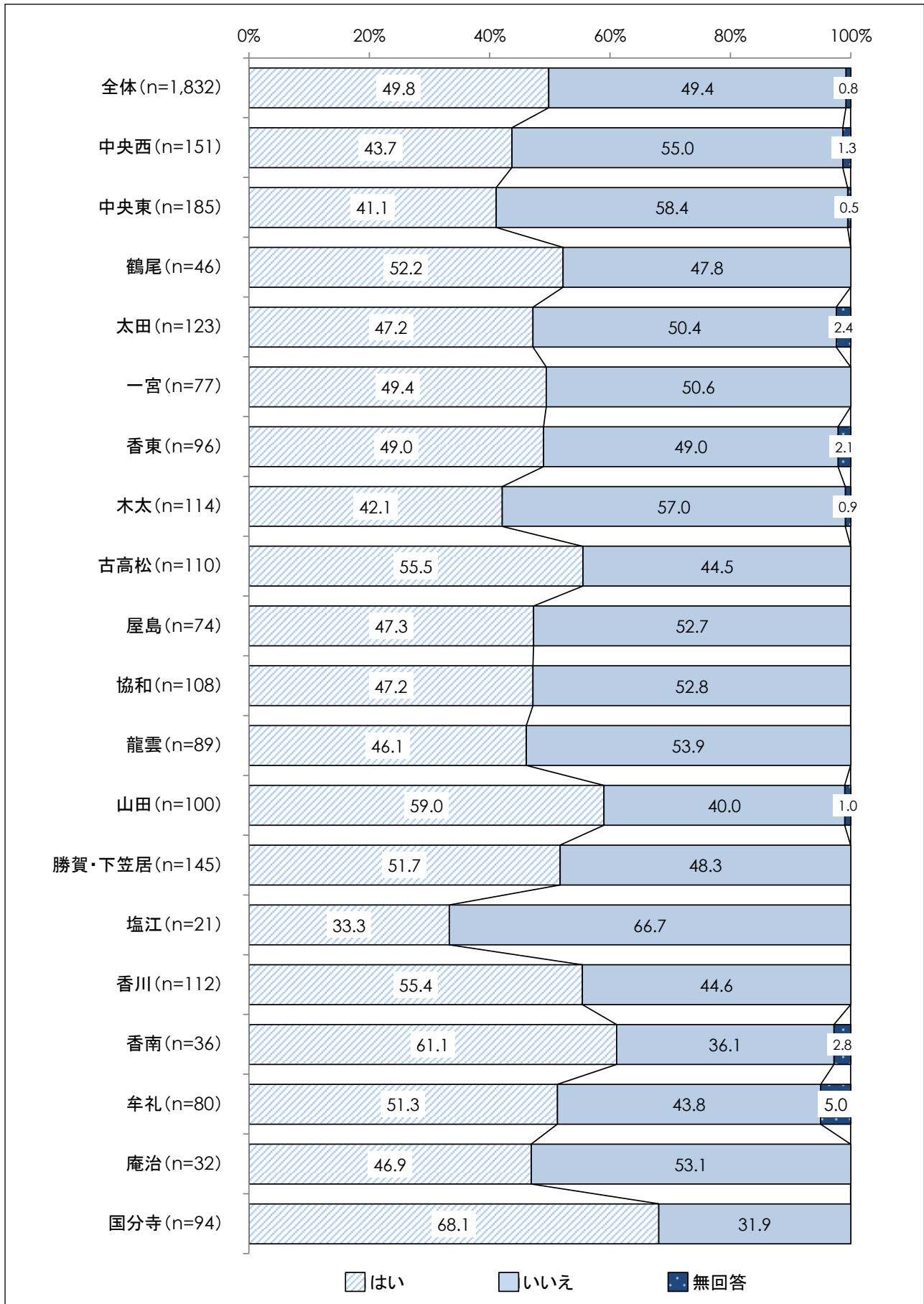
一方、それ以外の圏域では「いいえ」の割合が「はい」を上回っており、なかでも、塩江では「いいえ」が66.7%と6割を超えています。

また、香東では「はい」と「いいえ」が同率となっています。

図表 43 友人宅への訪問について（全体）



図表 44 友人宅への訪問について（全体、日常生活圏域別）



問 35 家族や友人の相談にのっていますか。【〇は1つ】

問 36 病人を見舞うことができますか。【〇は1つ】

問 37 若い人に自分から話しかけることがありますか。【〇は1つ】

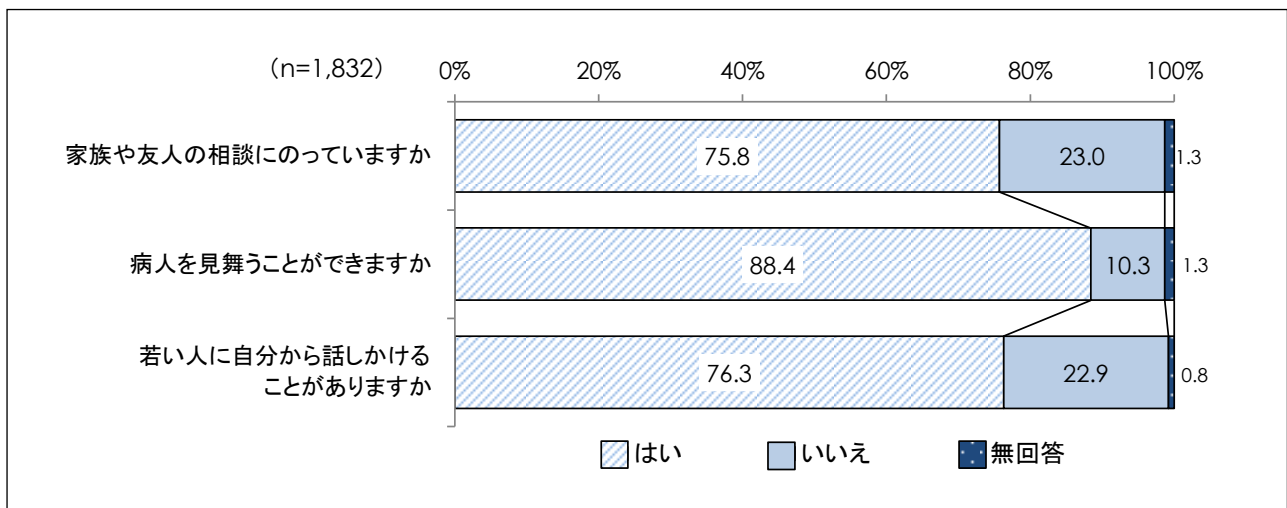
【全体の傾向】

●病人を見舞うことができる人が最も多い

社会的役割に関する項目についてたずねたところ、『病人を見舞うことができますか』については「はい」が 88.4%と大半を占めています。また『家族や友人の相談にのっていますか』、『若い人に自分から話しかけることがありますか』については7割以上の方が「はい」と回答しています。

一方、「いいえ」の割合については、『家族や友人の相談にのっていますか』、『若い人に自分から話しかけることがありますか』で2割を超えており、やや高くなっています。

図表 45 社会的役割について（全体）



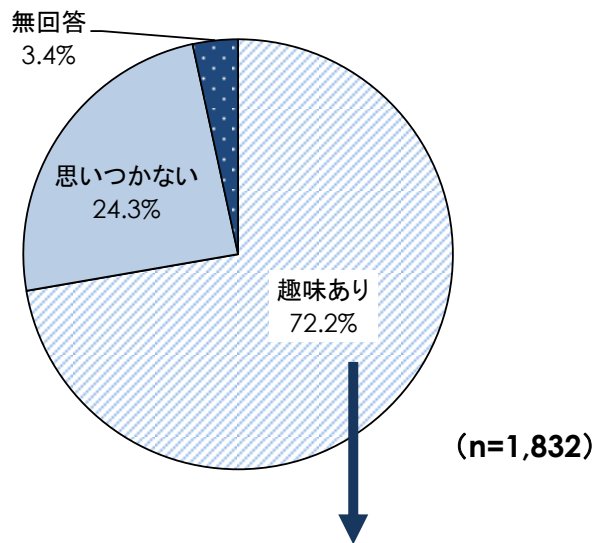
（５）趣味・生きがいの有無

問 38 趣味はありますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

- 趣味がある人が約７割を占め、主な内容としてはスポーツ、園芸、手芸、旅行など
 趣味の有無についてたずねたところ、「趣味あり」が72.2%と約７割を占め、その内容は、スポーツ、園芸、手芸、読書、旅行、カラオケ、音楽鑑賞などが多くなっています。

図表 46 趣味の有無と内容（全体）



趣味の主な内容	件数
スポーツ(ゲートボール、ゴルフ、釣り、テニス、水泳など)	234
園芸、ガーデニング、草花の世話、家庭菜園	163
手芸(編み物、裁縫、折り紙、模型作成など)	135
読書、文字を読む	97
外出、旅行、ドライブ	75
歌、カラオケ	70
音楽鑑賞、楽器演奏、ダンス	68
絵画、塗り絵、書道	54
畑仕事、作物や花の栽培	48
囲碁、将棋	34
テレビ、ビデオ、DVD、映画鑑賞	31
カメラ、写真撮影	26
インターネット、パソコン、ゲーム	21
ギャンブル(競馬、パチンコ、マージャンなど)	21
短歌、俳句、川柳、詩吟	20
料理、食事	15
おしゃれ、ショッピング	6
その他(ナンプレ、日曜大工など)	48
出来ない(時間が無い、体が不自由などの理由)	12

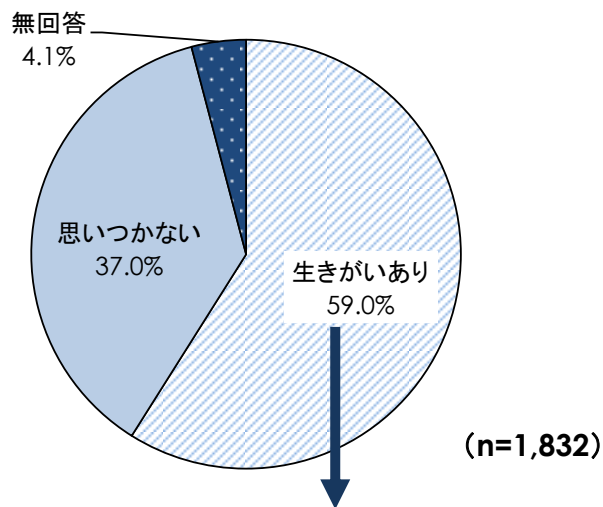
問 39 生きがいがありますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●生きがいのある人は約6割を占め、主な内容としては主に子どもや孫との交流など

生きがいの有無についてたずねたところ、「生きがいあり」が59.0%と約6割を占め、その内容は、孫との交流や趣味、家族との交流、仕事、園芸など多岐にわたっています。

図表 47 生きがいの有無と内容（全体）



生きがいの主な内容	件数
子や孫の成長、交流	260
趣味（TV、料理、音楽、読書、手芸など）	193
家族との交流	86
仕事	80
園芸、ガーデニング、草花の世話、栽培	62
友人や地域の人達との交流	58
健康で自立した生活を送ること	51
スポーツ（釣り、ゴルフ、ゲートボールなど）	43
日々を楽しく生きる	33
ボランティア活動	26
信仰、宗教	11
その他	25

5 地域での活動について

（１）社会参加の状況

問 40 以下のような①～⑦の会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

【①～⑦それぞれに〇は1つずつ】

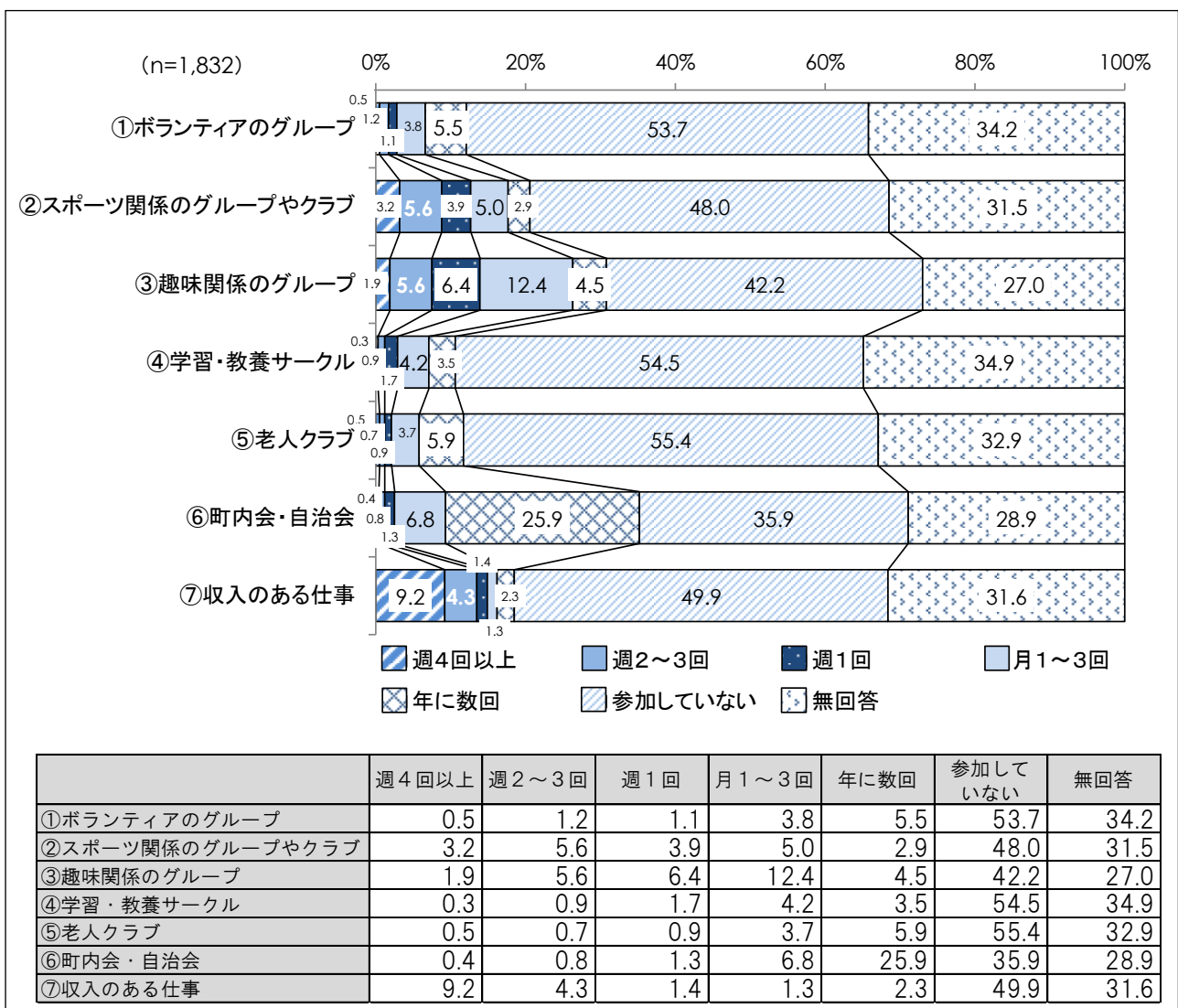
【全体の傾向】

●月1～3回趣味関係のグループ、年に数回自治会などへ参加

社会参加の頻度についてみると、③趣味関係のグループや⑥町内会・自治会に参加している人が多く、その頻度については、③趣味関係のグループでは「月1～3回」（12.4％）の頻度で参加している人が多く、⑥町内会・自治会では「年に数回」（25.9％）が多くなっています。

一方、「参加していない」の割合については、⑤老人クラブ（55.4％）、④学習・教養サークル（54.5％）、①ボランティアのグループ（53.7％）では5割を超えており、他のグループと比較するとやや高くなっています。

図表 48 社会参加の参加状況（全体）



（２）地域づくりへの参加意向（参加者）

問 41 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
【〇は1つ】

【全体の傾向】

●「参加者として参加してもよい」と考えている人が過半数を占める

地域づくり活動に参加者として参加してみたいかについてたずねたところ、全体では「参加してもよい」が50.4%と5割を占め、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』の割合は60.8%と約6割を占めています。

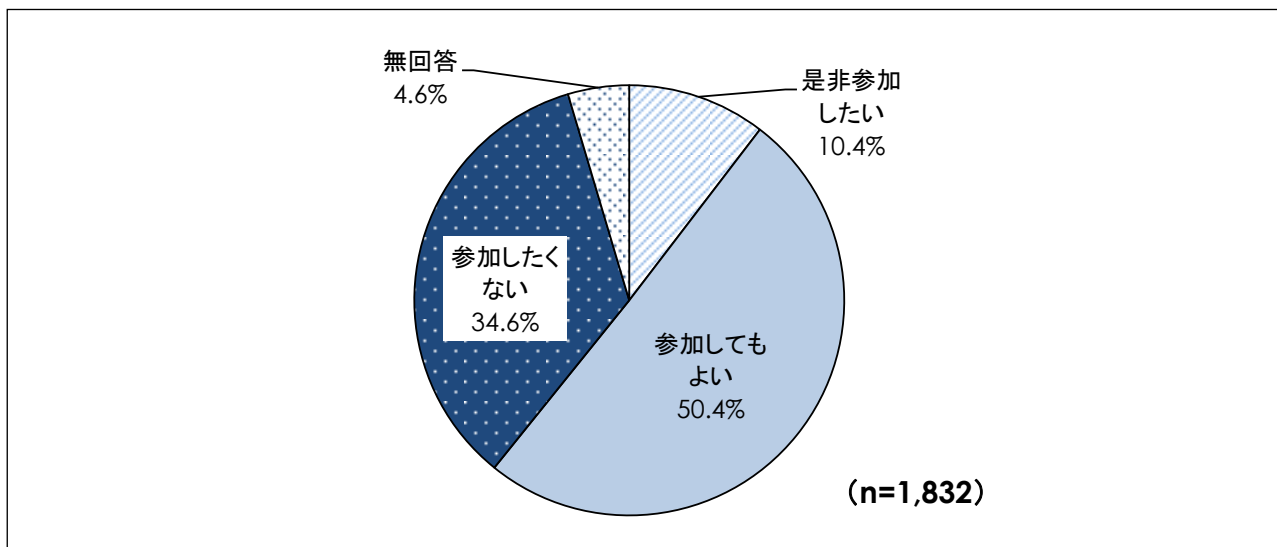
【属性別の傾向】

●参加者としての参加意欲が高い地域は古高松、勝賀・下笠居、牟礼など

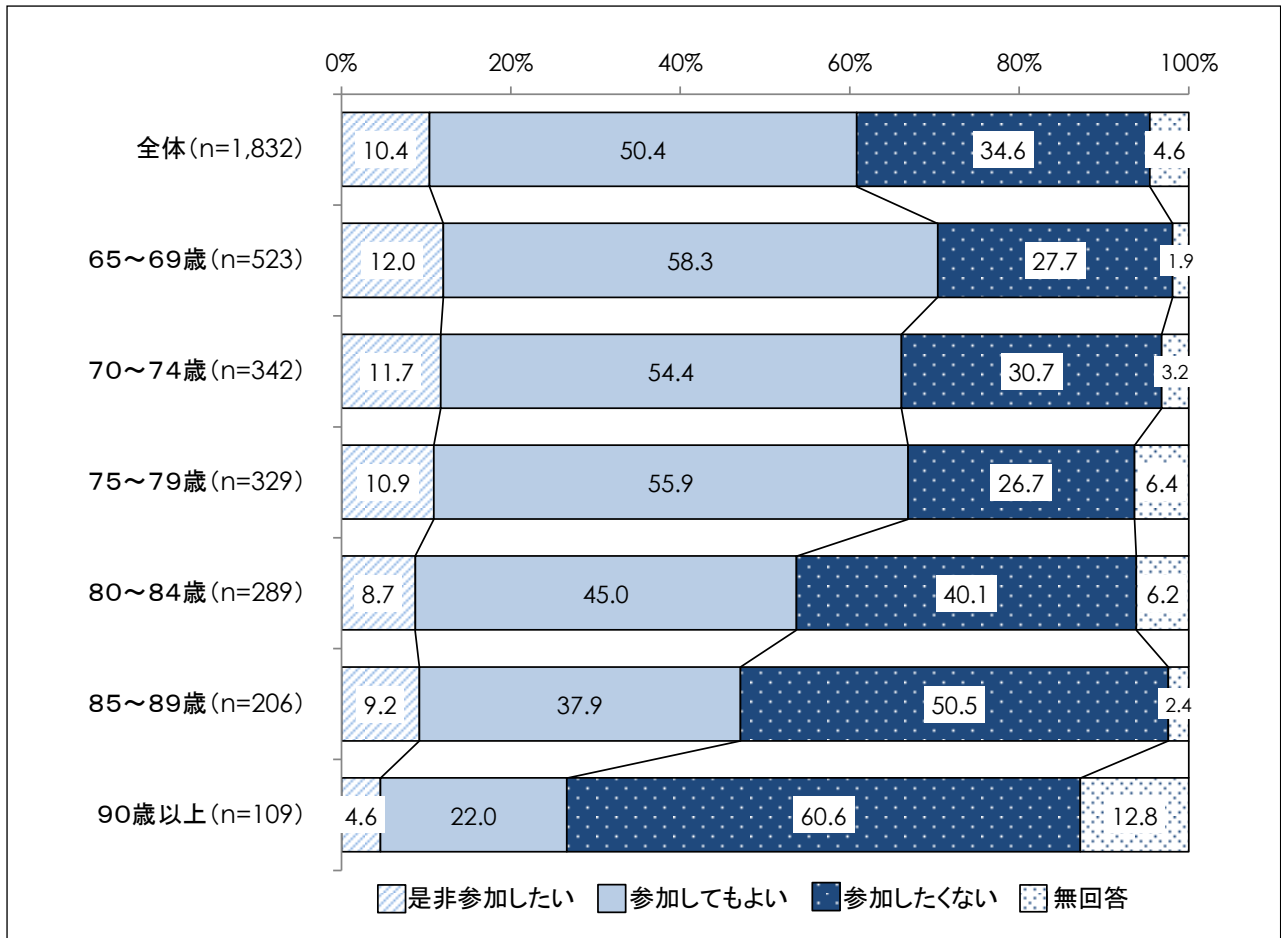
年齢階層別にみると、『参加者として参加してもよい』の割合は、65～69歳で70.3%と最も高く、次いで75～79歳（66.8%）、70～74歳（66.1%）となっています。一方、85歳以上では「参加したくない」が5割を超えています。

圏域別にみると、『参加者として参加してもよい』の割合は、「古高松」（70.0%）で最も高く、次いで勝賀・下笠居（69.0%）、牟礼（67.5%）、山田（67.0%）、庵治（65.6%）などとなっており、参加意欲の高い地域となっています。

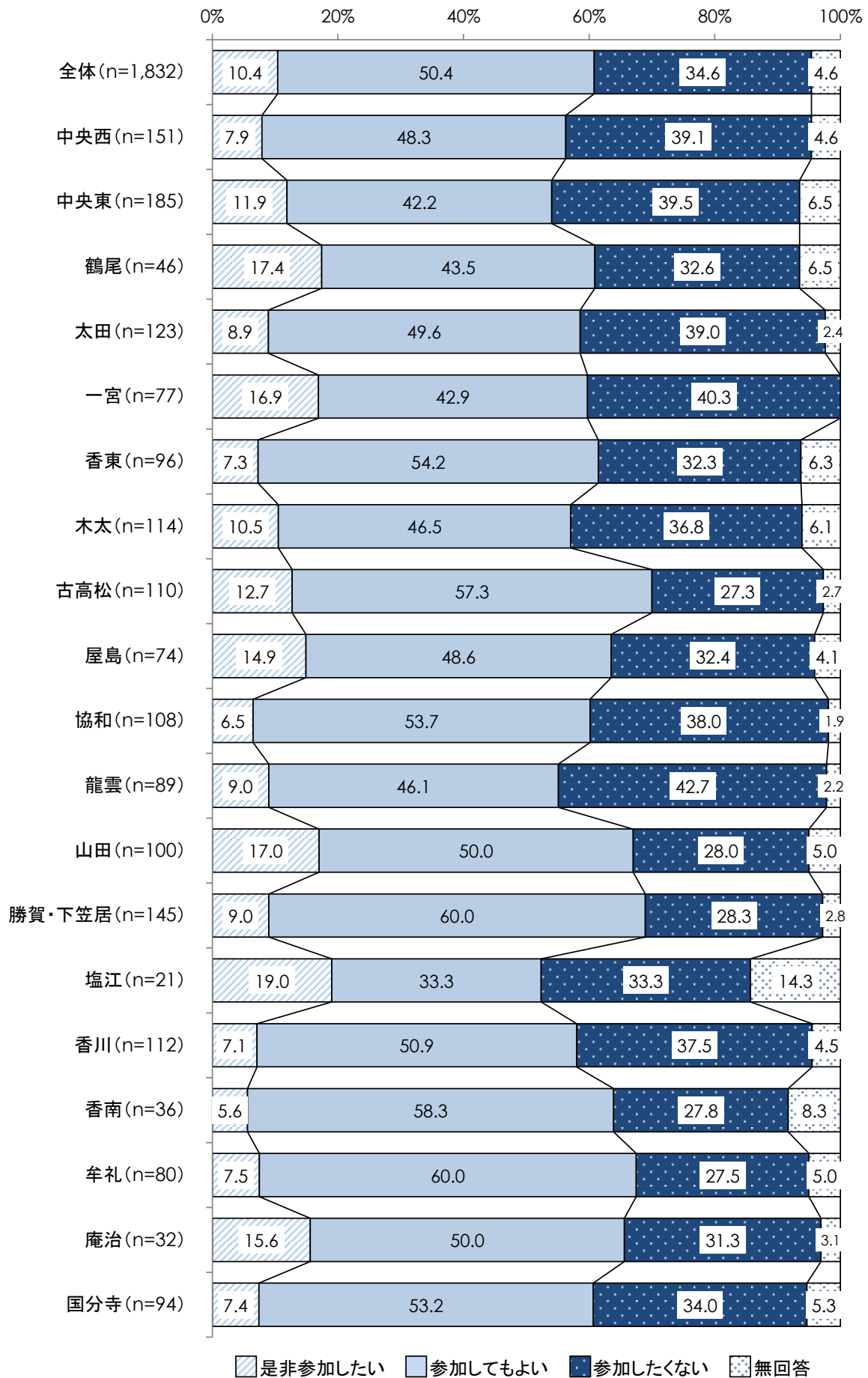
図表 49 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体）



図表 50 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、年齢階層別）



図表 51 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、日常生活圏域別）



（２）地域づくりへの参加意向（企画・運営）

問 42 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●「企画・運営として参加してもよい」と考えている人は3割程度にとどまっている

地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかについてたずねたところ、「参加したくない」が58.4%と過半数を占めています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』の割合は36.0%にとどまり、前問の『参加者として参加してもよい』（60.8%）の割合に比べて24.8ポイント下回っています。

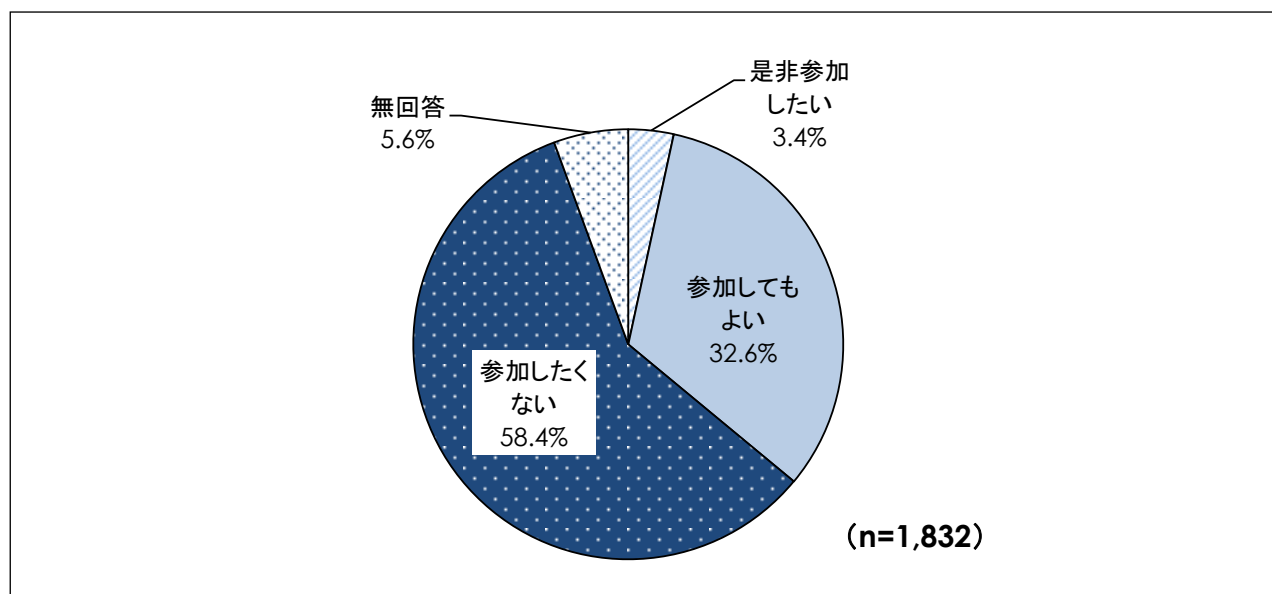
【属性別の傾向】

●企画・運営としての参加意欲が高い地域は一宮、香東、山田など

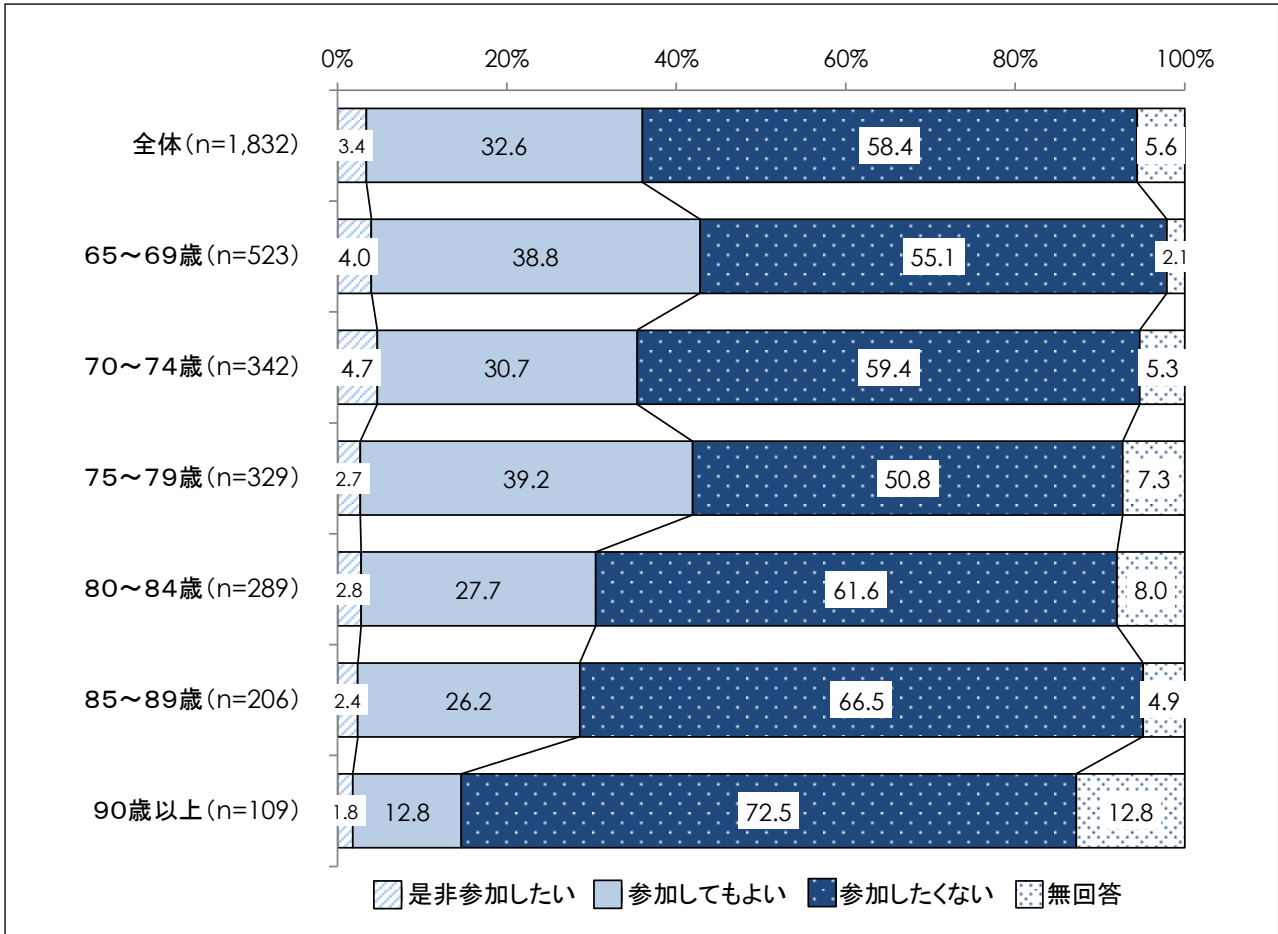
年齢階層別にみると、『企画・運営として参加してもよい』の割合は、65～69歳で42.8%と最も高く、次いで75～79歳（41.9%）、70～74歳（35.4%）などでやや参加意欲が高い年齢層となっています。

圏域別にみると、すべての圏域で「参加したくない」が過半数を占めていますが、『企画・運営として参加してもよい』の割合は、一宮（42.9%）、香東（42.7%）、山田（42.0%）などで4割を超えており、他の圏域に比べてやや高くなっています。

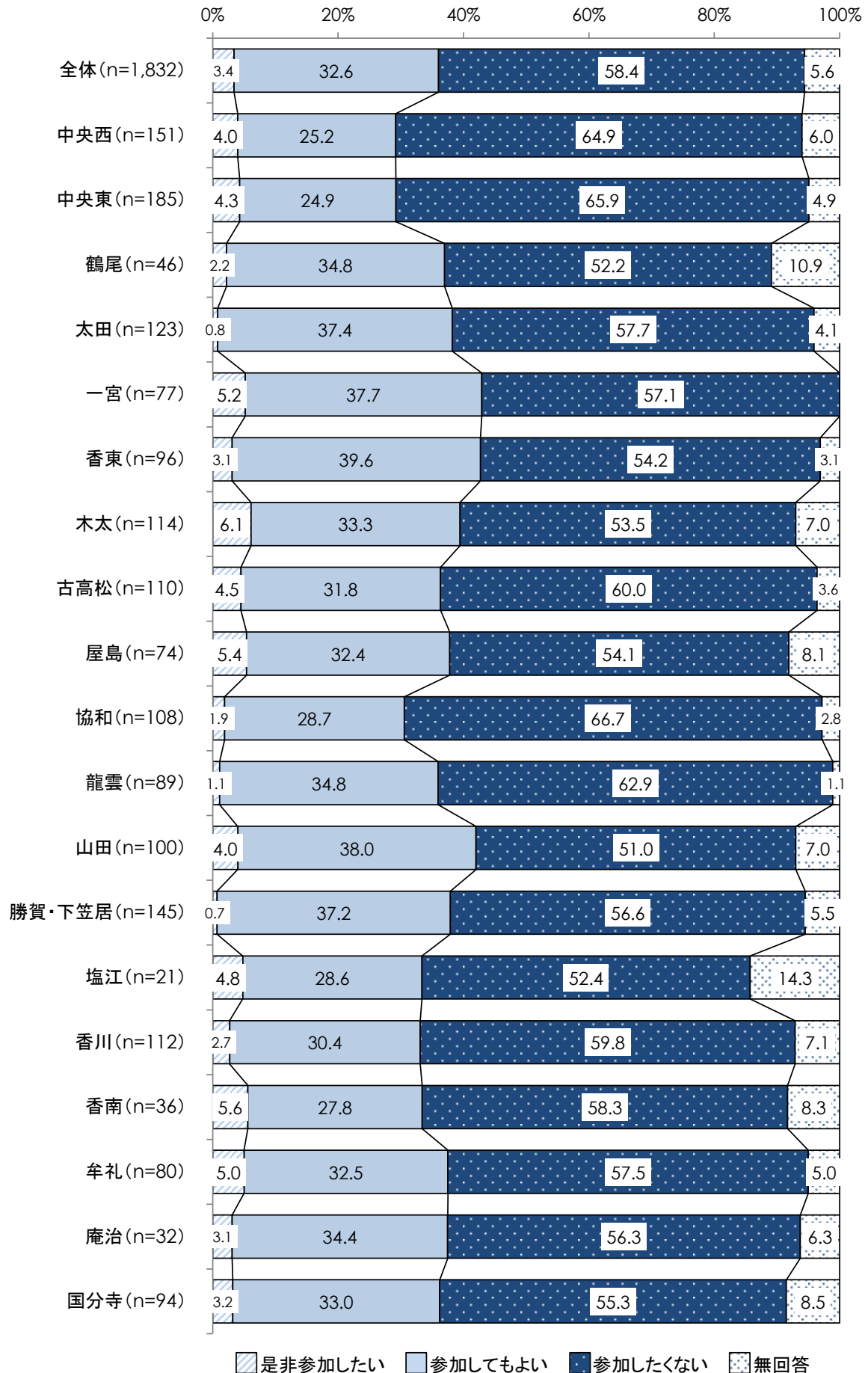
図表 52 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体）



図表 53 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、年齢階層別）



図表 54 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、日常生活圏域別）



6 たすけあいについて

（１）たすけあいの状況

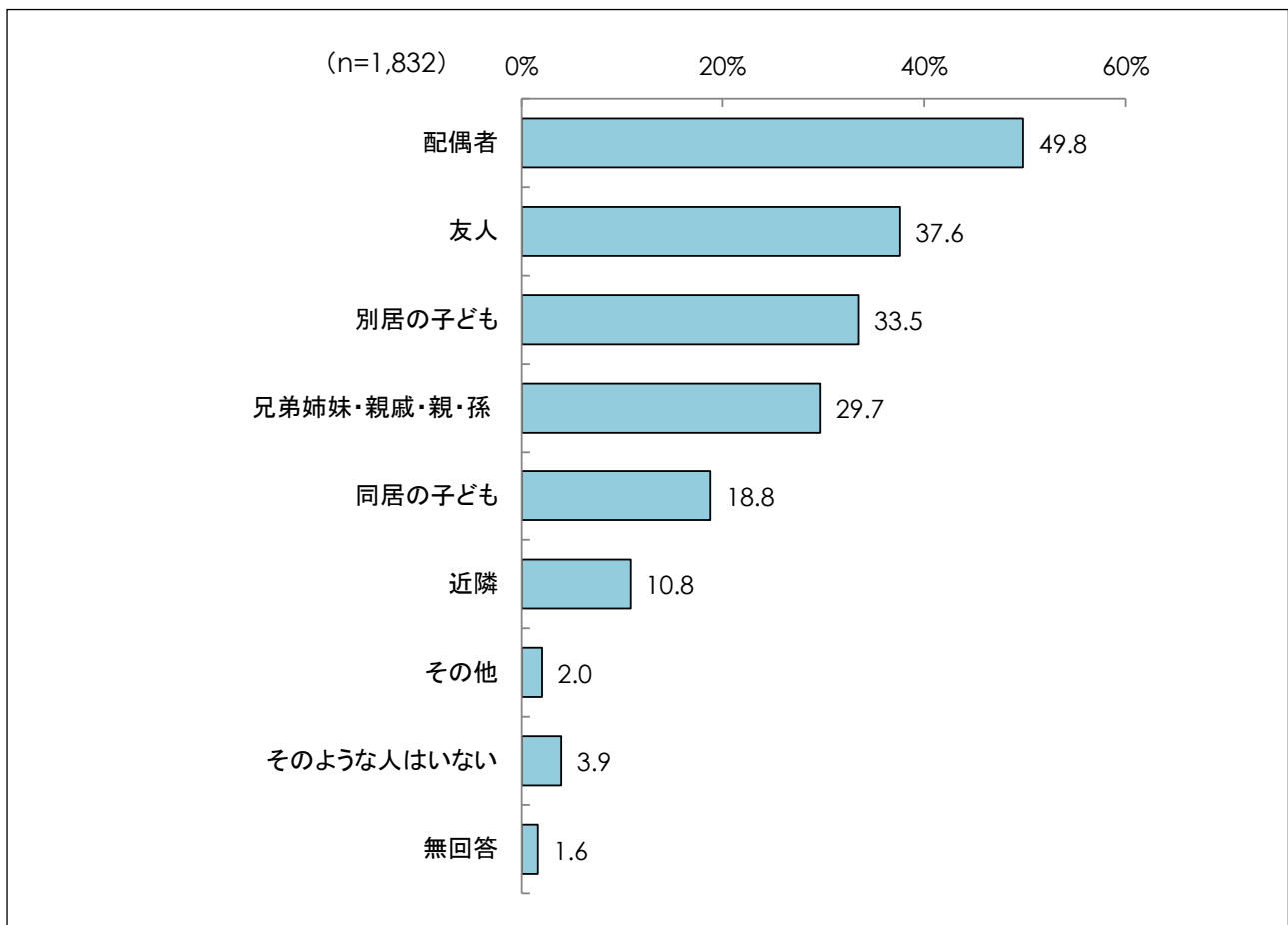
問 43 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●心配ごとや愚痴を聞いていくれる相手は配偶者や友人

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてたすねたところ、「配偶者」（49.8%）が最も多く、次いで「友人」（37.6%）、「別居の子ども」（33.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（29.7%）、「同居の子ども」（18.8%）が主な相手となっています。

図表 55 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体／複数回答）



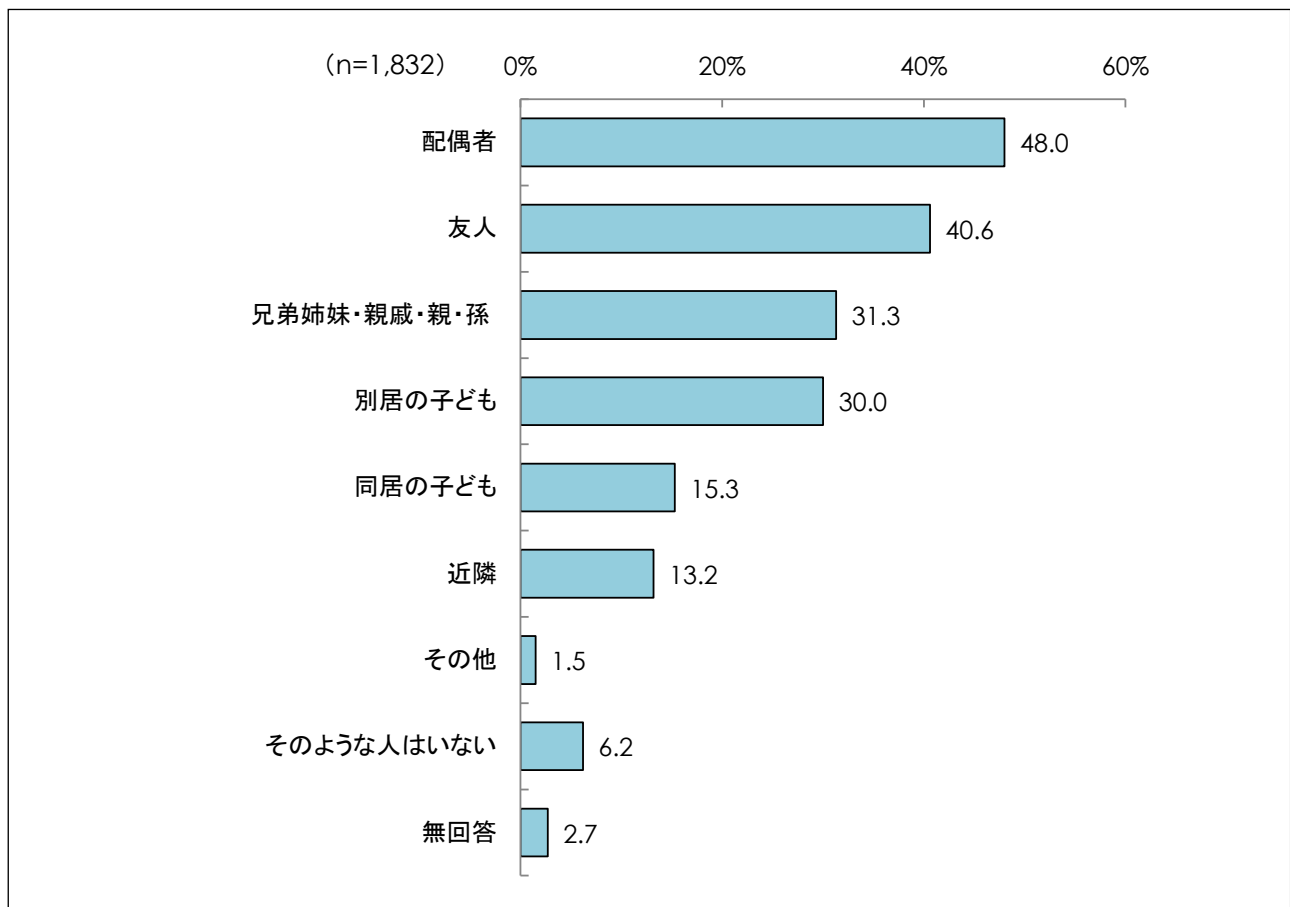
問 44 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●心配ごとや愚痴を聞いてあげる相手も配偶者や友人が多い

心配事や愚痴を聞いてあげる相手をたずねたところ、「配偶者」（48.0％）が最も多く、次いで「友人」（40.6％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（31.3％）、「別居の子ども」（30.0％）、「同居の子ども」（15.3％）などとなっており、上位2位は心配事や愚痴を聞いてもらう相手と同様となっています。

図表 56 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体／複数回答）



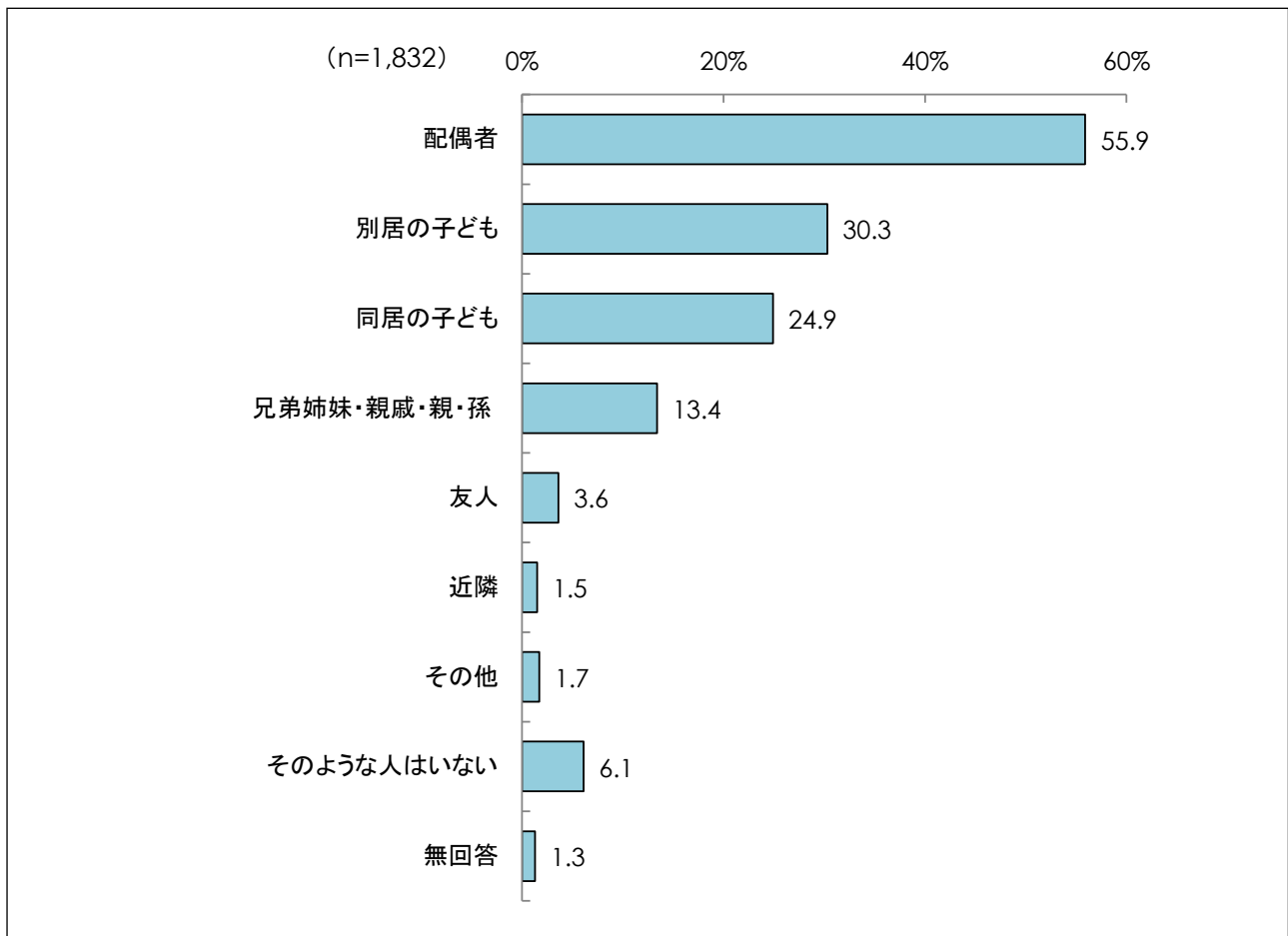
問 45 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●看病や世話をしてくれる相手は親族が上位を占める

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてたずねたところ、「配偶者」（55.9%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（30.3%）、「同居の子ども」（24.9%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（13.4%）と上位4位まではすべて親族となっています。さらに「友人」（3.6%）、「近隣」（1.5%）と続いています。割合に大差がみられます。

図表 57 看病や世話をしてくれる人（全体／複数回答）



問 46 反対に、看病や世話をししてあげる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

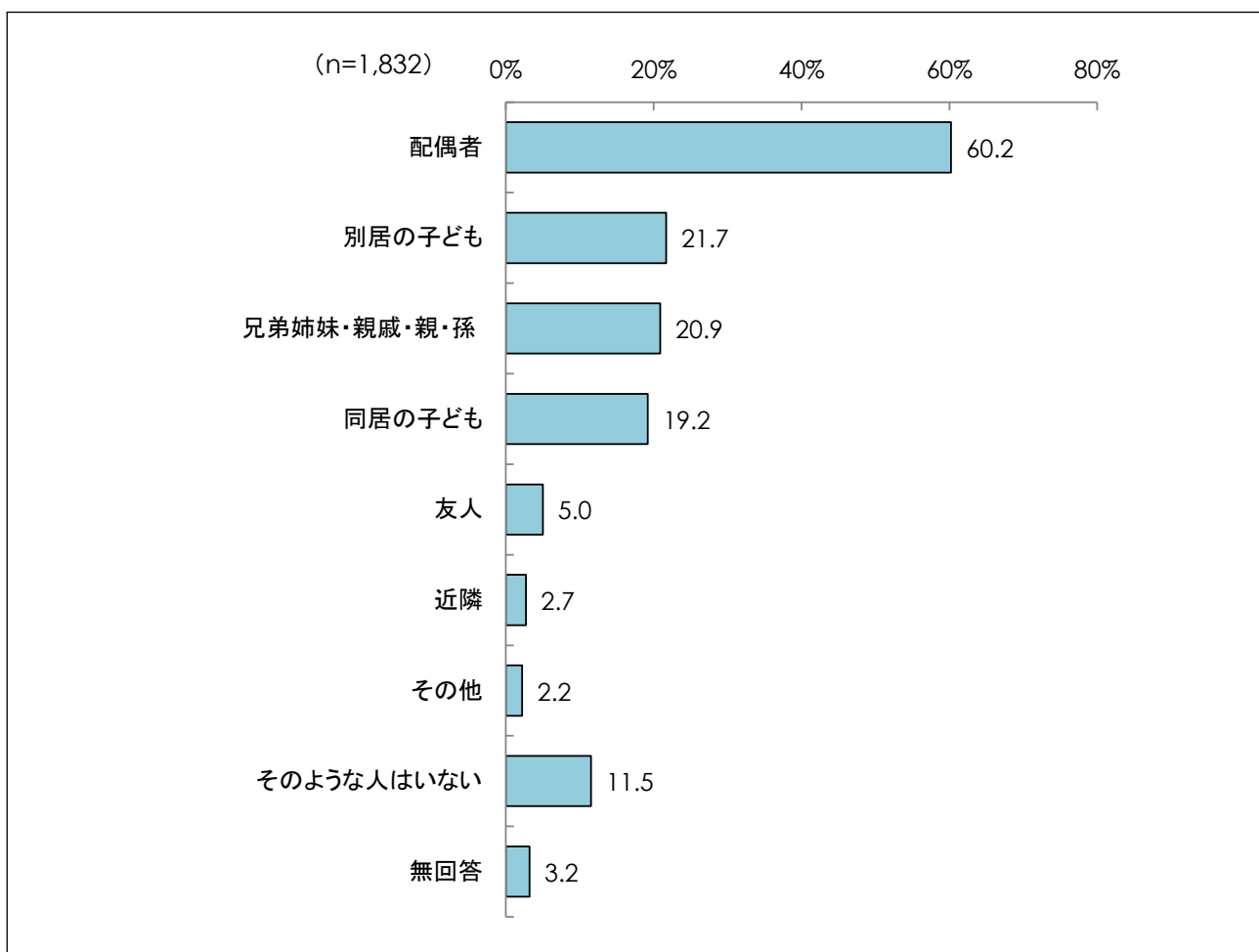
【全体の傾向】

●看病や世話をししてあげる相手は配偶者の割合が突出している

反対に、病気の際に看病や世話をししてあげる相手をたずねたところ、「配偶者」（60.2%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「別居の子ども」（21.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（20.9%）、「同居の子ども」（19.2%）の順となっています。

看病や世話をししてもらう相手と同様に上位は親族が占めています。

図表 58 看病や世話をししてあげる人（全体／複数回答）



（２）地域の相談窓口の活用状況

問 47 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。【〇はいくつでも】

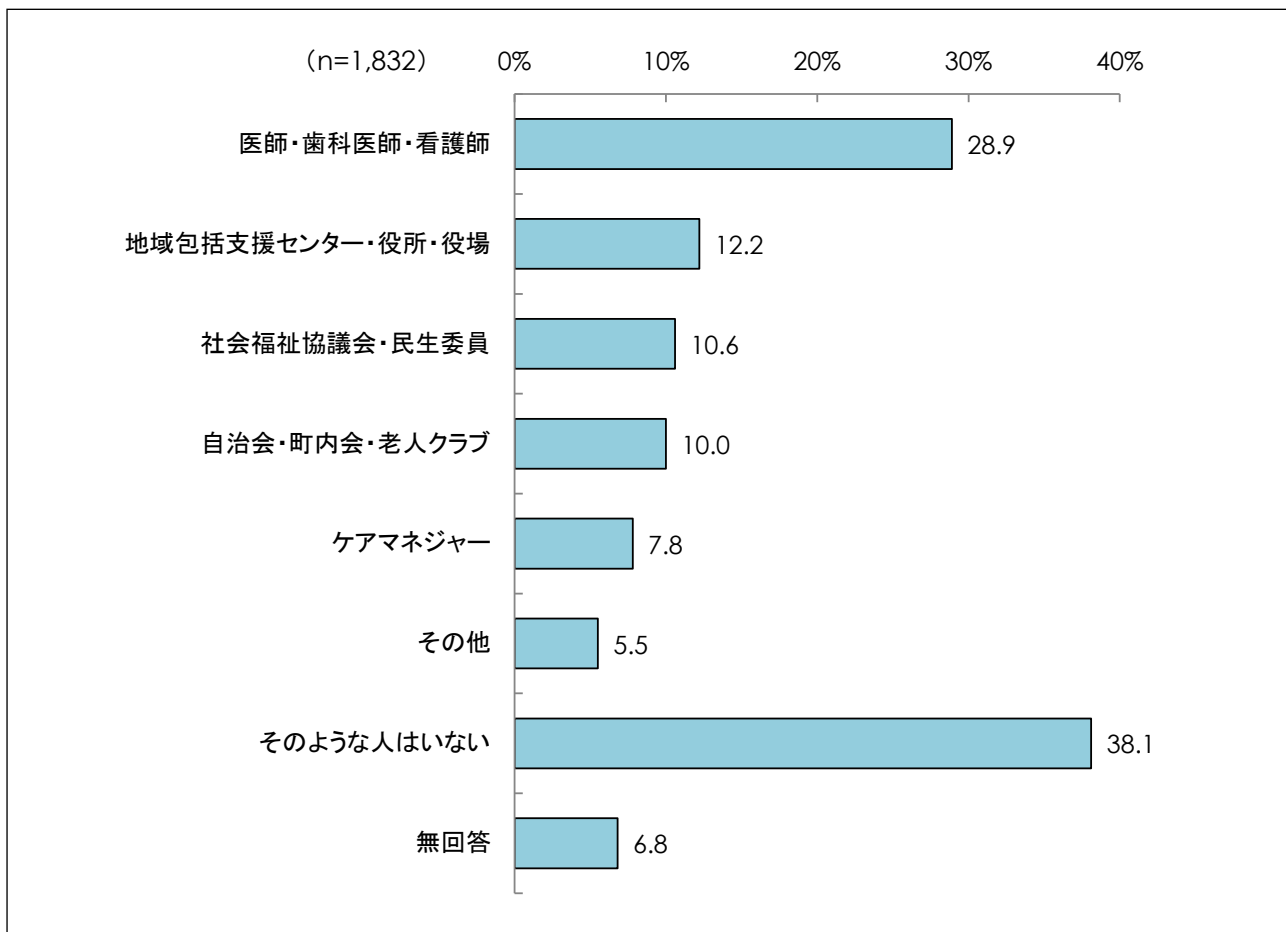
【全体の傾向】

●家族や友人・知人以外の相談相手としては医師など医療関係の人

家族や友人・知人以外の相談相手についてたずねたところ、「医師・歯科医師・看護師」（28.9%）が相談相手としては最も多くなっています。次いで「地域包括支援センター・役所・役場」（12.2%）、「社会福祉協議会・民生委員」（10.6%）、「自治会・町内会・老人クラブ」（10.0%）、「ケアマネジャー」（7.8%）の順となっています。

一方、相談相手について「そのような人はいない」が38.1%と高い割合となっています。

図表 59 何かあったときに家族や友人・知人以外で相談する相手（全体／複数回答）

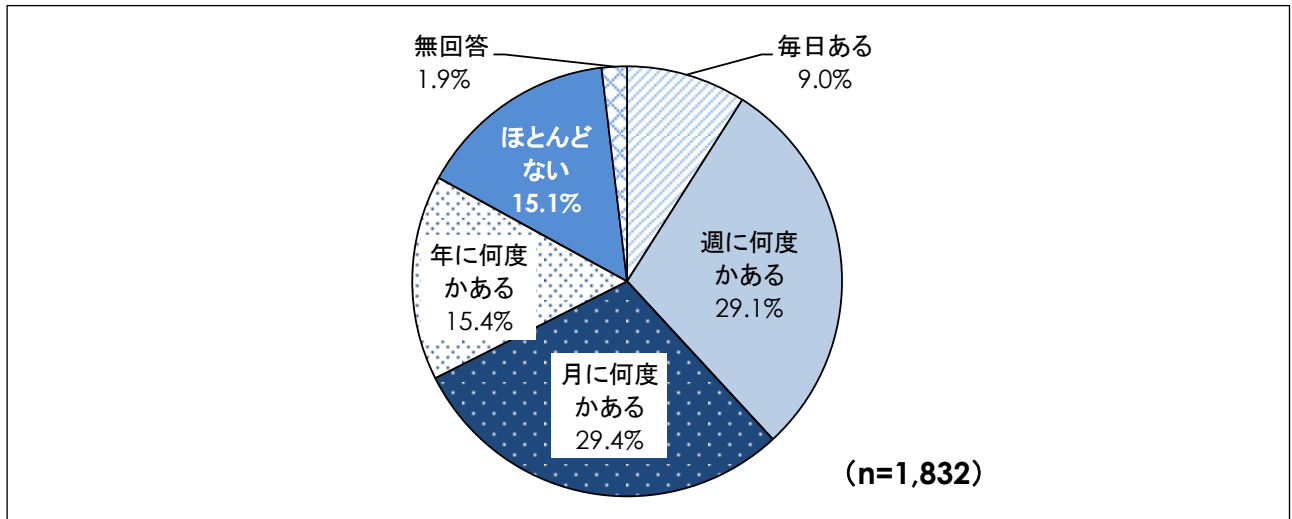


（３）友人関係について

問 48 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【〇は１つ】

友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「月に何度かある」（29.4％）が最も高く、僅差で「週に何度かある」（29.1％）が続き、「年に何度かある」（15.4％）、「毎日ある」（9.0％）となっています。一方、友人と会うことが「ほとんどない」は 15.1％となっています。

図表 60 友人・知人と会う頻度（全体）

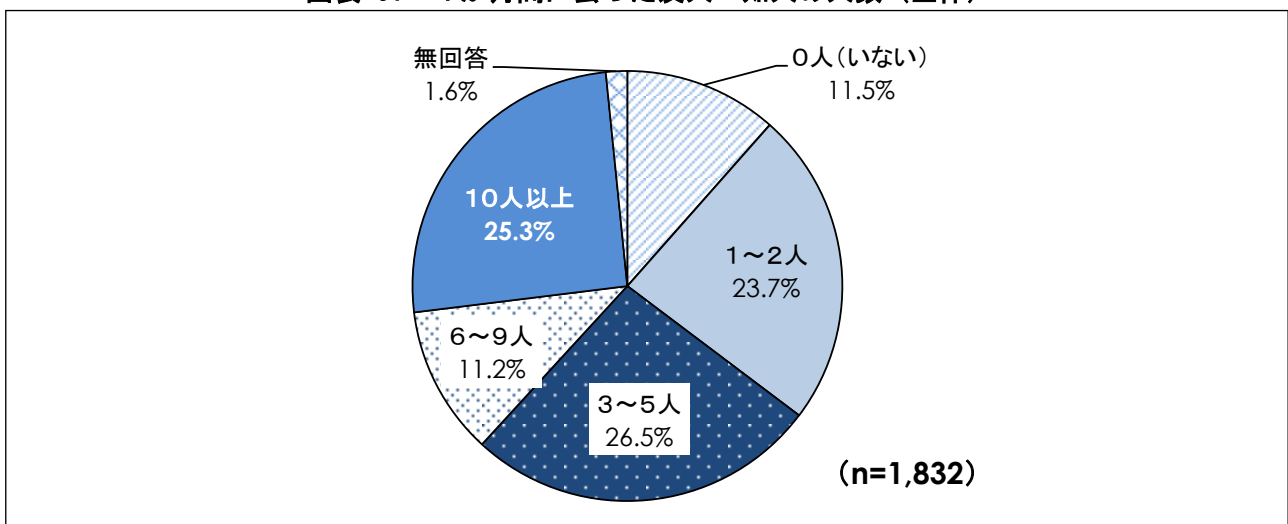


問 49 この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか。【〇は１つ】

同じ人には何度会っても１人と数えることとします。

この１か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「３～５人」が 26.5％と最も高くなっています。次いで「１０人以上」（25.3％）、「１～２人」（23.7％）、「０人（いない）」（11.5％）、「６～９人」（11.2％）の順となっています。

図表 61 １か月間に会った友人・知人の人数（全体）



問 50 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。【〇はいくつでも】

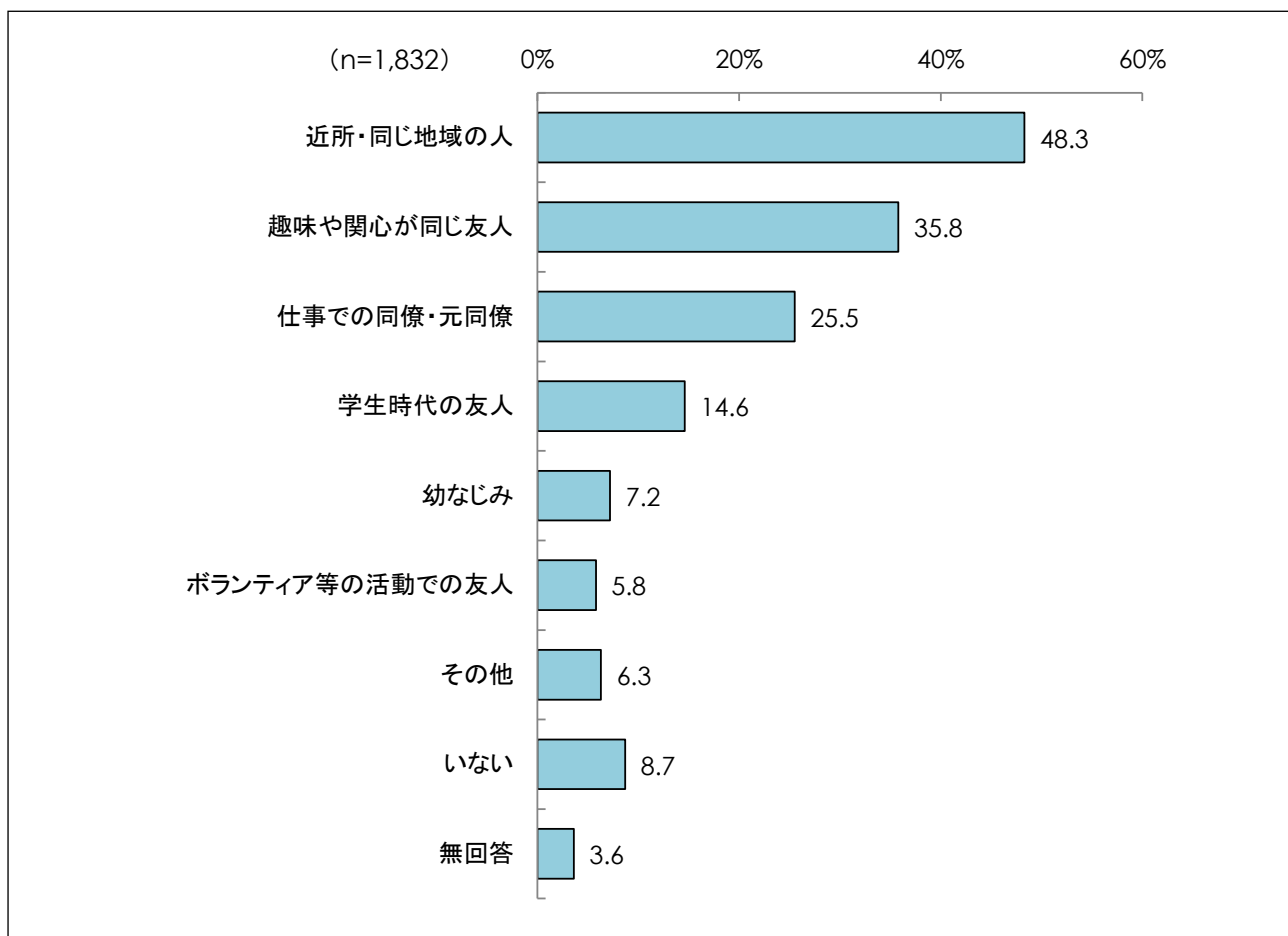
【全体の傾向】

●この1か月間に友人・知人と全く会っていない人が約1割を占める

よく会う友人・知人との間柄についてたずねたところ、「近所・同じ地域の人」が48.3%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「趣味や関心が同じ友人」（35.8%）、「仕事での同僚・元同僚」（25.5%）、「学生時代の友人」（14.6%）、「幼なじみ」（7.2%）などとなっています。

また、よく会う友人・知人が「いない」は8.7%となっています。

図表 62 よく会う友人・知人との間柄について（全体／複数回答）



7 健康について

（１）主観的健康感

問 51 現在のあなたの健康状態はいかがですか。【○は１つ】

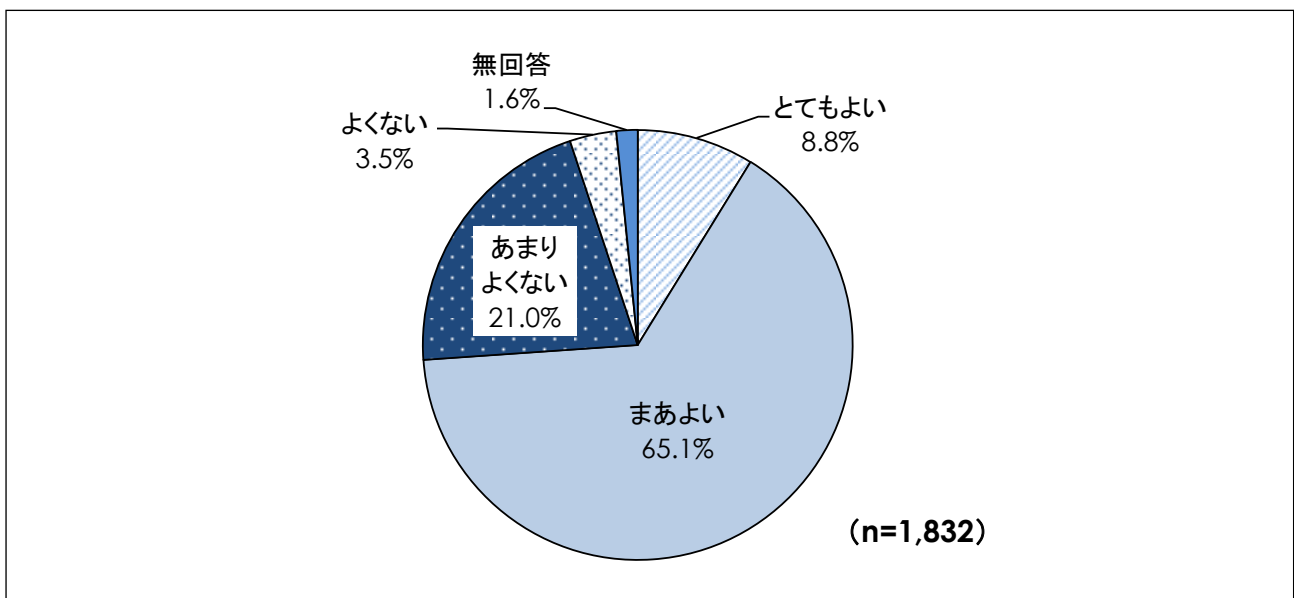
【全体の傾向】

●約 7 割が健康状態がよいと感じている

現在の健康状態についてたずねたところ、全体の 65.1%が「まあよい」と回答しており、「とてもよい」（8.8%）と合計すると、健康状態が『よい』が 73.9%と約 7 割を占めています。

これに対し、健康状態が「あまりよくない」は 21.0%、「よくない」は 3.5%となっており、2 割程度の人が健康状態がよくないと感じています。

図表 63 主観的健康感（全体）



（２）主観的幸福感

問 52 あなたは、現在どの程度幸せですか。【〇は1つ】

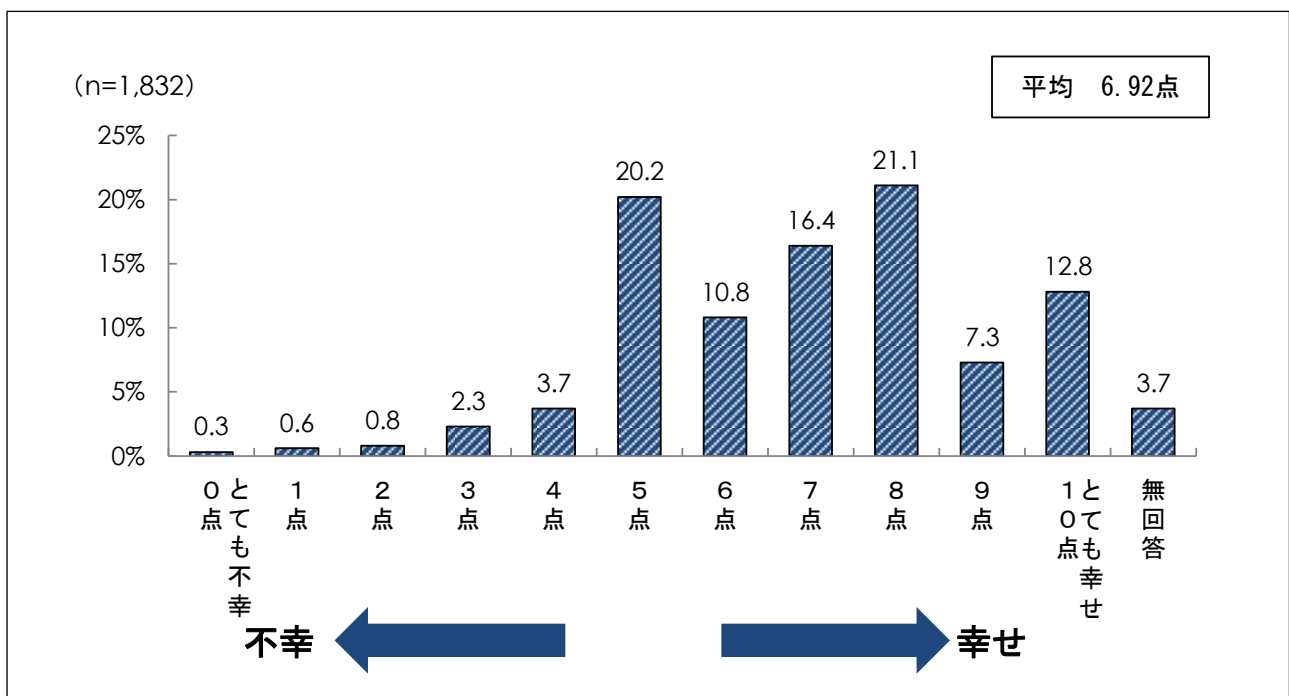
（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

【全体の傾向】

●幸せ度は5点以上の評価をしている人が約9割

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、「8点」が21.1%と最も高く、次いで「5点」（20.2%）、「7点」（16.4%）、「10点（とても幸せ）」（12.8%）、「6点」（10.8%）などとなり、平均は6.92点となっています。5点を中間とすると、『幸せ』と回答した人の方が多くなっています。

図表 64 主観的幸福感（全体、平均点）



（3）うつ傾向について

問 53 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

【〇は1つ】

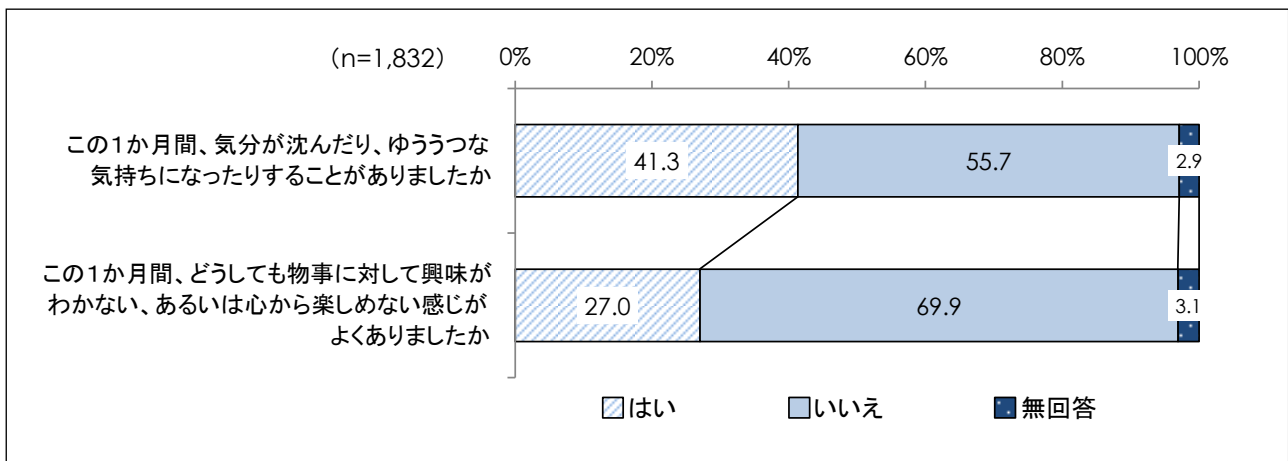
問 54 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●約4割の人がこの1か月間に気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりしている

この1か月間のうつ傾向についてたずねたところ、『この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか』については、「はい」が41.3%、『この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか』については「はい」が27.0%を占め、約2割～4割の人がゆううつな気持ちになったり、心から楽しめない感じがあったと回答しています。

図表 65 うつ傾向について（全体）

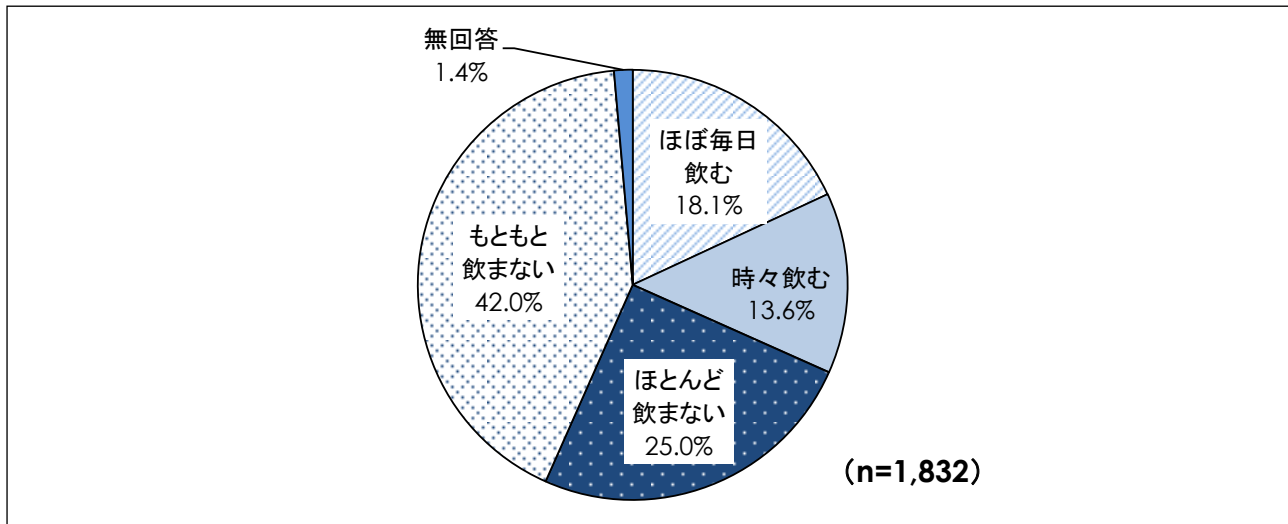


（４）飲酒、喫煙の習慣

問 55 お酒は飲みますか。【〇は１つ】

飲酒の習慣についてたずねたところ、全体の 42.0%が「もともと飲まない」と回答しており、「ほとんど飲まない」（25.0%）を合計すると、『飲まない』が 67.0%を占めています。

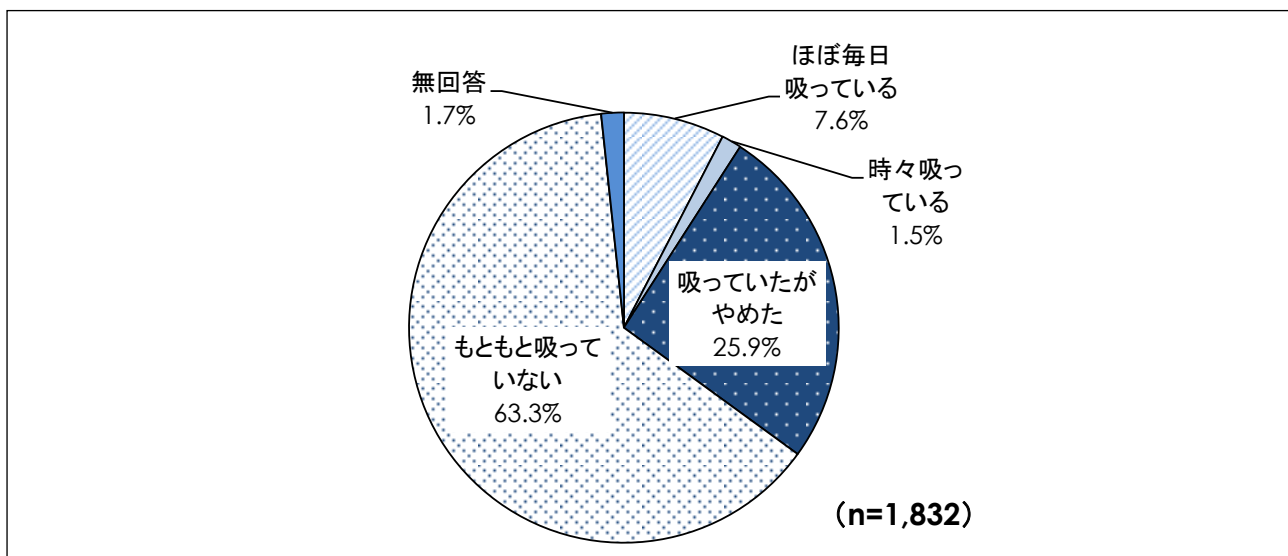
図表 66 飲酒の習慣（全体）



問 56 タバコは吸っていますか。【〇は１つ】

喫煙の習慣についてたずねたところ、全体の 63.3%が「もともと吸っていない」と回答しており、「吸っていたがやめた」（25.9%）を合計すると、『現在吸っていない』が 89.2%と大半を占めています。

図表 67 喫煙の習慣（全体）



（6）現在治療中、後遺症のある病気について

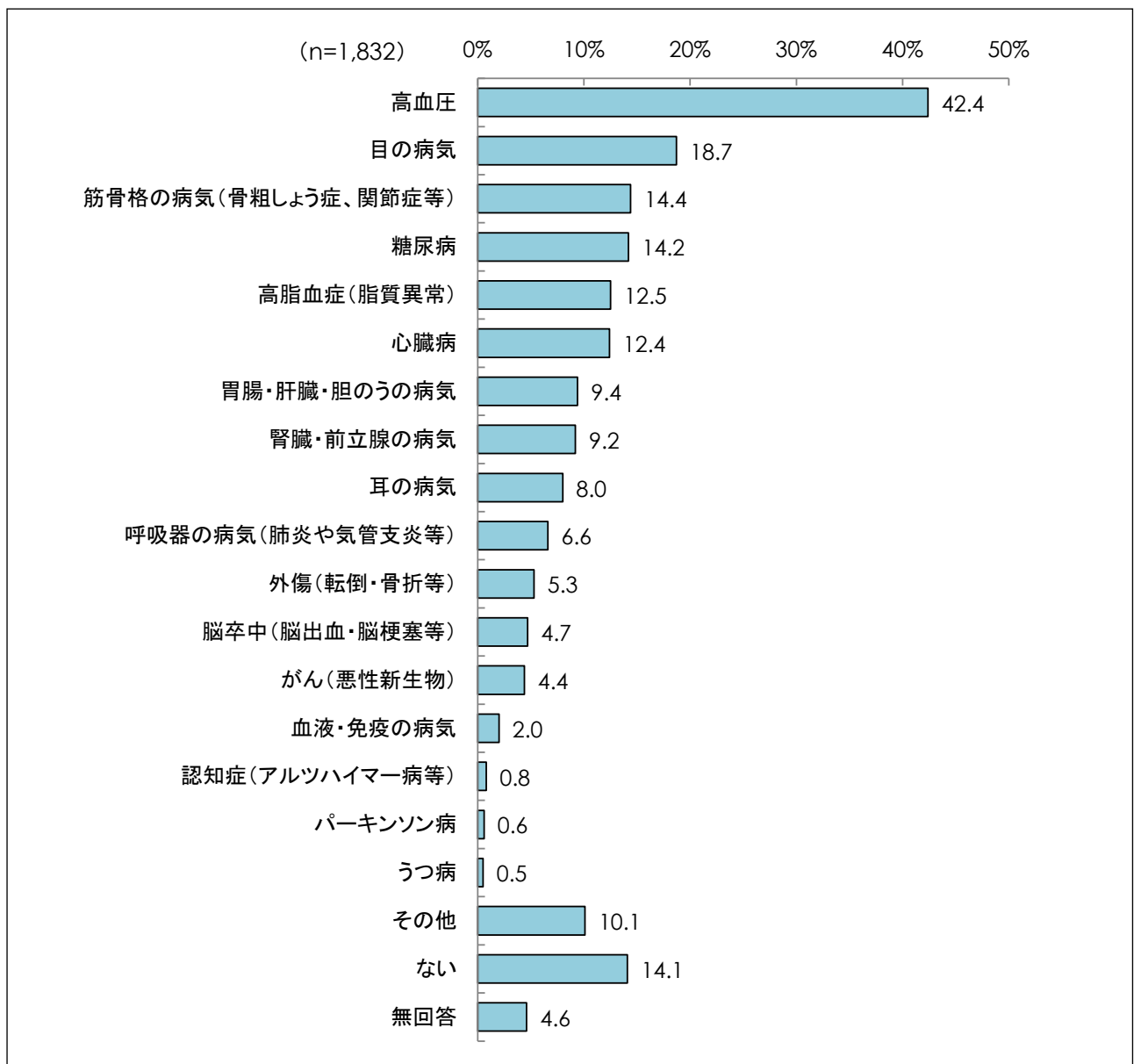
問 57 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●現在治療中、後遺症のある病気としては高血圧が第1位

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、「高血圧」（42.4％）が最も多く、次いで「目の病気」（18.7％）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（14.4％）、「糖尿病」（14.2％）、「高脂血症（脂質異常）」（12.5％）「心臓病」（12.4％）などとなっています。

図表 68 現在治療中、後遺症のある病気（全体／複数回答）



8 介護保険在宅サービスについて

（１）介護保険在宅サービスの利用状況と今後の利用意向

問 58 次の介護保険在宅サービス（平成28年4月1日現在）について、現在の利用状況と今後の利用意向をお聞きます。全てのサービスについて、それぞれに当てはまるものを選んでください。【〇は1つずつ】

【現在の利用状況】

介護サービスについて「利用している」割合が高いサービスは、⑥通所介護（デイサービス）が4.3%となっています。

現在の利用状況としては、「利用していない」が大半を占めています。

【今後の利用意向】

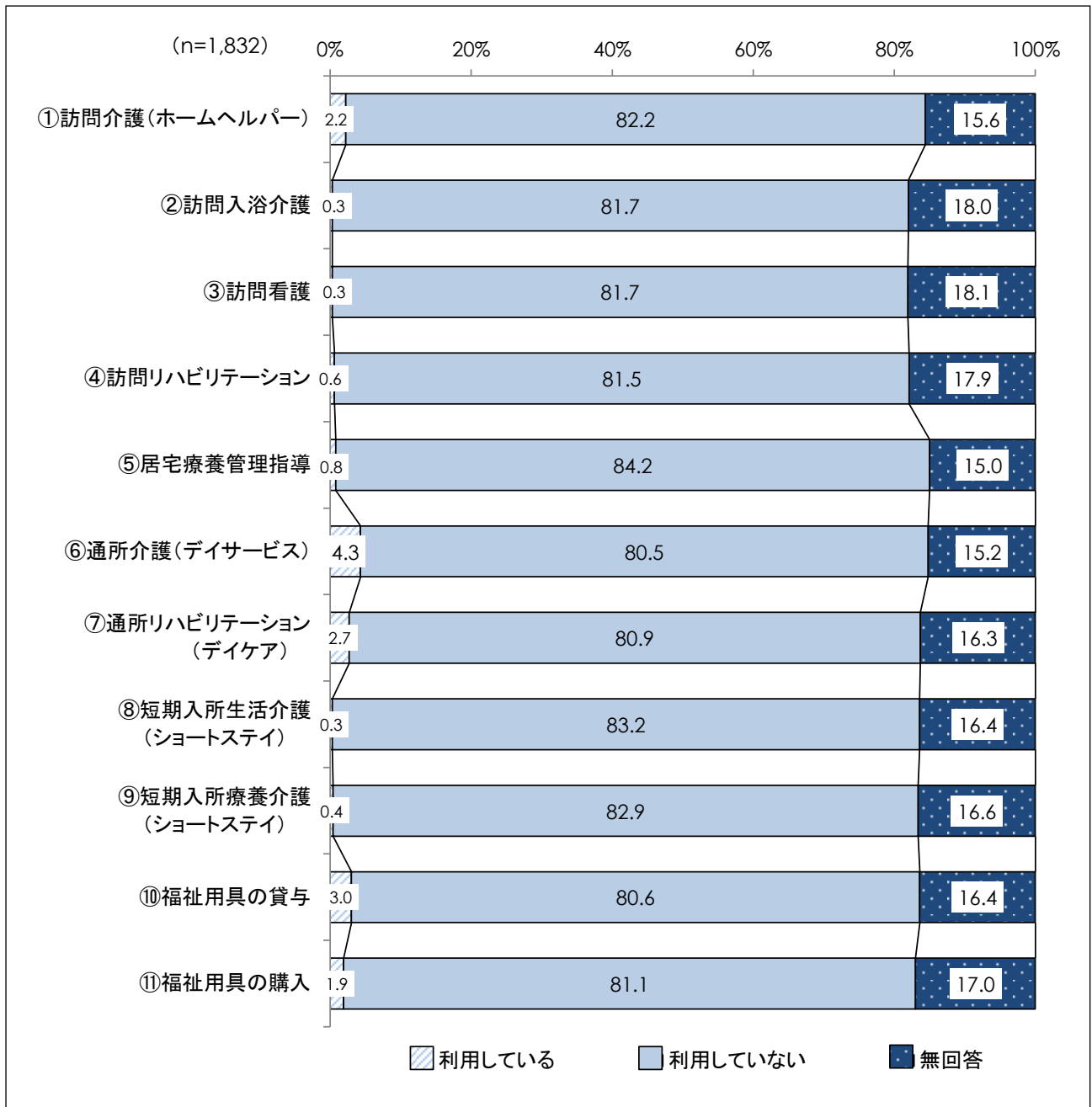
今後の利用意向として、「利用したい」割合が高いサービスは⑫住宅改修費の支給（29.6%）、⑩福祉用具の貸与（26.2%）、⑥通所介護（デイサービス）（25.3%）、⑪福祉用具の購入（25.2%）、⑦通所リハビリテーション（デイケア）（24.5%）などとなっています。

【利用状況別利用意向】

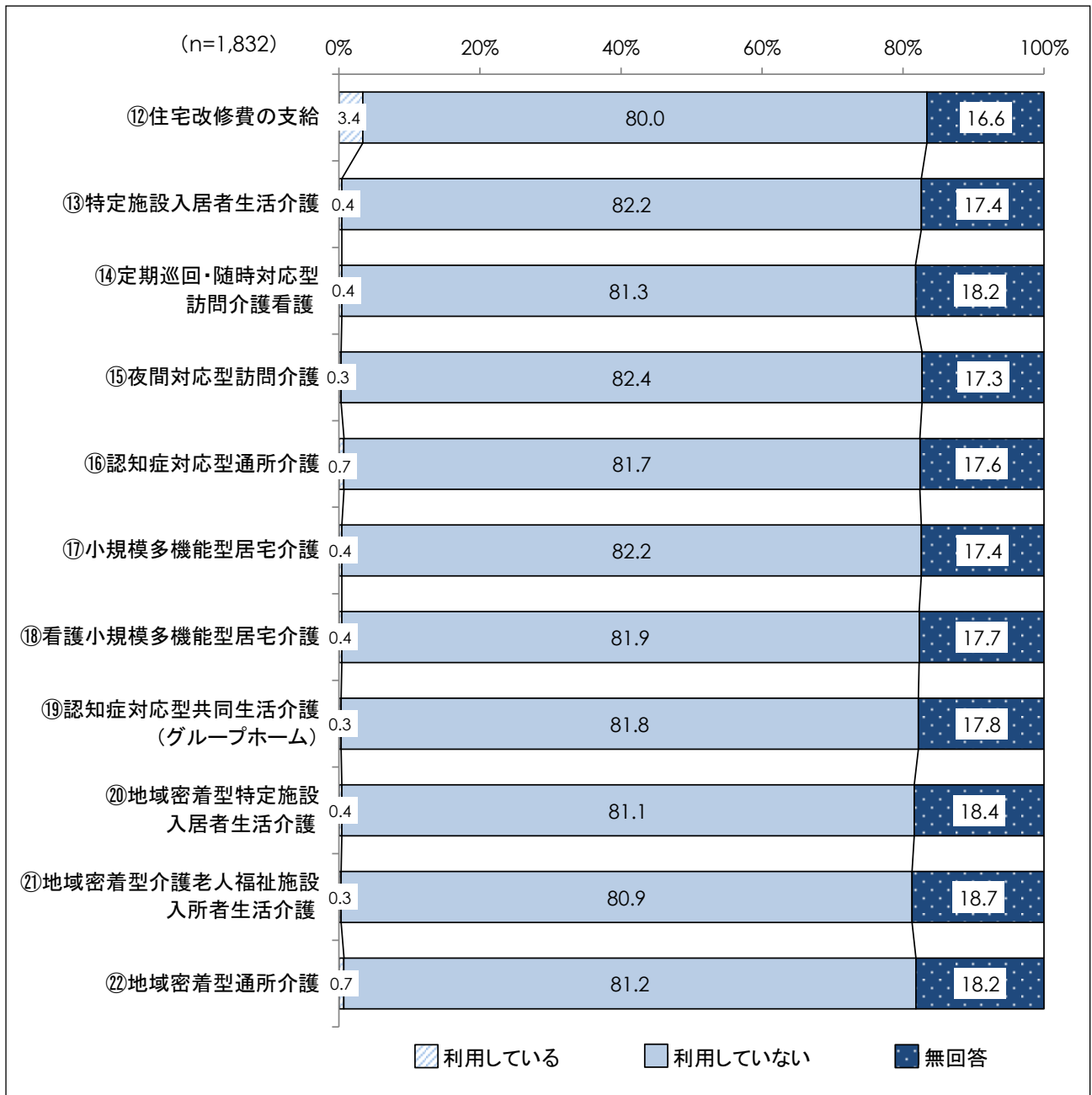
それぞれの在宅サービスの利用状況別に、そのサービスを「利用したい」と回答した人の割合をみると、現在利用している人が、今後も利用したいとの回答が多いサービスは⑦通所リハビリテーション（デイケア）（60.0%）、⑫地域密着型通所介護（58.3%）、⑪福祉用具の購入（57.1%）、⑥通所介護（デイサービス）（57.0%）などとなっています。

また、サービスを利用していない人が、今後利用したいとの回答が多かったサービスは、⑫住宅改修費の支給（31.5%）、⑩福祉用具の貸与（27.0%）、⑪福祉用具の購入（26.4%）など経済的な援助のサービスが占めています。

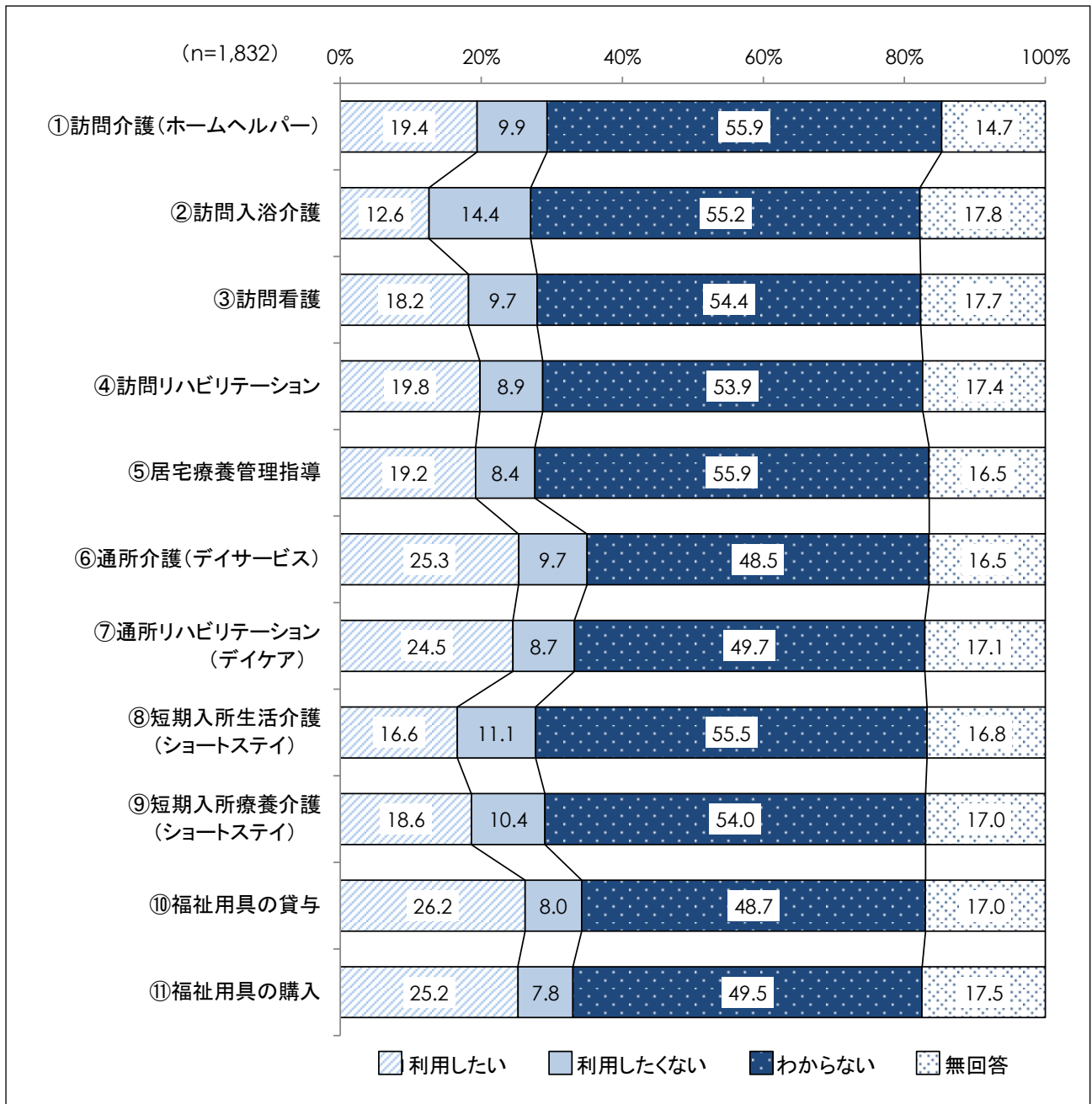
図表 69 介護保険在宅サービスの現在の利用状況（全体 ①～⑪）



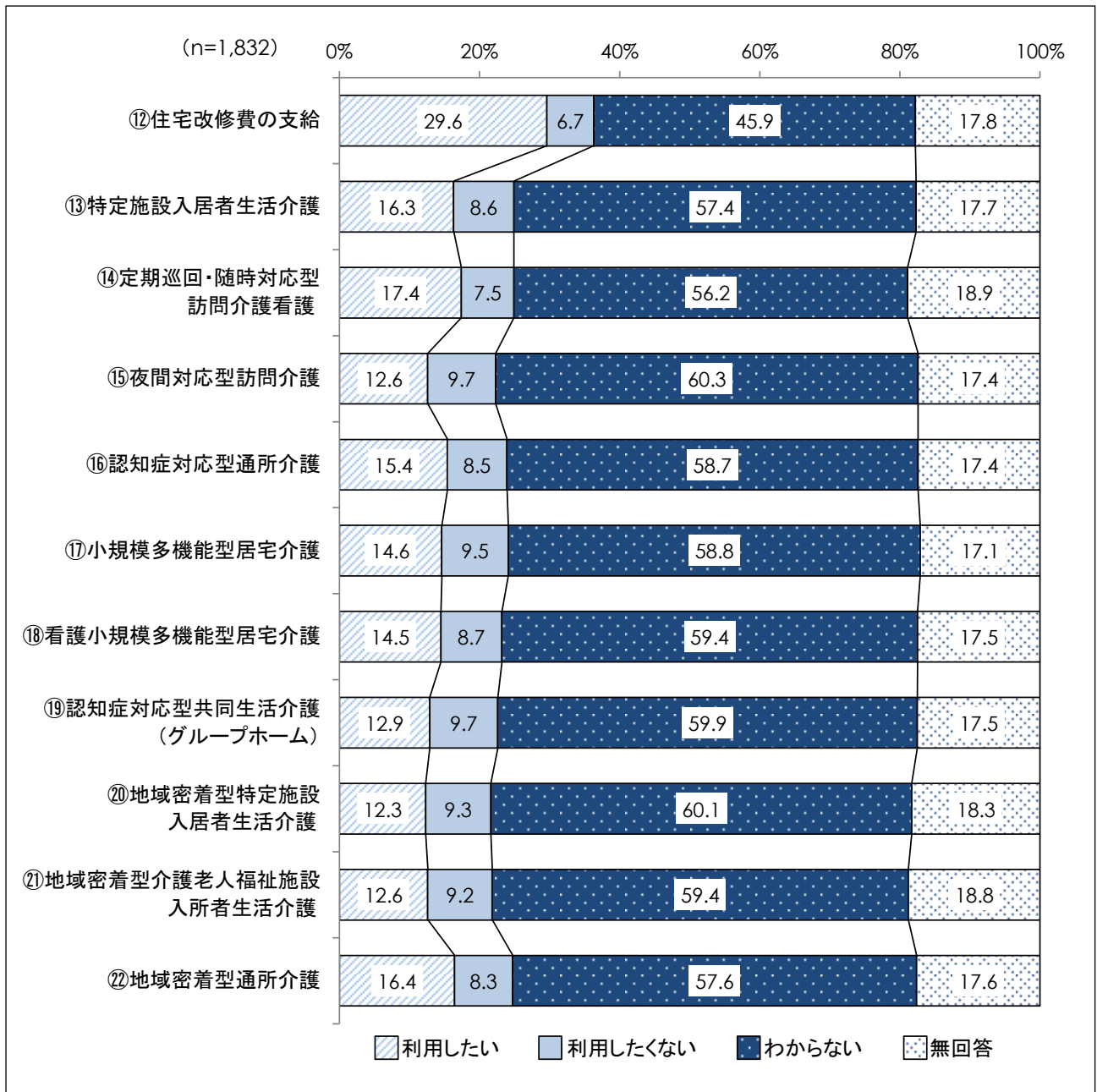
図表 70 介護保険在宅サービスの現在の利用状況（全体 ⑫～㉓）



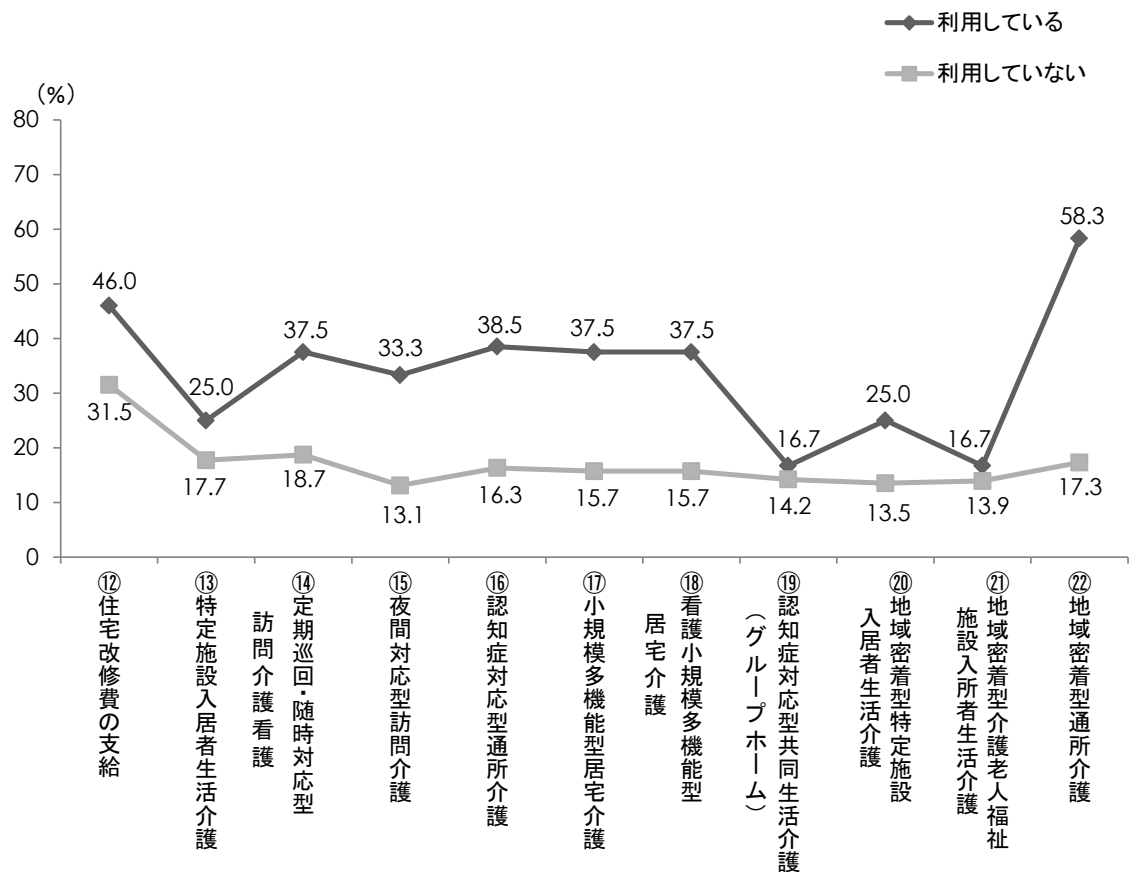
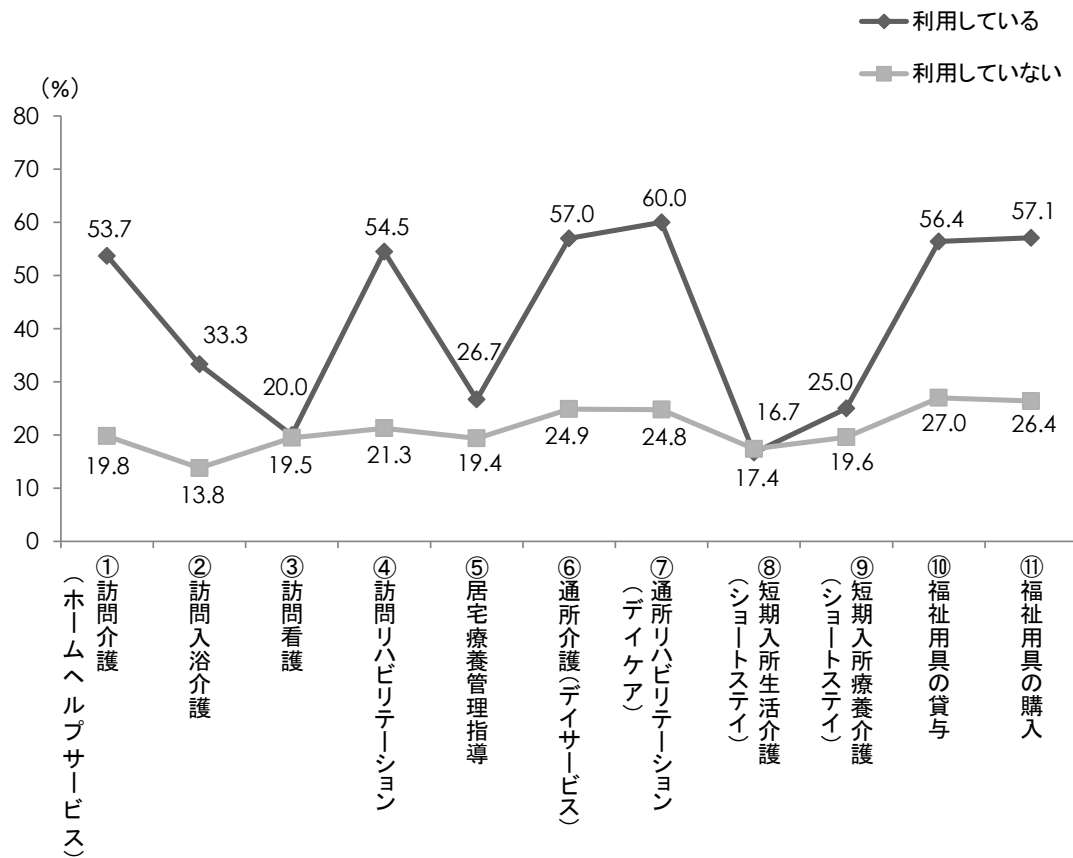
図表 71 介護保険在宅サービスの今後の利用意向（全体 ①～⑪）



図表 72 介護保険在宅サービスの今後の利用意向（全体 ⑫～㉓）



図表 73 介護保険在宅サービスの現在の利用状況別利用意向（全体）



9 高齢者のために行うべき行政サービスについて

（１）在宅福祉サービスの必要性

問 59 次の高齢者のための在宅福祉サービスについて、今後の事業の必要性などを検証する際の参考とするため、あなたのご意見をお聞かせください。全てのサービスについて、それぞれに当てはまるものを選んで1～5の数字1つを○で囲ってください。【○は1つずつ】

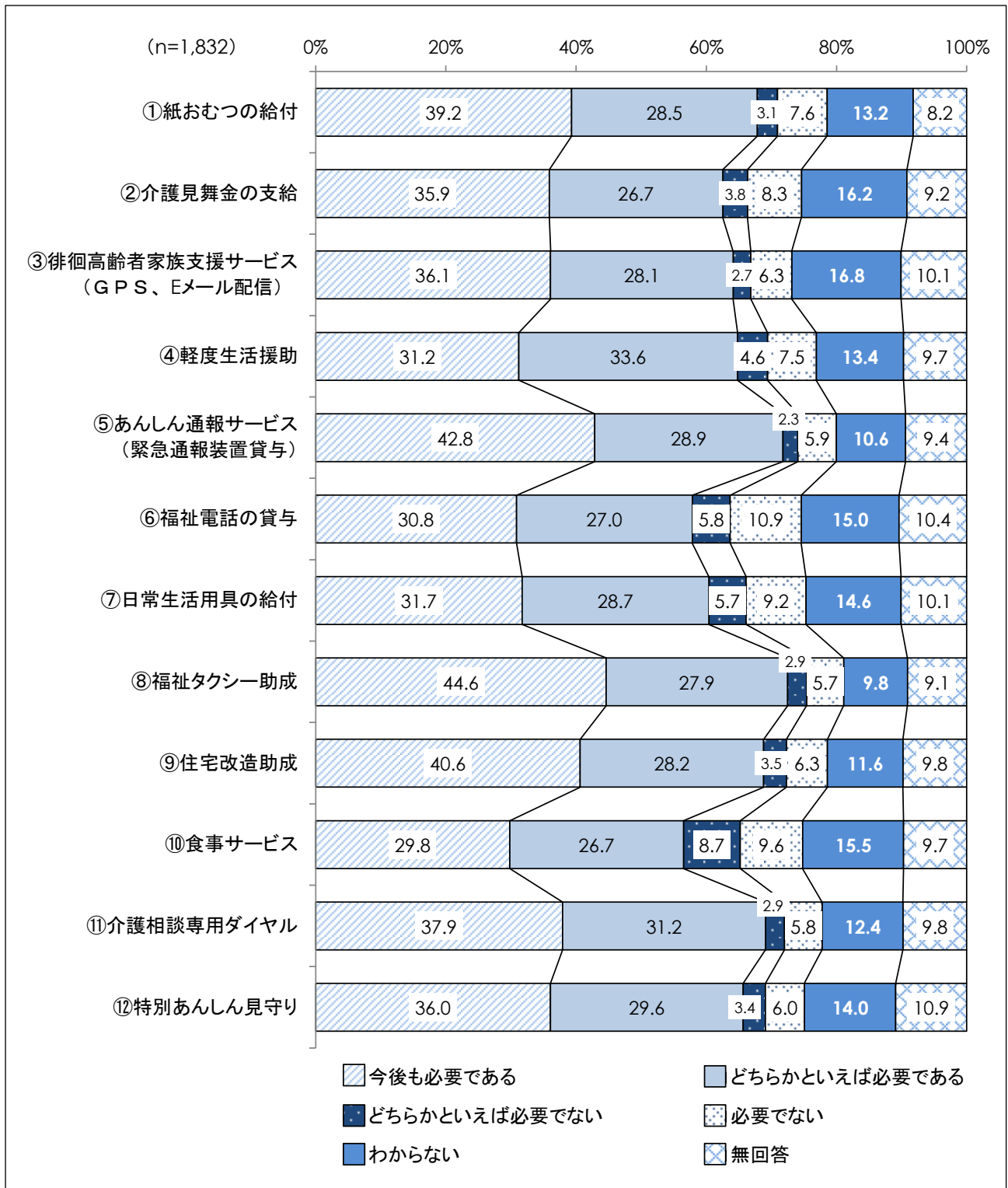
【全体の傾向】

●必要性の高い在宅福祉サービスは福祉タクシー助成、あんしん通報サービス、介護相談専用ダイヤル

在宅福祉サービスの必要性についてたずねたところ、「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」の割合を合計した『必要である』の割合が高いサービスは、⑧福祉タクシー助成（72.5%）、⑤あんしん通報サービス（緊急通報装置貸与）（71.7%）、⑪介護相談専用ダイヤル（69.1%）などとなっています。

一方、「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」の割合を合計した『必要でない』の割合が高いサービスは⑩食事サービス（18.3%）、⑥福祉電話の貸与（16.7%）、⑦日常生活用具の給付（14.9%）となっています。

図表 74 在宅福祉サービスの必要性（全体）



10 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

（１）高齢者の居場所づくり

問 60 高齢者が気軽に集える場所がありますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所がないと感じている人の方が多い

高齢者が気軽に集える場所の有無についてたずねたところ、全体の 53.5%が「ない」と回答しており、過半数を占めています。一方、「ある」は 34.6%にとどまっており、高齢者が集える場所がないと感じている人の方が多くなっています。

【属性別の傾向】

●木太、牟礼、太田では集える場所がないと感じている人が6割を超えている

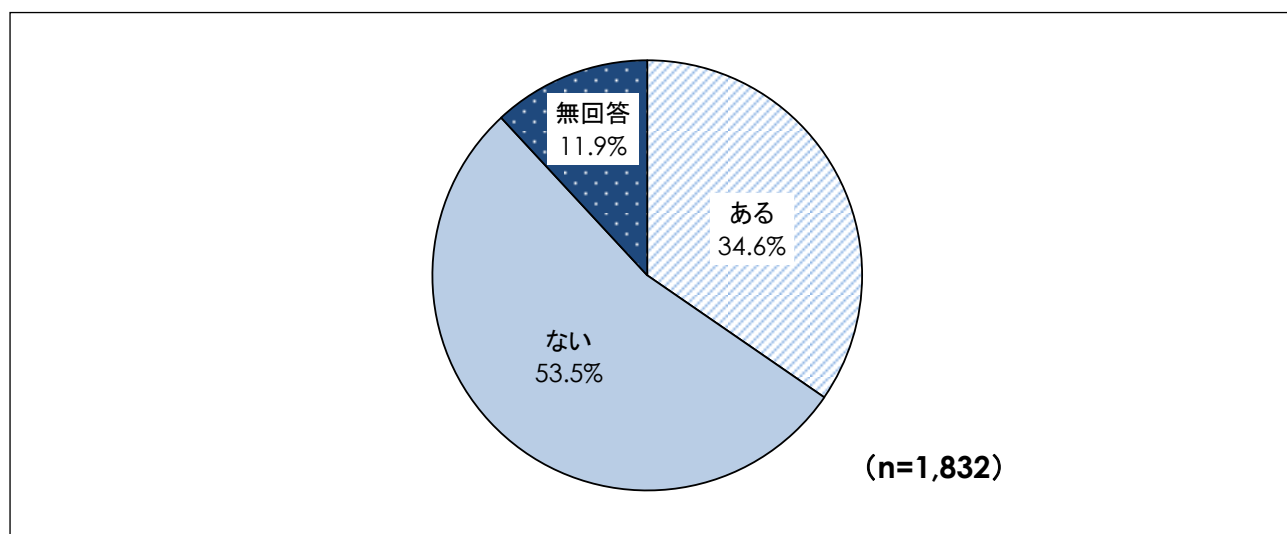
年齢階層別にみると、気軽に集える場所が「ある」の割合に大差はみられませんが、80～84歳で 37.0%と他の年齢階層に比べてやや高くなっています。

これに対し、「ない」の割合はほとんどの年齢層で5割を超えており、半数以上の人が高齢者が気軽に集える場所が無いと感じています。

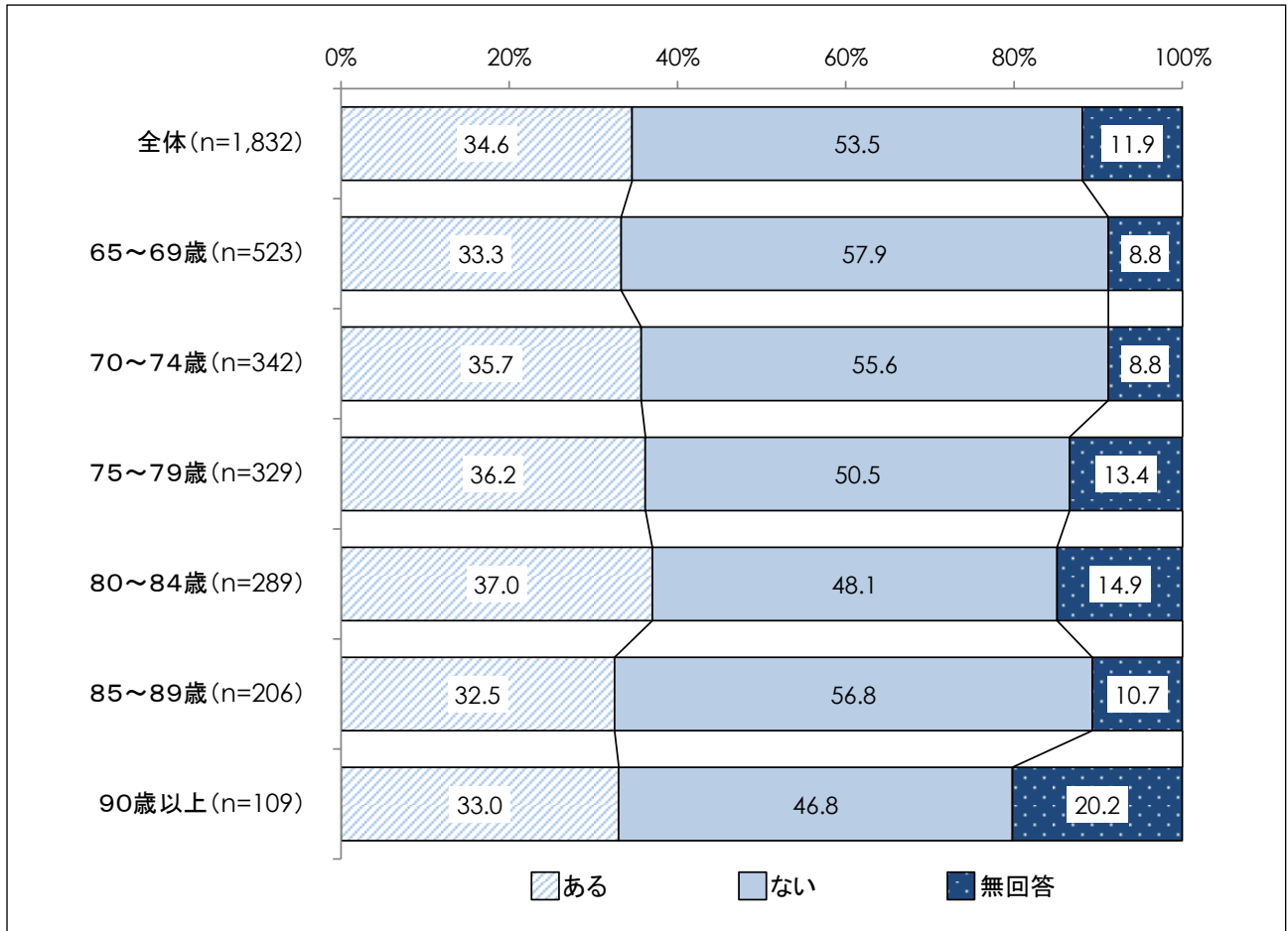
圏域別にみると、「ある」と感じている人が多い圏域は、主に鶴尾（45.7%）、龍雲（43.8%）、山田（43.0%）、塩江（42.9%）、勝賀・下笠居（42.1%）などとなっており、4割を超えています。

これに対し、「ない」と感じている人が多い圏域は、主に木太（63.2%）、牟礼（61.3%）、太田（60.2%）などとなっており、6割を超えています。

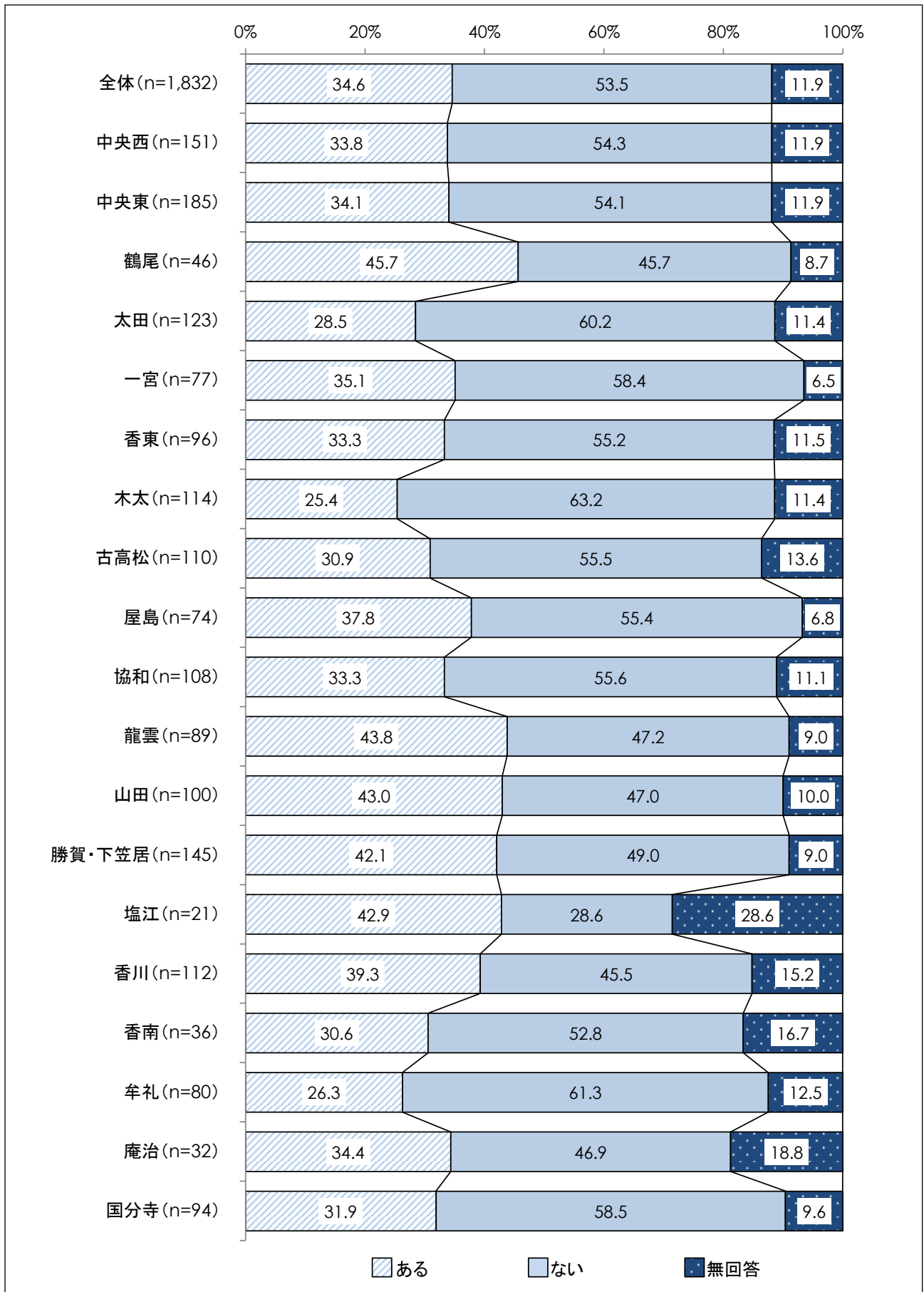
図表 75 高齢者が集える場所の有無（全体）



図表 76 高齢者が集える場所の有無（全体、年齢構成別）



図表 77 高齢者が集える場所の有無（全体、日常生活圏域別）



【問 60 で「1 ある」と回答した方】

問 60-1 気軽に集える場所は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所としてはコミュニティセンターや集会所など

高齢者が気軽に集える場所があると回答した人に対し、その場所はどこかについてたずねたところ、「コミュニティセンター」が 50.0%と最も多く、次いで「集会所」（38.8%）となっており、その割合は突出しています。続いて「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」（14.0%）、「近所の知人宅」（13.1%）、「社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン」（11.4%）などとなっています。

【属性別の傾向】

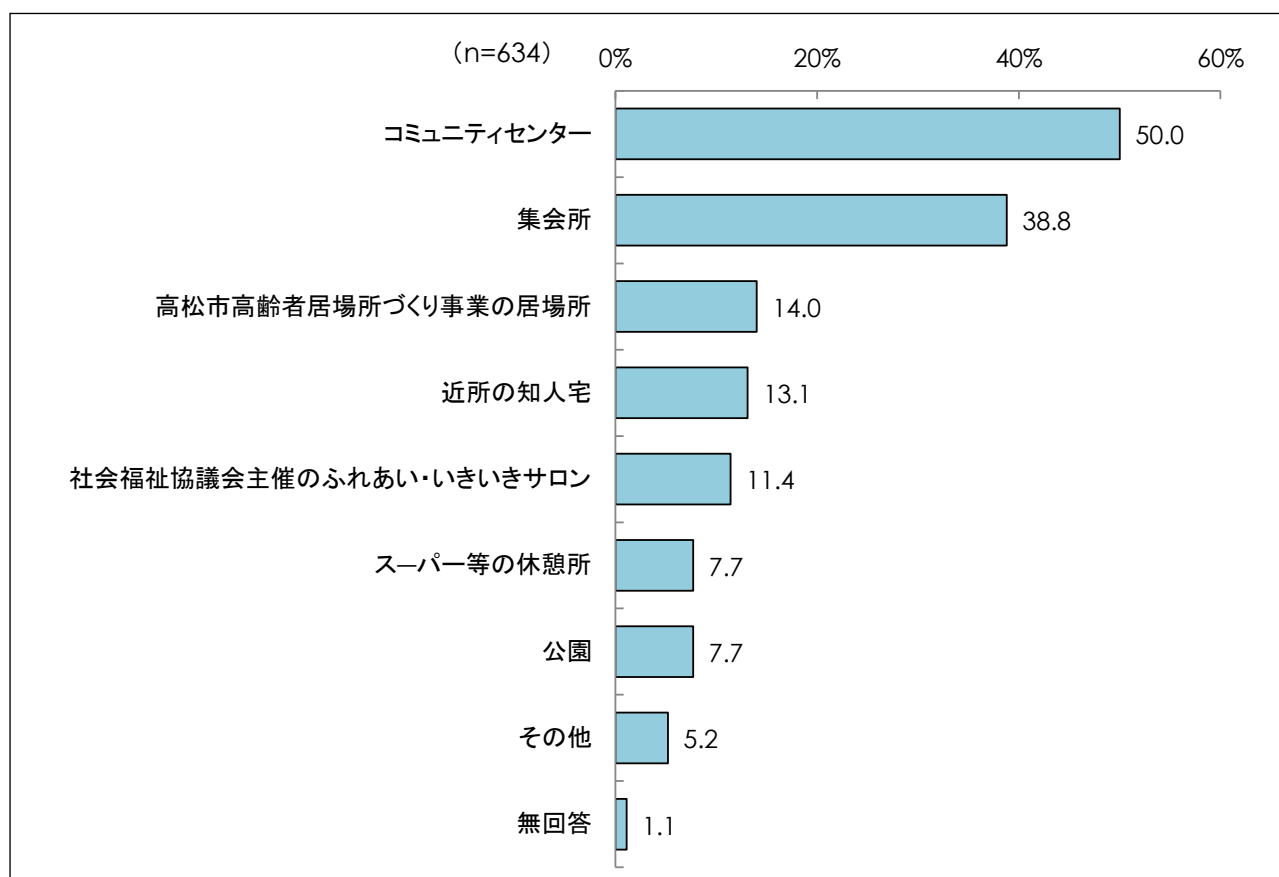
●65歳から84歳ではコミュニティセンター、85歳以上では集会所

年齢階層別にみると、65歳から84歳の年齢層では「コミュニティセンター」が第1位、85歳以上になると、「集会所」がそれぞれ第1位となっています。

圏域別にみると、鶴尾、協和、勝賀・下笠居、塩江、庵治、国分寺では集会所が第1位、香南以外のその他の圏域ではコミュニティセンターが第1位となっています。

また、鶴尾、香東、木太、屋島、香南、牟礼、庵治、国分寺では「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」が上位となっています。

図表 78 高齢者が集える場所（全体／複数回答）



図表 79 高齢者が集える場所（全体、年齢階層別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=634)		コミュニティセンター	集会所	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所
		50.0	38.8	14.0
年齢階層別	65～69歳 (n=174)	コミュニティセンター	集会所	近所の知人宅
		56.3	34.5	15.5
	70～74歳 (n=122)	コミュニティセンター	集会所	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/近所の知人宅
		49.2	36.1	14.8
	75～79歳 (n=119)	コミュニティセンター	集会所	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所
		48.7	35.3	16.0
	80～84歳 (n=107)	コミュニティセンター	集会所	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/近所の知人宅
		49.5	43.0	15.0
	85～89歳 (n=67)	集会所	コミュニティセンター	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン
		47.8	44.8	16.4
	90歳以上 (n=36)	集会所	コミュニティセンター	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所
		47.2	41.7	16.7

図表 80 高齢者が集える場所（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=634)		コミュニティセンター 50.0	集会所 38.8	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 14.0
日常生活圏域別	中央西 (n=51)	コミュニティセンター 58.8	集会所 23.5	公園 15.7
	中央東 (n=63)	コミュニティセンター 57.1	集会所 30.2	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 19.0
	鶴尾 (n=21)	集会所 52.4	コミュニティセンター 47.6	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 33.3
	太田 (n=35)	コミュニティセンター 65.7	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 20.0	集会所 17.1
	一宮 (n=27)	コミュニティセンター 44.4	集会所 33.3	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン / 近所の知人宅 11.1
	香東 (n=32)	コミュニティセンター 53.1	集会所 46.9	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 21.9
	木太 (n=29)	コミュニティセンター 58.6	集会所 37.9	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 24.1
	古高松 (n=34)	コミュニティセンター 50.0	集会所 26.5	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 23.5
	屋島 (n=28)	コミュニティセンター 57.1	集会所 28.6	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 17.9
	協和 (n=36)	集会所 44.4	コミュニティセンター 36.1	近所の知人宅 22.2
	龍雲 (n=39)	コミュニティセンター 56.4	集会所 51.3	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 7.7
	山田 (n=43)	コミュニティセンター 53.5	集会所 44.2	近所の知人宅 16.3
	勝賀・下笠居 (n=61)	集会所 59.0	コミュニティセンター 44.3	近所の知人宅 18.0
	塩江 (n=9)	集会所 33.3	近所の知人宅 / 公園 22.2	
	香川 (n=44)	コミュニティセンター 54.5	集会所 34.1	近所の知人宅 22.7
	香南 (n=11)	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン / 集会所 36.4		高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 27.3
	牟礼 (n=21)	コミュニティセンター 47.6	集会所 38.1	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 / 社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン / 近所の知人宅 / その他 14.3
	庵治 (n=11)	集会所 63.6	コミュニティセンター 27.3	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 18.2
	国分寺 (n=30)	集会所 43.3	コミュニティセンター 36.7	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 23.3

（２）高松市地域包括支援センターについて

問 61 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。

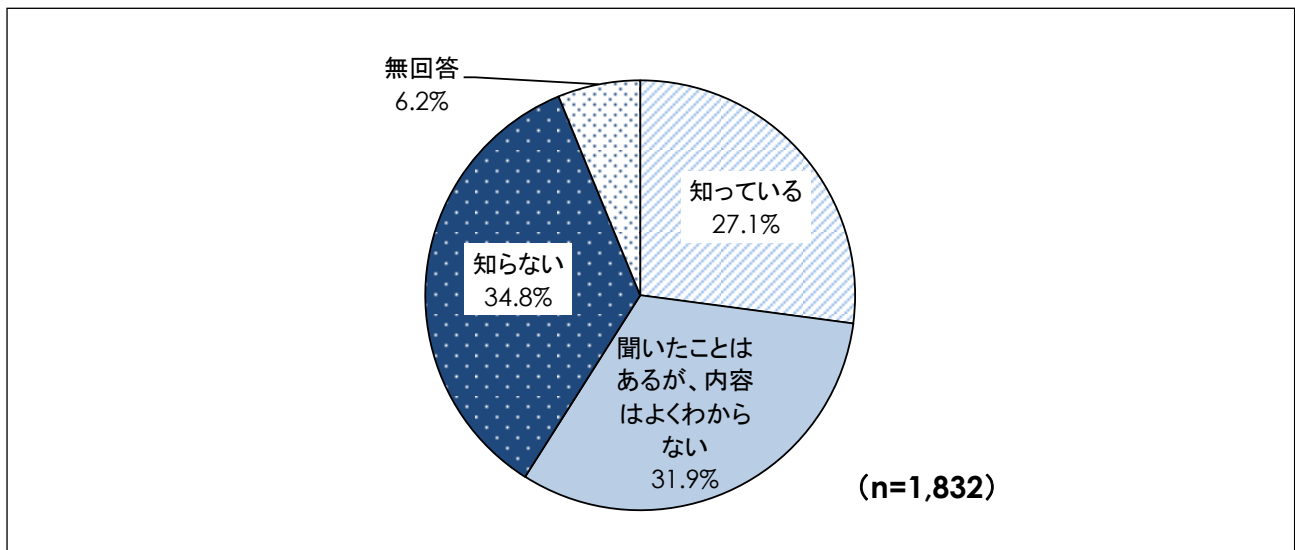
「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●高松市地域包括支援センターを知っている人は約3割程度にとどまっている

高松市地域包括支援センターの認知度についてたずねたところ、「知っている」と回答した人は27.1%にとどまり、認知度は低めの傾向となっています。

図表 81 高松市地域包括支援センターの認知度（全体）



問 62 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。

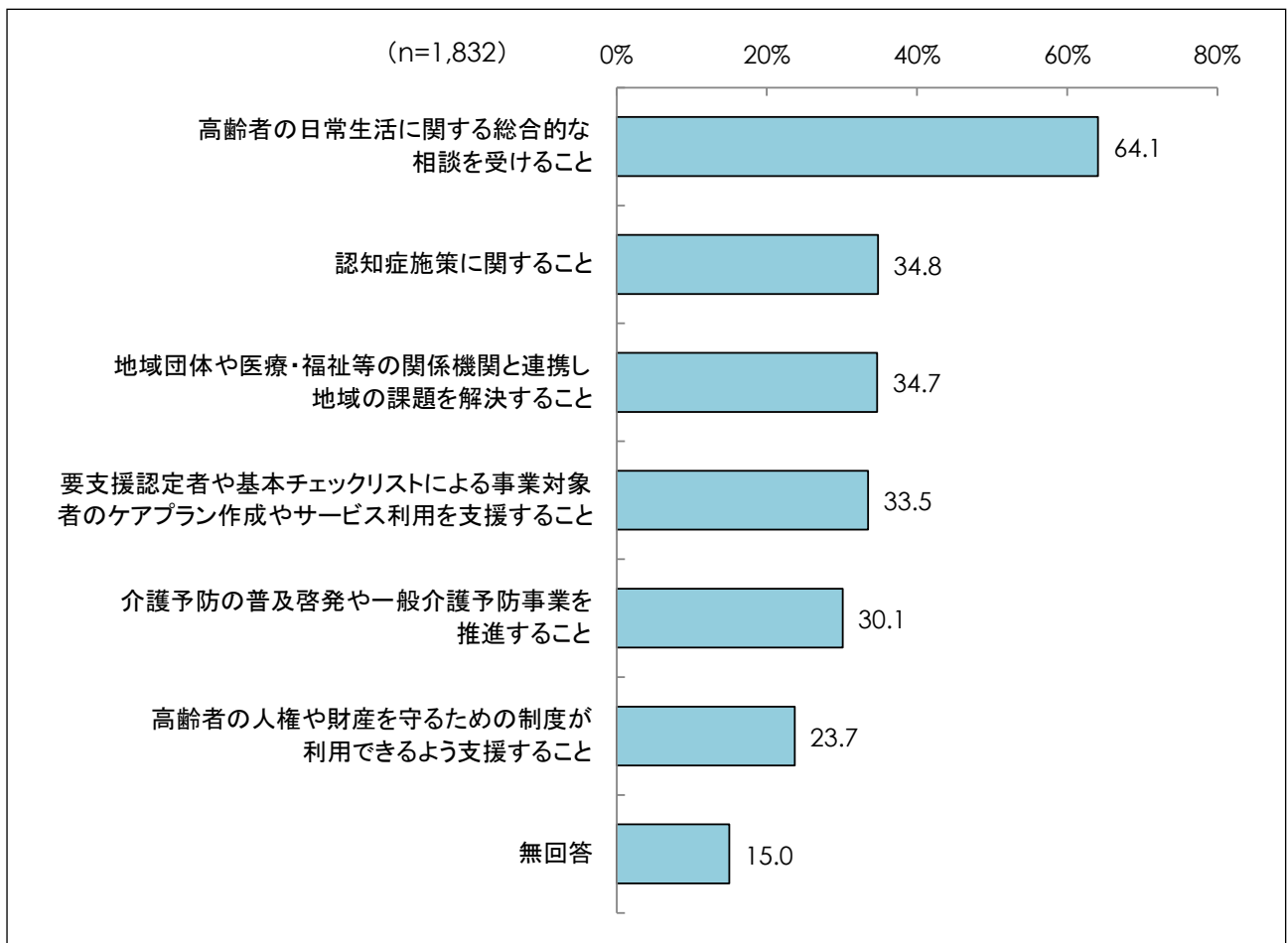
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者の日常生活に関する相談窓口業務としての要望が高い

地域包括支援センターが充実すべき業務についてたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が 64.1%と最も多くなっており、その割合は突出しています。次いで「認知症施策に関すること」（34.8%）、「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し、地域の課題を解決すること」（34.7%）、「要支援認定者や基本チェックリストによる事業対象者のケアプラン作成やサービス利用を支援すること」（33.5%）などとなっています。

図表 82 地域包括支援センターが充実すべき業務（全体／複数回答）



Ⅱ 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

（１）認知症に対する不安

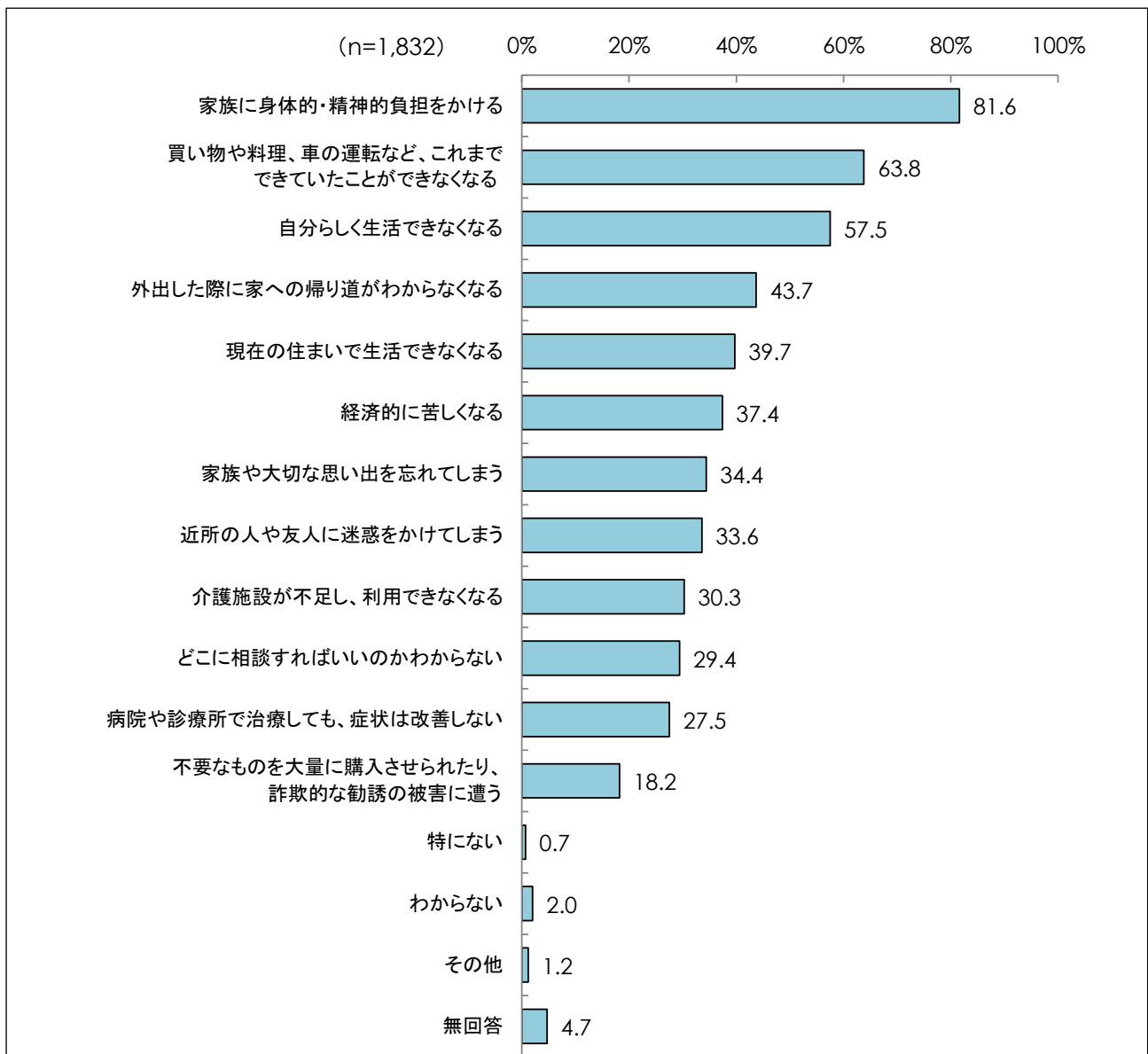
問 63 もし、自分が認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●家族への負担や日常生活が思うようにできなくなるなどが不安

自分が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「家族に身体的・精神的負担をかける」（81.6%）が最も多く、次いで「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなる」（63.8%）、「自分らしく生活できなくなる」（57.5%）などとなっています。

図表 83 自分が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



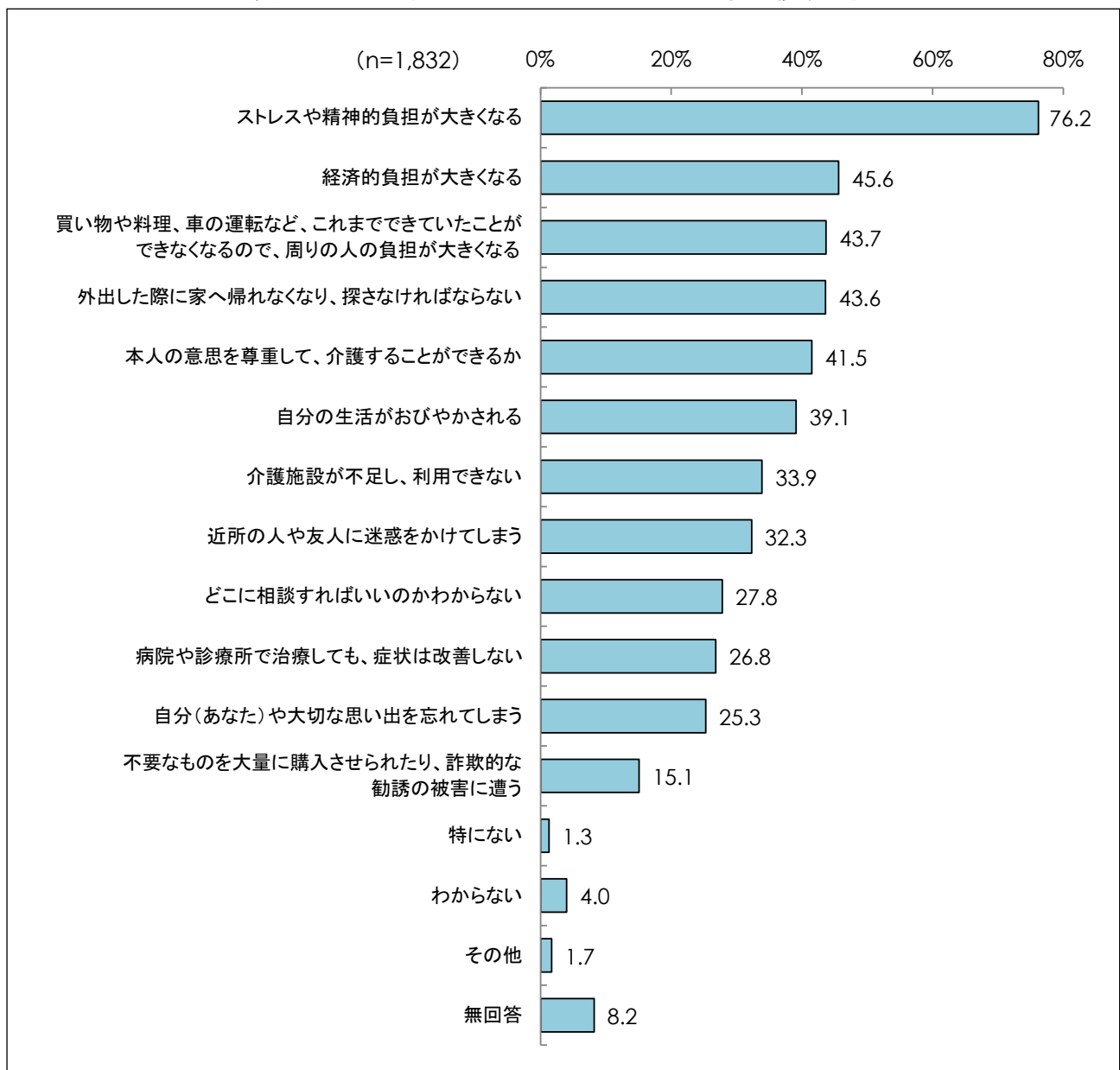
問 64 もし、家族が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●精神的、経済的負担増と、周りの人への負担、日常生活への影響などが不安

家族が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きくなる」（76.2%）が最も多く、次いで「経済的負担が大きくなる」（45.6%）、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなるので、周りの人への負担が大きくなる」（43.7%）、「外出した際に家に帰れなくなり、探さなければならない」（43.6%）などとなっています。

図表 84 家族が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



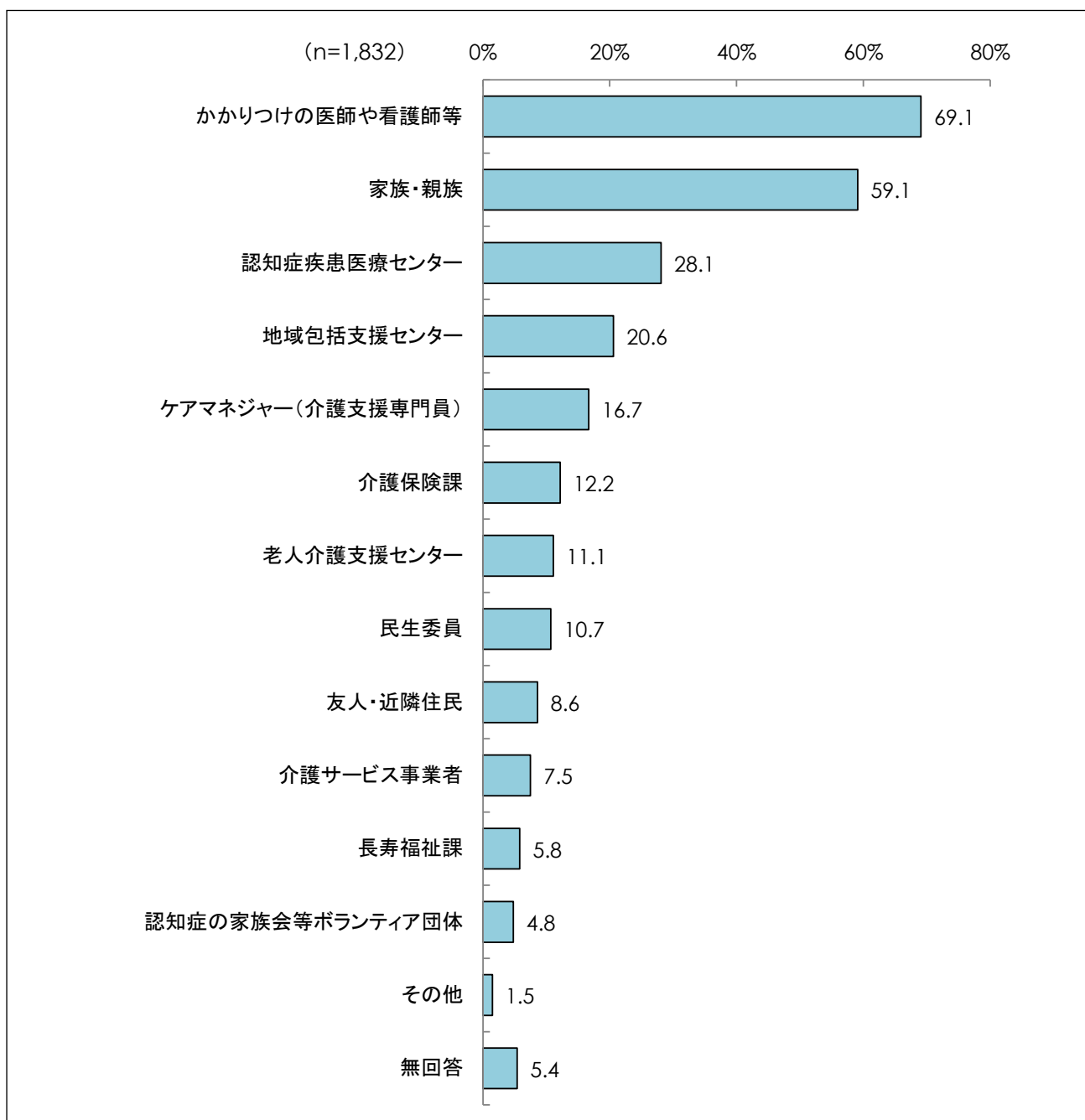
問 65 もし、自分や家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症の疑いが生じた際の相談先としては親族よりも医療関係者が第1位

認知症の疑いが生じた際の相談先をたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」（69.1%）が最も多く、次いで「家族・親族」（59.1%）が主な相談先としてその割合は突出しています。続いて「認知症疾患医療センター」（28.1%）、「地域包括支援センター」（20.6%）などとなっています。

図表 85 認知症の疑いが生じた際の相談先（全体／複数回答）



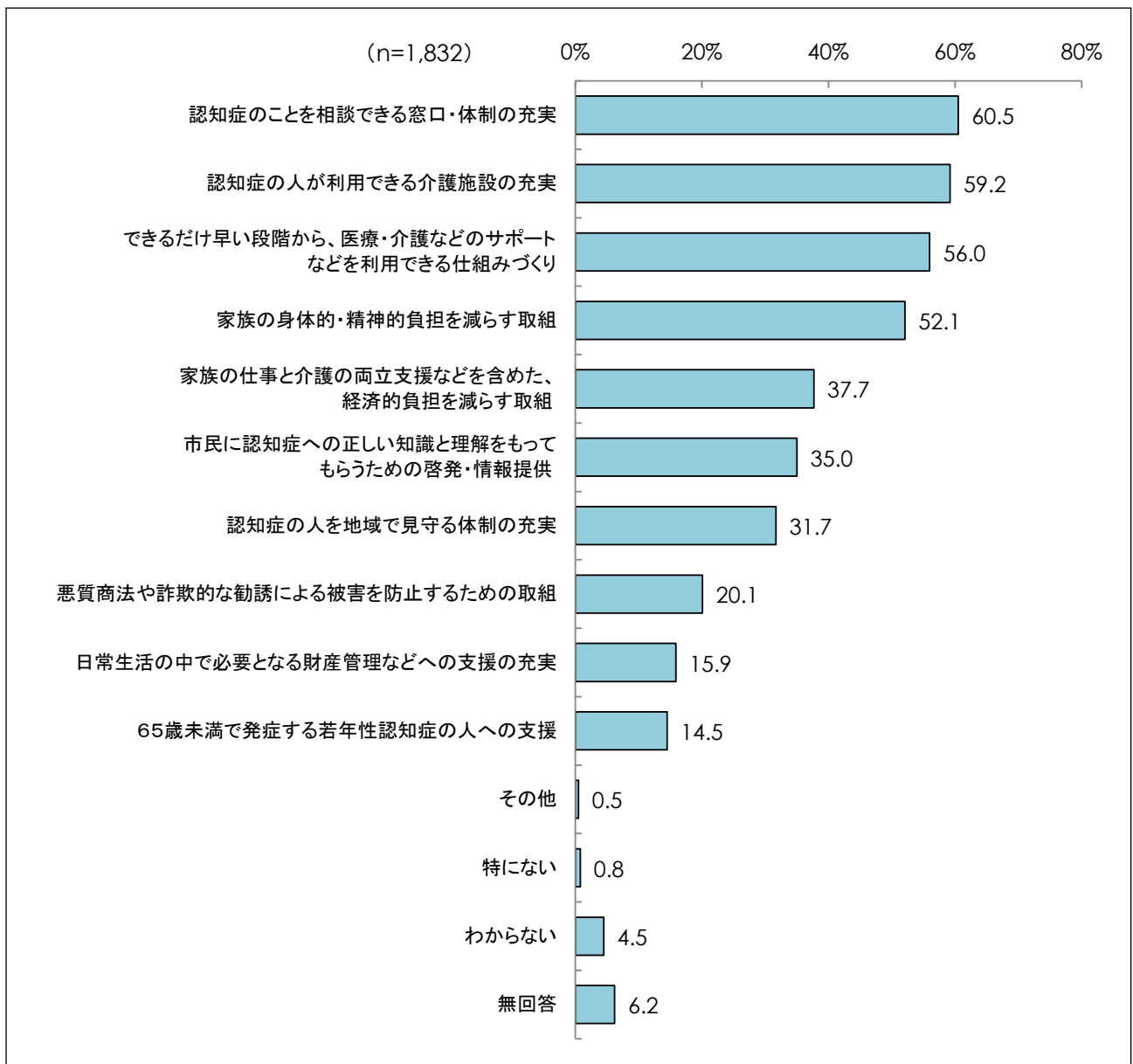
問 66 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症に関する相談窓口や、介護施設の充実、医療・介護のサポートを早い段階から利用できる仕組みづくりなどへの要望が多い

認知症になっても安心して暮らすために重要なことをたずねたところ、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」(60.5%)が最も多く、次いで「認知症の人が利用できる介護施設の充実」(59.2%)、「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートなどを利用できる仕組みづくり」(56.0%)などとなっています。

図表 86 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと（全体／複数回答）



12 一般介護予防事業について

（１）介護予防への取組について

問 67 現在あなたは介護予防に取り組んでいますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●介護予防に取り組んでいる人は全体の約３割

現在、介護予防に取り組んでいるかをたずねたところ、「取り組んでいる」は31.4%と3割程度となっており、「取り組んでいない」が51.7%と過半数を占めています。

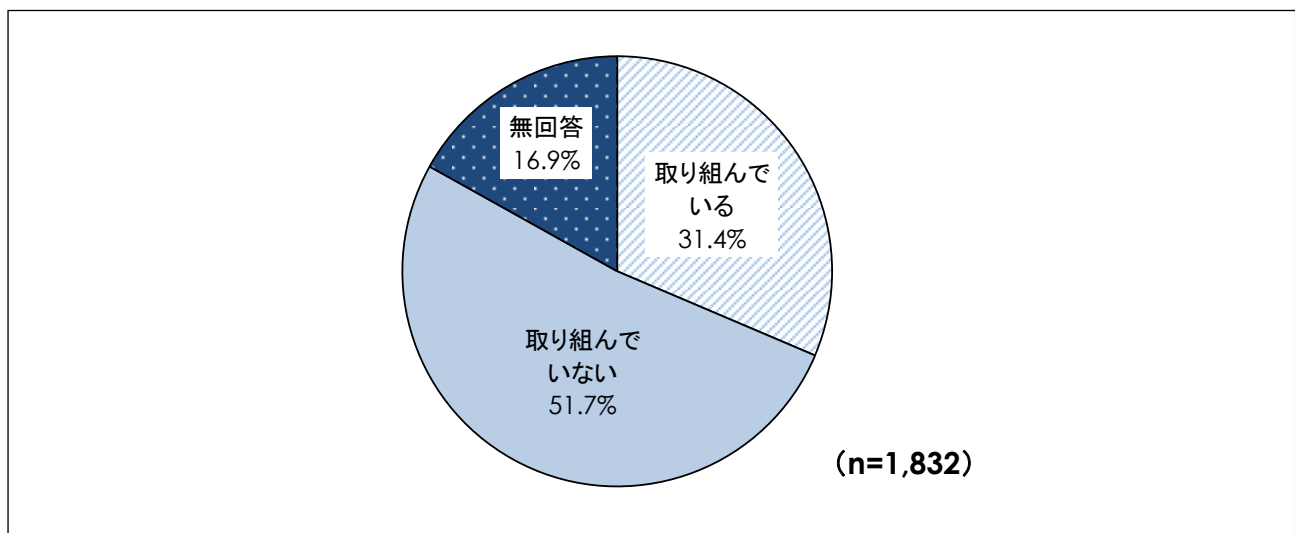
【属性別の傾向】

●山田、庵治、一宮では介護予防に取り組んでいる人は4割を超え、他の圏域よりも高い年齢階層別に取り組んでいる人の割合をみると、70～74歳、90歳以上では3割を下回っており、他の年齢階層よりもやや低くなっています。

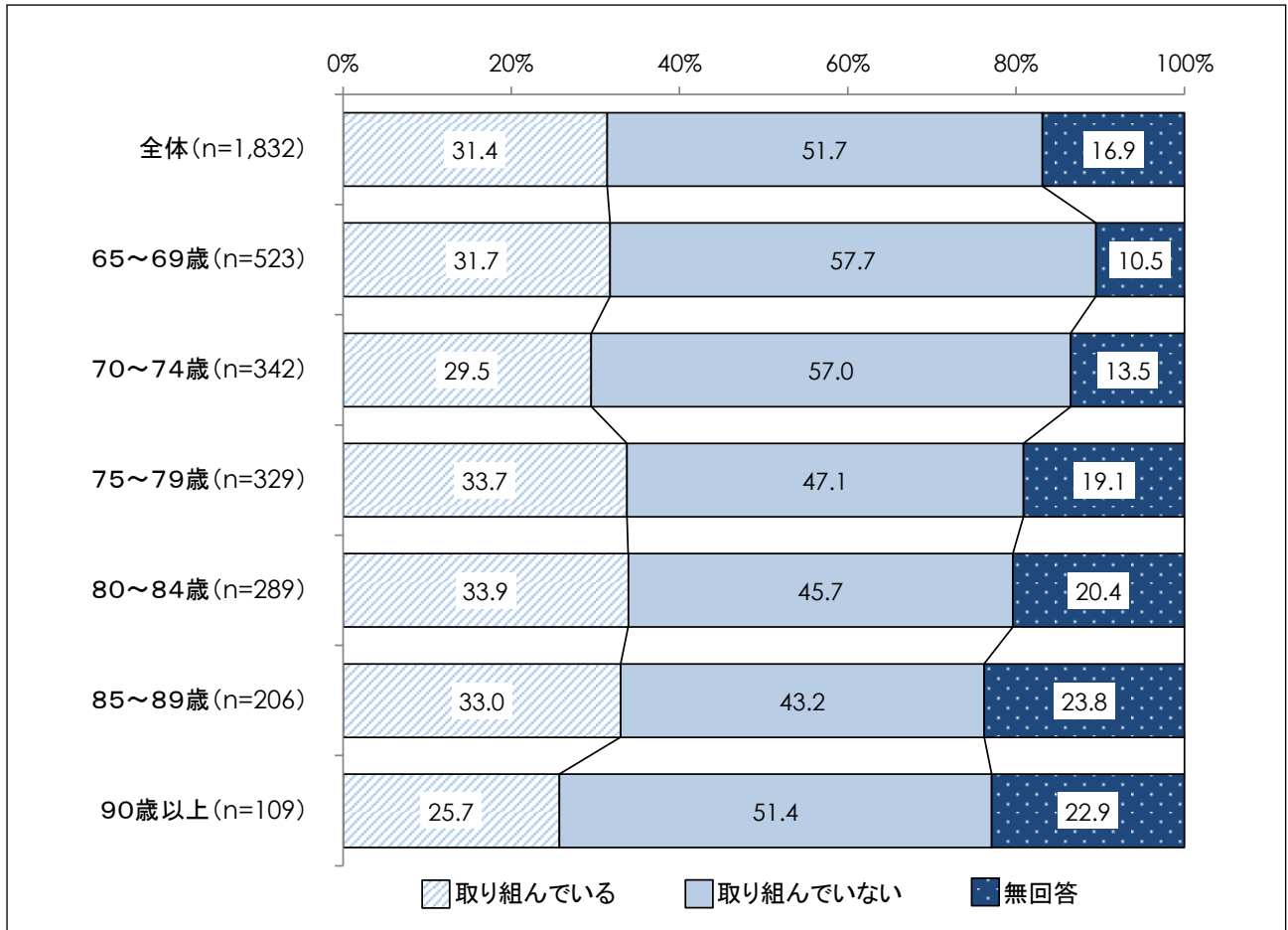
圏域別に取り組んでいる人の割合をみると、山田（41.0%）、庵治（40.6%）、一宮（40.3%）では4割を超えており、他の圏域よりも取組率がやや高くなっています。

反対に、取り組んでいる人の割合が低い地域は、香南（19.4%）、香川（23.2%）、協和（24.1%）、太田（26.8%）、屋島（28.4%）、中央東（28.6%）となっており、3割を下回っています。

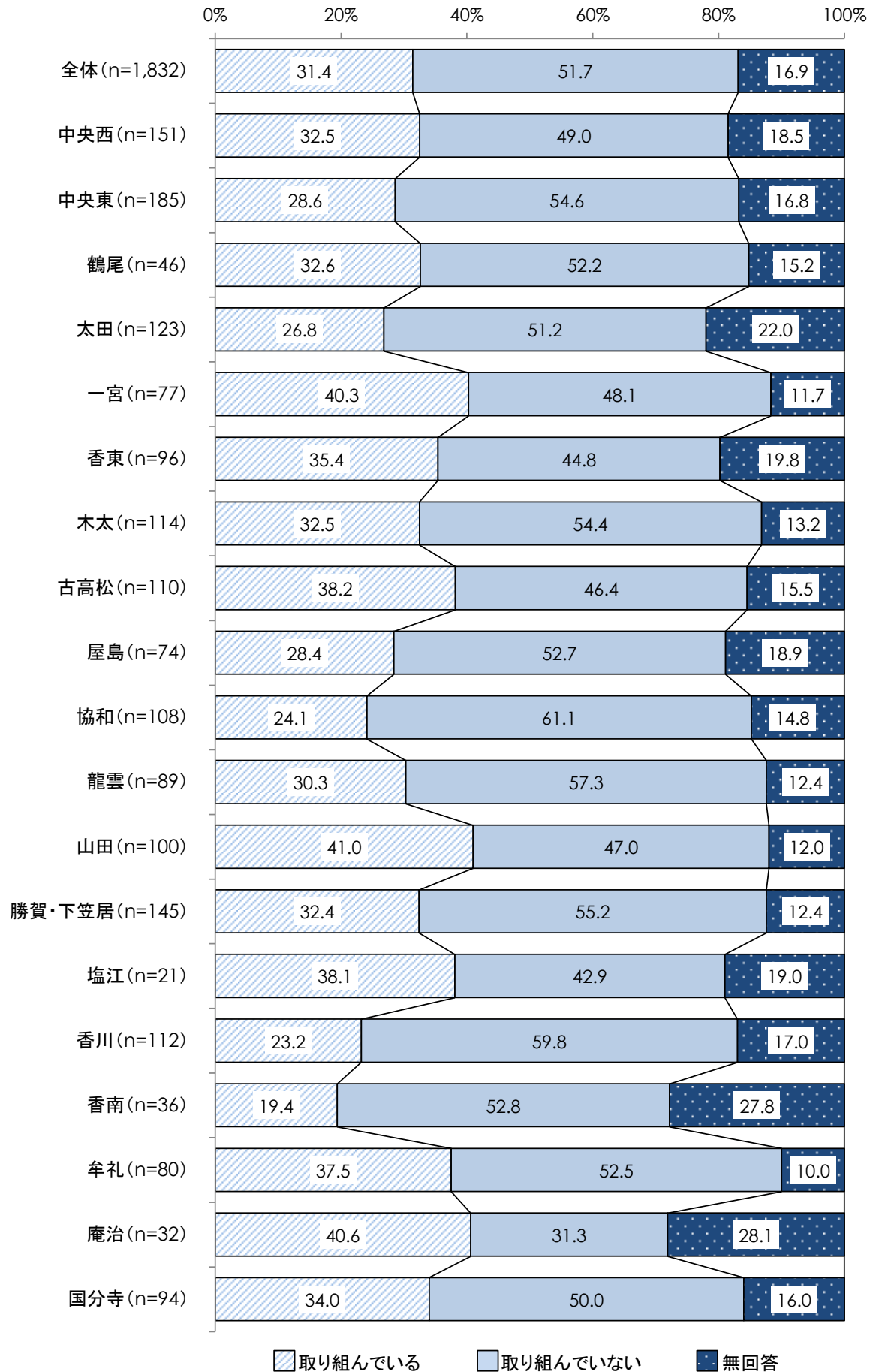
図表 87 介護予防への取組の有無（全体）



図表 88 介護予防への取組の有無（全体、年齢階層別）



図表 89 介護予防への取組の有無（全体、日常生活圏域別）



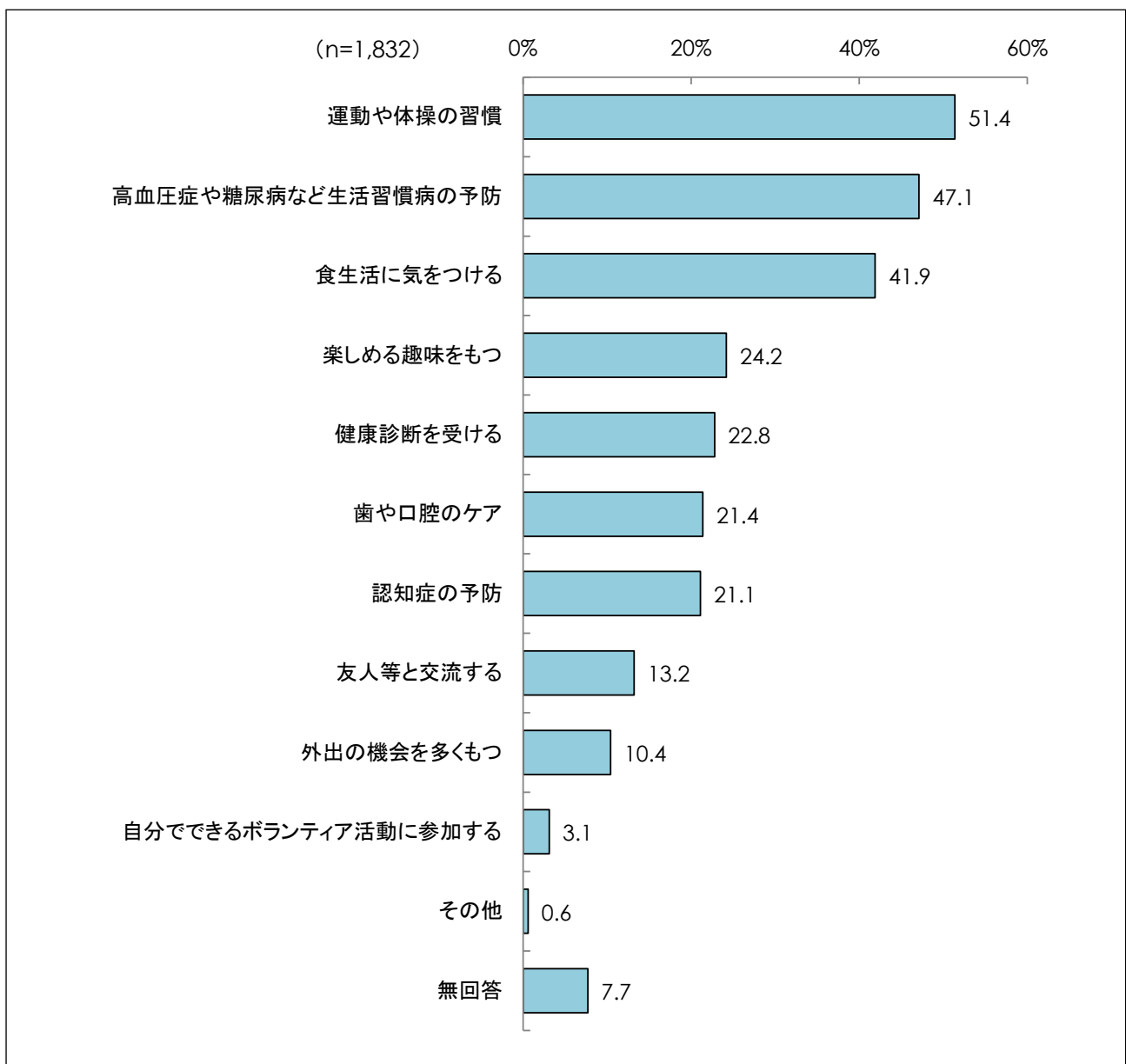
問 68 介護予防の上で重要と思われるものに○をつけてください。【○は3つまで】

【全体の傾向】

●介護予防において重要なことは運動や体操、生活習慣病の予防、食生活など

介護予防において重要なことについてたずねたところ、「運動や体操の習慣」が 51.4%と最も多く、次いで「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」（47.1%）、「食生活に気をつける」（41.9%）が主な内容となっています。続いて、「楽しめる趣味をもつ」（24.2%）、「健康診断を受ける」（22.8%）、「歯や口腔のケア」（21.4%）、「認知症の予防」（21.1%）などとなっています。

図表 90 介護予防の上で重要な事（全体／複数回答）



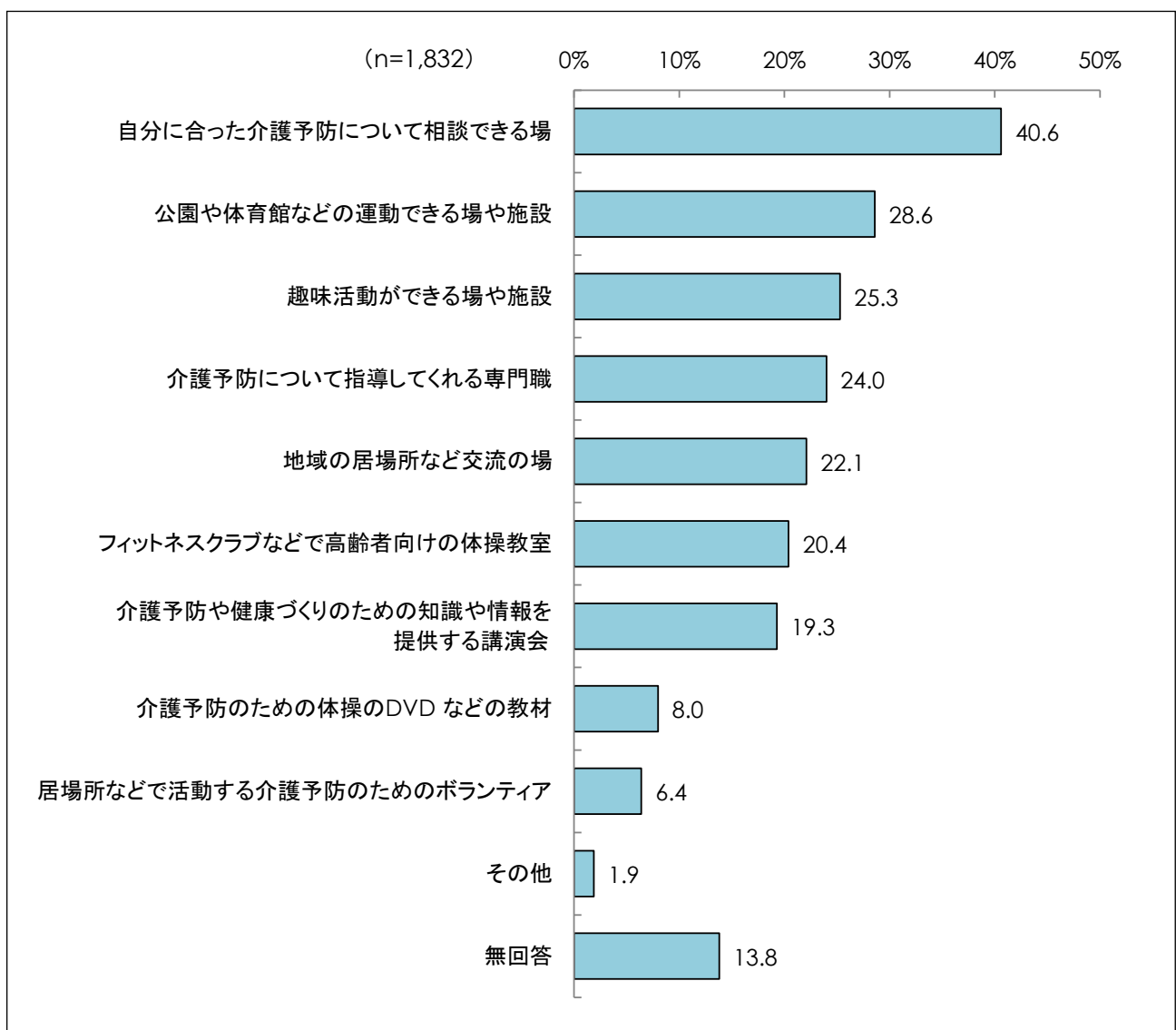
問 69 自分で介護予防に取り組むためにどのようなものがあればよいと思いますか。【〇は3つまで】

【全体の傾向】

●相談できる場や活動できる施設、交流の場などが必要

自分で介護予防に取り組む上で必要なものについてたずねたところ、「自分に合った介護予防について相談できる場」が 40.6%と最も多くなっています。次いで「公園や体育館などの運動できる場や施設」（28.6%）、「趣味活動ができる場や施設」（25.3%）、「介護予防について指導してくれる専門職」（24.0%）、「地域の居場所など交流の場」（22.1%）などとなっています。

図表 91 自分で介護予防に取り組む上で必要なもの（全体／複数回答）



（２）介護予防とボランティア活動について

問 70 ボランティア活動などの社会参加が介護予防に効果があることは、知っていますか。
【〇は１つ】

【全体の傾向】

●社会参加の介護予防への効果についての認知度は約４割

社会参加の介護予防への効果についてたずねたところ、効果があることを「知っている」と回答した人は42.2%となっており、「知らない」（43.7%）が1.5ポイント上回っています。

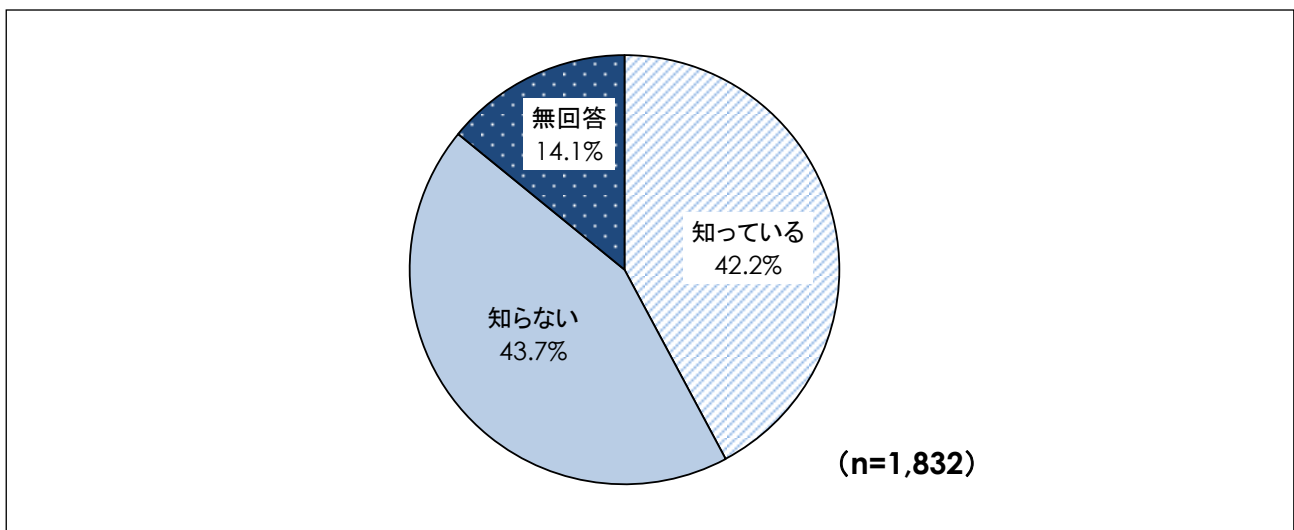
【属性別の傾向】

●75～79歳では「知っている」が「知らない」を上回る

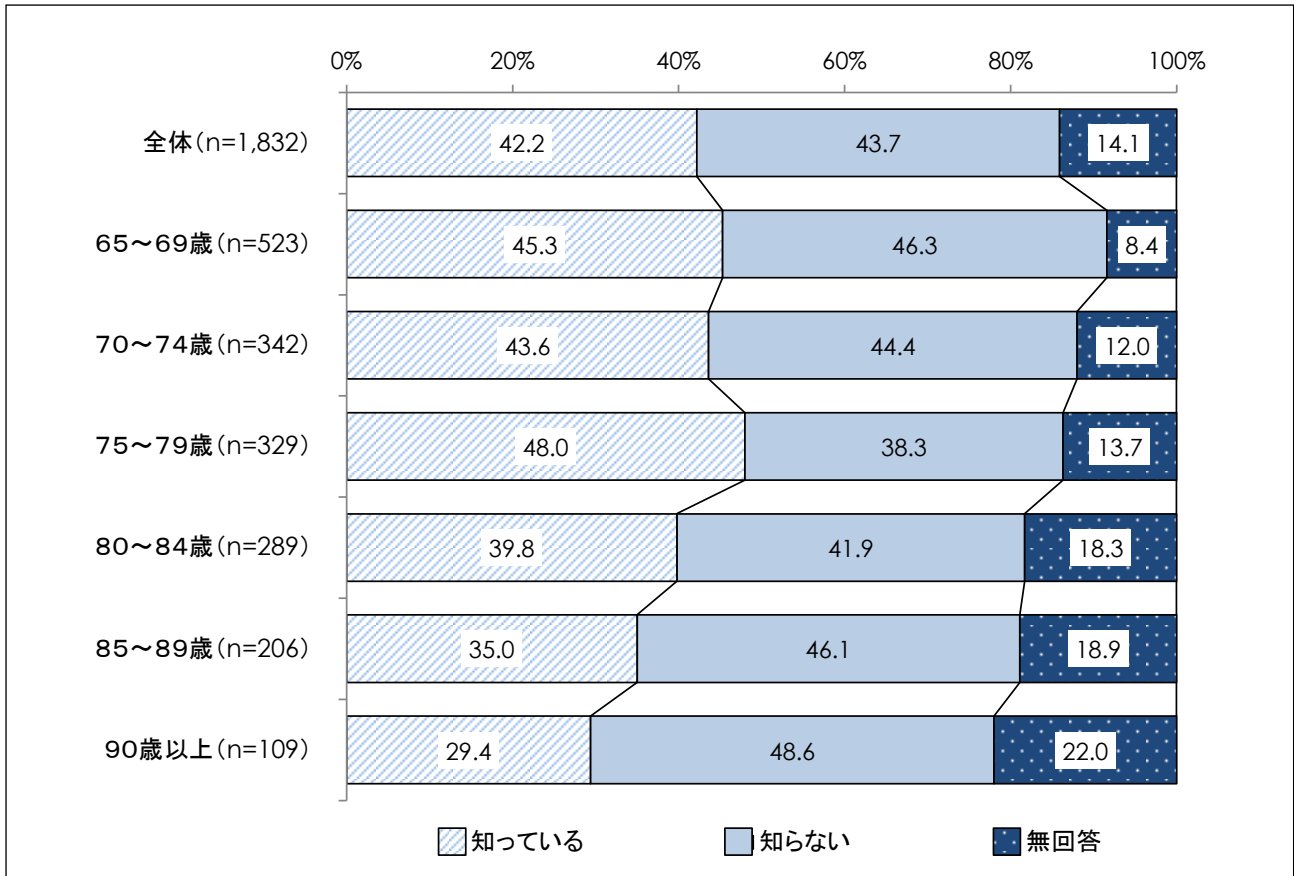
年齢階層別にみると、ほとんどの年齢階層では「知らない」の割合が「知っている」の割合を上回る結果となっています。

一方、75～79歳でのみ「知っている」（48.0%）の割合が「知らない」（38.3%）を上回っており、最も認知度が高くなっています。

図表 92 社会参加の介護予防への効果について（全体）



図表 93 ボランティア活動の効果に対する認知度（全体、年齢階層別）



問 71 様々なボランティア活動の種類がありますが、中でも、介護予防ボランティアの活動をしてみたいですか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●条件が合えばしてみたい人は全体の1割程度

介護予防ボランティアへの参加意向をたずねたところ、「条件が合えばしてみたい」が9.2%、「条件が合ってもしない」が12.3%となっており、「しない」との回答が3.1ポイント上回っています。

また、「わからない」が60.4%と最も高く、全体の6割の人が条件次第ではなく、活動をしてみたいかどうか決めかねるという結果となっています。

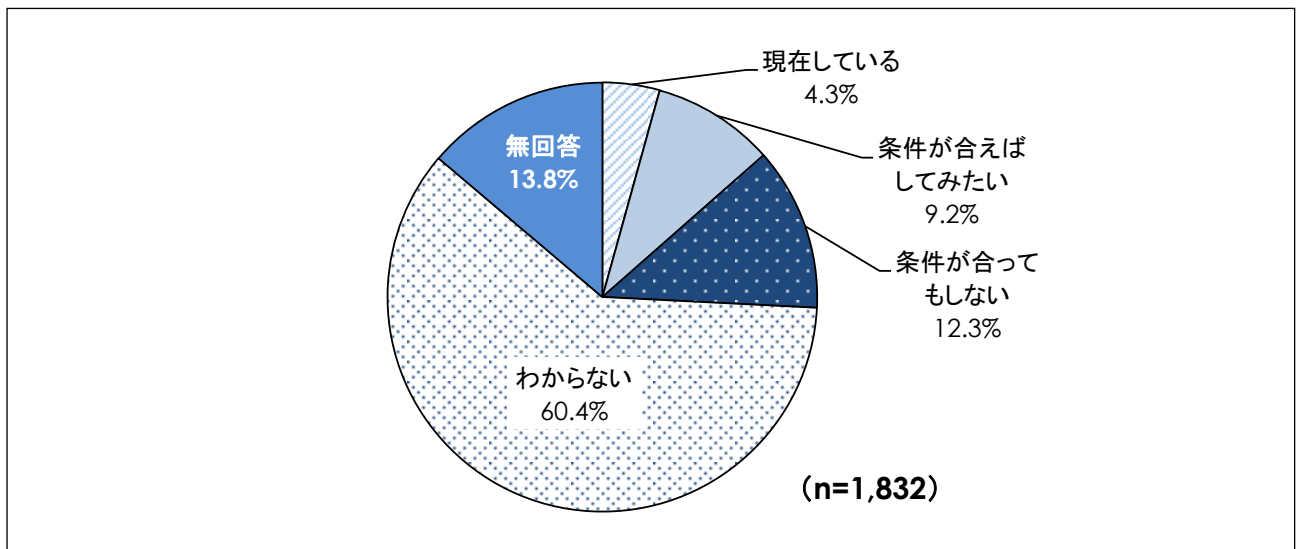
【属性別の傾向】

●65歳以上74歳以下では参加意思のある人が他の年齢層に比べてやや多い

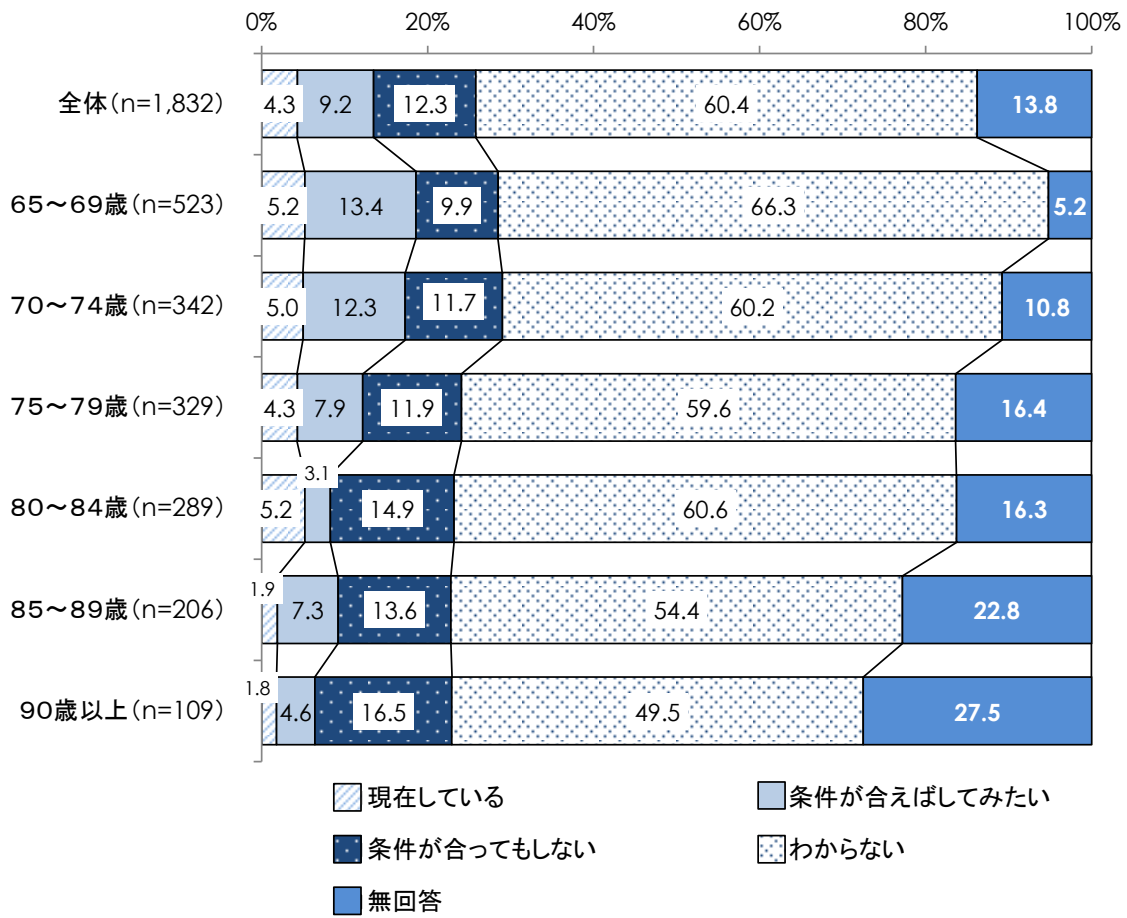
年齢階層別に参加意向をみると、65～69歳、70～74歳の年齢層では「条件が合えばしてみたい」の割合が「条件が合ってもしない」の割合を上回っています。

これに対し、75歳以上の高齢になると「条件が合ってもしない」の割合が「条件が合えばしてみたい」の割合を上回り、介護予防ボランティアはしないと考えている人の方が多くなっています。

図表 94 介護予防ボランティアへの参加意向（全体）



図表 95 介護予防ボランティアへの参加意向（全体、年齢階層別）



【問 71 で「2条件が合えばしてみたい」と回答した方】

問 71-1 どのような介護予防ボランティア活動をしてみたいですか。【〇はいくつでも】

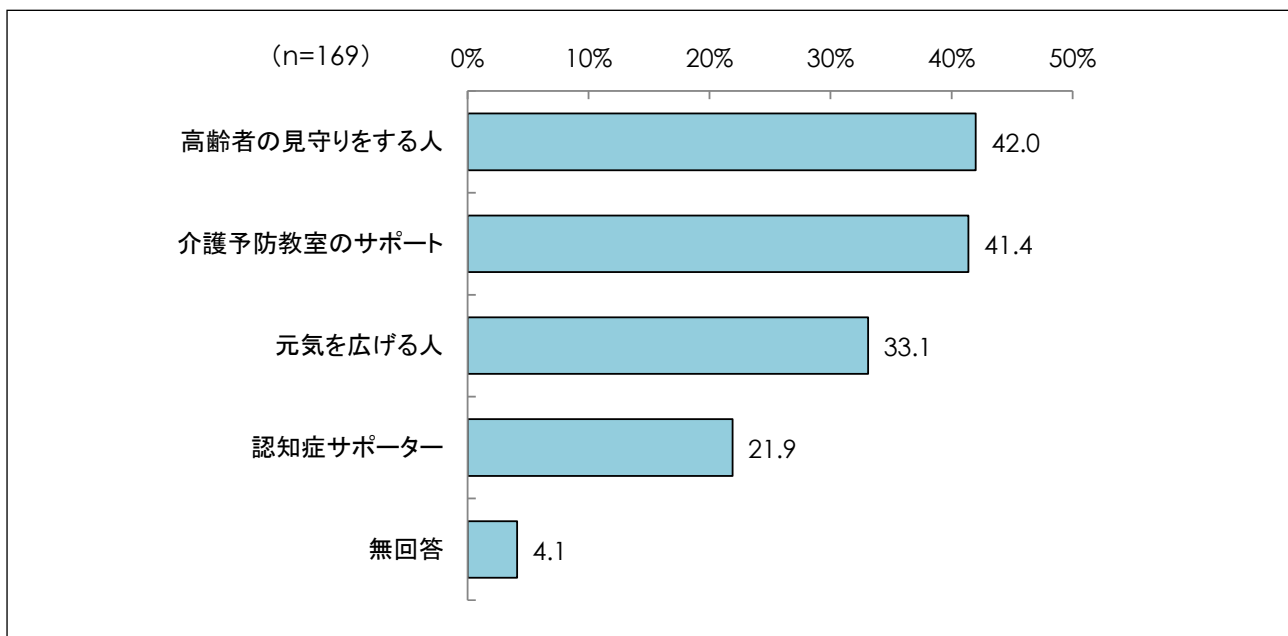
【全体の傾向】

●高齢者の見守りや、介護予防教室のサポートなどが人気

介護予防のボランティアを、条件が合えばしてみたいと回答した人に対し、してみたいボランティア活動の内容をたずねたところ、「高齢者の見守りをする人」が42.0%と最も多く、次いで「介護予防教室のサポート」（41.4%）となっており、見守りやサポートなど高齢者を支える活動をしてみたい人が多くなっています。

続いて、「元気を広げる人」（33.1%）、「認知症サポーター」（21.9%）となっています。

図表 96 してみたい介護ボランティア活動の内容（全体／複数回答）



13 高齢者の保健福祉について

（１）携帯電話の所持状況について

問 72 現在、携帯電話を持っていますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●全体の約 7 割が携帯電話を持っている

携帯電話の所持状況についてたずねたところ、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」が 56.0%と最も高くなっています。また、「スマートフォンを持っている」（14.1%）、「どちらも持っている」（1.0%）を合わせると、約 7 割の人が携帯電話を持っていると回答しています。

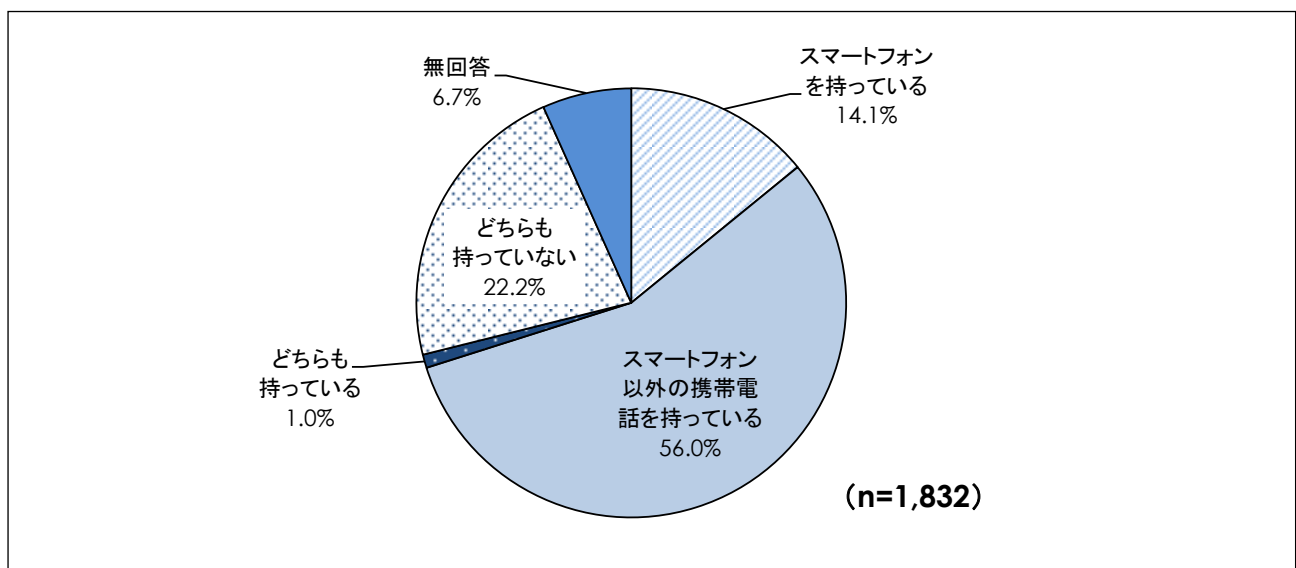
【属性別の傾向】

●65～69歳では携帯電話所持率が約 9 割、90歳以上では 3 割に減少

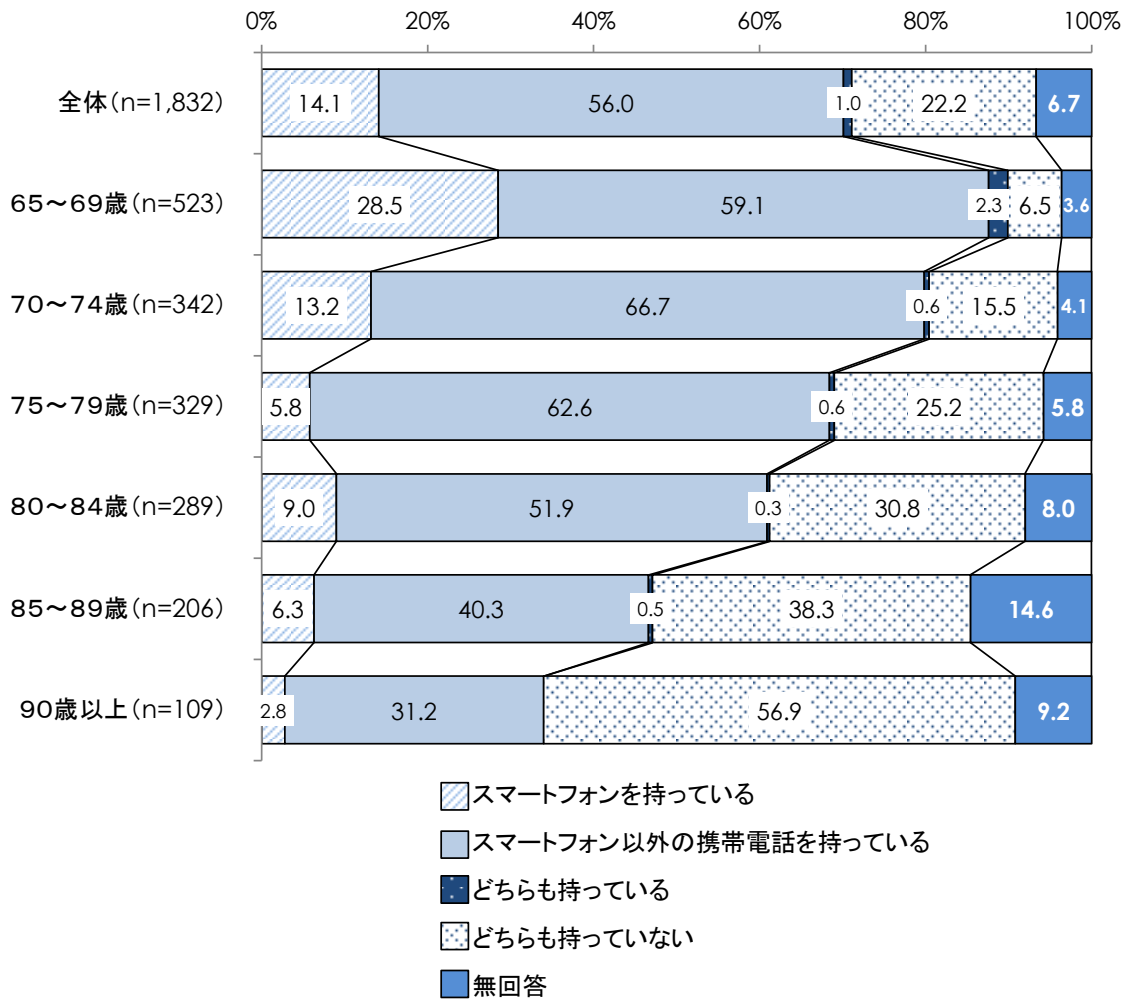
年齢階層別に、「スマートフォンを持っている」、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」、「どちらも持っている」の割合を合計した所持率をみると、65～69歳では 89.9%と携帯電話を持っている人が約 9 割を占めていますが、80～84歳では 61.2%と年齢が上がるにつれ所持率は減少し、85～89歳では 47.1%、90歳以上では 34.0%となっています。

また、携帯電話を所持している人の中では、『スマートフォン』よりも『スマートフォン以外の携帯電話』を持っている人の方が多くなっています。

図表 97 携帯電話の所持状況（全体）



図表 98 携帯電話の所持状況（全体、年齢階層別）



（２）かかりつけ医の有無について

問 73 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

● 8割以上の人がかかりつけ医を持っている

かかりつけ医を持っているかについてたずねたところ、「持っている」が84.1%と大半を占めています。一方、「持っていない」は7.3%と1割未満となっています。

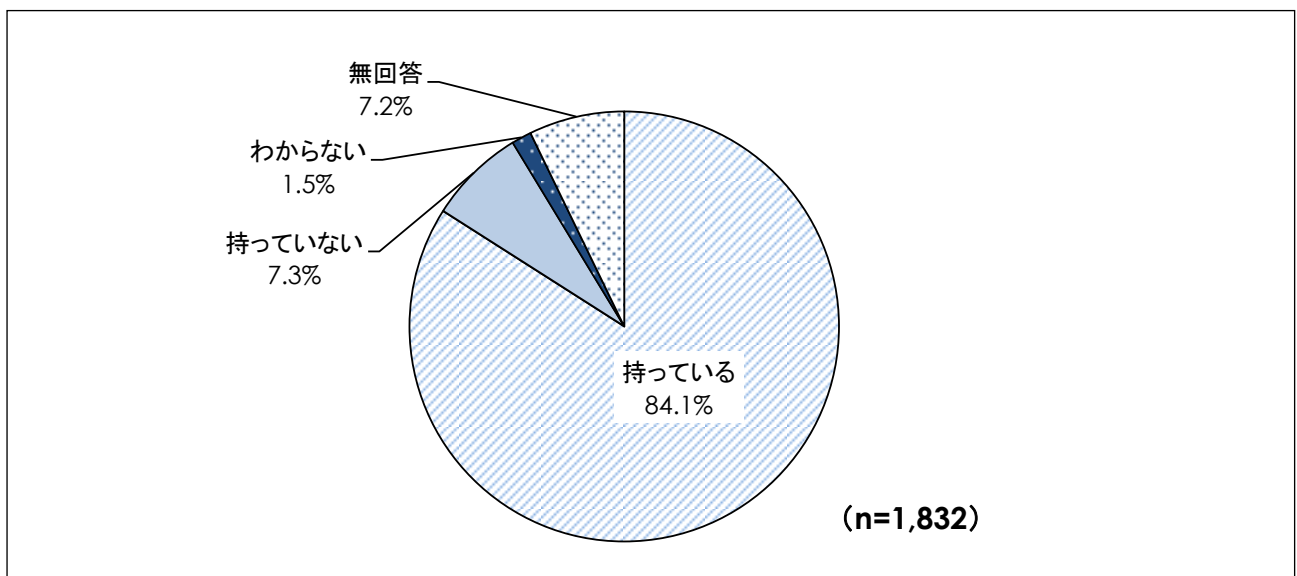
【属性別の傾向】

● 70歳以上84歳以下ではかかりつけ医を持っている人が約9割

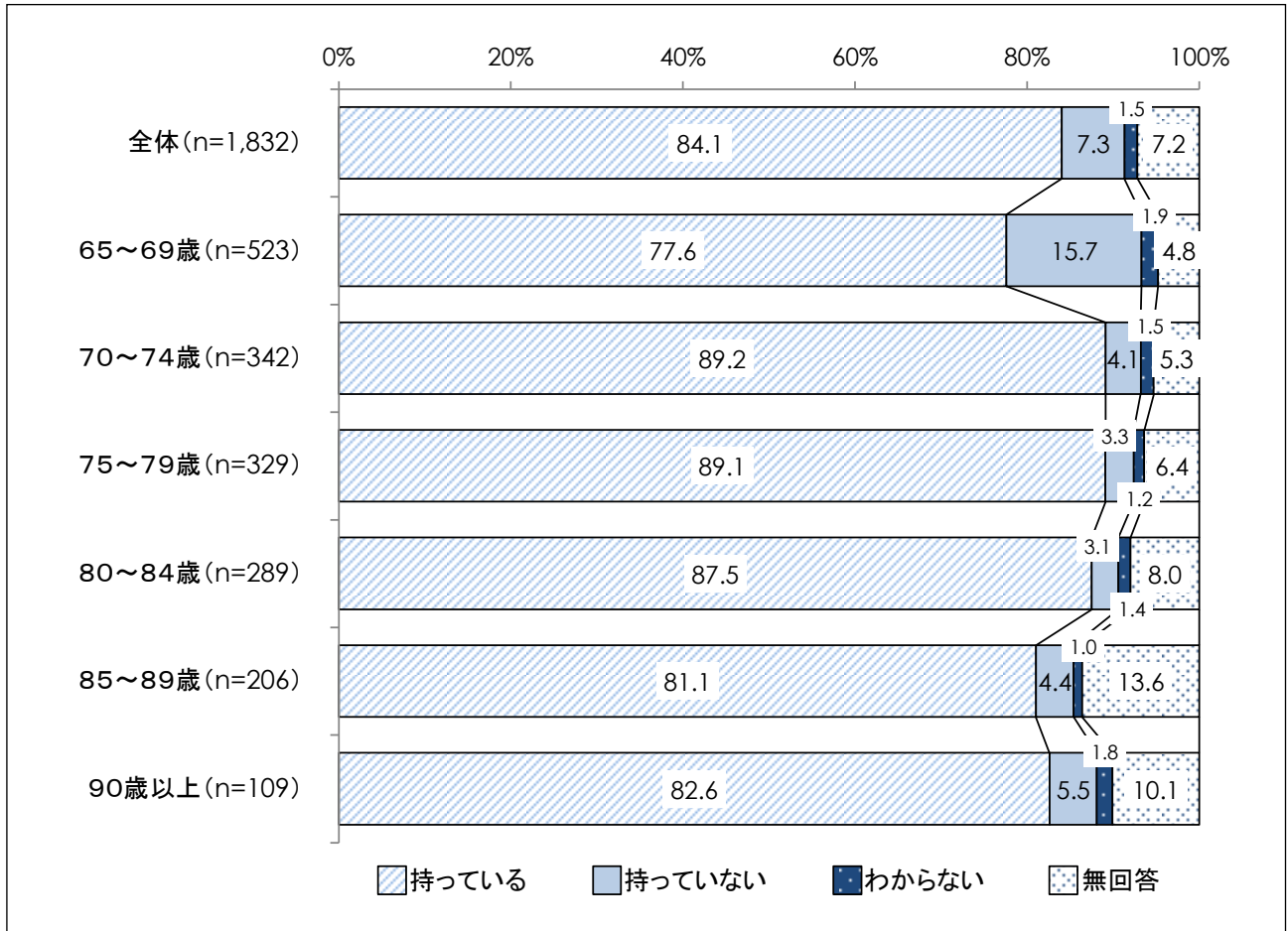
年齢階層別にみると、70歳以上84歳以下の年齢層では、「持っている」が約9割を占め、大半の人がかかりつけ医を持っています。

一方、65～69歳では「持っている」の割合が他の年齢層に比べて低く77.6%となっています。

図表 99 かかりつけ医の有無（全体）



図表 100 かかりつけ医の有無（全体、年齢階層別）



【問 73 で「2 持っていない」と回答した方】

問 73-1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

- かかりつけ医を持っていない主な理由は、医療機関に行く必要がない、近くに適切な医療機関がないなど

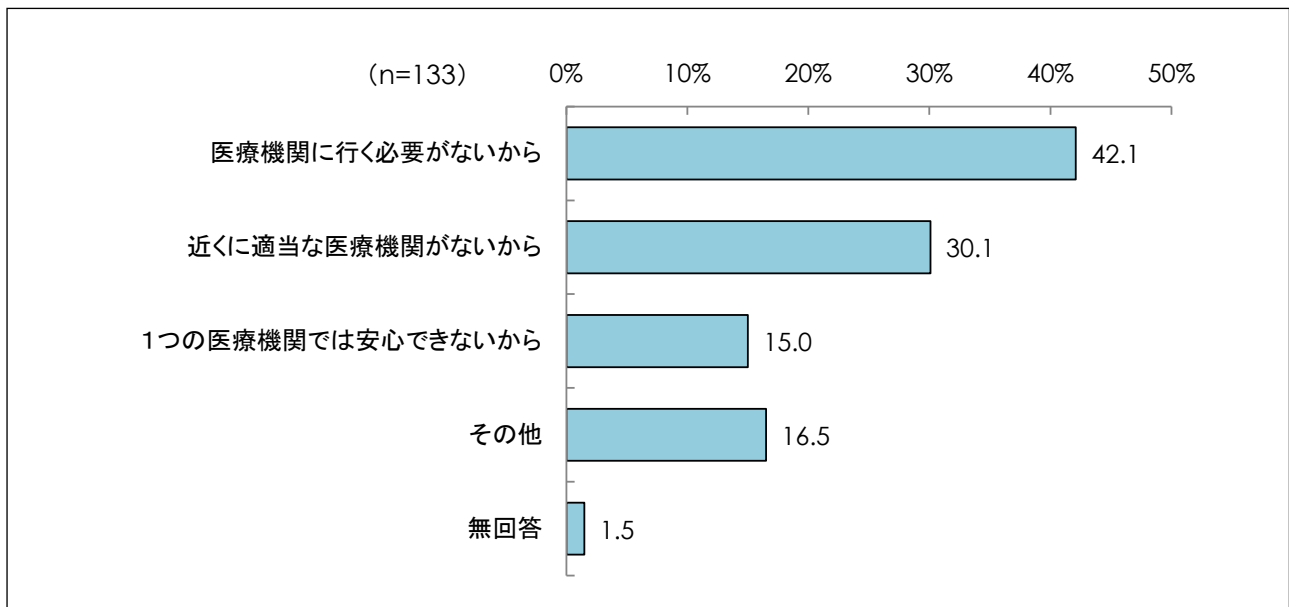
かかりつけ医を持っていないと回答した人に、持っていない理由をたずねたところ、「医療機関に行く必要がないから」が 42.1%と最も多く、次いで「近くに適切な医療機関がないから」（30.1%）、「1 つの医療機関では安心できないから」（15.0%）の順となっています。

【属性別の傾向】

- ほとんどの圏域で医療機関に行く必要がないから、近くに適切な医療機関がないからが上位

圏域別にみると、ほとんどの圏域で、「医療機関に行く必要がないから」や「近くに適切な医療機関がないから」が上位となっています。

図表 101 かかりつけ医を持っていない理由（全体／複数回答）



図表 102 かかりつけ医を持っていない理由（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=133)		医療機関に行く必要がないから 42.1	近くに適切な医療機関がないから 30.1	その他 16.5
日常生活圏域別	中央西 (n=13)	医療機関に行く必要がないから 46.2	近くに適切な医療機関がないから 38.5	1つの医療機関では安心できないから／その他 15.4
	中央東 (n=17)	医療機関に行く必要がないから 47.1	近くに適切な医療機関がないから 23.5	1つの医療機関では安心できないから／その他 11.8
	鶴尾 (n=2)	医療機関に行く必要がないから／その他 50.0		
	太田 (n=7)	医療機関に行く必要がないから 57.1	近くに適切な医療機関がないから 28.6	1つの医療機関では安心できないから 14.3
	一宮 (n=4)	その他 50.0	医療機関に行く必要がないから／近くに適切な医療機関がないから 25.0	
	香東 (n=5)	医療機関に行く必要がないから 60.0	近くに適切な医療機関がないから 40.0	1つの医療機関では安心できないから 20.0
	木太 (n=13)	医療機関に行く必要がないから 46.2	近くに適切な医療機関がないから 23.1	その他 15.4
	古高松 (n=13)	医療機関に行く必要がないから／近くに適切な医療機関がないから 38.5		1つの医療機関では安心できないから／その他 15.4
	屋島 (n=9)	医療機関に行く必要がないから 66.7	近くに適切な医療機関がないから／1つの医療機関では安心できないから／その他 11.1	
	協和 (n=4)	医療機関に行く必要がないから 50.0	1つの医療機関では安心できないから／その他 25.0	
	龍雲 (n=6)	医療機関に行く必要がないから／1つの医療機関では安心できないから 33.3		近くに適切な医療機関がないから／その他 16.7
	山田 (n=5)	近くに適切な医療機関がないから 60.0	医療機関に行く必要がないから／1つの医療機関では安心できないから 20.0	
	勝賀・下笠居 (n=9)	医療機関に行く必要がないから 44.4	近くに適切な医療機関がないから／1つの医療機関では安心できないから 22.2	
	塩江 (n=2)	その他 100.0	近くに適切な医療機関がないから 50.0	
	香川 (n=8)	近くに適切な医療機関がないから 37.5	医療機関に行く必要がないから／その他 25.0	
	香南 (n=4)	医療機関に行く必要がないから 50.0	近くに適切な医療機関がないから／その他 25.0	
	牟礼 (n=2)	近くに適切な医療機関がないから／1つの医療機関では安心できないから 50.0		
	庵治 (n=1)	近くに適切な医療機関がないから 100.0		
	国分寺 (n=8)	近くに適切な医療機関がないから 50.0	医療機関に行く必要がないから／1つの医療機関では安心できないから／その他 25.0	

（３）自分の最期を迎えたい場所

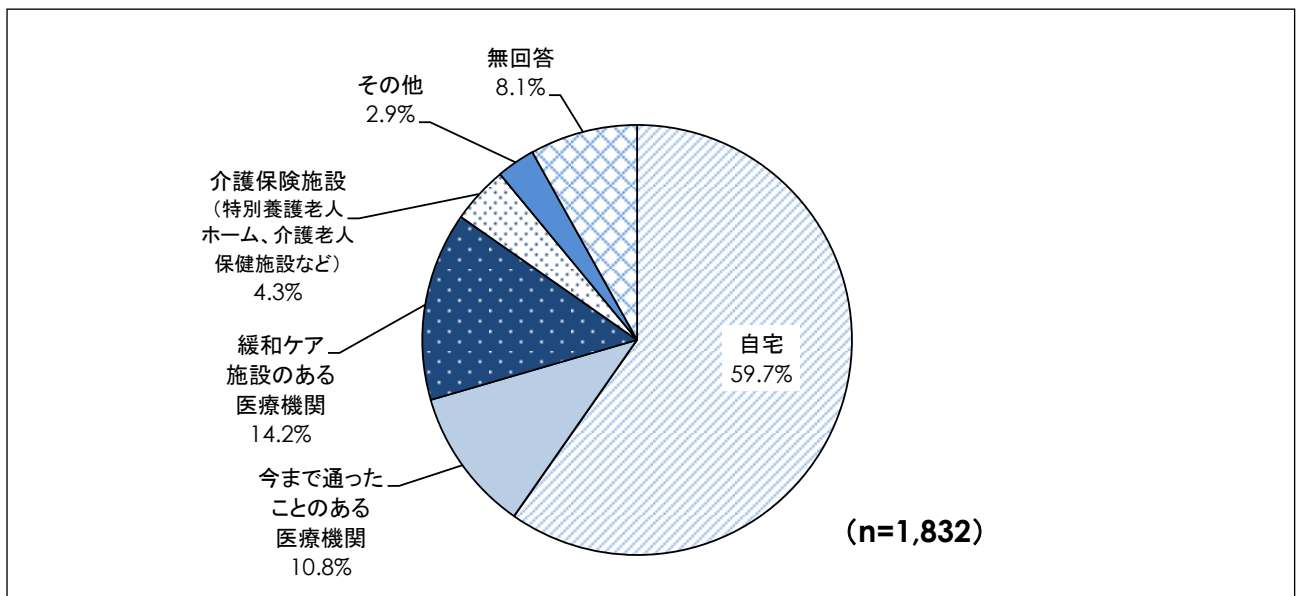
問 74 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●自宅以最期を迎えたい人が約６割を占める

自分の最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」が59.7%と最も高く、約6割の人が自宅以最期を迎えたいと考えています。次いで「緩和ケア施設のある医療機関」（14.2%）、「今まで通ったことのある医療機関」（10.8%）など医療機関での最期を迎えたい人が合計 25.0%、また「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」は 4.3%と最も低くなっています。

図表 103 自分の最期を迎えたい場所（全体）



（４）介護サービスの利用について

問 75 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

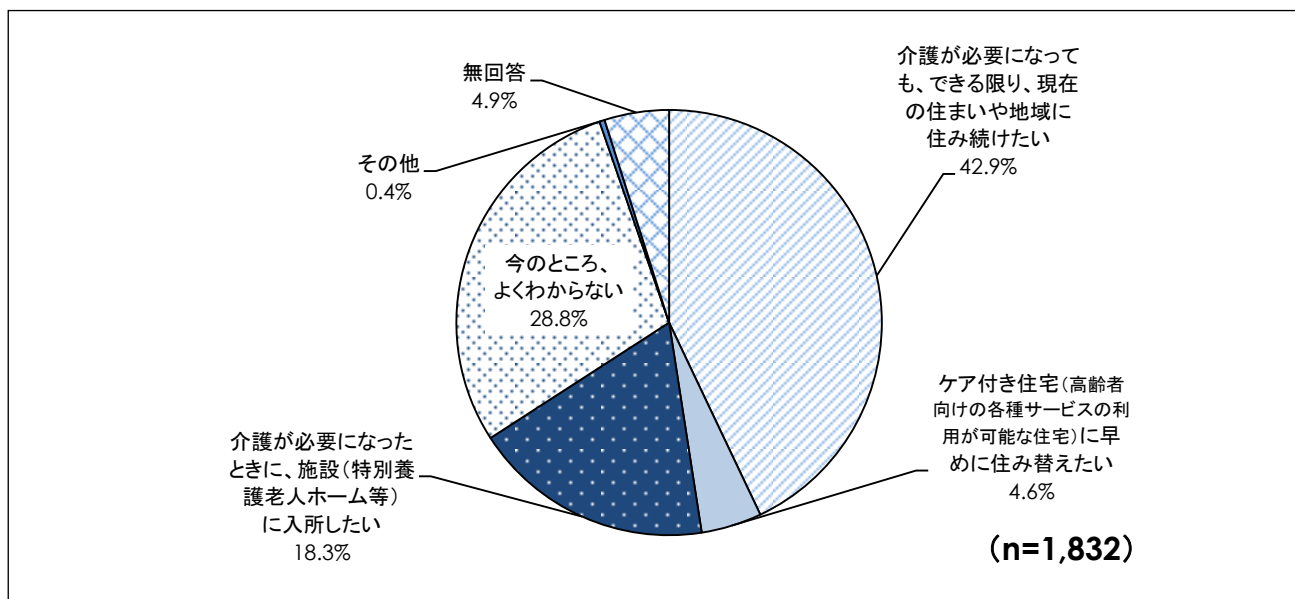
●将来は介護施設よりも現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い

将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が42.9%を占め、最も高くなっています。

また、「介護が必要になった時に、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」は18.3%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」は4.6%とその割合は低く、介護が必要になっても、施設やケア付き住宅に住まいを移すよりも、今の住まいや地域に住み続けたいと考えている人が多くなっています。

一方、「今のところ、よくわからない」は28.8%と約3割を占めています。

図表 104 将来の住まいと介護サービスの利用について（全体）



（５）超高齢社会や地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

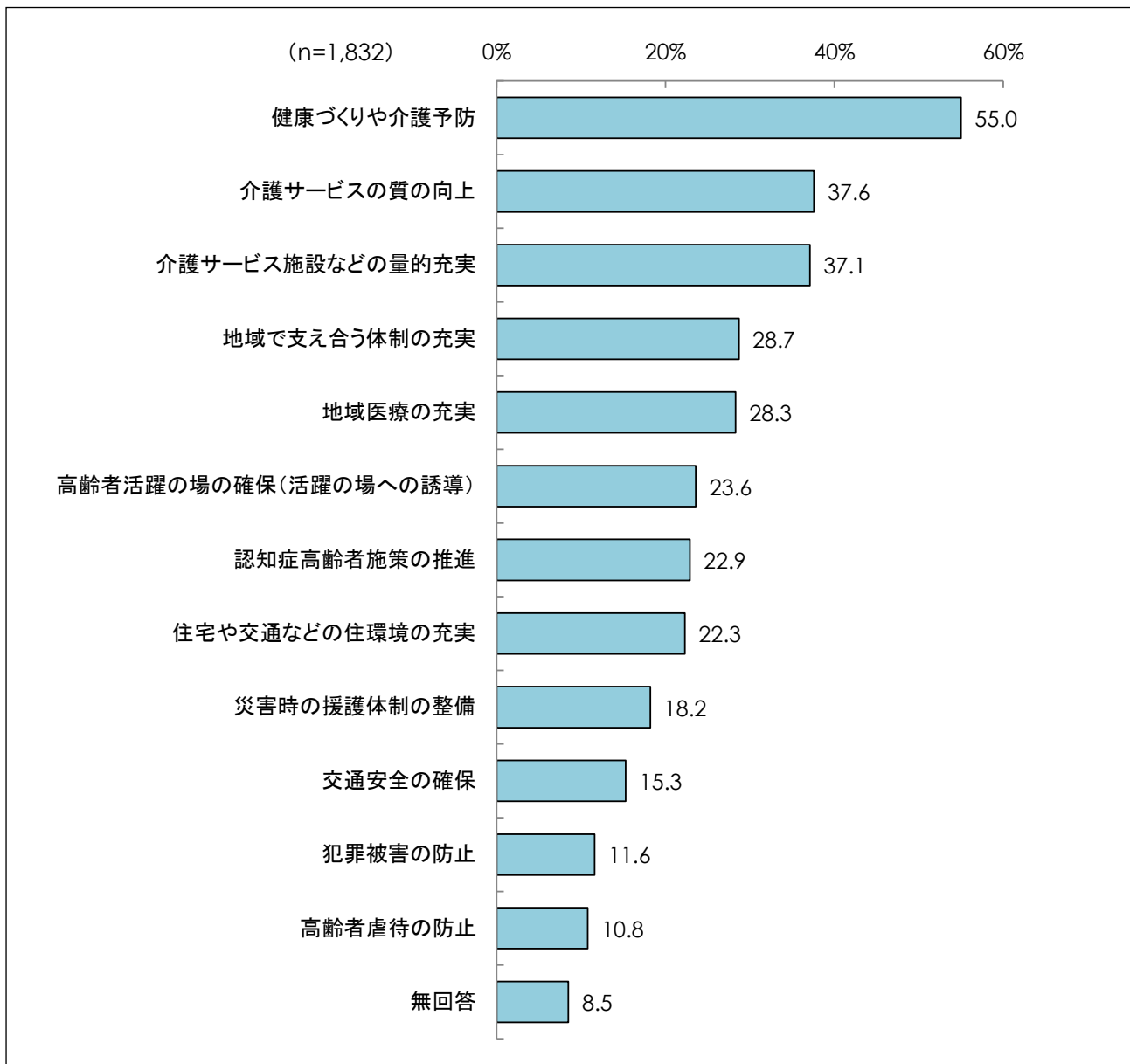
問 76 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●超高齢社会で重要な方策は健康づくりや介護サービスの質や施設の充実など

超高齢社会において重要と思われる方策についてたずねたところ、「健康づくりや介護予防」が55.0%と最も多くなっています。次いで「介護サービスの質の向上」（37.6%）、「介護サービス施設などの量的充実」（37.1%）、「地域で支え合う体制の充実」（28.7%）、「地域医療の充実」（28.3%）などが主な内容となっています。

図表 105 超高齢社会において重要な方策（全体／複数回答）

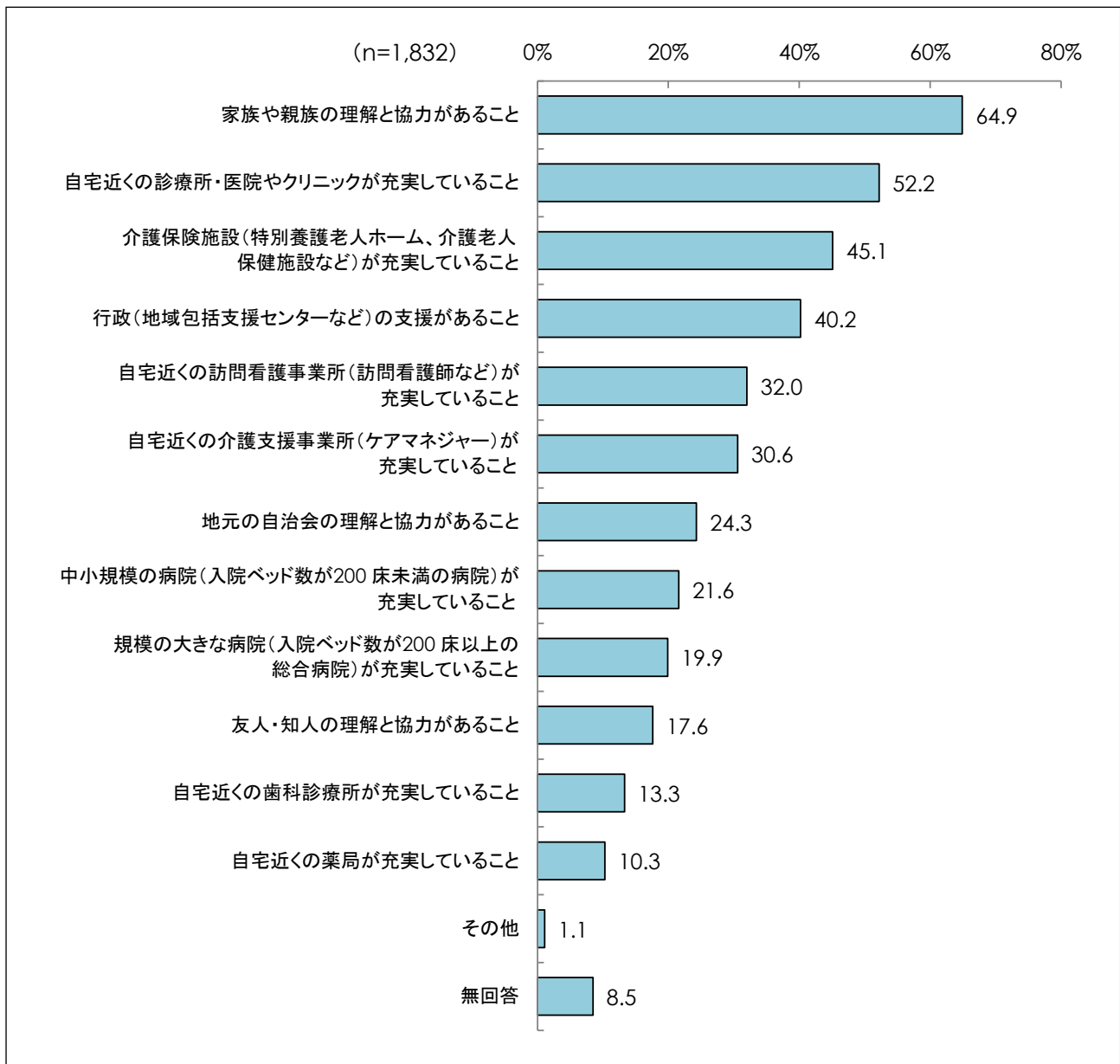


問 77 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことは家族や親族の理解と協力など
地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」が 64.9%と最も多く、次いで「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」（52.2%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」（45.1%）、「行政（地域包括支援センターなど）の支援があること」（40.2%）などとなっています。

図表 106 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと（全体／複数回答）



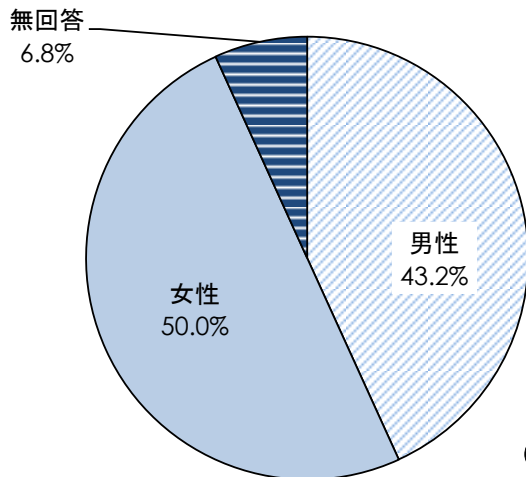
Ⅲ 調査結果 要介護認定者

(65歳以上)

1 回答者の属性

1 性別

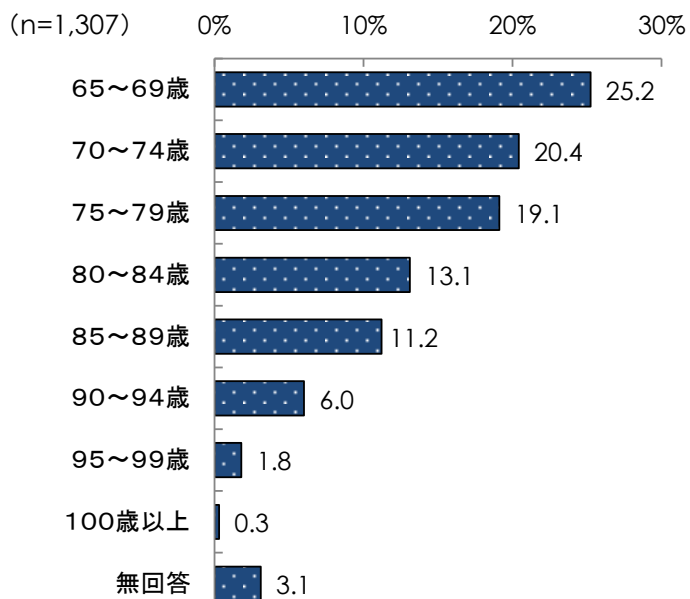
回答者の性別は、「男性」が 43.2%、「女性」が 50.0%となっており、女性が 6.8 ポイント上回っています。



	回答数(人)	構成比(%)
男性	565	43.2
女性	653	50.0
無回答	89	6.8
合計	1,307	100.0

2 年齢構成

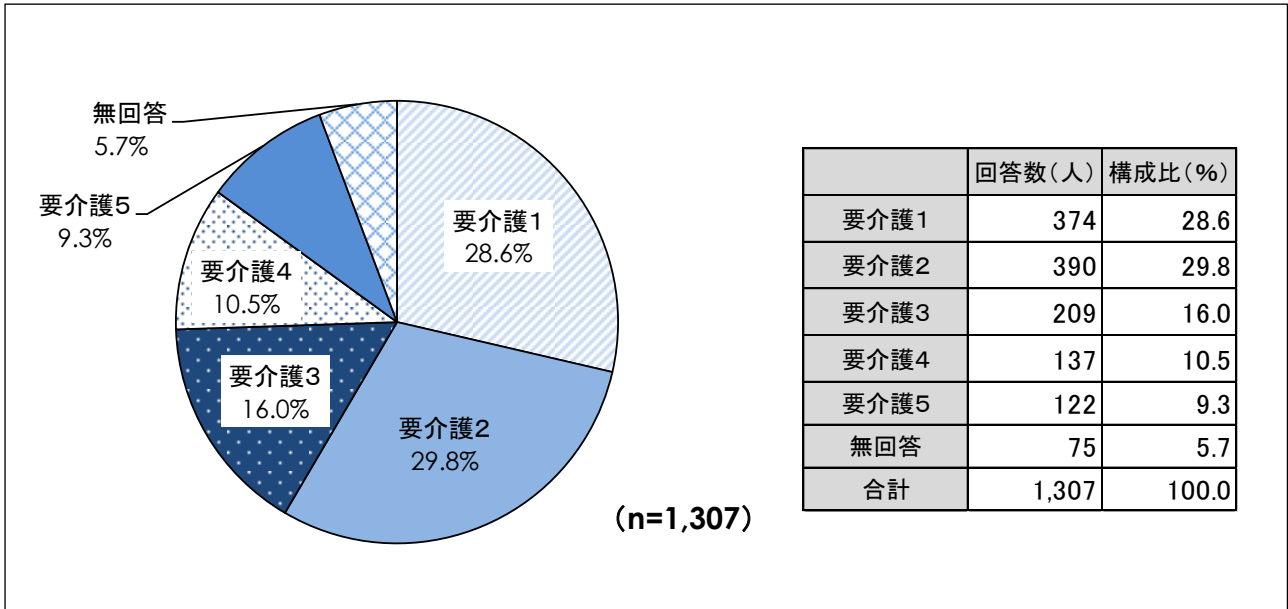
回答者の年齢は、「65～69歳」が 25.2%で最も多く、次いで「70～74歳」(20.4%)、「75～79歳」(19.1%)となっています。



	回答数(人)	構成比(%)
65～69歳	329	25.2
70～74歳	266	20.4
75～79歳	249	19.1
80～84歳	171	13.1
85～89歳	146	11.2
90～94歳	78	6.0
95～99歳	23	1.8
100歳以上	4	0.3
無回答	41	3.1
合計	1,307	100.0

3 認定状況

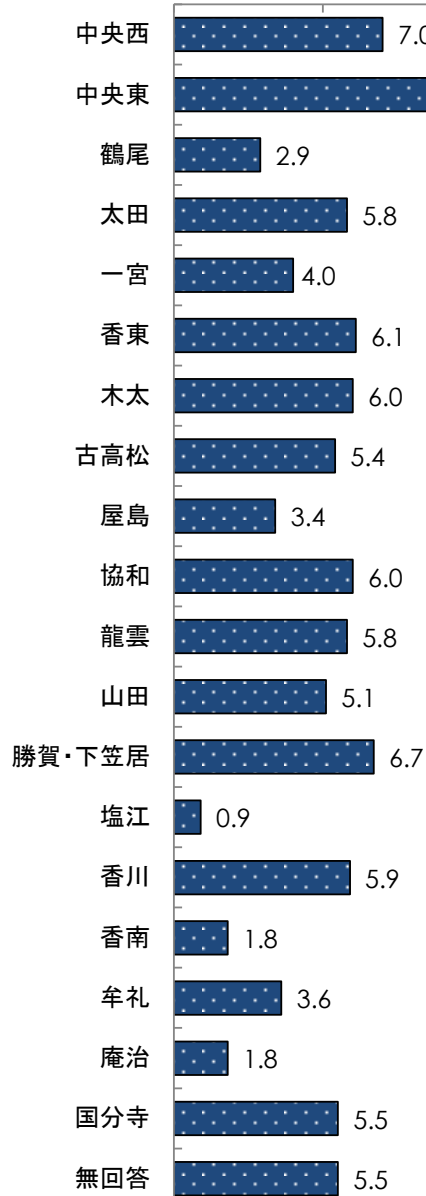
回答者の認定状況をみると、「要介護2」の認定を受けている人が29.8%と最も多く、次いで「要介護1」（28.6%）、「要介護3」（16.0%）、「要介護4」（10.5%）、「要介護5」（9.3%）となっています。



4 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域をみると、「中央東」が 10.7%と最も多く、次いで「中央西」（7.0%）、「勝賀・下笠居」（6.7%）などとなっています。

(n=1,307) 0% 5% 10% 15%



	回答数(人)	構成比(%)
中央西	92	7.0
中央東	140	10.7
鶴尾	38	2.9
太田	76	5.8
一宮	52	4.0
香東	80	6.1
木太	79	6.0
古高松	70	5.4
屋島	45	3.4
協和	78	6.0
龍雲	76	5.8
山田	67	5.1
勝賀・下笠居	87	6.7
塩江	12	0.9
香川	77	5.9
香南	23	1.8
牟礼	47	3.6
庵治	24	1.8
国分寺	72	5.5
無回答	72	5.5
合計	1,307	100.0

2 家族や生活状況について

（１）家族構成について

問１ 家族構成をお教えてください。【○は１つ】

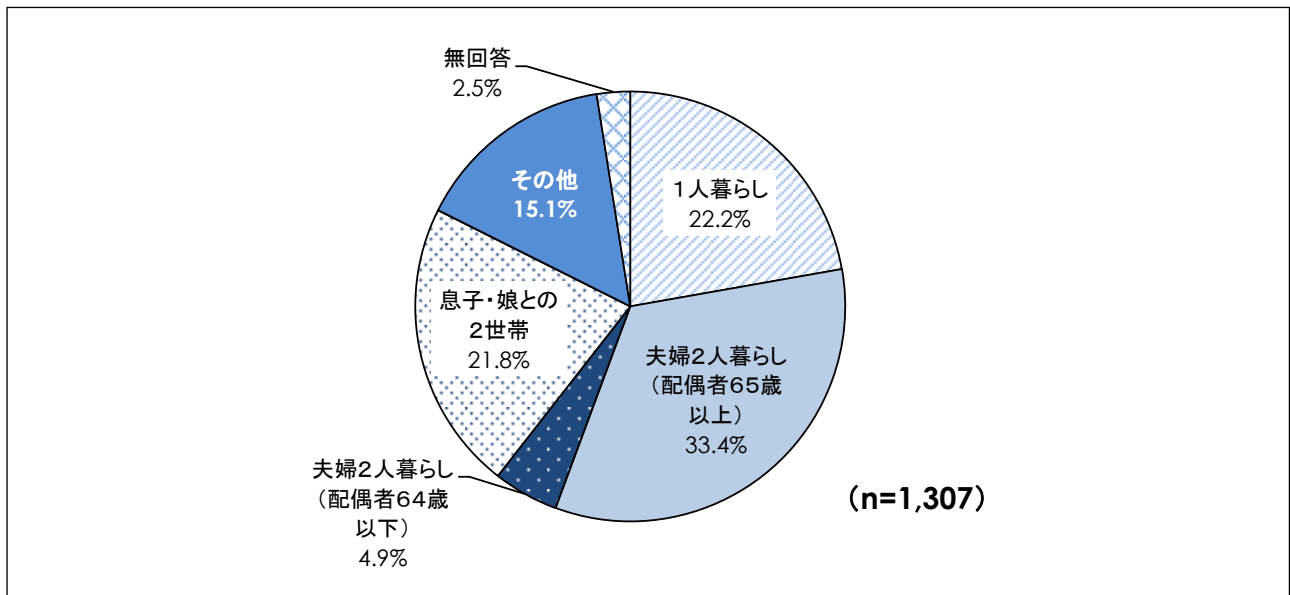
【全体の傾向】

- 配偶者 65 歳以上の夫婦 2 人暮らしが約 3 割、1 人暮らしが約 2 割を占める
家族構成をたずねたところ、全体では「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 33.4%と最も高く、「1 人暮らし」は 22.2%、「息子・娘との 2 世帯」は 21.8%と約 2 割を占めています。

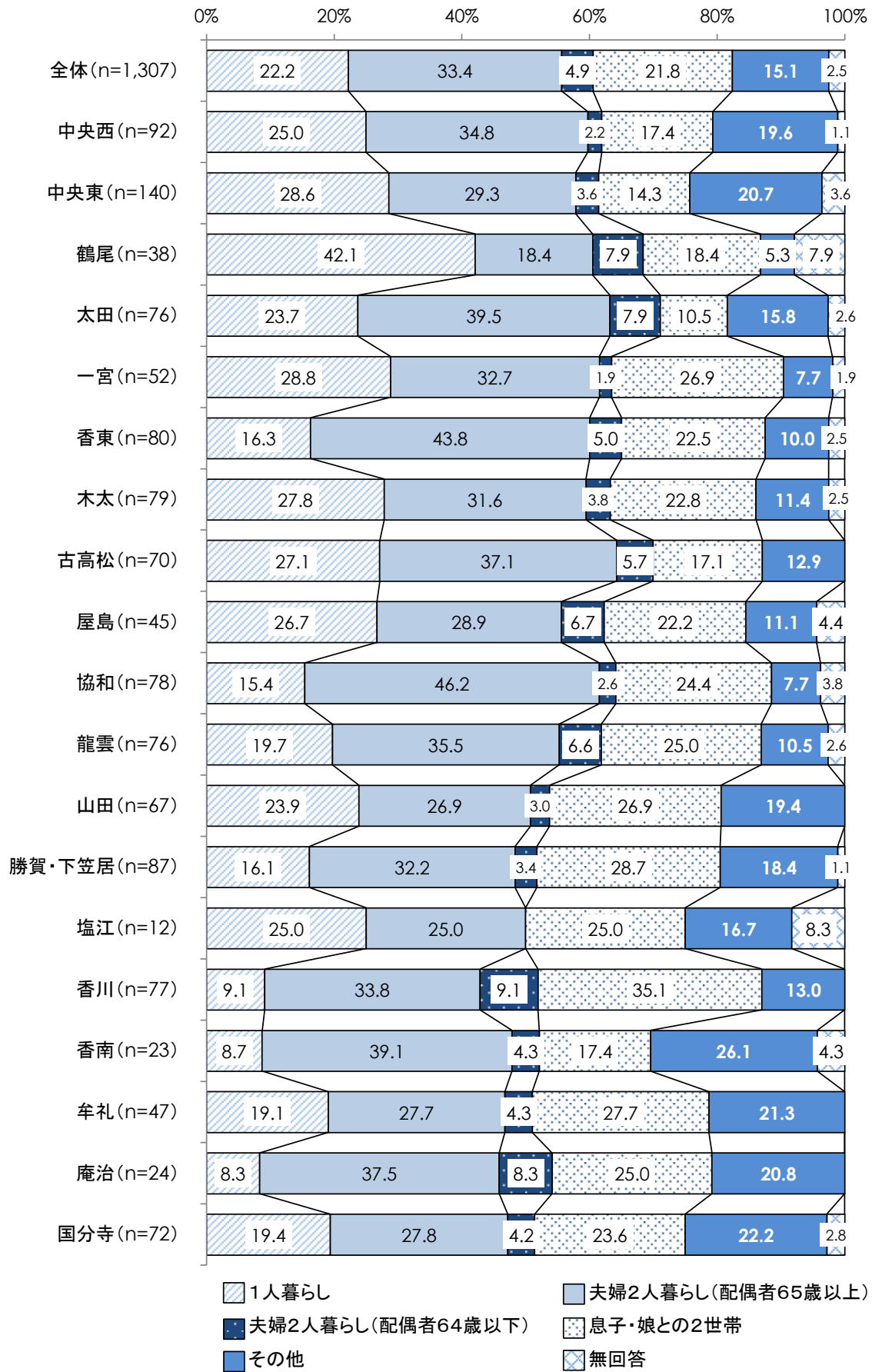
【属性別の傾向】

- 鶴尾では「1 人暮らし」、香川では「息子・娘との 2 世帯」が最も多い
圏域別にみると、ほとんどの地区で「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の回答が最も多い傾向は全体と同様となっています。
一方、「1 人暮らし」の割合は鶴尾で 42.1%、また「息子・娘との 2 世帯」の割合は、香川で 35.1%となっており、他の圏域よりも高くなっています。

図表 107 家族構成について（全体）



図表 108 家族構成について（全体、日常生活圏域別）



（２）介護・介助の状況について

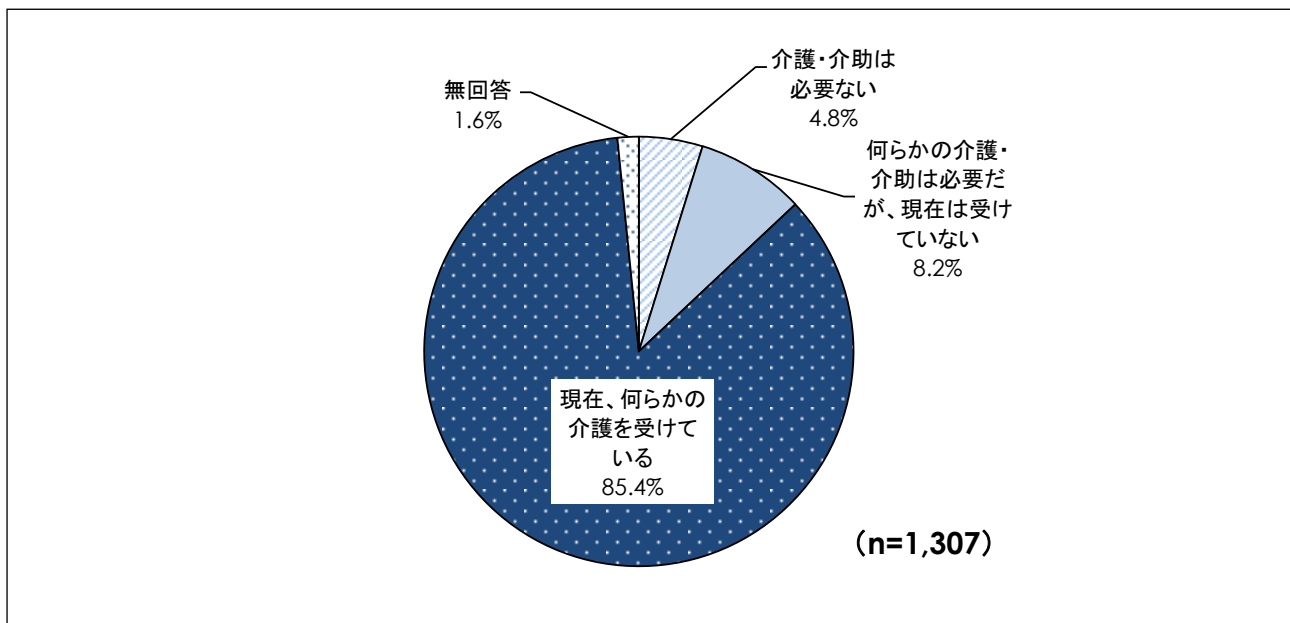
問２ あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●現在介護を受けている人が８割以上

普段の生活における介護・介助の必要性についてたずねたところ、85.4%が「現在、何らかの介護を受けている」と回答しており、大半を占めています。

図表 109 介護・介助の必要性（全体）



【問2において「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方】

問 2-1 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●介護・介助が必要になった主な原因は脳卒中や認知症、骨折・転倒など

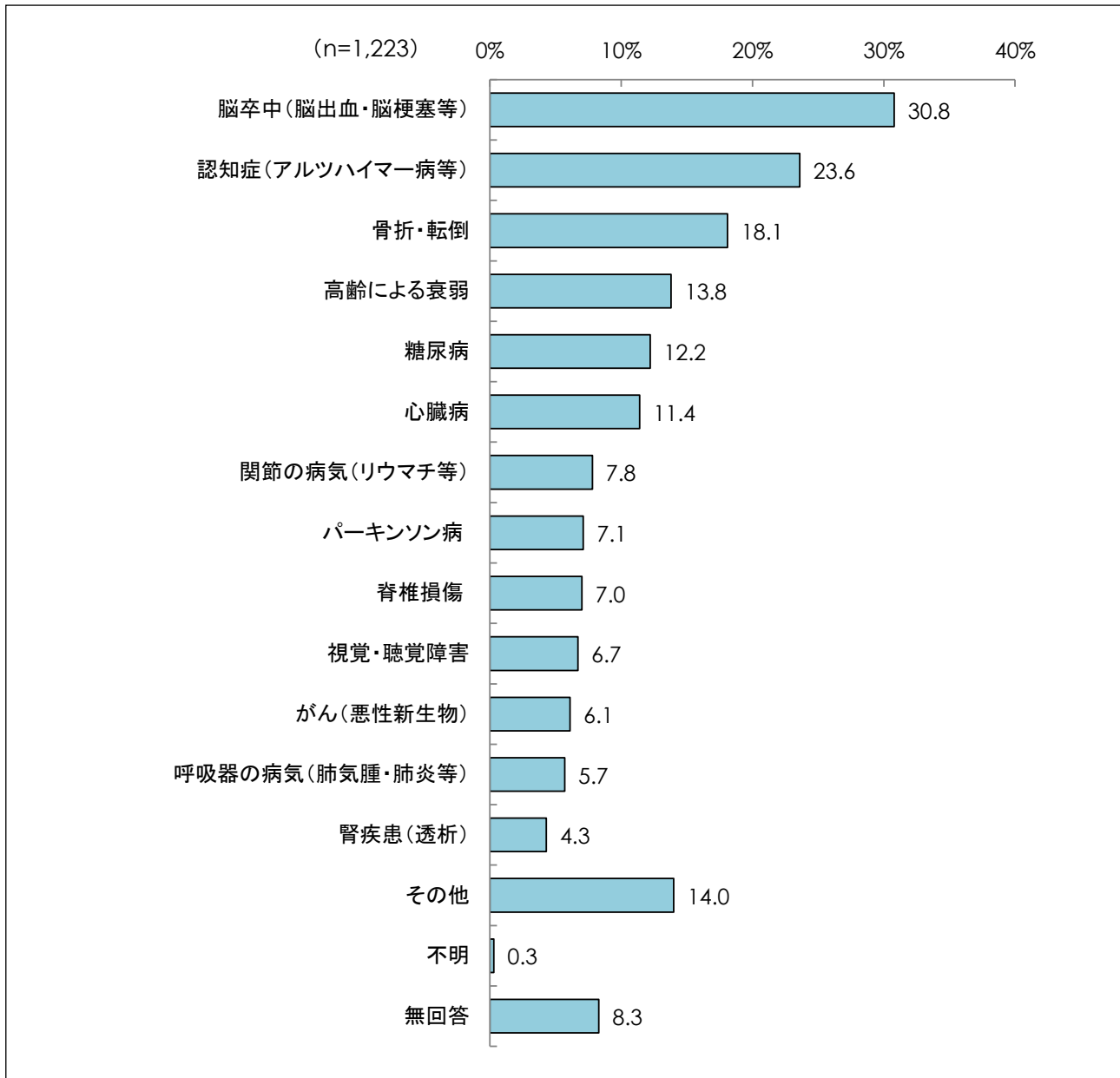
介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が 30.8%と最も多くなっています。次いで「認知症（アルツハイマー病等）」（23.6%）、「骨折・転倒」（18.1%）、「高齢による衰弱」（13.8%）、「糖尿病」（12.2%）などとなっています。

【属性別の傾向】

●65 歳から 79 歳では脳卒中、80 歳から 89 歳までは認知症などが主な原因

年齢階層別にみると、65 歳から 79 歳までの年齢階層では「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が第 1 位となっています。また、80 歳から 89 歳までは「認知症（アルツハイマー病等）」が第 1 位、90 歳以上では「高齢による衰弱」が第 1 位となっており、それぞれの年齢階層で順位に違いがみられます。

図表 110 介護・介助が必要になった主な原因（全体／複数回答）



図表 111 介護・介助が必要になった主な原因（全体、年齢階層別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,223)		脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	認知症(アルツハイマー病等)	骨折・転倒
		30.8	23.6	18.1
年齢階層別	65～69歳 (n=311)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	その他	認知症(アルツハイマー病等)
		44.7	17.4	13.2
	70～74歳 (n=250)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	認知症(アルツハイマー病等)	その他
		36.0	22.0	18.4
	75～79歳 (n=226)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	認知症(アルツハイマー病等)	骨折・転倒
		27.9	26.5	15.9
	80～84歳 (n=158)	認知症(アルツハイマー病等)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)／骨折・転倒	
		27.2	24.1	
	85～89歳 (n=139)	認知症(アルツハイマー病等)	高齢による衰弱	骨折・転倒
		31.7	30.2	28.1
	90歳以上 (n=139)	高齢による衰弱	骨折・転倒	認知症(アルツハイマー病等)
		41.0	33.8	33.1

【問2において「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方】

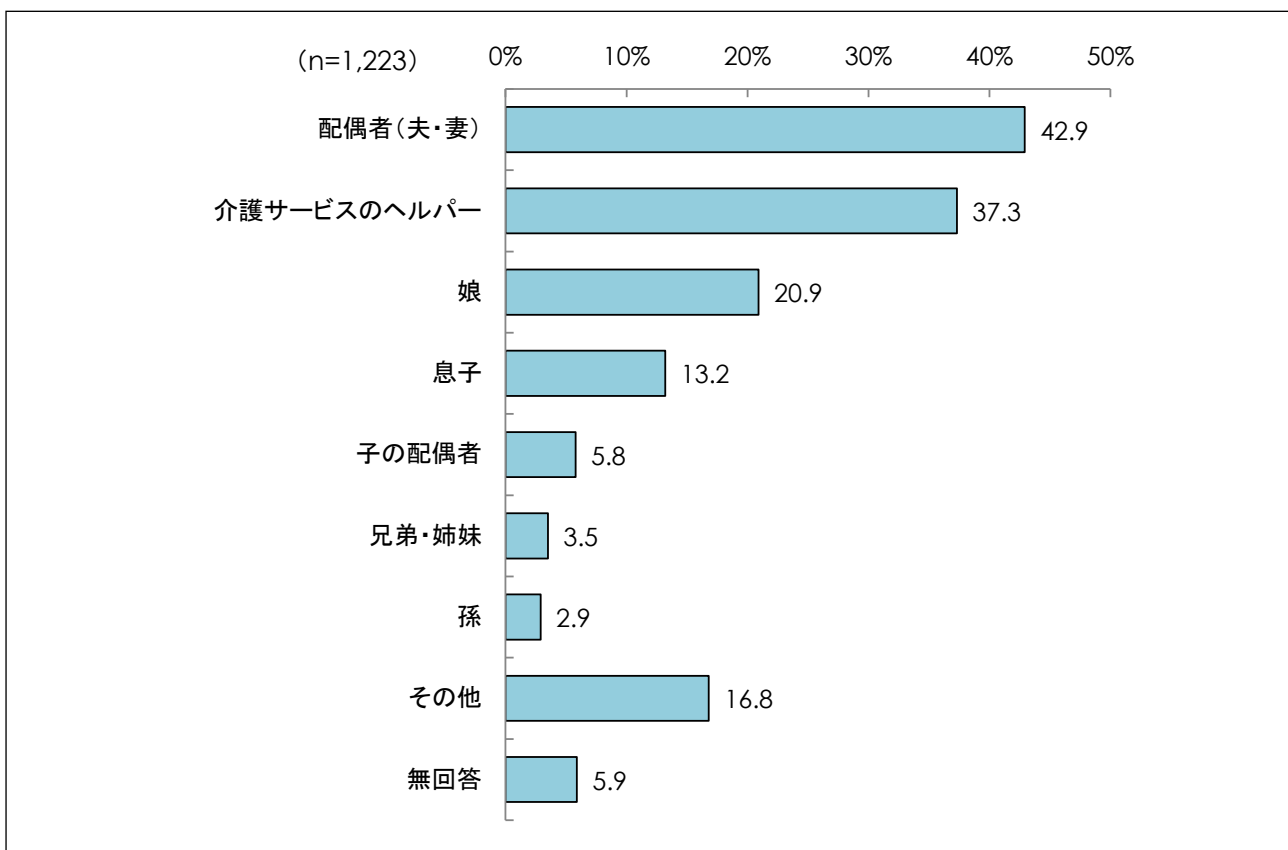
問 2-2 主にどなたの介護、介助をうけていますか【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●配偶者、介護サービスのヘルパーなどが主な介護・介助者となっている

介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、主な介護・介助者についてたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が 42.9%と最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」（37.3%）、「娘」（20.9%）、「息子」（13.2%）、「子の配偶者」（5.8%）が主な介護・介助者となっています。

図表 112 主な介護・介助者（全体／複数回答）



（３）現在の経済状況

問３ 現在の暮らしの状況を経済的にみて、どう感じていますか。【〇は１つ】

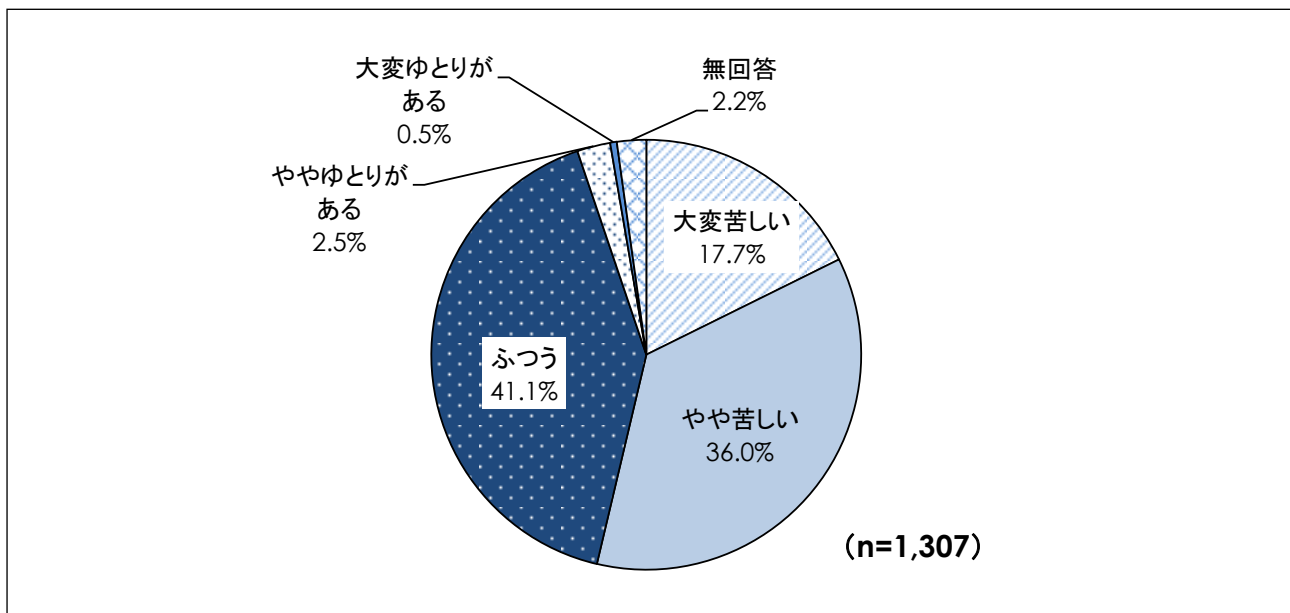
【全体の傾向】

●経済状況が苦しいと感じている人が５割を超える

現在の暮らしの経済状況をたずねたところ、「ふつう」が41.1%と最も高くなっていますが、第2位の「やや苦しい」（36.0%）との差はわずか5.1ポイントとなっています。

また、「大変苦しい」（17.7%）と「やや苦しい」（36.0%）を合計した『苦しい』は53.7%と5割を超えており、半数以上の人々が経済状況は『苦しい』と感じています。

図表 113 現在の経済状況について（全体）



（４）住まいの状況

問４ お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●全体の 11.9%が特別養護老人ホームや施設へ入居している

住まいの状況をたずねたところ、「持家（一戸建て）」が 64.6%と最も高くなっています。

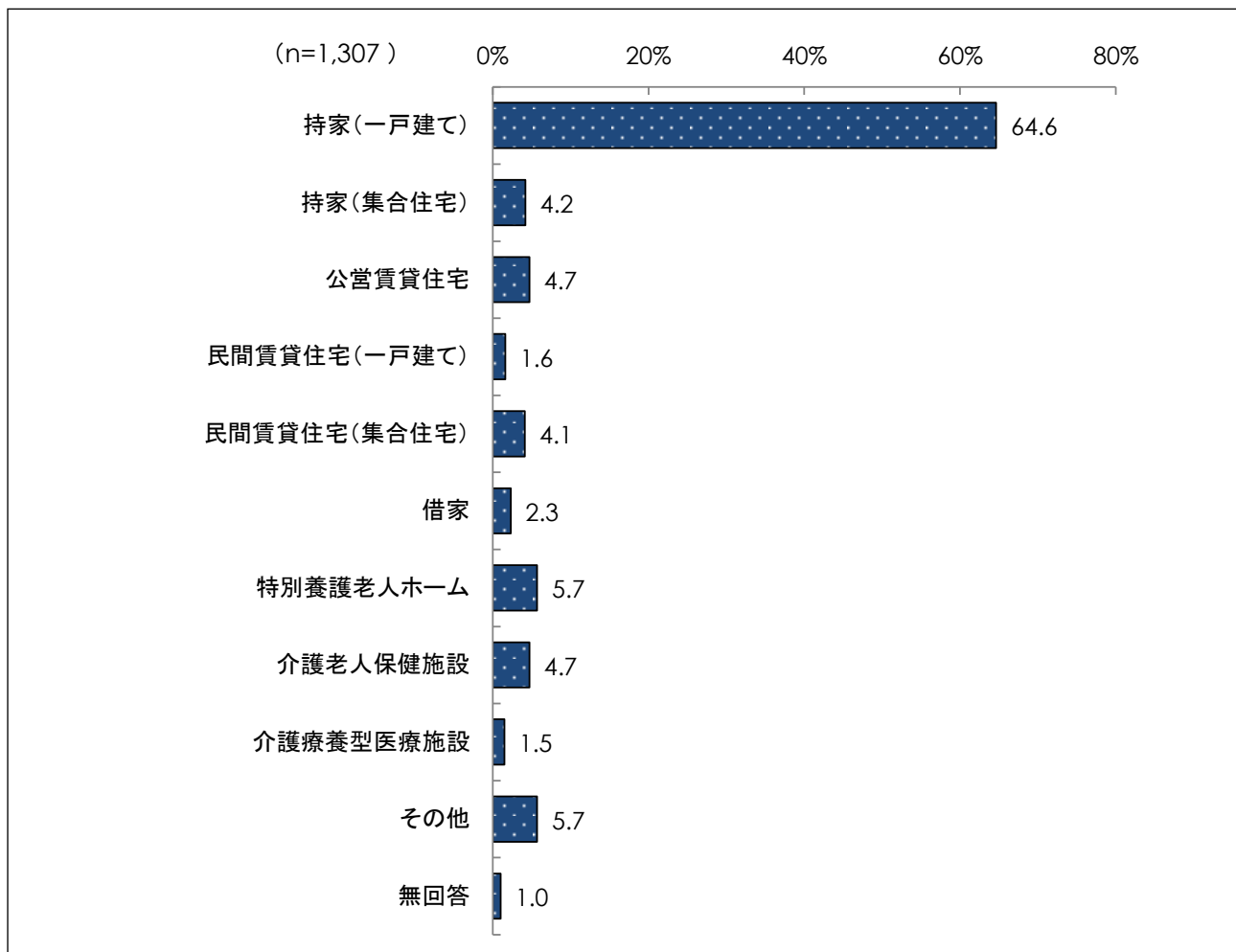
一方、「特別養護老人ホーム」は 5.7%、「介護老人保健施設」は 4.7%、「介護療養型医療施設」は 1.5%となっており、施設等に入居している人は全体の 11.9%を占めています。

【属性別の傾向】

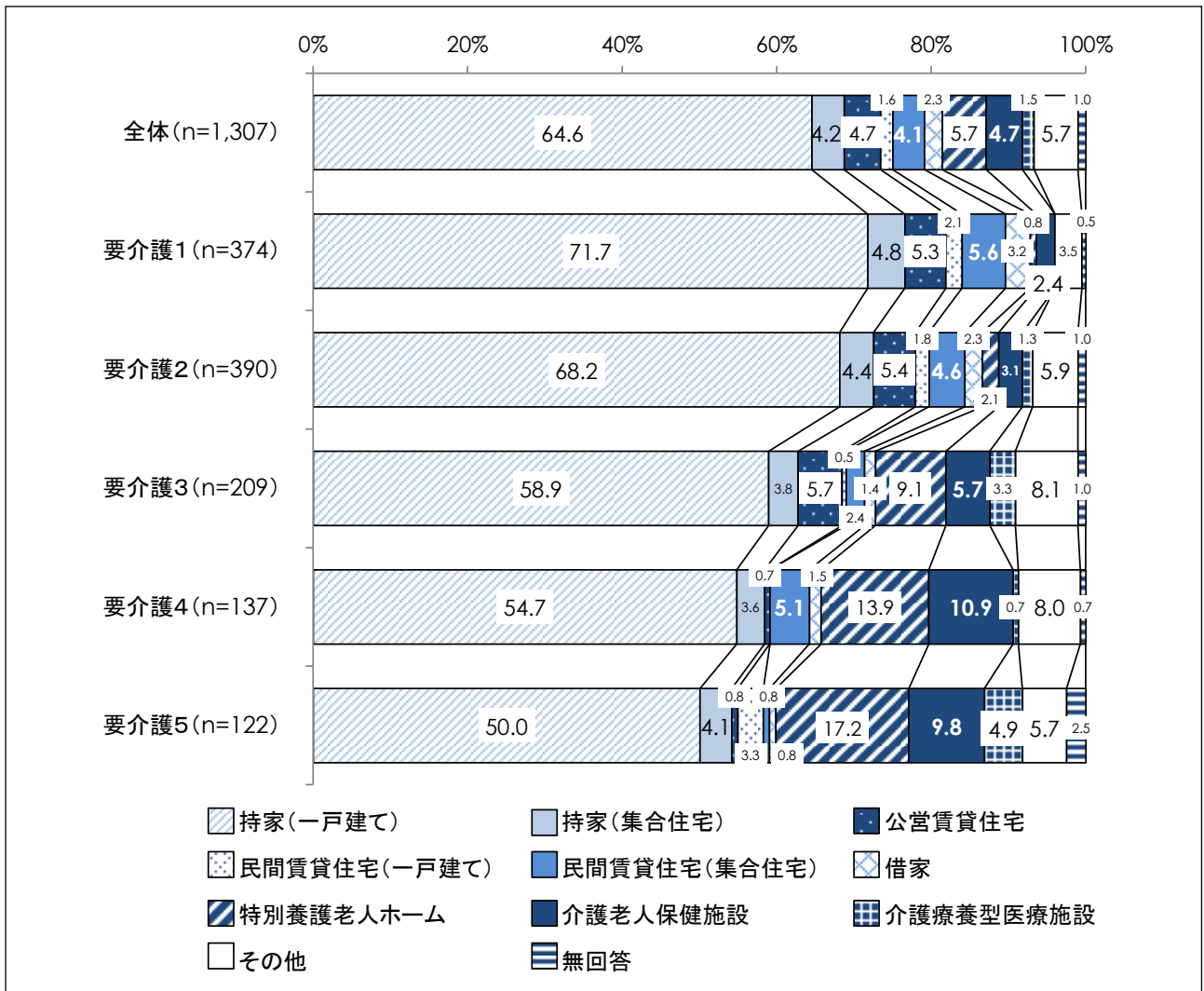
●介護度が上がるにつれ特別養護老人ホームの利用者が増加傾向

要介護度別にみると、要介護度が上がるにつれ「持家（一戸建て）」の割合は減少し、「特別養護老人ホーム」の割合は増加しています。

図表 114 住まいの状況について（全体）



図表 115 住まいの状況について（全体、要介護度別）



（１）介護保険在宅サービスの利用状況と今後の利用意向

【問４で住まいとして「１持家（一戸建て）」「２持家（集合住宅）」「３公営賃貸住宅」「４民間賃貸住宅（一戸建て）」「５民間賃貸住宅（集合住宅）」「６借家」「１０ その他」と回答した方】

問４－１ 次の介護保険在宅サービス（平成２８年４月１日現在）について、現在の利用状況と今後の利用意向をお聞きます。全てのサービスについて、それぞれに当てはまるものを選んでください。【○は１つずつ】

【現在の利用状況】

介護サービスについて「利用している」割合が高いサービスは、⑩福祉用具の貸与（50.2%）、⑥通所介護（デイサービス）（47.5%）、⑫住宅改修費の支給（36.7%）、⑦通所リハビリテーション（デイケア）（33.2%）、⑪福祉用具の購入（25.7%）、①訪問介護（ホームヘルプサービス）（23.4%）などとなっています。

【今後の利用意向】

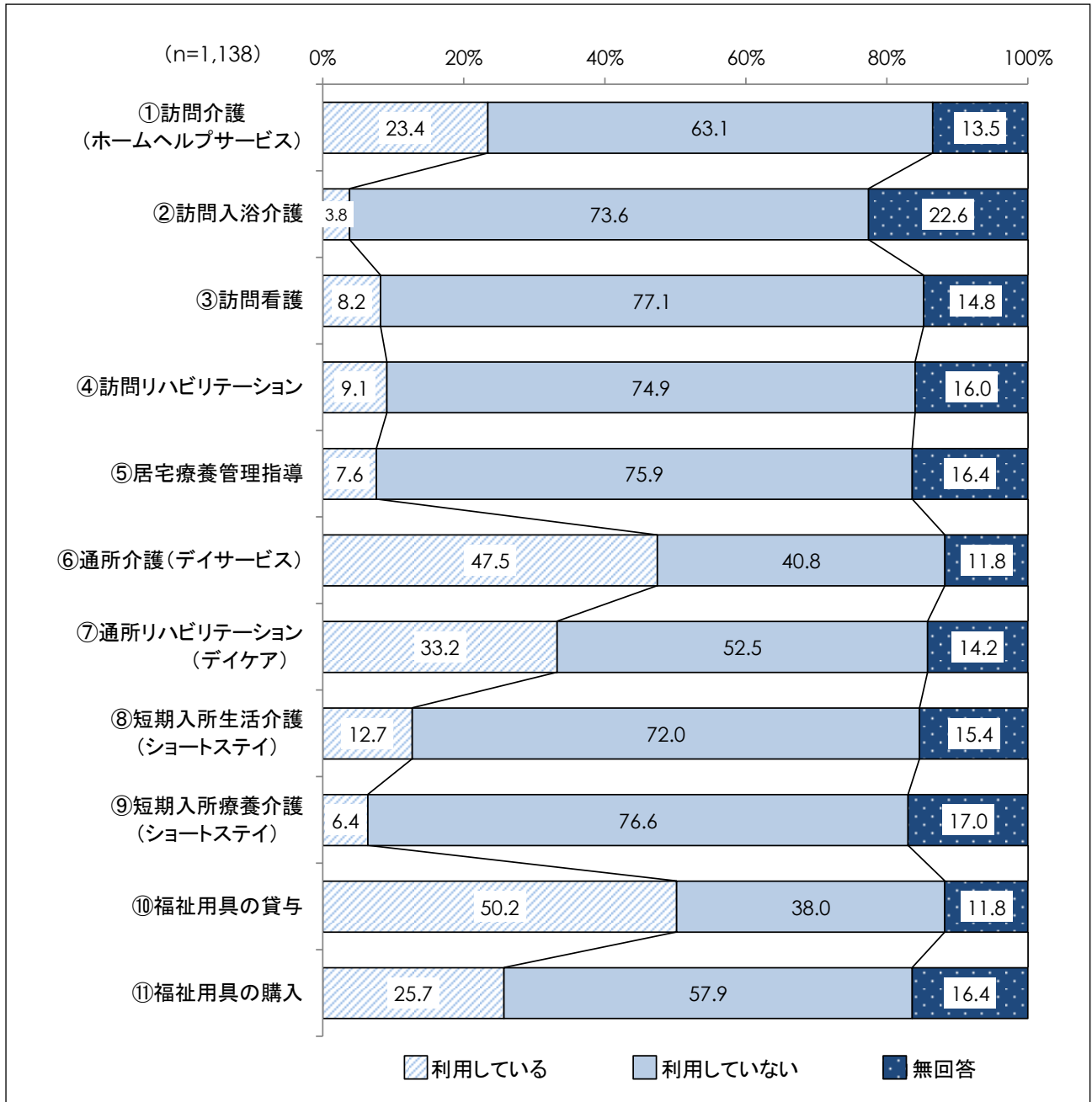
今後の利用意向として、「利用したい」割合が高いサービスは⑩福祉用具の貸与（47.5%）、⑥通所介護（デイサービス）（43.9%）、⑫住宅改修費の支給（40.7%）、⑦通所リハビリテーション（デイケア）（37.8%）、⑪福祉用具の購入（37.6%）などとなっています。

【利用状況別利用意向】

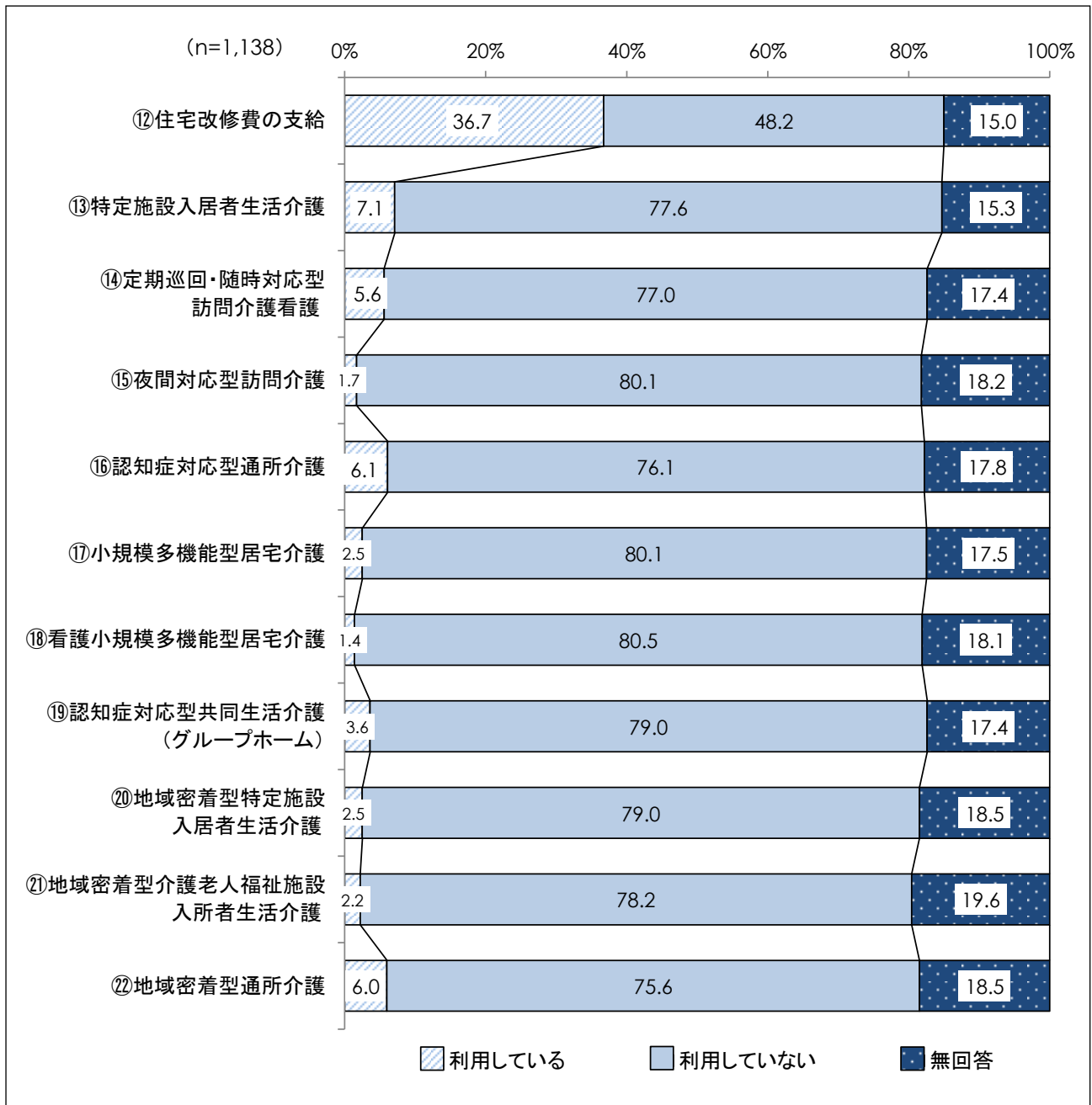
それぞれの在宅サービスの利用状況別に、そのサービスを「利用したい」と回答した人の割合をみると、現在サービスを利用している人が、今後も利用したいとの回答が多いサービスは、⑩福祉用具の貸与（70.1%）、⑥通所介護（デイサービス）（69.8%）、⑧短期入所生活介護（ショートステイ）（69.4%）などとなっています。

また、現在サービスを利用していない人が、今後は利用したいとの回答が多かったサービスは、⑪福祉用具の購入（31.9%）、⑫住宅改修費の支給（31.1%）、⑩福祉用具の貸与（29.6%）となっています。

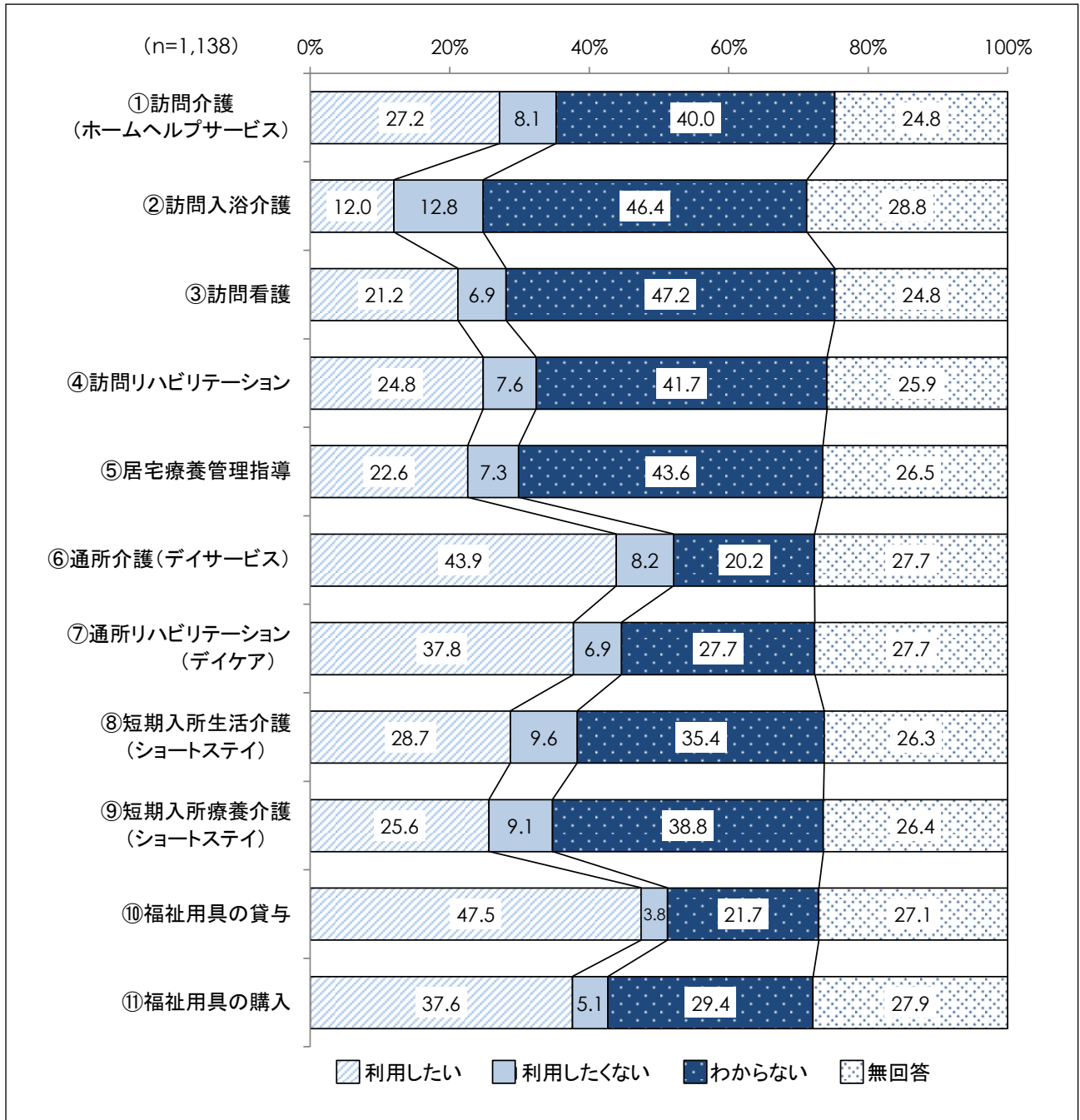
図表 116 介護保険在宅サービスの現在の利用状況（全体 ①～⑪）



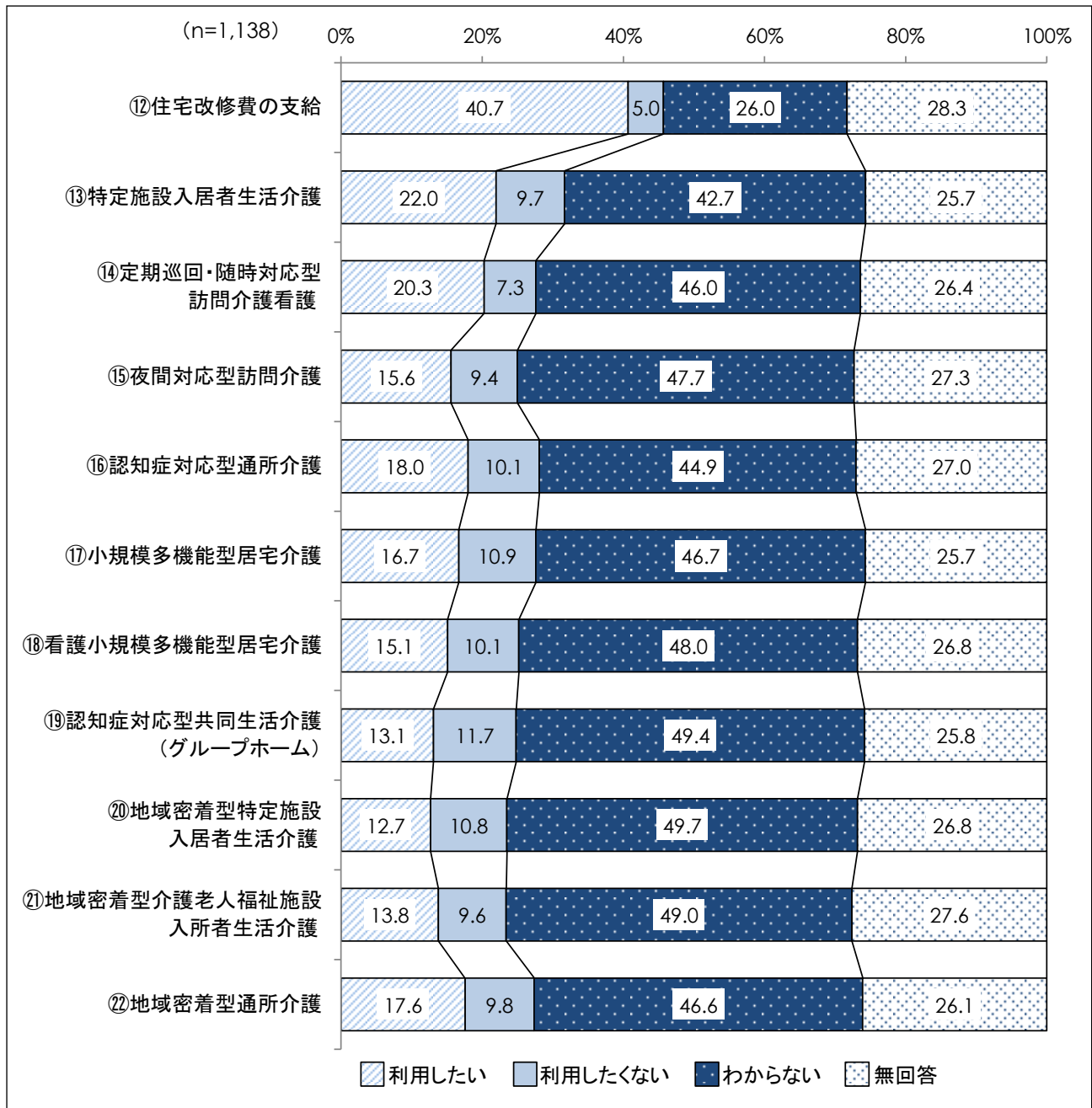
図表 117 介護保険在宅サービスの現在の利用状況（全体 ⑫～㉒）



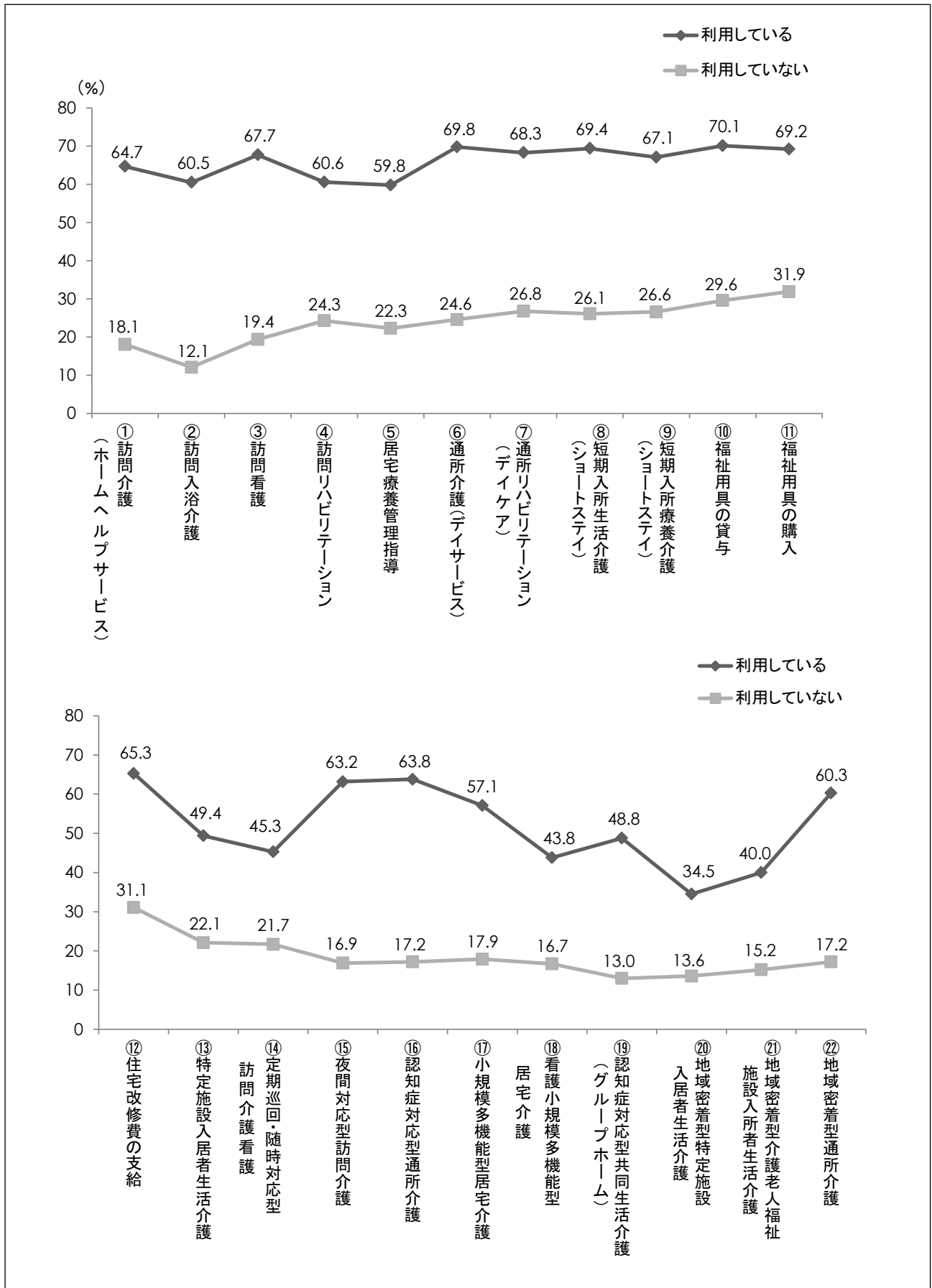
図表 118 介護保険在宅サービスの今後の利用意向（全体 ①～⑪）



図表 119 介護保険在宅サービスの今後の利用意向（全体 ⑫～㉓）



図表 120 介護保険在宅サービスの現在の利用状況別利用意向（全体）



【問4で住まいとして「1 持家（一戸建て）」「2 持家（集合住宅）」「3 公営賃貸住宅」「4 民間賃貸住宅（一戸建て）」「5 民間賃貸住宅（集合住宅）」「6 借家」「10 その他」と回答した方】

問4-2 次の高齢者のための在宅福祉サービスについて、今後、事業の必要性などを検証する際の参考とするため、あなたのご意見をお聞かせください。全てのサービスについて、それぞれに当てはまるものを選んで1～5の数字1つを○で囲ってください。【○は1つずつ】

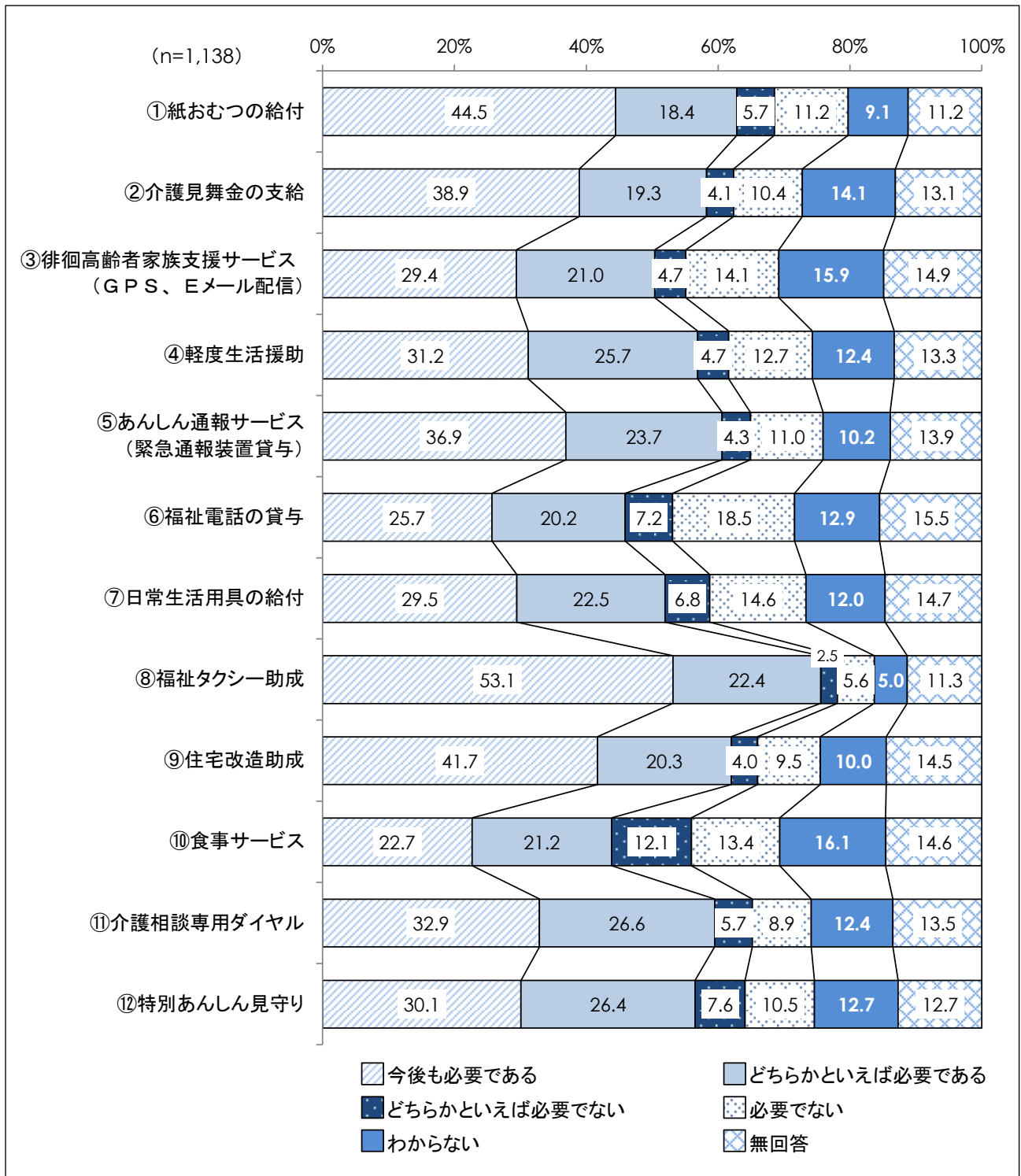
【全体の傾向】

●必要性の高い在宅福祉サービスは福祉タクシー助成、紙おむつの給付、住宅改造助成

在宅福祉サービスの必要性についてたずねたところ、「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」の割合を合計した『必要である』の割合が高いサービスは、⑧福祉タクシー助成（75.5%）、①紙おむつの給付（62.9%）、⑨住宅改造助成（62.0%）、⑤あんしん通報サービス（緊急通報装置貸与）（60.6%）、⑪介護相談専用ダイヤル（59.5%）などとなっています。

一方、「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」の割合を合計した『必要でない』の割合が高いサービスは⑥福祉電話の貸与（25.7%）、⑩食事サービス（25.5%）、⑦日常生活用具の給付（21.4%）となっています。

図表 121 在宅福祉サービスの必要性（全体）



【問4で住まいとして「7 特別養護老人ホーム」「8 介護老人保健施設」「9 介護療養型医療施設」と回答した方】

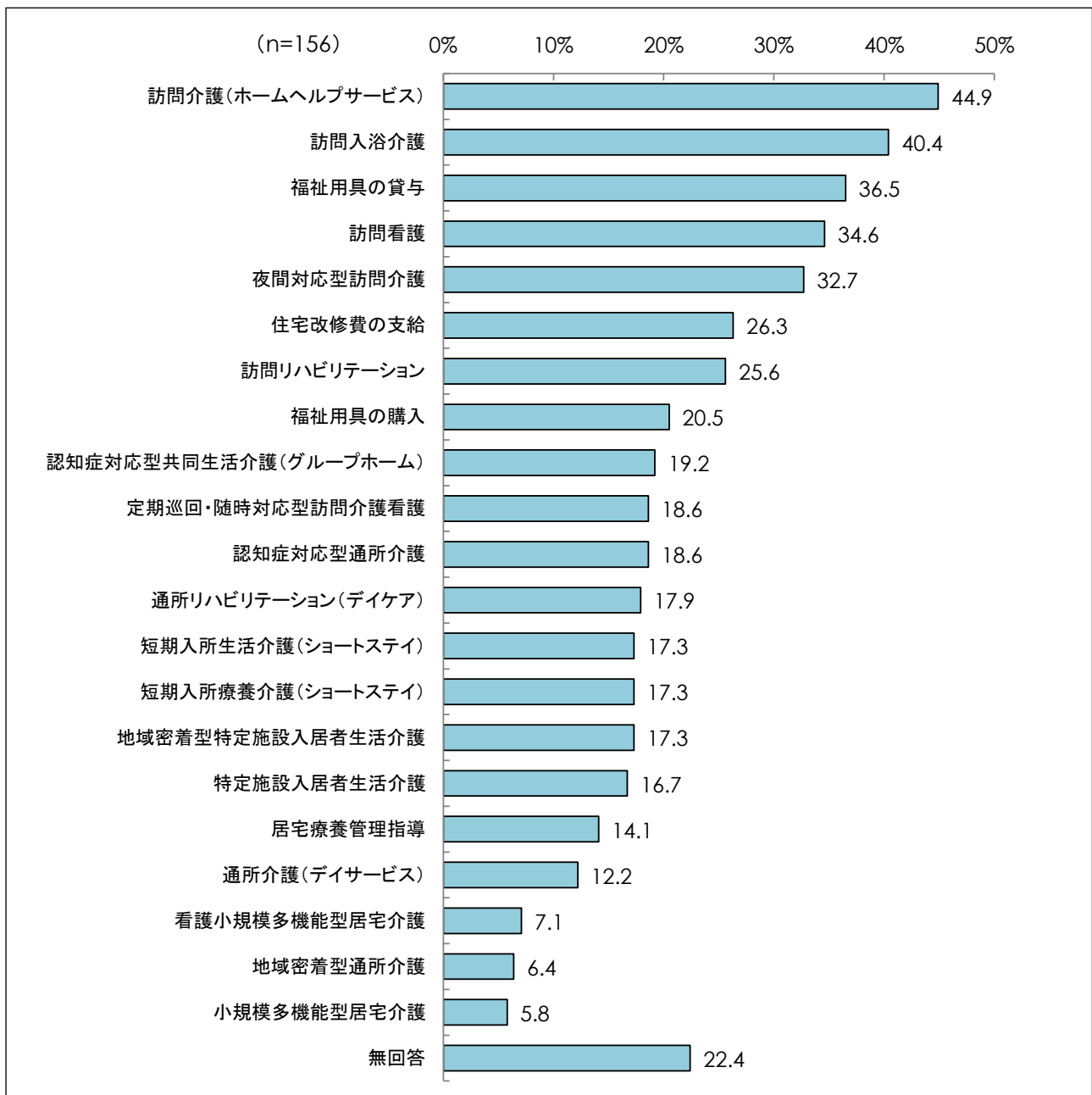
問4-3 どのような介護保険在宅サービスが充実していれば、居宅で生活できると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●充実すべきサービスは訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具の貸与、訪問看護など

居宅生活のために必要な介護保険在宅サービスについてたずねたところ、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」（44.9%）が最も多く、次いで「訪問入浴介護」（40.4%）、「福祉用具の貸与」（36.5%）、「訪問看護」（34.6%）、「夜間対応型訪問介護」（32.7%）などとなっています。

図表 122 居宅生活のために必要な介護保険在宅サービス（全体）



3-1 からだを動かすことについて

（１）運動器の機能について

問５ 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。【○は１つ】

問６ 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。【○は１つ】

問７ １５分位続けて歩いていますか。【○は１つ】

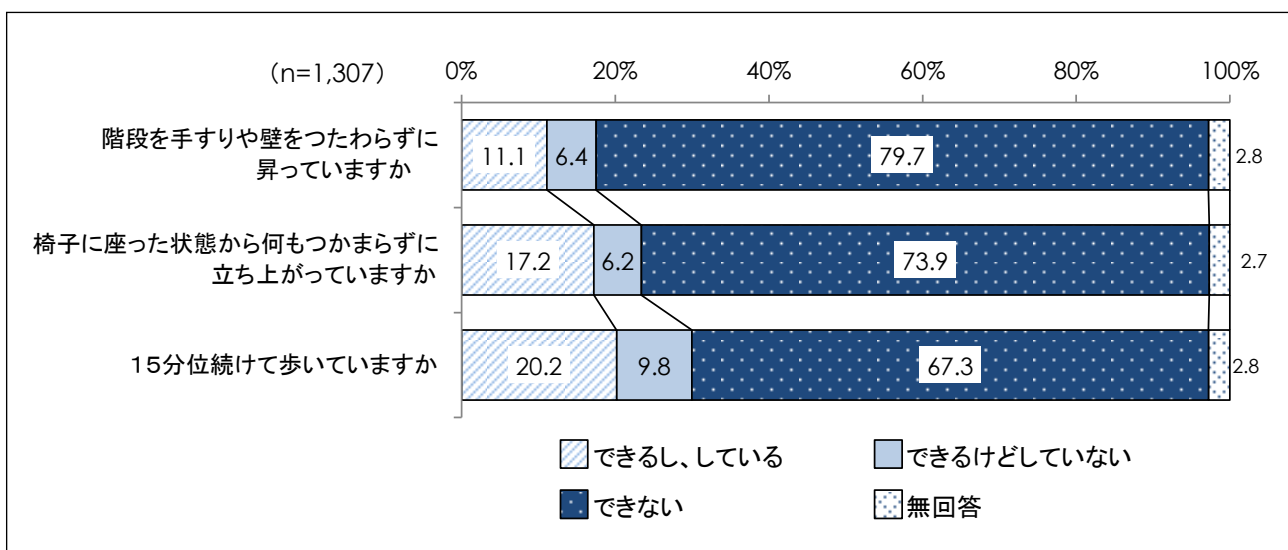
【全体の傾向】

●階段を手すりや壁をつたわずに昇れない人が約８割を占めている

運動器の機能についてたずねたところ、どの設問においても「できない」と回答している人が６割を超えています。特に、『階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか』では「できない」と回答した人の割合が 79.7%と、他の設問に比べて高くなっています。

一方、「できるし、している」の割合については、『１５分位続けて歩いていますか』が最も高く、20.2%の人ができると回答しています。

図表 123 運動器の機能について（全体）

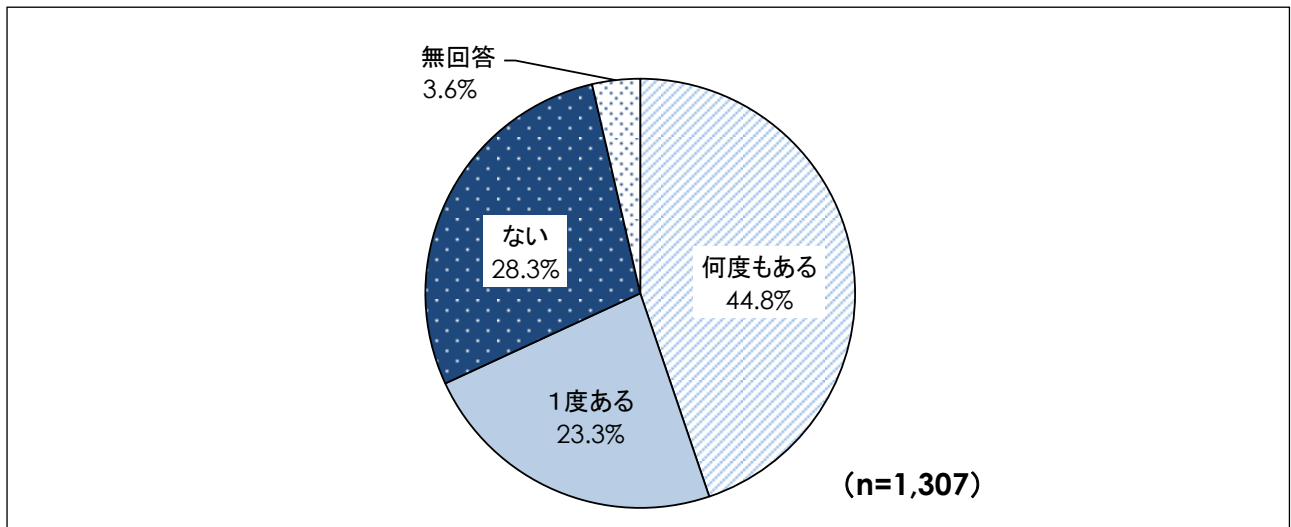


（２）転倒について

問８ 過去１年間に転んだ経験がありますか。【〇は１つ】

過去１年間にける転倒の経験をたずねたところ、「何度もある」が44.8%、「１度ある」が23.3%となっており、合計すると約７割が『転倒経験が１度以上ある』と回答しています。

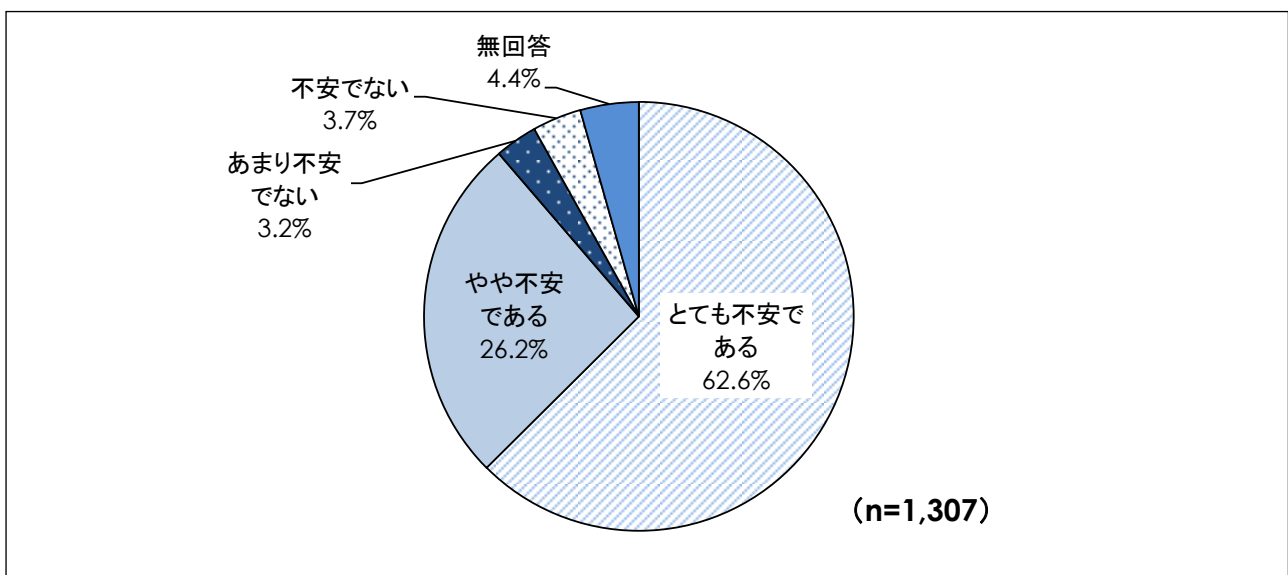
図表 124 転倒の経験（全体）



問９ 転倒に対する不安は大きいですか。【〇は１つ】

転倒に対する不安が大きいかをたずねたところ、全体の62.6%が「とても不安である」と回答しており、「やや不安である」（26.2%）を合計すると、約９割の人が転倒への不安を抱えています。

図表 125 転倒に対する不安（全体）



（3）閉じこもり傾向について

問 10 週に1回以上は外出していますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●ほとんど外出しない人が3割を超えている

1週間当たりの外出回数についてたずねたところ、「週2～4回」が37.1%と最も高くなっていますが、「ほとんど外出しない」が36.7%を占め、その差はわずか0.4ポイントとなっており、ほとんど外出しない人が3割を超えています。

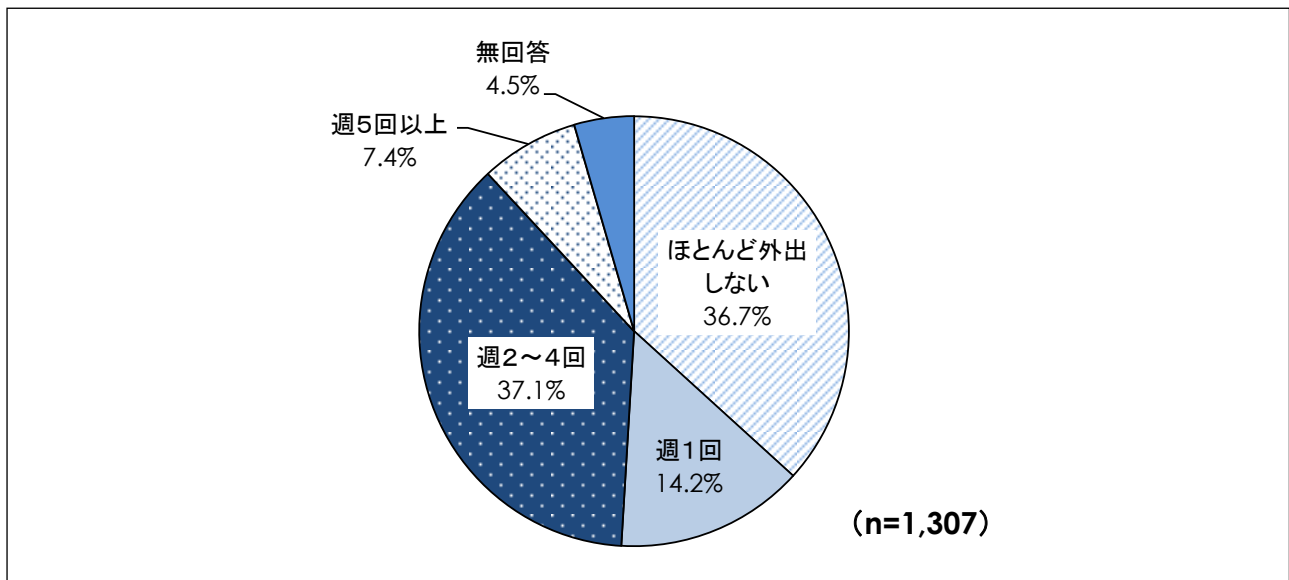
【属性別の傾向】

●塩江、古高松、香東、一宮などではほとんど外出しない人の割合が高い

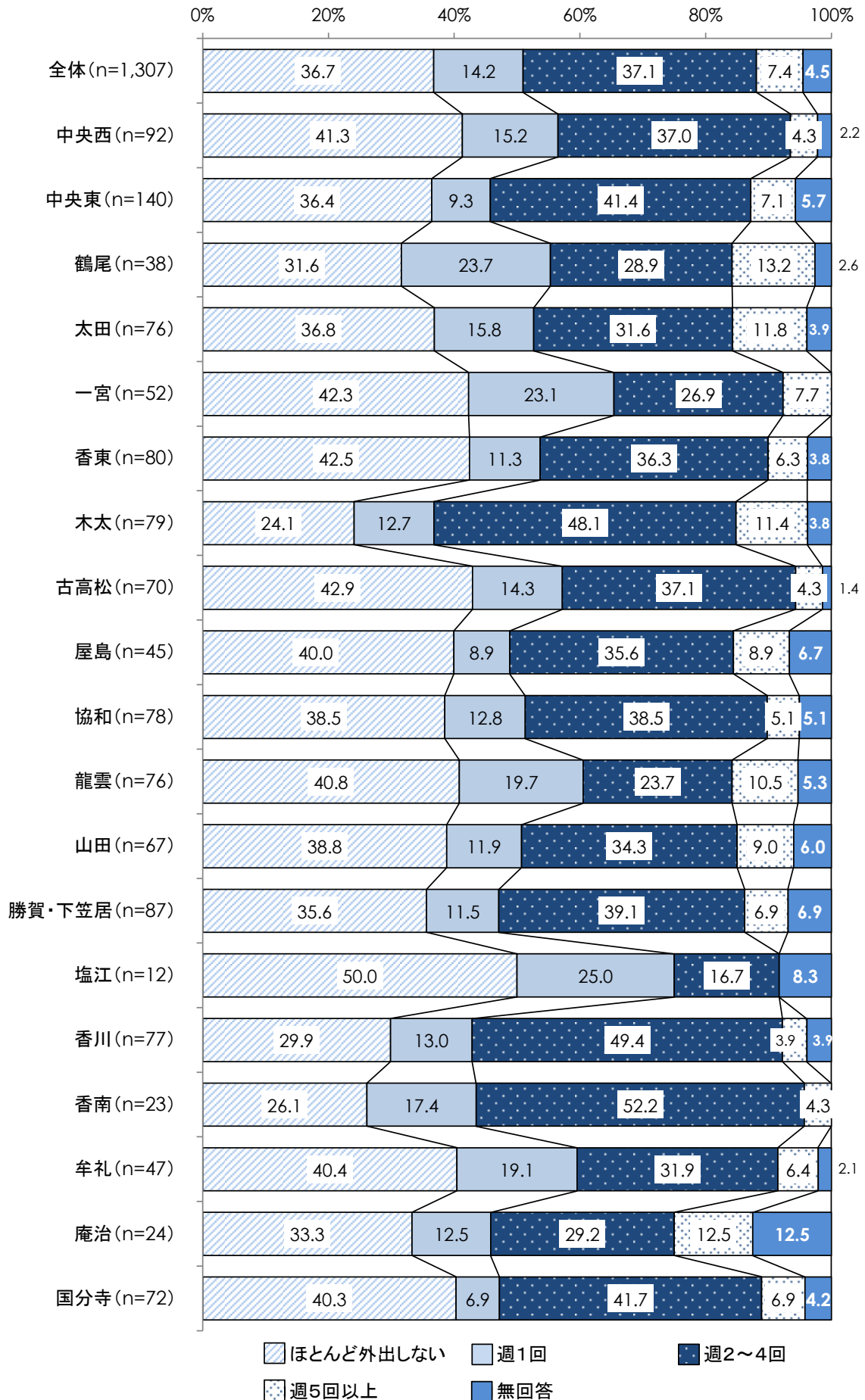
圏域別にみると、「週2～4回」との回答が最も多い圏域は、香南（52.2%）、香川（49.4%）、木太（48.1%）、国分寺（41.7%）、中央東（41.4%）、勝賀・下笠居（39.1%）などとなっており、外出している人が多い圏域といえます。

一方、それ以外の圏域では「ほとんど外出しない」との回答が最も多く、なかでも塩江（50.0%）、古高松（42.9%）、香東（42.5%）、一宮（42.3%）、中央西（41.3%）、龍雲（40.8%）、牟礼（40.4%）などでは4割を超えています。

図表 126 1週間当たりの外出回数について（全体）



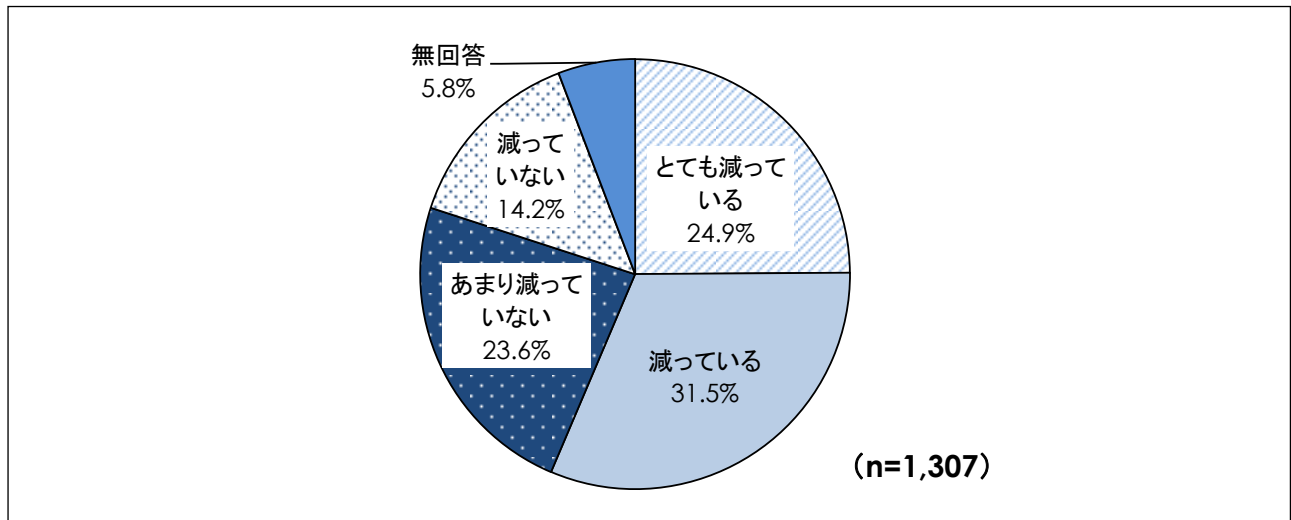
図表 127 1 週間当たりの外出回数について（全体、日常生活圏域別）



問 11 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。【〇は1つ】

昨年と比べて外出の回数が減っているかについてたずねたところ、「減っている」（31.5%）が最も高く、「とても減っている」（24.9%）を合計すると 56.4%の人が『減っている』と回答しています。

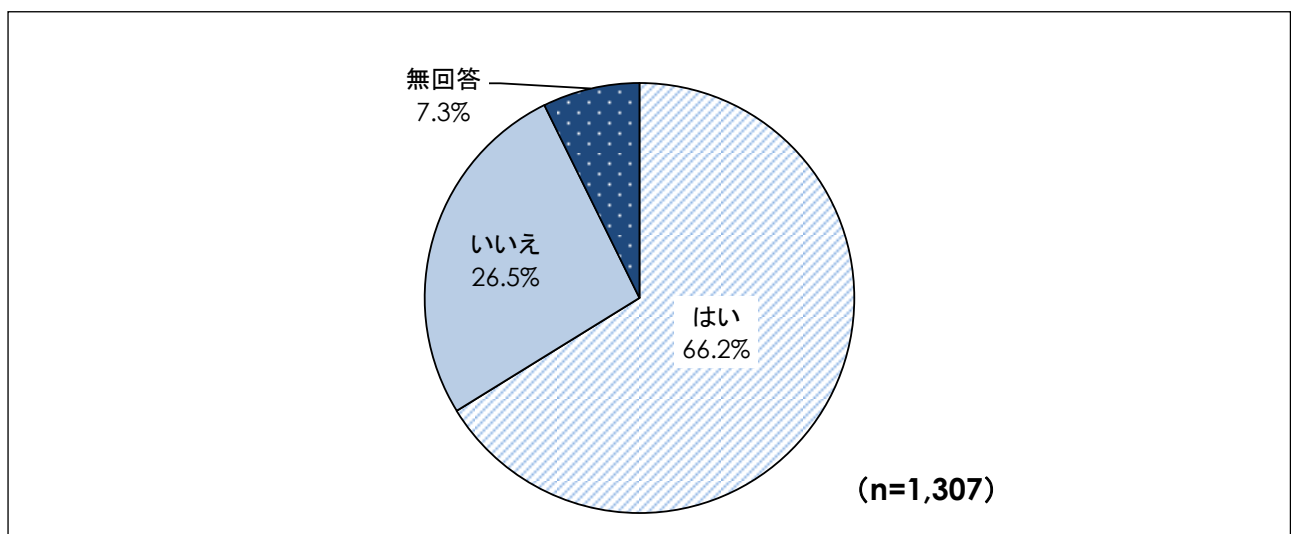
図表 128 外出回数の減少について（全体）



問 12 外出を控えていますか。【〇は1つ】

外出を控えているかについてたずねたところ、「はい（控えている）」が 66.2%と「いいえ（控えていない）」（26.5%）を大きく上回っています。

図表 129 外出を控えているかについて（全体）



【問 12 で「1 はい」（外出を控えている）と回答した方】

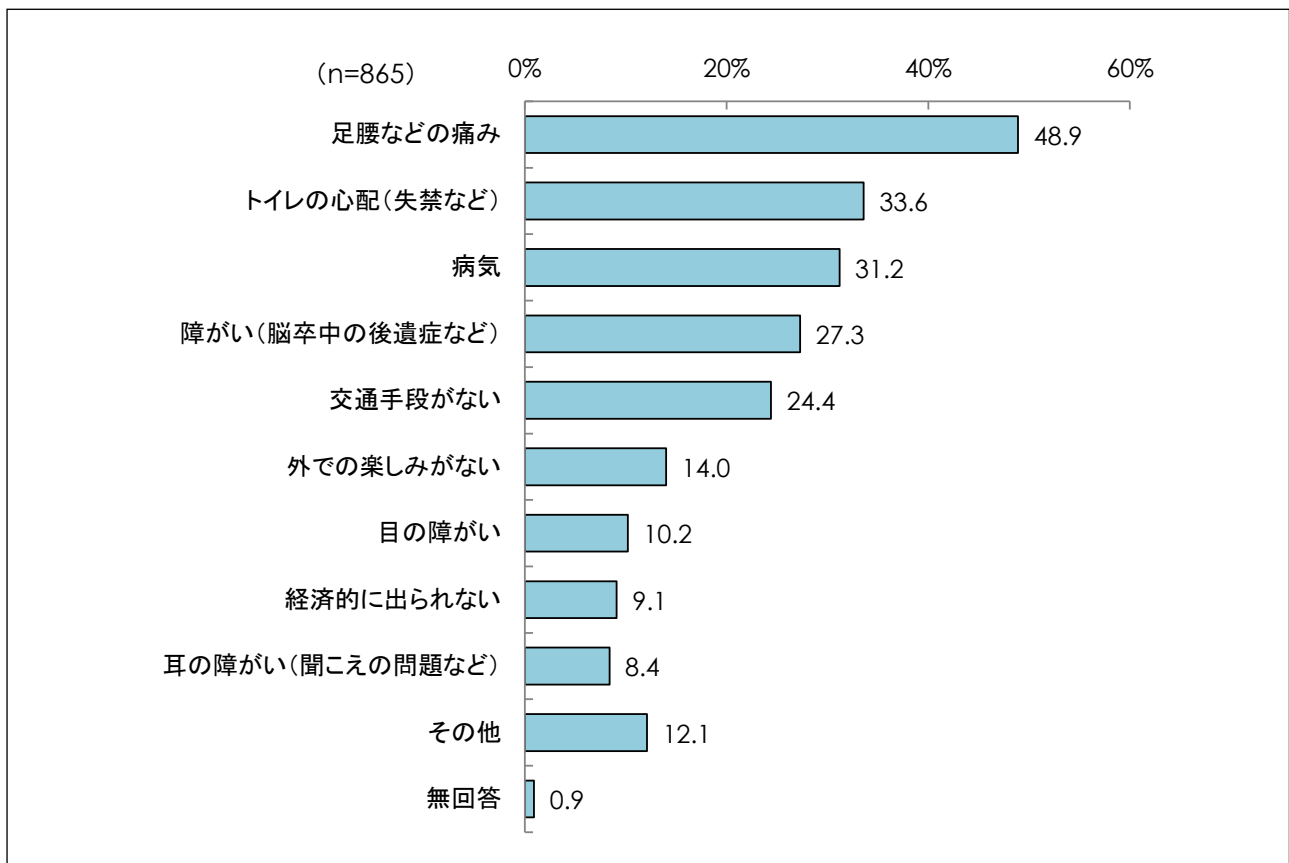
問 12-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●外出を控えている主な理由は足腰などの痛み、トイレの心配、病気など

外出を控えていると回答した人に対し、外出を控えている理由についてたずねたところ、「足腰などの痛み」(48.9%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで「トイレの心配(失禁など)」(33.6%)、「病気」(31.2%)、「障がい(脳卒中の後遺症など)」(27.3%)、「交通手段がない」(24.4%) などとなっています。

図表 130 外出を控えている理由（全体／複数回答）



問 13 外出する場合の、主な手段は何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●外出する際の主な移動手段は自動車で人に乗せてもらう、タクシー、車いすなど

外出する際の移動手段についてたずねたところ、「自動車（人に乗せてもらう）」が 49.6%と最も多く、その割合は突出しています。次いで、「タクシー」（29.3%）、「車いす」（20.5%）、「徒歩」（18.6%）、「病院や施設のバス」（11.0%）などとなっています。

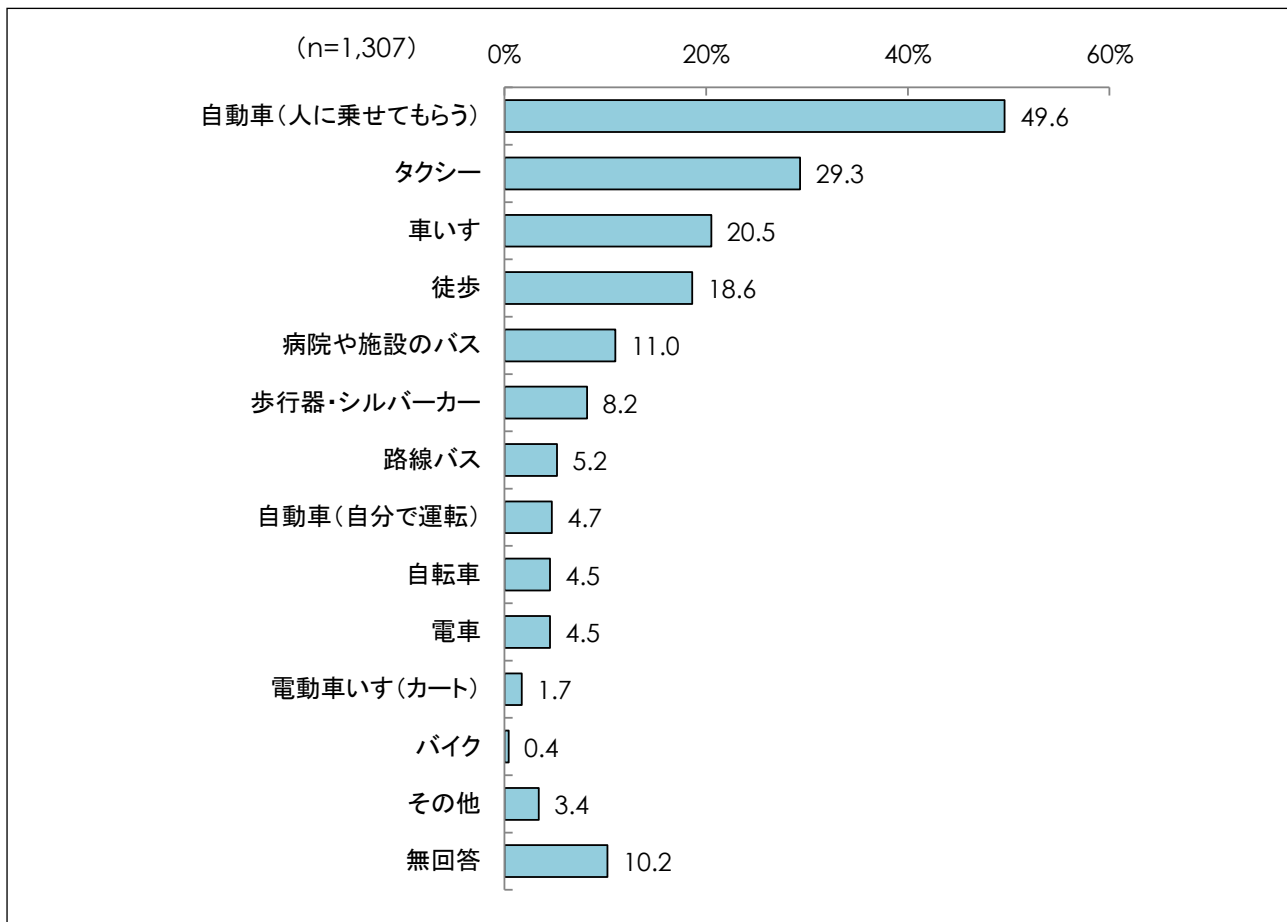
【属性別の傾向】

●香川、庵治では病院や施設のバスも主な移動手段となっている

圏域別にみると、鶴尾では「タクシー」（47.4%）が第1位となっていますが、その他の圏域では「自動車（人に乗せてもらう）」が第1位となっています。

また、香川、庵治では「病院や施設のバス」が第3位となっています。

図表 131 外出する際の移動手段（全体／複数回答）



図表 132 外出する際の移動手段（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,307)		自動車（人に乗せてもらう） 49.6	タクシー 29.3	車いす 20.5
日常生活圏域別	中央西 (n=92)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		42.4	35.9	27.2
	中央東 (n=140)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩
		40.7	33.6	27.1
	鶴尾 (n=38)	タクシー	自動車（人に乗せてもらう）	徒歩
		47.4	34.2	23.7
	太田 (n=76)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		48.7	43.4	21.1
	一宮 (n=52)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩
		51.9	25.0	15.4
	香東 (n=80)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		47.5	22.5	18.8
	木太 (n=79)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩
		48.1	31.6	25.3
	古高松 (n=70)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩／車いす
		48.6	25.7	20.0
	屋島 (n=45)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩
		51.1	33.3	15.6
	協和 (n=78)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		53.8	26.9	21.8
	龍雲 (n=76)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		55.3	30.3	28.9
	山田 (n=67)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	車いす
		56.7	22.4	14.9
	勝賀・下笠居 (n=87)	自動車（人に乗せてもらう）	車いす	タクシー
		57.5	26.4	21.8
	塩江 (n=12)	自動車（人に乗せてもらう）	車いす／タクシー	
		50.0		25.0
	香川 (n=77)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	病院や施設のバス
		48.1	33.8	15.6
	香南 (n=23)	自動車（人に乗せてもらう）	タクシー	徒歩
		47.8	43.5	26.1
	牟礼 (n=47)	自動車（人に乗せてもらう）	車いす	徒歩
		61.7	31.9	21.3
	庵治 (n=24)	自動車（人に乗せてもらう）	車いす	徒歩／路線バス／病院や施設のバス／歩行器・シルバーカー／タクシー
		58.3	12.5	8.3
	国分寺 (n=72)	自動車（人に乗せてもらう）	車いす	タクシー
		63.9	30.6	22.2

3-2 食えることについて

（１）BMI 算出

問 14 あなたの身長と体重をお書きください。【数字で記入】

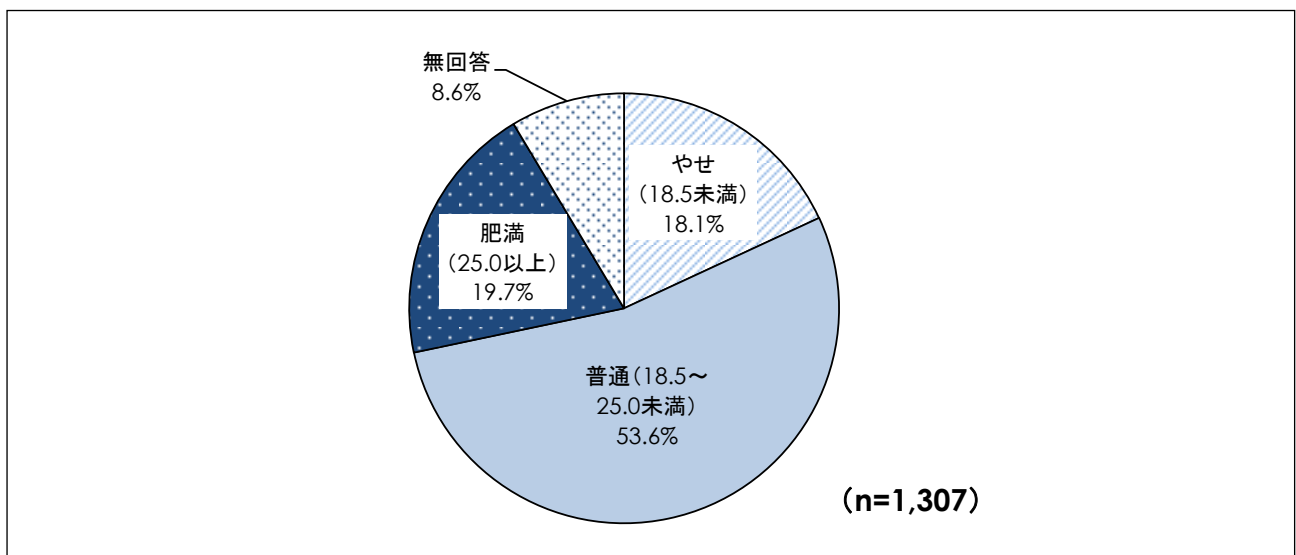
【全体の傾向】

●BMI が 18.5 未満の「やせ」の人は 2 割未満

身長及び体重の記載から算出したBMI 値については、「普通（18.5～25.0 未満）」が 53.6%と約 5 割を占めています。

一方、「やせ（18.5 未満）」は 18.1%、「肥満（25.0 以上）」は 19.7%となっています。

図表 133 BMI 値（全体）



（２）口腔機能について

問 15 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。【〇は１つ】

問 16 お茶や汁物等でむせることがありますか。【〇は１つ】

問 17 口の渇きが気になりますか。【〇は１つ】

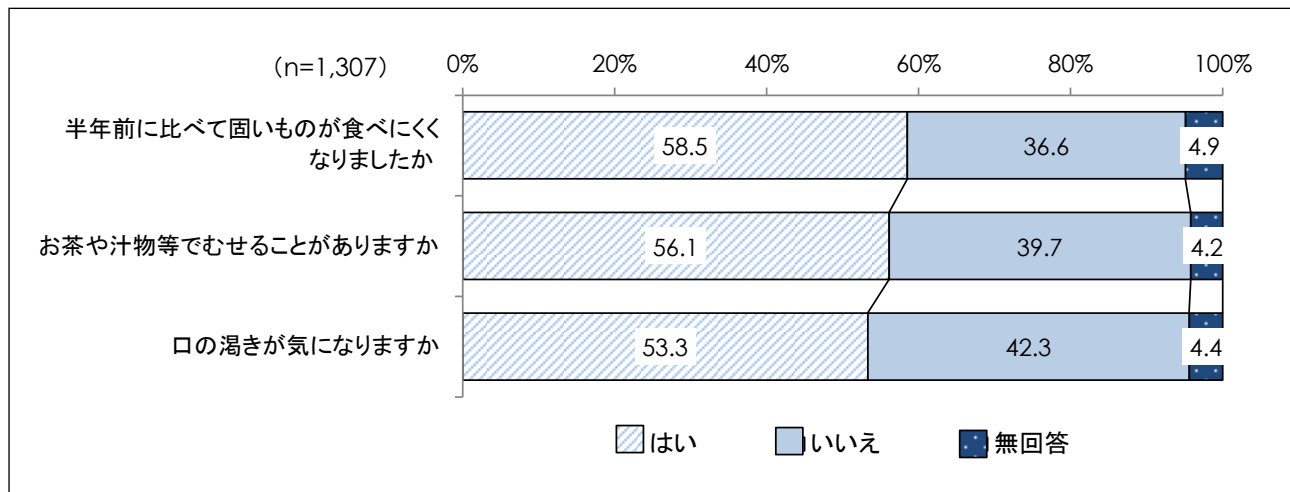
【全体の傾向】

●半数以上の人が口腔機能の低下を感じており、咀嚼機能の衰えを感じている人が多い

口腔機能の低下についてたずねたところ、どの設問においても「はい」の割合が５割を超えて「いいえ」の割合を上回っており、口腔機能の低下を感じている人の方が多くなっています。

特に、『半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか』については「はい」が 58.5%と約６割を占めており、他の設問に比べて「はい」と回答している人の方が多くなっています。

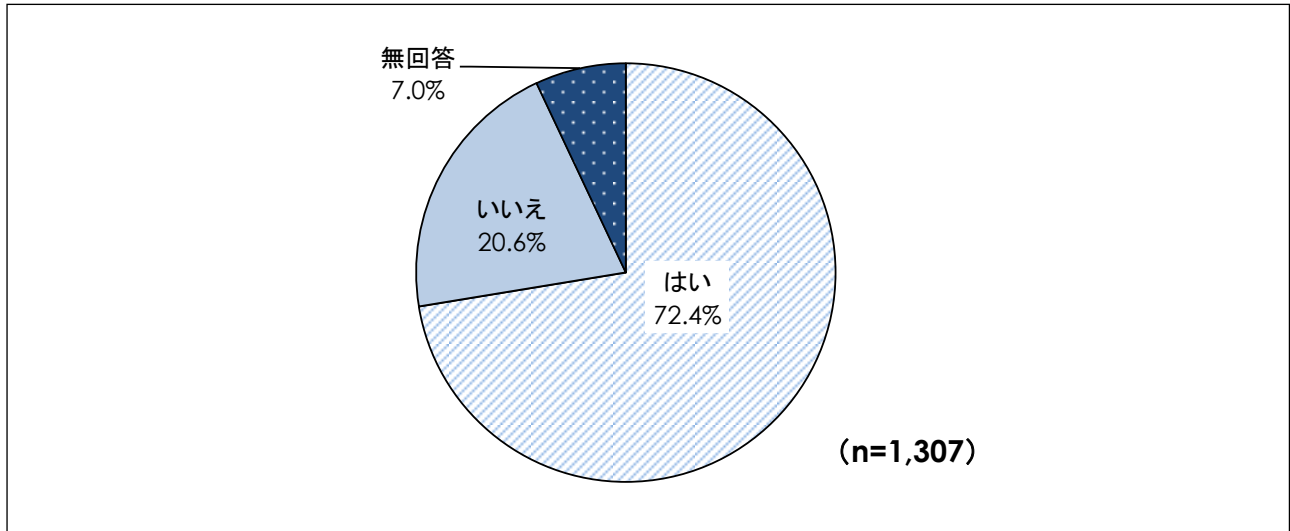
図表 134 口腔機能について（全体）



問 18 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。【〇は 1 つ】

歯磨きを毎日しているかについてたずねたところ、「はい」が 72.4%と約 7 割を占めています。

図表 135 歯磨きの習慣について（全体）

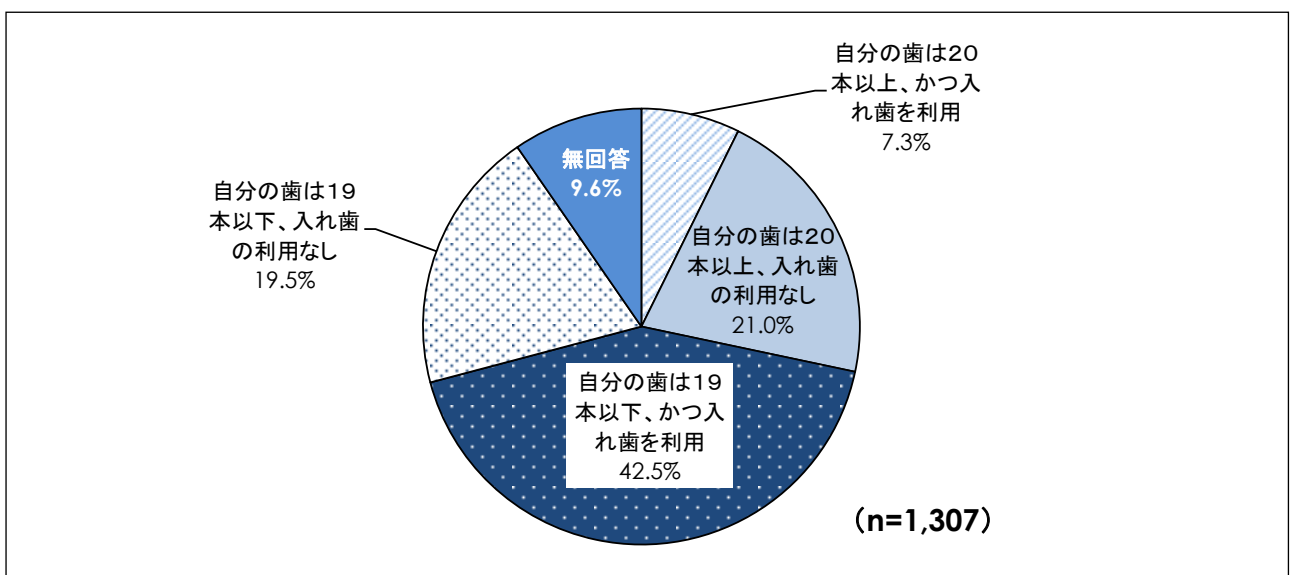


問 19 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。【〇は 1 つ】

（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

歯の本数と、入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 42.5%と最も高くなっています。「自分の歯は 19 本以下」との回答は全体の 62.0%、「入れ歯を利用」している人は全体の 49.8%となっています。

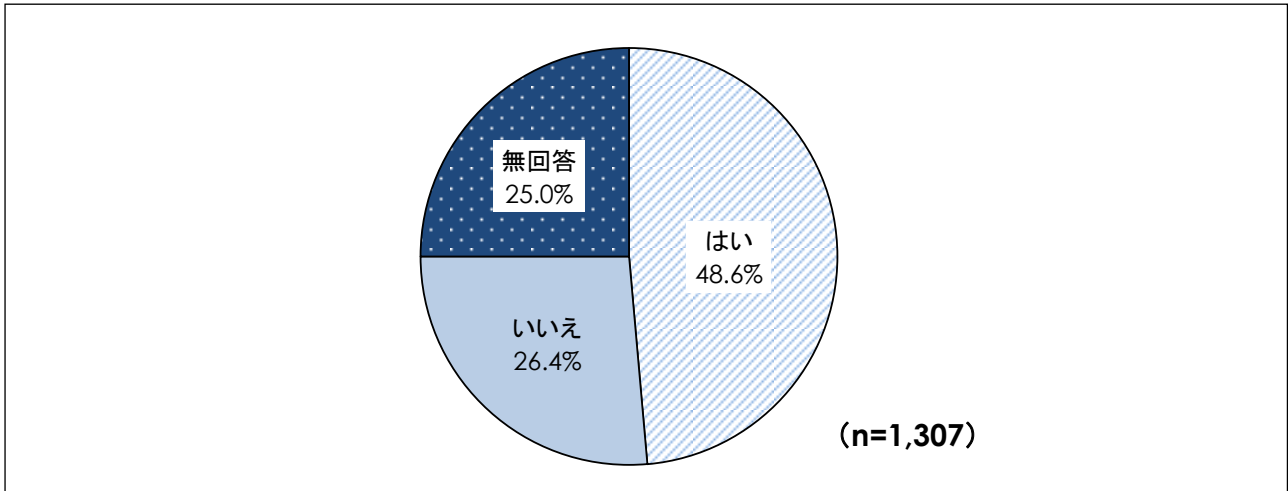
図表 136 歯の本数と入れ歯の利用状況（全体）



問 19－1 噛み合わせは良いですか。【〇は 1 つ】

歯の噛み合わせの状態についてたずねたところ、「はい」が 48.6%となっており、約半数の人が噛み合わせは良いと回答しています。

図表 137 噛み合わせの状態について（全体）

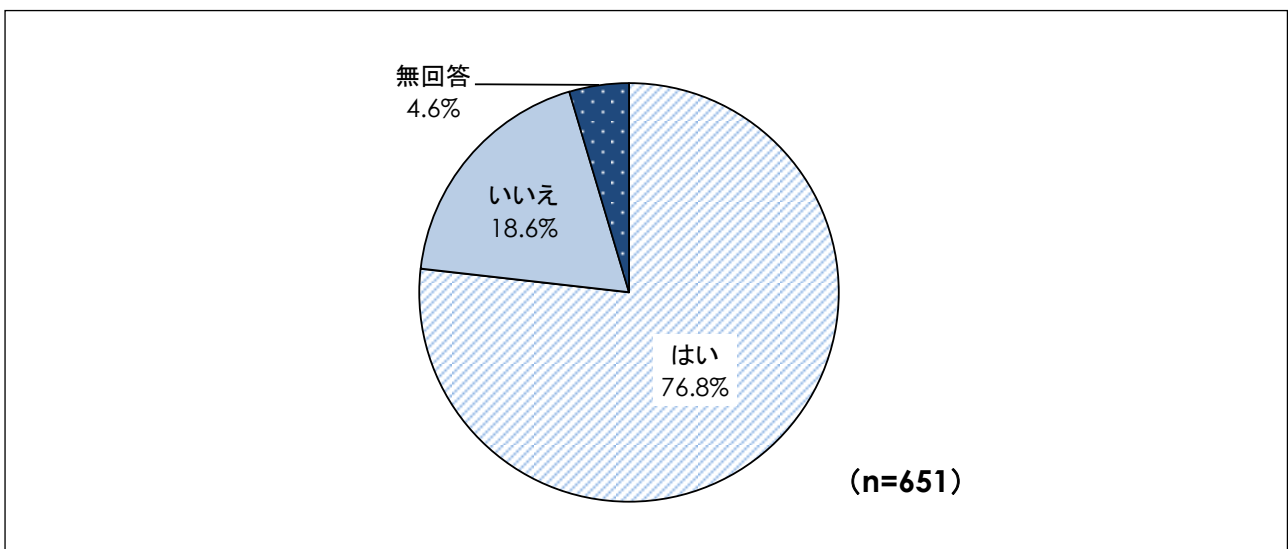


【問 19 で「1 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方】

問 19－2 毎日入れ歯の手入れをしていますか。【〇は 1 つ】

入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかについてたずねたところ、全体の 76.8%が「はい」と回答しています。

図表 138 入れ歯の手入れについて（全体）

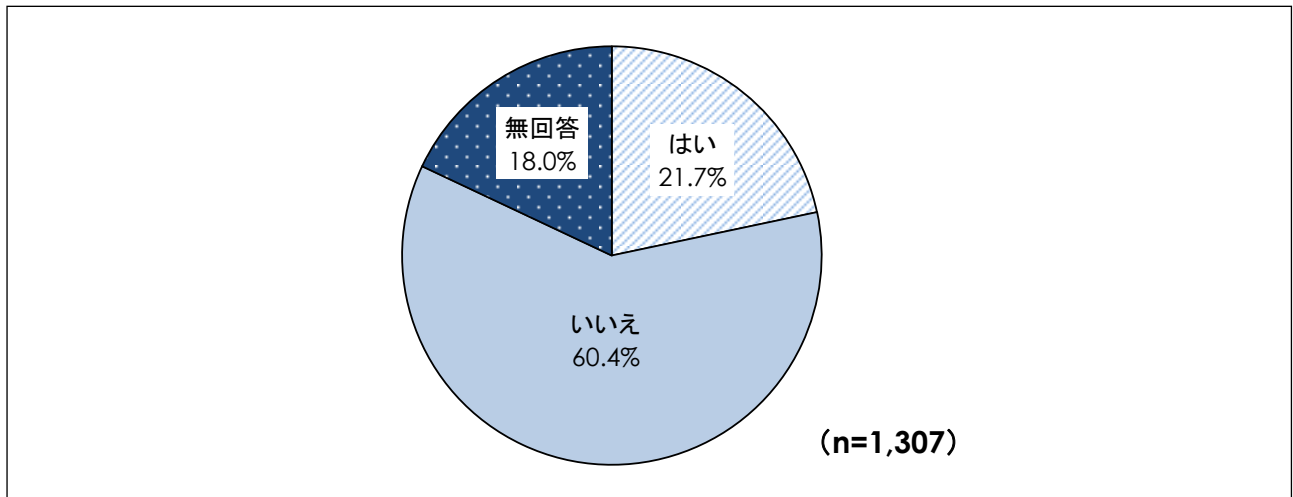


（３）体重減少の有無について

問 20 6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか。【○は1つ】

6か月間で体重減少があったかについてたずねたところ、「いいえ（減少していない）」が 60.4%と6割を占め、「はい（減少した）」は 21.7%となっています。

図表 139 体重減少の有無について（全体）



（４）孤食の状況について

問 21 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●約半数の人が毎日誰かと食事をとにもしているものの、約１割はほとんど機会がない

誰かと食事をとにもする機会の有無についてたずねたところ、「毎日ある」が52.2%と最も高くなっていますが、次いで「ほとんどない」が11.3%となっており、約１割の人が孤食傾向にあるといえます。

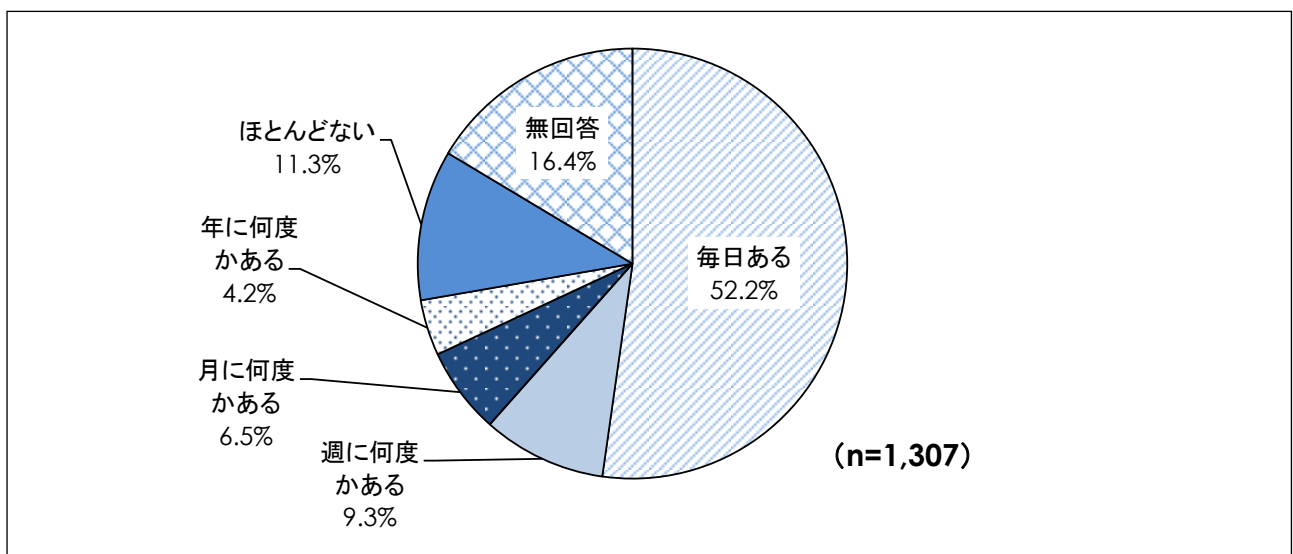
【属性別の傾向】

●塩江、一宮、中央西では孤食傾向が他の圏域よりもやや高め

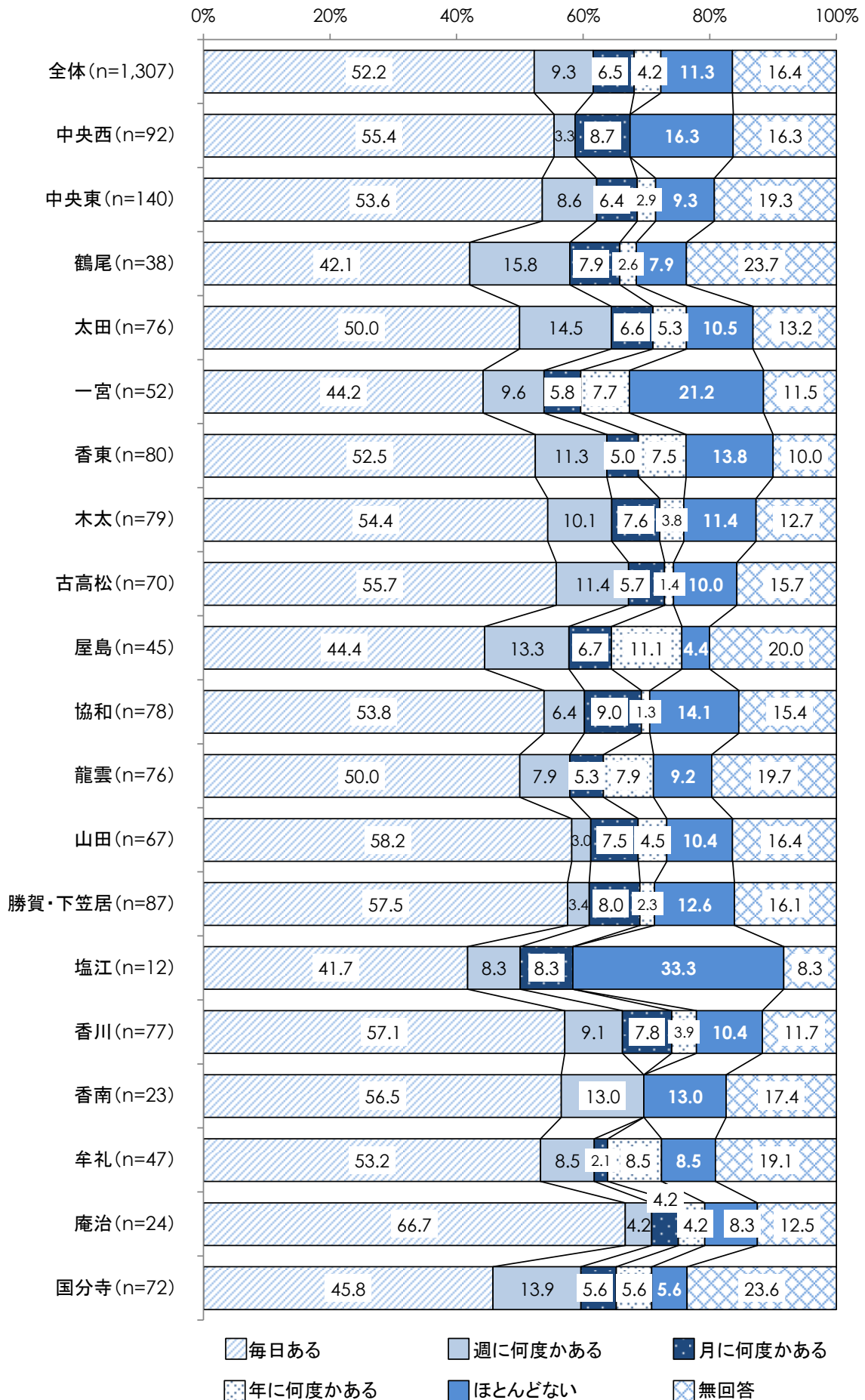
圏域別にみると、「毎日ある」の割合が他の圏域に比べて高い圏域は、庵治(66.7%)、山田(58.2%)、勝賀・下笠居(57.5%)、香川(57.1%)、香南(56.5%)などとなっています。

また、「ほとんどない」の割合が他の圏域に比べて高い圏域は、塩江(33.3%)、一宮(21.2%)、中央西(16.3%)などとなっています。

図表 140 誰かと食事をとにもする機会の有無について（全体）



図表 141 誰かと食事をともにする機会の有無について（全体、日常生活圏域別）



4 毎日の生活について

（１）認知機能について

問 22 物忘れが多いと感じますか。【〇は１つ】

問 23 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。【〇は１つ】

問 24 今日が何月何日かわからない時がありますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

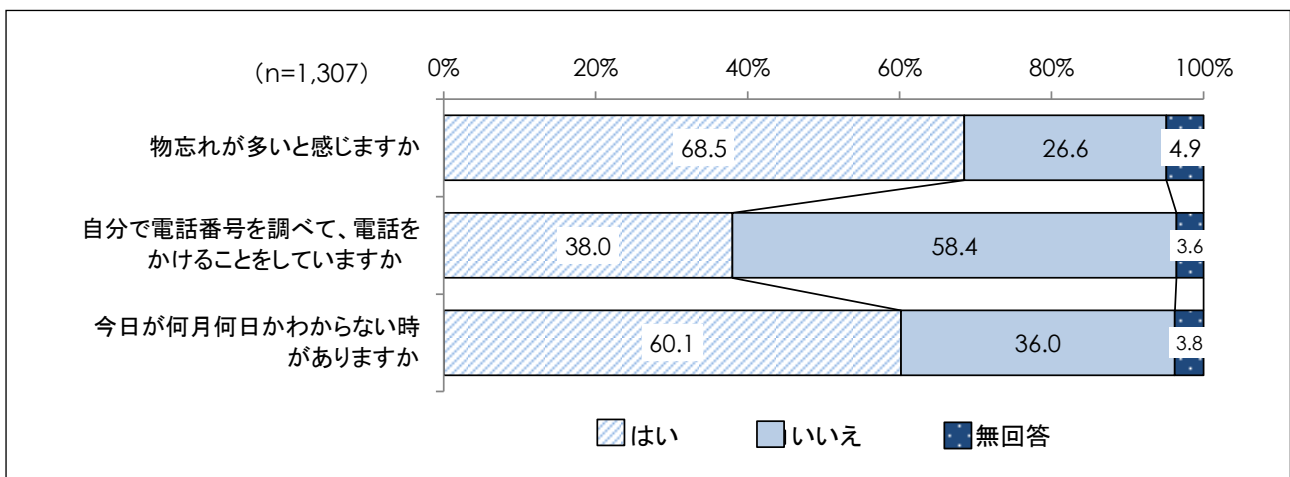
- 認知機能の低下を感じている人は、６割を超え、自分で電話をかけることをしている人は、４割未満

認知機能についてたずねたところ、『物忘れが多いと感じますか』については全体の 68.5%が「はい」と回答しており、約７割の人が認知機能の低下を感じています。

また、『自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか』については「いいえ」(58.4%)が「はい」(38.0%)を 20.4 ポイント上回っています。

『今日が何月何日かわからない時がありますか』については、「はい」が 60.1%となっており、約６割の人がわからない時があると回答しています。

図表 142 認知機能の低下について（全体）



（２） I A D L <手段的日常生活動作>について（老研式活動能力指標）

問 25 バスや電車を使って１人で外出していますか。（自家用車でも可）【○は１つ】

【全体の傾向】

●公共交通機関を利用した１人での外出が「できない」人は約７割

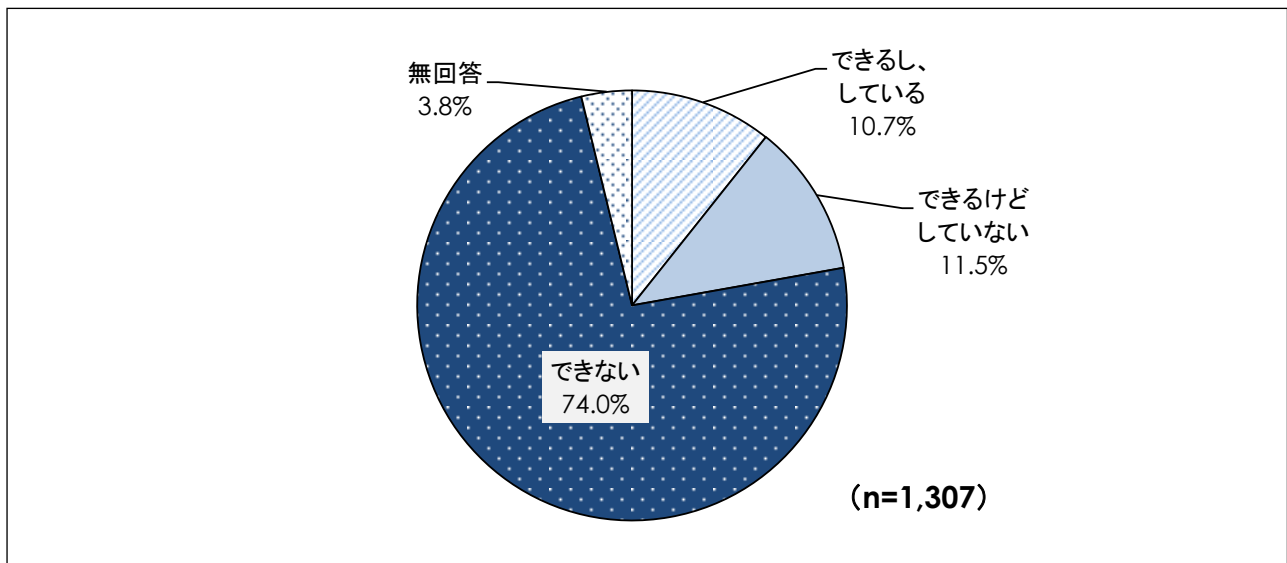
バスや電車を使っての外出状況についてたずねたところ、74.0%が「できない」と回答しています。一方、「できるし、している」(10.7%)、「できるけどしていない」(11.5%)を合計すると『できる』と回答している人は2割程度となっています。

【属性別の傾向】

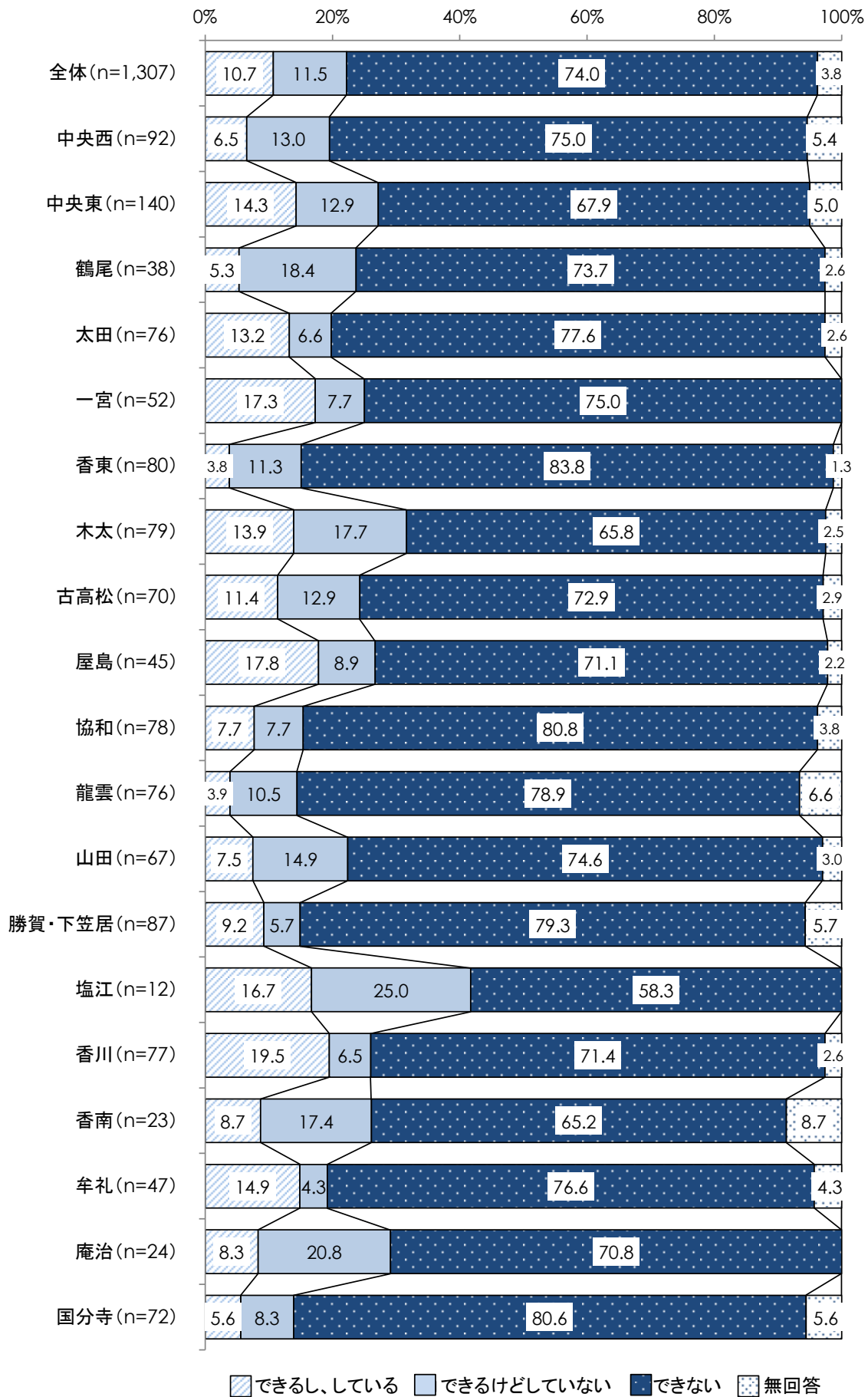
●香東、協和、国分寺などでは「できない」の割合がやや高め

圏域別にみると、ほとんどの圏域で「できない」の割合が最も高くなっています。特に、香東(83.8%)、協和(80.8%)、国分寺(80.6%)では「できない」の割合が8割を超えています。

図表 143 公共交通を利用した１人での外出（全体）



図表 144 公共交通を利用した 1 人での外出（全体、日常生活圏域別）



問 26 自分で食品・日用品の買物をしていますか【〇は 1 つ】

【全体の傾向】

●自分で食品などの買物ができる人は 3 割程度

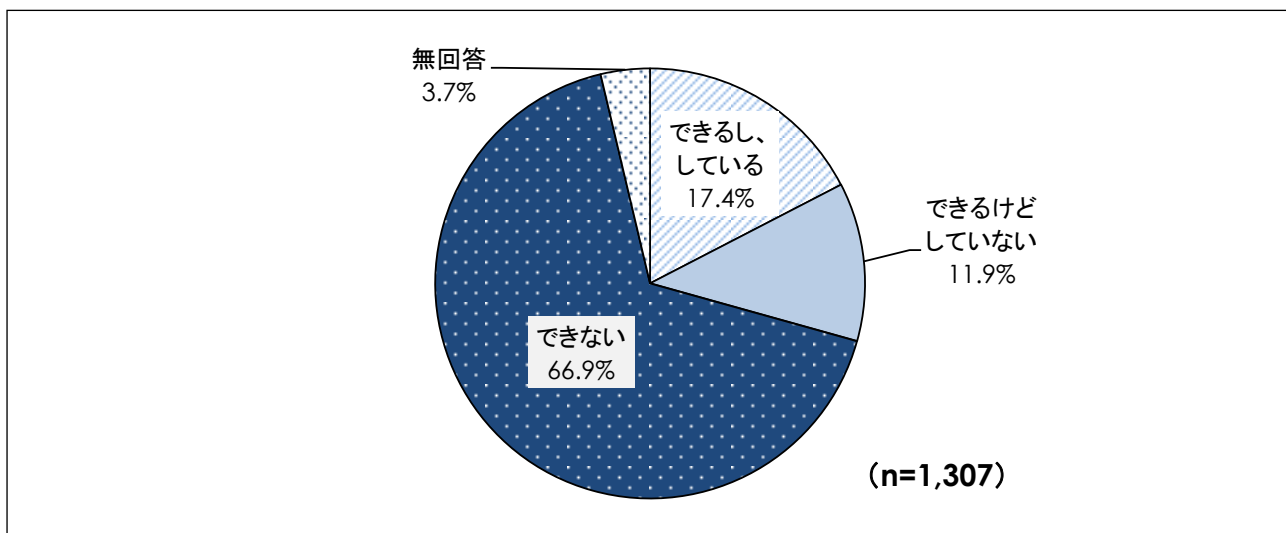
自分で食品・日用品の買物をしているかについてたずねたところ、「できない」が 66.9%を占めています。「できるし、している」（17.4%）、「できるけどしていない」（11.9%）を合計すると、『できる』と回答している人は 3 割程度となっています。

【属性別の傾向】

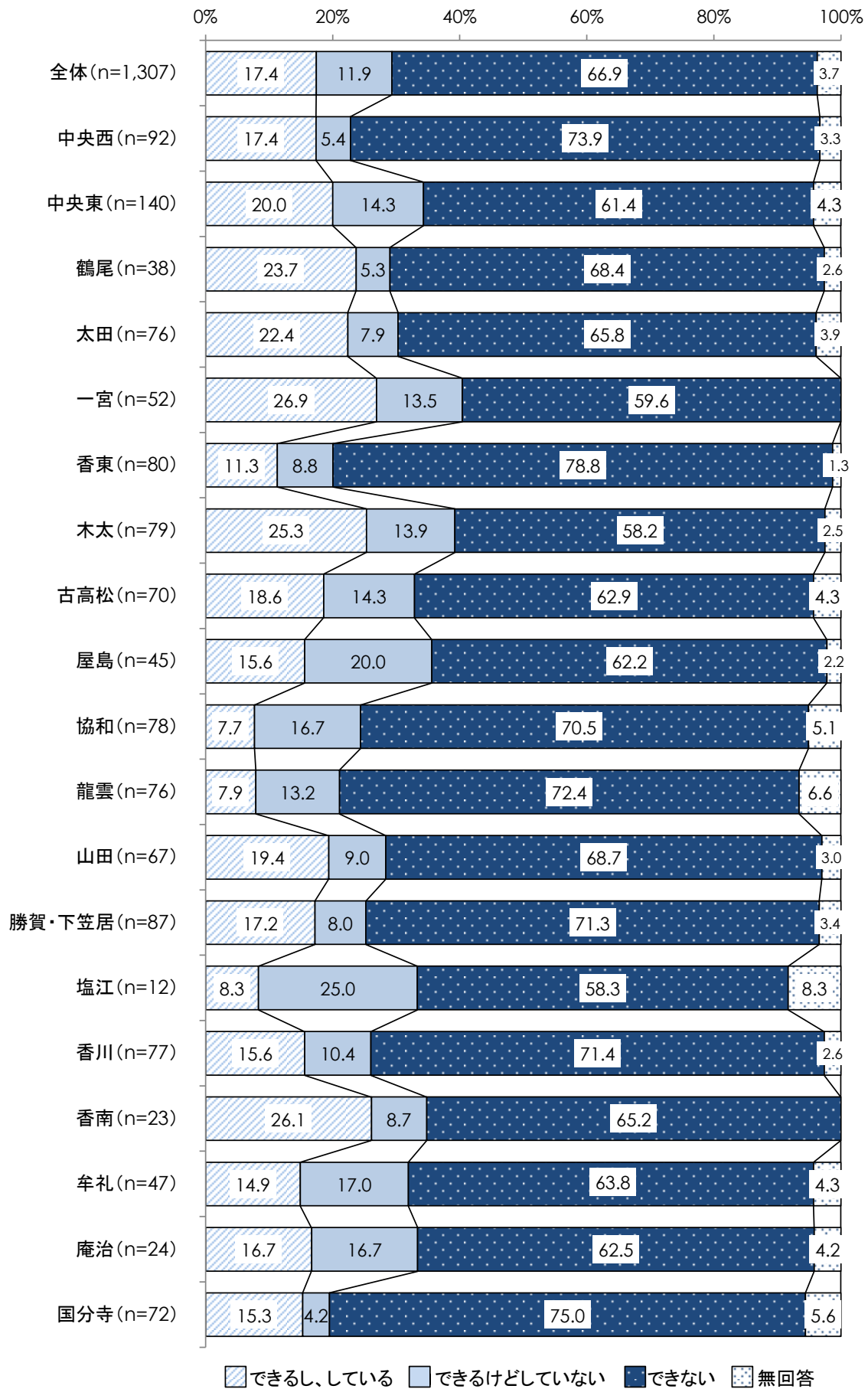
●香東、国分寺、中央西、龍雲、香川などでは「できない」の割合が 7 割を超える

圏域別に「できない」の割合をみると、香東（78.8%）、国分寺（75.0%）、中央西（73.9%）、龍雲（72.4%）、香川（71.4%）、勝賀・下笠居（71.3%）、協和（70.5%）では 7 割を超えており、他の圏域に比べて「できない」人の割合がやや高くなっています。

図表 145 自分で日用品等の買物をしているかについて（全体）



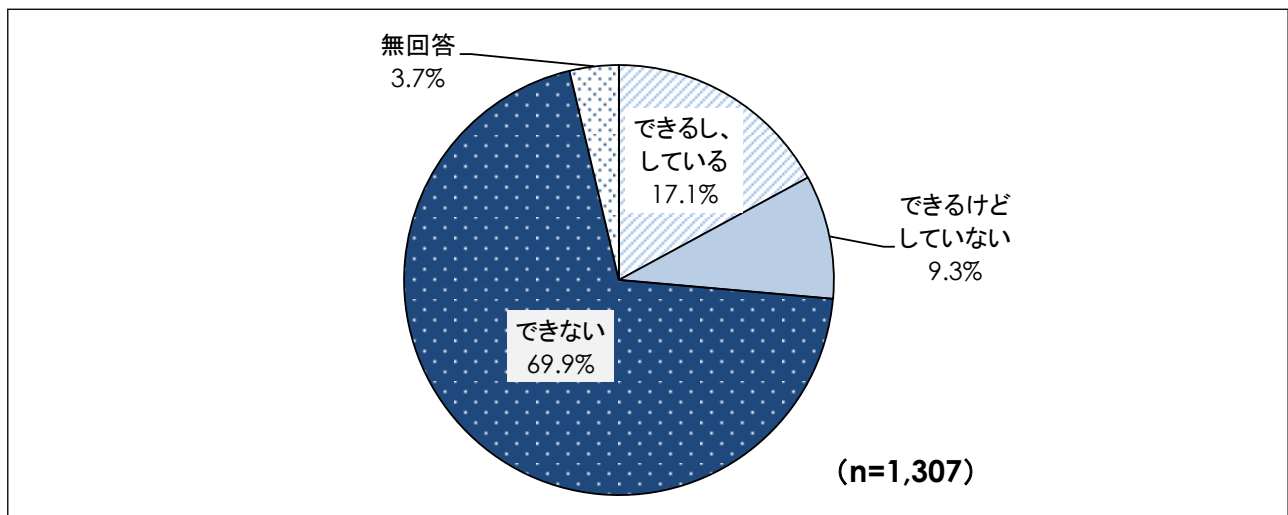
図表 146 自分で日用品等の買物をしているかについて（全体、日常生活圏域別）



問 27 自分で食事の用意をしていますか。【〇は1つ】

自分で食事の用意をしているかについてたずねたところ、69.9%の人が「できない」と回答しており、約7割を占めています。「できるし、している」（17.1%）、「できるけどしていない」（9.3%）を合計すると、『できる』と回答した人は26.4%となっています。

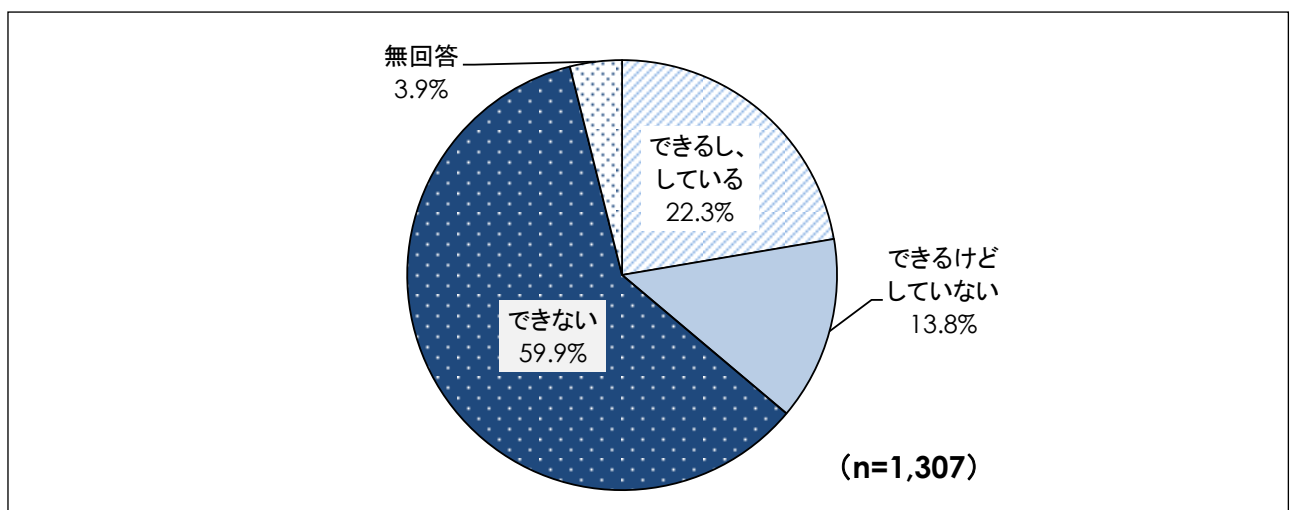
図表 147 自分で食事の用意をしているかについて（全体）



問 28 自分で請求書の支払いをしていますか。【〇は1つ】

自分で請求書の支払いをしているかについてたずねたところ、「できない」が59.9%と約6割を占めています。一方、「できるし、している」（22.3%）、「できるけどしていない」（13.8%）を合計すると、『できる』と回答した人は36.1%となっています。

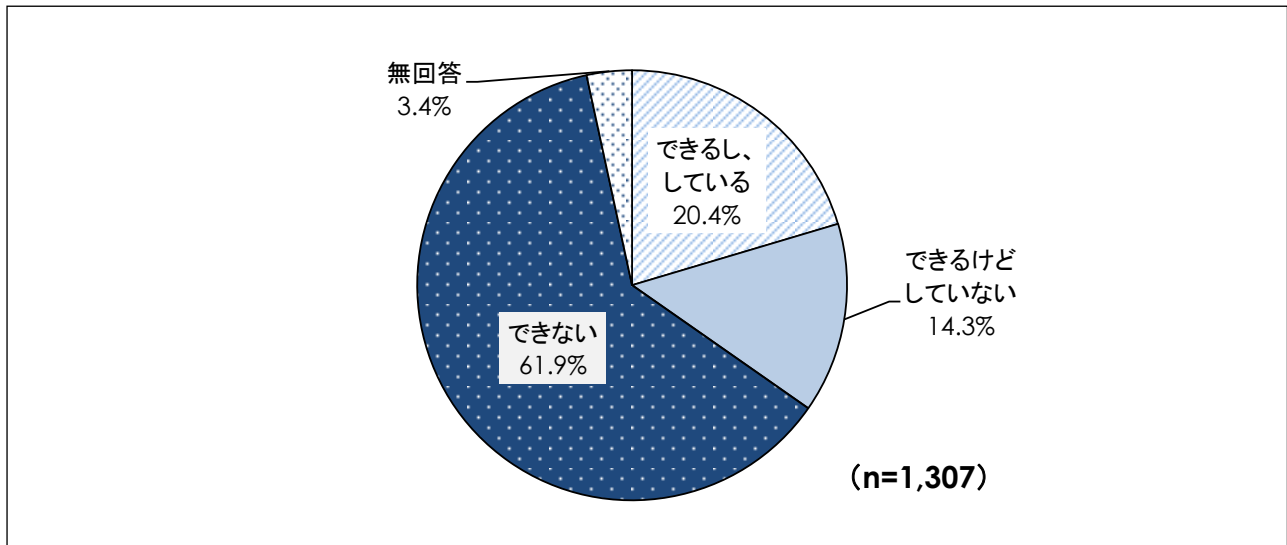
図表 148 自分で請求書の支払いをしているかについて（全体）



問 29 自分で預貯金の出し入れをしていますか。【○は1つ】

自分で預貯金の出し入れをしているかについてたずねたところ、「できない」が61.9%と約6割を占めています。「できるし、している」(20.4%)、「できるけどしていない」(14.3%)を合計すると、『できる』と回答した人は34.7%となっています。

図表 149 自分で預貯金の管理をしているかについて（全体）



（３）社会参加－知的能動性（老研式活動能力指標）

問 30 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。【○は 1 つ】

問 31 新聞を読んでいますか。【○は 1 つ】

問 32 本や雑誌を読んでいますか。【○は 1 つ】

問 33 健康についての記事や番組に関心がありますか。【○は 1 つ】

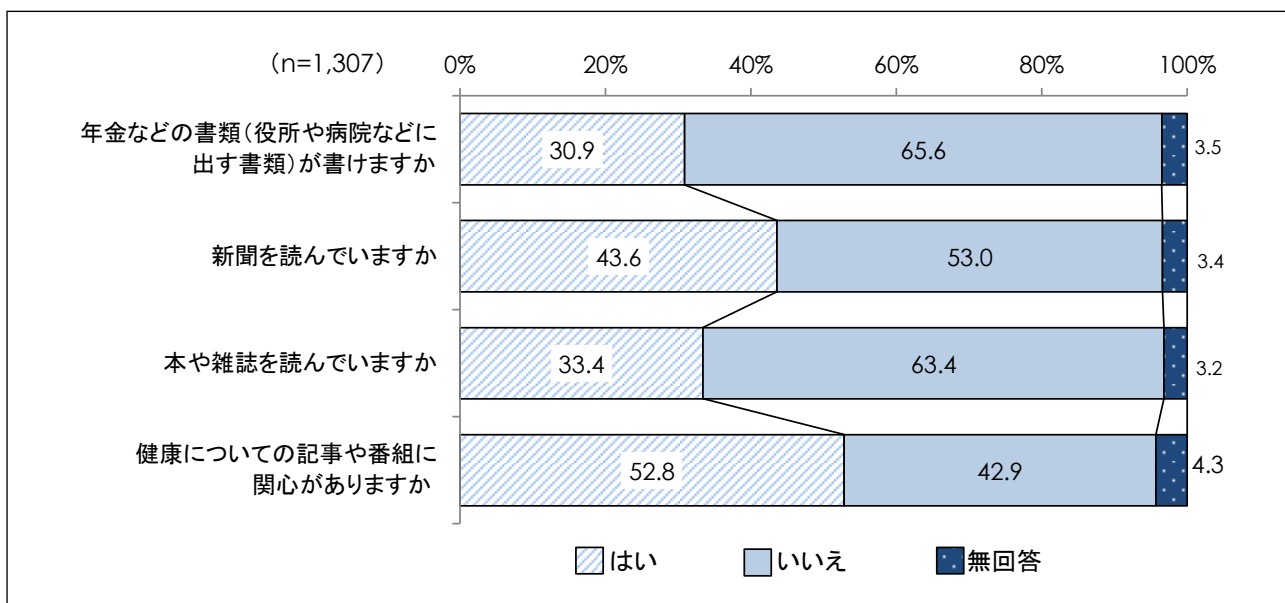
【全体の傾向】

●自分で書類が書ける、本や雑誌を読んでいる人は全体の 3 割程度

知的能動性に関する項目についてたずねたところ、『健康についての記事や番組に関心がありますか』については「はい」が 52.8%と 5 割を超え、「いいえ」（42.9%）を 9.9 ポイント上回っています。

一方、『年金などの書類が書けますか』、『本や雑誌を読んでいますか』については、「はい」が 3 割程度と低い割合となっています。

図表 150 書類の記入や読書等について（全体）



（４）社会参加－社会的役割（老研式活動能力指標）

問 34 友人の家を訪ねていますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●友人宅への訪問を行ってない人が８割を超えている

友人宅への訪問についてたずねたところ、「いいえ」が 85.6%と大半を占めており、「はい」は 10.9%とわずか１割程度となっています。

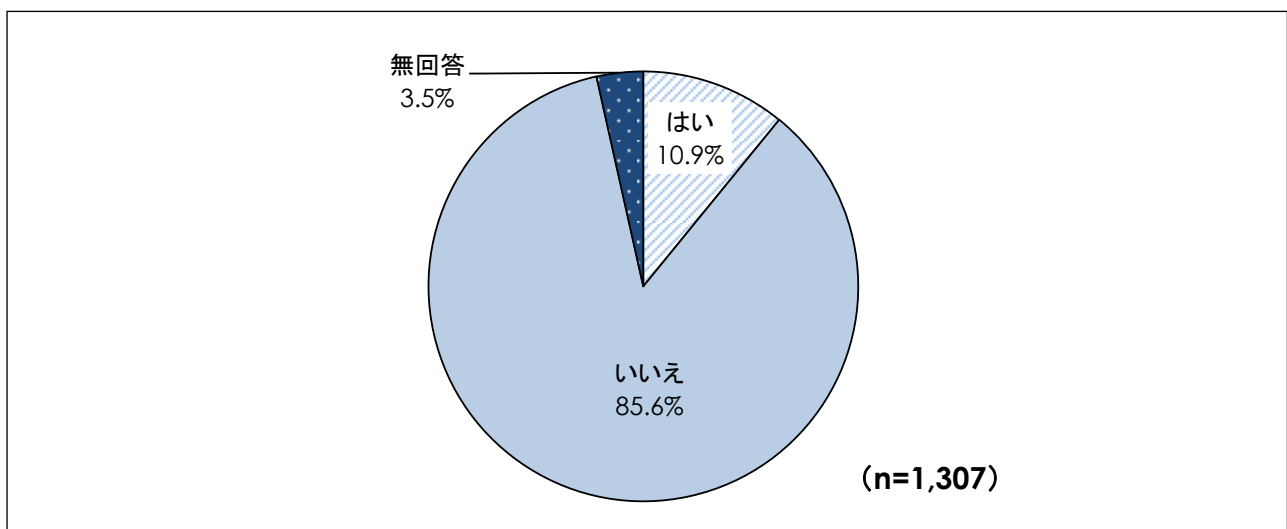
【属性別の傾向】

●牟礼、香東、香川、一宮では大半の人が友人宅を訪問していない

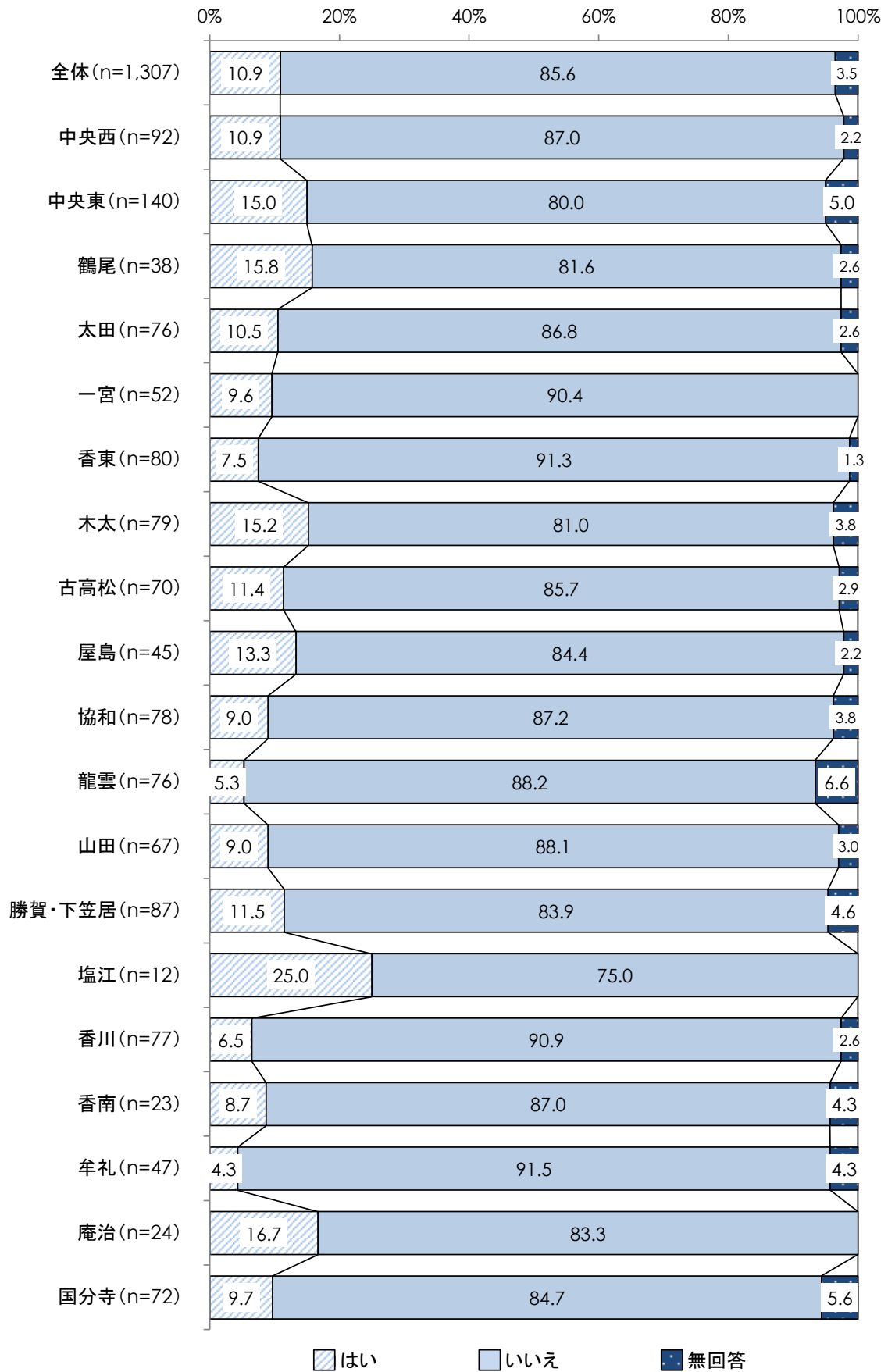
圏域別にみると、「いいえ」の割合は牟礼（91.5%）、香東（91.3%）、香川（90.9%）、一宮（90.4%）では９割を超えており、大半の人が友人の家を訪問していないと回答しています。

一方、「はい」の割合は、塩江（25.0%）、庵治（16.7%）、鶴尾（15.8%）、木太（15.2%）、中央東（15.0%）などで他の圏域に比べてやや高くなっています。

図表 151 友人宅への訪問について（全体）



図表 152 友人宅への訪問について（全体、日常生活圏域別）



問 35 家族や友人の相談にのっていますか。【○は1つ】

問 36 病人を見舞うことができますか。【○は1つ】

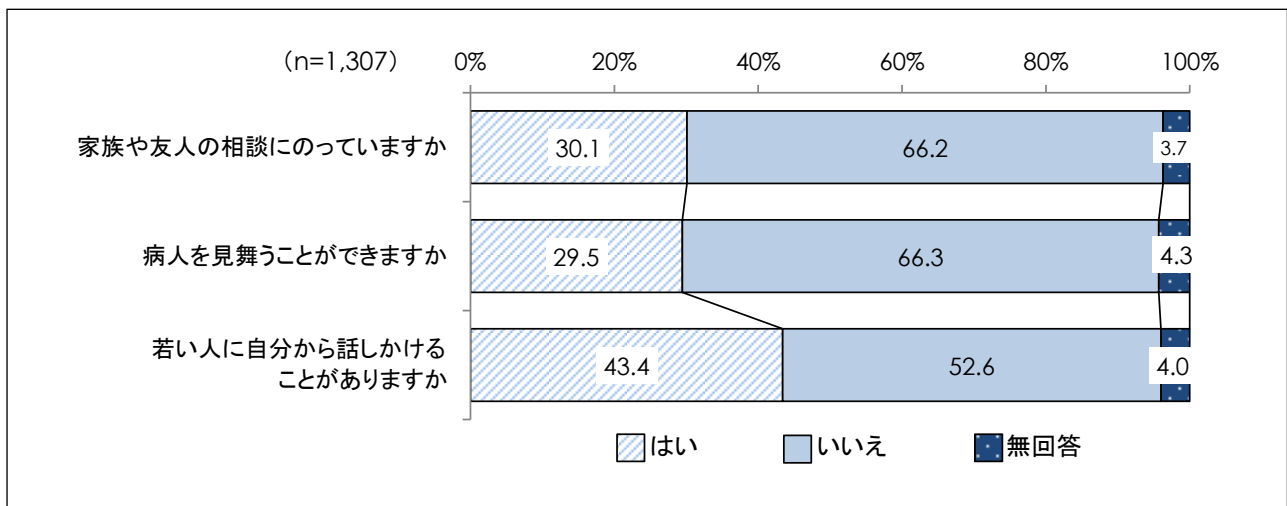
問 37 若い人に自分から話しかけることがありますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●家族や友人の相談にのったり病人を見舞うことができる人は3割程度

社会的役割に関する項目についてたずねたところ、『家族や友人の相談にのっていますか』、『病人を見舞うことができますか』については約6割の人が「いいえ」と回答しており、「はい」の割合を大きく上回っています。また、『若い人に自分から話しかけることがありますか』については「はい」が43.4%となっており、他の設問に比べて「はい」の割合が高くなっています。

図表 153 社会的役割について（全体）



（５）趣味・生きがいの有無

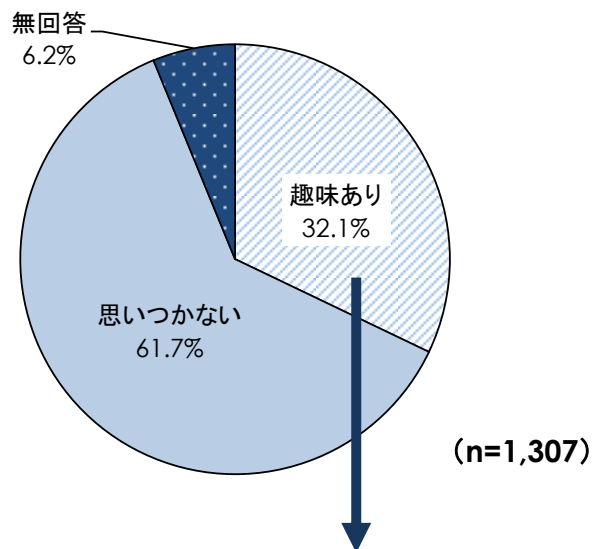
問 38 趣味はありますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●趣味は思いつかない人が６割を占め、主な趣味の内容は、音楽やカラオケなど

趣味の有無についてたずねたところ、「思いつかない」が61.7%と約６割を占めています。また、「趣味あり」の割合は32.1%となっており、その内容は音楽、畑仕事、手芸、読書などとなっています。

図表 154 趣味の有無と内容（全体）



趣味の主な内容	件数
音楽、歌、カラオケ	65
畑仕事、ガーデニング、草花の世話	40
手芸、物づくり(編み物、パッチワーク、陶芸、折り紙、プラモデル)	39
読書	36
TV、DVD、ビデオ鑑賞(スポーツ、時代劇等、映画)	35
スポーツ(ゴルフ、ゲートボール、卓球、釣り等)	31
書道、絵画	20
囲碁、将棋	14
俳句、川柳、和歌、詩吟	11
インターネット、パソコン、ゲーム	11
ギャンブル(競輪、パチンコ、マージャンなど)	7
カメラ、写真	6
料理	5
旅行	3
勉強(経済、歴史)	3
その他(ナンプレ、拳法など)	15
出来ない(昔はあったが、今はできない、あるが病気でできないなど)	5

問 39 生きがいがありますか。【○は1つ】

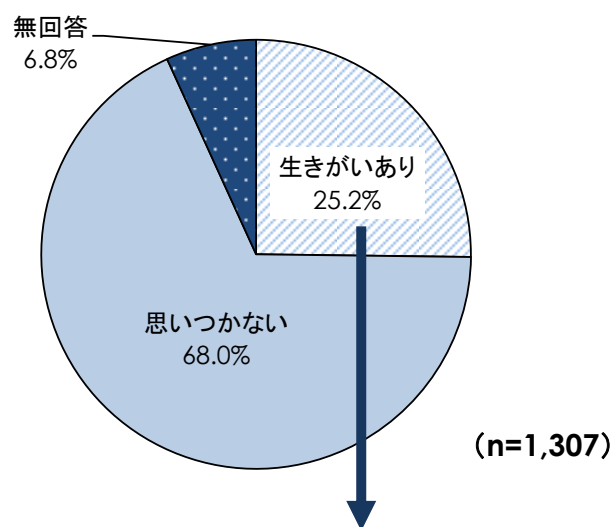
【全体の傾向】

●生きがいが思いつかないが約7割を占め、主な生きがいの内容は子どもや孫の事

生きがいの有無についてたずねたところ、「思いつかない」が68.0%と約7割を占めています。

また、「生きがいあり」の割合は25.2%となっており、その内容は子どもや孫達の事、趣味などとなっています。

図表 155 生きがいの有無と内容（全体）



生きがいの主な内容	件数
子どもや孫達のこと	101
趣味(旅行、カラオケ、釣り、ドライブ、スポーツ、手芸、テレビ、貯金など)	63
健康に元気よく暮らす	24
デイサービス、施設へ通うこと	16
友人との交流	13
家族との生活や交流	12
農作業、畑仕事、草花の手入れ	7
ペットとの交流	6
長生きしたい	6
人の役に立ちたい	3
宗教、信仰	3
仕事	2
その他(家の修理など)	4

5 地域での活動について

（１）社会参加の状況

問 40 以下のような①～⑦の会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

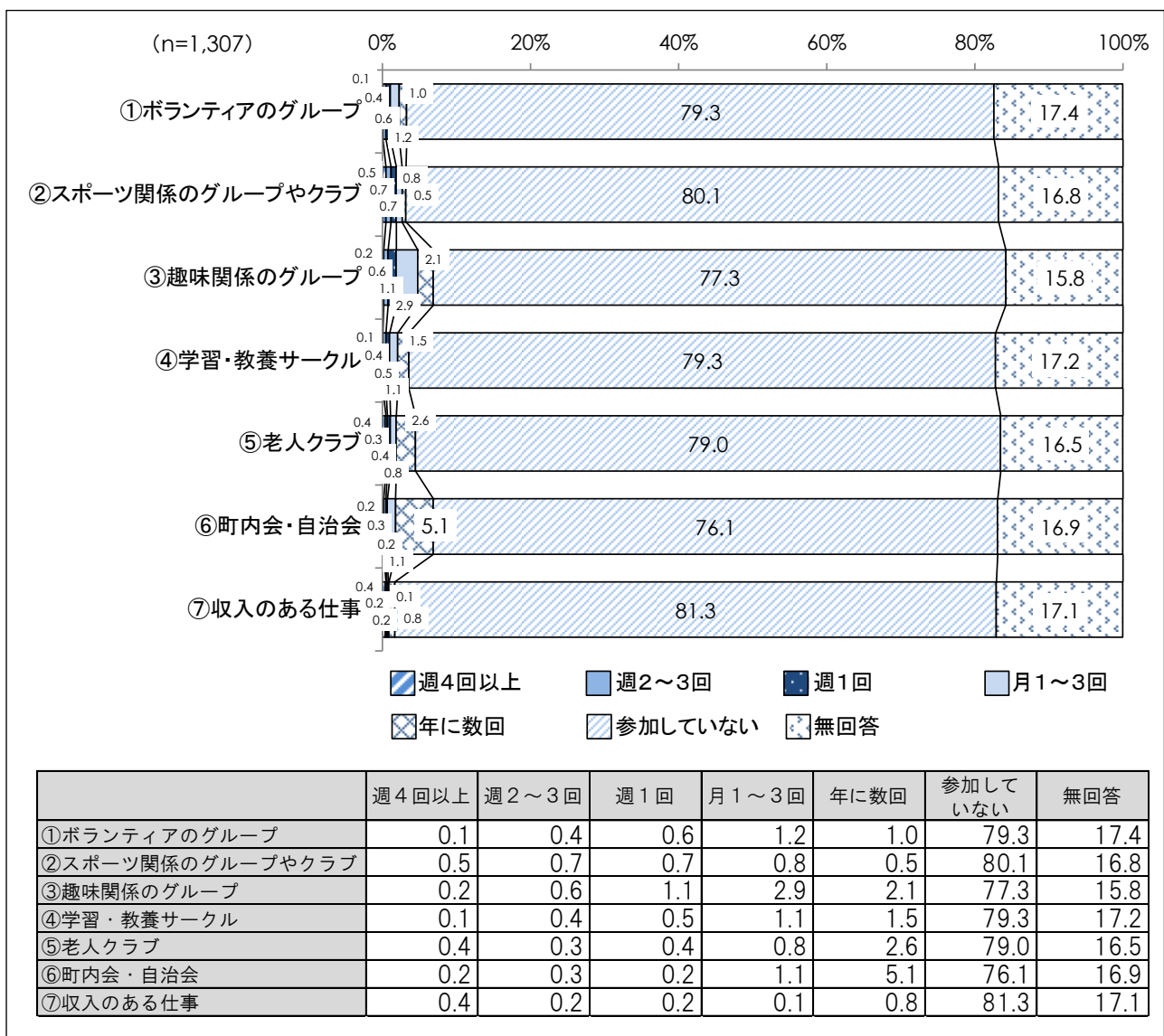
【①～⑦それぞれに〇は１つずつ】

【全体の傾向】

●大半の人がどの会・グループにも参加していない

社会参加の頻度についてみるとすべての会、グループにおいて「参加していない」が７割～８割程度を占めています。⑥町内会・自治会には「年に数回」参加している人が５.１％となっています。

図表 156 社会参加の状況（全体）



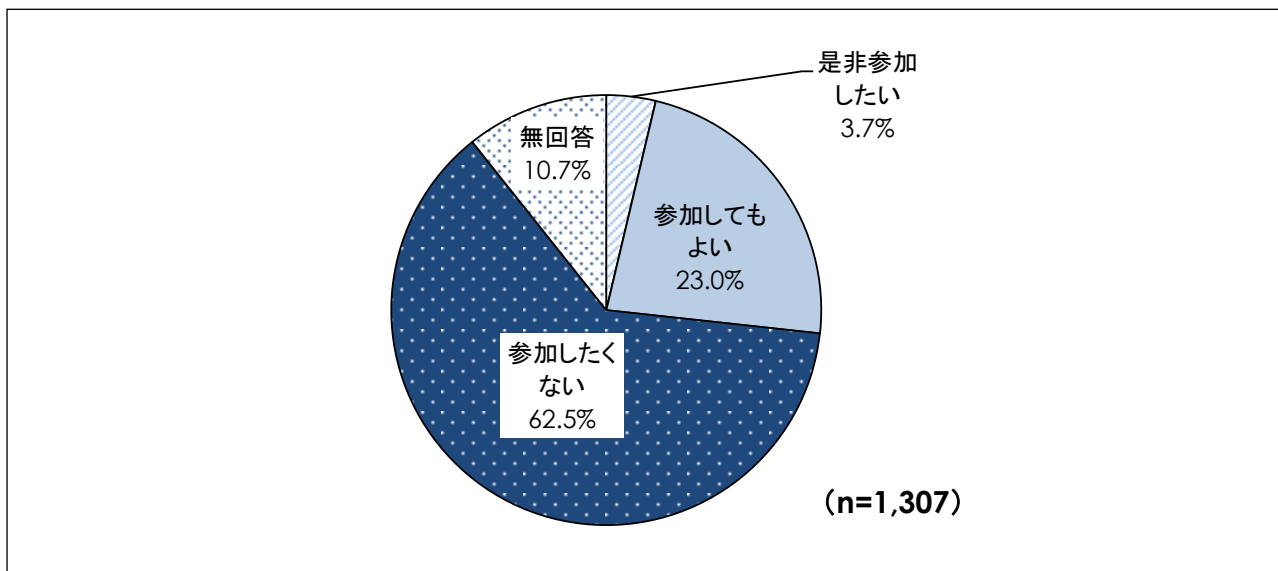
（２）地域づくりへの参加意向（参加者）

問 41 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
【〇は1つ】

【全体の傾向】

●「参加したくない」が『参加者として参加してもよい』の割合を大きく上回っている
地域づくり活動に参加者として参加してみたいかについてたずねたところ、「参加したくない」が62.5%と6割を超えています。一方、「是非参加したい」（3.7%）、「参加してもよい」（23.0%）を合わせた『参加者として参加してもよい』の割合は26.7%と低い割合になっています。

図表 157 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体）



（２）地域づくりへの参加意向（企画・運営）

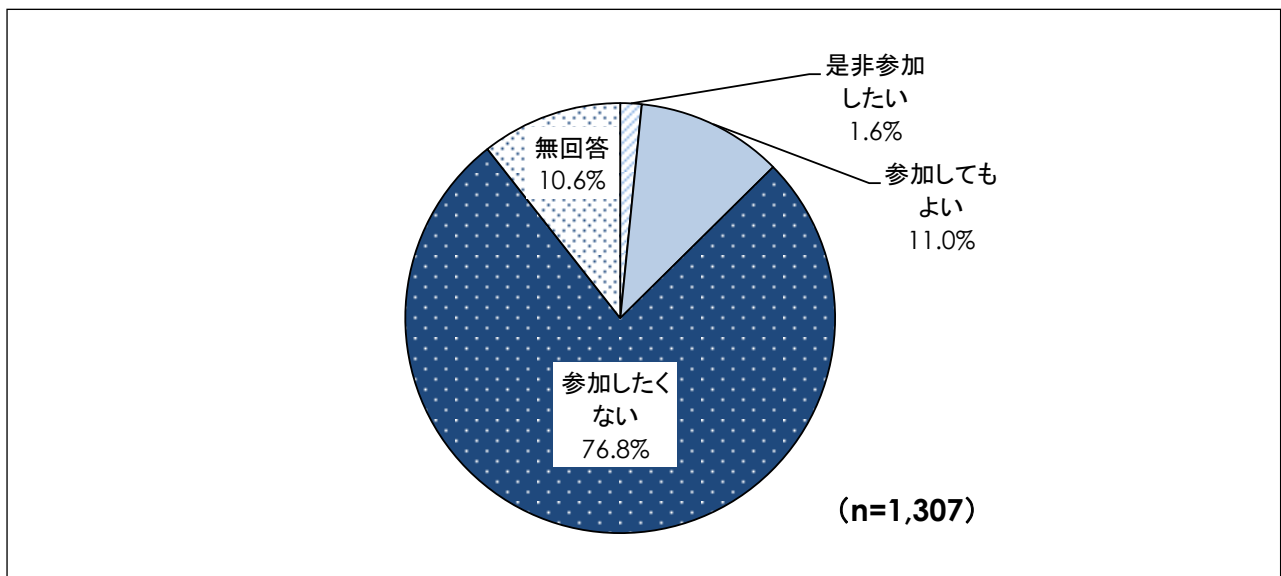
問 42 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●「企画・運営として参加してもよい」と考えている人は１割程度

地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかについてたずねたところ、「参加したくない」が 76.8%と７割を超えています。一方、「是非参加したい」（1.6%）と「参加してもよい」（11.0%）を合わせた『企画・運営として参加してもよい』の割合は 12.6%となっており、参加意欲はかなり低くなっています。

図表 158 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体）



6 たすけあいについて

（１）たすけあいの状況

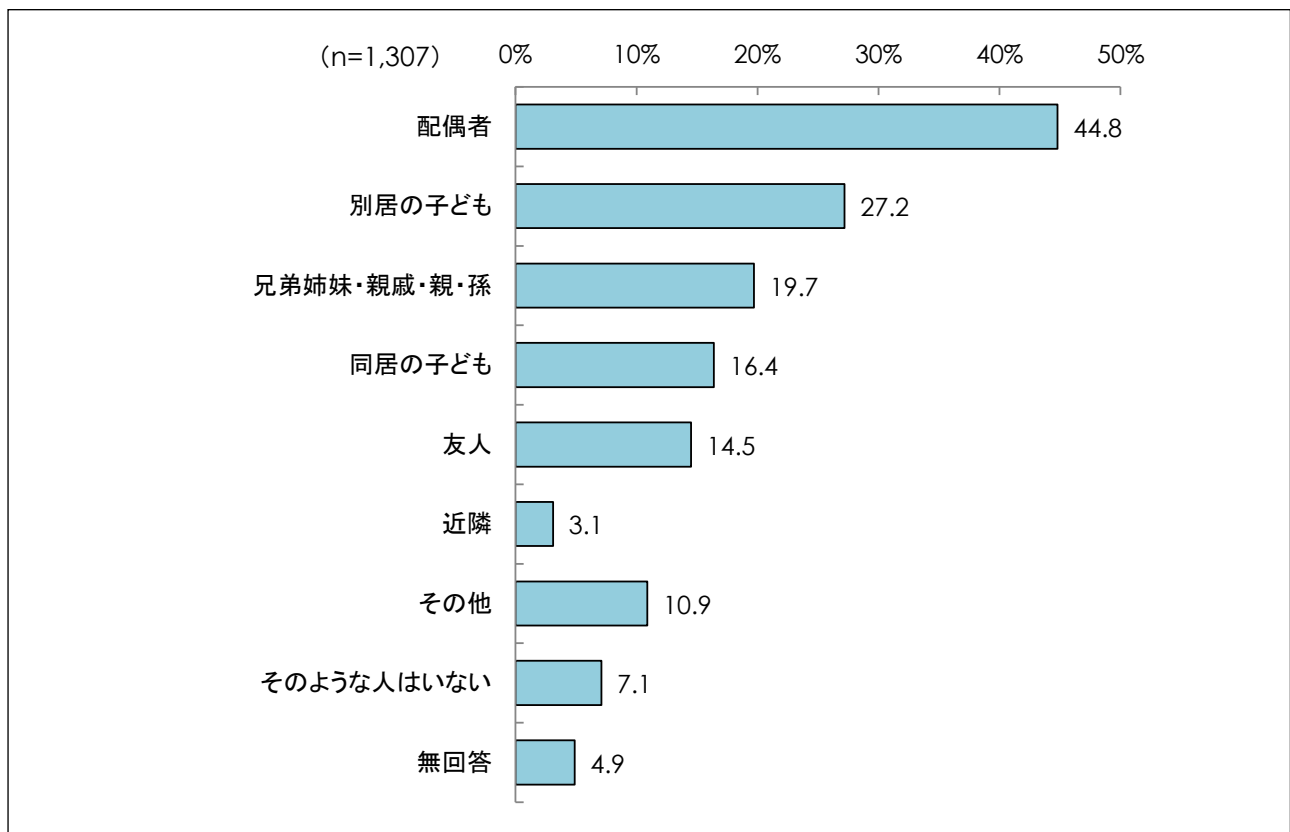
問 43 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●心配ごとや愚痴を聞いてくれる相手は配偶者の割合が突出している

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてたずねたところ、「配偶者」（44.8%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（27.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（19.7%）、「同居の子ども」（16.4%）、「友人」（14.5%）が主な相手となっています。

図表 159 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体／複数回答）



問 44 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

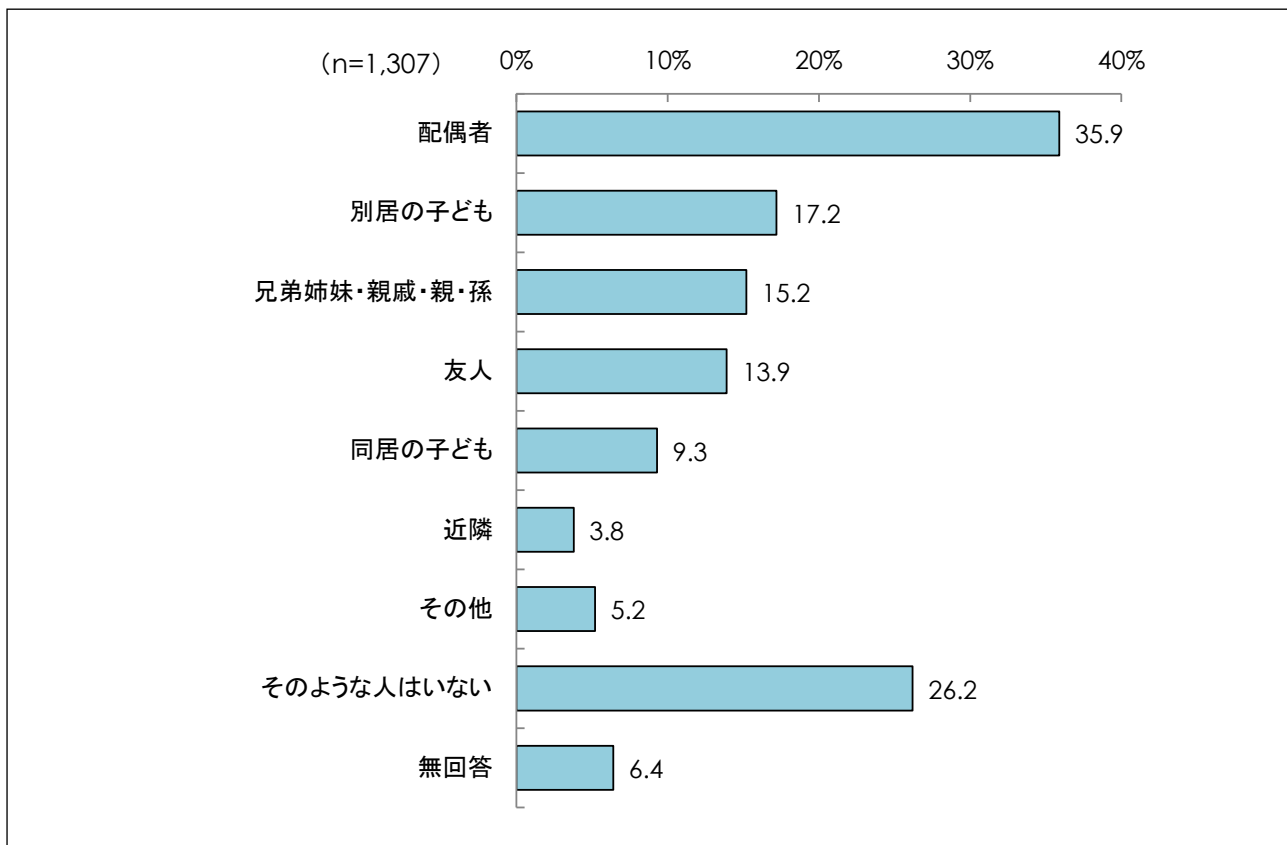
【全体の傾向】

●心配ごとや愚痴を聞いてあげる相手がいない人が2割を超える

心配事や愚痴を聞いてあげる相手をたずねたところ、「配偶者」（35.9%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで「別居の子ども」（17.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（15.2%）、「友人」（13.9%）、「同居の子ども」（9.3%）などとなっており、聞いてあげる相手としての上位3位までは心配事や愚痴を聞いてもらう相手と同様となっています。

また、「そのような人はいない」が26.2%となっており「配偶者」（35.9%）に次いで2番目に多くなっています。

図表 160 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体／複数回答）



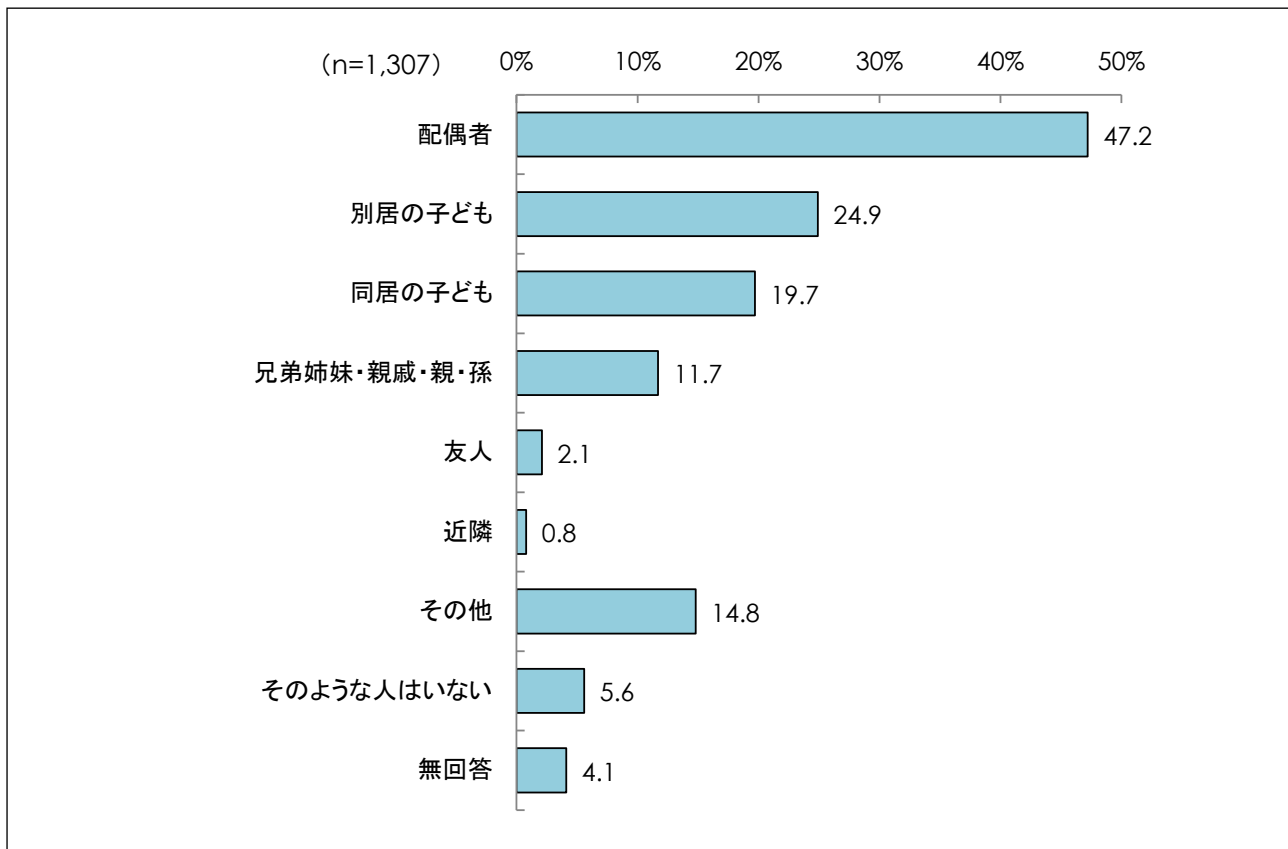
問 45 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●看病や世話をしてくれる相手は親族が上位を占める

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてたずねたところ、「配偶者」（47.2%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで「別居の子ども」（24.9%）、「同居の子ども」（19.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（11.7%）と上位4位まではすべて親族となっています。さらに「友人」（2.1%）、「近隣」（0.8%）と続っていますが割合に大差がみられます。

図表 161 看病や世話をしてくれる人（全体／複数回答）



問 46 反対に、あなたが看病や世話をしをあげる人はどなたですか。【〇はいくつでも】

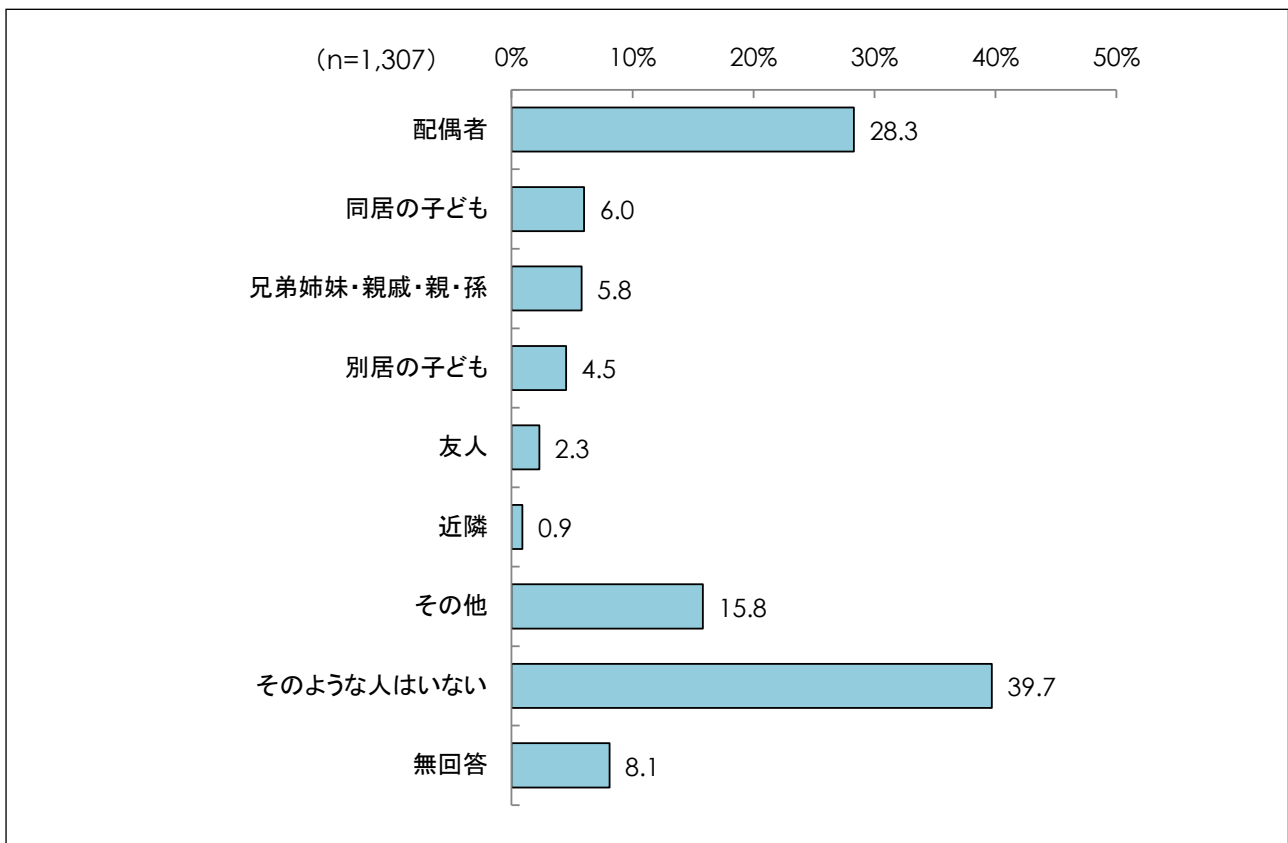
【全体の傾向】

●看病や世話をしをあげる相手が「いない」と回答した人が最も多い

反対に、病気の際に看病や世話をしをあげる相手をたずねたところ、相手を回答した人の中では「配偶者」（28.3%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「同居の子ども」（6.0%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（5.8%）、「別居の子ども」（4.5%）の順となっていますが、全体としてみると「そのような人はいない」（39.7%）が最も多くなっています。

看病や世話をしてくれる相手と同様に上位は親族が占めていますが、「そのような人はいない」の割合が大きく増加しています。

図表 162 看病や世話をしをあげる人（全体／複数回答）



（２）地域の相談窓口の活用状況

問 47 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。【〇はいくつでも】

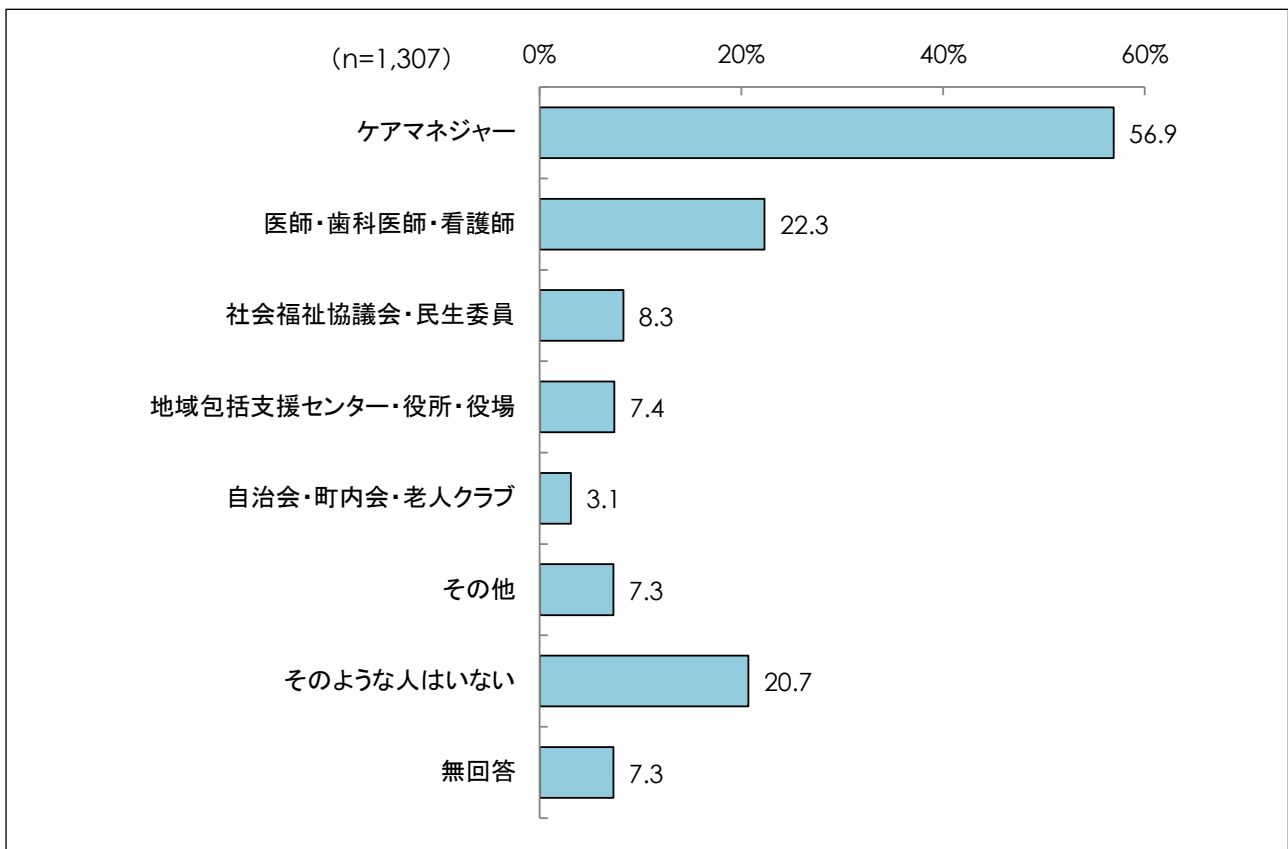
【全体の傾向】

●家族や友人・知人以外の相談相手としてはケアマネジャーや医療関係者など

家族や友人・知人以外の相談相手についてたずねたところ、「ケアマネジャー」（56.9%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで「医師・歯科医師・看護師」（22.3%）、「社会福祉協議会・民生委員」（8.3%）、「地域包括支援センター・役所・役場」（7.4%）、「自治会・町内会・老人クラブ」（3.1%）の順となっています。

また、「そのような人はいない」は 20.7%となっており、全体としてみると第3位となっています。

図表 163 何かあったときに家族や友人・知人以外で相談する相手（全体／複数回答）



（３）友人関係について

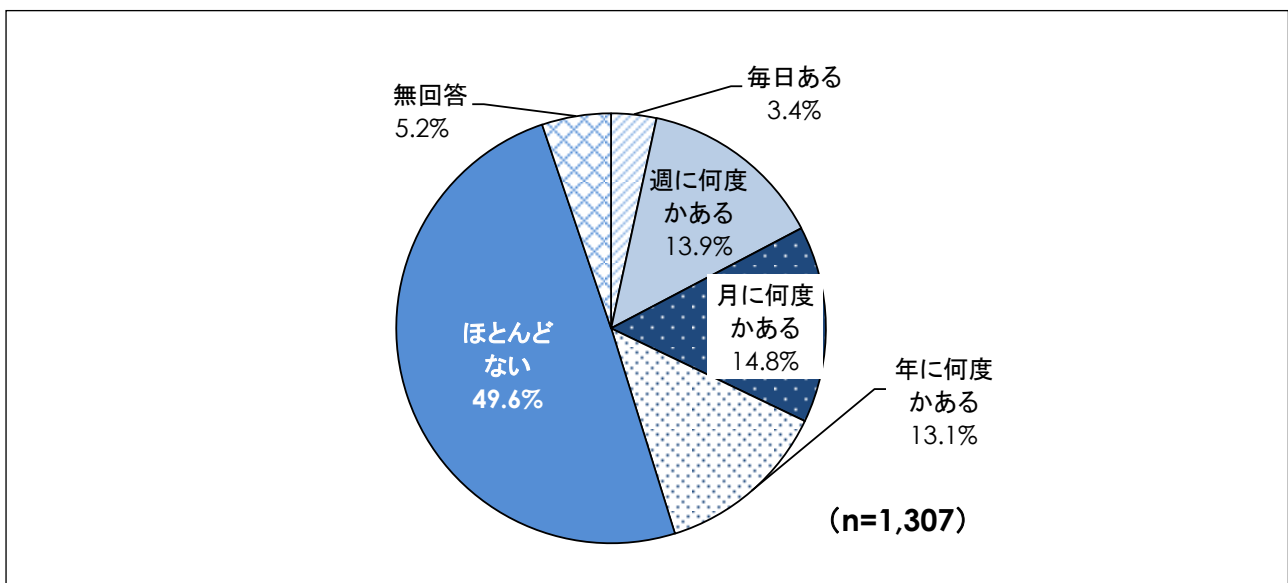
問 48 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●友人・知人とは月に何度か会う人が多いが、ほとんど会わない人が約５割を占める

友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、49.6%の人が「ほとんどない」と回答しており、約５割の人が友人・知人とほとんど会ってない状況です。また、頻度としては「月に何度かある」（14.8%）が最も高く、次いで「週に何度かある」（13.9%）、「年に何度かある」（13.1%）、「毎日ある」（3.4%）となっています。

図表 164 友人・知人と会う頻度（全体）



問 49 この1 か月間、何人の友人・知人と会いましたか。【○は1つ】
同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

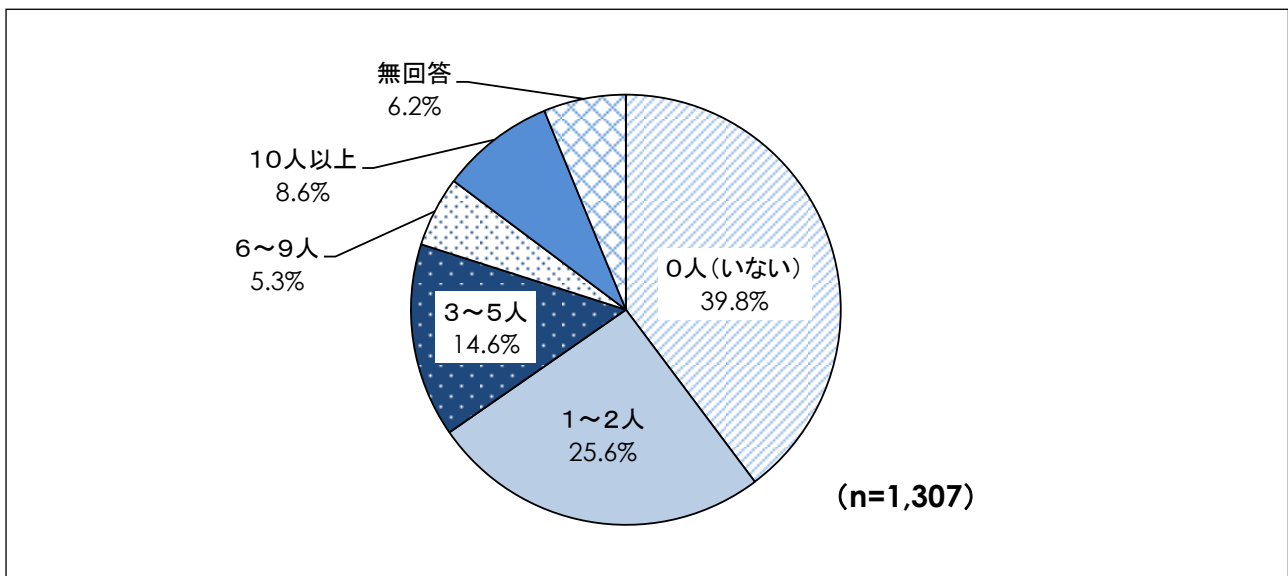
【全体の傾向】

●約4割の人がこの1 か月間に友人・知人と全く会っていない

この1 か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「0人（いない）」が 39.8%と最も高くなっており、約4割の人が友人や知人と全く会っていない状態となっています。

また、友人に会った人数は「1～2人」（25.6%）との回答が多く、次いで「3～5人」（14.6%）、「10人以上」（8.6%）、「6～9人」（5.3%）となっています。

図表 165 1 か月間に会った友人・知人の人数（全体）



問 50 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。【〇はいくつでも】

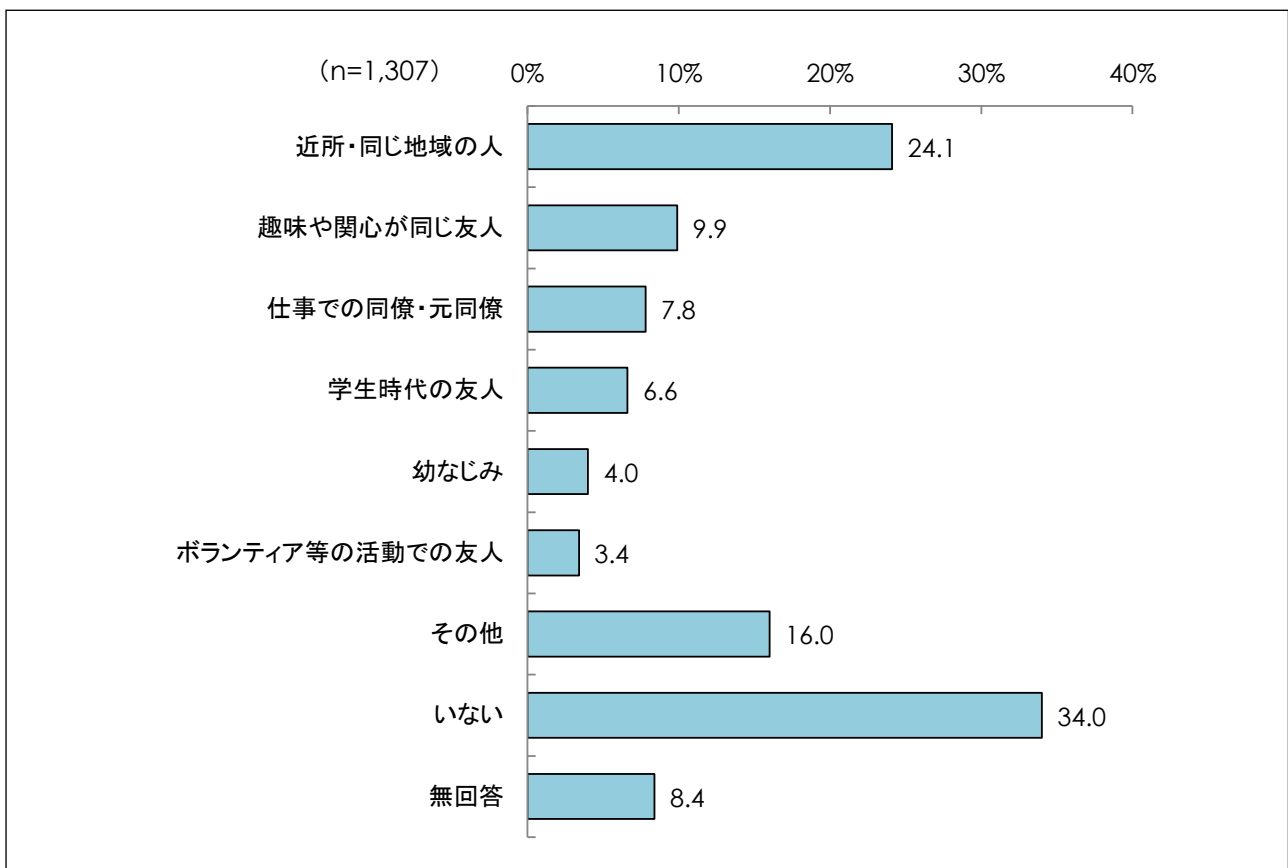
【全体の傾向】

●この 1 か月間に友人・知人と全く会っていない人が約 3 割を超えている

よく会う友人・知人との間柄についてたずねたところ、「いない」が 34.0%と最も多くなっています。

また、友人・知人と会っている人の中では「近所・同じ地域の人」（24.1%）の割合が突出しており、次いで「趣味や関心が同じ友人」（9.9%）、「仕事での同僚・元同僚」（7.8%）、「学生時代の友人」（6.6%）などとなっています。

図表 166 よく会う友人・知人との間柄について（全体／複数回答）



7 健康について

（１）主観的健康感

問 51 現在のあなたの健康状態はいかがですか。【〇は１つ】

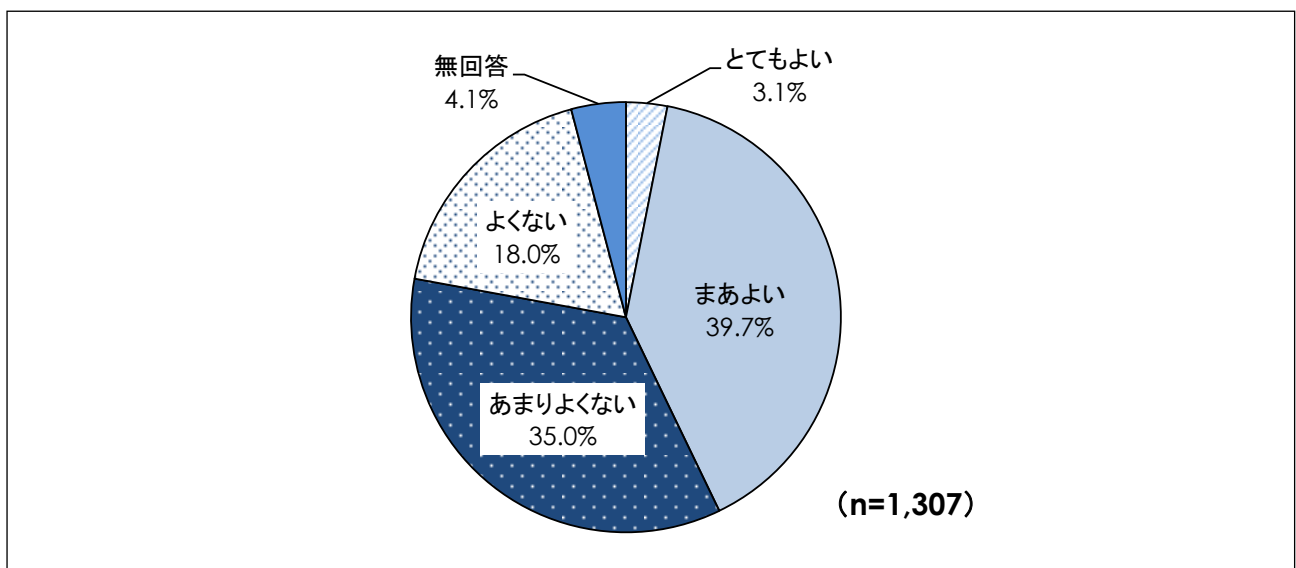
【全体の傾向】

●半数以上の人健康状態が『よくない』と感じている

現在の健康状態についてたずねたところ、全体の 39.7%が「まあよい」と回答しており、「とてもよい」（3.1%）と合計すると、健康状態が『よい』は 42.8%となっています。

これに対し、健康状態が「あまりよくない」（35.0%）と「よくない」（18.0%）を合計した『よくない』は 53.0%となっており、『よい』の割合を 10.2 ポイント上回っています。

図表 167 主観的健康感（全体）



（２）主観的幸福感

問 52 あなたは、現在どの程度幸せですか。【〇は１つ】

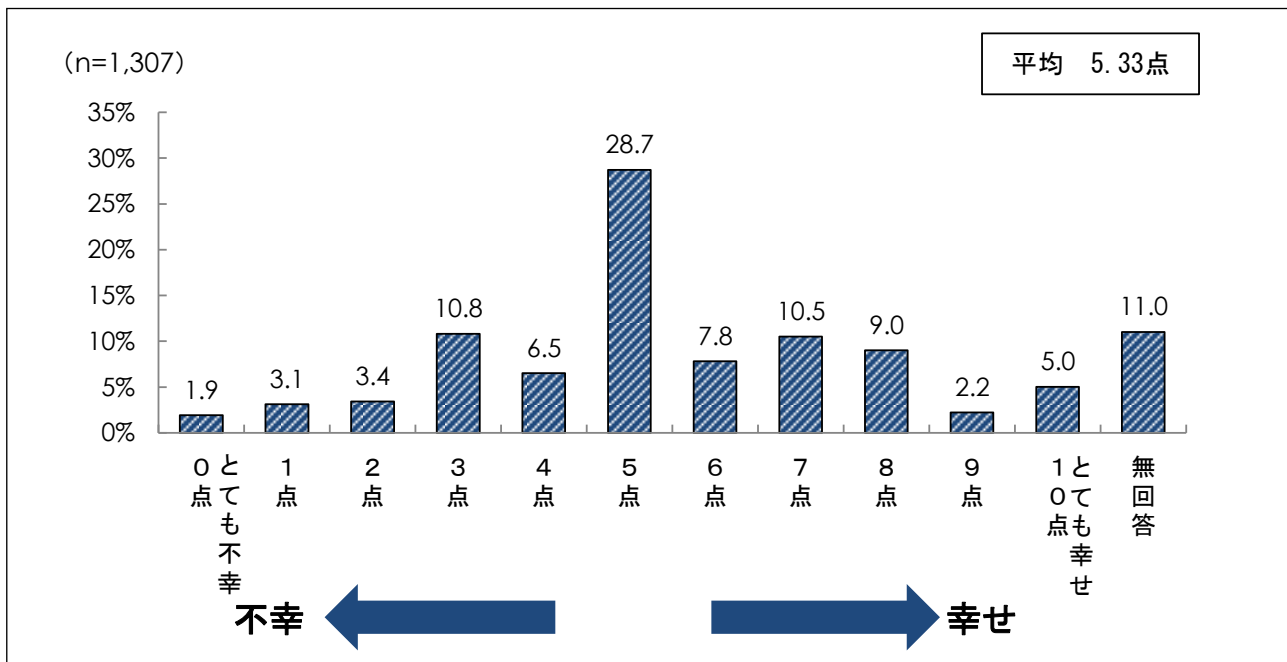
（「とても不幸」を〇点、「とても幸せ」を１０点として、ご記入ください）

【全体の傾向】

●幸せ度は５点以上の評価をしている人が約６割

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、「５点」が 28.7%と最も高く、次いで「３点」（10.8%）、「７点」（10.5%）、「８点」（9.0%）、「６点」（7.8%）などとなっており、平均は 5.33 点となっています。

図表 168 主観的幸福感（全体、平均点）



（３）うつ傾向について

問 53 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

【〇は1つ】

問 54 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。【〇は1つ】

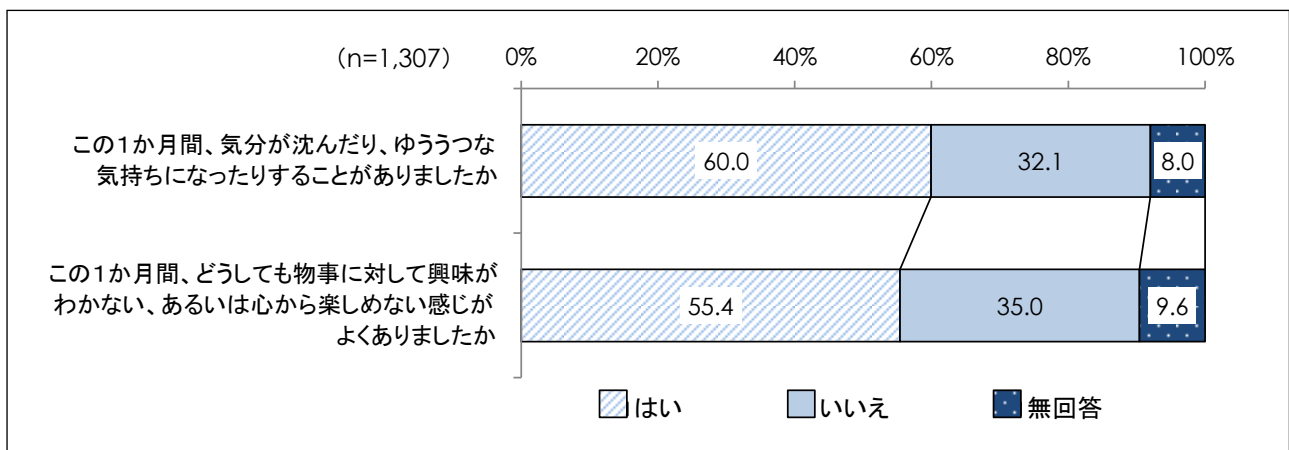
【全体の傾向】

●この1か月間に気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりしている人が約5割～6割

この1か月間のうつ傾向についてたずねたところ、『この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか』については、「はい」が60.0%、『この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか』については「はい」が55.4%を占めています。

どちらも設問も「いいえ」の割合を大きく上回っており、ゆううつな気持ちになったり、心から楽しめない感じがあったと回答している人の方が多い結果となっています。

図表 169 うつ傾向について（全体）

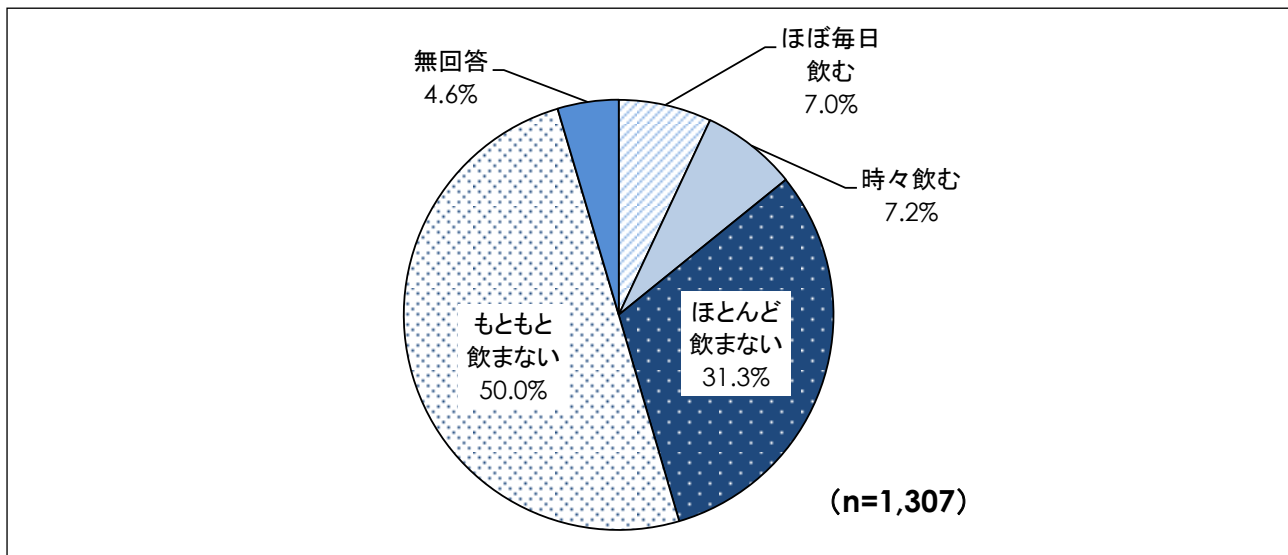


（４）飲酒、喫煙の習慣

問 55 お酒は飲みますか。【〇は１つ】

飲酒の習慣についてたずねたところ、50.0%が「もともと飲まない」と回答しており、「ほとんど飲まない」（31.3%）を合計すると、『飲まない』が81.3%と大半を占めています。

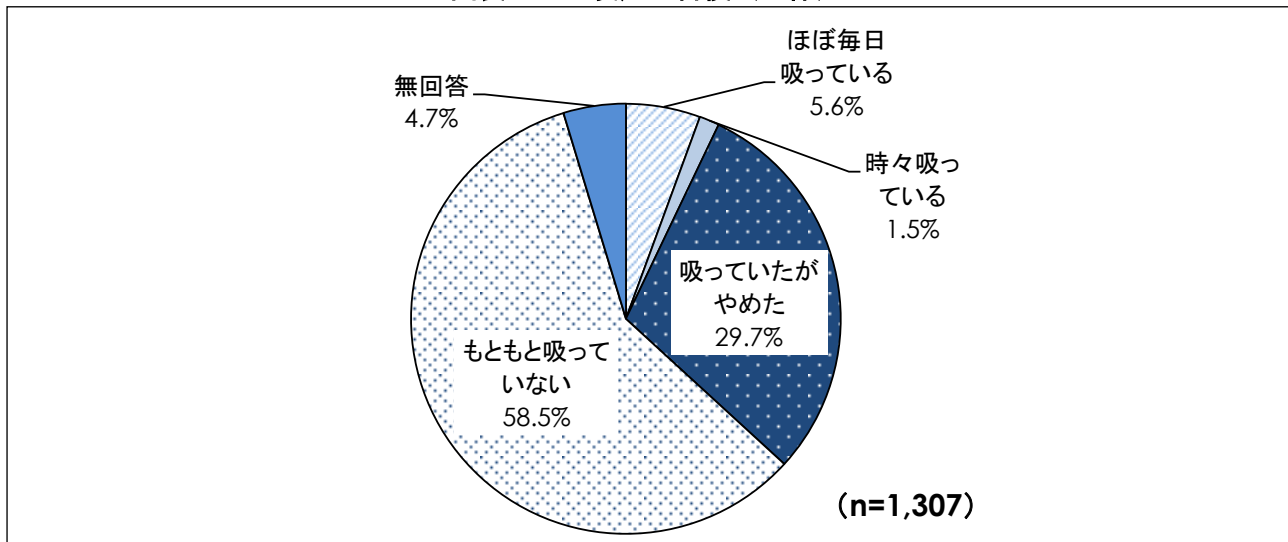
図表 170 飲酒の習慣（全体）



問 56 タバコは吸っていますか。【〇は１つ】

喫煙の習慣についてたずねたところ、全体の 58.5%が「もともと吸っていない」と回答しており、「吸っていたがやめた」（29.7%）を合計すると、『現在吸っていない』が88.2%と大半を占めています。

図表 171 喫煙の習慣（全体）



（6）現在治療中、後遺症のある病気について

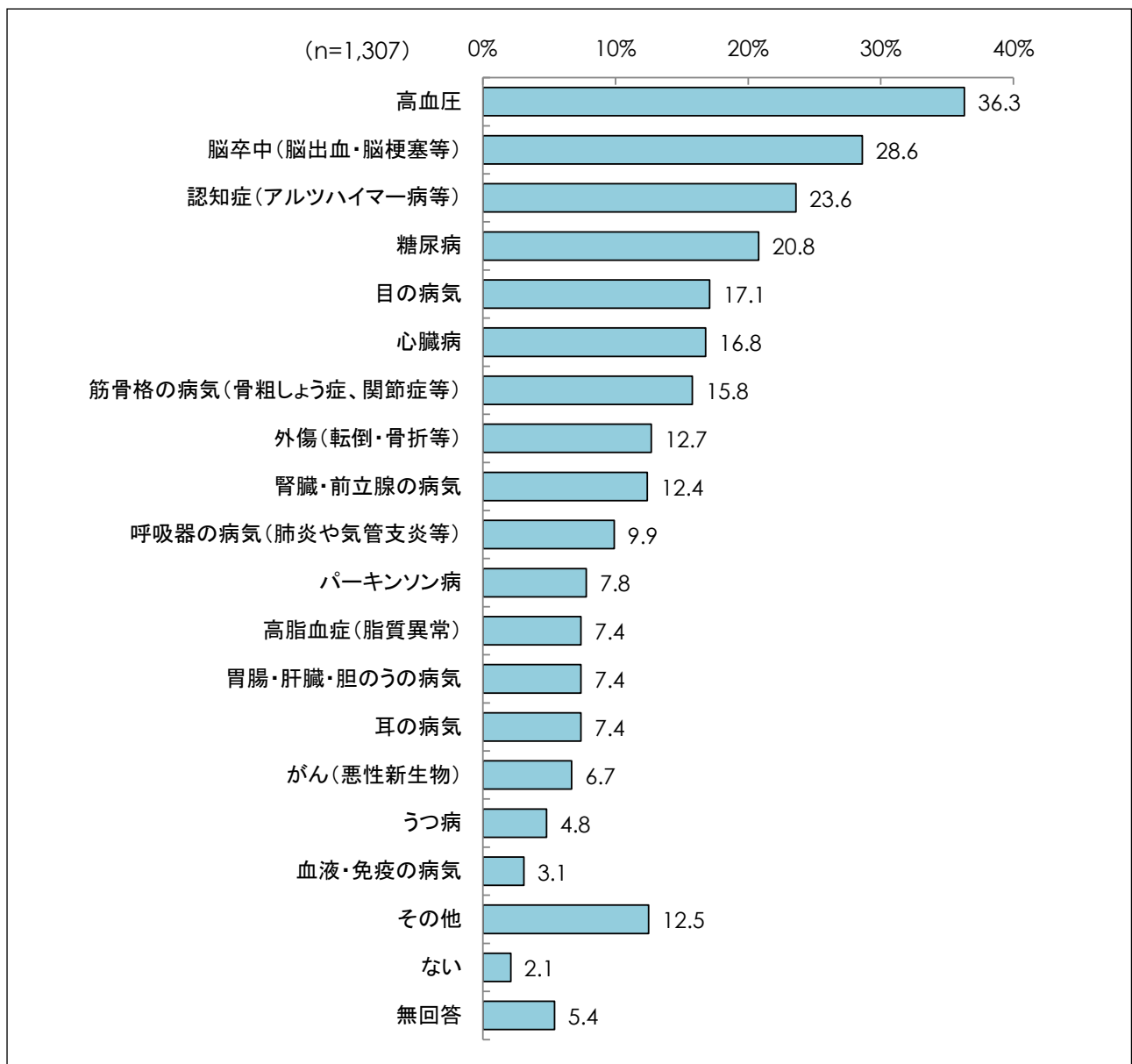
問 57 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●現在治療中、後遺症のある病気としては主に高血圧、脳卒中、認知症など

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、「高血圧」（36.3%）が最も多く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（28.6%）、「認知症（アルツハイマー病等）」（23.6%）、「糖尿病」（20.8%）、「目の病気」（17.1%）、「心臓病」（16.8%）などとなっています。

図表 172 現在治療中、後遺症のある病気（全体／複数回答）



8 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

（１）高齢者の居場所づくり

問 58 高齢者が気軽に集える場所がありますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所がないと感じている人が６割を超える

高齢者が気軽に集える場所の有無についてたずねたところ、全体の 64.7%が「ない」と回答しており、「ある」（22.8%）を大きく上回っています。高齢者が集える場所が「ある」と感じている人は全体の２割程度と低い割合となっています。

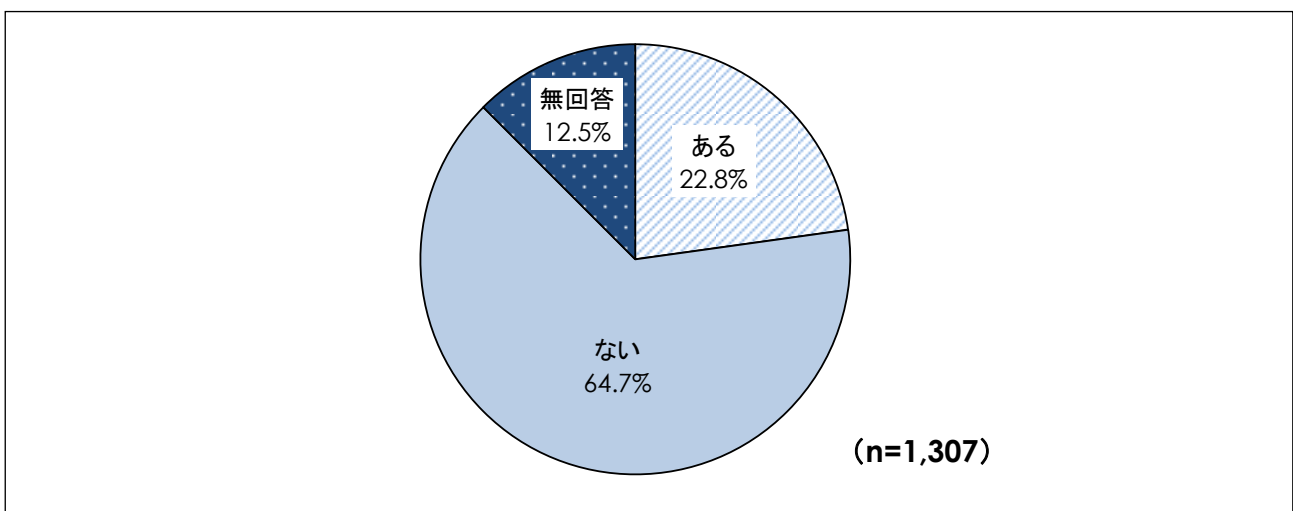
【属性別の傾向】

●庵治、一宮、古高松、香東などでは集える場所がないと感じている人の割合がやや高め

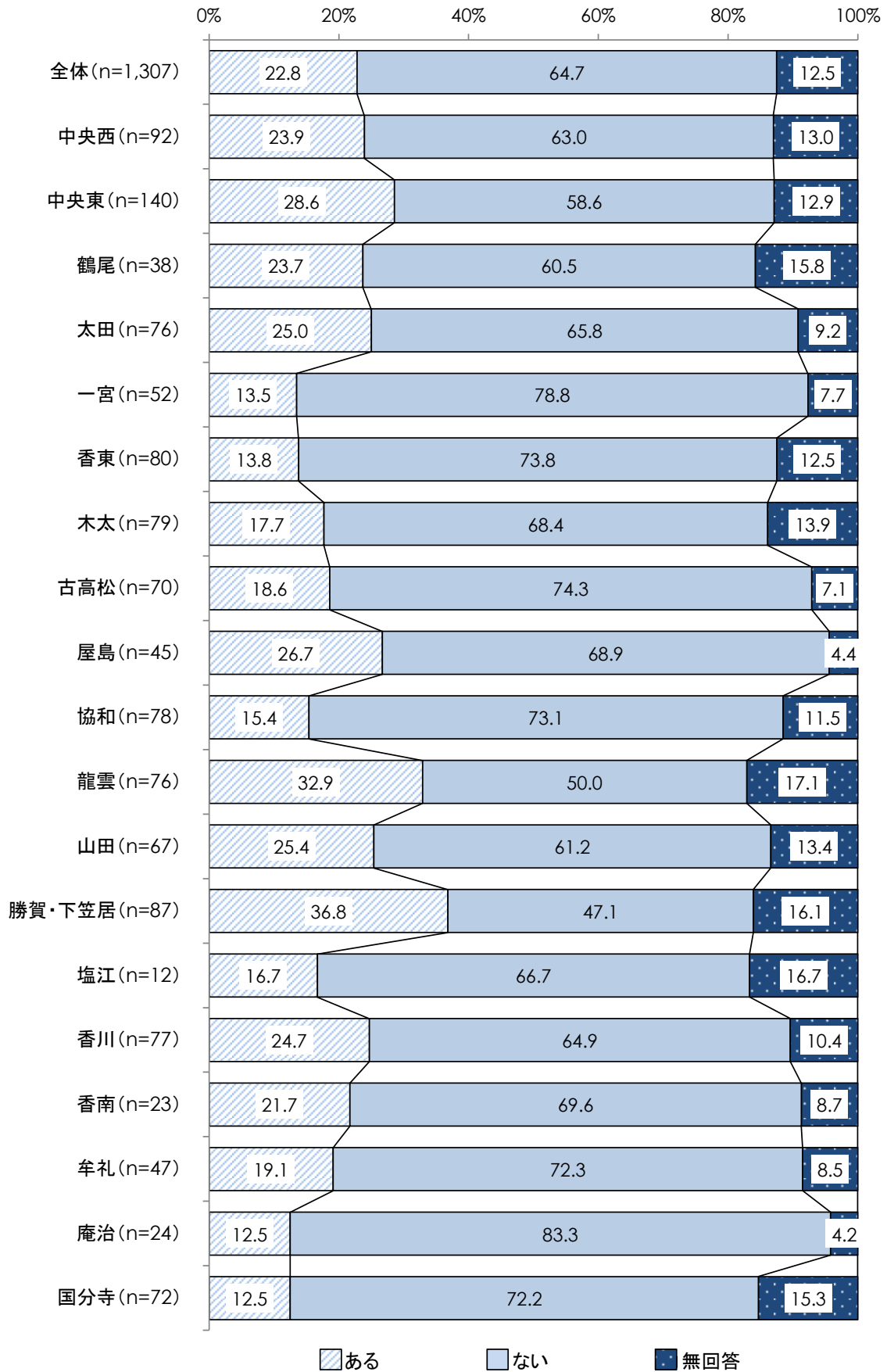
圏域別にみると、「ない」の割合については、庵治（83.3%）、一宮（78.8%）、古高松（74.3%）、香東（73.8%）、協和（73.1%）、牟礼（72.3%）、国分寺（72.2%）などで７割を超えており、他の圏域に比べて集える場所がないと感じている人の割合が高くなっています。

一方、「ある」の割合については、勝賀・下笠居（36.8%）、龍雲（32.9%）などでは３割を超えており、他の圏域に比べて集える場所があると感じている人の割合が高くなっています。

図表 173 高齢者が集える場所の有無（全体）



図表 174 高齢者が集える場所の有無（全体、日常生活圏域別）



【問 58 で「1.ある」と回答した方】

問 58－1 気軽に集える場所は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所としては主にコミュニティセンターや集会所など

高齢者が気軽に集える場所があると回答した人に対し、その場所はどこかについてたずねたところ、「コミュニティセンター」が 38.9%と最も多く、次いで「集会所」（26.8%）、「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」（14.1%）、「近所の知人宅」（11.7%）、「社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン」（8.1%）などとなっています。

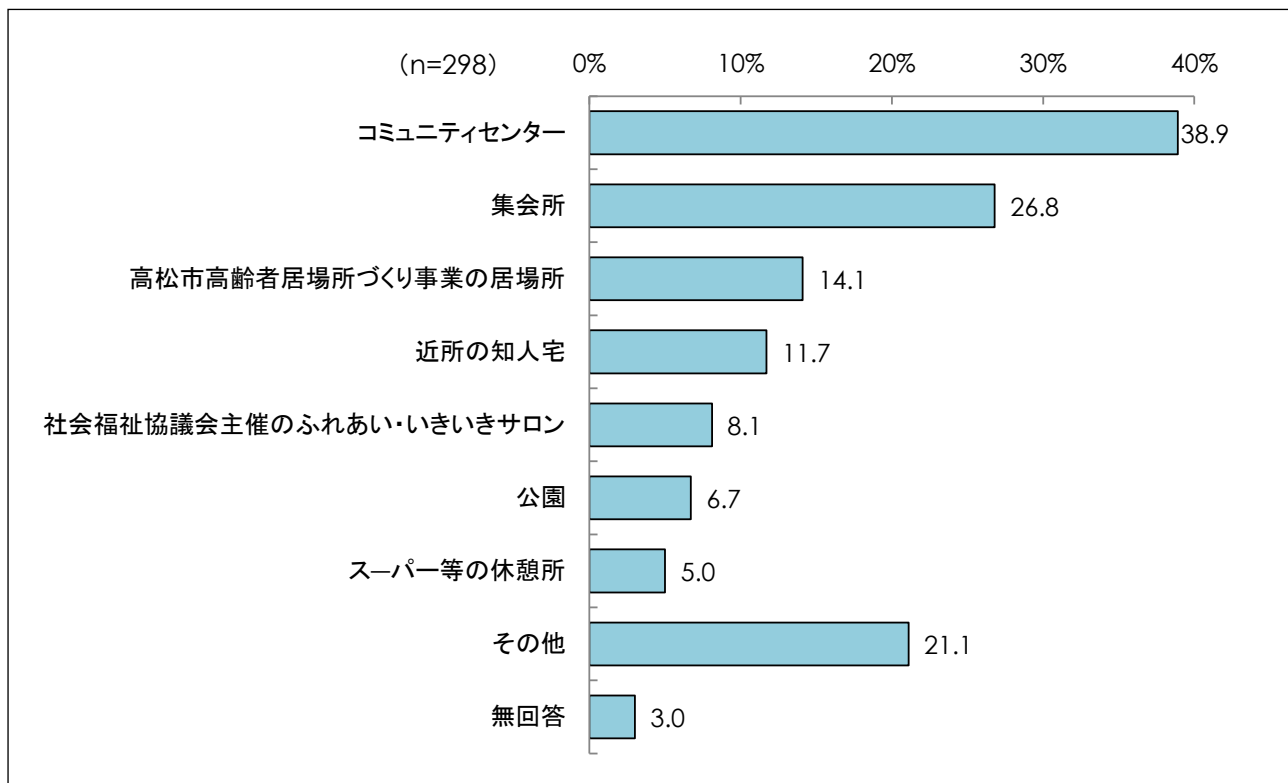
【属性別の傾向】

●屋島、塩江では高松市高齢者居場所づくり事業の居場所が第 1 位

圏域別にみると、屋島、塩江では「高松市高齢者居場所づくり事業の居場所」が第 1 位となっています。（屋島ではコミュニティセンターも同率 1 位）

また、中央西、鶴尾、太田、木太、古高松、勝賀・下笠居、塩江、国分寺では「近所の知人宅」が上位になっており、他の圏域に比べて近所付き合いがある地域となっています。

図表 175 高齢者が集える場所（全体／複数回答）



図表 176 高齢者が集える場所（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=298)		コミュニティセンター 38.9	集会所 26.8	その他 21.1
日常生活圏域別	中央西 (n=22)	コミュニティセンター 63.6	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 18.2	集会所/近所の知人宅/その他 13.6
	中央東 (n=40)	コミュニティセンター 32.5	その他 30.0	集会所 22.5
	鶴尾 (n=9)	コミュニティセンター 44.4	集会所 33.3	近所の知人宅 22.2
	太田 (n=19)	その他 36.8	コミュニティセンター 26.3	近所の知人宅 15.8
	一宮 (n=7)	コミュニティセンター 57.1	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/集会所 28.6	
	香東 (n=11)	コミュニティセンター 45.5	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 27.3	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 18.2
	木太 (n=14)	コミュニティセンター 42.9	集会所 28.6	近所の知人宅 21.4
	古高松 (n=13)	コミュニティセンター 53.8	その他 38.5	スーパー等の休憩所/近所の知人宅 23.1
	屋島 (n=12)	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/コミュニティセンター 33.3		集会所/その他 25.0
	協和 (n=12)	コミュニティセンター 41.7	集会所/その他 33.3	
	龍雲 (n=25)	集会所 52.0	コミュニティセンター 24.0	その他 16.0
	山田 (n=17)	コミュニティセンター 58.8	集会所 35.3	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所 29.4
	勝賀・下笠居 (n=32)	集会所 46.9	コミュニティセンター 43.8	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/近所の知人宅 9.4
	塩江 (n=2)	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/近所の知人宅 50.0		
	香川 (n=19)	コミュニティセンター 42.1	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン 26.3	
	香南 (n=5)	その他 60.0	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/集会所 20.0	
	牟礼 (n=9)	コミュニティセンター/その他 33.3		高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/集会所 22.2
	庵治 (n=3)	集会所 66.7	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/コミュニティセンター 33.3	
	国分寺 (n=9)	コミュニティセンター/近所の知人宅/その他 33.3		

（２）高松市地域包括支援センターについて

問 59 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。

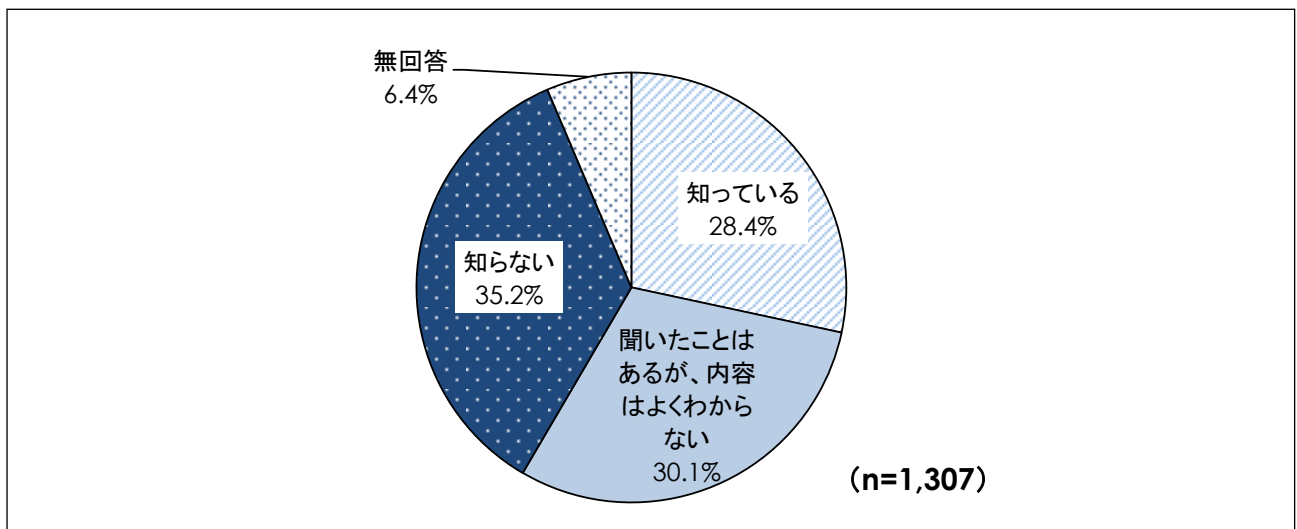
「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●高松市地域包括支援センターを知っている人は約３割程度にとどまっている

高松市地域包括支援センターの認知度についてたずねたところ、「知っている」と回答した人は28.4%にとどまり、認知度は低めの傾向となっています。

図表 177 高松市地域包括支援センターの認知度（全体）



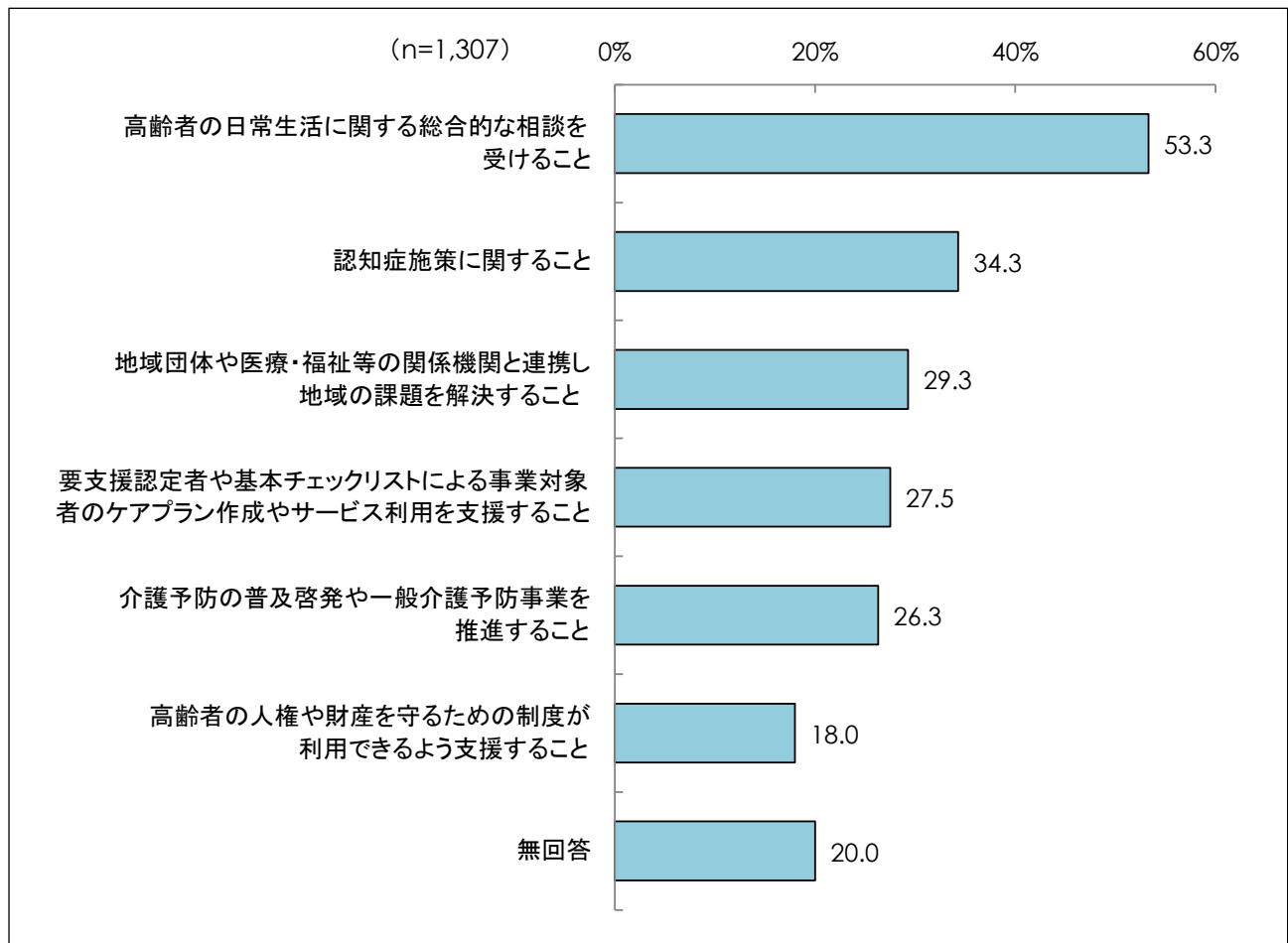
問 60 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者の日常生活に関する相談、認知症施策、地域課題の解決などの要望が高い

地域包括支援センターが充実すべき業務についてたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が 53.3%と最も多くなっており、その割合は突出しています。次いで「認知症施策に関すること」（34.3%）、「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し地域の課題を解決すること」（29.3%）、「要支援認定者や基本チェックリストによる事業対象者のケアプラン作成やサービス利用を支援すること」（27.5%）、「介護予防の普及啓発や一般介護予防事業を推進すること」（26.3%）、「高齢者の人権や財産などを守る制度が利用できるよう支援すること」（18.0%）の順となっています。

図表 178 地域包括支援センターが充実すべき業務（全体／複数回答）



9 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

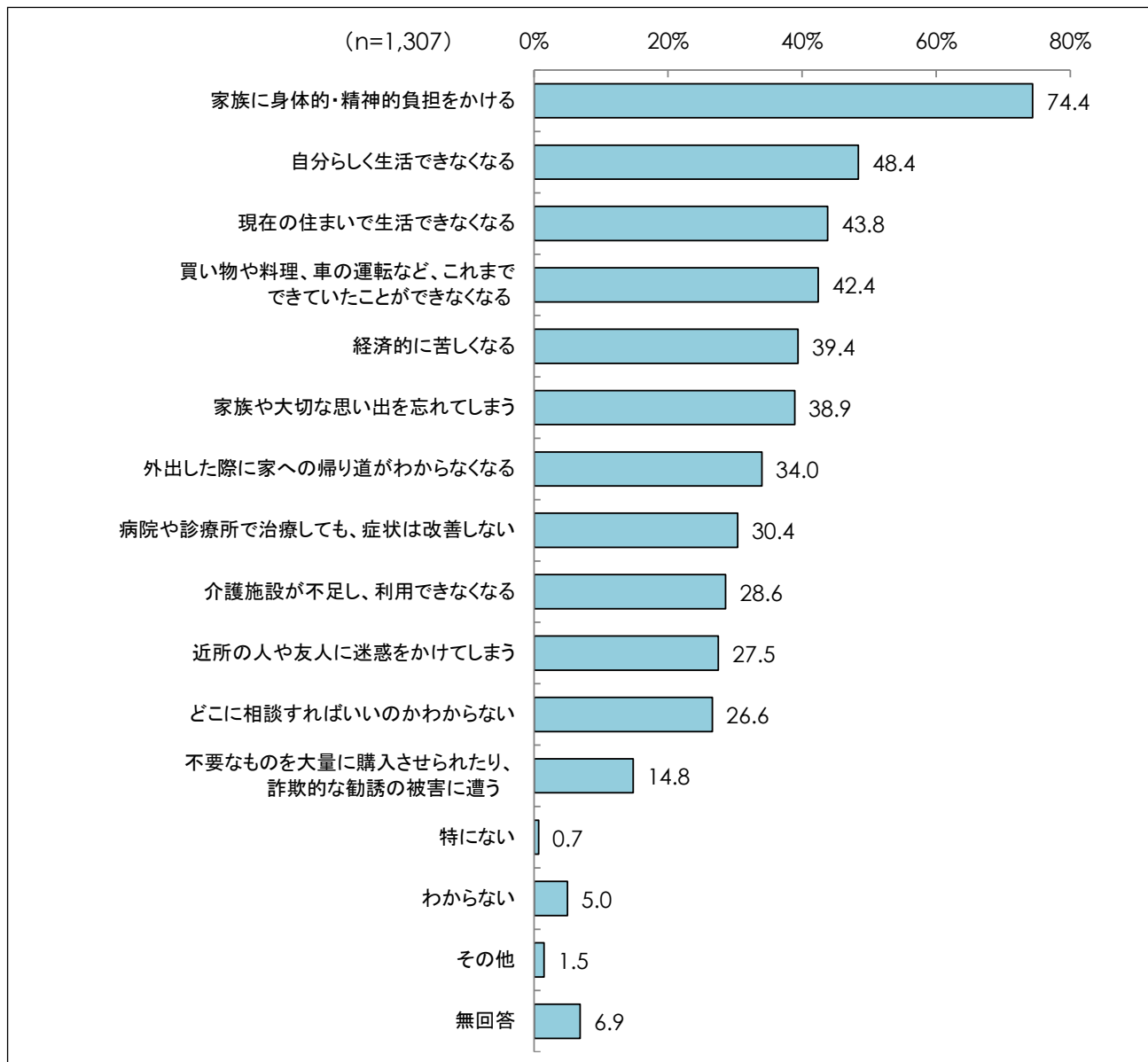
（１）認知症に対する不安

問 61 もし、自分が認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

- 家族への負担や自分らしく生活できない、現在の住まいで生活できないことなどが不安
自分が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「家族に身体的・精神的負担をかける」（74.4%）が最も多く、次いで「自分らしく生活できなくなる」（48.4%）、「現在の住まいで生活できなくなる」（43.8%）などとなっています。

図表 179 自分が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



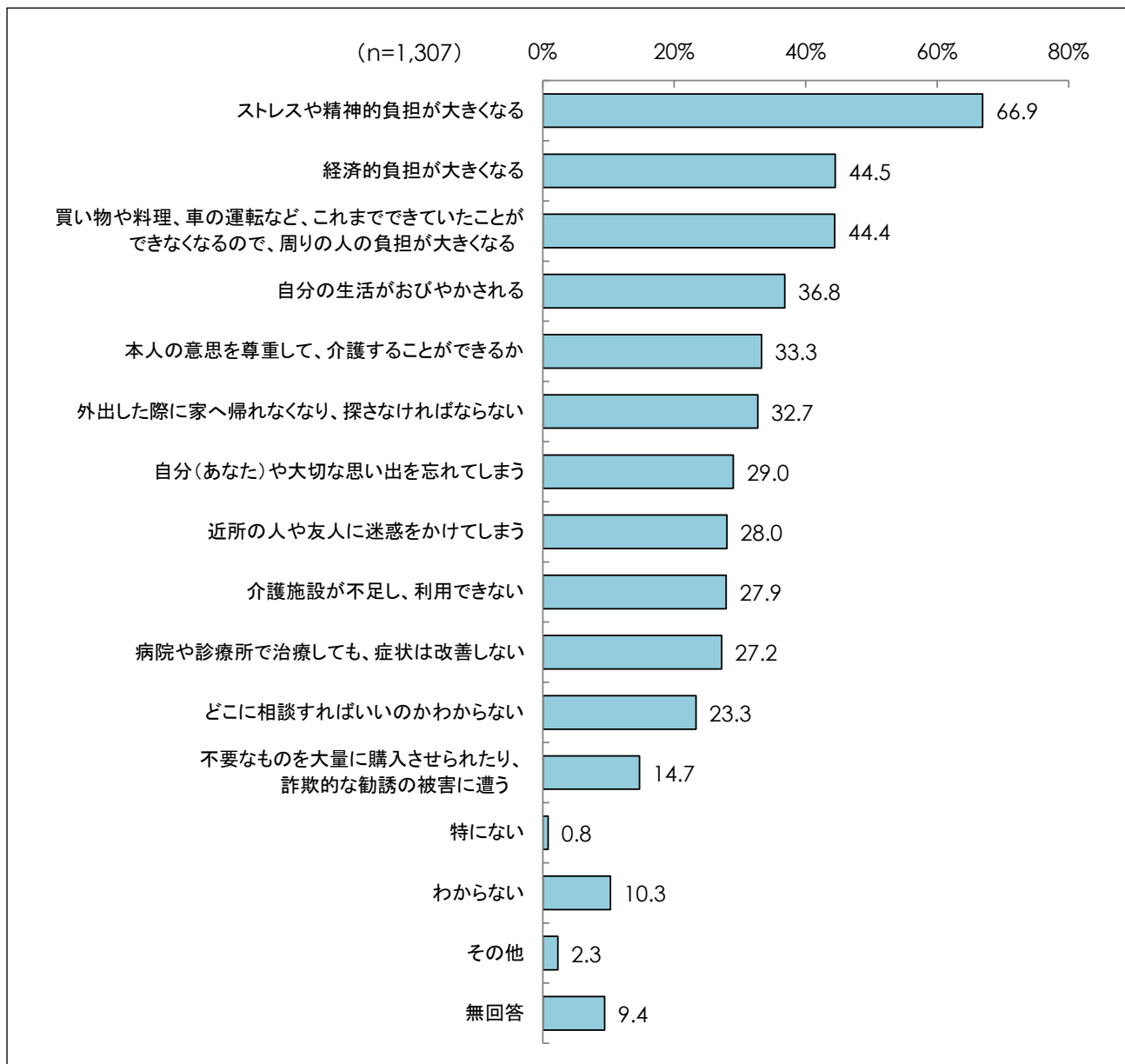
問 62 もし、家族が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●精神的、経済的負担増と、周りの人への負担、日常生活への影響などが不安

家族が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きくなる」（66.9%）が最も多く、次いで「経済的負担が大きくなる」（44.5%）、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなるので、周りの人への負担が大きくなる」（44.4%）、「自分の生活がおびやかされる」（36.8%）、「本人の意思を尊重して、介護することができるか」（33.3%）などとなっています。

図表 180 家族が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



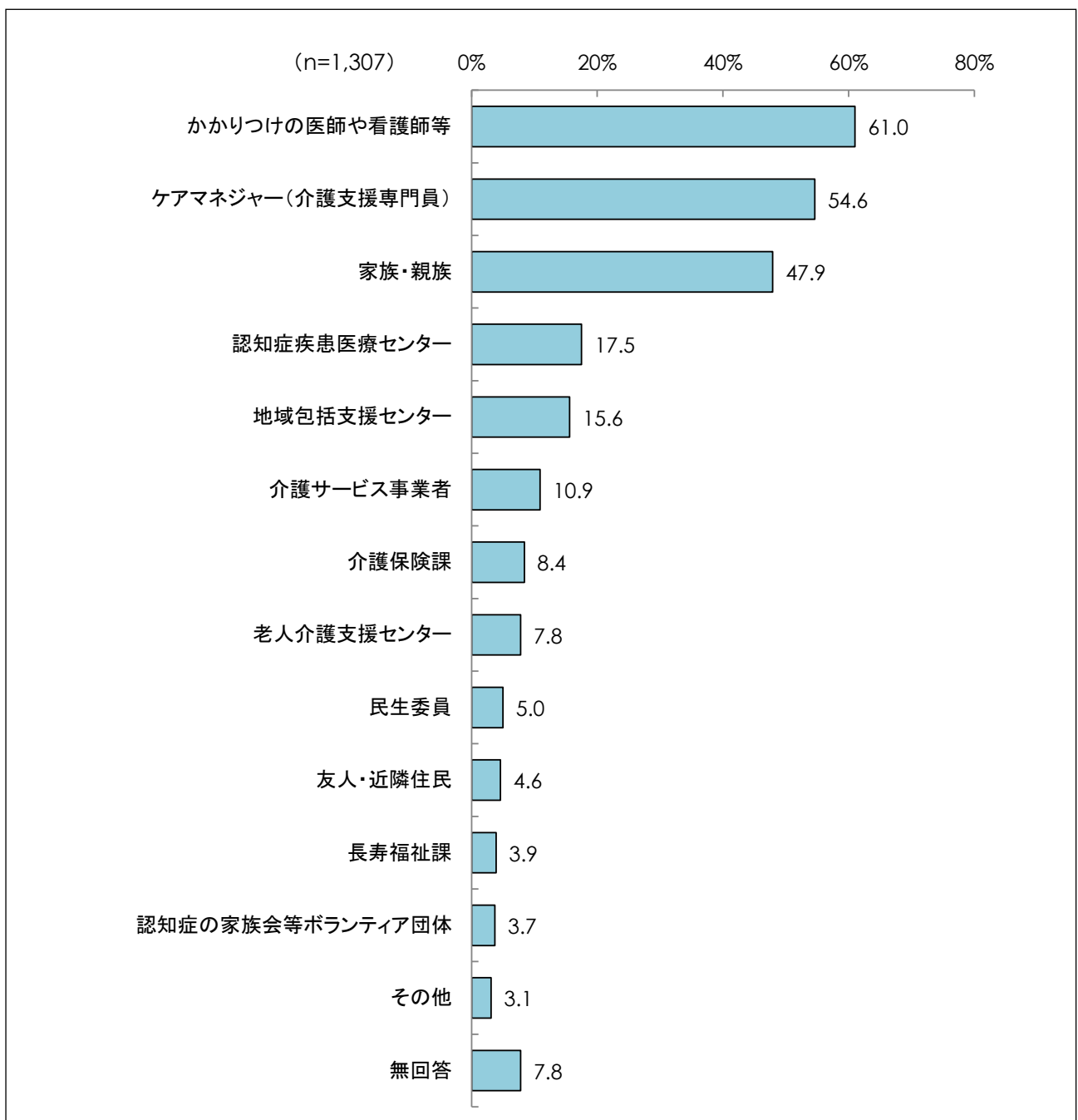
問 63 もし、自分や家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症の疑いが生じた際の相談先としては医療関係者、ケアマネジャーなど

認知症の疑いが生じた際に相談したい相談先をたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」（61.0%）が最も多く、次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（54.6%）、「家族・親族」（47.9%）、「認知症疾患医療センター」（17.5%）などとなっており、上位3位と他の相談先との間に大差がついています。

図表 181 認知症の疑いが生じた際の相談先（全体／複数回答）



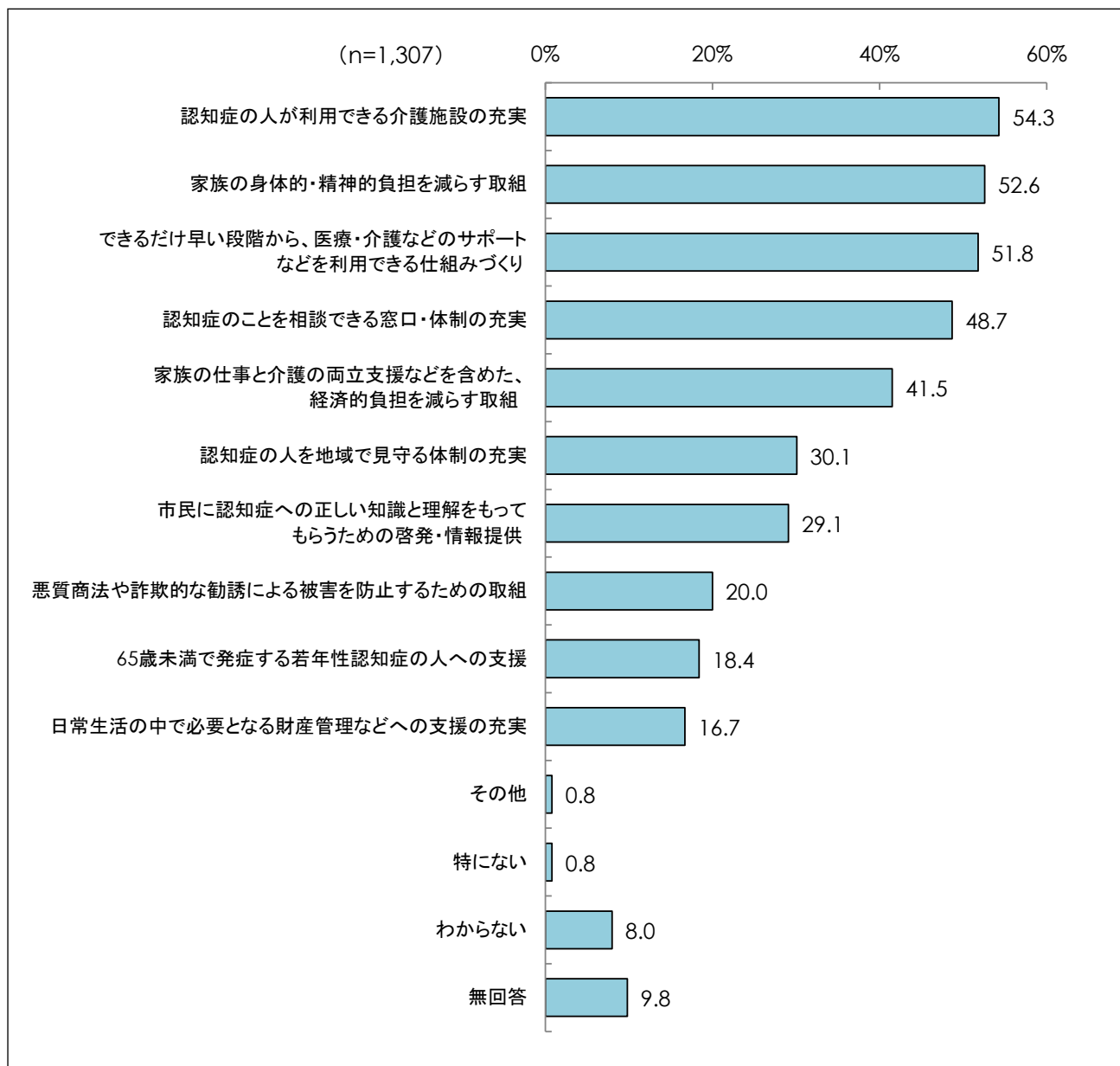
問 64 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症の人が利用できる介護施設の充実、家族の負担を減らす取組、医療・介護のサポートを早い段階から利用できる仕組みづくりなどへの要望が多い

認知症になっても安心して暮らすために重要なことをたずねたところ、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」（54.3％）が最も多く、次いで「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」（52.6％）、「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートなどを利用できる仕組みづくり」（51.8％）などとなっています。

図表 182 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと（全体／複数回答）



10 高齢者の保健福祉について

（１）携帯電話の所持状況について

問 65 現在、携帯電話を持っていますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●携帯電話を持っている人よりも持っていない人の方が多い

携帯電話の所持状況についてたずねたところ、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」が 40.5%、「スマートフォンを持っている」が 6.0%、「どちらも持っている」が 0.5%となっており、合計すると 47.0%の人が携帯電話を『持っている』と回答しています。

一方、「どちらも持っていない」は 47.5%と最も高く、『持っている』（47.0%）を 0.5 ポイント上回っており、携帯電話を持っていない人の方が多い結果となっています。

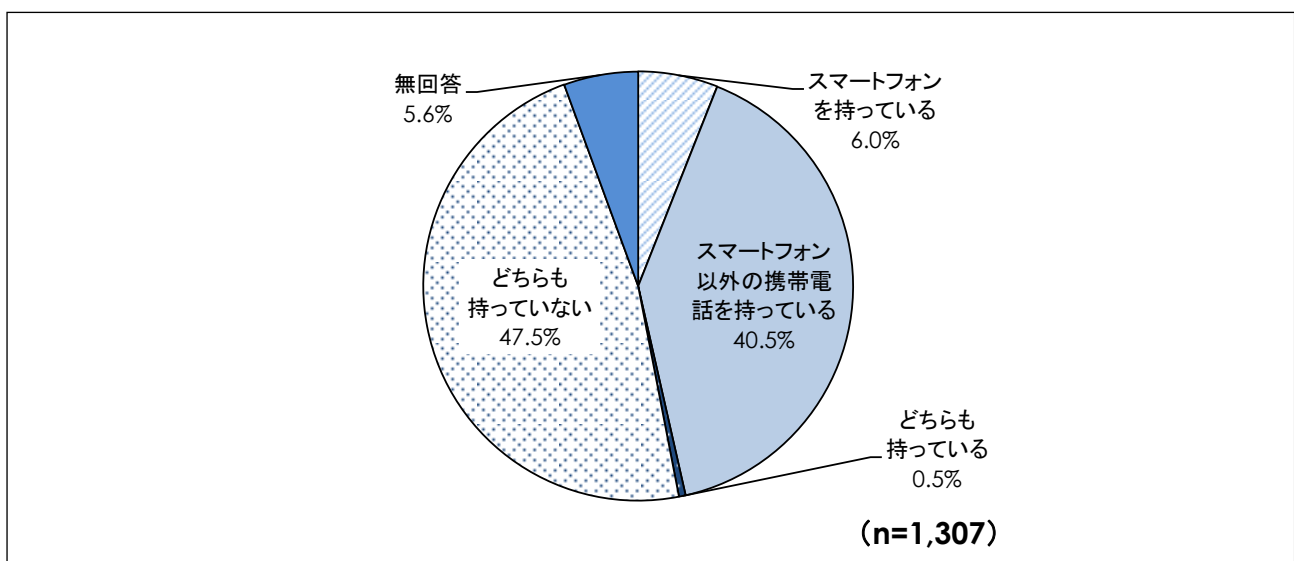
【属性別の傾向】

●携帯電話の所持率は要介護が上がるにつれ減少傾向

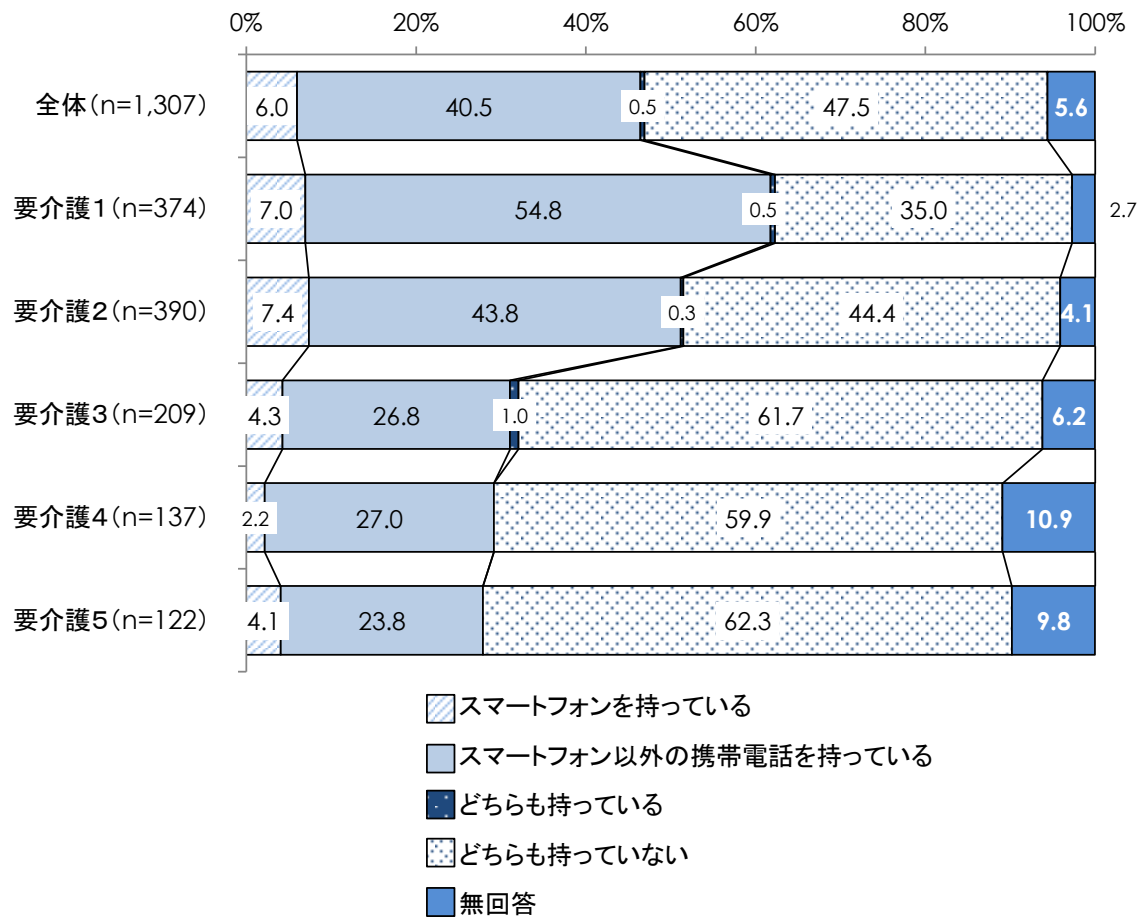
要介護度別に、「スマートフォンを持っている」、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」、「どちらも持っている」の割合を合計した所持率をみると、要介護 1 では 62.3%、要介護 2 では 51.5%と 5 割を超えています。

これに対し、要介護 3、4、5 では所持率は約 2 割～3 割程度と低くなっており、「どちらも持っていない」が約 6 割を占めています。

図表 183 携帯電話の所持状況（全体）



図表 184 携帯電話の所持状況（全体、要介護度別）



（２）かかりつけ医の有無について

問 66 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●かかりつけ医を持っている人が大半を占める

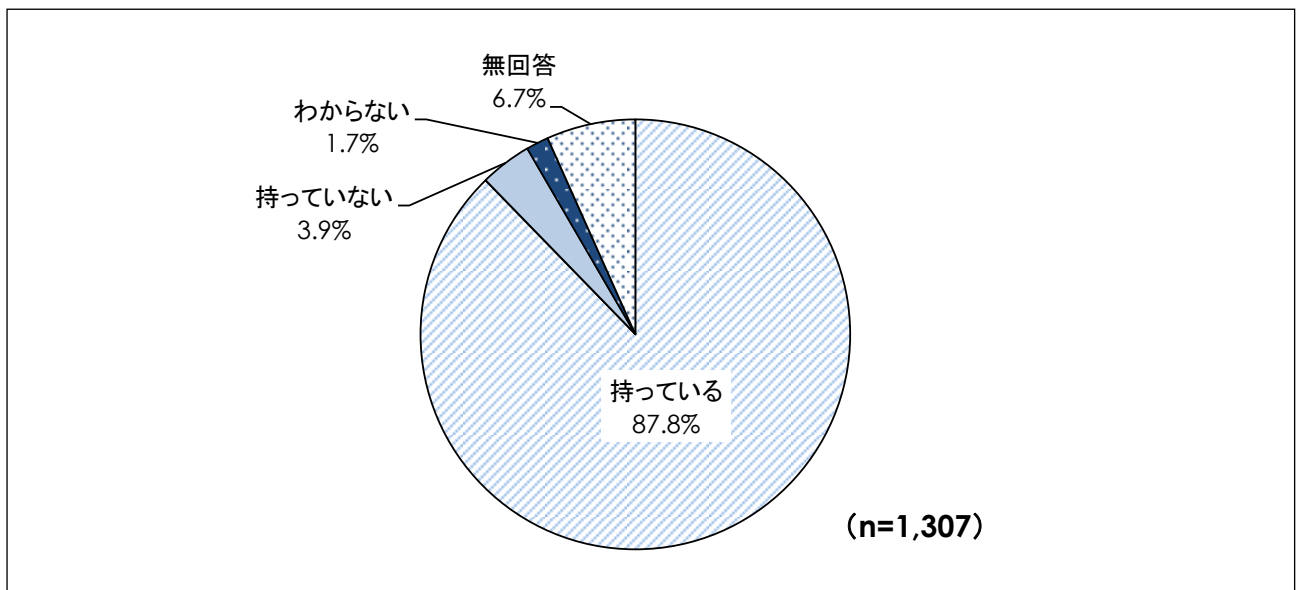
かかりつけ医を持っているかについてたずねたところ、「持っている」が87.8%と大半を占めています。一方、「持っていない」はわずか3.9%となっています。

【属性別の傾向】

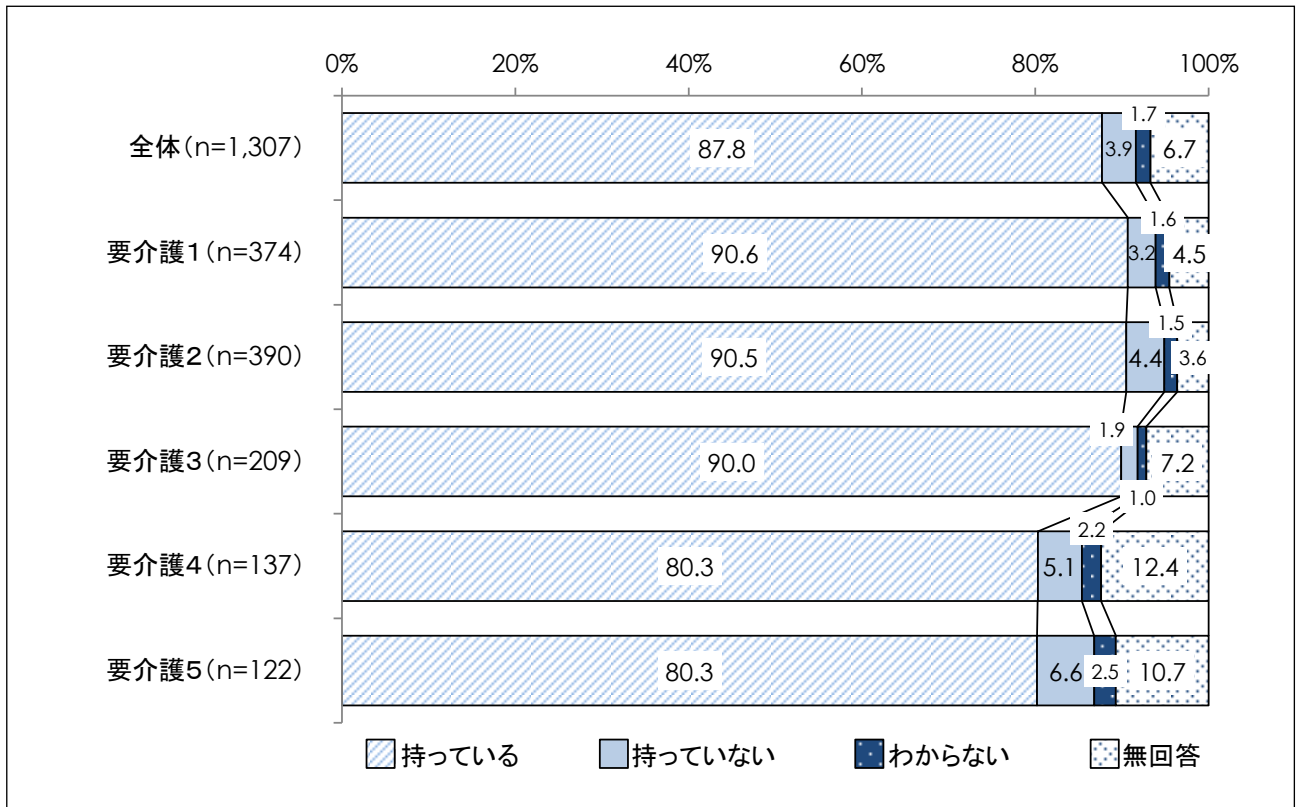
●要介護１～３の認定者では約９割がかかりつけ医を持っている

要介護度別にみると、要介護１、２、３では「持っている」が約９割を占めています。要介護４、５でも「持っている」の割合はわずかに減少し、約８割を占めています。

図表 185 かかりつけ医の有無（全体）



図表 186 かかりつけ医の有無（全体、要介護度別）



【問 66 で「2 持っていない」と回答した方】

問 66－1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

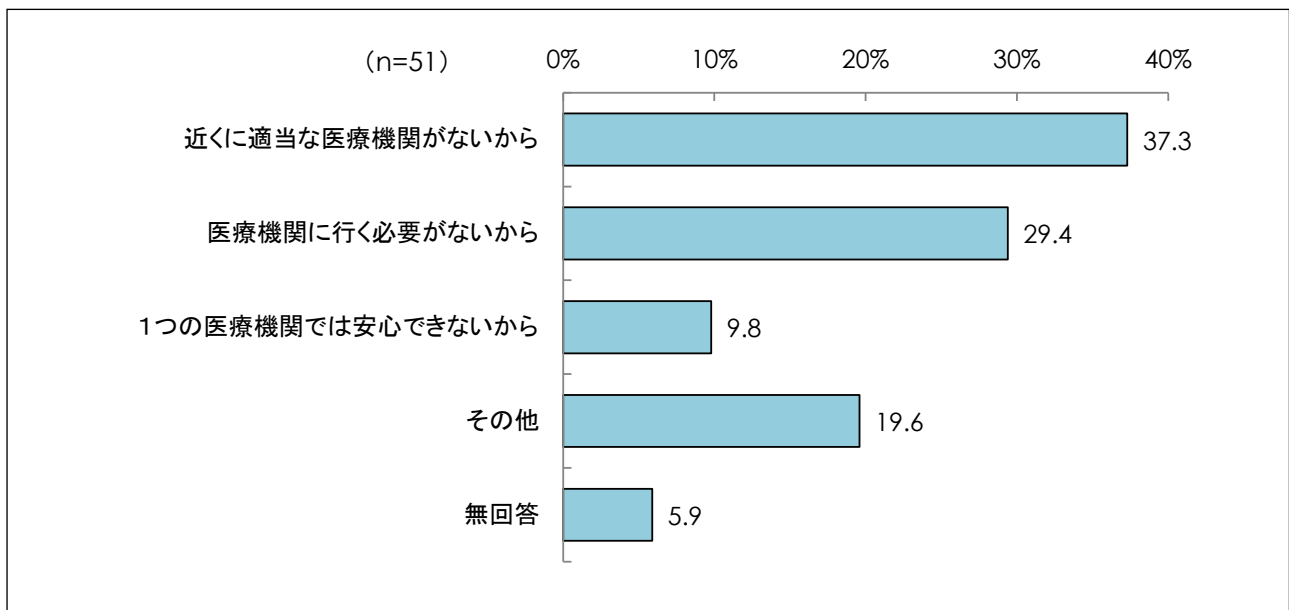
- かかりつけ医を持っていない主な理由は、近くに適切な医療機関がない、医療機関に行く必要がないからなど

かかりつけ医を持っていないと回答した人に、持っている理由をたずねたところ、「近くに適切な医療機関がないから」が37.3%と最も多く、次いで「医療機関に行く必要がないから」（29.4%）、「1つの医療機関では安心できないから」（9.8%）の順となっています。

【属性別の傾向】

- ほとんどの圏域で近くに適切な医療機関がない、医療機関に行く必要がないからが上位圏域別にみると、山田、香南では「1つの医療機関では安心できないから」が第1位となっています。

図表 187 かかりつけ医を持っていない理由（全体／複数回答）



図表 188 かかりつけ医を持っていない理由（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=51)		近くに適切な医療機関がないから 37.3	医療機関に行く必要がないから 29.4	その他 19.6
日常生活圏域別	中央西(n=5)	近くに適切な医療機関がないから 60.0	1つの医療機関では安心できないから/その他 20.0	
	中央東(n=7)	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから/その他 28.6		
	鶴尾(n=1)			
	太田(n=2)	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから 50.0		
	一宮(n=4)	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから/1つの医療機関では安心できないから/その他 25.0		
	香東(n=2)	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから 50.0		
	木太(n=2)	近くに適切な医療機関がないから 100.0		
	古高松(n=2)	医療機関に行く必要がないから/その他 50.0		
	屋島(n=3)	医療機関に行く必要がないから 100.0		
	協和(n=3)	近くに適切な医療機関がないから 100.0		
	龍雲(n=5)	その他 40.0	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから/1つの医療機関では安心できないから 20.0	
	山田(n=1)	1つの医療機関では安心できないから 100.0		
	勝賀・下笠居(n=2)	医療機関に行く必要がないから/近くに適切な医療機関がないから 50.0		
	塩江(n=0)			
	香川(n=8)	近くに適切な医療機関がないから 50.0	医療機関に行く必要がないから/その他 25.0	
	香南(n=1)	1つの医療機関では安心できないから 100.0		
	牟礼(n=0)			
	庵治(n=1)	その他 100.0		
	国分寺(n=2)	医療機関に行く必要がないから 100.0		

（３）自分の最期を迎えたい場所

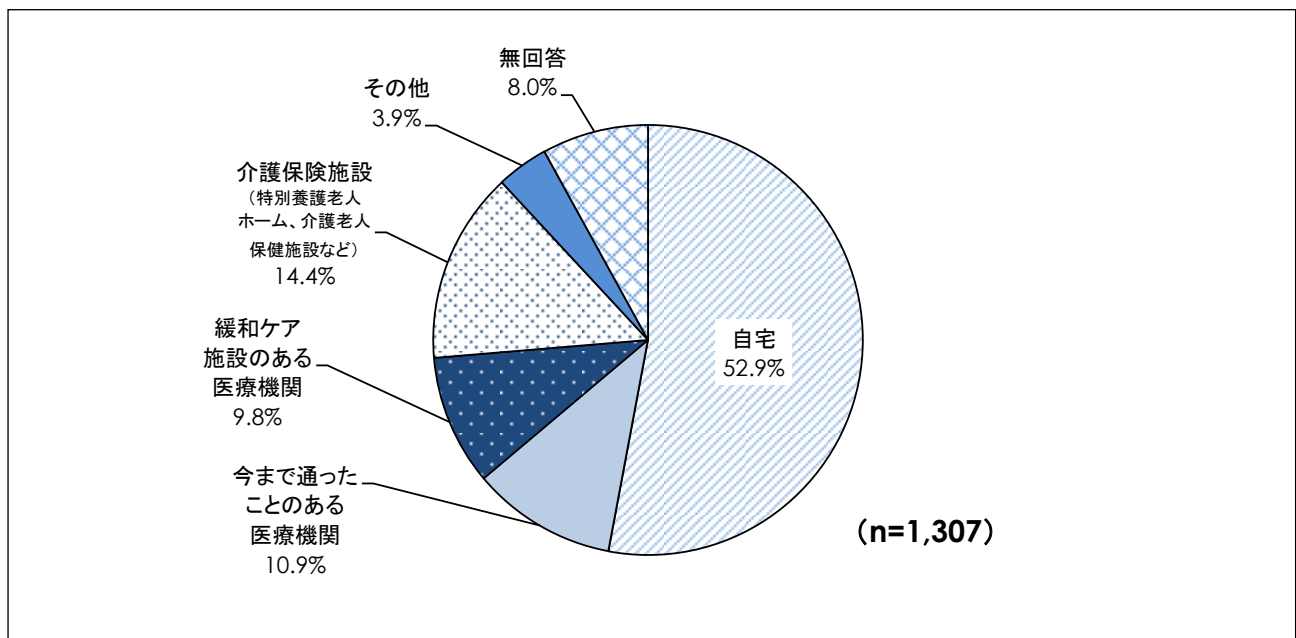
問 67 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●自宅以最期を迎えたい人が約５割を占める

自分の最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」が52.9%と最も高く、約５割の人が自宅以最期を迎えたいと考えています。次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」（14.4%）、「今まで通ったことのある医療機関」（10.9%）、「緩和ケア施設のある医療機関」（9.8%）などとなっています。

図表 189 自分の最期を迎えたい場所（全体）



（４）介護サービスの利用について

問 68 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は１つ】

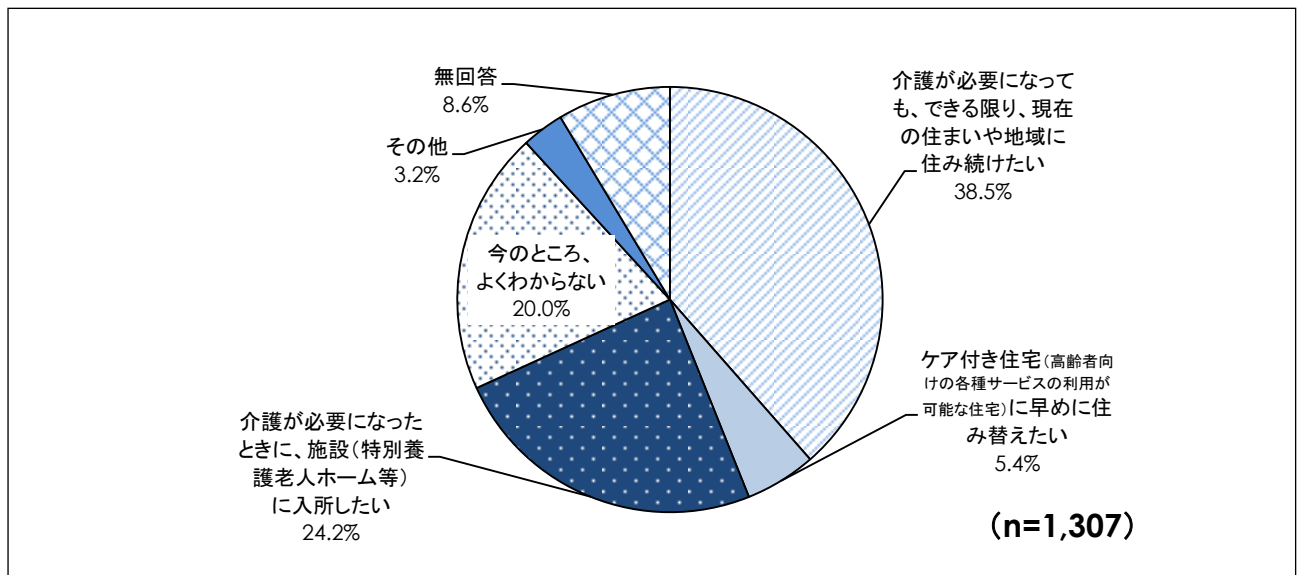
【全体の傾向】

●将来は介護施設よりも現在の住まいや地域に住み続けたい人が多い

将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が 38.5%を占め、最も高くなっています。

また、「介護が必要になった時に、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」は 24.2%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」は 5.4%とその割合は低く、介護が必要になっても、施設やケア付き住宅に住まいを移すよりも、今の住まいや地域に住み続けたいと考えている人が多くなっています。

図表 190 将来の住まいと介護サービスの利用について（全体）



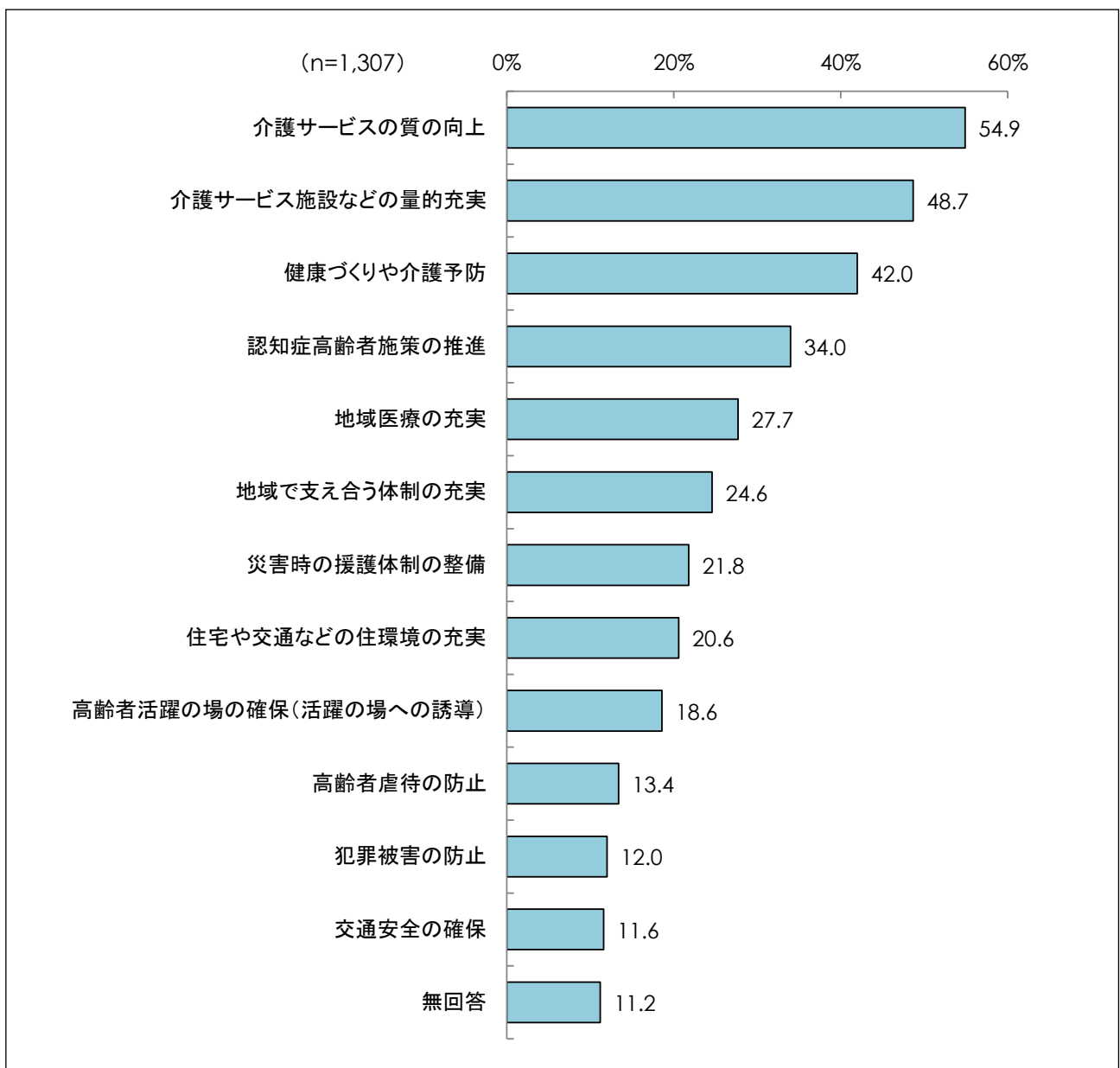
（５）超高齢社会や地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

問 69 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●超高齢社会で重要な方策は介護サービスの質の向上や施設の量的充実、健康づくりなど
超高齢社会において重要と思われる方策についてたずねたところ、「介護サービスの質の向上」が54.9%と最も多くなっています。次いで「介護サービス施設などの量的充実」（48.7%）、「健康づくりや介護予防」（42.0%）、「認知症高齢者施策の推進」（34.0%）、「地域医療の充実」（27.7%）などが主な内容となっています。

図表 191 超高齢社会において重要な方策（全体／複数回答）



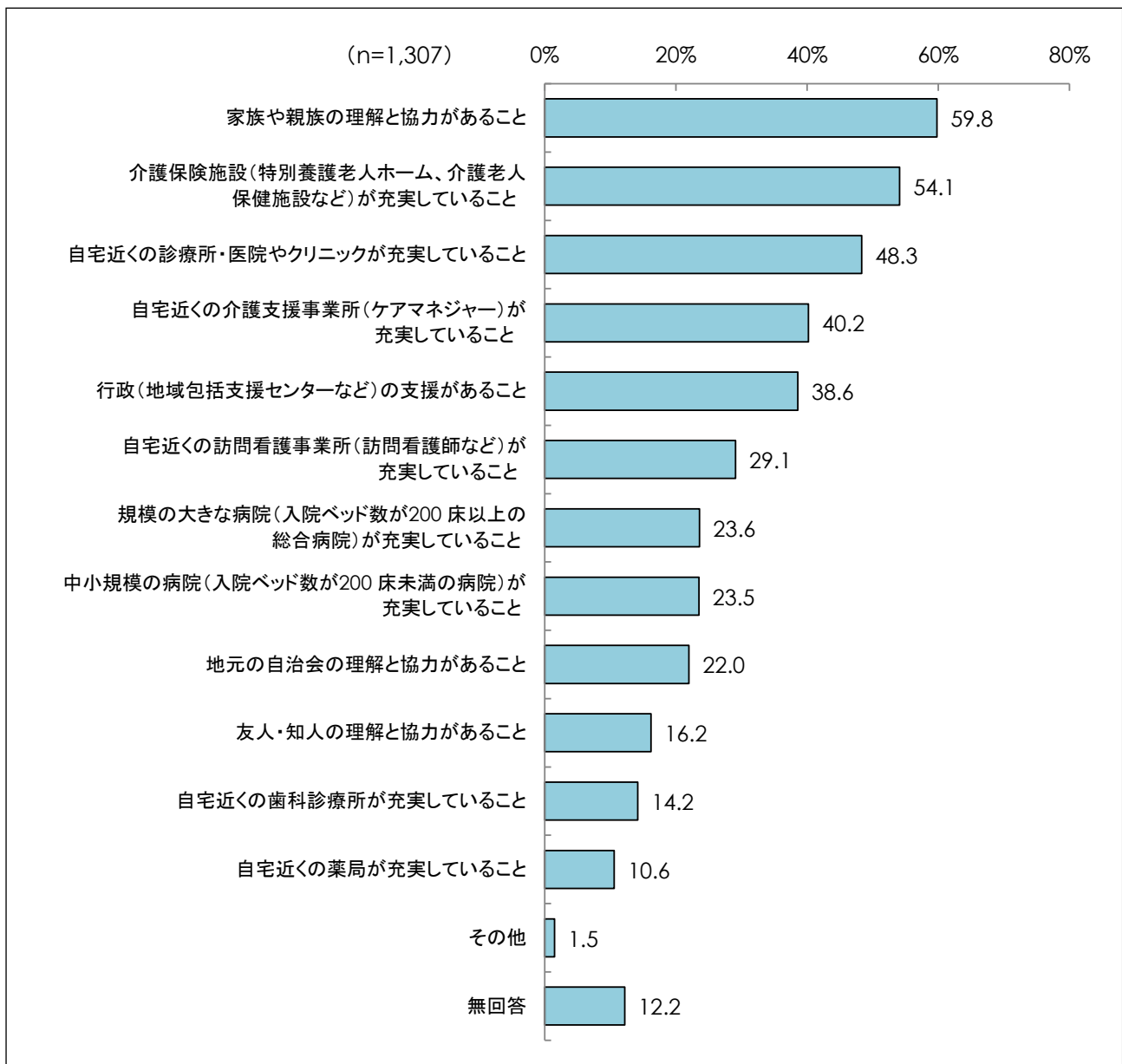
問 70 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことは、家族の理解や介護保険施設の充実など

地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」が 59.8%と最も多く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」（54.1%）、「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」（48.3%）、「自宅近くの介護支援事業所（ケアマネジャー）が充実していること」（40.2%）などとなっています。

図表 192 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと（全体／複数回答）



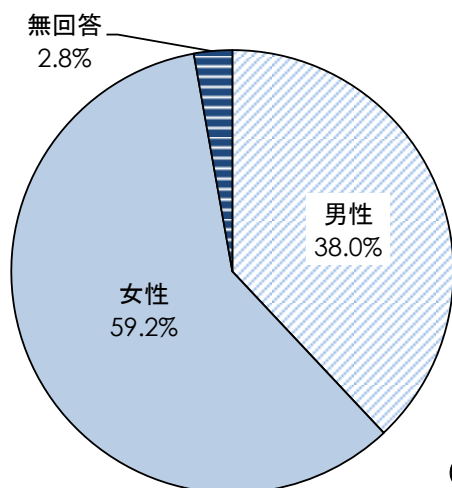
Ⅳ 調査結果 一般市民

(40歳以上65歳未満)

1 回答者の属性

1 性別

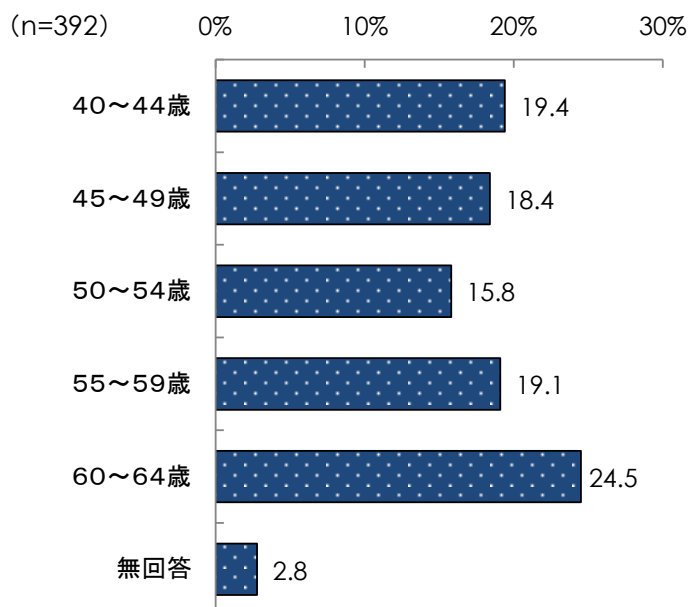
回答者の性別は、「男性」が38.0%、「女性」が59.2%となっており、女性が21.2ポイント大きく上回っています。



	回答数(人)	構成比(%)
男性	149	38.0
女性	232	59.2
無回答	11	2.8
合計	392	100.0

2 年齢構成

回答者の年齢は、「60～64歳」が24.5%で最も多く、次いで「40～44歳」(19.4%)、「55～59歳」(19.1%)となっています。

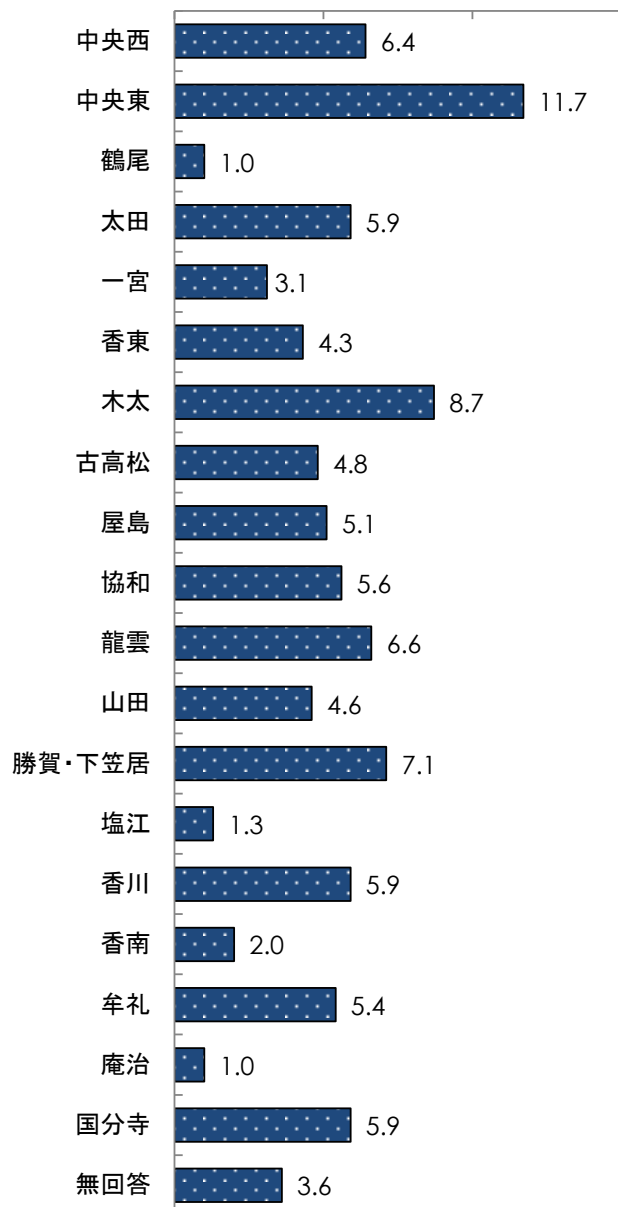


	回答数(人)	構成比(%)
40～44歳	76	19.4
45～49歳	72	18.4
50～54歳	62	15.8
55～59歳	75	19.1
60～64歳	96	24.5
無回答	11	2.8
合計	392	100.0

3 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域をみると、「中央東」が11.7%と最も多く、次いで「木太」(8.7%)、「勝賀・下笠居」(7.1%)となっています。

(n=392) 0% 5% 10% 15%



	回答数(人)	構成比(%)
中央西	25	6.4
中央東	46	11.7
鶴尾	4	1.0
太田	23	5.9
一宮	12	3.1
香東	17	4.3
木太	34	8.7
古高松	19	4.8
屋島	20	5.1
協和	22	5.6
龍雲	26	6.6
山田	18	4.6
勝賀・下笠居	28	7.1
塩江	5	1.3
香川	23	5.9
香南	8	2.0
牟礼	21	5.4
庵治	4	1.0
国分寺	23	5.9
無回答	14	3.6
合計	392	100.0

2 高齢者のために行うべき行政サービスについて

（１）在宅福祉サービスの必要性

問１ 次の高齢者のための在宅福祉サービスについて、今後、事業の必要性などを検証する際の参考とするため、あなたのご意見をお聞かせください。全てのサービスについて、それぞれに当てはまるものを選んで１～５の数字１つを○で囲ってください。【○は１つずつ】

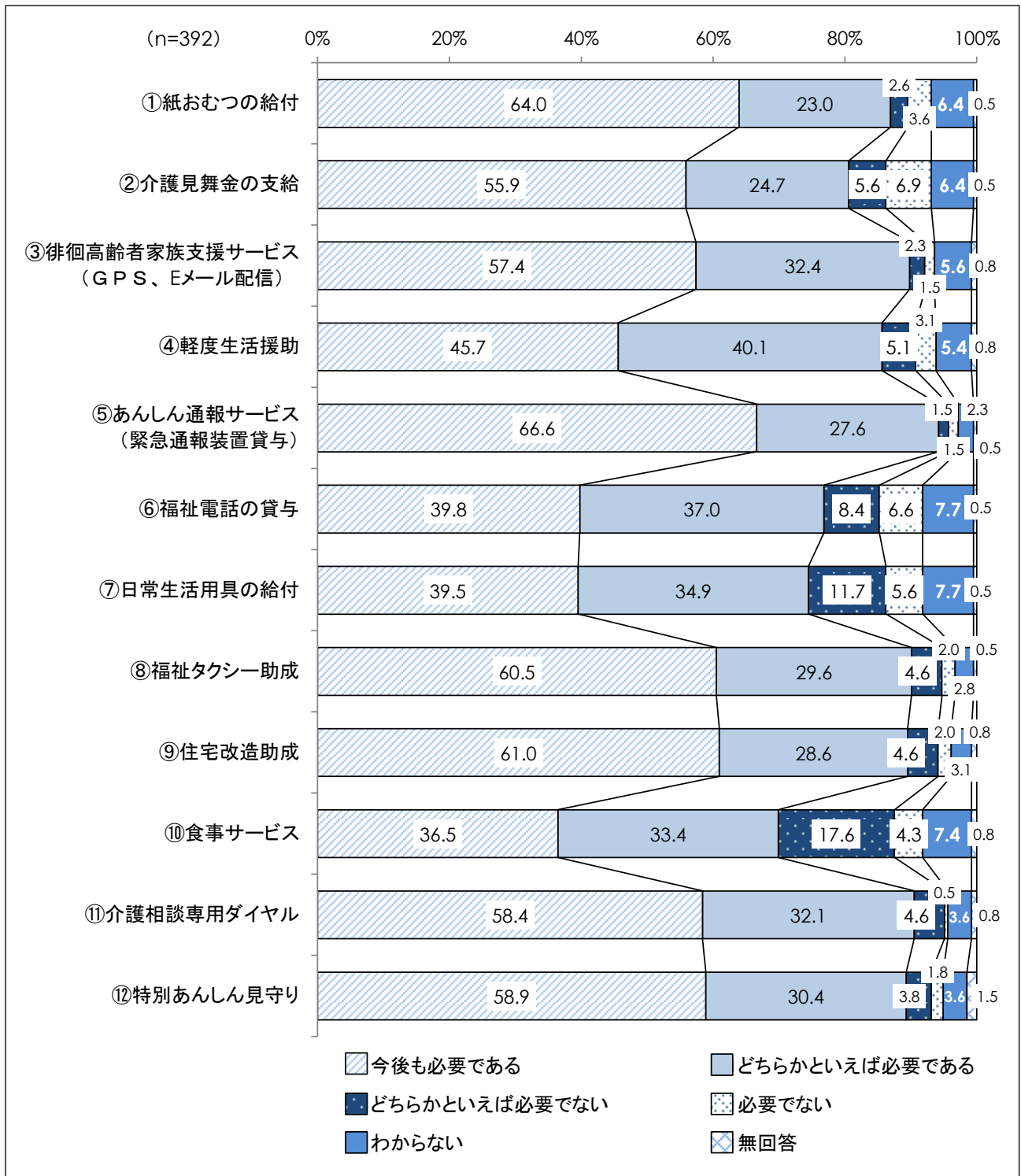
【全体の傾向】

●必要性の高い在宅福祉サービスは、あんしん通報サービス、介護相談専用ダイヤル、福祉タクシー助成

在宅福祉サービスの必要性についてたずねたところ、「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」を合計した『必要である』の割合が高いサービスは、⑤あんしん通報サービス（緊急通報装置貸与）（94.2%）、⑪介護相談専用ダイヤル（90.5%）、⑧福祉タクシー助成（90.1%）、③徘徊高齢者家族支援サービス（GPS、Eメール配信）（89.8%）、⑨住宅改造助成（89.6%）などとなっています。

一方、「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」の割合を合計した『必要でない』の割合が高いサービスは⑩食事サービス（21.9%）、⑦日常生活用具の給付（17.3%）、⑥福祉電話の貸与（15.0%）、となっています。

図表 193 在宅福祉サービスの必要性（全体）



3 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

（１）高齢者の居場所づくり

問2 高齢者が気軽に集える場所がありますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所がないと感じている人が5割を超える

高齢者が気軽に集える場所の有無についてたずねたところ、全体の 53.8%が「ない」と回答しており、5割を超えています。一方、「ある」は 36.7%にとどまっており、高齢者が集える場所がないと感じている人の方が多くなっています。

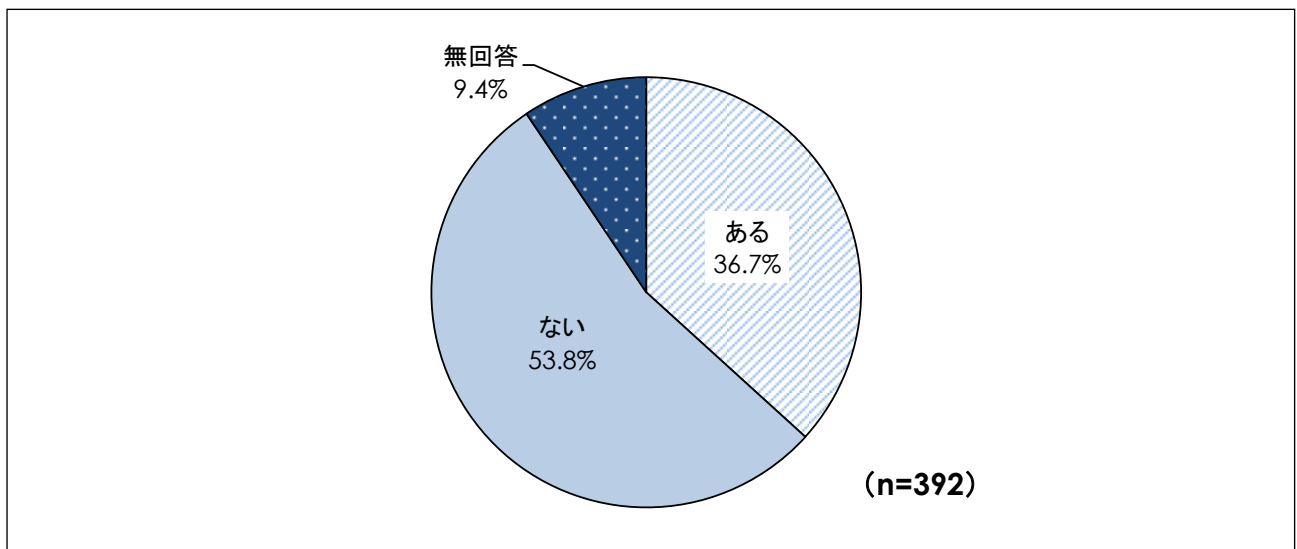
【属性別の傾向】

●古高松、協和では集える場所が「ない」の割合が「ある」を大きく上回る

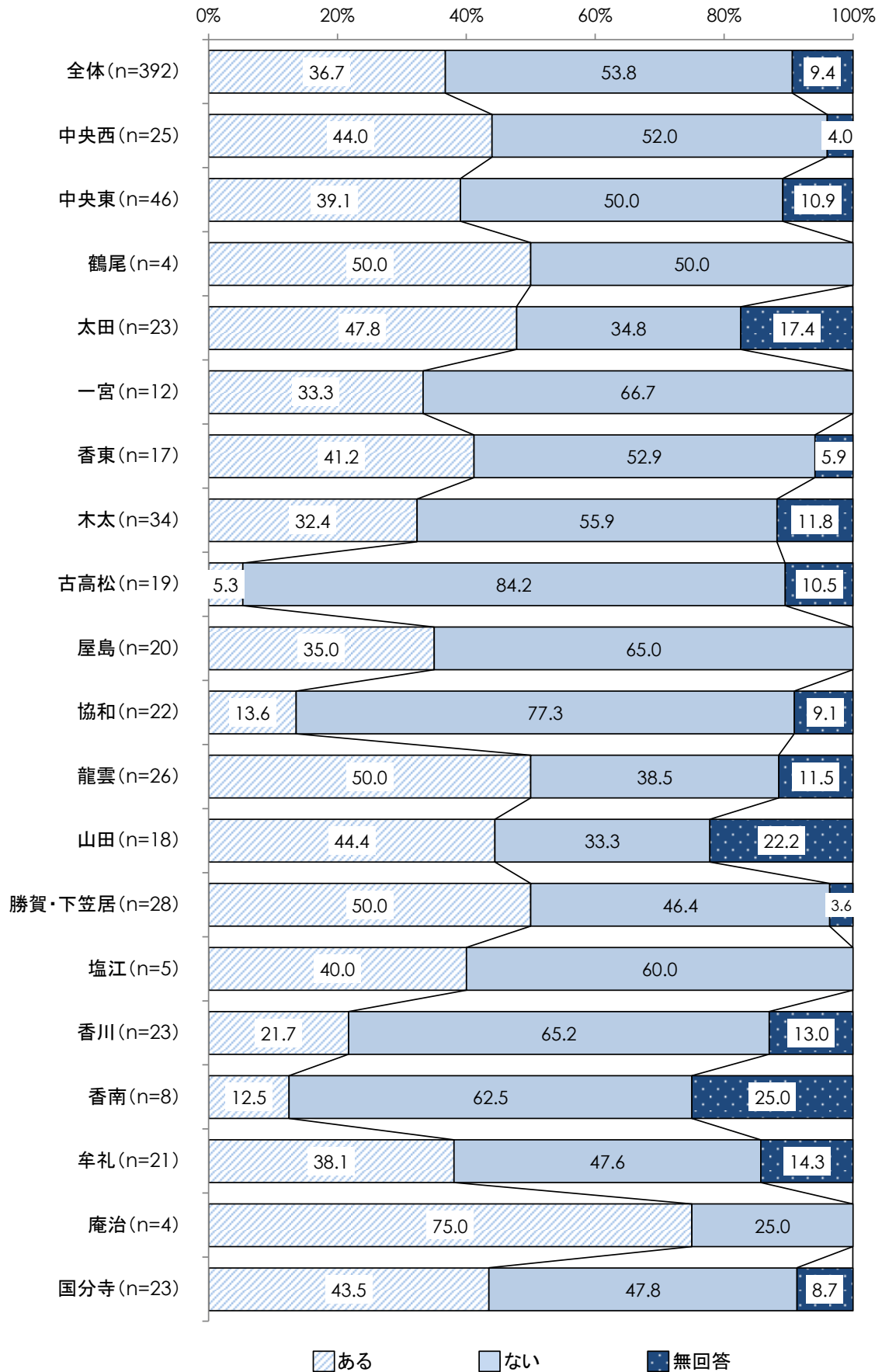
圏域別にみると、庵治、龍雲、勝賀・下笠居では「ある」の割合が5割以上で「ない」を上回っています。

一方、そのほかの圏域では、集える場所が「ない」と感じている人の方が多く、特に古高松、協和では「ない」の割合が7割を超えており、「ある」の割合と大差がついています。

図表 194 高齢者が集える場所の有無（全体）



図表 195 高齢者が集える場所の有無（全体、日常生活圏域別）



【問2で「1 ある」と回答した方】

問2-1 気軽に集える場所は、次のどれですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者が気軽に集える場所としてはコミュニティセンターや集会所など

高齢者が気軽に集える場所があると回答した人に対し、その場所はどこかについてたずねたところ、「コミュニティセンター」が64.6%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「集会所」(31.9%)、「スーパー等の休憩所」(16.0%)、「近所の知人宅」(15.3%)など身近な場所が上位となっています。

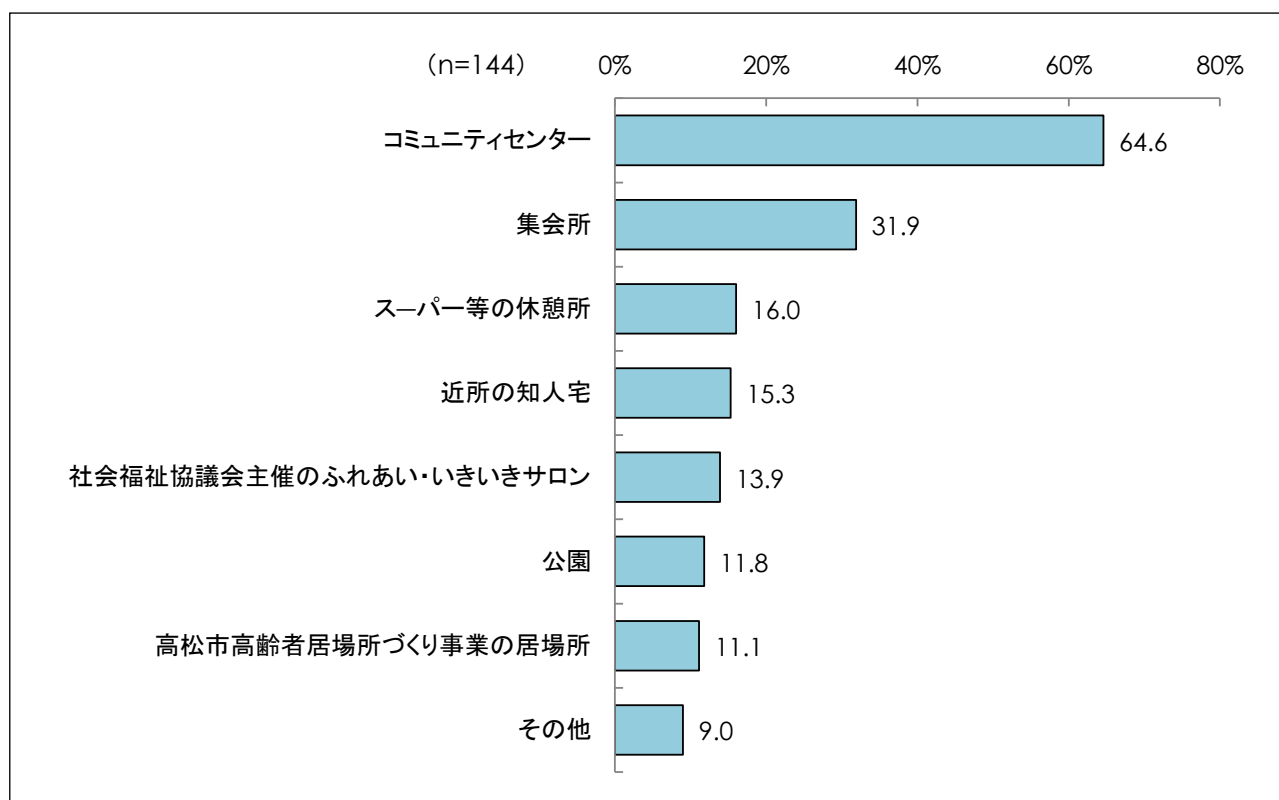
【属性別の傾向】

●中央西、木太、屋島などではスーパー等の休憩所も集える場所としてあげられている

圏域別にみると、中央西、木太、屋島、塩江、香川、国分寺では「スーパー等の休憩所」が上位3位以内に入っています。

また、中央東、太田、香東、協和、勝賀・下笠居、香南では「社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン」が3位以内に入っています。

図表 196 高齢者が集える場所（全体／複数回答）



図表 197 高齢者が集える場所（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=144)		コミュニティセンター 64.6	集会所 31.9	スーパー等の休憩所 16.0
日常生活圏域別	中央西 (n=11)	コミュニティセンター 72.7	集会所/スーパー等の休憩所/近所の知人宅/その他 18.2	
	中央東 (n=18)	コミュニティセンター 61.1	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/集会所 22.2	
	鶴尾 (n=2)	コミュニティセンター 100.0	集会所 50.0	
	太田 (n=11)	コミュニティセンター 81.8	集会所 45.5	
	一宮 (n=4)	集会所/近所の知人宅/公園/その他 25.0		
	香東 (n=7)	コミュニティセンター 85.7	集会所 42.9	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/近所の知人宅 14.3
	木太 (n=11)	コミュニティセンター 81.8	集会所/スーパー等の休憩所/公園 27.3	
	古高松 (n=1)	集会所/近所の知人宅 100.0		
	屋島 (n=7)	コミュニティセンター 85.7	スーパー等の休憩所/近所の知人宅 28.6	
	協和 (n=3)	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/コミュニティセンター/集会所/その他 33.3		
	龍雲 (n=13)	コミュニティセンター 69.2	集会所 38.5	公園 23.1
	山田 (n=8)	コミュニティセンター 100.0	集会所 37.5	近所の知人宅 25.0
	勝賀・下笠居 (n=14)	集会所 57.1	コミュニティセンター 42.9	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/公園 21.4
	塩江 (n=2)	コミュニティセンター/スーパー等の休憩所 50.0		
	香川 (n=5)	コミュニティセンター 80.0	スーパー等の休憩所/近所の知人宅/その他 40.0	
	香南 (n=1)	社会福祉協議会主催のふれあい・いきいきサロン/コミュニティセンター/集会所 100.0		
	牟礼 (n=8)	コミュニティセンター 62.5	集会所 37.5	近所の知人宅 25.0
	庵治 (n=3)	高松市高齢者居場所づくり事業の居場所/コミュニティセンター/集会所/その他 33.3		
	国分寺 (n=10)	コミュニティセンター/集会所/スーパー等の休憩所/近所の知人宅 30.0		

（２）高松市地域包括支援センターについて

問３ 高松市では、地域における高齢者の身近な相談窓口として、「高松市地域包括支援センター」を設置しています。

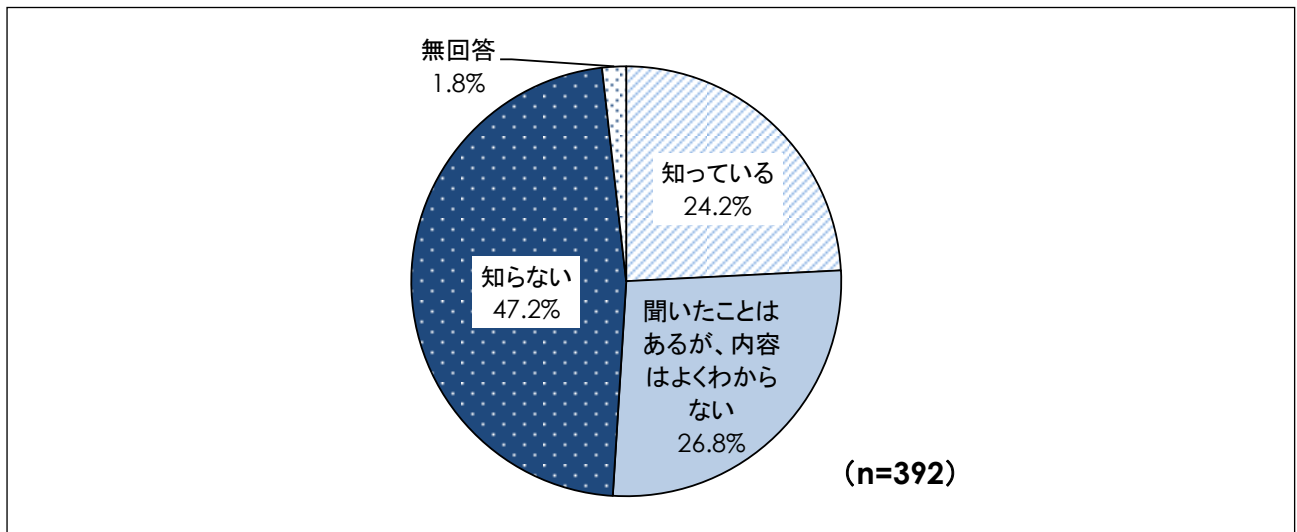
「高松市地域包括支援センター」を知っていますか。【○は１つ】

【全体の傾向】

●高松市地域包括支援センターを知っている人は約２割程度にとどまっている

高松市地域包括支援センターの認知度についてたずねたところ、「知っている」と回答した人は24.2%にとどまり、認知度は低めの傾向となっています。

図表 198 高松市地域包括支援センターの認知度（全体）



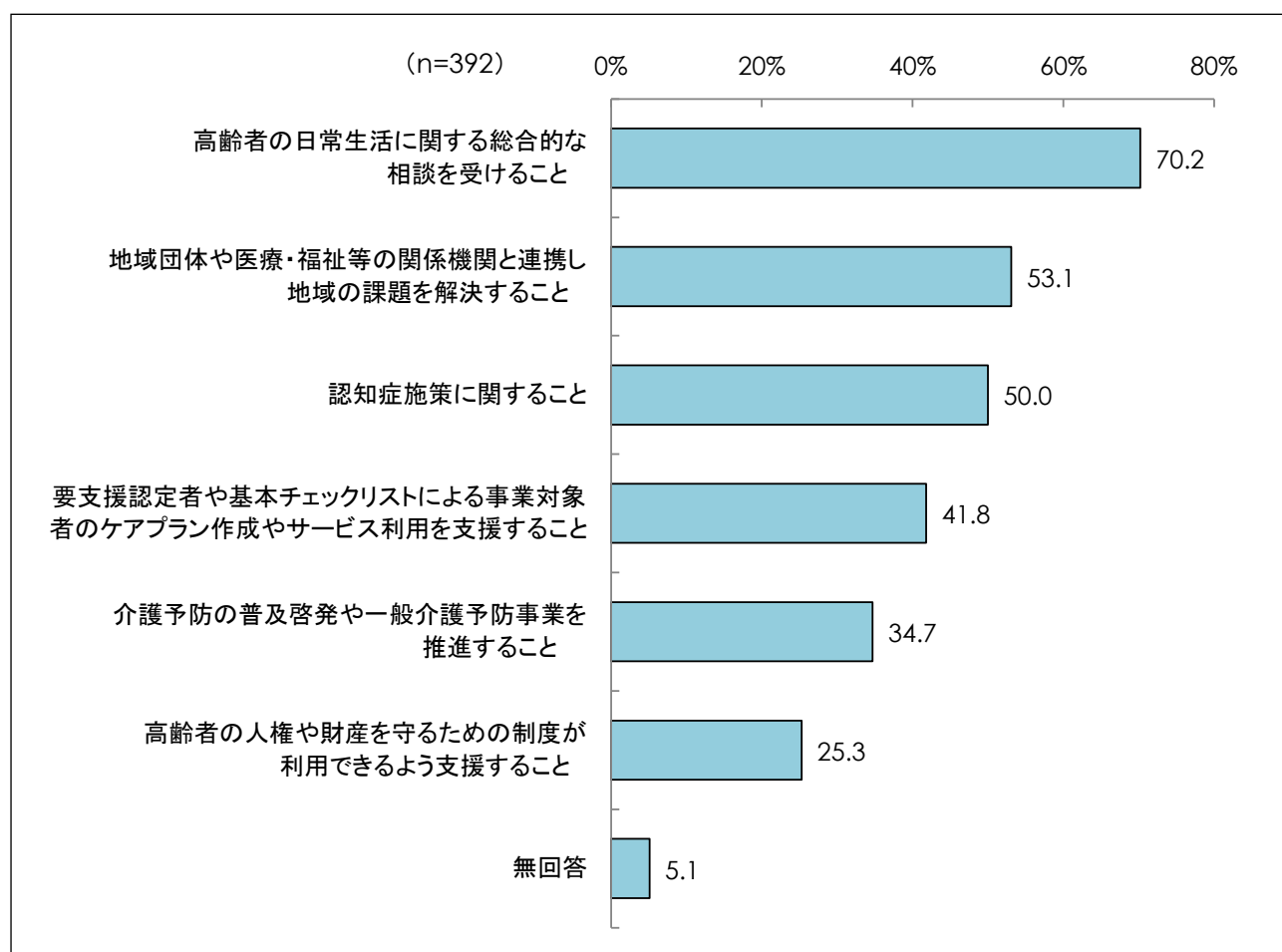
問4 地域包括支援センターは、今後、特にどの業務を充実すればよいと思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者の日常生活に関する相談窓口業務としての要望が高い

地域包括支援センターが充実すべき業務についてたずねたところ、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が70.2%と最も多くなっています。次いで「地域団体や医療・福祉等の関係機関と連携し、地域の課題を解決すること」（53.1%）、「認知症施策に関すること」（50.0%）、「要支援認定者や基本チェックリストによる事業対象者のケアプラン作成やサービス利用を支援すること」（41.8%）などとなっています。

図表 199 地域包括支援センターが充実すべき業務（全体／複数回答）



4 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

（1）認知症に対する不安

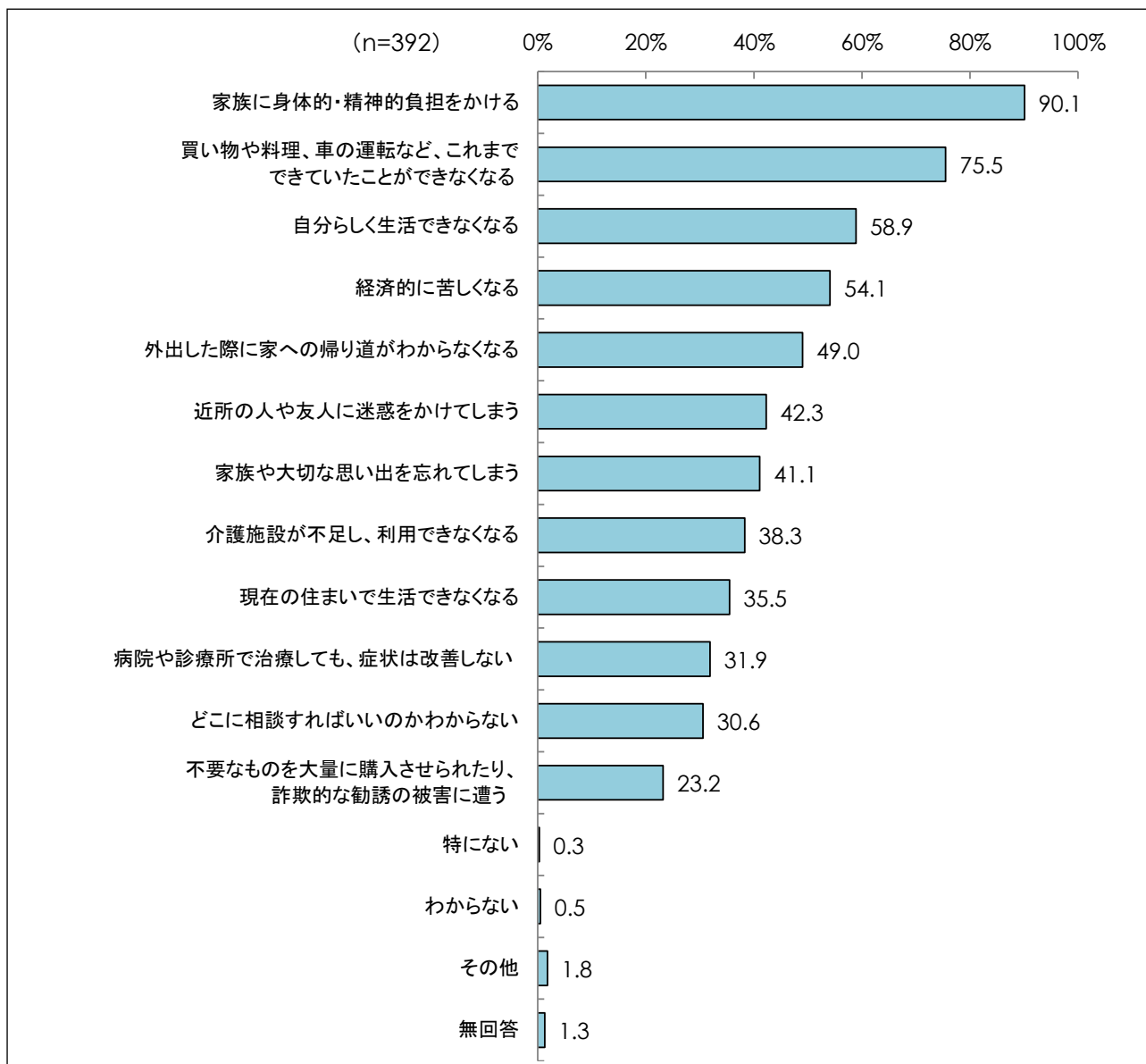
問5 もし、自分が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるといいますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●ほとんどの人が家族への身体的・精神的負担を不安に感じている

自分が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「家族に身体的・精神的負担をかける」（90.1%）が最も多くなっています。次いで「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなる」（75.5%）、「自分らしく生活できなくなる」（58.9%）などとなっています。

図表 200 自分が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



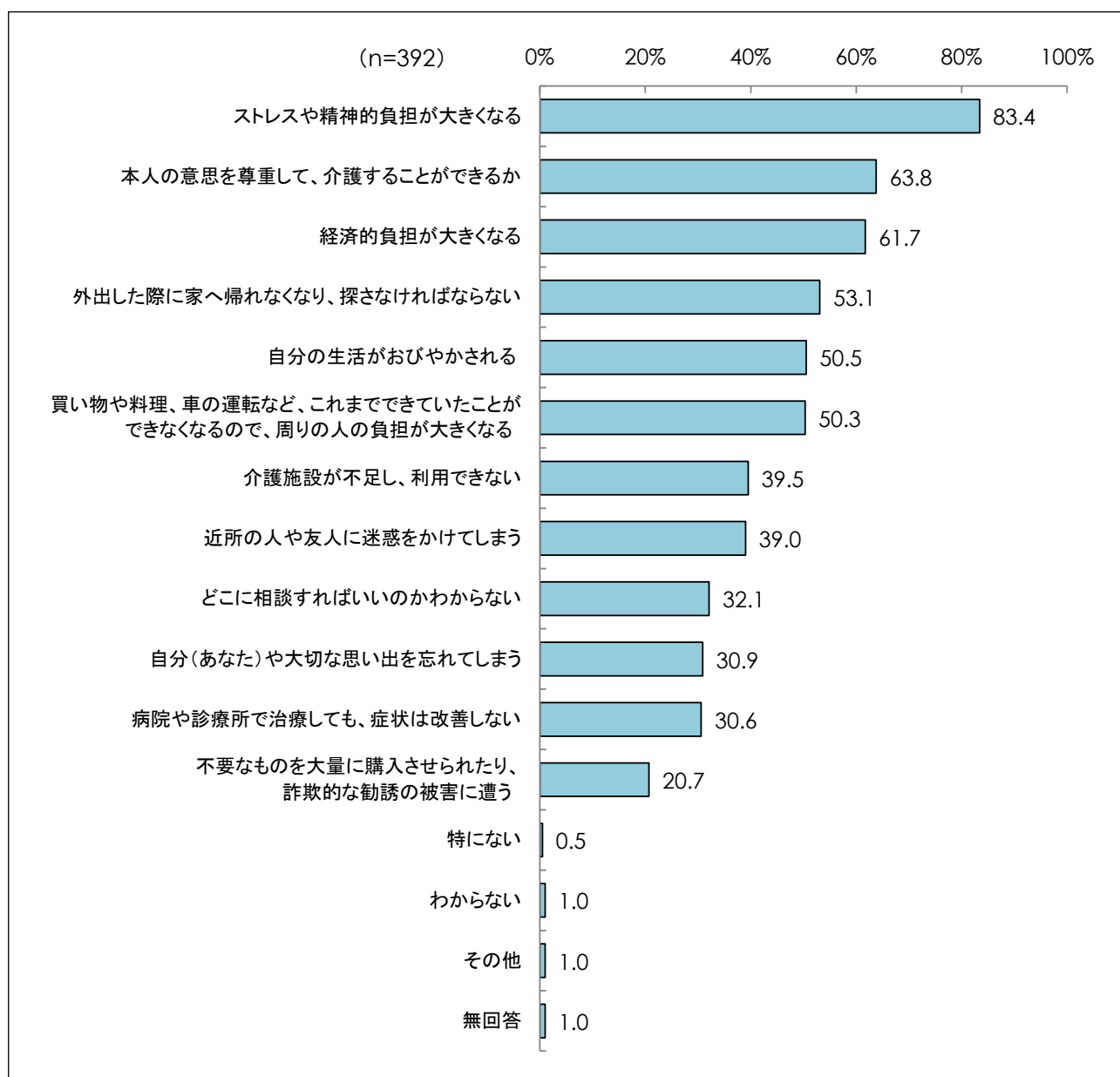
問6 もし、家族が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●精神的、経済的負担増と、本人の意思を尊重した介護が可能かなどが主な不安

家族が認知症になった際の不安についてたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きくなる」（83.4%）が最も多く、次いで「本人の意思を尊重して、介護することができるか」（63.8%）、「経済的負担が大きくなる」（61.7%）、「外出した際に家へ帰れなくなり、探さなければならない」（53.1%）、「自分の生活がおびやかされる」（50.5%）などとなっています。

図表 201 家族が認知症になった時の不安（全体／複数回答）



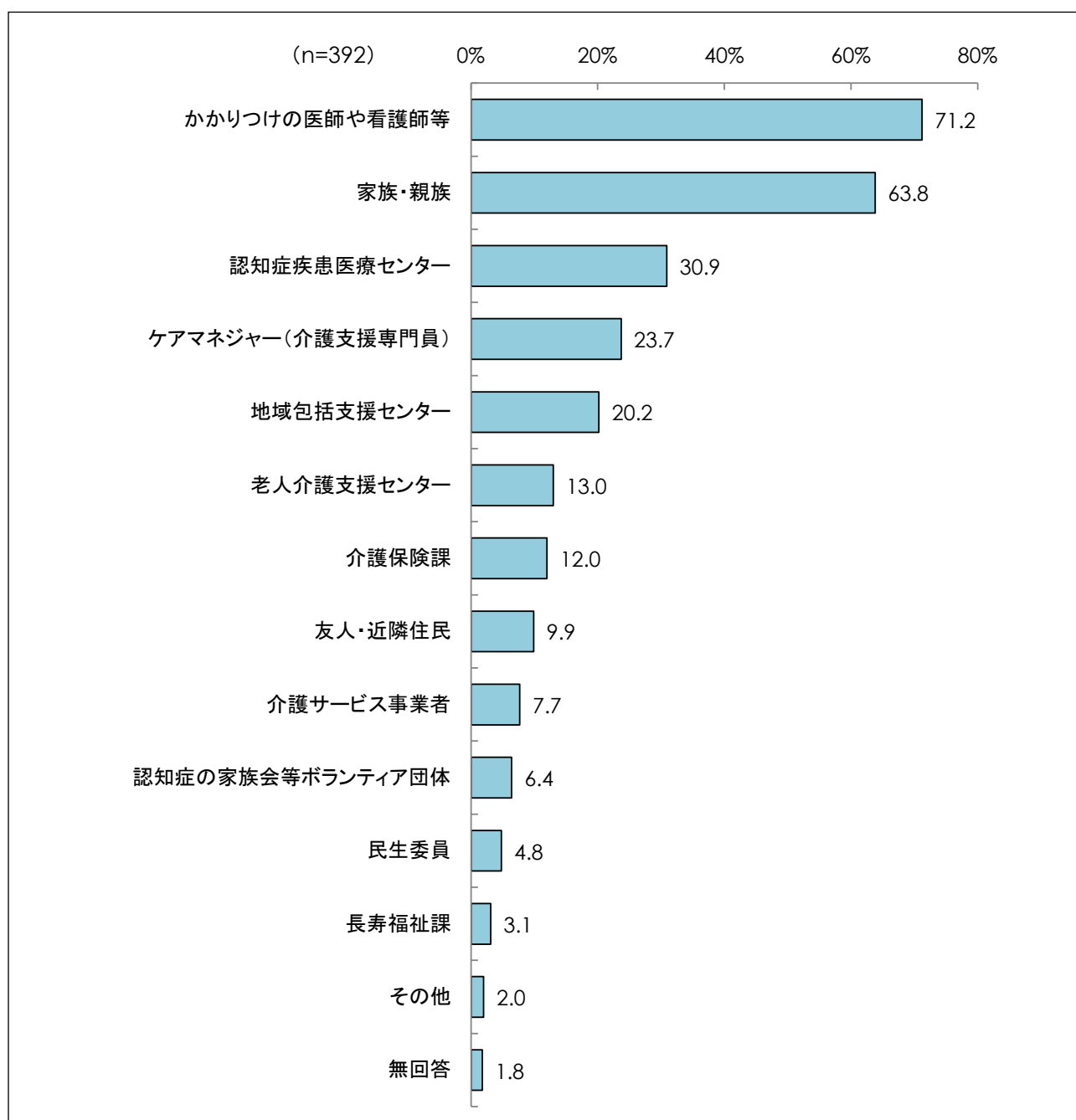
問7 もし、自分や家族が「認知症かもしれない。」と不安になったときに、どこに相談したいですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症の疑いが生じた際の主な相談先は、医療関係者、親族、認知症疾患医療センターなど

認知症の疑いが生じた際の相談先をたずねたところ、「かかりつけの医師や看護師等」（71.2%）が最も多く、次いで「家族・親族」（63.8%）が主な相談先としてあげられています。続いて「認知症疾患医療センター」（30.9%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（23.7%）などとなっています。

図表 202 認知症の疑いが生じた際の相談先（全体／複数回答）



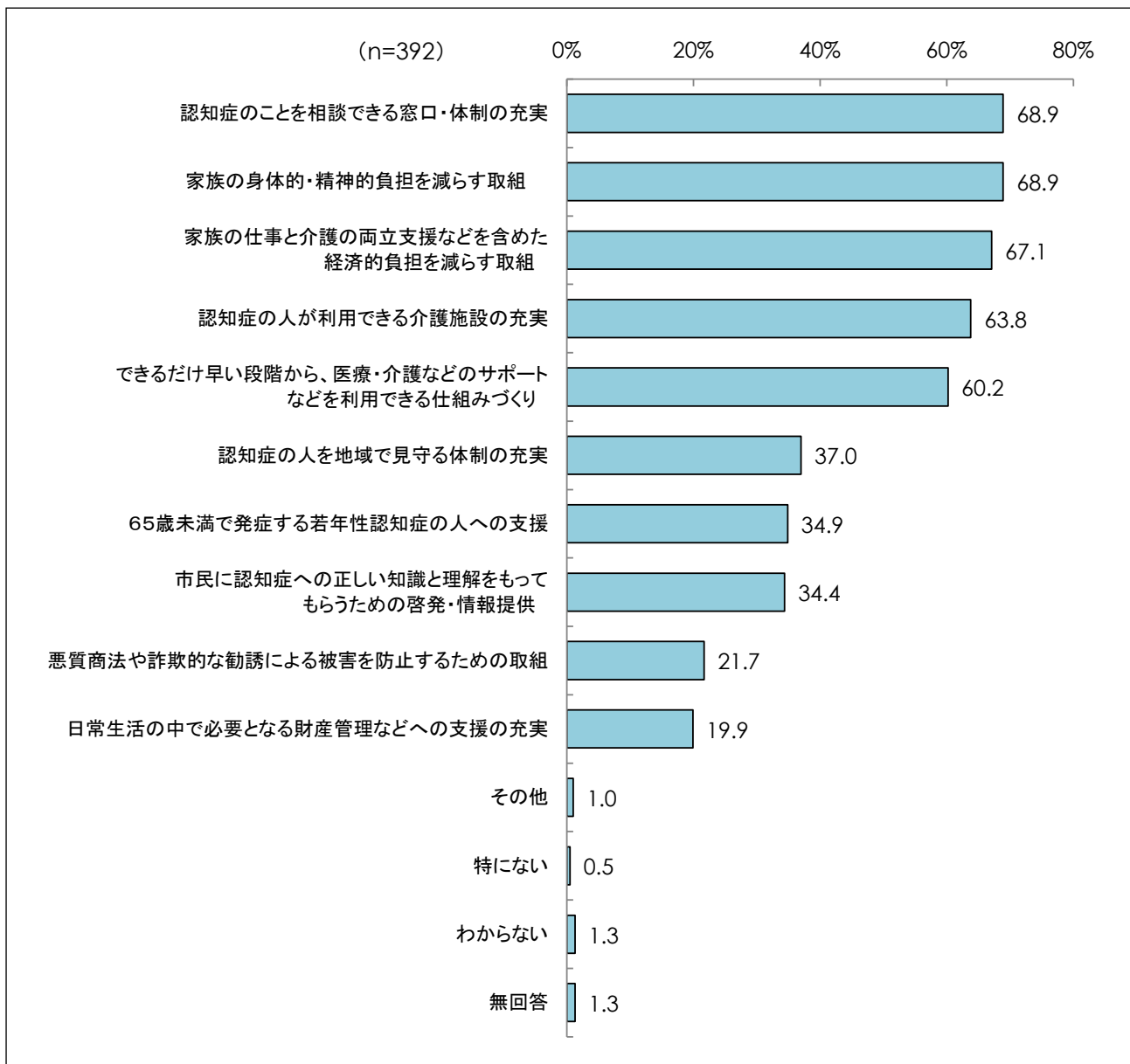
問8 認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症に関する相談窓口や、家族の身体的・精神的・経済的負担を減らす取組や介護と仕事の両立支援への要望が多い

認知症になっても安心して暮らすために重要なことをたずねたところ、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」（ともに68.9%）が多く、次いで「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組」（67.1%）、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」（63.8%）などとなっています。

図表 203 認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきこと（全体／複数回答）



5 健康づくりについて

（１）自分の健康について

問9 自分の健康をどのように感じていますか。【〇は1つ】

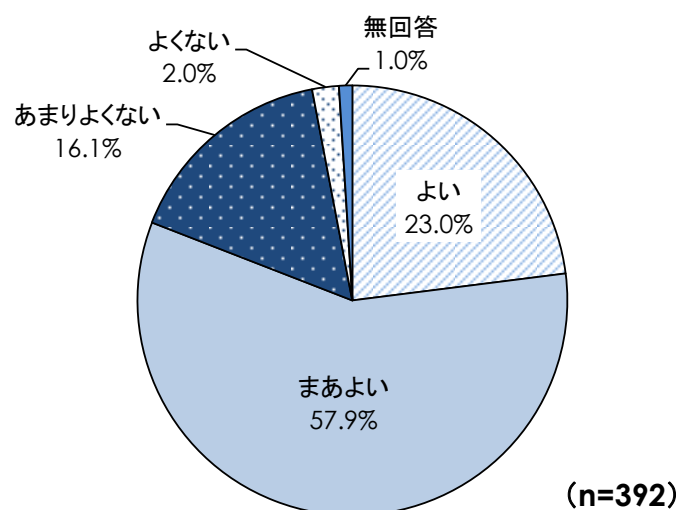
【全体の傾向】

●約8割の人が健康状態は『よい』と回答

主体的健康感についてたずねたところ、「まあよい」が57.9%と最も多く、「よい」（23.0%）を合わせると、80.9%の人が健康状態が『よい』と回答しています。

また、「あまりよくない」（16.1%）、「よくない」（2.0%）を合わせた『よくない』は18.1%と2割未満となっています。

図表 204 主体的健康感（全体）

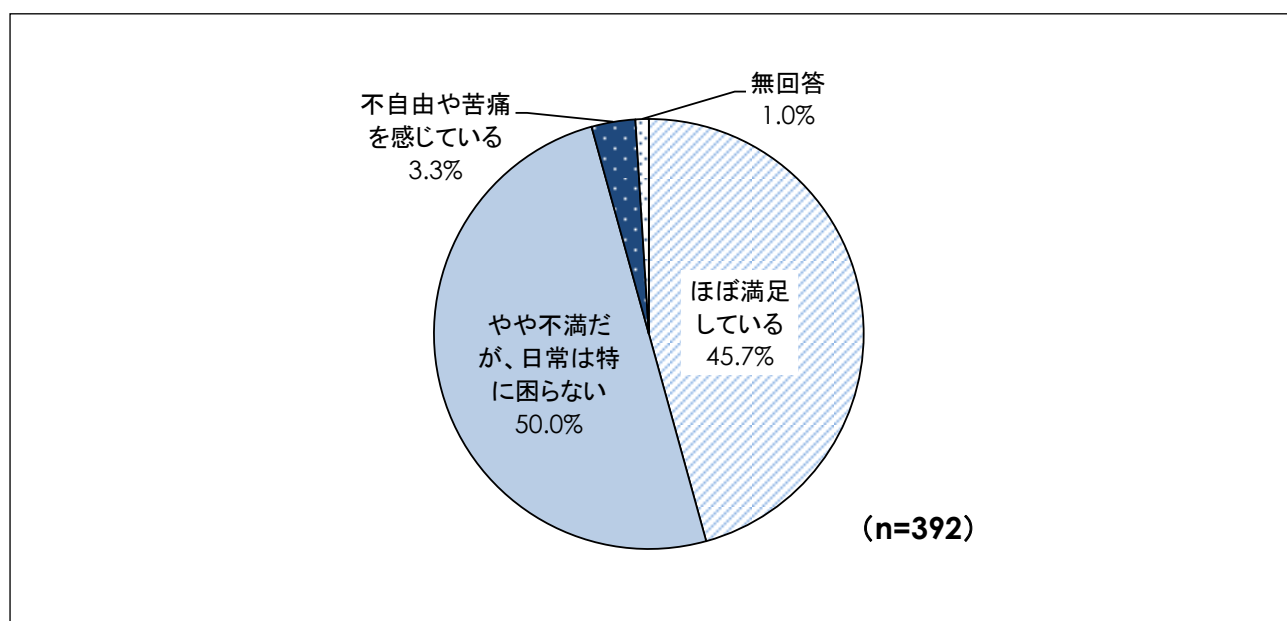


問 10 現在、自分の歯や口の中の状態について、どのように感じていますか（入れ歯を入れた状態でもかまいません）。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●口の中の状態は、ほぼ満足、多少の不満はあっても困っていない人で9割以上を占める
 歯や口の中の状態についてたずねたところ、「やや不満だが、日常は特に困らない」が50.0%と半数を占めています。また、「ほぼ満足している」は45.7%となっており、不自由や苦痛を感じている人はわずか3.3%となっています。

図表 205 歯や口の中の状態について（全体）



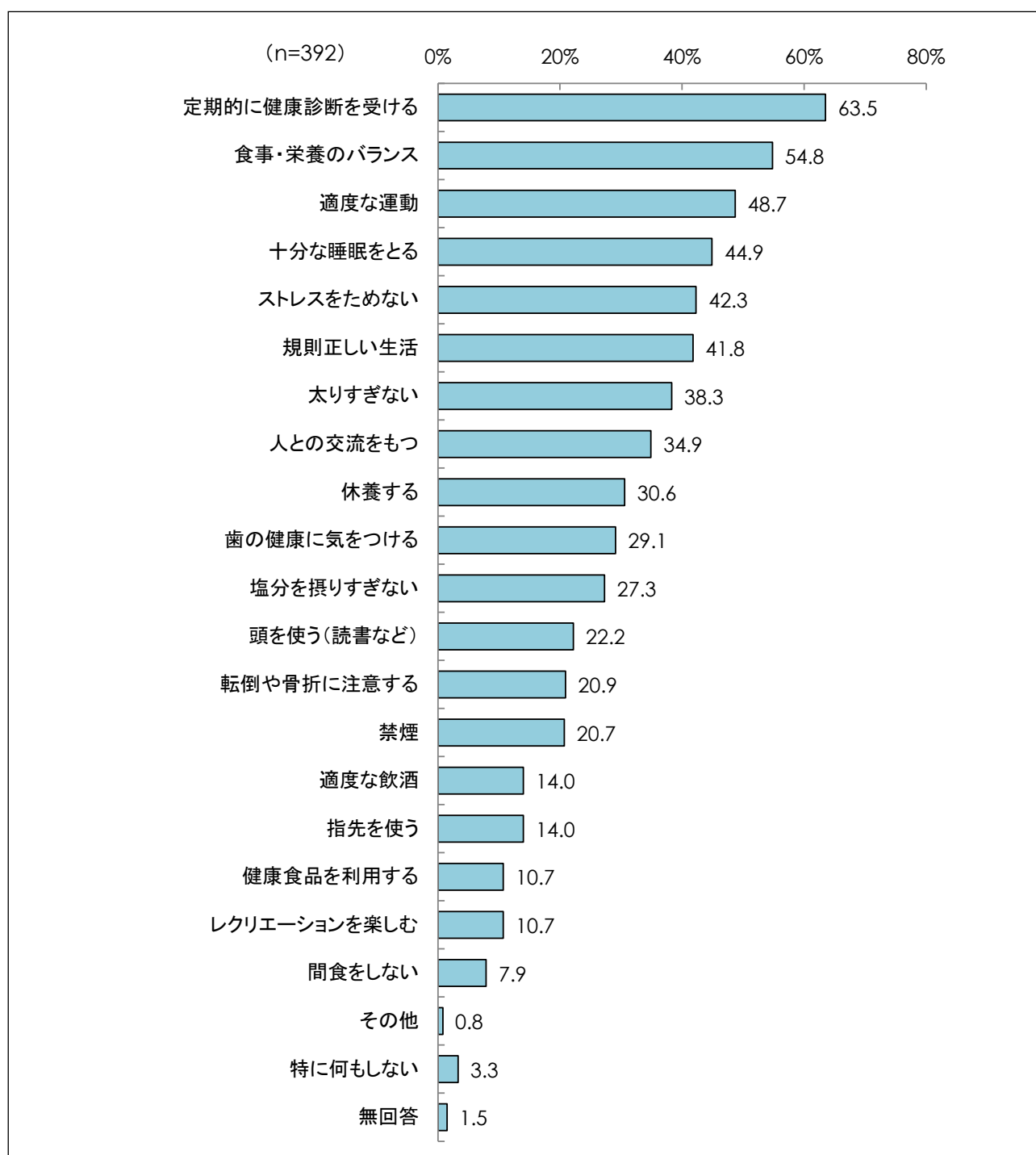
問 11 ご自分の健康を守るために、どのようなことに気をつけていますか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●健康を保つために気をつけることは定期的な健康診断、食事、運動、十分な睡眠など

自分の健康を守るために気を付けていることをたずねたところ、「定期的に健康診断を受ける」が63.5%と最も多くなっています。次いで「食事・栄養のバランス」(54.8%)、「適度な運動」(48.7%)、「十分な睡眠をとる」(44.9%) などとなっています。

図表 206 健康を守るために気をつけていること（全体／複数回答）



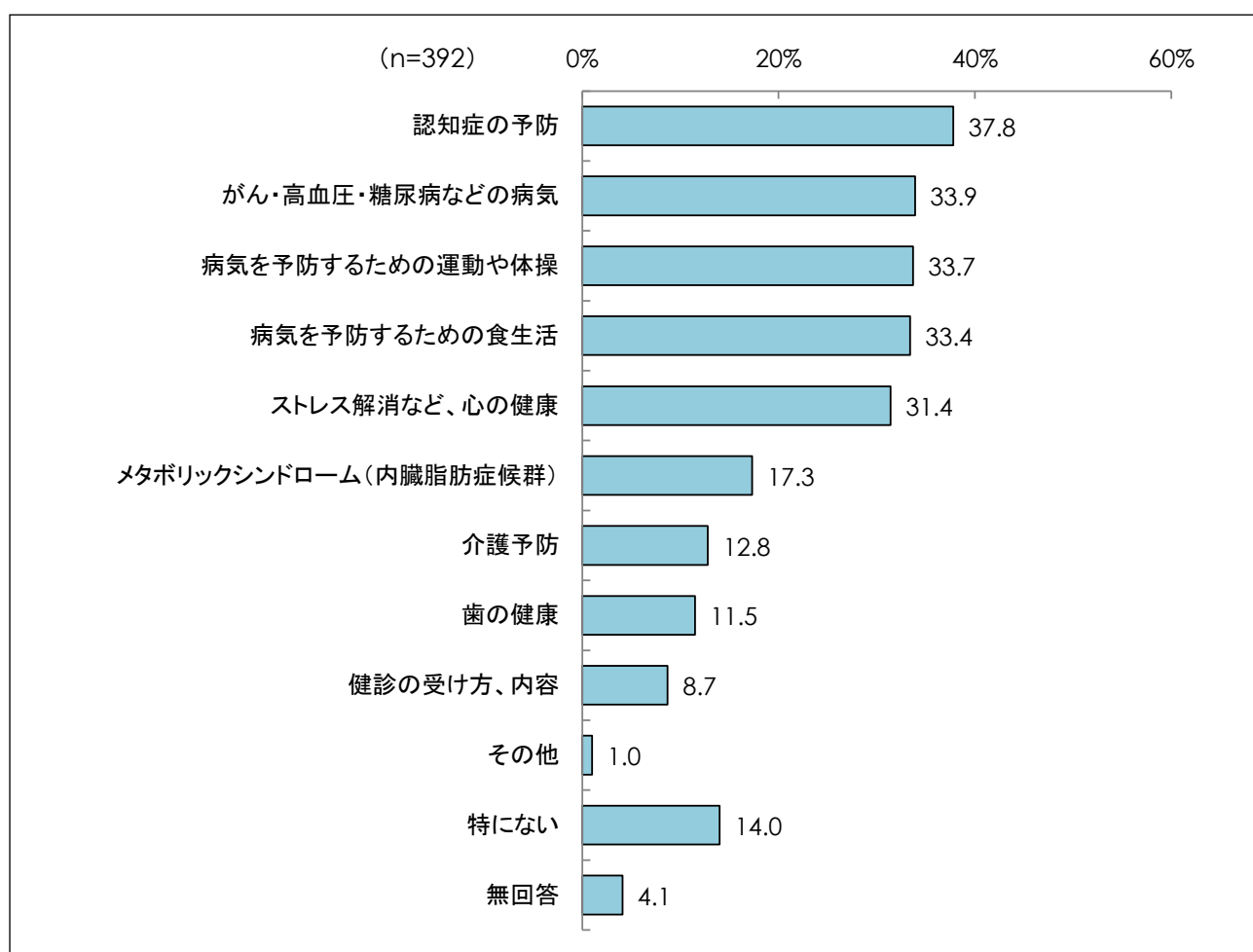
問 12 健康について知りたいことは何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●認知症予防に対する関心が高く、病気についてや病気を予防するための情報などへの要望が多い

健康について知りたい情報をたずねたところ、「認知症の予防」が37.8%と最も高く、次いで「がん・高血圧・糖尿病などの病気」（33.9%）、「病気を予防するための運動や体操」（33.7%）、「病気を予防するための食生活」（33.4%）、「ストレス解消など、心の健康」（31.4%）となっています。

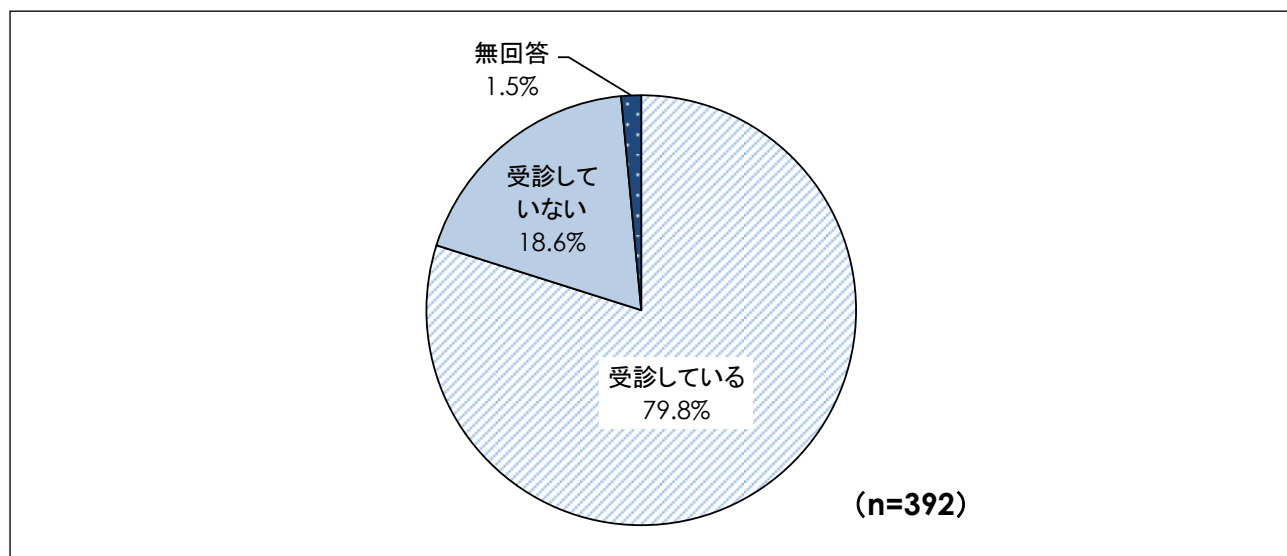
図表 207 健康に関して知りたい情報（全体／複数回答）



問 13 特定健康診査、職場健診、人間ドックなどの健康診査を受診（がん検診を除く）していますか。【〇は1つ】

健診等の受診状況をたずねたところ、「受診している」が79.8%と約8割を占めています。

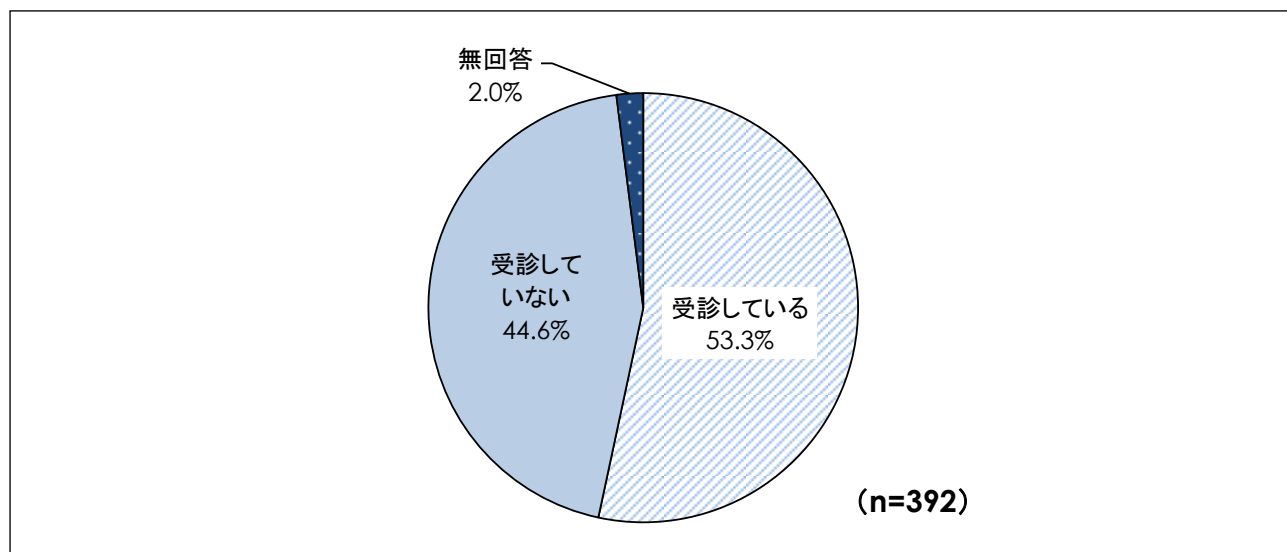
図表 208 健診などの受診状況（全体）



問 14 がん検診を受診していますか。【〇は1つ】

がん検診の受診状況をたずねたところ、「受診している」は53.3%と5割を超えていますが、前問の健診等の受診状況よりも、受診率は減少しています。

図表 209 がん検診の受診状況（全体）



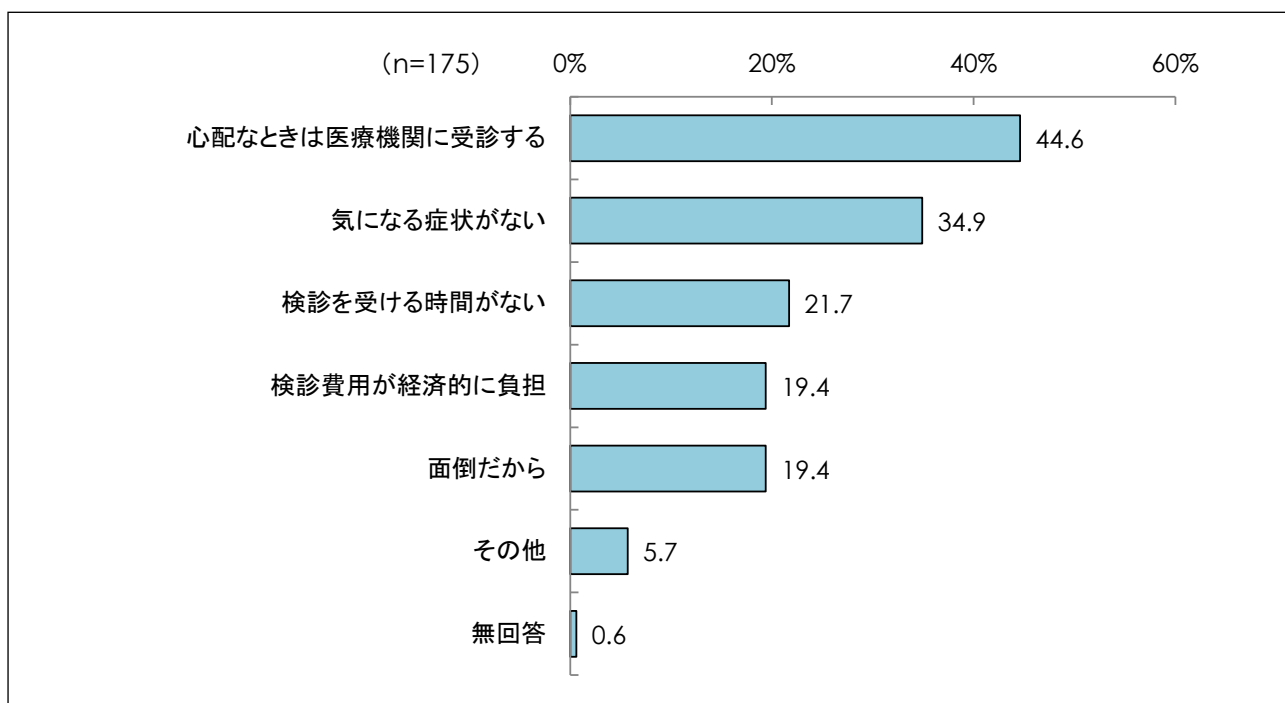
【問 14 で「2 受診していない」と回答した方】

問 14-1 受診していない理由をお答えください。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●受診していない理由は心配になれば受診する、気になる症状がない、時間がないなど
 がん検診を受診していないと回答した人に対し、受診していない理由をたずねたところ、「心配なときは医療機関に受診する」が44.6%と最も多くなっています。次いで「気になる症状がない」(34.9%)、「検診を受ける時間がない」(21.7%)、「検診費用が経済的に負担」「面倒だから」(ともに 19.4%)となっています。

図表 210 がん検診を受診していない理由（全体／複数回答）



6 一般介護予防事業について

（１）介護予防への取組について

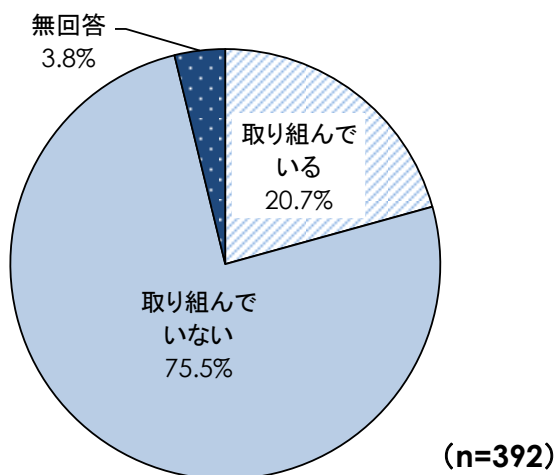
問 15 現在あなたは介護予防に取り組んでいますか。【○は1つ】

【全体の傾向】

●介護予防に取り組んでいる人は全体の約2割

現在、介護予防に取り組んでいるかをたずねたところ、「取り組んでいる」は20.7%、「取り組んでいない」が75.5%となっており、取り組んでいない人が7割を超えています。

図表 211 介護予防への取組の有無（全体）



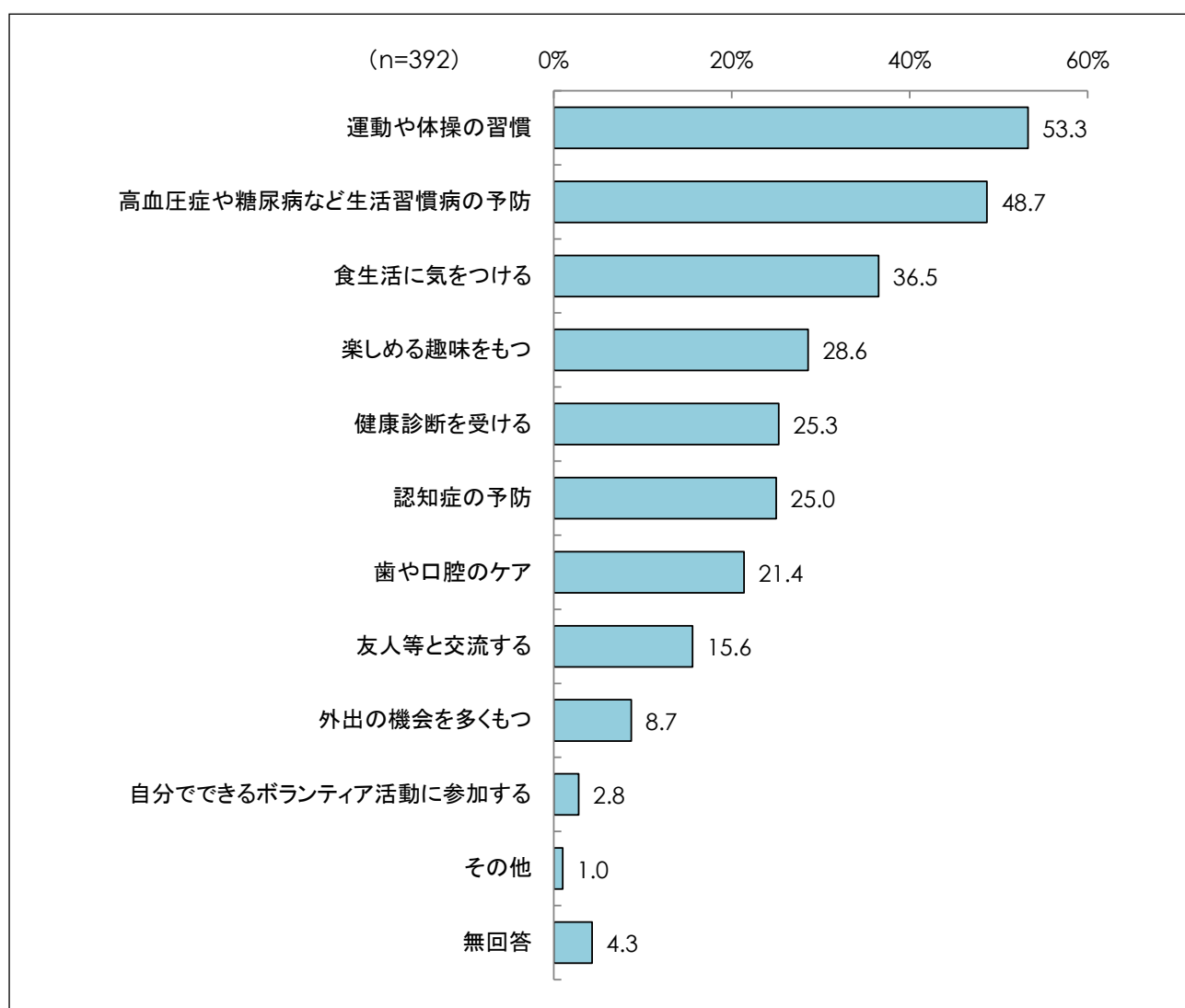
問 16 介護予防の上で重要と思われるものに○をつけてください。【○は3つまで】

【全体の傾向】

●介護予防において重要なことは運動や体操、生活習慣病の予防、食生活など

介護予防において重要なことについてたずねたところ、「運動や体操の習慣」が 53.3%と最も多く、次いで「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」（48.7%）、「食生活に気をつける」（36.5%）、「楽しめる趣味をもつ」（28.6%）、「健康診断を受ける」（25.3%）、「認知症の予防」（25.0%）、「歯や口腔のケア」（21.4%）などとなっています。

図表 212 介護予防の上で重要な事（全体／複数回答）

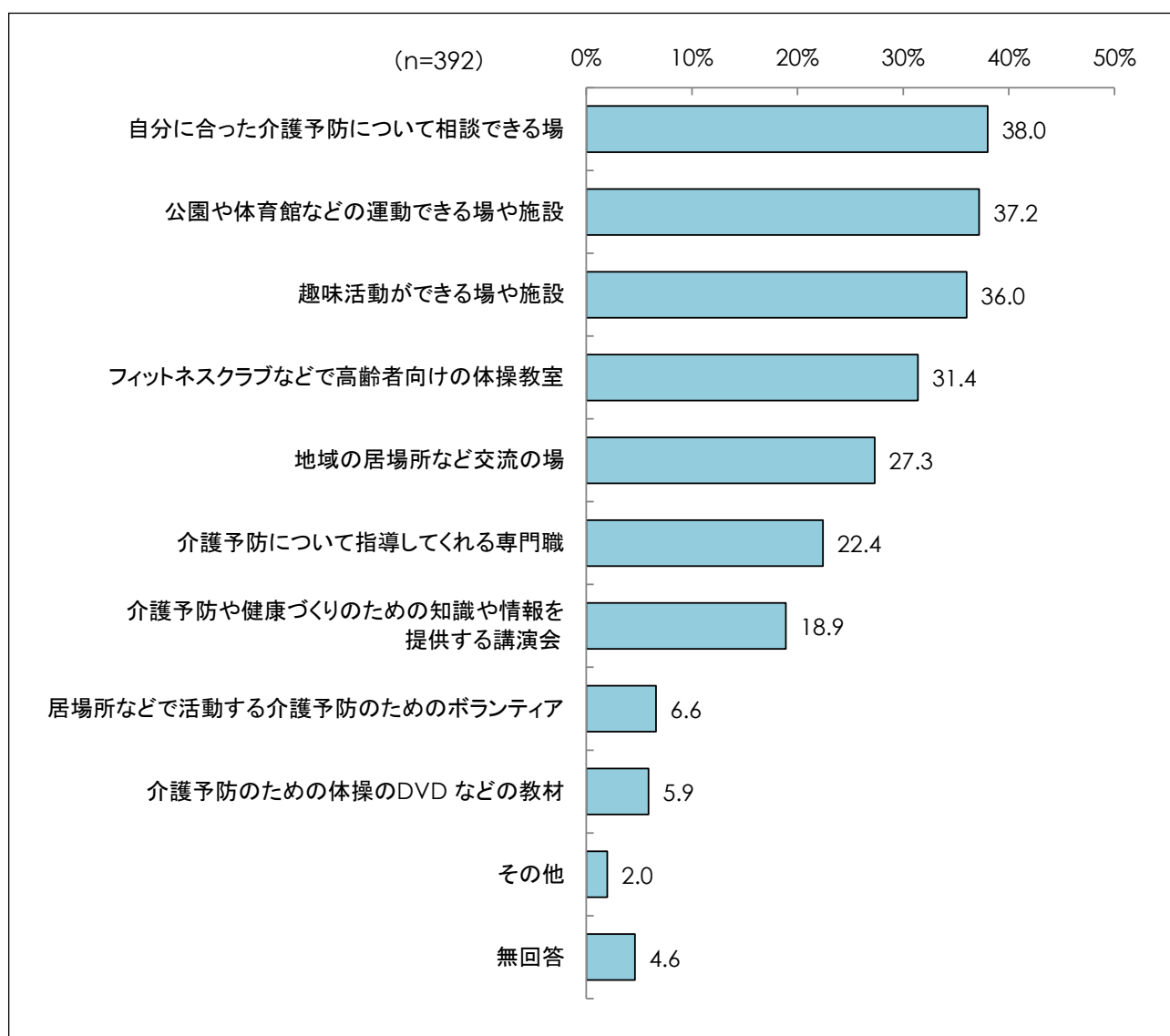


問 17 自分で介護予防に取り組むためにどのようなものがあればよいと思いますか。【〇は3つまで】

【全体の傾向】

●相談できる場や活動できる施設の他にはフィットネスクラブでの体操教室などの要望も
自分で介護予防に取り組む上で必要なものについてたずねたところ、「自分に合った介護予防について相談できる場」が38.0%と最も多くなっています。次いで「公園や体育館などの運動できる場や施設」（37.2%）、「趣味活動ができる場や施設」（36.0%）、「フィットネスクラブなどで高齢者向けの体操教室」（31.4%）、「地域の居場所など交流の場」（27.3%）などとなっています。

図表 213 自分で介護予防に取り組む上で必要なもの（全体／複数回答）



（２）介護予防とボランティア活動について

問 18 ボランティア活動などの社会参加が介護予防に効果があることは、知っていますか。
【○は１つ】

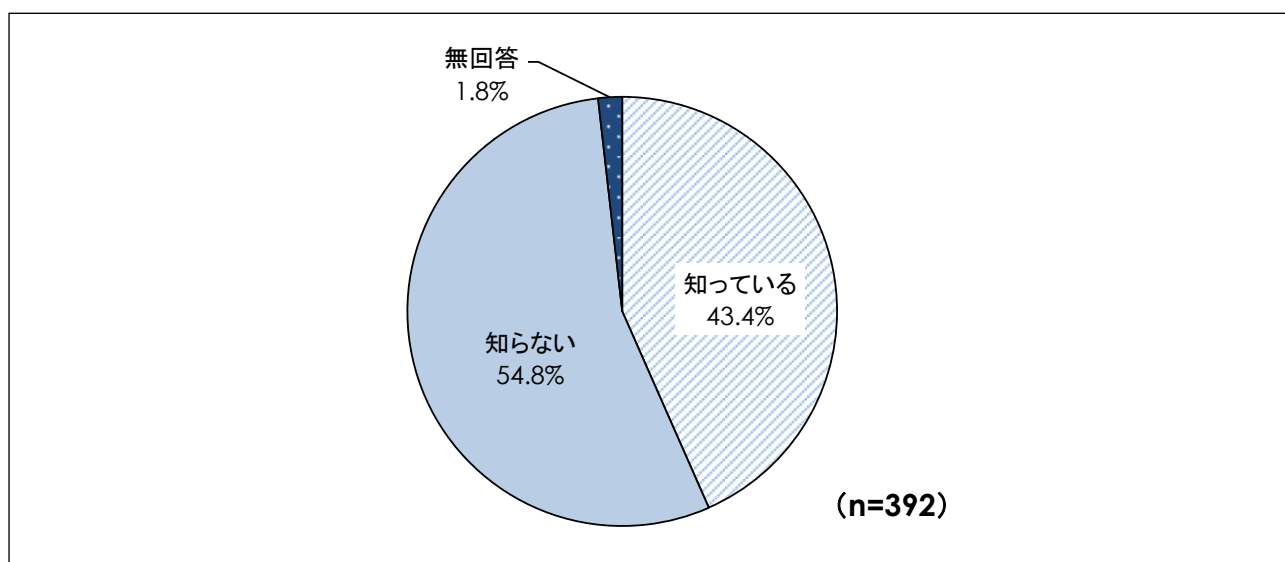
【全体の傾向】

●社会参加の介護予防への効果は「知らない」人が５割を超える

社会参加の介護予防への効果についてたずねたところ、効果があることを「知っている」は43.4%、「知らない」が54.8%となっており、「知らない」が11.4ポイント上回っています。

介護予防に対する社会参加の効果は「知らない」人の方が多い結果となっています。

図表 214 社会参加の介護予防への効果について（全体）



問 19 様々なボランティア活動の種類がありますが、中でも、介護予防ボランティアの活動をしてみたいですか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●条件が合えばしてみたい人が条件が合ってもしない人を上回る

介護予防ボランティアへの参加意向をたずねたところ、「条件が合えばしてみたい」が24.2%、「条件が合ってもしない」が12.8%となっており、「してみたい」が11.4ポイント上回っています。また、全体の56.1%の人が「わからない」と回答しています。

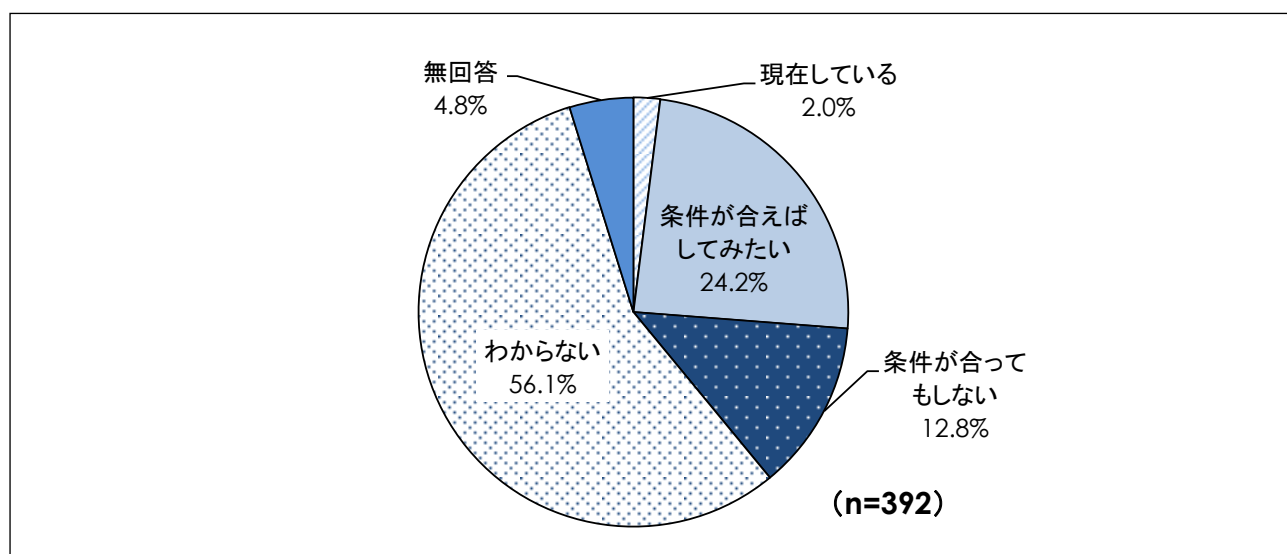
【属性別の傾向】

●45～49歳の年齢階層でしてみたい割合が高く、60～64歳では他の年齢階層と比較すると、すでにボランティアに参加している人が多い

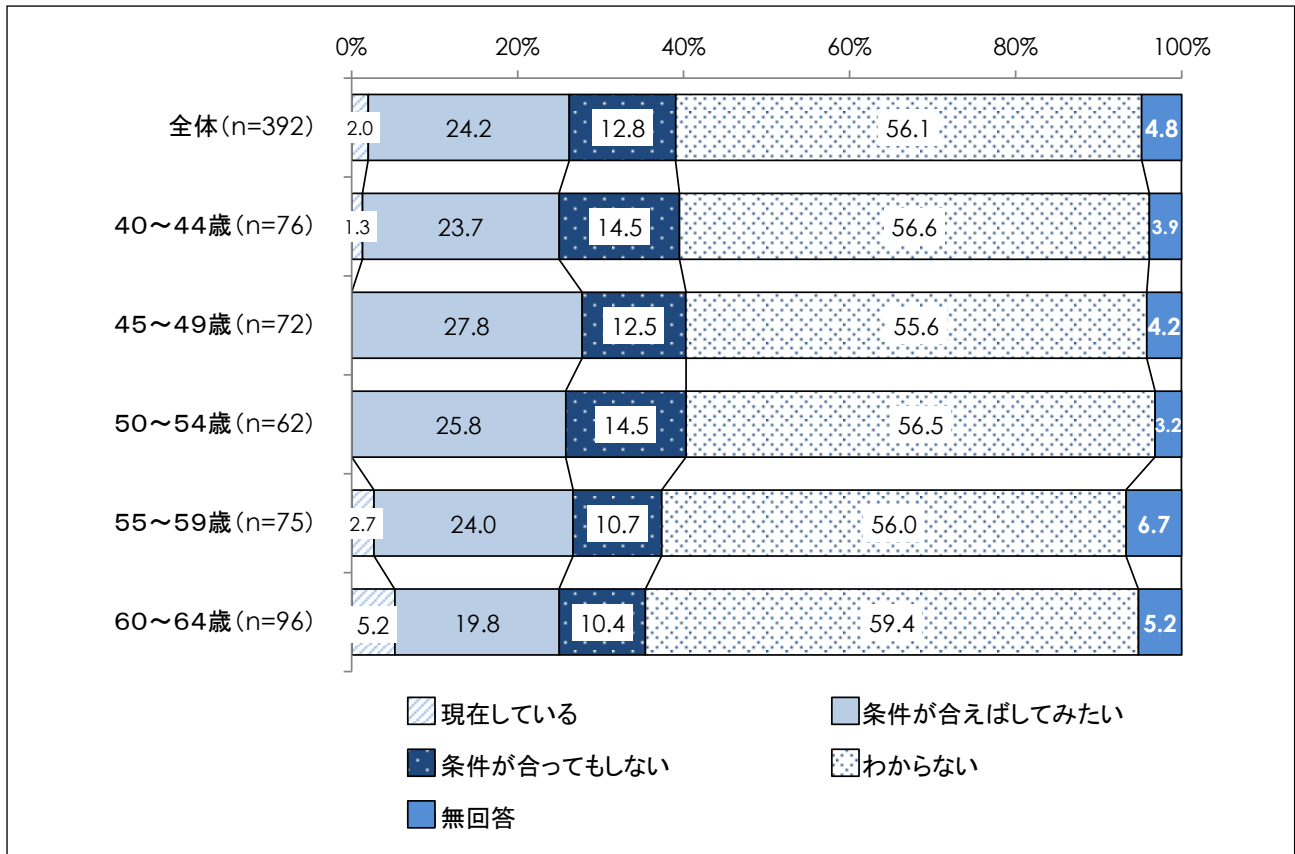
年齢階層別に「条件が合えばしてみたい」の割合をみると、あまり大差はみられませんが、45～49歳で27.8%と最も高く、他の年齢層に比べ参加意欲がやや高い年齢層となっています。

また、「現在している」の割合については、60～64歳で5.2%となっており、介護予防ボランティアに現在すでに参加している人が、最も多い年齢層となっています。

図表 215 介護予防ボランティアへの参加意向（全体）



図表 216 介護予防ボランティアへの参加意向（全体、年齢階層別）



【問 19 で「2条件が合えばしてみたい」と回答した方】

問 19-1 どのような介護予防ボランティア活動をしてみたいですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●高齢者の見守りや、介護予防教室のサポートなどが上位

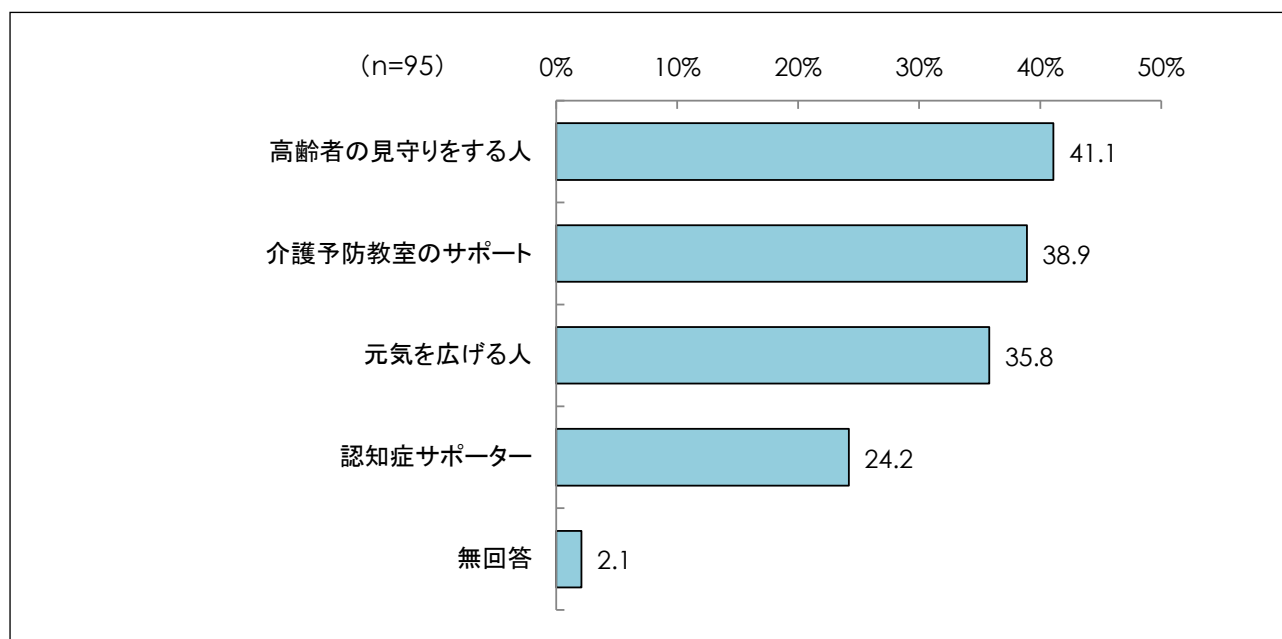
介護予防のボランティアを、条件が合えばしてみたいと回答した人に対し、してみたいボランティア活動の内容をたずねたところ、「高齢者の見守りをする人」が41.1%と最も多く、次いで「介護予防教室のサポート」（38.9%）、「元気を広げる人」（35.8%）、「認知症サポーター」（24.2%）となっています。

【属性別の傾向】

●40～44歳では元気を広げる人、60～64歳では介護予防教室のサポートが人気

年齢階層別にみると、40～44歳では「元気を広げる人」が第1位となっています。50歳から59歳までの年齢層では「高齢者の見守りをする人」、60～64歳では「介護予防教室のサポート」がそれぞれ第1位となっています。

図表 217 してみたい介護ボランティア活動の内容（全体／複数回答）



図表 218 してみたい介護ボランティア活動の内容（全体、年齢階層別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=95)		高齢者の見守りをする人 41.1	介護予防教室のサポート 38.9	元気を広げる人 35.8
年齢階層別	40～44歳 (n=18)	元気を広げる人 44.4	介護予防教室のサポート 33.3	高齢者の見守りをする人／認知症サポーター 27.8
	45～49歳 (n=20)	介護予防教室のサポート／高齢者の見守りをする人／元気を広げる人 40.0		
	50～54歳 (n=16)	高齢者の見守りをする人 43.8	認知症サポーター 37.5	介護予防教室のサポート／元気を広げる人 25.0
	55～59歳 (n=18)	高齢者の見守りをする人 50.0	介護予防教室のサポート 44.4	元気を広げる人／認知症サポーター 22.2
	60～64歳 (n=19)	介護予防教室のサポート 47.4	高齢者の見守りをする人／元気を広げる人 42.1	

7 高齢者の保健福祉について

（１）携帯電話の所持状況について

問 20 現在、携帯電話を持っていますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●携帯電話を持っている人は9割以上

携帯電話の所持状況についてたずねたところ、62.8%の人が「スマートフォンを持っている」と回答しています。また、「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」（29.3%）、「どちらも持っている」（2.0%）を合わせた『携帯電話を持っている』は、94.1%と大半を占めています。

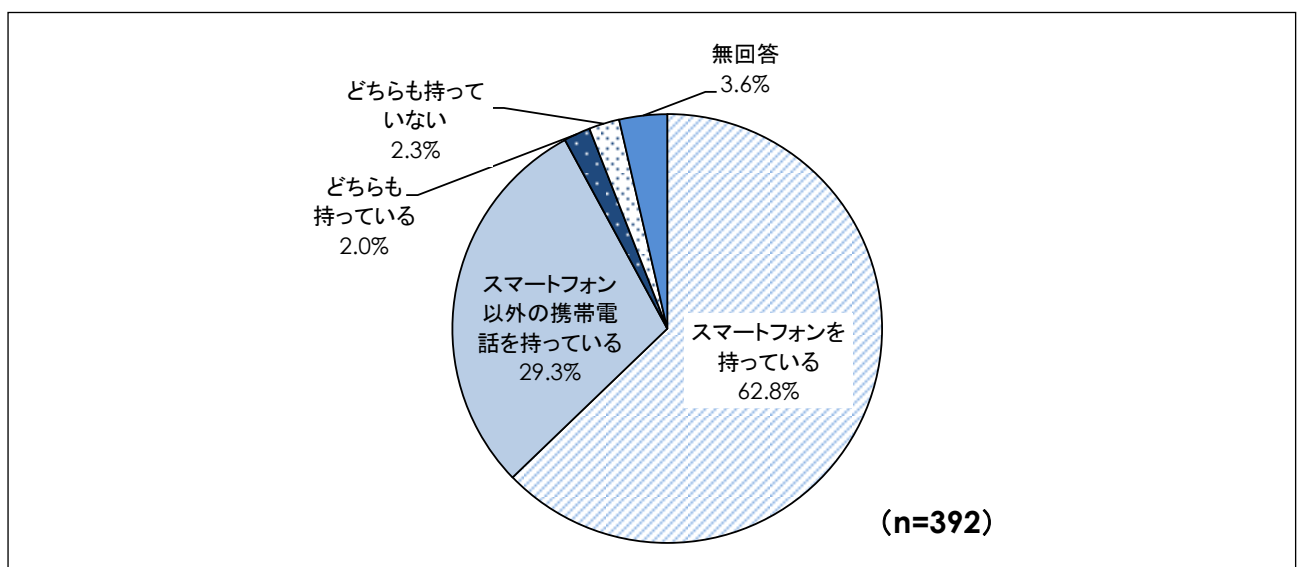
【属性別の傾向】

●40～44歳ではスマートフォンが約8割

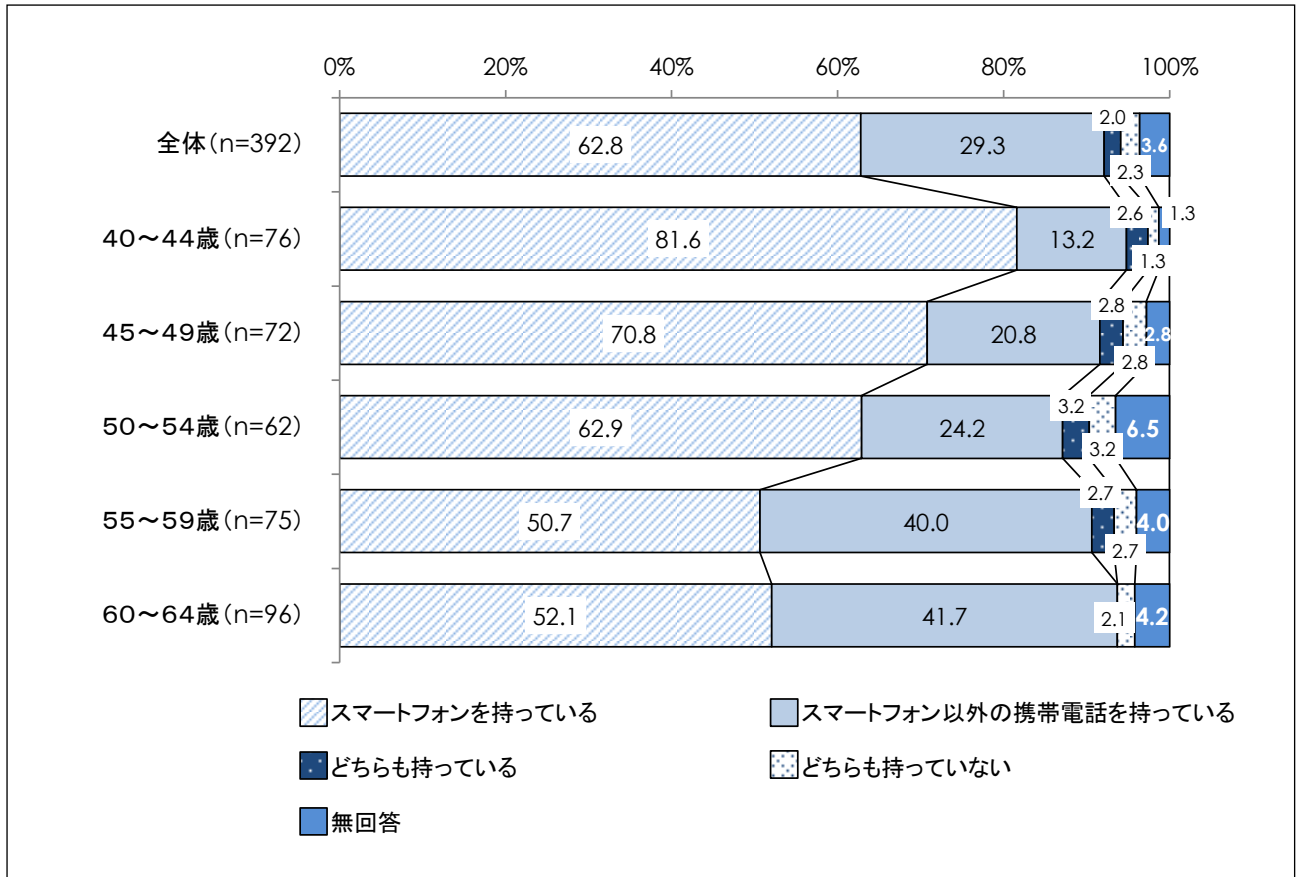
年齢階層別にみると、「スマートフォンを持っている」の割合は、40～44歳で81.6%と最も高く、59歳まで年齢があがるにつれその割合は減少し、逆に「スマートフォン以外の携帯電話を持っている」の割合が増加しています。

『携帯電話を持っている』の割合は、40～44歳で97.4%と大半を占め、次いで45～49歳で94.4%、60～64歳で93.8%となっています。

図表 219 携帯電話の所持状況（全体）



図表 220 携帯電話の所持状況（全体、年齢階層別）



（２）かかりつけ医の有無について

問 21 日頃から病気やけがの時に診察を受けることを決めている「かかりつけ医」を持っていますか。【〇は１つ】

【全体の傾向】

●かかりつけ医を持っている人が約６割

かかりつけ医を持っているかについてたずねたところ、「持っている」が60.5%と約6割を占めています。一方、「持っていない」は30.9%となっています。

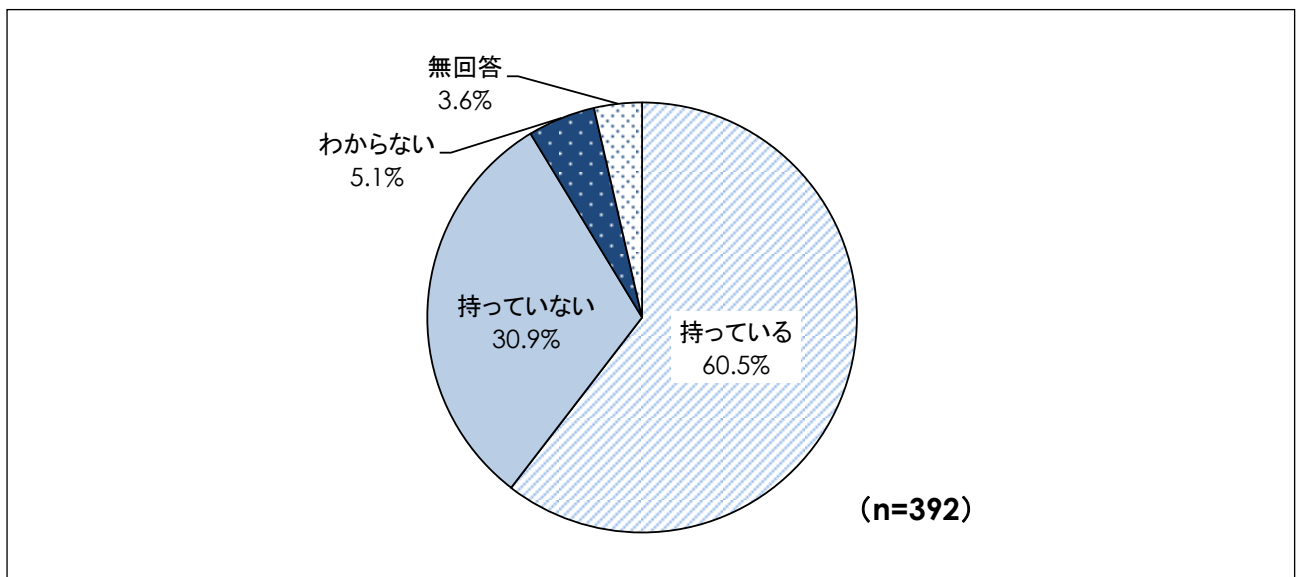
【属性別の傾向】

●60～64歳ではかかりつけ医を持っている割合が約7割を占める

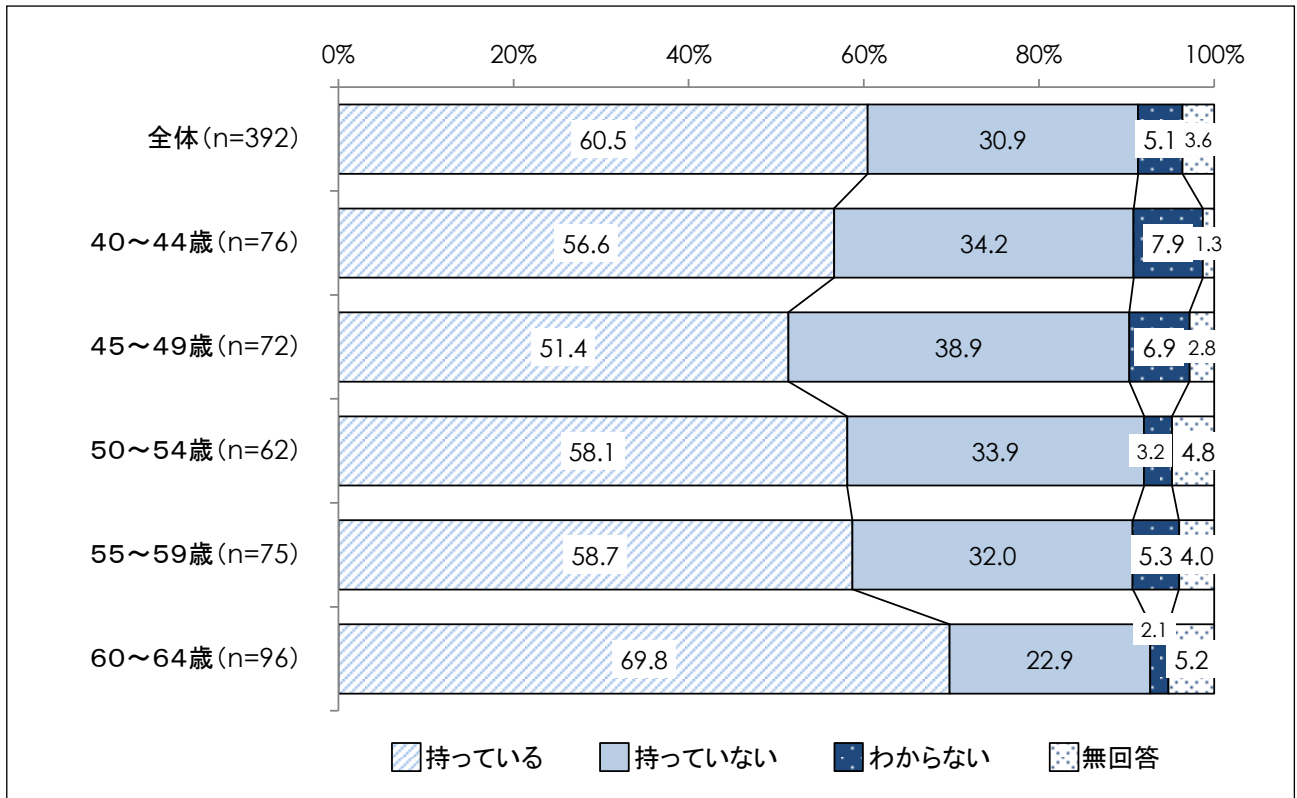
年齢階層別にみると、45～49歳で「持っている」の割合は51.4%と5割を超えているものの、他の年齢層に比べてやや低くなっています。

これに対し、60～64歳では「持っている」の割合は69.8%と約7割を占め、年齢階層の中では最も高くなっています。

図表 221 かかりつけ医の有無（全体）



図表 222 かかりつけ医の有無（全体、年齢階層別）



【問 21 で「2.持っていない」と回答した方】

問 21-1 「かかりつけ医」を持っていない理由は何ですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●かかりつけ医を持っていない主な理由は、医療機関に行く必要がない、近くに適当な医療機関がないなど

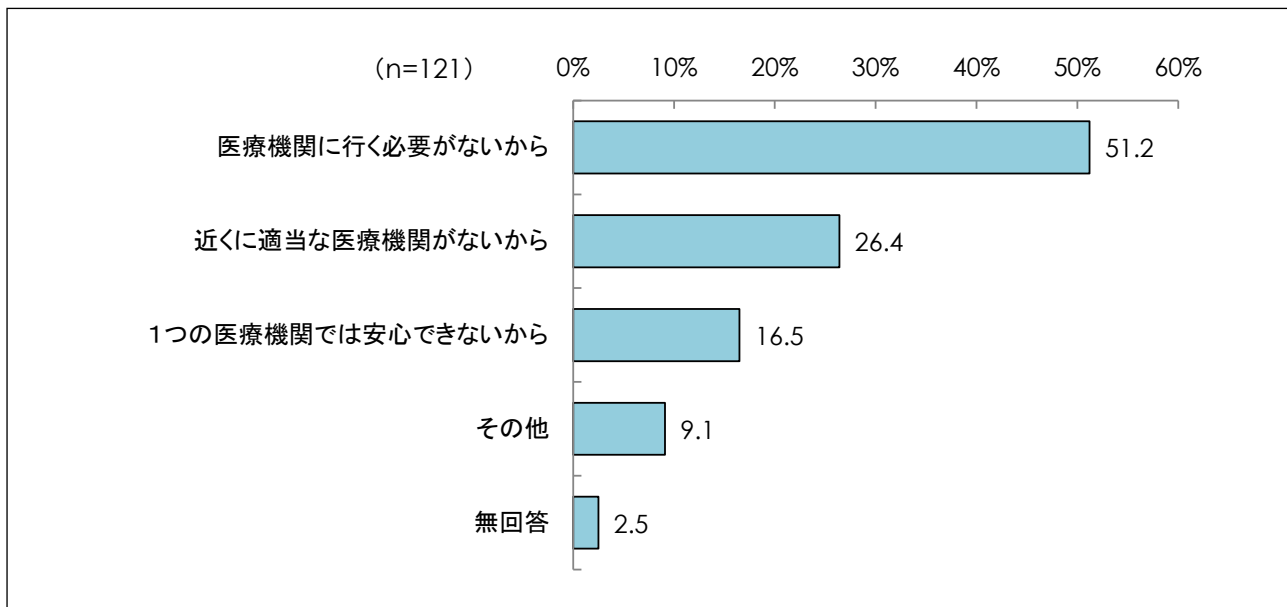
かかりつけ医を持っていないと回答した人に、持っていない理由をたずねたところ、「医療機関に行く必要がないから」が 51.2%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「近くに適当な医療機関がないから」（26.4%）、「1つの医療機関では安心できないから」（16.5%）の順となっています。

【属性別の傾向】

●ほとんどの圏域で医療機関に行く必要がないからが第1位

圏域別にみると、ほとんどの圏域で「医療機関に行く必要がないから」が第1位となっていますが、屋島、龍雲では「1つの医療機関では安心できないから」が第1位、協和、香南では「近くに適当な医療機関がないから」が第1位となっています。

図表 223 かかりつけ医を持っていない理由（全体／複数回答）



図表 224 かかりつけ医を持っていない理由（全体、日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位／単位％>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=121)		医療機関に行く必要がないから 51.2	近くに適切な医療機関がないから 26.4	1つの医療機関では安心できないから 16.5
日常生活圏域別	中央西 (n=10)	医療機関に行く必要がないから 70.0	近くに適切な医療機関がないから 10.0	1つの医療機関では安心できないから
	中央東 (n=16)	医療機関に行く必要がないから 37.5	近くに適切な医療機関がないから 18.8	その他
	鶴尾 (n=0)			
	太田 (n=6)	医療機関に行く必要がないから 66.7	1つの医療機関では安心できないから 33.3	
	一宮 (n=5)	医療機関に行く必要がないから 100.0	近くに適切な医療機関がないから 20.0	
	香東 (n=3)	医療機関に行く必要がないから 66.7	近くに適切な医療機関がないから 33.3	
	木太 (n=9)	医療機関に行く必要がないから 44.4	近くに適切な医療機関がないから 33.3	1つの医療機関では安心できないから 22.2
	古高松 (n=7)	医療機関に行く必要がないから 71.4	近くに適切な医療機関がないから 14.3	
	屋島 (n=4)	1つの医療機関では安心できないから 75.0	近くに適切な医療機関がないから 50.0	その他 25.0
	協和 (n=5)	近くに適切な医療機関がないから 80.0	医療機関に行く必要がないから 20.0	
	龍雲 (n=10)	1つの医療機関では安心できないから 50.0	医療機関に行く必要がないから 30.0	近くに適切な医療機関がないから/ その他 10.0
	山田 (n=3)	医療機関に行く必要がないから 66.7	近くに適切な医療機関がないから 33.3	
	勝賀・下笠居 (n=13)	医療機関に行く必要がないから 53.8	近くに適切な医療機関がないから/その他 23.1	
	塩江 (n=1)	その他 100.0		
	香川 (n=7)	医療機関に行く必要がないから 57.1	1つの医療機関では安心できないから 28.6	近くに適切な医療機関がないから 14.3
	香南 (n=4)	近くに適切な医療機関がないから 75.0	医療機関に行く必要がないから 25.0	
	牟礼 (n=7)	医療機関に行く必要がないから 71.4	その他 28.6	
	庵治 (n=1)	近くに適切な医療機関がないから/1つの医療機関では安心できないから 100.0		
	国分寺 (n=7)	医療機関に行く必要がないから 57.1	近くに適切な医療機関がないから 42.9	

（３）自分の最期を迎えたい場所

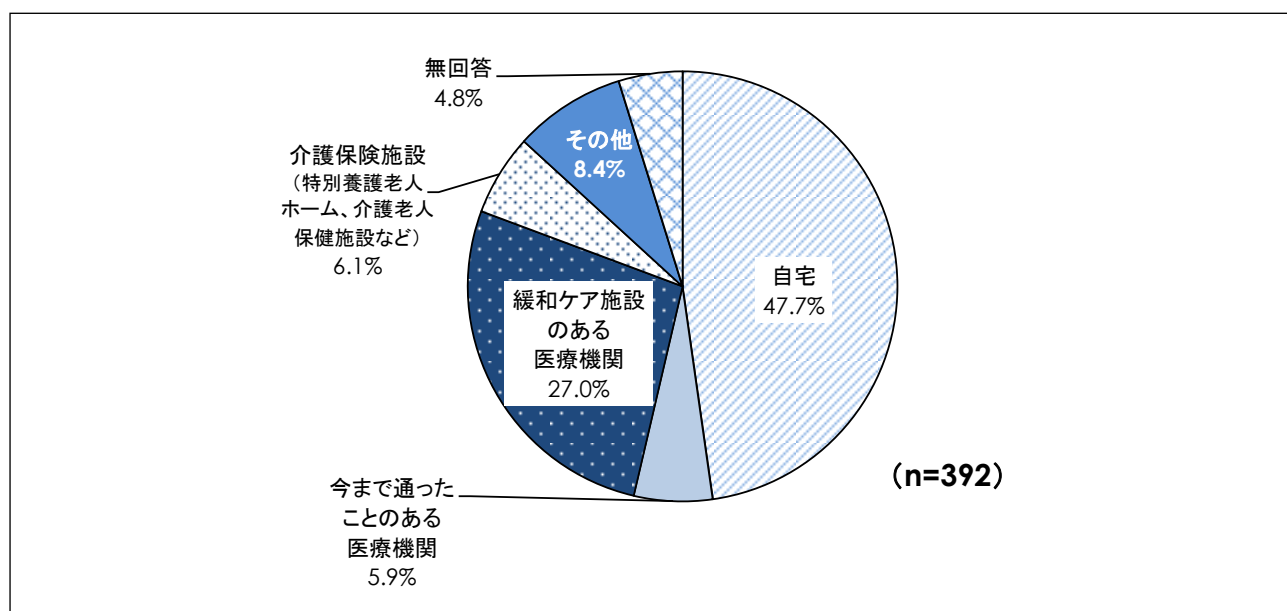
問 22 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●自宅以最期を迎えたい人が最も多くなっている

自分の最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」が47.7%と最も高くなっています。次いで「緩和ケア施設のある医療機関」（27.0%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」（6.1%）、「今まで通ったことのある医療機関」（5.9%）などとなっており、医療機関や施設で最期を迎えるよりも、自宅を迎えたい人が多くなっています。

図表 225 自分の最期を迎えたい場所（全体）



（４）介護サービスの利用について

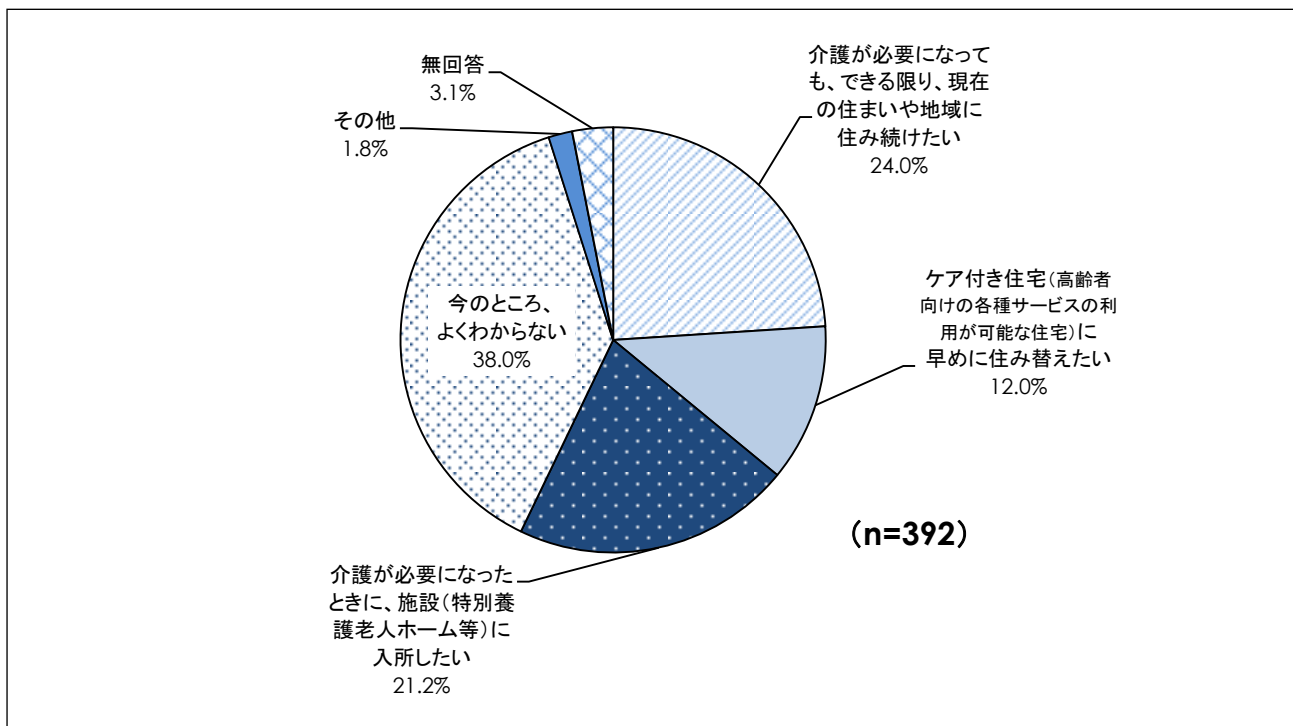
問 23 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。【〇は1つ】

【全体の傾向】

●現在の住まいや地域に住み続ける、又は必要に応じて介護施設に入所したい人が多い

将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」は24.0%、「介護が必要になった時に、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」は21.2%、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」は12.0%となっています。一方、「今のところ、よくわからない」は38.0%と最も高くなっています。

図表 226 将来の住まいと介護サービスの利用について（全体）



（５）超高齢社会や地域包括ケアシステムにおいて重要なこと

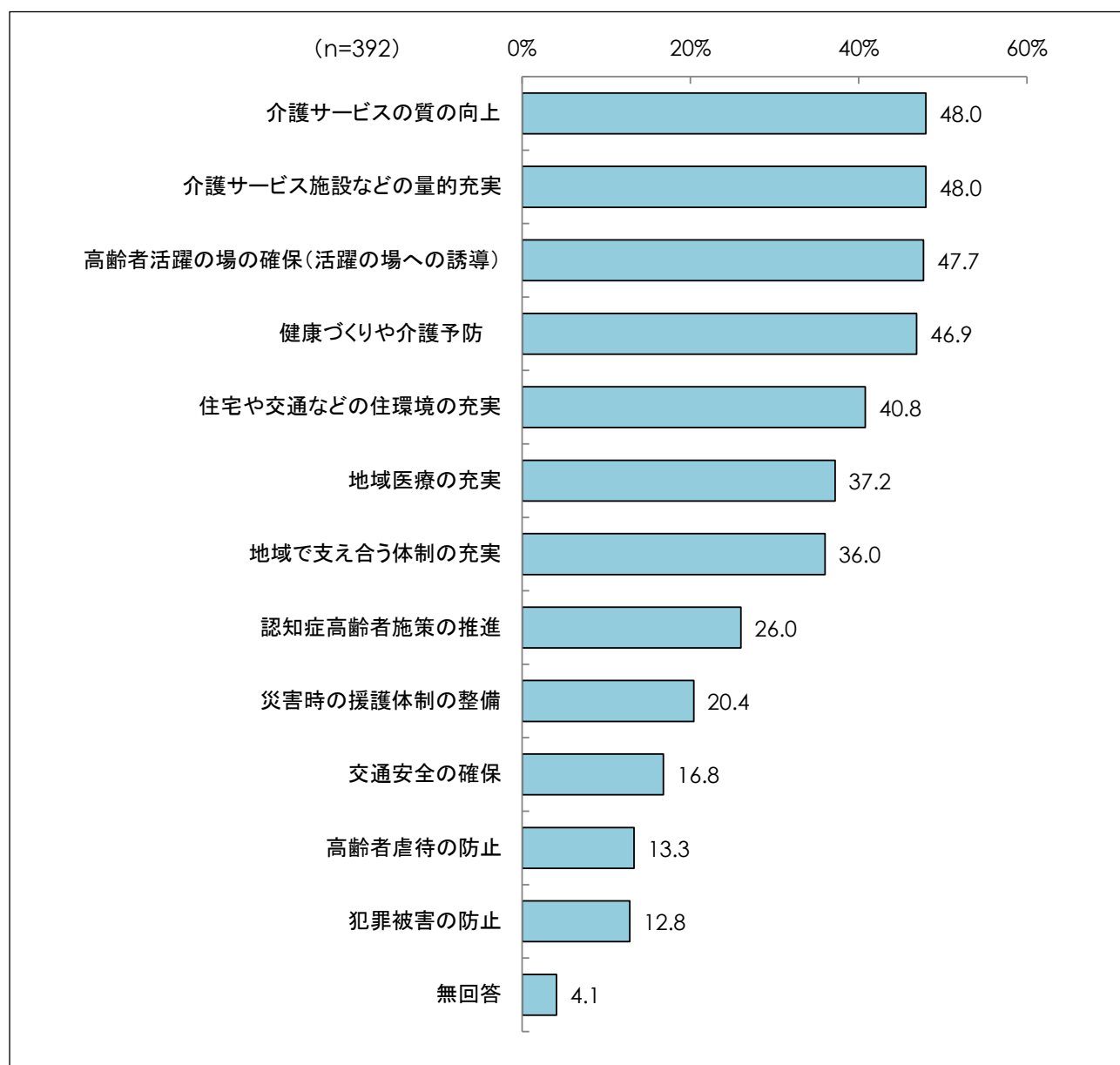
問 24 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策はどのようなことですか。
【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

- 超高齢社会で重要な方策は、介護サービスの質や施設の充実、高齢者の活躍の場の確保、誘導など

超高齢社会において重要と思われる方策についてたずねたところ、「介護サービスの質の向上」、「介護サービス施設などの量的充実」がともに48.0%と最も多く、次いで、「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」（47.7%）、「健康づくりや介護予防」（46.9%）と僅差で続いています。

図表 227 超高齢社会において重要な方策（全体／複数回答）



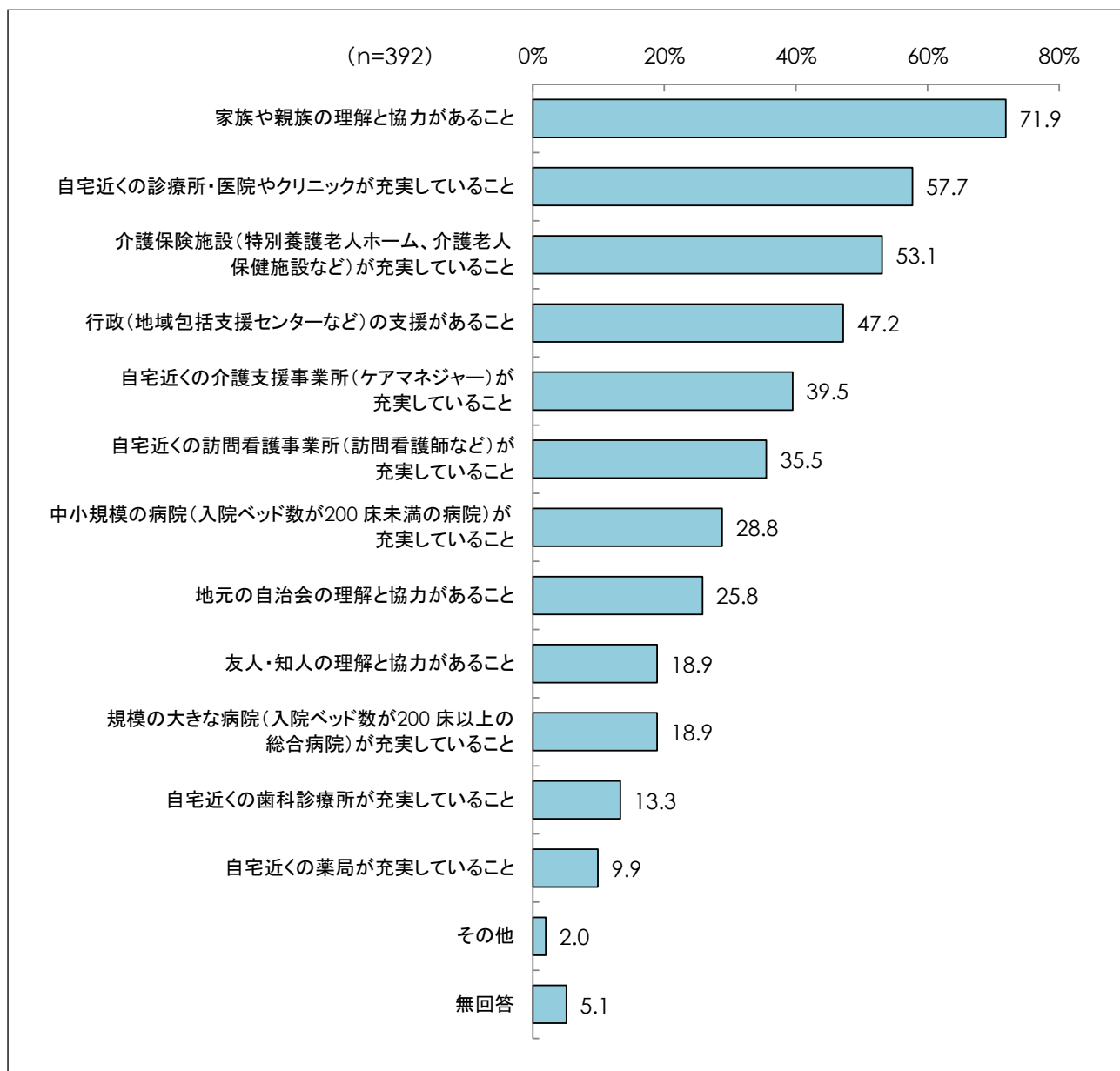
問 25 地域包括ケアシステムの構築の推進に当たり、特に重要だと思うことはどのようなことですか。【〇はいくつでも】

【全体の傾向】

●地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことは、家族や親族の理解や、自宅近くに診療所、介護保険施設等が充実していること

地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なことをたずねたところ、「家族や親族の理解と協力があること」が71.9%と最も多く、次いで「自宅近くの診療所・医院やクリニックが充実していること」（57.7%）、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）が充実していること」（53.1%）、「行政（地域包括支援センターなど）の支援があること」（47.2%）などとなっています。

図表 228 地域包括ケアシステムの構築の推進において重要なこと（全体／複数回答）



V 資料 自由意見集

1 自由意見 高齢者65歳以上

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 27件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	現状の制度が継続できる事が大切である。	男性	75～79歳
2	介護保険会計が赤字になった理由で、介護保険料を自動的に値上げする制度は反対である。	男性	90～94歳
3	介護保険サービスや高齢者のための行政サービスについては多種多様なものがあるが、その内容を知らない人、難しい表現があって理解できない人が多いのではないと思う（私もその1人です）。もっと制度の内容や利用の仕方を具体的に周知してもらいたいと思います。	男性	85～89歳
4	高齢者保健福祉施策について温かいご配慮ありがとうございます。介護保険制度の整った社会でお世話になれることについて衷心より感謝いたします。ご健闘をお祈りいたします。	不明	85～89歳
5	軽い介護の時も十分に保険が使用出来るようにして欲しい。現在は元気で働いているので先の事はまだ良くわからない事が多いです。十分な回答が出来なくて申し訳ありません。	女性	65～69歳
6	制度が改定される毎、介護保険制度が年々悪くなって来しています。当初の主旨に沿った制度にしてください。年寄りが増えることは生まれた時から分かっているのですから。本当に必要となった時に使えないのでは、今まで掛けていた意味がありません。充実した介護保険制度を望みます。	女性	70～74歳

・介護保険料、医療費など経済的負担について 40件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険料の金額を使っている人と使っていない人との差をつけて欲しい。介護制度を使っていないのに高い保険料を納めたくないです。年金も少ししかもらっていない方なので考えて欲しいです。	女性	65～69歳
2	わずかな年金で暮らしているのに介護保険料が高すぎる。介護支援を一度も受けていない者には減額して欲しい。夫婦で暮らしている高齢者には何もしてくれない。一人者だけを保護するのはいかがなものかと思う。	男性	80～84歳
3	経済的な理由で利用したくても出来ない。	女性	85～89歳
4	年金をこれ以上少なくしないで、介護料とか国とか県、市でみてください。お願いします。	男性	70～74歳
5	介護保険制度が出来て、負担金全体的にすごく増えたと思う。病院では1～3ヵ月で退院を迫られ、家族の負担が増えている。正しいのか疑問である。	男性	65～69歳

NO.	意見	性別	年代
6	誰にでも心細い老後があるのですから、せめて介護保険料を次々と上げないようにして下さい。	女性	80～84歳
7	少ない年金から削り取られる様な介護保険料が年々徴収額が上がっています。少なくとも知恵を使い、より良いサービスが出来る様、お願い致します。	女性	65～69歳

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 63件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	特別養護老人ホームに入所したい時、長い間待たずに入れるよう施設を増やす等充実した策を希望する。	男性	75～79歳
2	住み慣れた地域で一日でも長く過ごせることを目標に健康管理に努めています。健康に対する知識、情報も取り入れて勉強していきたいと思っています。高松市にお願いとして、自宅で老人ホーム並みに安心して暮らしたい在宅老人ホーム制度ができれば幸いです。	女性	65～69歳
3	介護が必要となった時に安心して安価で入所できる施設を充実して欲しい。自動車運転免許証を返納した時に、交通機関の利用に対する補助を充実して欲しい。	男性	75～79歳
4	介護老人保健施設のデイケアが出来る施設の充実。施設が少ないように思う。	男性	85～89歳
5	二世帯住宅です。屋若い者が仕事でいないため留守番をしています、足が悪く外出する事はとても出来ない。病院等へ行くにもタクシーを使用していますが、同居している場合は、介護の方は何も使えないのでしょうか。	女性	85～89歳
6	同居家族がいる場合のケアサービスがないように思う。同居していても朝早くから、夜遅くまで居ないし、いつも一人で食事をし、生活している様なものです。一人住まいの人と同じ条件ではないかと思われそうですが・・・。	女性	75～79歳
7	介護保険制度を利用して何もかもヘルパーさんにしてもらっている方がたくさんおられます。できる事は自分で動けるようにして欲しい。	男性	65～69歳
8	私は一人暮らしなので、介護サービスや施設、ケアの手続等の指導をお願いしたいです。	女性	75～79歳
9	毎日の食生活や買物の介助、生活の足の支援。	女性	75～79歳
10	地域包括支援センターのスタッフの方はその地域の個々の介護施設のサービス内容を熟知していて欲しいです。ケアマネさんをお願いしても結局その方の属する施設への誘導になりがちなので、公平な立場で、どこのもんな介護サービスが適切なのかアドバイスを受けたいです。	女性	65～69歳
11	ケアサービスについて、必要な人のみ車で送迎するようにしてください。	女性	85～89歳
12	男性高齢者は世間話しの出来る相手がいない人が多いと思うので、自由に談笑出来る（有料でケーキ、飲物のサービスなどあれば尚良い）公共の場が欲しい。	男性	85～89歳

NO.	意見	性別	年代
13	介護も必要ですが人との会話がとても大切だと思います。それには家から連れ出す事。一軒一軒回るより何人か1カ所に集まり友達作りから。高齢になると足の確保が大切だと思います。	女性	70～74歳
14	地域の民生委員とコミュニケーションが気軽に取れると良い。(一步踏み込んだ対話・相談が出来る)	男性	90～94歳
15	地域包括ケアシステムの早期構築を望みます。	男性	65～69歳
16	今後、ますます高齢者が増えてきます。介護サービス、地域医療等が一層、充実して老人社会が豊かな社会になるよう期待します。頑張ってください。	男性	65～69歳

・介護予防について 10件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	現在80才の自分自身が元気でいられるよう運動をし何事にも頑張る努力する。ストレスを溜めないよう出来る限り前向きに考え、楽しんでもらうように心していきたいと思う。人のいる場所に出向いて行く、笑う、泣く、これもいい事と思う。	女性	80～84歳
2	マラソン大会を催し、老人班・若者班に分類して定期的に行う。老人化は足からです。筋肉をつける指導が寝込まない老人を作る。	女性	75～79歳
3	介護施設を増やすのではなく介護を必要としない高齢者を増やす様にして欲しい。面倒をみてあげる存在ではなく、社会参加の場所があると良いと思う。老人にも面倒をみてもらいましょう。出来る事があれば、出来る範囲で参加したいと思っています。	女性	65～69歳
4	この所いきいき体操に参加しております。専門的な勉強をしている先生でとても楽しく教えて下さり体が軽くなります。元気な間は是非とも続けて参加したいと望みます。認定されて介護保険を利用している方は90才を過ぎても上手に利用して生活されて居ますが、とてもいい事だと思います。	女性	80～84歳

・アンケートについて 33件（以下抜粋）.

NO.	意見	性別	年代
1	アンケートの内容をもっと簡素化して欲しいです。仕事を持っている者にとっては負担です。	女性	85～89歳
2	介護保険制度の周知。後期高齢者医療制度の周知。保険施設、各自業所の比較、料金、特長、メリット、デメリット。基本チェックリストとは？専門用語が多くてアンケート内容の理解が出来ない箇所がある。	男性	65～69歳
3	質問項目が多すぎて回答に困りました。もっと簡結に分かりやすく日常生活に密着した内容で、簡結で分かり易くして欲しかった。高齢になれば質問に答えるのが容易ではないのです。文字の書き方もこの通りです。申し訳ありません。	男性	75～79歳
4	質問設定が「地域とのかかわり」や「人とのつき合い」を「善」としているようですが、介護やその予防の大前提が必要ない人もいます。	男性	65～69歳
5	この質問はとても心が痛みます。2人でなんとかやっていますのでもう少し先の事と思って居ますが、色々考えると心が淋しいことばかりです。でも頑張りますので2人でまだやって行けます。ありがとうございます。	男性	75～79歳
6	いろんな質問があり、本当に助かります。息子が昼食を食べに来てくれるので、私は買物も料理も自分なりに頑張っております。いろんな勉強させていただけて一安心です。お世話になります。	女性	90～94歳
7	現在、定年制のない会社に勤務しています。（月に100時間位）今のところ、私自身元気なので介護に関する事がピンときませんでした。でも今回のこのアンケートで本当に良く分かりました。ありがとうございました。	女性	65～69歳
8	介護に関するアンケート調査の書類で様々な事を知り、高齢者のことを色々と考えられている事に感謝致しました。	女性	85～89歳
9	アンケート調査の結果を尊重して下さい。	男性	75～79歳

・行政への要望・意見について 50件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	敬老会へ対する市の行政を統一して欲しい。居場所作りに補助を出して欲しい。	女性	85～89歳
2	高齢者社会で、より行政や地域で支え合う体制の充実が必要と思います。	男性	85～89歳
3	1人住まいの方が多くなって心の淋しい方が多い様に思います。年寄り同志話し合える場所が欲しいと思います。	女性	85～89歳
4	高齢者、特に一人暮らしの方に毎日声かけ運動等を実行できる自治会を作して下さい。	男性	75～79歳
5	パンフ、広報誌もよいが、各自治会集会場へ制度、施策等々の周知、研修を出前して欲しい。	男性	75～79歳

NO.	意見	性別	年代
6	介護の認定をもらわないとサービス等が受けられないがどこに行けばいいかわからない。高齢になっても行政からは訪問ひとつなくこちらから行かない限り相談できない。認知症の症状が出てきて初めて行政への連絡先を探すことになる。それでは遅いのではないかな。	女性	85～89歳
7	車の運転が出来なくなった時の生活がどの様になるかが一番不安です。小さい県でありながら交通網が未発達ではないでしょうか。	女性	65～69歳
8	高齢になっても現在の住まいや地域で住めるように、社会福祉協議会での「リバースモーゲージ」を希望するすべての高齢世帯に広げると良いと思う。そうすれば空き家対策の解消にも繋がると思う。	女性	75～79歳
9	乗合タクシーが中止になって困っています。近くの病院に行くにも困っています。80才過ぎて主人が運転していますが、いつ迄も続きません。ご近所の皆さんも高齢者ばかりです。困っています。	女性	75～79歳
10	ペット居る施設があれば心とむかふかと案じて居ります。	男性	80～84歳
11	低所得者でも無視しないで欲しいです。	女性	65～69歳
12	①看護や介護に必要な人材の育成(待遇の改善等含む)②対象となる医療施設の充実③そして、予防として必要な栄養、運動に関する啓蒙活動。思いあたることはこのくらいです。	男性	65～69歳

・その他 83 件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	介護が必要になってみれば気が付くでしょう。現在では分かりません。人それぞれで違うので分かりません。	女性	80～84歳
2	出来るだけ、自分らしく自宅で生活できれば幸せです。	女性	65～69歳
3	これから先、健康・生活面、色々不安はありますが今は健康第一で、なるべく皆様に御迷惑をかけない様な最後で有りたいと思っています。	女性	75～79歳
4	一人暮らしです。これから体がどうなるかととても心配。今は自分の体を大切に自分で出来ることを頑張っています。	女性	75～79歳
5	現在のところ健全な生活を営んでいますが、近い将来必ずやってくるという心配があります。早く自覚できればそれなりの対応もできるかと思えます。	男性	75～79歳
6	現在は、健康で体力もあると思っていますが、何かの病気の後の不安が常につき纏っています。	男性	65～69歳
7	現在何とか自立できているので、介護について勉強不足で十分理解できていません。今後理解を深めると同時に、できるだけ自分の力で生きていく事を目標にしてプラス志向で過ごしたいと思っています。	女性	75～79歳
8	このアンケートを書きながら、自分自身が市の介護の仕組みや行っている事の不勉強を感じています。様々な機会を捉えて自分で勉強したいと思えます。	男性	80～84歳

NO.	意見	性別	年代
9	私の場合ケアマネジャーさんと何かあるとすぐ話し合いが出来るので安心している。	女性	75～79歳
10	これから先のことがとても不安に思います。	女性	80～84歳
11	テレビ新聞などで介護施設で働いておられる方々のご苦労を見ると、もっともっと待遇をよくしてあげられないかと常々思っております。	女性	90～94歳
12	主人が、介護施設にショートステイとしてお世話になっていますが、私も病院へ通院していますので大変です。	女性	65～69歳
13	みなさんの一方ならずご配慮とご努力に感謝致します。よろしくお願い申し上げます。	男性	85～89歳

2 自由意見 要介護認定者 65歳以上

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 28件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	自宅で、というには限界がある。	女性	75～79歳
2	介護する家族のサポート、負担軽減などに力を入れてもらいたいです。周りがとても大変で辛いです。	女性	65～69歳
3	親に代わり書きました。私自身（長女）が身体障害1級普通の人みたいには介護ができません。そんな時はどうすればいいか！！	女性	85～89歳
4	介護保険制度を利用中。担当者会議の方法を考えてほしい。必要かとも思うが。	男性	75～79歳
5	介護保険制度は大変有り難いものではありませんが、当初の目的から利用者にとっては利用したくても利用できない、又はしにくいものに後退していつているように感じます。住み慣れた家で地域でと分かっている、家族の精神的負担は大変大きなものです。家族も毎日葛藤の日々です。当事者・介護者の声で制度がより良い方向へ進むことを願います。	女性	65～69歳

・介護保険料、医療費など経済的負担について 34件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険料が高すぎる。年金生活で苦しい。70才以上は無料にするべきだ。保険料、医療費、無料にするべきです。	男性	80～84歳
2	介護保険、介護施設の利用をもっと安く。	男性	65～69歳
3	少しの年金生活をしている人は、いろいろな施設が有っても利用したくても出来ない。どうすれば良いのでしょうか。	女性	75～79歳
4	自宅近くの介護施設の充実が望まれるところです。施設の利用料の個人負担分を軽減して欲しい。医療と連携している介護施設なら安心です。	女性	80～84歳
5	現在、有料老人ホームに入所中ですが、月間20万円の費用は重たいです。	女性	90～94歳
6	現在84才で足の関節が悪いので施設にて、車イスで生活をしています。月に20万近くかかっているのがお金が心配です。要介護4なので市の方からオムツなど支援していただき助かっています。	女性	80～84歳

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 84 件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	現在ある老人ホーム等は高額な個室型ばかりが増えていると思います。もっと安価な多床室型を作って、入りやすい施設が必要じゃないでしょうか？国民年金でも入れる様な施設を作って下さい。	男性	70～74歳
2	入所したいと思う施設の待ち日時が長すぎる。	女性	80～84歳
3	介護施設へ通所しており、毎日がメリハリがあり楽しい。ゲームも多くスタッフも優しいので行くのが毎朝待ち遠しい。	男性	65～69歳
4	将来家で介護出来なくなった時、低年金者でも安心して入れる特養があればと願っています。	男性	70～74歳
5	いつもお世話になっております。ボランティアが充実していたら助かります。若いスタッフが必要だと思います。	女性	75～79歳
6	二人で生活していても一週間に1度気楽に立寄れる場がその地域にあればもっと気分的に楽しくなれると思います。只々介護施設に行くかデイサービスばかりで、毎日張り合いが(手続がめんどろ)ない。気楽に立寄れる場所が欲しい。	女性	70～74歳
7	家族と住んでいてもそれぞれ忙しい時、認知症などの病気のある人に、ヘルパーがつくと家族も助かる。(娘(私)の負担が大きいので、ヘルパーつけて欲しいが同居していたら無理と言われたので。)	女性	65～69歳
8	今は介護3の認定で色々ケアマネジャーを通じてケアにも行き、訪問リハビリも使用させて頂いています。介護保険を利用し助かっています。今後も色々な場所が充実すればと思います。	男性	75～79歳
9	安易に介護施設に入るのではなくできるかぎり自宅で生活ができるよう小さい事(たとえば、風呂だけ、買物だけetc)を介護してもらえれば安心できると思います。介護老人が増え施設などが不足すると思いますが、既存の建物等利用を考えても良いと思います。	女性	65～69歳
10	月に1～2回位は、電話か訪問をして近況を調べてもらいたい。	女性	90～94歳
11	月に1回位自宅訪問して要介護支援して欲しいです。乗り物のタクシー券など増量して下さい。	女性	70～74歳
12	サービスの提供等、もっと分かりやすくして欲しい。とても、分かりづらい。	女性	70～74歳
13	紙オムツを市の方から支給させていただいていますが、いろんな種類の物も使い金額が重むため、もう少し紙オムツの支給を増してほしい。特養施設を増してほしい。	女性	85～89歳
14	紙おむつの給付は寝たきりの方しか給付がありませんが、今現在、要介護2の両親をかかえて毎日紙おむつがたくさんいります。今は寝たきりでないので給付がありません。寝たきりでなくても紙おむつは毎日たくさん必要です。何とかなればと思います。経済面でも負担が大きいです。	男性	80～84歳
15	送迎サービス等交通手段の充実。	女性	70～74歳
16	介護保険によるリハビリ専門施設の充実をST・PTの増員を希望。	男性	75～79歳

NO.	意見	性別	年代
17	物品の提供は、少ない方がよいと思う。なぜなら多く必要としない人もいますからです。自分で必要なだけ用意するのがいいと思います。大変お世話になっています。ありがとうございます。	女性	80～84歳
18	もう少し介護サービスさんの質の向上を。お金を出しているのです。	女性	70～74歳
19	地域包括支援センターの充実を熱望する。	男性	85～89歳

・介護予防について 3件

NO.	意見	性別	年代
1	超高齢化社会になっているので、地域全体で高齢者を見守る仕組みが充実すれば良いと思います。(理想ですが)	女性	80～84歳
2	1人1人が健康に気をつけて生活する事。	女性	75～79歳
3	高齢者が増えてくるので、介護保険料が高くなり不満が出ているが、皆が助けあっていかなければならないので、負担は必要である。また、高齢者も自分自身の健康を管理することで、負担をかけない努力も必要であると思います。	女性	65～69歳

・アンケートについて 18件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	認知症が始まりかけている母に、この量のアンケートを記入させるのは大変でした。その対策を！	女性	85～89歳
2	この様なアンケートは要介護者本人からの回答よりも、その家族向けに質問、回答するほうが良いと思います。	女性	80～84歳
3	アンケート記入は大変でした。それ以上に、これをまとめ福祉に関わる皆さんは大変な仕事と思いますが、よろしくお願いします。	女性	70～74歳
4	この様なアンケートをとってサービスの向上を図ろうとするのは有り難いと思いますが、本人以外が回答する場合を想定しているなら除外していい質問が多くあったように思います。インターネット等も選択できるようにしたらどうですか？かなり面倒でした。	女性	75～79歳

・行政への要望・意見について 50件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	外食とか病院(歯科も含む)へ行った時にバリアフリーになっている所がまだまだ少ない。車イスでは手伝ってもらわなければ入れない。	男性	75～79歳
2	介護保険課等市へは問い合わせをすればその質問だけには答えてくれるが、もっといいサービスがあるとか、このような制度を利用していますか？な	女性	70～74歳

NO.	意見	性別	年代
	どというアドバイスは全くしてくれない。知らず知らずに損している気がする。		
3	①1つの町に1ヶ所くらい施設を充実して欲しい。②運動、散歩など出来る様、人員を確保して欲しい。③気軽に集れる所が欲しい。	男性	80～84歳
4	申請や更新手続きが大変で負担になっている。マイナンバー制度利用や地域包括支援センターの専門員の家庭訪問などで、診断書の代替をするなど諸手続きの簡略化をお願いしたい。	女性	65～69歳
5	高齢者夫婦で外出が出来なくて困っています。車で外出する事が恐くて外部と話し合う事が出来たらと思っています。	男性	75～79歳
6	老人が自由に集える所があれば良い。そしてそこまでの交通手段が充分している事。	男性	95～99歳
7	介護認定の申請者には1カ月に1回位訪問して様子を聞いて欲しい。	男性	70～74歳
8	自分の最期は自宅だと思っている高齢者が多いと思います。住みなれた自宅での介護をバックアップできる体制作りが大切だと思います。私個人の考えですが老人ホームや保健施設などお金を払った現代のお婆捨て山だと思います。人間の心のこもったシステム作りをお願いします。	女性	65～69歳
9	高松市も福祉が進み大変でしょうが次々と計画され、私大変よろこんでいます。ありがとうございます。	女性	75～79歳

・その他 62 件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	一人暮らしで毎日が不安の連続です。まわりの人達の親切と優しさに助けられて感謝あるのみです。	不明	85～89歳
2	高齢者にやさしく温かい気持で見守って欲しいです。	男性	65～69歳
3	心配事や、精神的に相談にのってもらいたい。	男性	80～84歳
4	高齢になり病気ばかりで年金もなく不安な生活を送っています。不安な毎日です。安心して過せる様な社会を望んでいます。	男性	70～74歳
5	私も少しずつ体力が減退していくので、最後まで自力で日常生活が営まれるよう現状維持に努めたく思っています。	不明	75～79歳
6	制度のことがあまり分からず理解することが難しいです。ケアマネジャーさんや、いろんな方々に助けられています、これから先のことは不安です。	男性	70～74歳
7	よくしてもらっているのだからこれ以上の事はないです 子供にこの分を回してほしい 子供の未来の為に。	男性	70～74歳
8	主人が介護のお世話になるようになり、こんなこととして下さるんだ、あんなこともした下さるのだと云う、驚きばかりです。本当にありがとうございます。良い時代に生かされて感謝感謝でございます。	女性	70～74歳

3 自由意見 一般市民 40歳～65歳未満

最後に、介護保険制度や本市の高齢者保健福祉施策に対するご意見やご要望など、何かございましたら自由にご記入ください。

・介護保険制度について 7件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	介護保険制度を何も知らないので解りたい。高齢者保健福祉施策についても何も知らないので解りたいと思います。どの様にすれば良いのでしょうか？	女性	60～64歳
2	正直言って介護保険制度をよく知らず、勉強不足で解答Qはつきり分らないままになってしまい申し訳ないです。お年寄り高齢者との係わり少ないため関心が薄いので、介護保険や事業等を勉強できる集いがあれば嬉しいです。	女性	55～59歳
3	まだまだ先の事と思っていたが今回のアンケートを見ていると身近に感じた。介護保険制度や市のホームページなども今後はチェックしていきたい。	男性	45～49歳
4	介護認定度が本人に合っていないのでは・・・と思う事が多々あります。低すぎたり、高すぎたり。ずっと一緒にいるわけではないので、その時を見て認定するので、難しい面があるのはわかりますが・・・。	女性	不明

・介護保険保険料、医療費など経済的負担について 6件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	65才以上の方の介護保険料が、扶養に入っていたらその人の収入で決まるので支払いが苦しい時がある。その人に収入がない人は一定の金額がよい。	女性	40～44歳
2	介護施設を利用するにあたり、収入は年金だけの為経済的に苦しくなり利用が難しいと思う。月額が3～4万円位で利用できる様になれば有り難い。	男性	60～64歳
3	介護を必要としている方、介護で大変な毎日を送っている方に出来る限りのケアをしてあげるのは理想ですが、それにかかる費用が介護保険料に上乗せになり、どんどん高額になるのは大変不安である。	女性	60～64歳

・介護保険サービス・在宅福祉サービスについて 25件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	祖父が亡くなる際に病院からは出なければならず、介護施設も満床でとても困りました。高齢者が病気になっても、安心して毎日を過ごせる施設の充実をお願いしたいです。	女性	40～44歳
2	特別養護老人ホームの充実。待機されている方が少なくなるようにして欲しい。	女性	40～44歳
3	車を運転できなくなると外出の機会が激減してしてしまう。公共交通機関を充実してもらえると助かる。	男性	40～44歳
4	家族を自宅で介護しましたが、初めの1、2年は紙おむつの給付を知らず近所の方から教えてもらいました。市民税納付の封書等1年に1回でも必ず来るお知らせの中に、介護中に受けられる制度のまとめの紙が入っていたら良いなと思いました。	女性	不明
5	情報開示の場が少ない。特養も少ないし、入所する費用も高すぎる。金持ちしか質の良いケアが受けられないと思う。福祉活動にもっと積極的に行政が取り組むべきかと思う。	男性	40～44歳
6	福祉サービスなど今後お世話になる可能性は多いにあるが金銭面での不安が多く、将来が不安である。介護をしている友人も多いが職員の質の低下や不満等の声も聞く。充実した老後は送れないと思う。	女性	40～44歳
7	軽度介護者のサービス切り捨ては絶対に起こさせてはいけないと思います。混合介護は、貧困の格差が生きる権利を否定する施策だと思うので、絶対に高松市は導入しないで下さい。	女性	45～49歳

・介護予防について 3件

NO.	意見	性別	年代
1	介護が必要になる前の防止していく取組みに力が必要ではないかと思えます。習いごと、趣味的な教室、感心が持てるサークル等の会合の場（仲間に入り安い）に馴染みやすい場があれば良いのではないかと思います。	男性	60～64歳
2	40代50代を健康に過ごすことにより60代以降の状態が決まります。40代50代の禁煙、肥満防止、運動不足対策が大変重要と思えます。	女性	50～54歳
3	市が実施する介護予防の講座では、より深い内容について教えていただきたい。父を介護しながら具体的で深い知識があればと思う事が多くあった。	不明	不明

・アンケートについて 2件

NO.	意見	性別	年代
1	ご苦労様です。介護、福祉のサービス向上の為のアンケートだと思いますが、質問の内容が漠然すぎてよく分からない所がありました。出来るだけ真摯に回答したつもりですが、もう少し分かりやすく質問内容を明記していただけたら良かったです。	女性	55～59歳
2	質問の項目が多すぎるので、もう少しポイントを絞った分かりやすいアンケートの方が良いと思います。	不明	不明

・行政への要望・意見 10件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	高齢化・人口減少の問題は深刻で、市の経済や若者の希望にも暗い影響を与えていくと思うので、優秀な行政の方々が、未来の高松市のために知恵と労力を使われるよう願っています。	女性	40～44歳
2	ますます高齢者が増えると思いますが、手厚い行政の助けがあることを願います。税金の徴収と同じくらいきっちり。	女性	60～64歳
3	高松市は周辺部に行く程人口密度が低下し、その分高齢者に対する施策実施のための行政コストがかかってくると思う。もっと街中を促進するなどの施策も取り入れ、効率的なコスト配分をして欲しい。	男性	55～59歳
4	どこで最期をむかえとしても高齢者にとってまた家族にとって、経済的支援は必要不可欠であると思います。高齢者にとって安心して生活できる市政を行なって頂けたらと思います。	男性	45～49歳

・その他 44件（以下抜粋）

NO.	意見	性別	年代
1	介護をしていないので、その時が来るまで分からない。想像できないのが本音です。	女性	55～59歳
2	年齢が歳であることや実家から離れて暮らしていることもあり、実感として高齢化問題を把握できていない。実際どのようなシステムになっているかを教えて欲しい。	男性	50～54歳
3	まだあまり考えた事がありません。でも健康で将来子供達に負担のかからないよう、今から自分達の健康に繋がる努力をしていきたい。介護保険制度もよく知らないなので勉強します。高齢者とその家族が安心して生活できる社会である事を強く望みます。	女性	50～54歳
4	アンケートには記入しましたが、自分はまだ介護について係わる事がなく、分からない事が多かったです。身近でない人も関心を持てるように情報を提供してもらえたらと感じました。	女性	40～44歳

NO.	意見	性別	年代
5	将来世代に負担のみを残す施策は、削減すべき。	男性	55～59歳
6	地域の独り暮らしのお年寄りなど気になります。近所同士で、声を掛け合いやすいような何かの機会(マンション全員参加のイベントなど)があれば、知り合いやすいのと思っています。人と仲良くなることが、まず第一歩だと思います。	女性	40～44歳
7	昔に比べると施設や行政の仕組みは豊かになっていると思いますが、あまり地域と密着したくないと私は思っています。何でもかんでも地元ではなく、一人でも不安なく暮らせる高松になって欲しいと思います。	女性	50～54歳
8	お世話になりたくありませんが、福祉に就く方々の心のケアも大切かと思います。とにかく自分の健康は自分で！！です。これから笑って仲間入りです。宜しくお願い致します。	男性	60～64歳
9	私は50才代ですが将来年金での生活など考えるととても不安です。今からやるべき事を教えてもらってコツコツと努力していきたいと思いますが、何をどうしていけば良いのかも分かりません。	女性	50～54歳
10	誰がいつどうなるか分からないので孤立しないよう協力し合えたら、と思います。	女性	50～54歳
11	これから妊婦、出産、育児という世代にとっては、自分自身が高齢者になった時のことよりも、親が介護を必要とする状態になった時の事の方が気になる。ダブルケアが必要なときに一つの窓口で相談したり対応してもらえたりということが現在出来ているのか知りたい。	女性	40～44歳
12	介護をされる方の研修や教育の充実。仕事を始める前に研修などをして、月日が過ぎれば忘れてしまったり、良くないことをやってしまったりすること聞いたことがあります。定期的に注意事項を説明したり、道徳的な研修などをするといいのではないのでしょうか。	女性	45～49歳
13	どこの病院も混んでいるので、介護(車イス・寝たきりの人)している人が通院しやすいシステムを作ってほしい。介護はすることが多いので待ち時間の負担を減らして欲しい。	男性	40～44歳

Ⅵ 資料 判定結果

1 評価項目別の判定結果

・判定方法（1）～（7）まで

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
機能向上の運動器	問5	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問6	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問7	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問8	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
	問9	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」or 「2. やや不安である」
リスク転倒	問8	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
閉じこもり傾向	問10	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」or 「2. 週1回」
低栄養状態	問14	身長、体重	BMI<18.5
	問20	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔機能低下	問15	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問16	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問17	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
認知機能低下	問22	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ傾向	問53	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問54	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

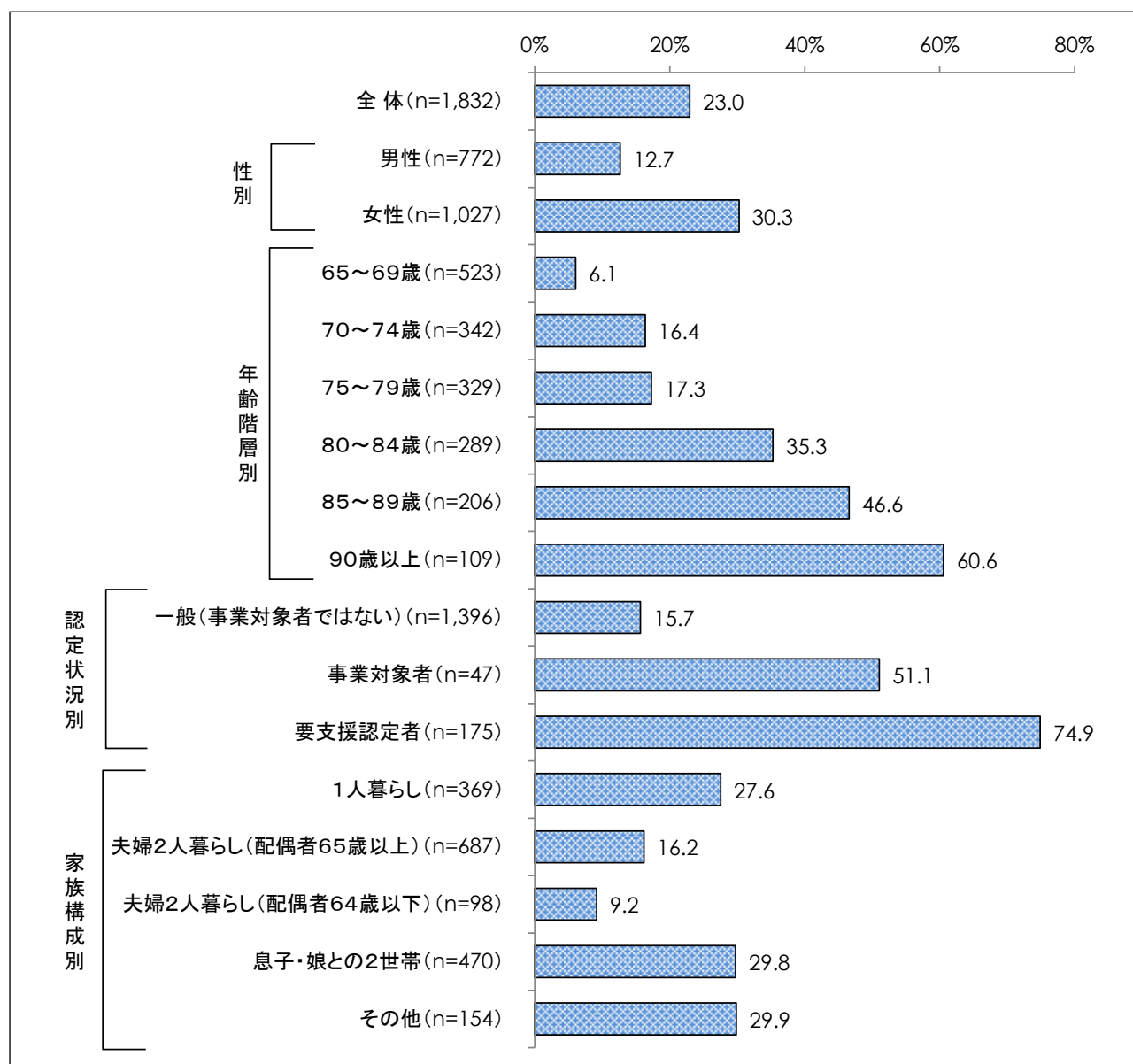
■判定方法……該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下…該当: 3点以上
- ②転倒リスク…リスクあり: 該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向…リスクあり: 該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態…該当: 2点
- ⑤口腔機能低下…該当: 2点以上
- ⑥認知機能の低下…該当: 該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向…リスクあり: 1点以上

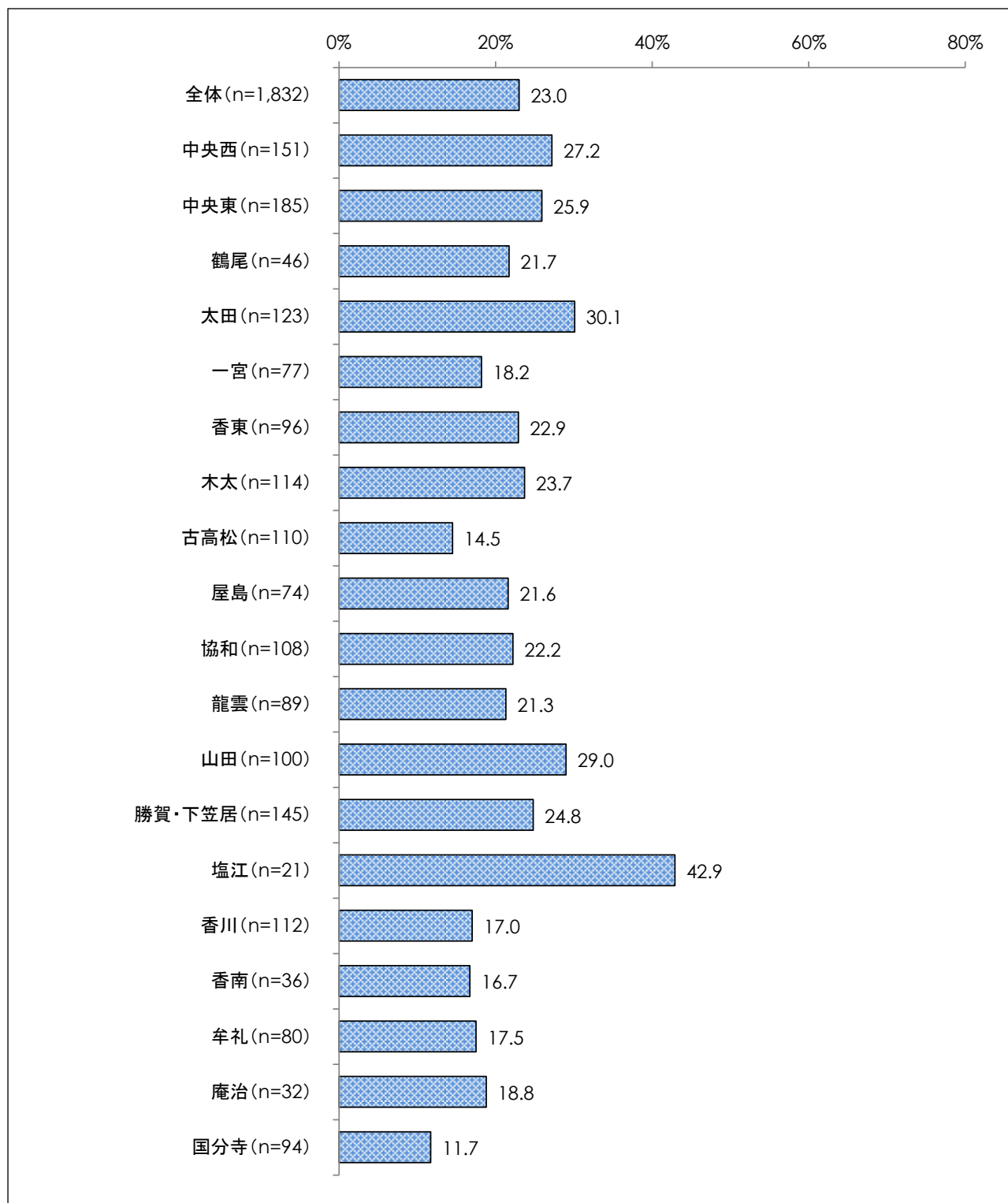
(1) 運動器の機能低下

- 運動器の機能低下のリスク該当者の割合は、全体では 23.0%となっています。
- 性別にみると、女性（30.3%）が男性（12.7%）を 17.6 ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、65～69歳では 6.1%と 1 割未満ですが、年齢が上がるにつれ該当者の割合が増加しており、90歳以上では 60.6%と 6 割を超えています。
- 認定状況別にみると、一般では 15.7%と低くなっていますが、要支援認定者では 74.9%と 7 割を超えています。
- 家族構成別にみると、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）が 9.2%と最も低くなっています。
- 圏域別にみると、塩江（42.9%）が最も高くなっています。

図表 229 運動器の機能の低下の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



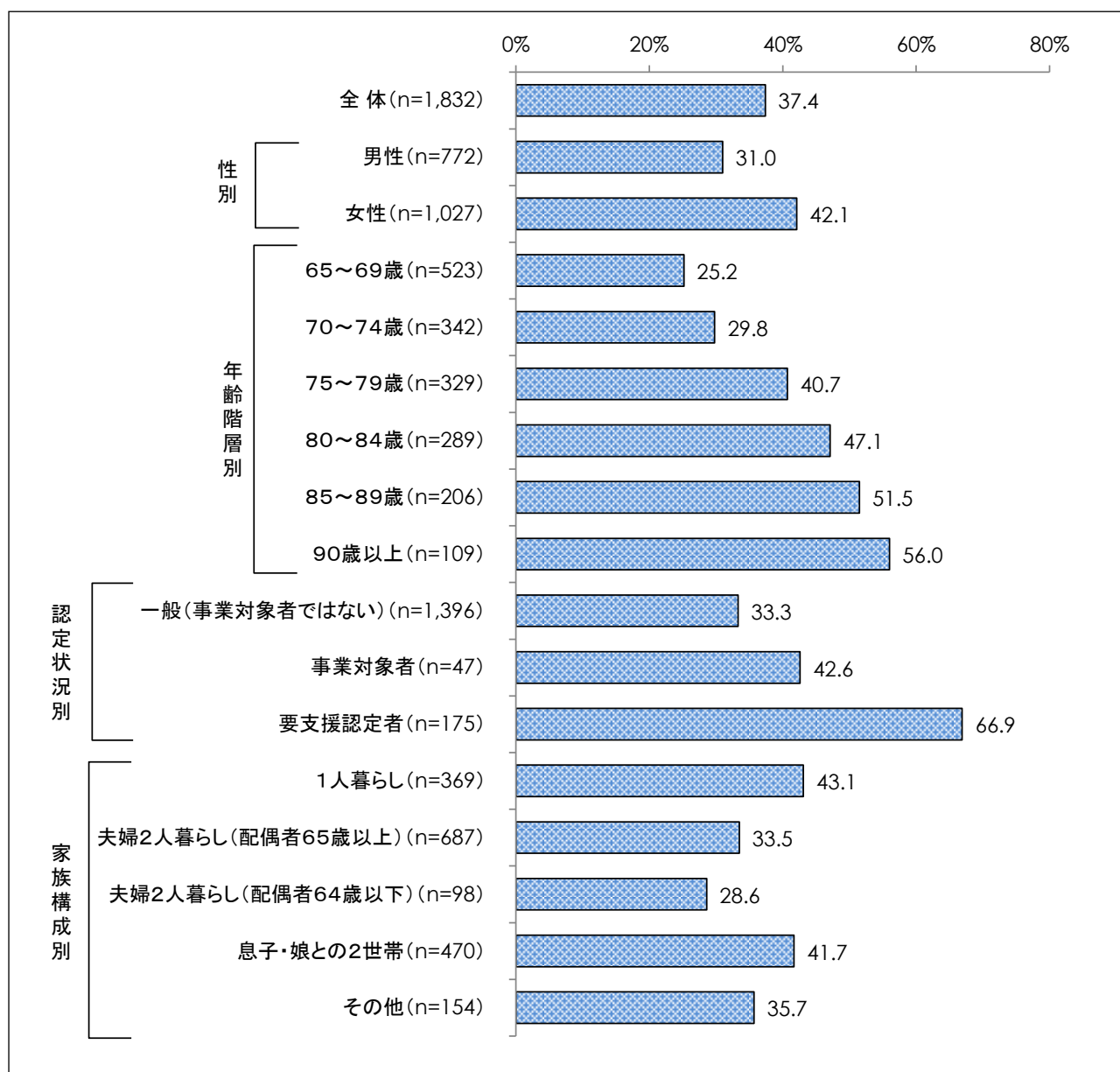
図表 230 運動器の機能の低下の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



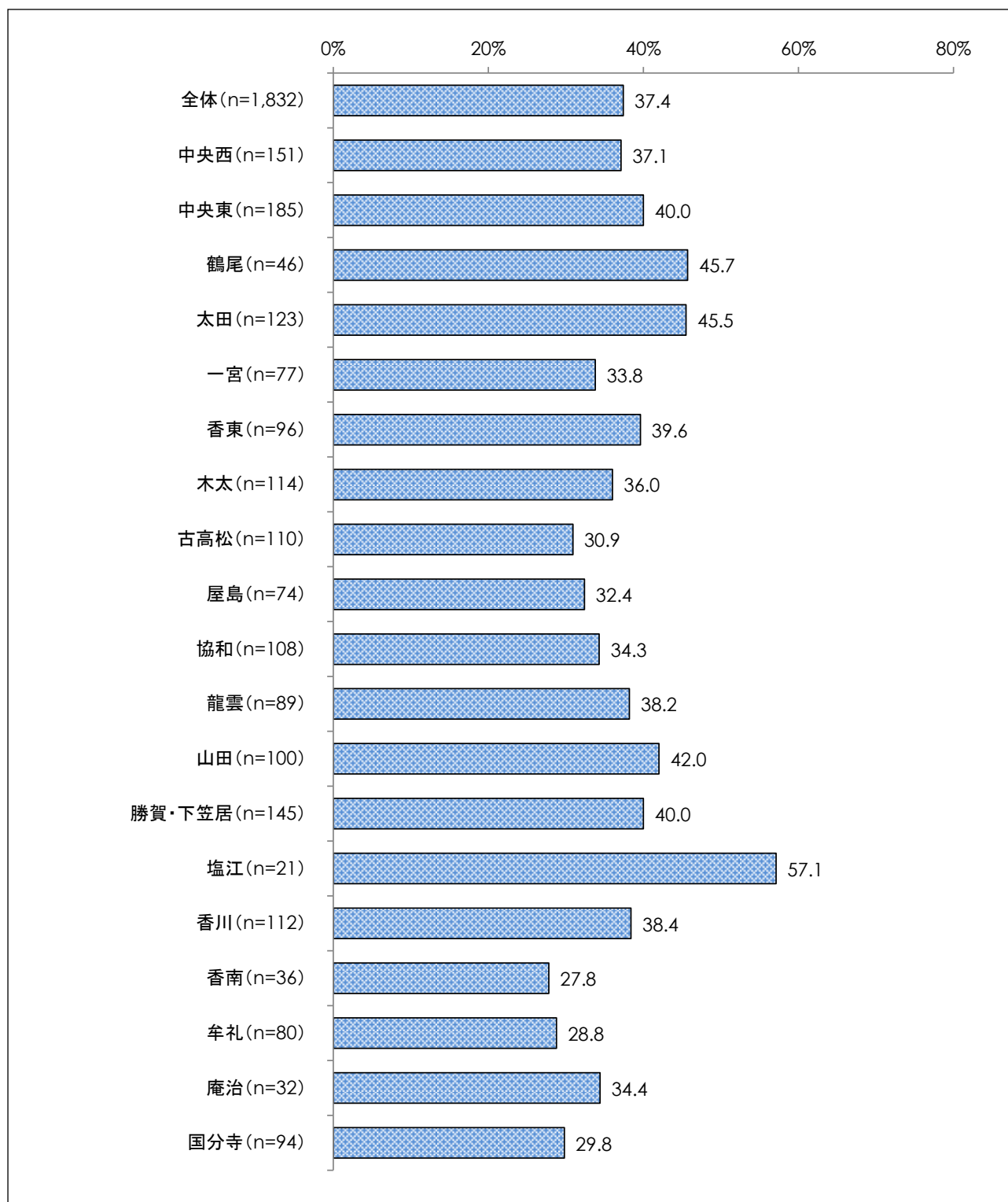
(2) 転倒リスク

- ・転倒のリスク該当者の割合は、全体では37.4%と3割を超えています。
- ・性別にみると、女性（42.1%）が男性（31.0%）を11.1ポイント上回っています。
- ・年齢階層別にみると、65～69歳で25.2%と2割を超えており、該当者の割合が高くなっています。また、年齢が上がるにつれ該当者の割合が増加しています。
- ・認定状況別にみると、一般の33.3%に対し、要支援認定者では66.9%と6割を超えています。
- ・家族構成別にみると、1人暮らしが43.1%と最も高くなっています。
- ・圏域別にみると、塩江が57.1%と最も高く、鶴尾（45.7%）、太田（45.5%）、山田（42.0%）でも4割を超えており、やや高くなっています。

図表 231 転倒リスクの該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



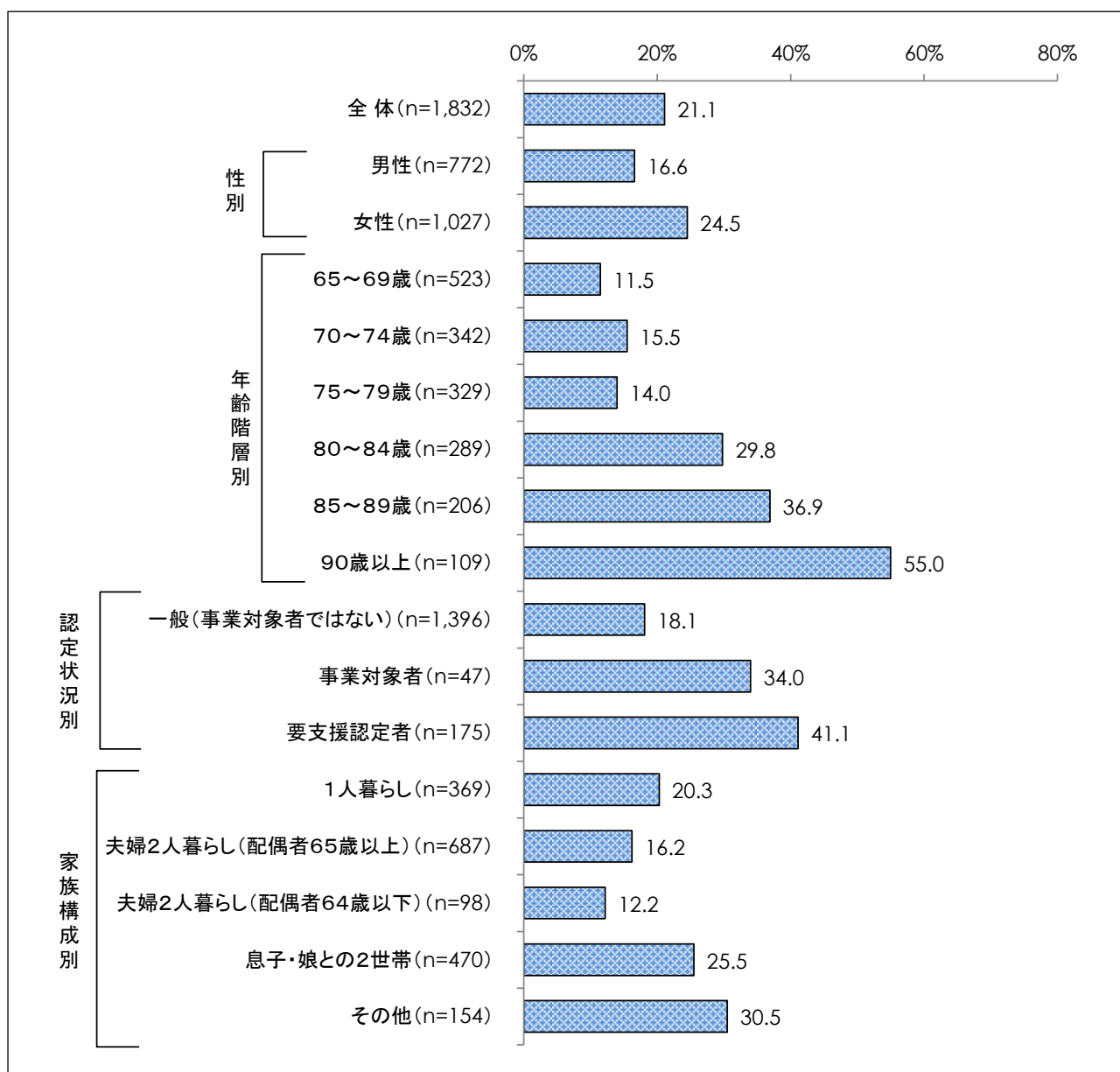
図表 232 転倒リスクの該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



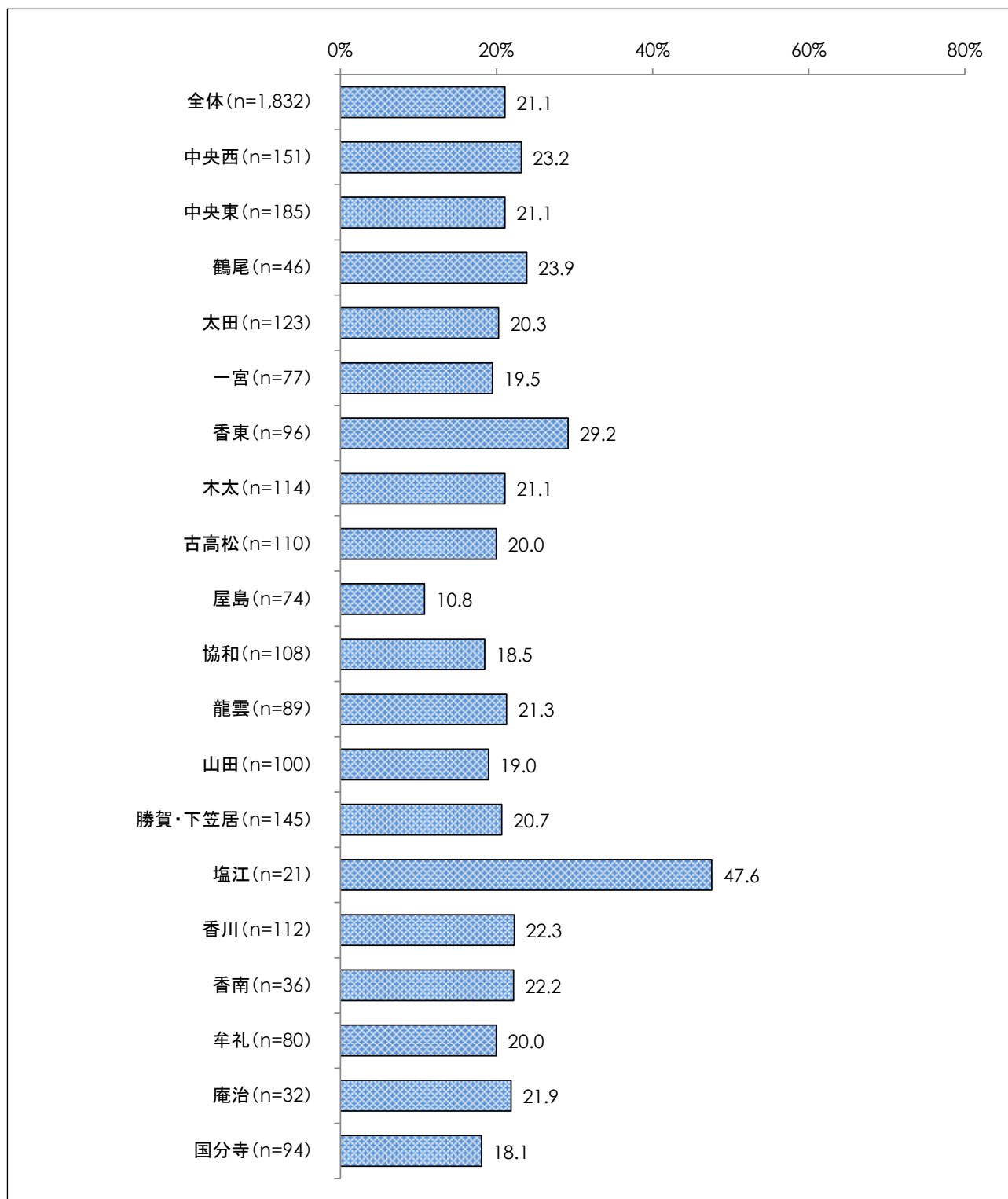
(3) 閉じこもり傾向

- ・閉じこもり傾向のリスク該当者の割合は、全体では21.1%となっています。
- ・性別にみると、女性（24.5%）が男性（16.6%）を7.9ポイント上回っています。
- ・年齢階層別にみると、90歳以上で55.0%となっており、半数以上の人が閉じこもり傾向にあります。
- ・認定状況別にみると、一般では18.1%と低くなっていますが、要支援認定者では41.1%と4割を超えています。
- ・家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が12.2%と最も低く、閉じこもり傾向にある人が少なくなっています。
- ・圏域別にみると、塩江（47.6%）が最も高く、屋島では10.8%と最も低くなっています。

図表 233 閉じこもり傾向の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



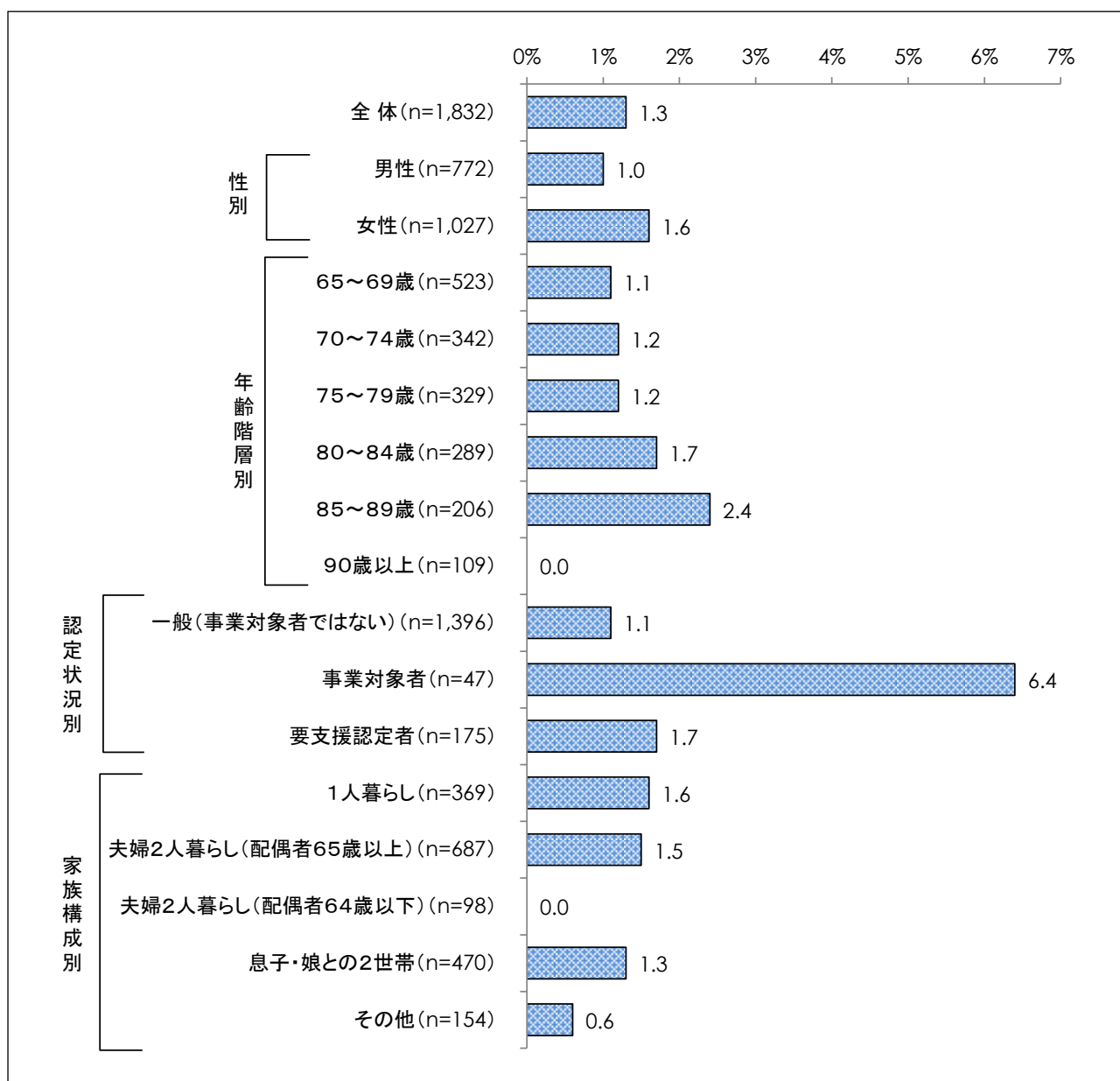
図表 234 閉じこもり傾向の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



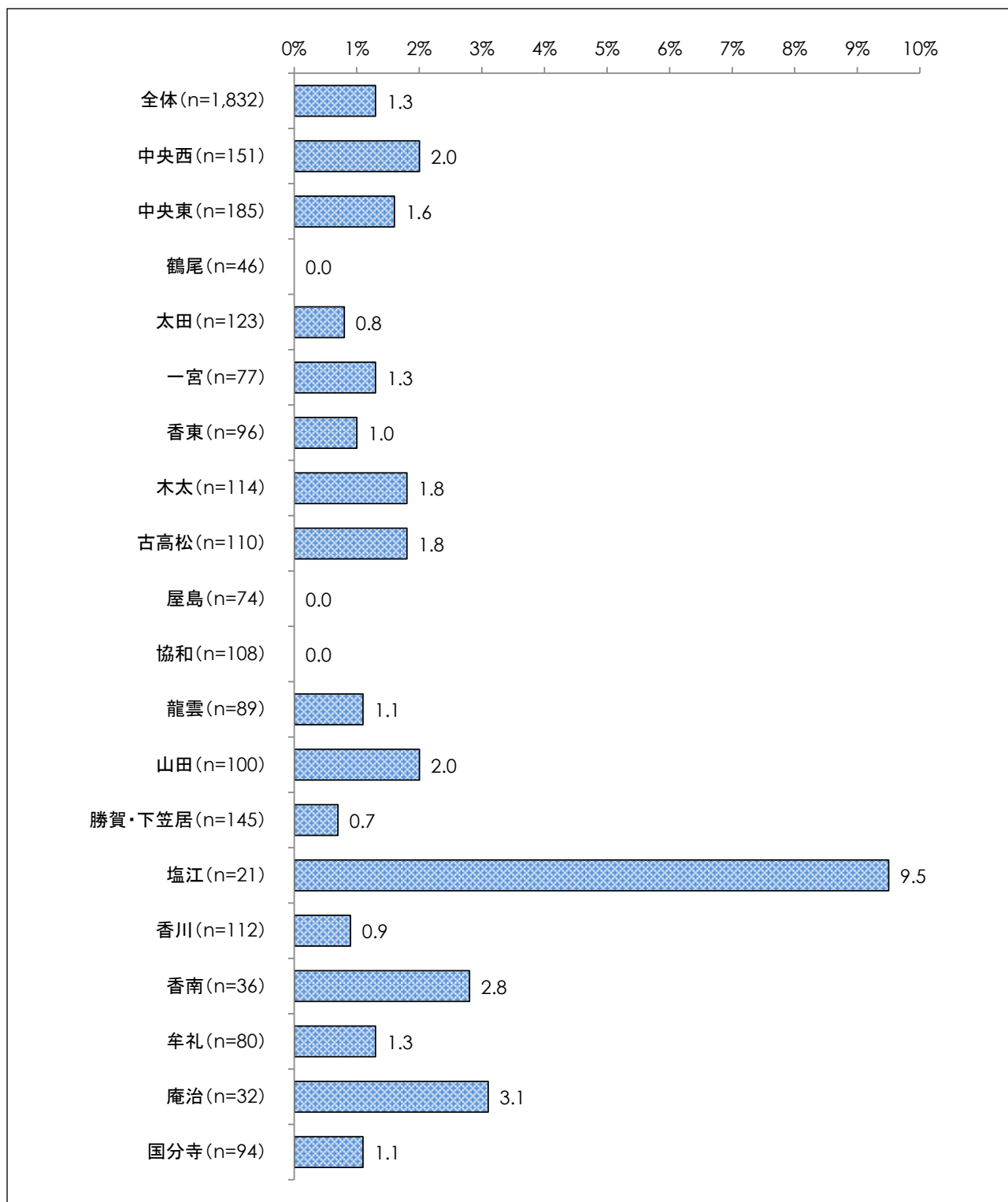
(4) 低栄養の傾向

- 低栄養のリスク該当者の割合は、全体では 1.3%とかなり低い割合となっています。
- 性別にみると、女性が 1.6%、男性が 1.0%とともに低くなっています。
- 年齢階層別にみると、85～89歳が 2.4%と最も高く、その割合は突出しています。
- 認定状況別にみると、事業対象者が 6.4%と他の区分に比べて高くなっています。
- 家族構成別にみると、1人暮らしで 1.6%と最も高くなっています。
- 圏域別にみると、塩江（9.5%）が他に比べて非常に高くなっています。

図表 235 低栄養の傾向の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



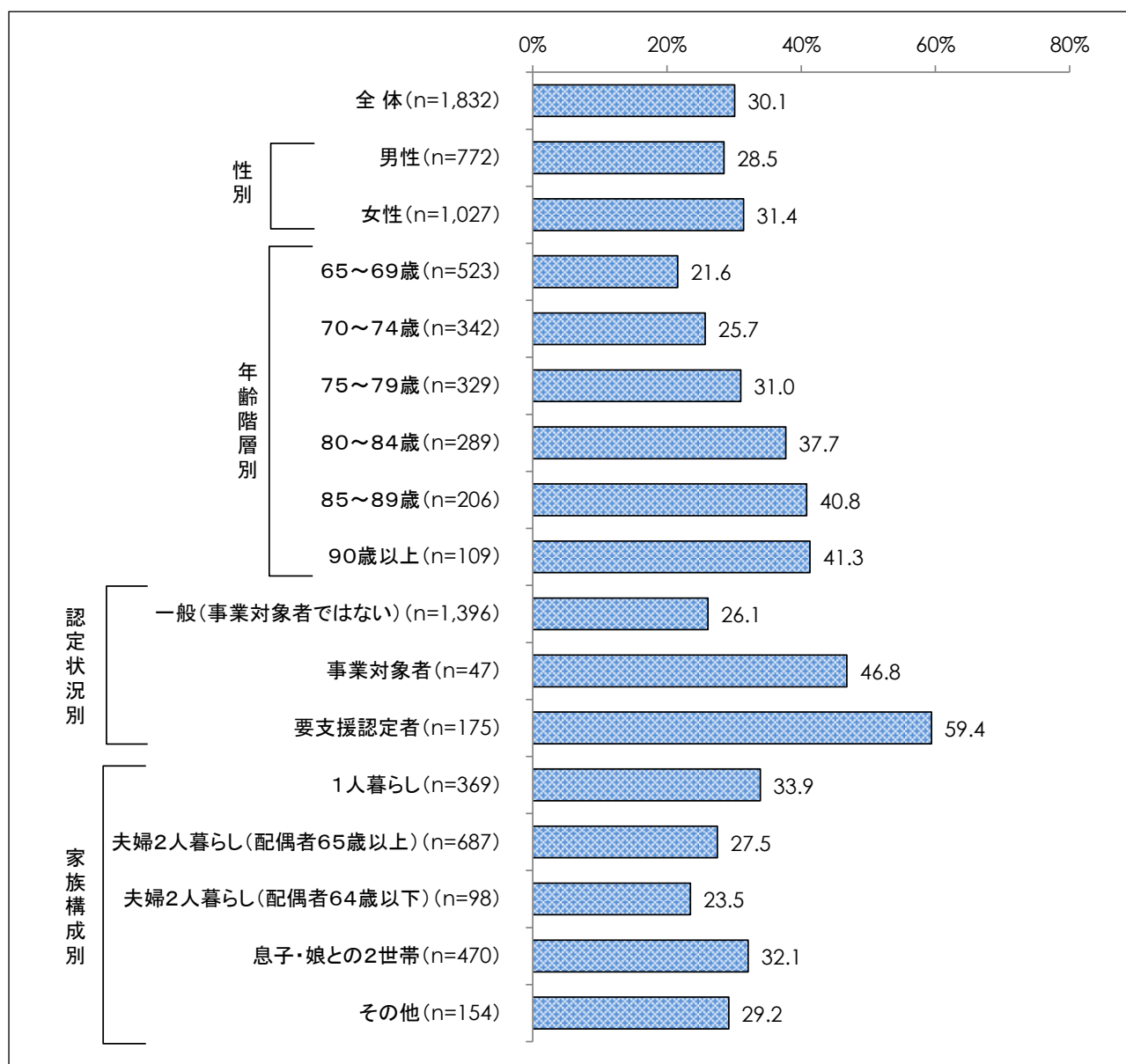
図表 236 低栄養の傾向の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



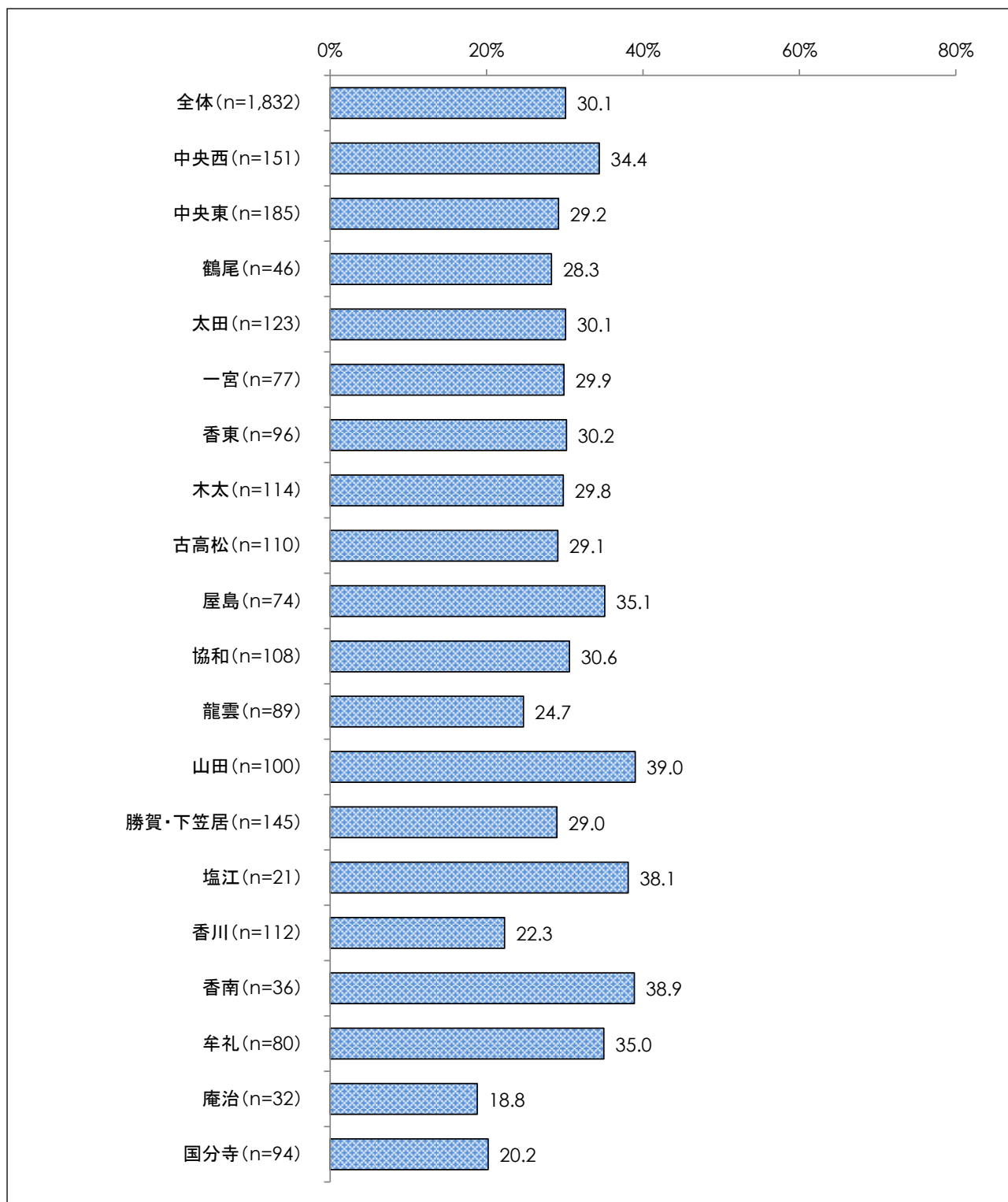
(5) 口腔機能の低下

- 口腔機能の低下のリスク該当者の割合は、全体では30.1%とやや高めとなっています。
- 性別にみると、女性（31.4%）が男性（28.5%）を2.9ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、年齢が上がるにつれ該当者の割合が増加し、85～89歳（40.8%）、90歳以上（41.3%）では4割を超えています。
- 認定状況別にみると、要支援認定者が59.4%と最も高くなっています。
- 家族構成別にみると、1人暮らしが33.9%と最も高くなっています。
- 圏域別にみると、山田（39.0%）、香南（38.9%）、塩江（38.1%）で他の圏域よりもやや高くなっています。

図表 237 口腔機能の低下の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



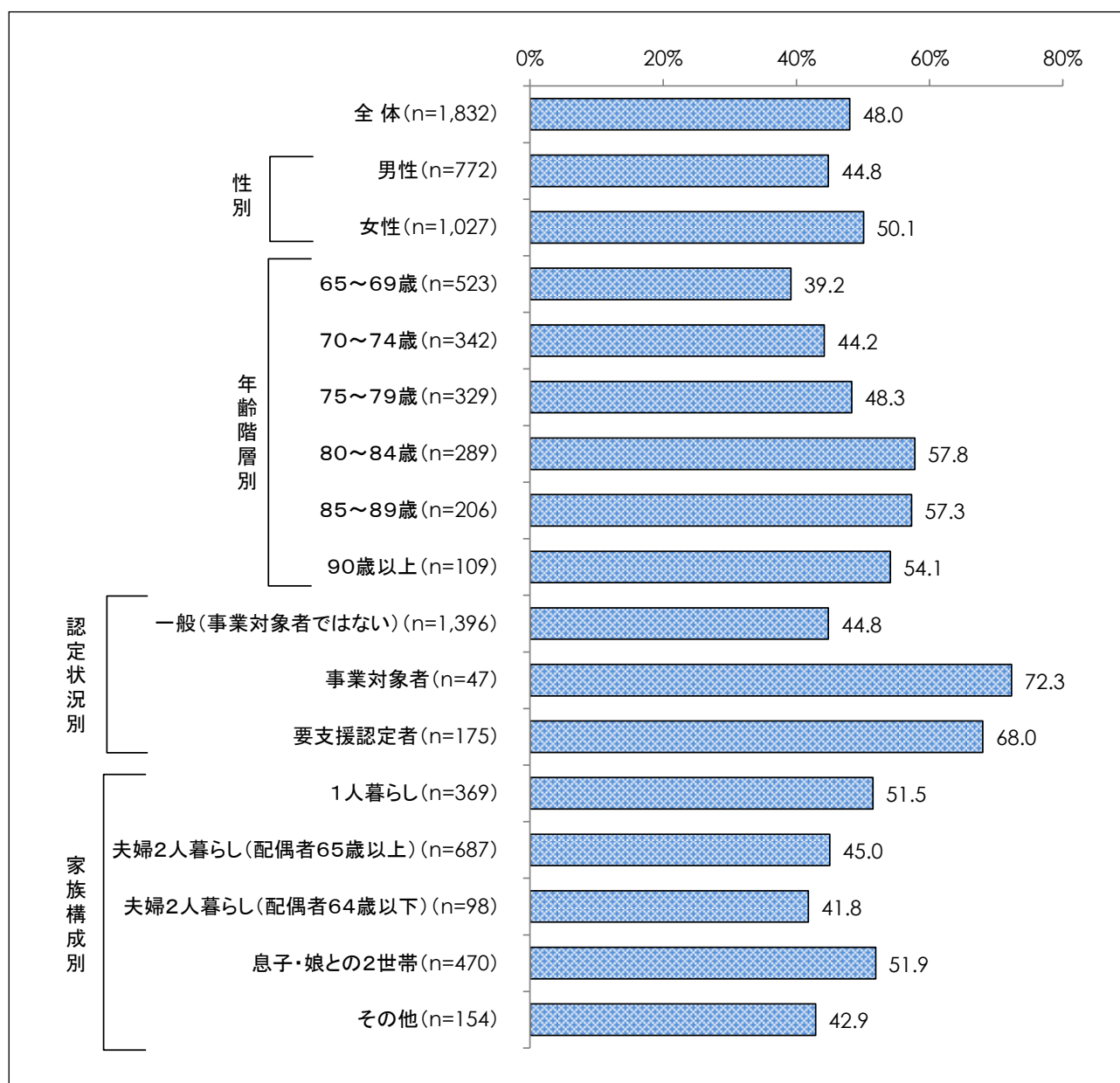
図表 238 口腔機能の低下の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



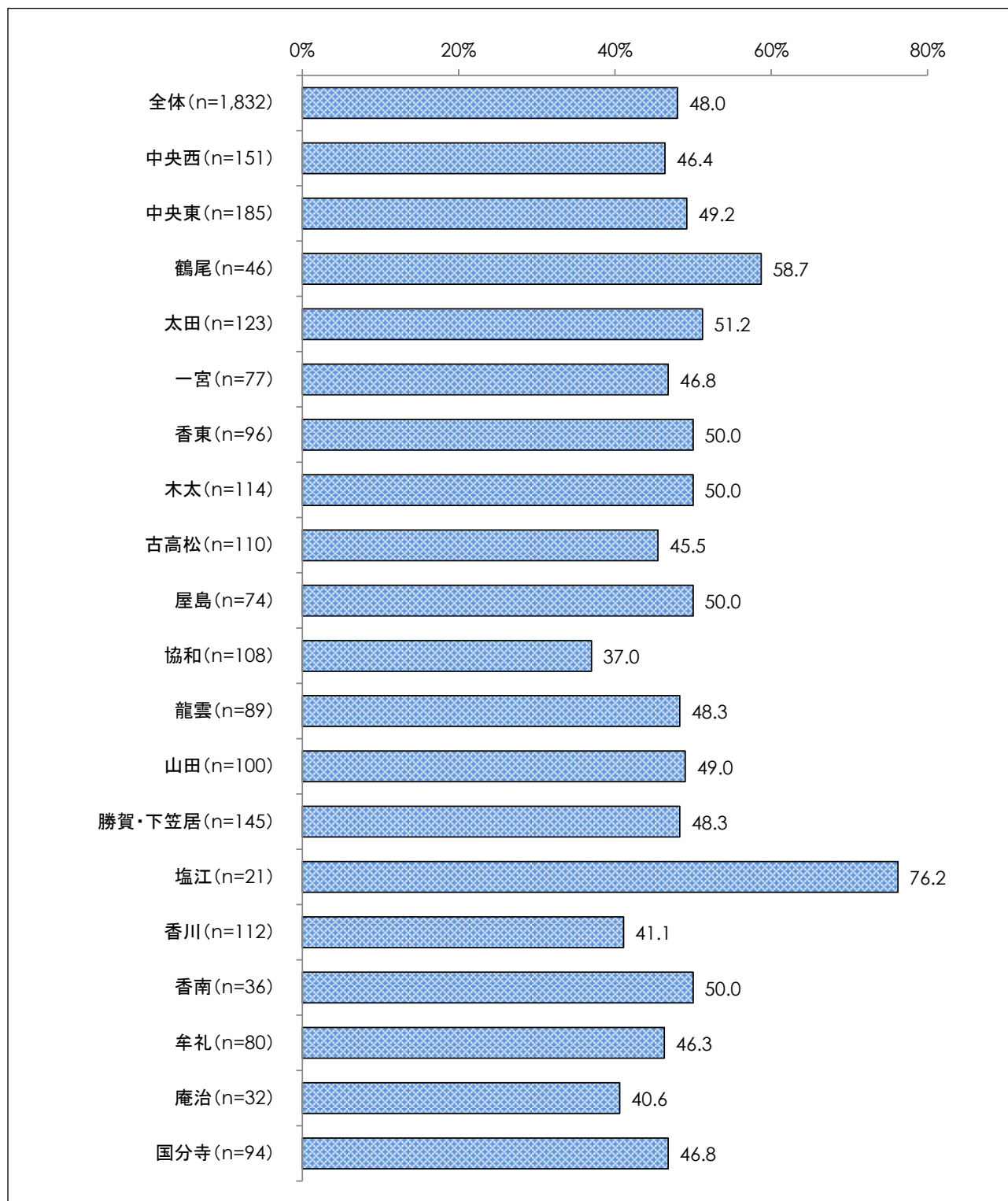
(6) 認知機能の低下

- ・認知機能の低下のリスク該当者の割合は、全体では48.0%とやや高め傾向にあります。
- ・性別にみると、女性（50.1%）が男性（44.8%）を5.3ポイント上回っています。
- ・年齢階層別にみると、80歳以上89歳以下の年齢層では5割を超えています。
- ・認定状況別にみると、事業対象者が72.3%と高い割合となっています。
- ・家族構成別にみると、息子・娘との2世帯（51.9%）、1人暮らし（51.5%）では5割を超えています。
- ・圏域別にみると、塩江が76.2%と7割を超えており、他の圏域に比べてかなり高くなっています。
- また、協和では37.0%と最も低くなっています。

図表 239 認知機能の低下の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



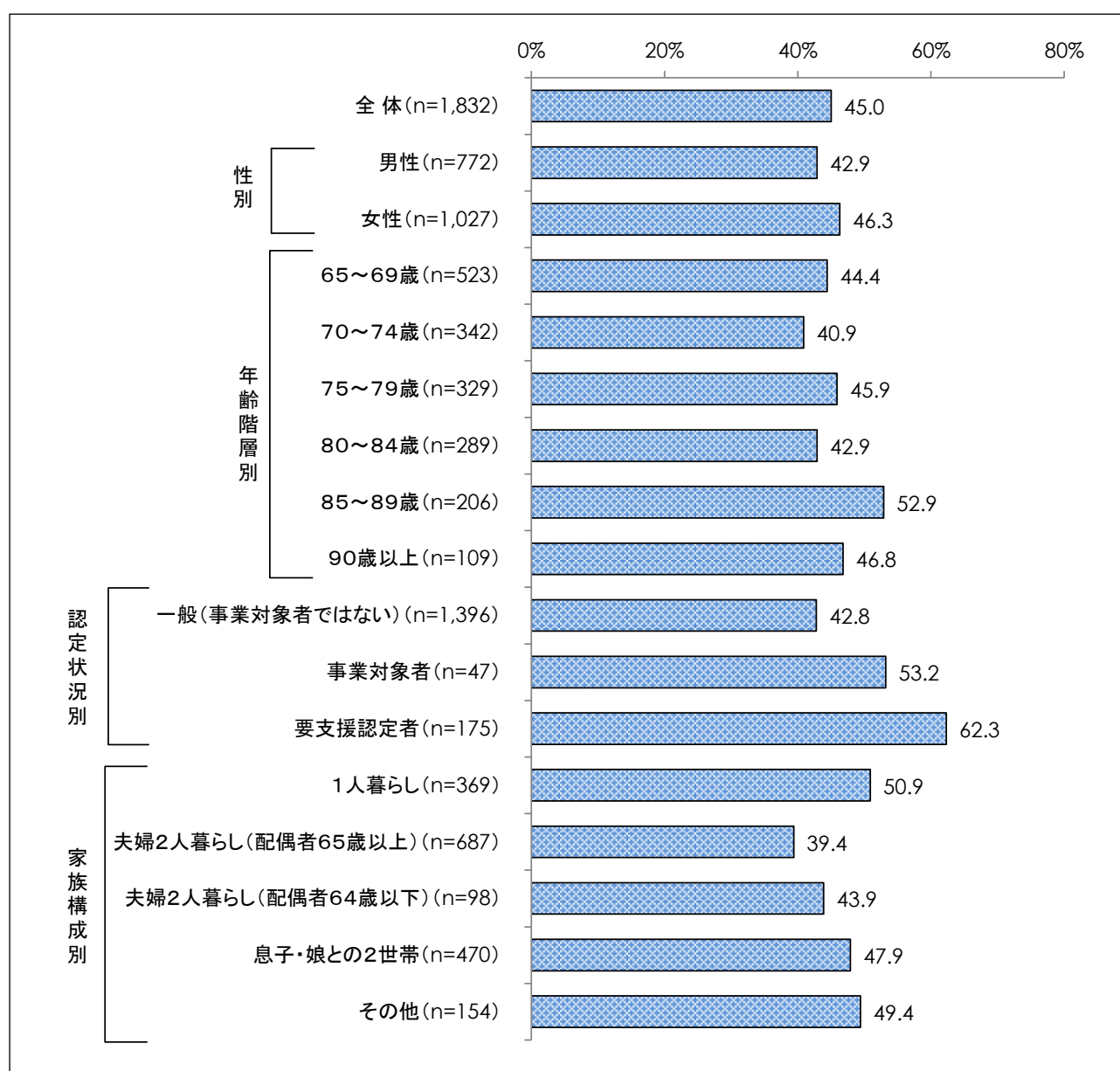
図表 240 認知機能の低下の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



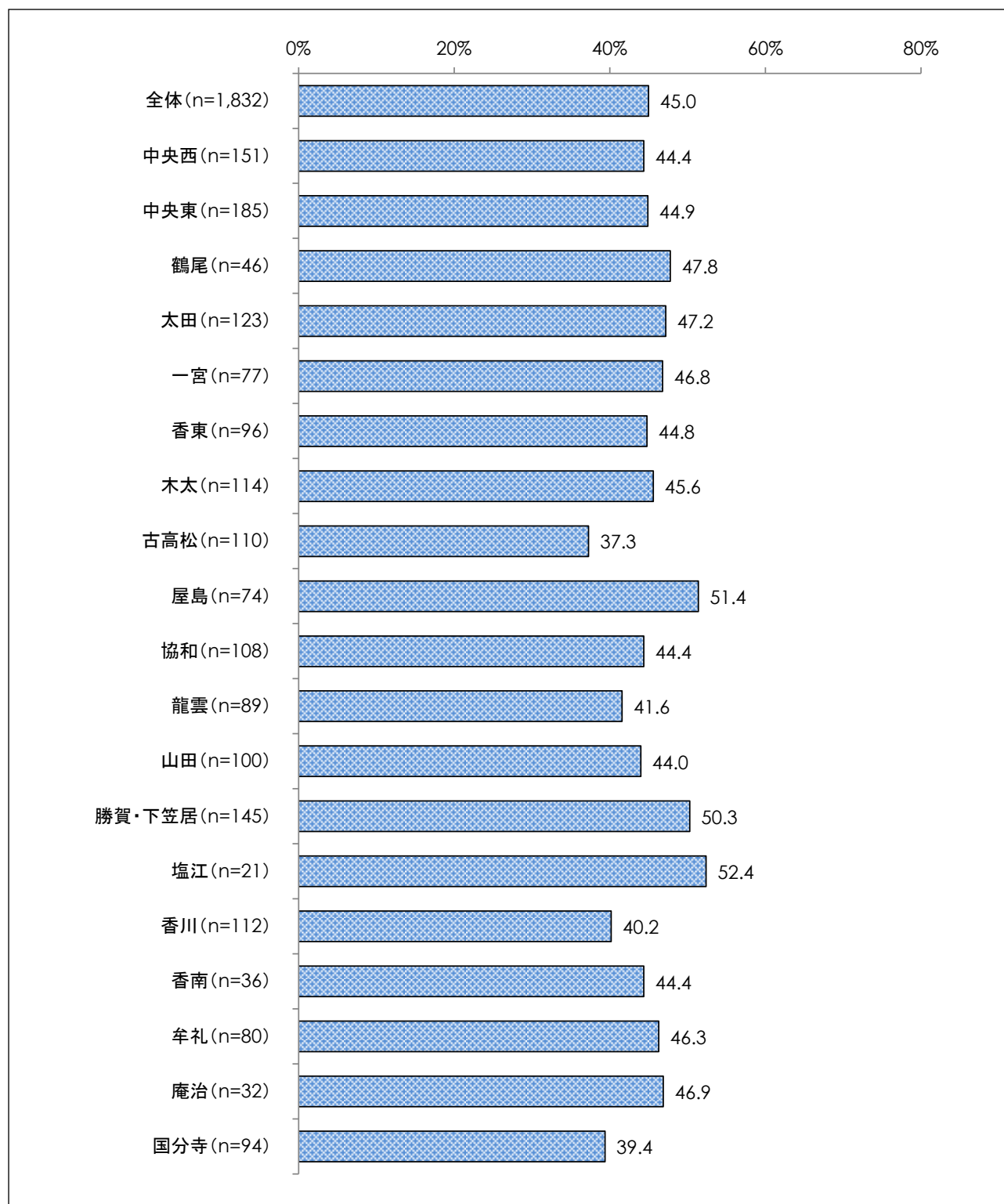
(7) うつ傾向

- うつ傾向のリスク該当者の割合は、全体では 45.0%と 4 割を超えています。
- 性別にみると、女性（46.3%）が男性（42.9%）を 3.4 ポイント上回っています。
- 年齢階層別にみると、85～89 歳（52.9%）で最も高く、5 割を超えています。
- 認定状況別にみると、要支援認定者が 62.3%と 6 割を超えています。
- 家族構成別にみると、1 人暮らしが 50.9%と最も高くなっています。
- 圏域別にみると、塩江（52.4%）、屋島（51.4%）、勝賀・下笠居（50.3%）では 5 割を超えていますが、古高松（37.3%）、国分寺（39.4%）では 4 割未満とやや低くなっています。

図表 241 うつ傾向の該当者の割合（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



図表 242 うつ傾向の該当者の割合（全体、日常生活圏域別）



・判定方法(8)～(10)まで老研式活動能力指標

①IADL(老研指標)

設問		選択肢
問25	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
問26	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問27	自分で食事の用意をしていますか	
問28	自分で請求書の支払いをしていますか	
問29	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

○5点: 高い

○4点: やや低い

○0～3点: 低い

②社会参加

・知的能動性(老研指標)

設問		選択肢
問30	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」: 1点
問31	新聞を読んでいますか	
問32	本や雑誌を読んでいますか	
問33	健康についての記事や番組に関心がありますか	

○4点: 高い

○3点: やや低い

○0～2点: 低い

・社会的役割(老研指標)

設問		選択肢
問34	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」: 1点
問35	家族や友人の相談にのっていますか	
問36	病人を見舞うことができますか	
問37	若い人に自分から話しかけることがありますか	

○4点: 高い

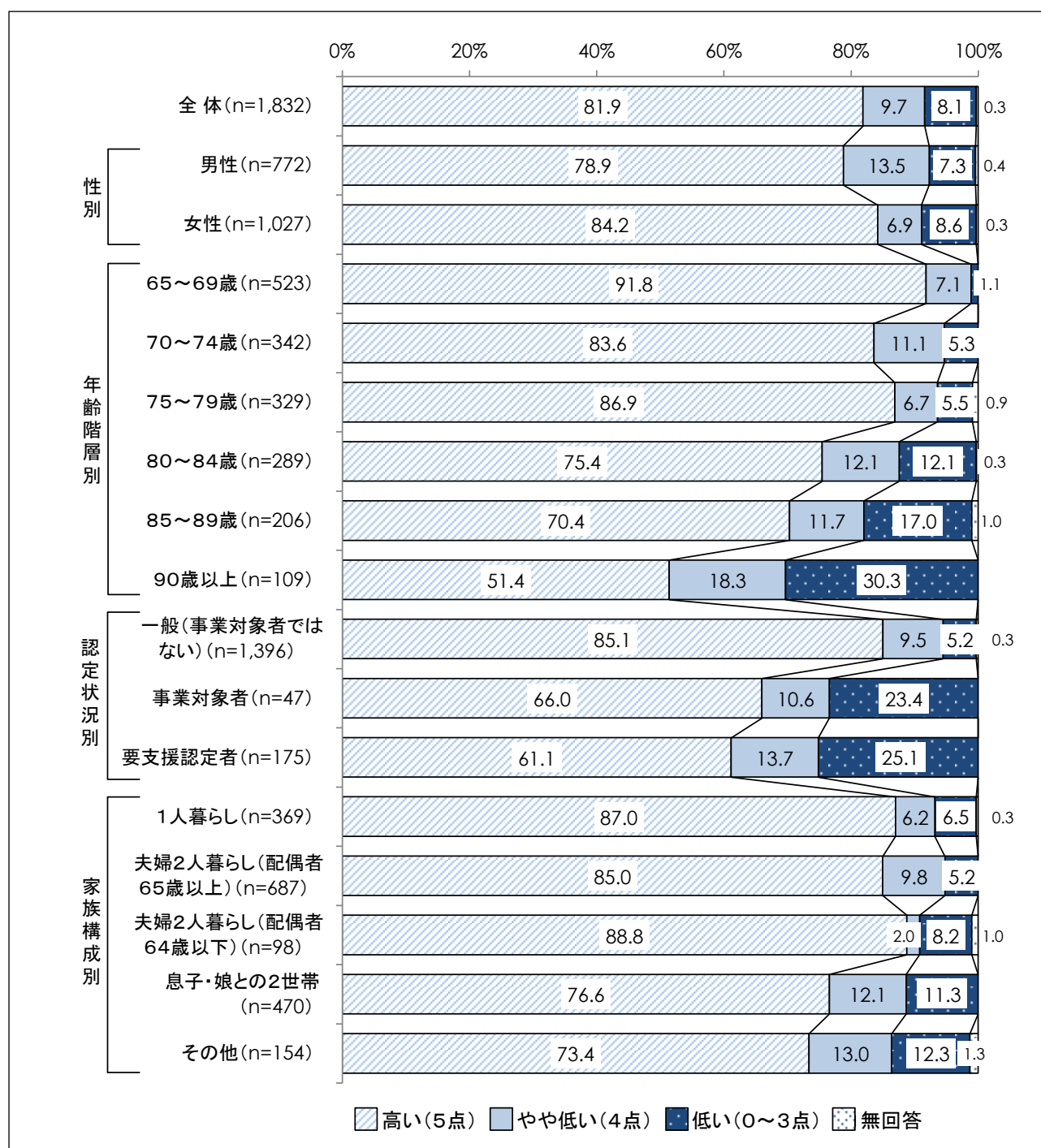
○3点: やや低い

○0～2点: 低い

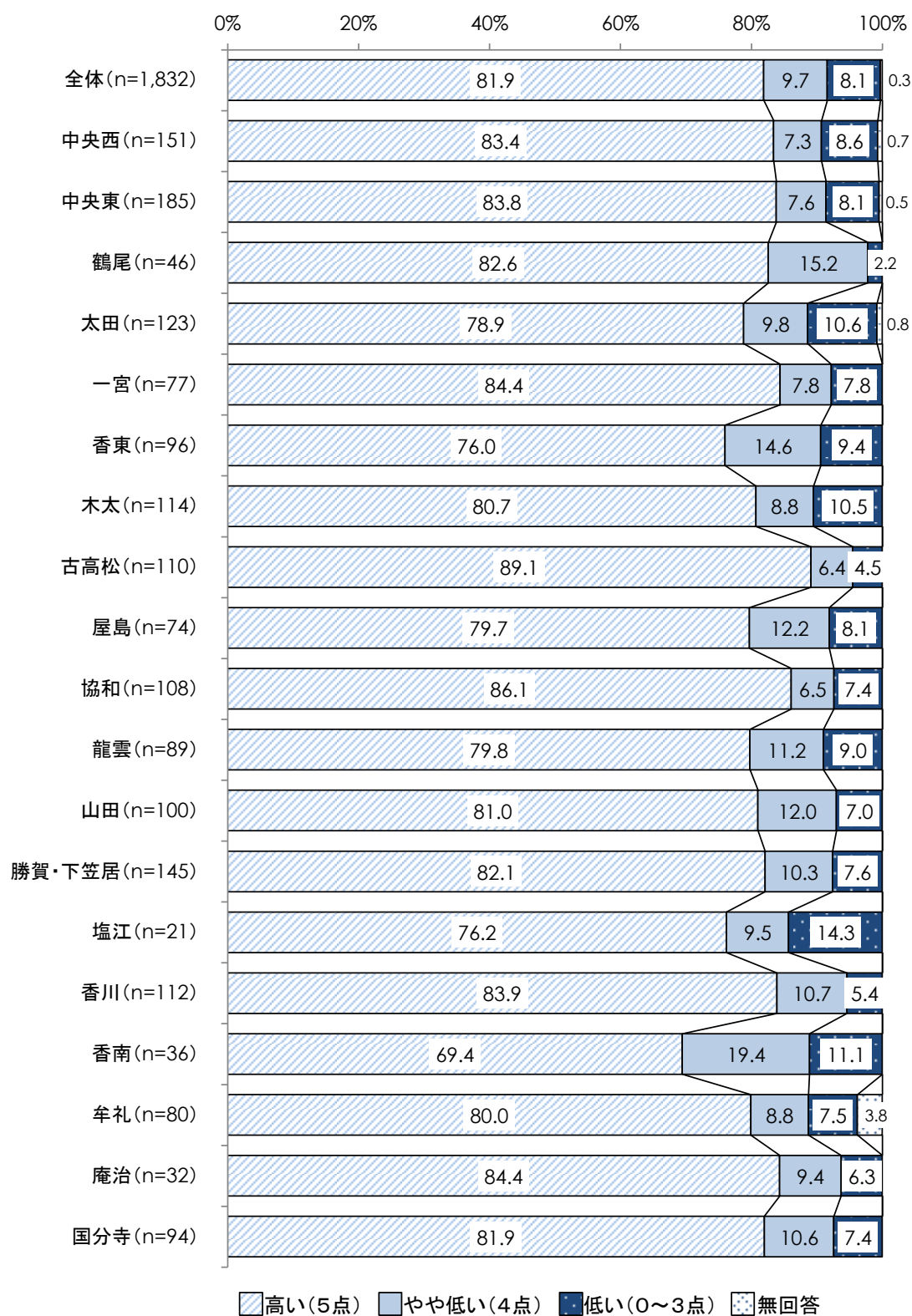
(8) I ADL—手段的日常生活動作

- ・I ADLのスコアについては、全体では「高い(5点)」が81.9%となっています。
- ・年齢階層別にみると、90歳以上では「低い(0～3点)」が30.3%と他の年齢に比べて高くなっています。
- ・認定状況別にみると、事業対象者、要支援者で「低い(0～3点)」の割合が2割を超えています。
- ・圏域別にみると、「高い(5点)」の割合は、古高松(89.1%)で最も高く、香南(69.4%)で最も低くなっています。

図表 243 I ADL (全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別)



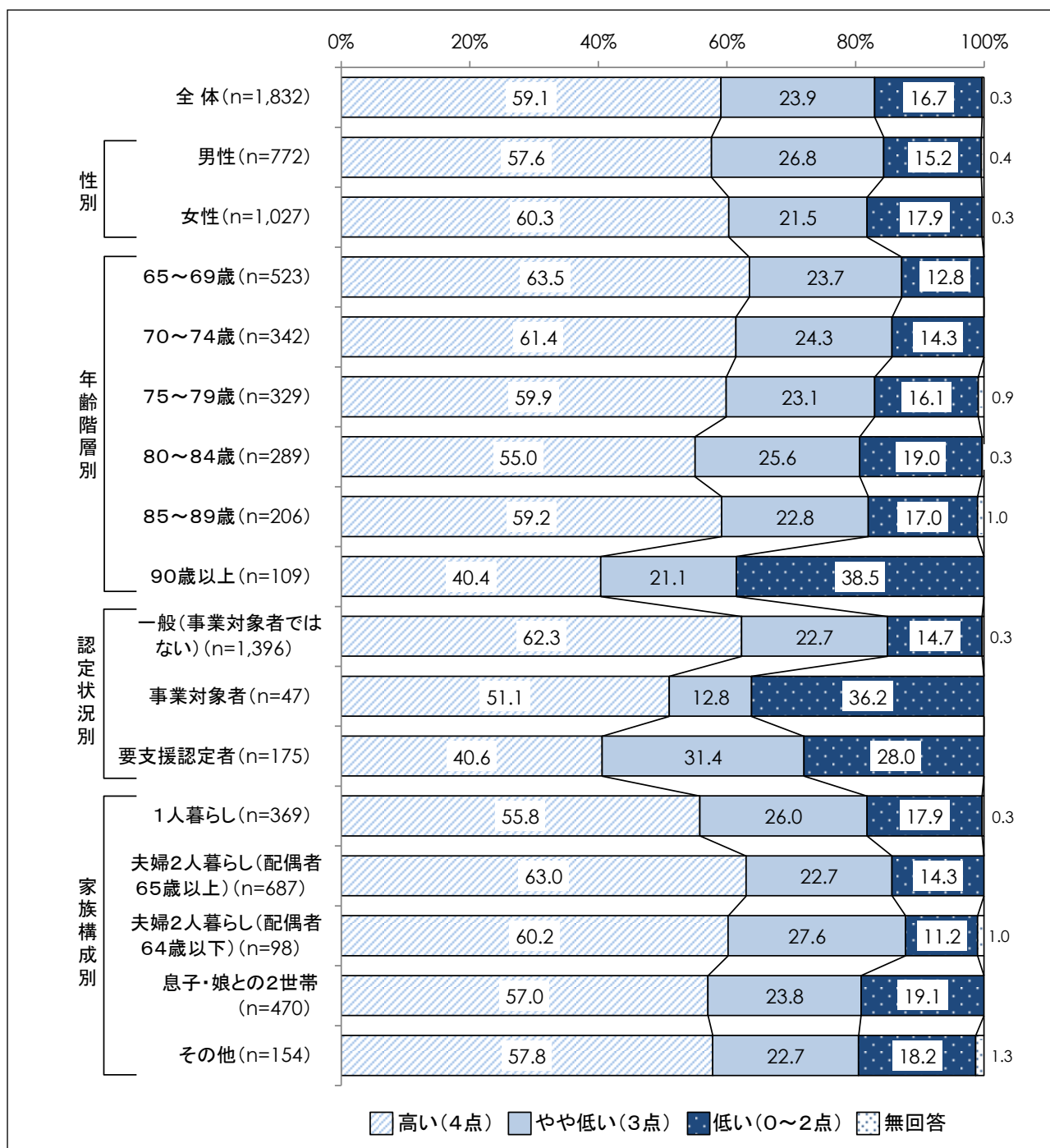
図表 244 I A D L (全体、日常生活圏域別)



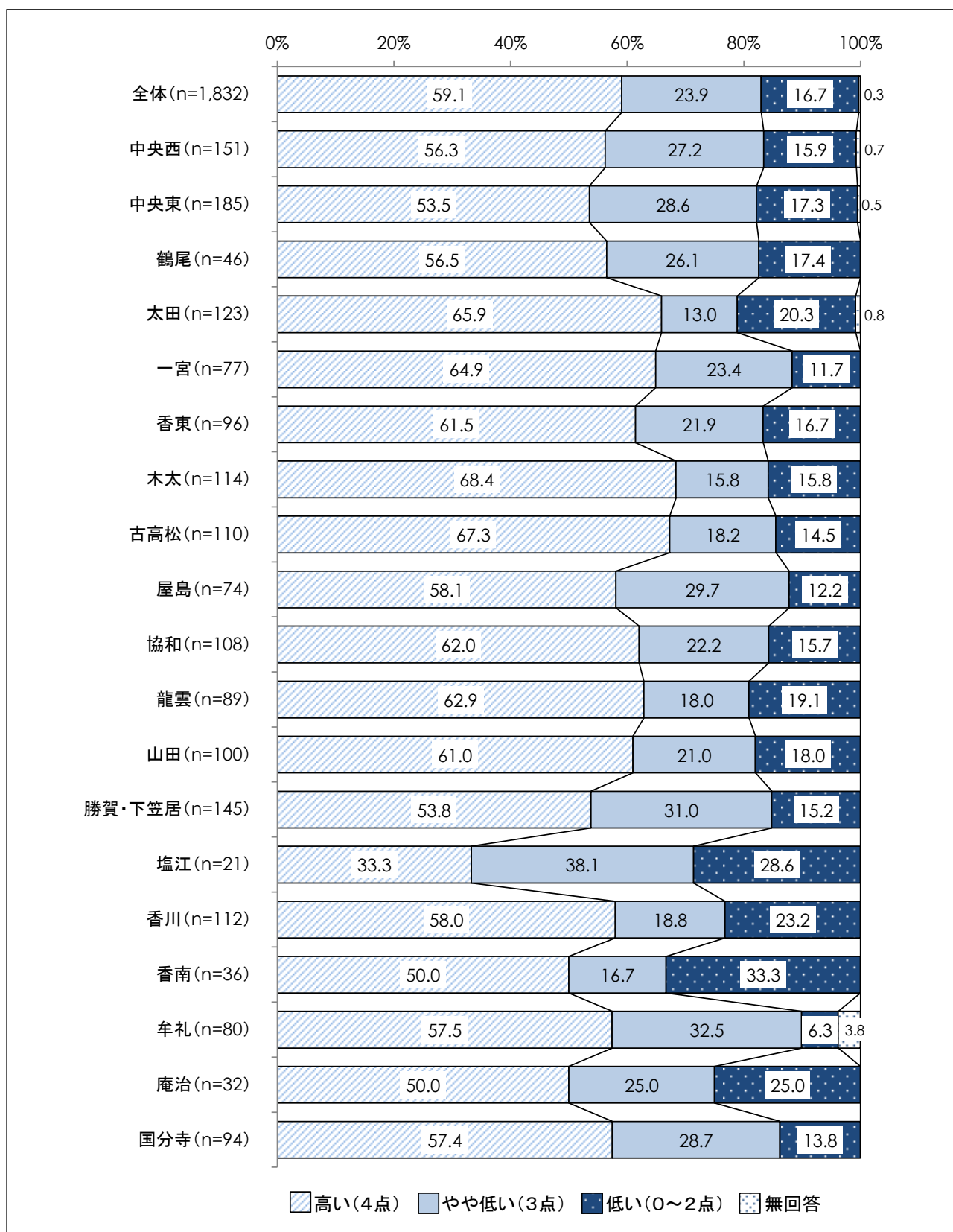
(9) 社会参加—知的能動性

- ・知的能動性のスコアについては、全体では「高い(4点)」が59.1%となっています。
- ・年齢階層別にみると、「低い(0～2点)」の割合は65歳～89歳以下では2割未満となっていますが、90歳以上では38.5%と3割を超え、他の年齢層に比べて高くなっています。
- ・認定状況別にみると、「低い(0～2点)」の割合は事業対象者(36.2%)が要支援認定者(28.0%)を8.2ポイント上回っています。
- ・圏域別にみると、ほとんどの圏域では「高い(4点)」の割合が約5割～7割を占め最も高くなっていますが、塩江では「やや低い(3点)」(38.1%)が最も高くなっています。

図表 245 社会参加—知的能動性（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



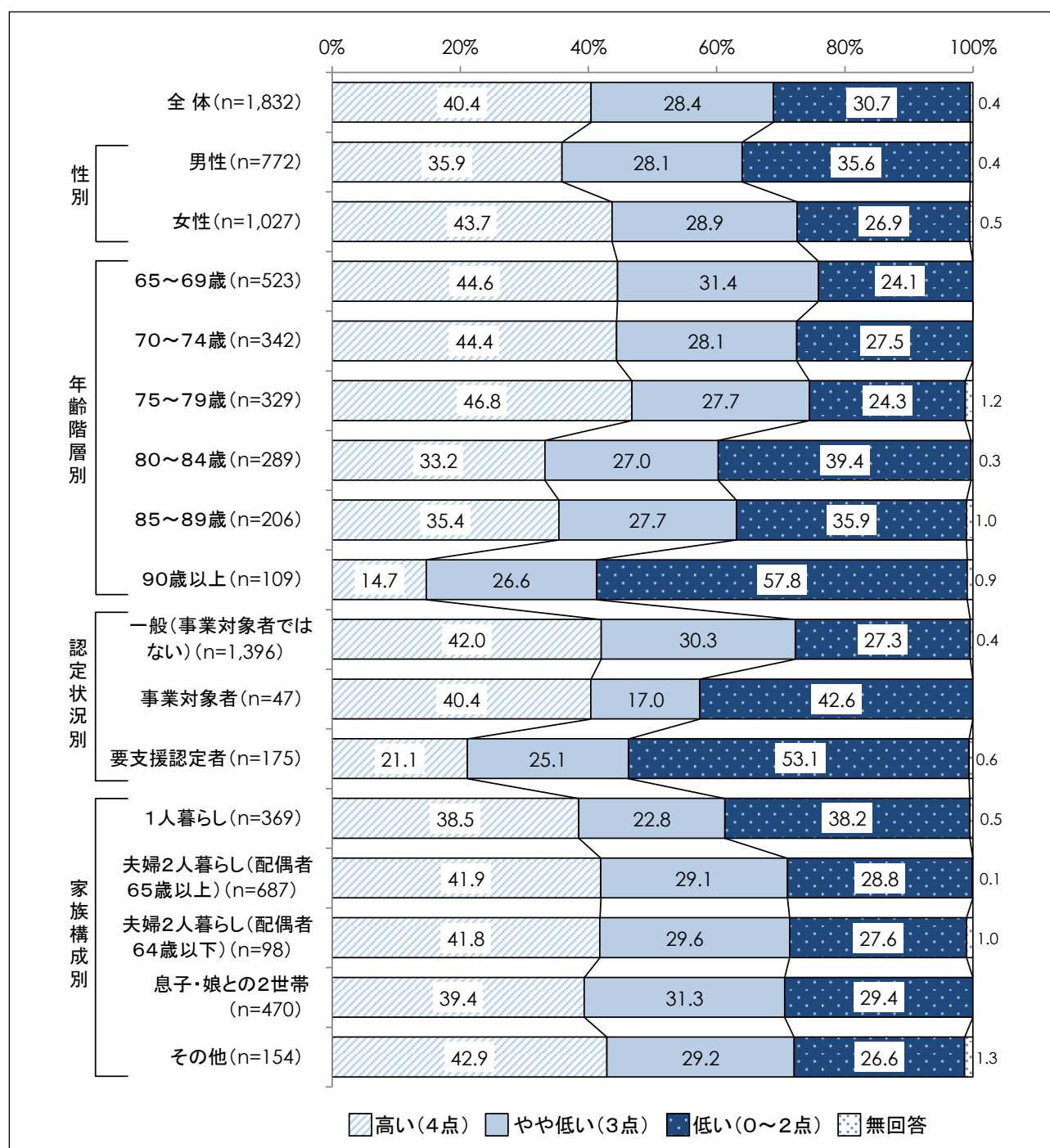
図表 246 社会参加-知的能動性（全体、日常生活圏域別）



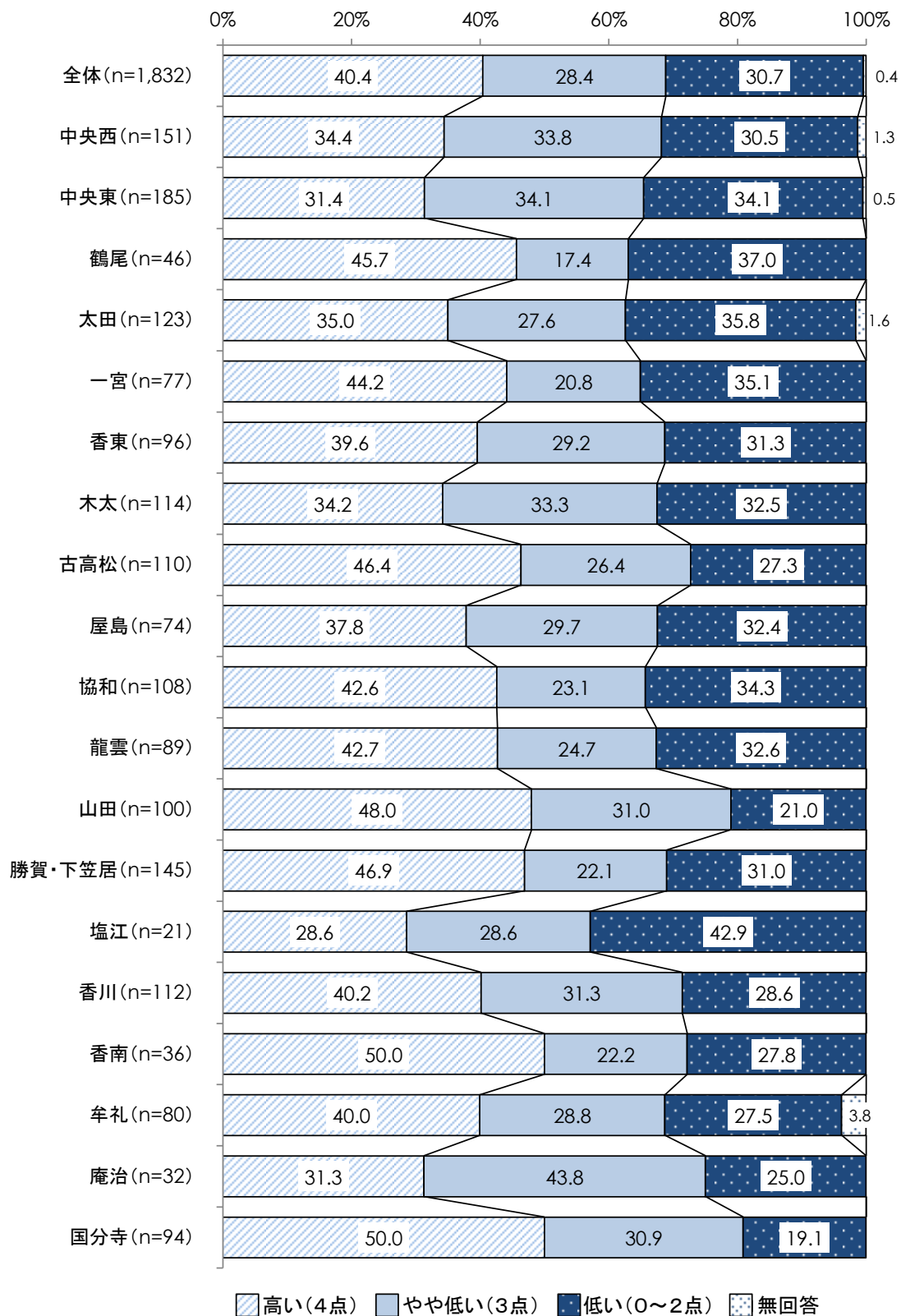
(10) 社会参加—社会的役割

- ・社会的役割のスコアについては、全体では「高い（4点）」が40.4%となっています。
- ・性別にみると、女性（43.7%）が男性（35.9%）を7.8ポイント上回っています。
- ・年齢階層別にみると、80歳以上の年齢層では「低い（0～2点）」が最も高くなっています。
- ・認定状況別にみると、要支援認定者で「低い（0～2点）」の割合が53.1%と5割を超えています。
- ・家族構成別にみると、1人暮らしで「低い（0～2点）」の割合が38.2%と3割を超えています。
- ・圏域別にみると、ほとんどの圏域では「高い（4点）」が最も高くなっていますが、太田、塩江では「低い（0～2点）」が、庵治では「やや低い（3点）」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 247 社会参加—社会的役割（全体、性別、年齢階層別、認定状況別、家族構成別）



図表 248 社会参加-社会的役割（全体、日常生活圏域別）



**高齢者の暮らしと介護に関する
アンケート調査
結果報告書**

平成 29 年 3 月 発行

発行 高松市

編集 高松市健康福祉局長寿福祉部長寿福祉課地域包括ケア推進室
〒760-8571 高松市番町一丁目 8 番 15 号

Tel 087-839-2345 / Fax 087-839-2352

ホームページ <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp>
